
北茨城市
男女共同参画社会に関する意識調査報告書

令和4年5月
北茨城市

目 次

I. 調査の概要	1
II. 小中学生調査結果	5
III. 市民調査結果	19
IV. 事業所調査結果	149
V. 職員調査結果	173

I. 調査の概要

1. 調査の概要

(1) 目的

第4次きたいばらき男女共同参画プランの策定にあたり、男女がお互いを尊重し、共にいきいきと暮らせる「男女共同参画社会」の実現と女性の活躍による豊かで活力のある地域社会の実現に向けてアンケート調査を実施しました。

(2) 調査期間

小中学生 令和3年12月1日(水)～令和3年12月27日(月)
市民 令和3年12月1日(水)～令和4年1月18日(火)
事業所 令和3年12月1日(水)～令和4年1月18日(火)
市職員 令和3年12月1日(水)～令和4年1月18日(火)

(3) 調査対象者

小中学生 市内小中学校の児童生徒 623名(小学5年生・中学2年生)
市民 北茨城市内に在住で、16歳以上の男女 3,000人(無作為抽出)
事業所 市内企業 100社
市職員 市職員 632名(正規職員及び会計年度任用職員)

(4) 配布数及び回収数

	配布数	回収数	回収率
小中学生	623件	586件	94.0%
市民	3,000件	1,103件	36.8%
事業所	100件	40件	40.0%
職員	Web調査 227件		

(5) 報告書の見方

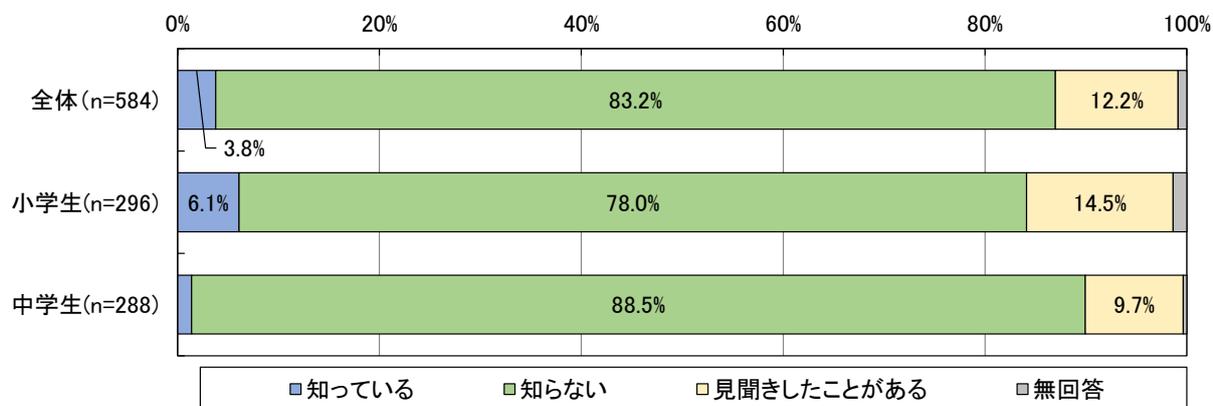
- ・本報告書では、回答すべき箇所が回答されていないものは「無回答」として扱います。
- ・本報告書では、回答する必要のない箇所及び回答すべき箇所でないところを回答している場合は「非該当」として扱います。
- ・設問の構成比は、回答者数(該当設問での該当者数)を基数として百分率(%)で示しています。したがって、非該当者数は、構成比に含まれません。
- ・比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下第二位を四捨五入し算出しているため合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答については、回答者数を基数として百分率(%)で示しています。したがって、合計値は100%にならない場合もあります。
- ・本報告書では、回答合計の表記を単一(○は一つ)回答は「合計」、複数(○はいくつでも)回答は「回答者数」としています。非該当処理が含まれる設問は「回答者数」と表記しています。また、割合を設定している項目名について、単一回答は「構成比」、複数回答は「比率」と表記しています。
- ・自由記載欄(その他)については、回答者の文をそのまま記載しています。

Ⅱ. 小中学生調査結果

問1 「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

「男女共同参画社会」という言葉を知っているかについて、小学生は「知らない」が78.0%と最も多く、次いで「見聞きしたことがある」が14.5%、「知っている」が6.1%となっています。

中学生は「知らない」が88.5%と最も多く、次いで「見聞きしたことがある」が9.7%、「知っている」が1.4%となっています。

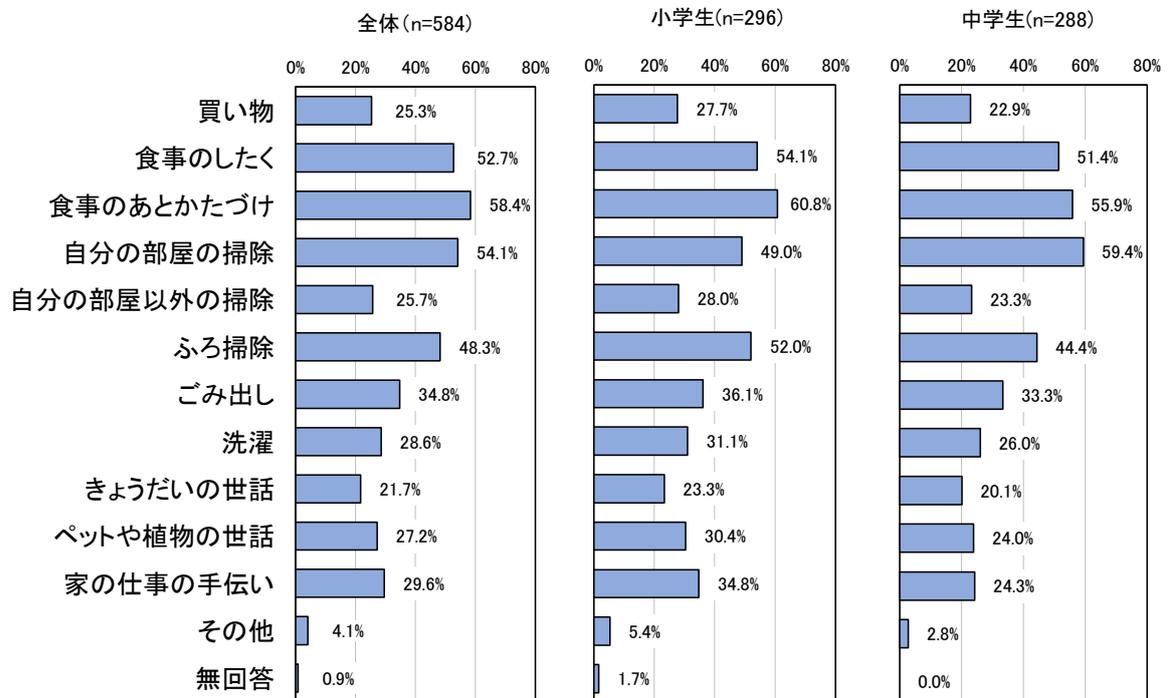


		知っている	知らない	見聞きしたことがある	無回答	合計
度数	全体	22	486	71	5	584
	小学生	18	231	43	4	296
	中学生	4	255	28	1	288
構成比	全体 (n=584)	3.8%	83.2%	12.2%	0.9%	100.0%
	小学生 (n=296)	6.1%	78.0%	14.5%	1.4%	100.0%
	中学生 (n=288)	1.4%	88.5%	9.7%	0.3%	100.0%

問2 あなたは、家でどのようなお手伝いをしていますか。(〇はいくつでも)

家でどのようなお手伝いをしているかについて、小学生は「食事のあとかたづけ」が60.8%と最も多く、次いで「食事のしたく」が54.1%、「ふろ掃除」が52.0%となっています。

中学生は「自分の部屋の掃除」が59.4%と最も多く、次いで「食事のあとかたづけ」が55.9%、「食事のしたく」が51.4%となっています。



		買い物	食事のしたく	食事のあとかたづけ	自分の部屋の掃除	自分の部屋以外の掃除	ふろ掃除	ごみ出し	洗濯	きょうだいの世話	ペットや植物の世話	家の仕事の手伝い	その他	無回答	回答者数
度数	全体	148	308	341	316	150	282	203	167	127	159	173	24	5	584
	小学生	82	160	180	145	83	154	107	92	69	90	103	16	5	296
	中学生	66	148	161	171	67	128	96	75	58	69	70	8	0	288
構成比	全体 (n=584)	25.3%	52.7%	58.4%	54.1%	25.7%	48.3%	34.8%	28.6%	21.7%	27.2%	29.6%	4.1%	0.9%	
	小学生 (n=296)	27.7%	54.1%	60.8%	49.0%	28.0%	52.0%	36.1%	31.1%	23.3%	30.4%	34.8%	5.4%	1.7%	
	中学生 (n=288)	22.9%	51.4%	55.9%	59.4%	23.3%	44.4%	33.3%	26.0%	20.1%	24.0%	24.3%	2.8%	0.0%	

【その他】

《小学生》

- ふとんをしく 3件
- お皿洗い 3件
- 米とぎ
- にもつもち
- いとこの世話
- 夜ごはんをつくる
- せんたくものを取りこむ
- 洗たくした物をたたむ
- ペットのお世話
- 新聞取り、シャッターの開けしめ
- おふろのおゆ出しとめ
- トイレそうじ
- これからがんばります

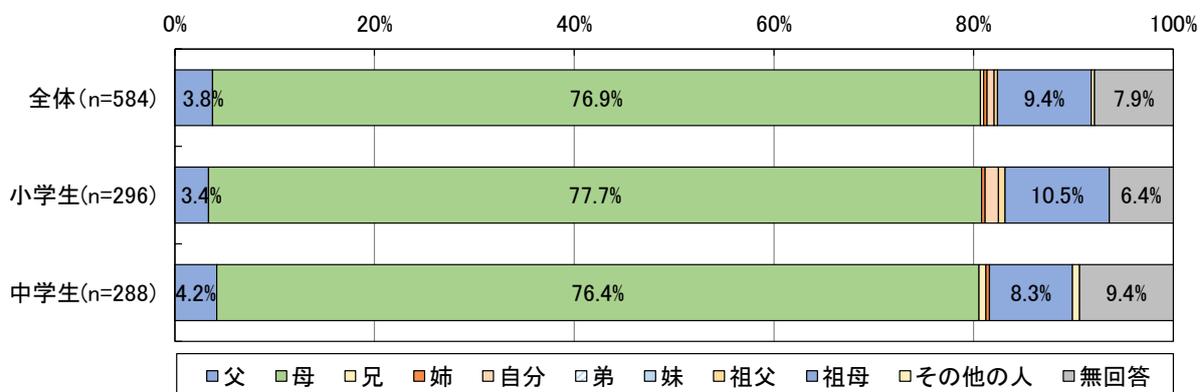
《中学生》

- 皿洗い 2件
- 雨戸閉め
- 米とぎ
- トイレ掃除
- 荷物運び
- 食事

問3 家の中で、食事のしたくやそうじ・洗たくなど家事を主にしているのはだれですか。(〇は1つ)

家の中で、家事を主にしている人について、小学生は「母」が77.7%と最も多く、次いで「祖母」が10.5%、「父」が3.4%となっています。

中学生は「母」が76.4%と最も多く、次いで「祖母」が8.3%、「父」が4.2%となっています。



		父	母	兄	姉	自分	弟	妹	祖父	祖母	その他の人	無回答	合計
度数	全体	22	450	2	2	4	0	0	2	55	2	46	585
	小学生	10	230	0	1	4	0	0	2	31	0	19	296
	中学生	12	220	2	1	0	0	0	0	24	2	27	288
構成比	全体(n=584)	3.8%	76.9%	0.3%	0.3%	0.7%	0.0%	0.0%	0.3%	9.4%	0.3%	7.9%	100.0%
	小学生(n=296)	3.4%	77.7%	0.0%	0.3%	1.4%	0.0%	0.0%	0.7%	10.5%	0.0%	6.4%	100.0%
	中学生(n=288)	4.2%	76.4%	0.7%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.7%	9.4%	100.0%

【その他】

《小学生》

- 日に日に変える

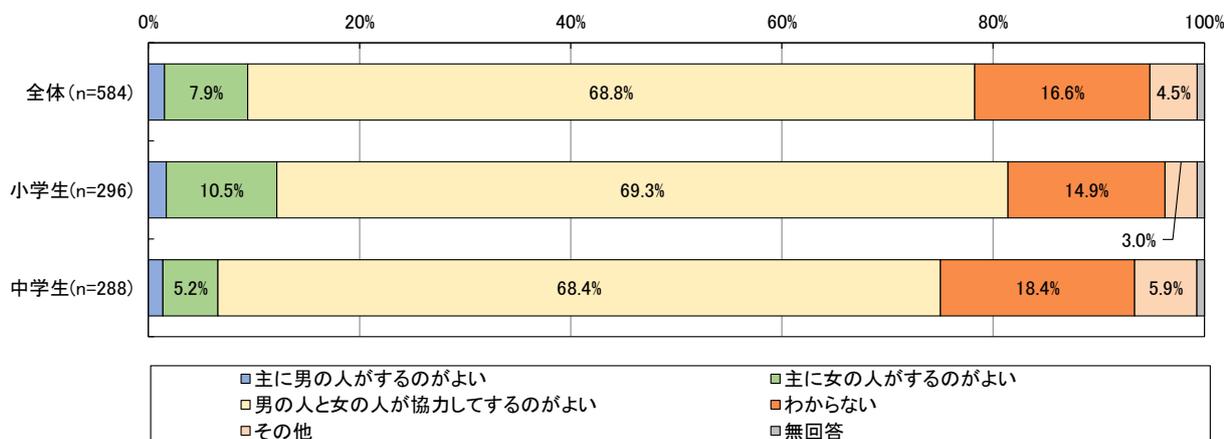
《中学生》

- みんな
- 家族

**問4 あなたは、食事のしたくやそうじ・洗たくなどの家事は、だれがするのが一番良いと思いますか。
(〇は1つ)**

家事は、だれがするのが一番良いと思うかについて、小学生は「男の人と女の人が協力してするのがよい」が69.3%と最も多く、次いで「わからない」が14.9%、「主に女の人がするのがよい」が10.5%となっています。

中学生は「男の人と女の人が協力してするのがよい」が68.4%と最も多く、次いで「わからない」が18.4%、「その他」が5.9%となっています。



		主に男の人がよい	主に女の人がよい	男の協力がよい	わからない	その他	無回答	合計
度数	全体	9	46	402	97	26	4	584
	小学生	5	31	205	44	9	2	296
	中学生	4	15	197	53	17	2	288
構成比	全体 (n=584)	1.5%	7.9%	68.8%	16.6%	4.5%	0.7%	100.0%
	小学生 (n=296)	1.7%	10.5%	69.3%	14.9%	3.0%	0.7%	100.0%
	中学生 (n=288)	1.4%	5.2%	68.4%	18.4%	5.9%	0.7%	100.0%

【その他】

《小学生》

- 日に日にかえる
- 母、自分
- 家族みんなで協力してやるのがよい 4件
- お母さんか、自分かお父さん
- 役割を決めてやるのがよい
- 子供も協力する

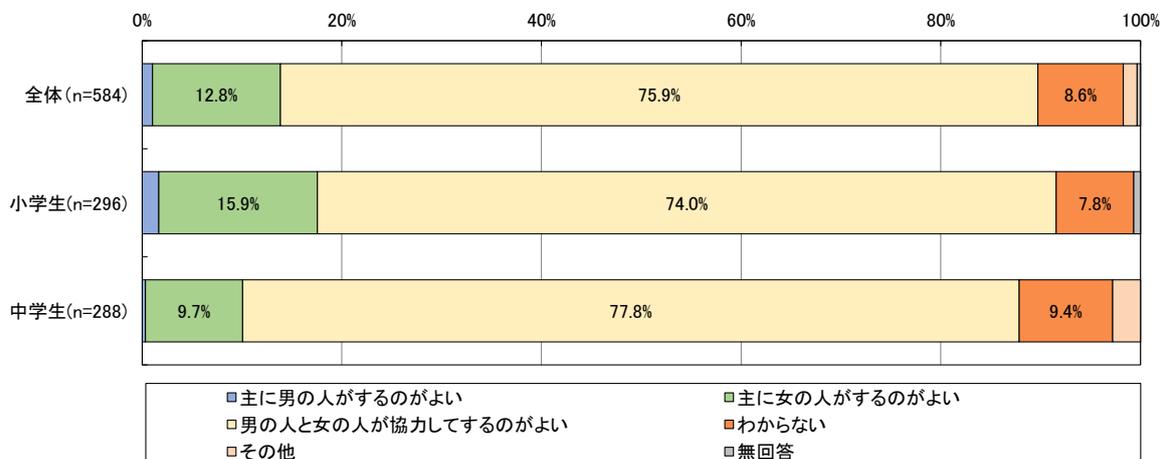
《中学生》

- その時に手が空いている人 3件
- できる人がやればよい 2件
- やれるときにやれる人がやる
- 上手な人
- 気づいたらやる
- 自分
- できることを家族みんなで協力してするのがよい
- ひまな人がやればよい 2件
- 自由 (だれでも)
- どっちでもいい
- 当番にすればいいと思う
- 誰がやっても良いと思う
- みんなでやる

問5 あなたは、子どもが小さいときの子育ては、だれがするのが一番良いと思いますか。(〇は1つ)

子どもが小さいときの子育ては、だれがするのが一番良いと思うかについて、小学生は「男の人と女の人が協力してするのがよい」が74.0%と最も多く、次いで「主に女の人がするのがよい」が15.9%、「わからない」が7.8%となっています。

中学生は「男の人と女の人が協力してするのがよい」が77.8%と最も多く、次いで「主に女の人がするのがよい」が9.7%、「わからない」が9.4%となっています。



		主に男の人がよい	主に女の人がよい	男の協力がよい	わからない	その他	無回答	合計
度数	全体	6	75	443	50	8	2	584
	小学生	5	47	219	23	0	2	296
	中学生	1	28	224	27	8	0	288
構成比	全体 (n=584)	1.0%	12.8%	75.9%	8.6%	1.4%	0.3%	100.0%
	小学生 (n=296)	1.7%	15.9%	74.0%	7.8%	0.0%	0.7%	100.0%
	中学生 (n=288)	0.3%	9.7%	77.8%	9.4%	2.8%	0.0%	100.0%

【その他】

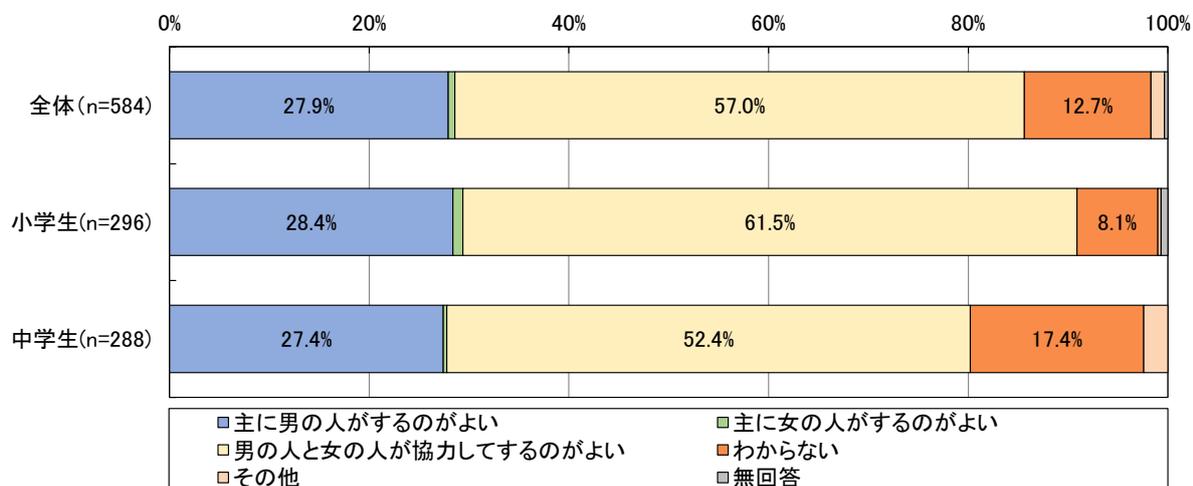
《中学生》

- できることを家族みんなで協力してするのがよい
- その時に手があいている人
- 子どもを安心して任せられる人
- みんなでやる
- 誰が一番良いとかない
- やれるときにやれる人がやる
- 当番にすればいいと思う
- 誰がやっても良いと思う

問6 あなたは、お金をかせぐ仕事を、だれがするのが一番良いと思いますか。(〇は1つ)

お金をかせぐ仕事を、だれがするのが一番良いと思うかについて、小学生は「男の人と女の人が協力してするのがよい」が61.5%と最も多く、次いで「主に男の人がするのがよい」が28.4%、「わからない」が8.1%となっています。

中学生は「男の人と女の人が協力してするのがよい」が52.4%と最も多く、次いで「主に男の人がするのがよい」が27.4%、「わからない」が17.4%となっています。



		主に男の人がよい	主に女の人がよい	男の人が協力してよい	わからない	その他	無回答	合計
度数	全体	163	4	333	74	8	2	584
	小学生	84	3	182	24	1	2	296
	中学生	79	1	151	50	7	0	288
構成比	全体 (n=584)	27.9%	0.7%	57.0%	12.7%	1.4%	0.3%	100.0%
	小学生 (n=296)	28.4%	1.0%	61.5%	8.1%	0.3%	0.7%	100.0%
	中学生 (n=288)	27.4%	0.3%	52.4%	17.4%	2.4%	0.0%	100.0%

【その他】

《小学生》

- どちらでもいい

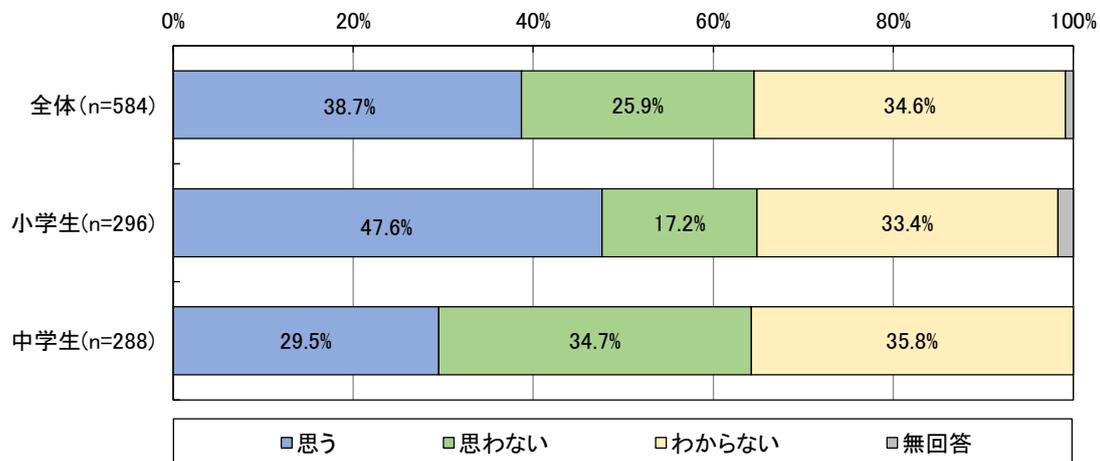
《中学生》

- できる方がやればよい
- やれる人がやれる分だけ
- 責任をもって仕事をする人
- 誰がやっても良いと思う
- 家庭によって考えて行うのがよい
- やれるときにやれる人がやる
- みんなでやる

問7 あなたは学校にいる時、男子と女子は平等だと思いますか。(〇は1つ)

学校にいる時、男子と女子は平等だと思うかについて、小学生は「思う」が47.6%と最も多く、次いで「わからない」が33.4%、「思わない」が17.2%となっています。

中学生は「わからない」が35.8%と最も多く、次いで「思わない」が34.7%、「思う」が29.5%となっています。

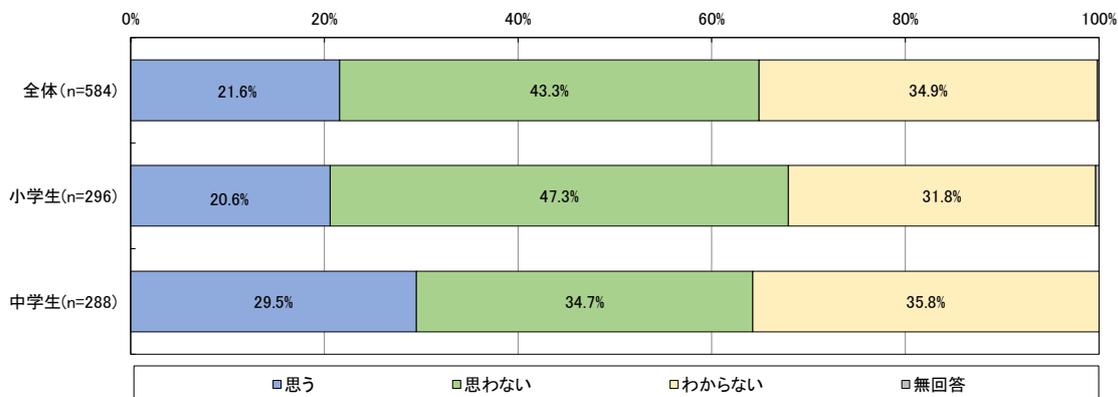


		思う	思わない	わからない	無回答	合計
度数	全体	226	151	202	5	584
	小学生	141	51	99	5	296
	中学生	85	100	103	0	288
構成比	全体(n=584)	38.7%	25.9%	34.6%	0.9%	100.0%
	小学生(n=296)	47.6%	17.2%	33.4%	1.7%	100.0%
	中学生(n=288)	29.5%	34.7%	35.8%	0.0%	100.0%

問8 学校（学級）の係の中で、男子向き・女子向きの係があると思いますか。（〇は1つ）

学校（学級）の係の中で、男子向き・女子向きの係があるかと思うかについて、小学生は「思わない」が47.3%と最も多く、次いで「わからない」が31.8%、「思う」が20.6%となっています。

中学生は「わからない」が35.8%と最も多く、次いで「思わない」が34.7%、「思う」が29.5%となっています。

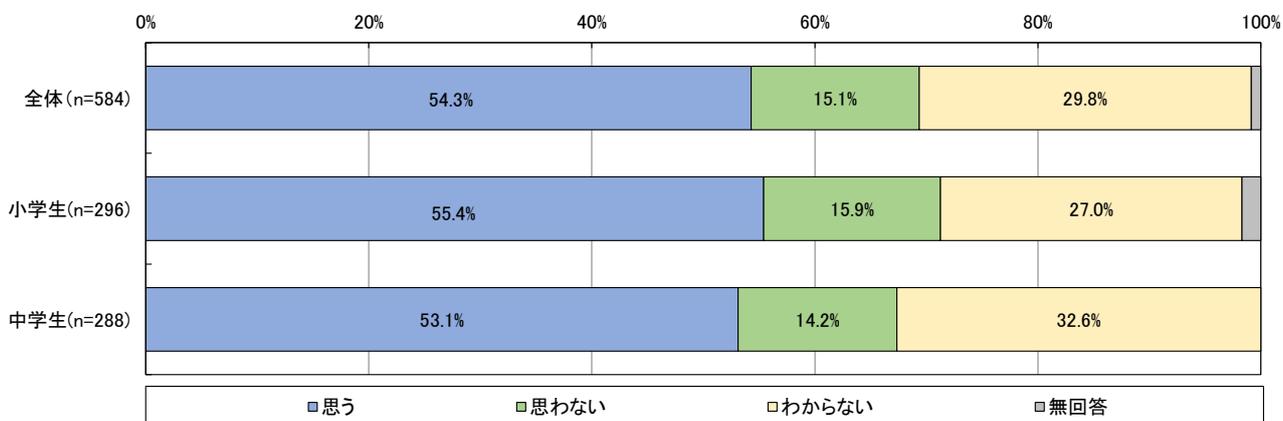


		思う	思わない	わからない	無回答	合計
度数	全体	126	253	204	1	584
	小学生	61	140	94	1	296
	中学生	85	100	103	0	288
構成比	全体 (n=584)	21.6%	43.3%	34.9%	0.2%	100.0%
	小学生 (n=296)	20.6%	47.3%	31.8%	0.3%	100.0%
	中学生 (n=288)	29.5%	34.7%	35.8%	0.0%	100.0%

問9 あなたは家にいる時、男性と女性は平等だと思いますか。(〇は1つ)

あなたは家にいる時、男性と女性は平等だと思うかについて、小学生は「思う」が55.4%と最も多く、次いで「わからない」が27.0%、「思わない」が15.9%となっています。

中学生は「思う」が53.1%と最も多く、次いで「わからない」が32.6%、「思わない」が14.2%となっています。

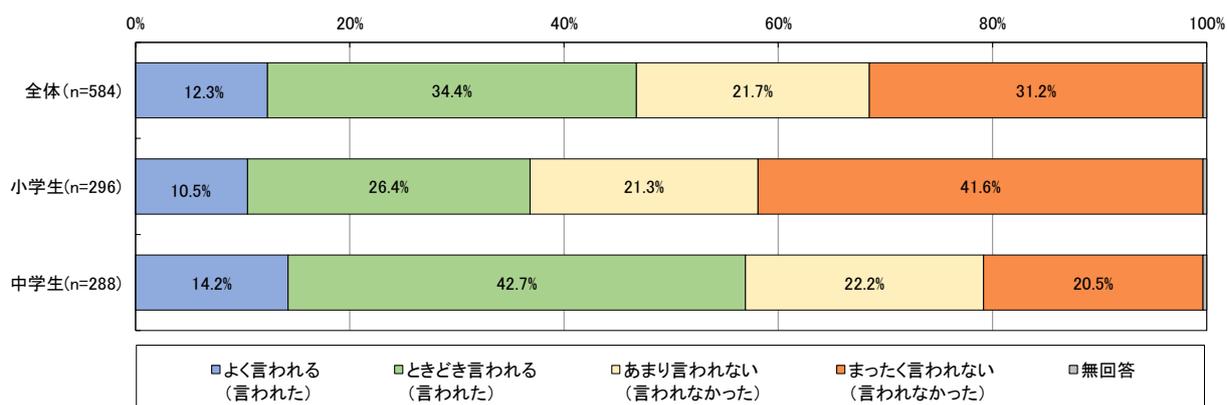


		思う	思わない	わからない	無回答	合計
度数	全体	317	88	174	5	584
	小学生	164	47	80	5	296
	中学生	153	41	94	0	288
構成比	全体(n=584)	54.3%	15.1%	29.8%	0.9%	100.0%
	小学生(n=296)	55.4%	15.9%	27.0%	1.7%	100.0%
	中学生(n=288)	53.1%	14.2%	32.6%	0.0%	100.0%

問10 あなたは大人の人に「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」のように言われたことがありますか。(〇は1つ)

あなたは大人の人に「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」のように言われたことがあるかについて、小学生は「まったく言われな（言われなかった）」が41.6%と最も多く、次いで「ときどき言われる（言われた）」が26.4%、「あまり言われな（言われなかった）」が21.3%となっています。また、「よく言われる（言われた）」（10.5%）と「ときどき言われる（言われた）」（26.4%）を合わせた『言われた』が36.9%となっており、「あまり言われな（言われなかった）」（21.3%）と「まったく言われな（言われなかった）」（41.6%）を合わせた『言われなかった』が62.9%となっています。

中学生は「ときどき言われる（言われた）」が42.7%と最も多く、次いで「あまり言われな（言われなかった）」が22.2%、「まったく言われな（言われなかった）」が20.5%となっています。また、「よく言われる（言われた）」（14.2%）と「ときどき言われる（言われた）」（42.7%）を合わせた『言われた』が56.9%となっており、「あまり言われな（言われなかった）」（22.2%）と「まったく言われな（言われなかった）」（20.5%）を合わせた『言われなかった』が42.7%となっています。

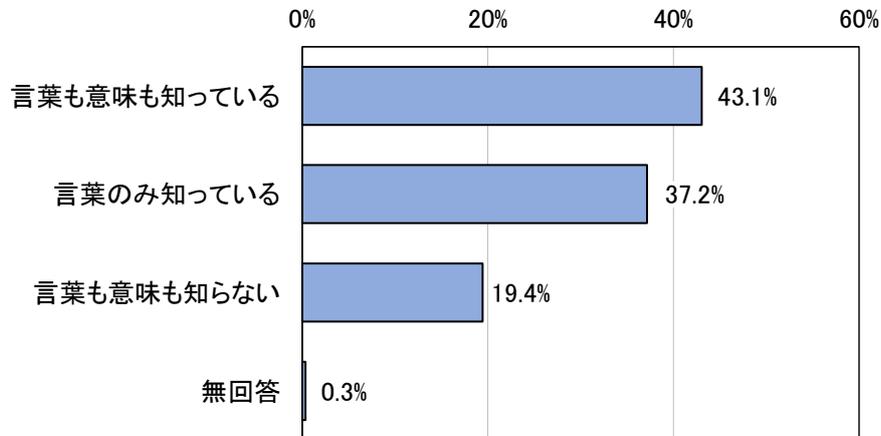


		(よく言われた)	(ときどき言われた)	(あまり言われなかつた)	(まったく言われなかつた)	無回答	合計
度数	全体	72	201	127	182	2	584
	小学生	31	78	63	123	1	296
	中学生	41	123	64	59	1	288
構成比	全体 (n=584)	12.3%	34.4%	21.7%	31.2%	0.3%	100.0%
	小学生 (n=296)	10.5%	26.4%	21.3%	41.6%	0.3%	100.0%
	中学生 (n=288)	14.2%	42.7%	22.2%	20.5%	0.3%	100.0%

中学生の方のみにお伺いしました。

問11 あなたはSDGs（エスディーゼーズ）という言葉や意味を知っていますか。（〇は1つ）

「言葉も意味も知っている」が43.1%と最も多く、次いで「言葉のみ知っている」が37.2%、「言葉も意味も知らない」が19.4%となっています。



項目	度数	構成比
言葉も意味も知っている	124	43.1%
言葉のみ知っている	107	37.2%
言葉も意味も知らない	56	19.4%
無回答	1	0.3%
合計	288	100.0%

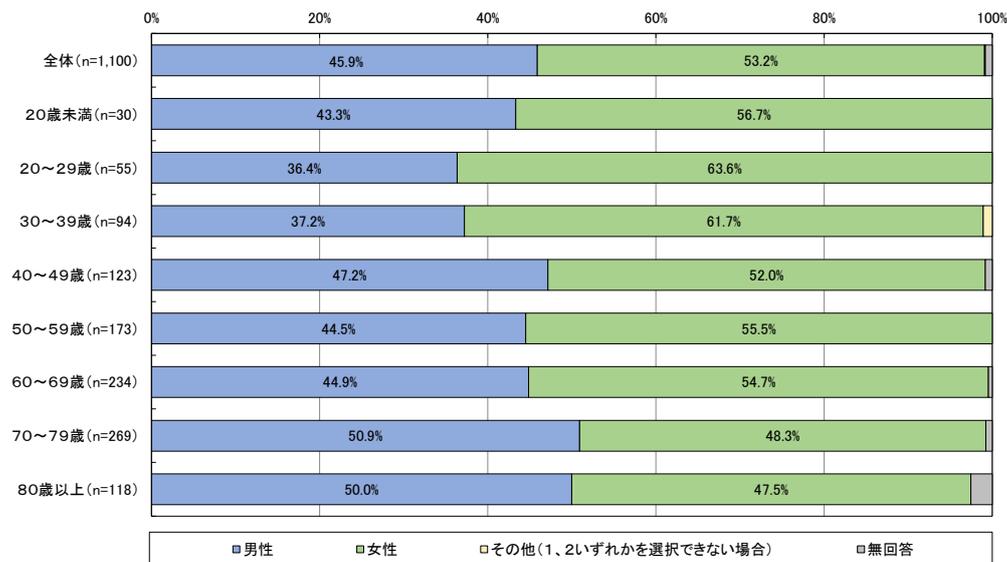
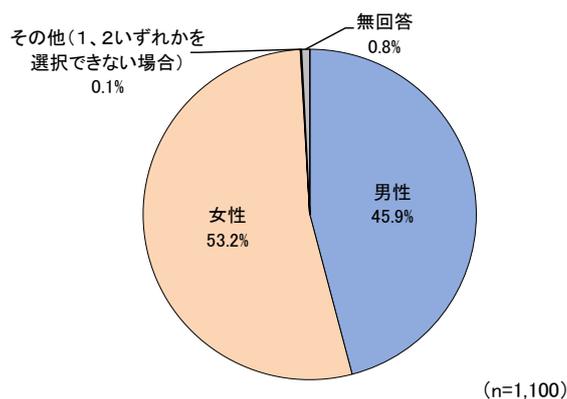
SDGs エスディーゼーズ（持続可能な開発目標）とは…

平成 13（2001）年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、平成 27（2015）年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された平成 28（2016）年から令和 12（2030）年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、国としても積極的に取り組んでいます。

III. 市民調查結果

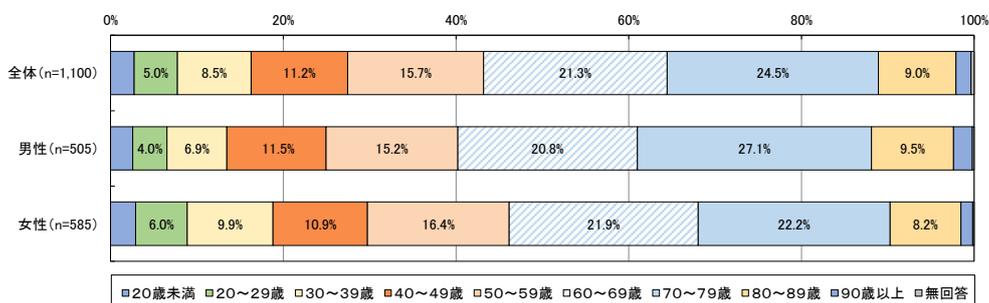
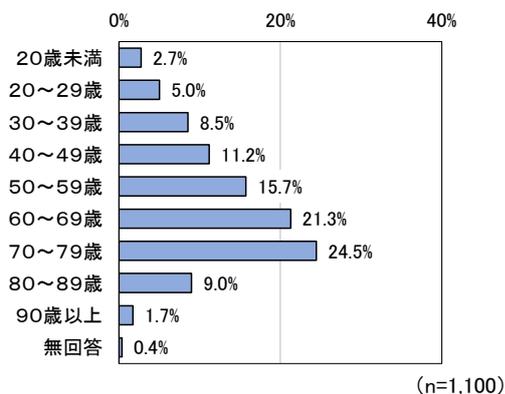
問1 あなたの性別は次のどちらですか。(〇は1つ)

「女性」が53.2%、「男性」が45.9%となっています。



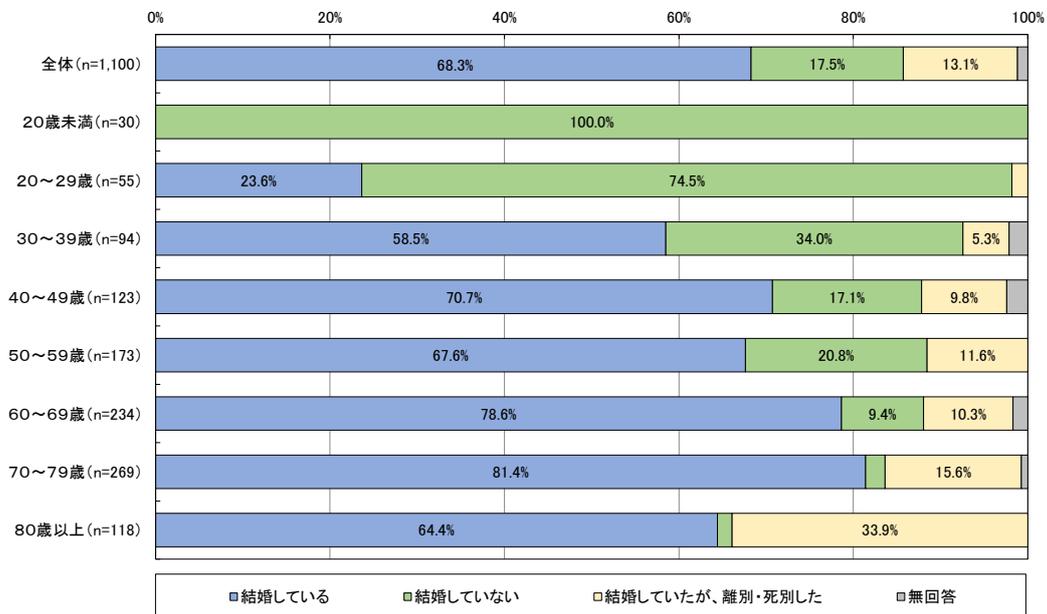
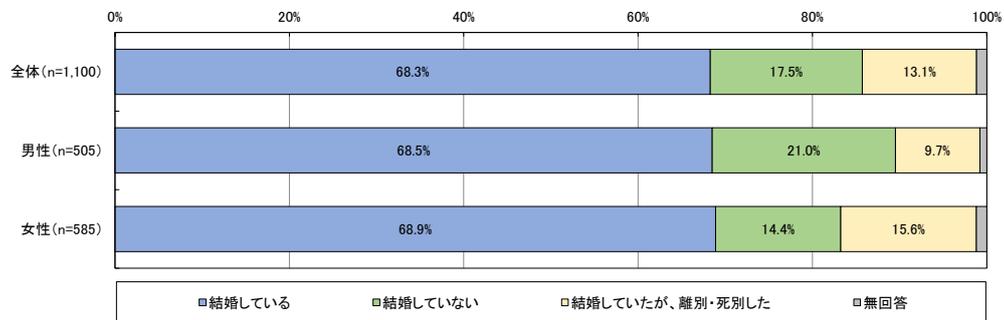
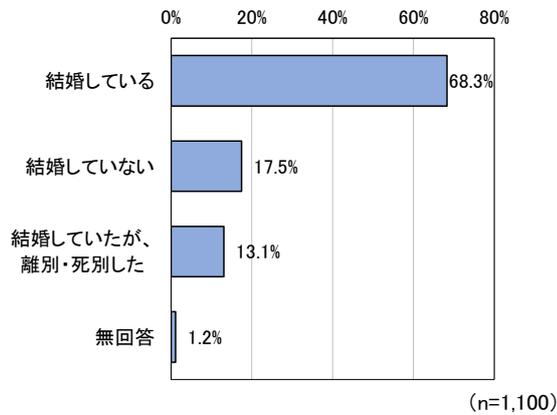
問2 あなたの年齢は次のどれですか。(記入日時点の年齢で。〇は1つ)

「70～79歳」が24.5%と最も多く、次いで「60～69歳」が21.3%、「50～59歳」が15.7%となっています。



問3 あなたは、結婚（事実婚等も含みます）していますか。（〇は1つ）

「結婚している」が68.3%と最も多く、次いで「結婚していない」が17.5%、「結婚していたが、離別・死別した」が13.1%となっています。

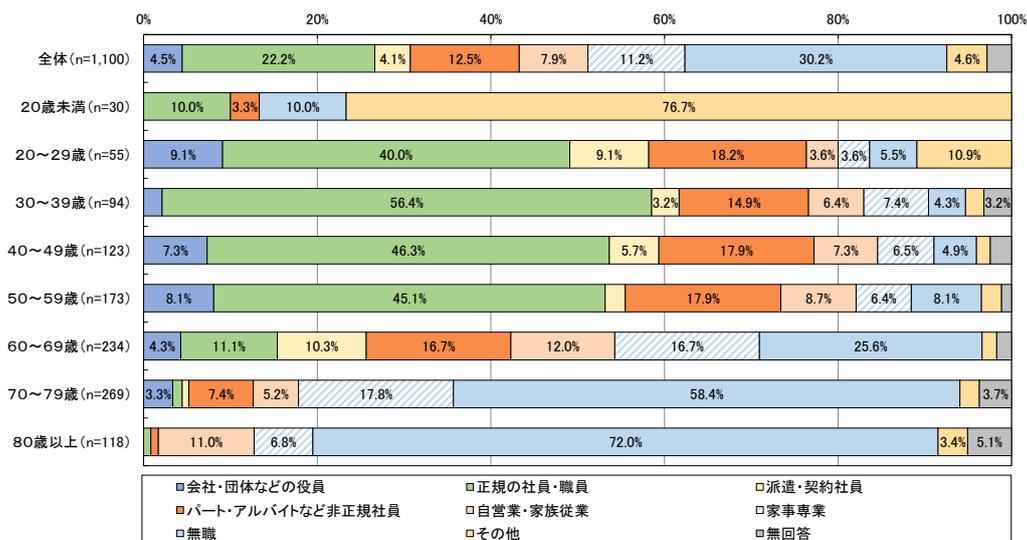
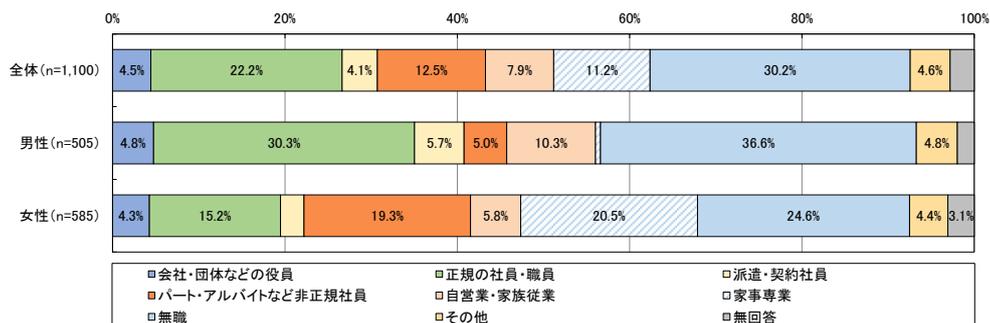
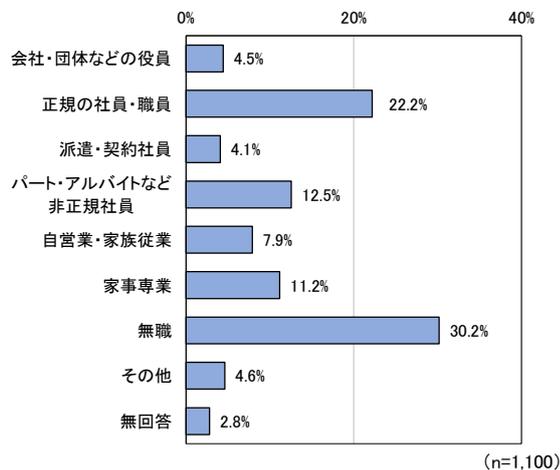


問4 あなたとあなたの配偶者（事実婚等のパートナーも含みます）の現在の職業は、次のうちどれですか。配偶者がいない方は、ご自身の欄だけご記入ください。（〇はそれぞれ1つずつ）

【自身の職業】は、「無職」が30.2%と最も多く、次いで「正規の社員・職員」が22.2%、「パート・アルバイトなど非正規社員」が12.5%となっています。

【配偶者の職業】は、「無職」が26.3%と最も多く、次いで「正規の社員・職員」が17.1%、「パート・アルバイトなど非正規社員」が11.2%となっています。

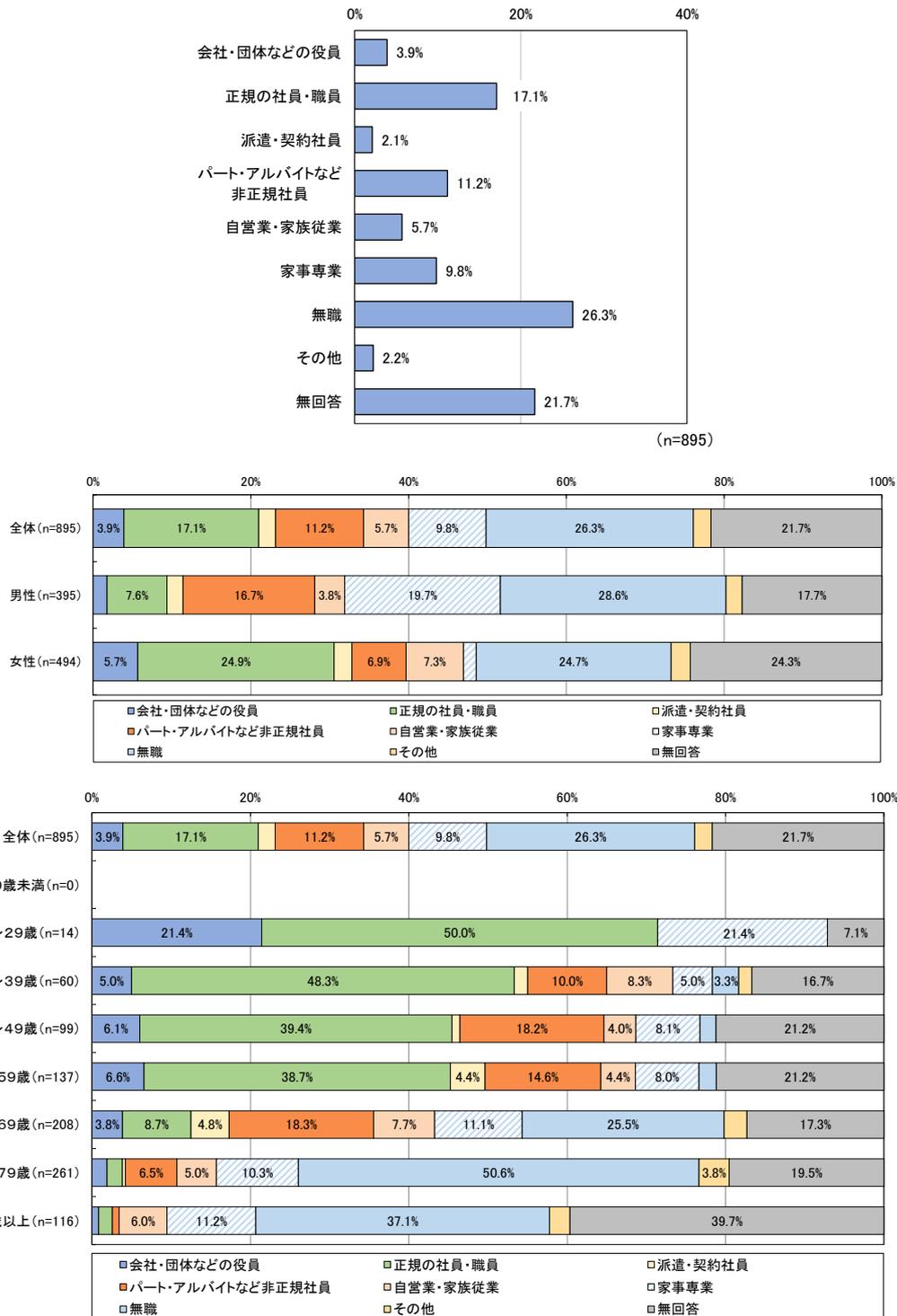
【自身の職業】



【その他】

- 専業主婦（女性、40～49 歳）
- 医療（女性、30～39 歳）
- 業務委託（男性、50～59 歳）
- 非常勤職員（男性、60～69 歳）
- 介護（女性、50～59 歳）
- 農業（男性、40～49 歳）（男性、60～69 歳）（男性、70～79 歳）
- 農業（女性、70～79 歳）2 件（女性、80～89 歳）
- シルバー人材センター、1 日おきに 1 時間の清掃（女性、70～79 歳）
- シルバー人材センター登録（無回答、70～79 歳）
- 学生（女性、20 歳未満）9 件（女性、20～29 歳）2 件
- 学生（男性、20 歳未満）8 件（男性、20～29 歳）2 件
- 高校生（女性、20 歳未満）（男性、20 歳未満）3 件
- 大学生（女性、20 歳未満）（男性、20～29 歳）2 件

【配偶者の職業】

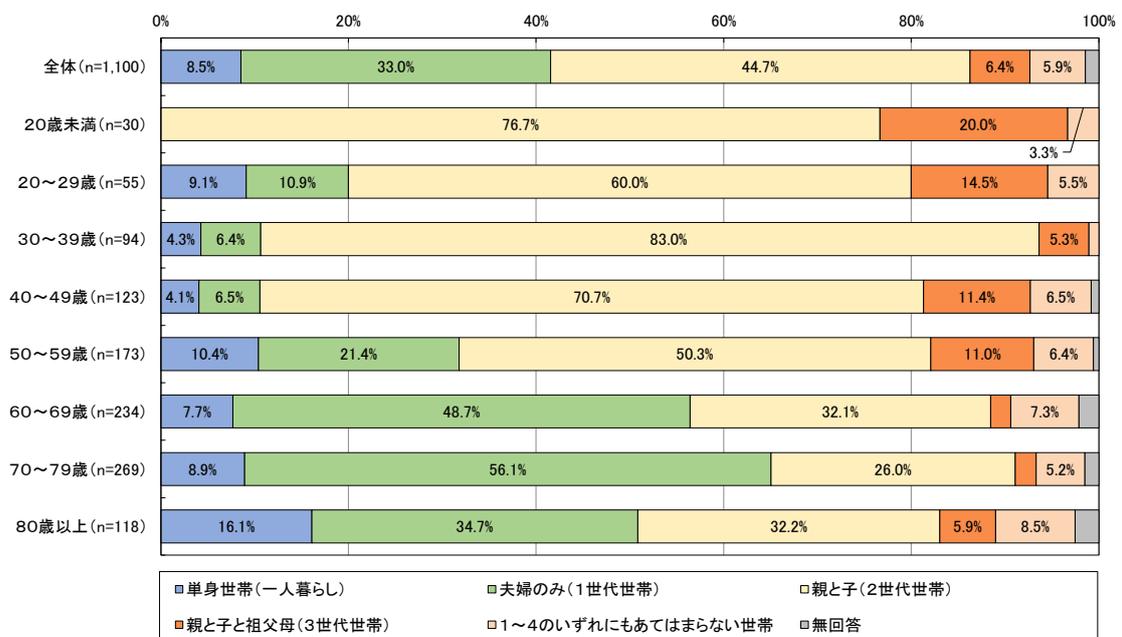
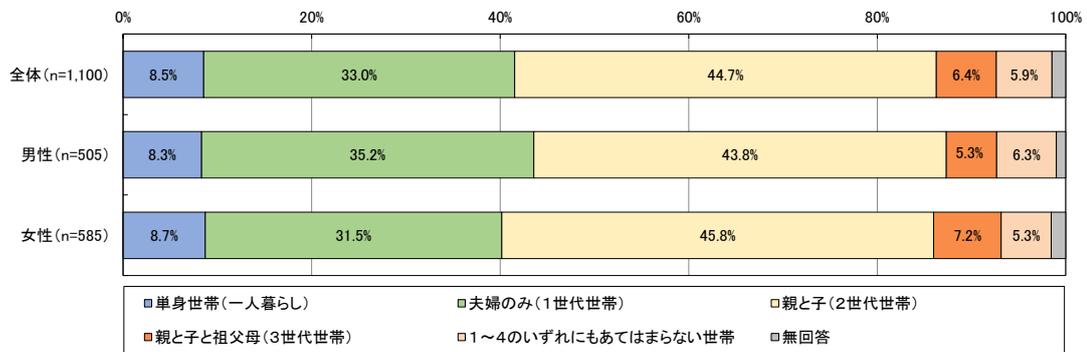
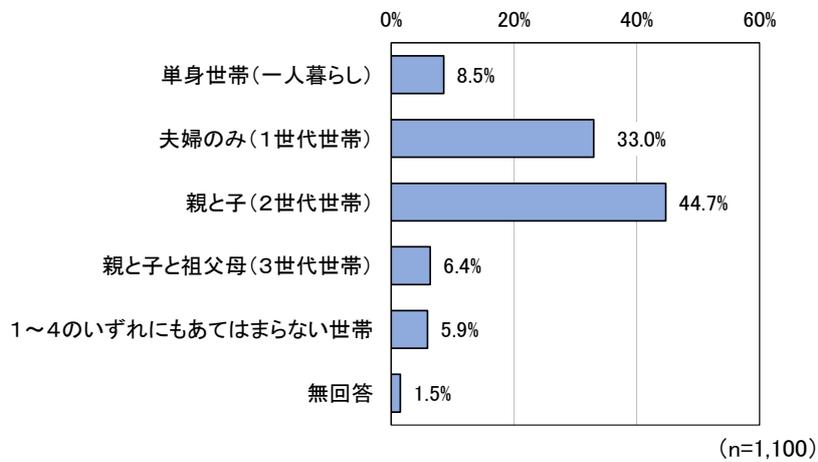


【その他】

- 農業 (男性、60～69歳) (男性、70～79歳)
- 農業 (女性、60～69歳) (女性、70～79歳) 2件
- 死別 (女性、80～89歳)
- 死別 (男性、80～89歳)
- 死亡しています (女性、70～79歳)
- 看護師 (男性、70～79歳)
- 不動産業 (女性、60～69歳)
- グループホーム事務 (男性、60～69歳)

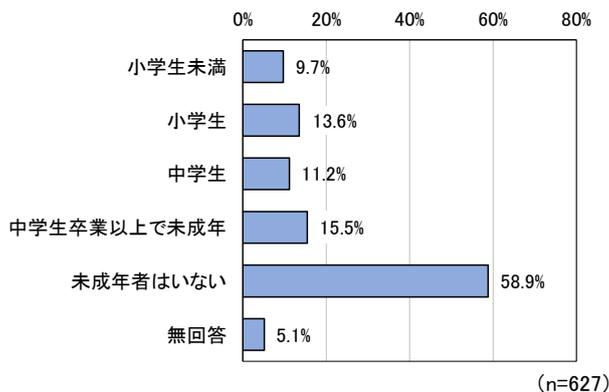
問5 現在、あなたが同居しているご家族の構成は、次のうちのどれですか。(〇は1つ)

「親と子（2世代世帯）」が44.7%と最も多く、次いで「夫婦のみ（1世代世帯）」が33.0%、「単身世帯（一人暮らし）」が8.5%となっています。



問6 現在、あなたが同居しているご家族に、次にあてはまる方はいますか。(〇はあてはまるものすべて)

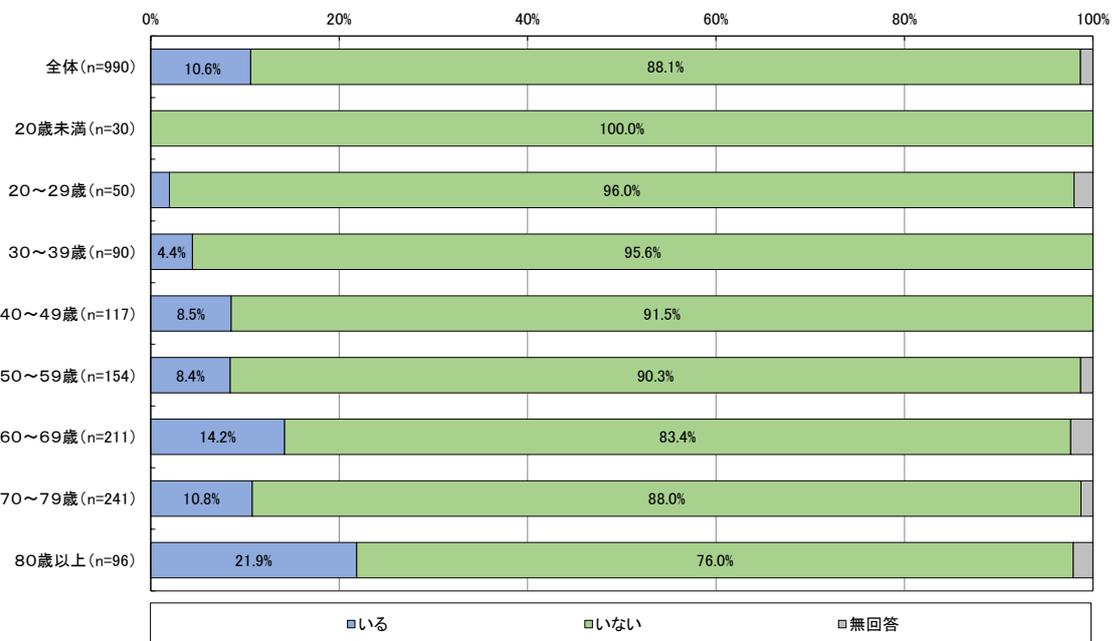
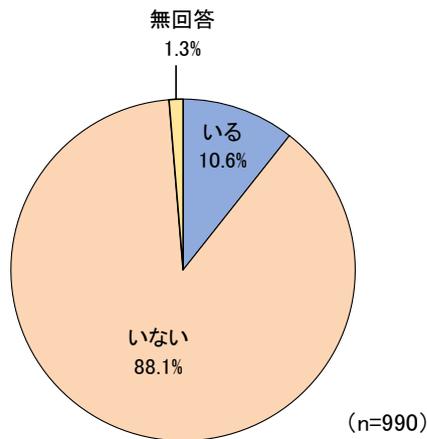
「未成年者はいない」が58.9%と最も多く、次いで「中学生卒業以上で未成年」が15.5%、「小学生」が13.6%となっています。



		小学生未満	小学生	中学生	中学生卒業以上で未成年	未成年者はいない	無回答
【性別】	全体(n=627)	9.7%	13.6%	11.2%	15.5%	58.9%	5.1%
	男性(n=280)	8.6%	12.9%	12.9%	13.9%	61.1%	5.4%
	女性(n=341)	10.9%	14.1%	10.0%	17.0%	56.9%	4.7%
	無回答(n=5)	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	60.0%	20.0%
【年齢別】	全体(n=627)	9.7%	13.6%	11.2%	15.5%	58.9%	5.1%
	20歳未満(n=30)	0.0%	10.0%	16.7%	60.0%	36.7%	0.0%
	20~29歳(n=44)	15.9%	2.3%	2.3%	13.6%	59.1%	9.1%
	30~39歳(n=84)	40.5%	35.7%	7.1%	4.8%	36.9%	1.2%
	40~49歳(n=109)	10.1%	31.2%	29.4%	32.1%	25.7%	2.8%
	50~59歳(n=117)	3.4%	6.0%	14.5%	15.4%	69.2%	1.7%
	60~69歳(n=97)	3.1%	3.1%	1.0%	1.0%	86.6%	7.2%
	70~79歳(n=90)	2.2%	7.8%	6.7%	12.2%	73.3%	7.8%
	80歳以上(n=55)	0.0%	0.0%	3.6%	7.3%	74.5%	14.5%
無回答(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	

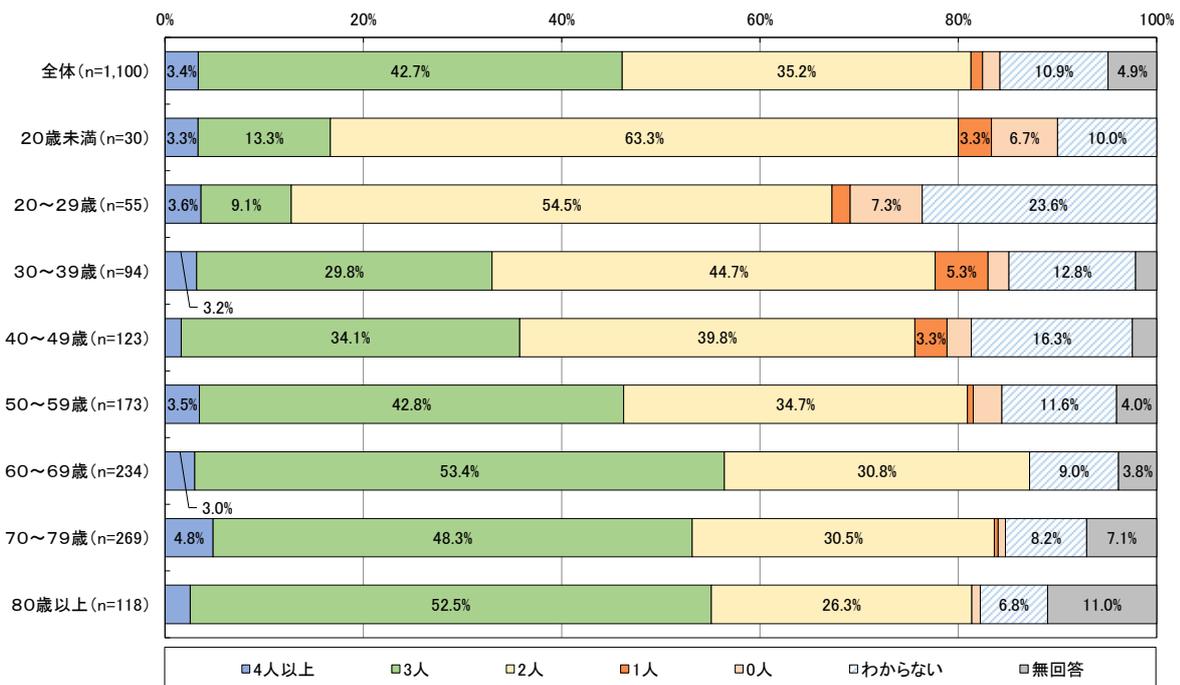
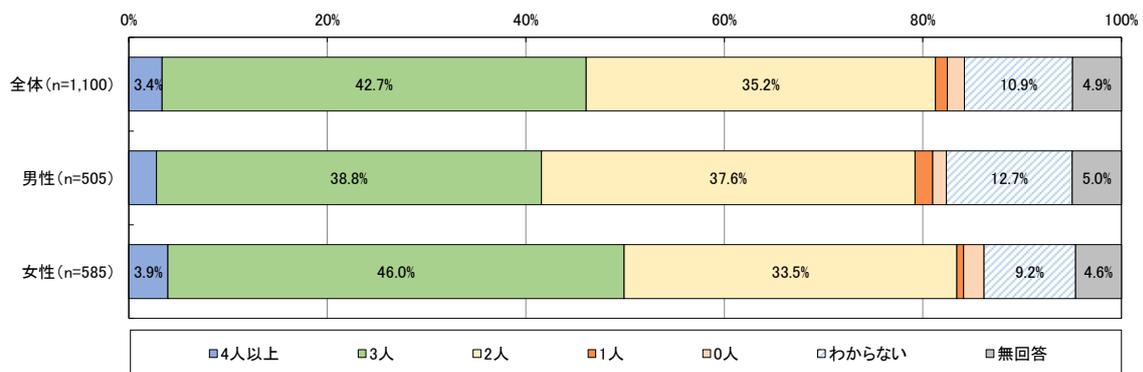
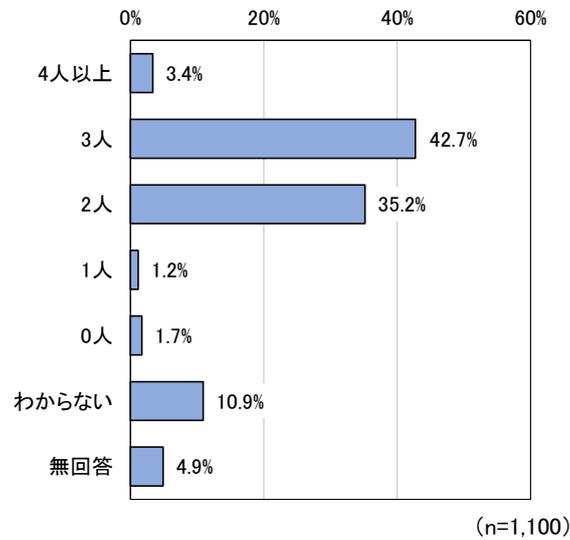
問7 現在、あなたが同居しているご家族に、日常的に介護を必要とする方はいますか。(〇は1つ)

「いない」が88.1%と最も多く、次いで「いる」が10.6%となっています。



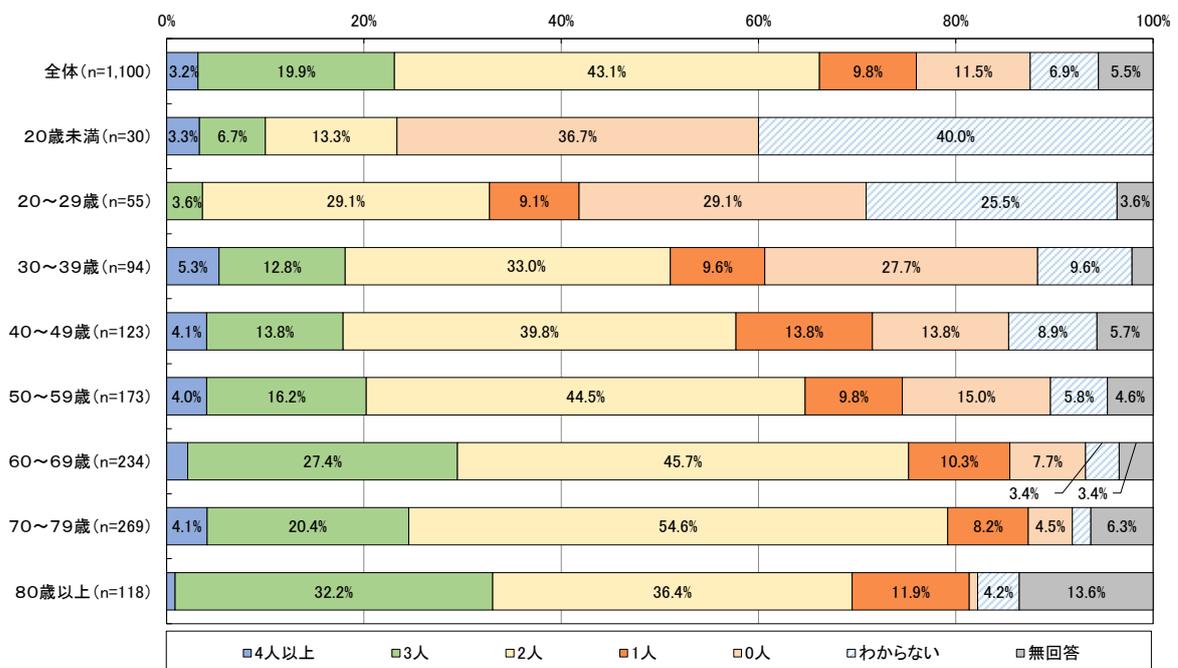
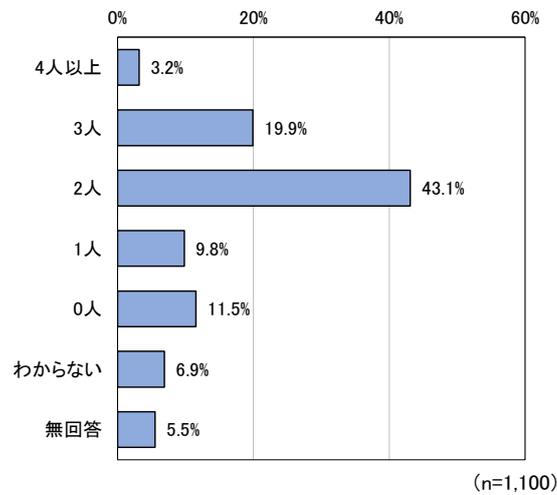
問8 あなたの理想とする子どもの人数は何人ですか。(〇は1つ)

「3人」が42.7%と最も多く、次いで「2人」が35.2%、「わからない」が10.9%となっています。



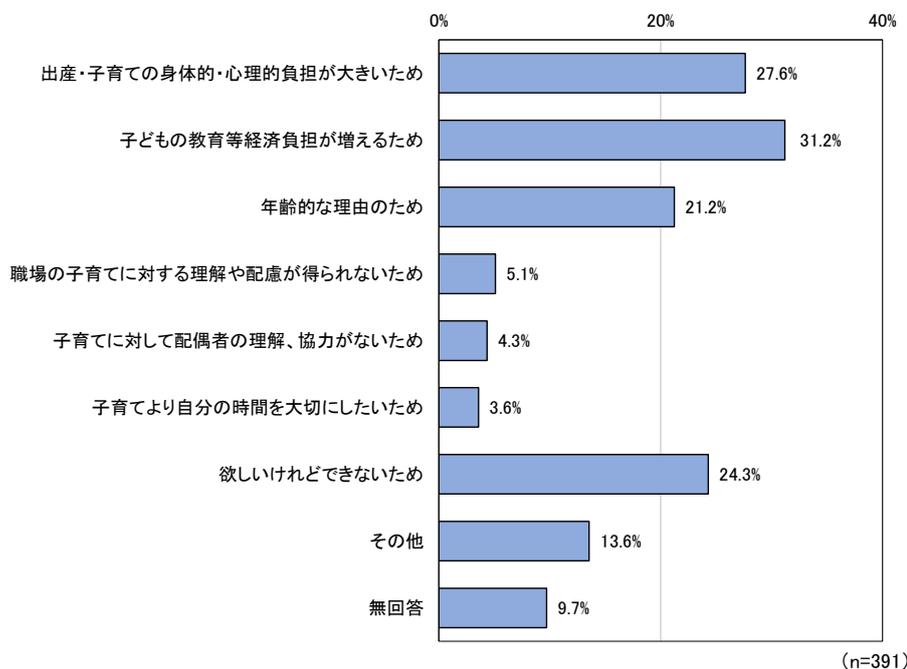
問9 実際の子どもの数（又は実際に持つつもりの子どもの数）は何人ですか。（〇は1つ）

「2人」が43.1%と最も多く、次いで「3人」が19.9%、「0人」が11.5%となっています。



**問10 【問9の実際の数が問8の理想の数より少ない方にうかがいます。】その理由はなんですか。
(〇は3つまで)**

「子どもの教育等経済負担が増えるため」が31.2%と最も多く、次いで「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きい」が27.6%、「欲しいけれどできないため」が24.3%となっています。



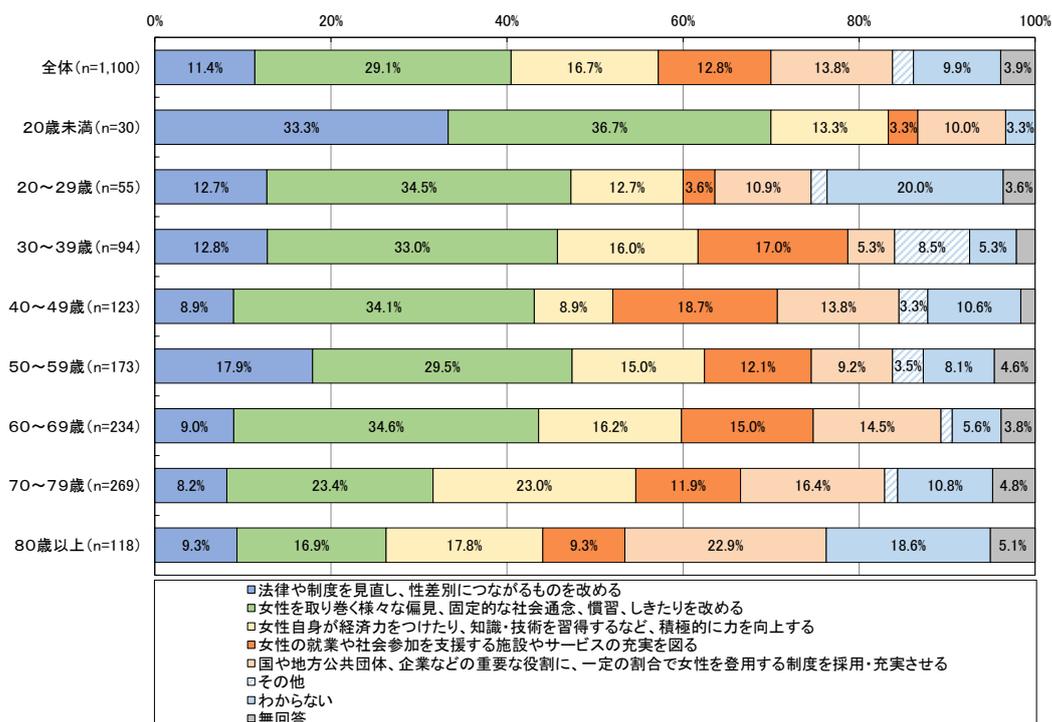
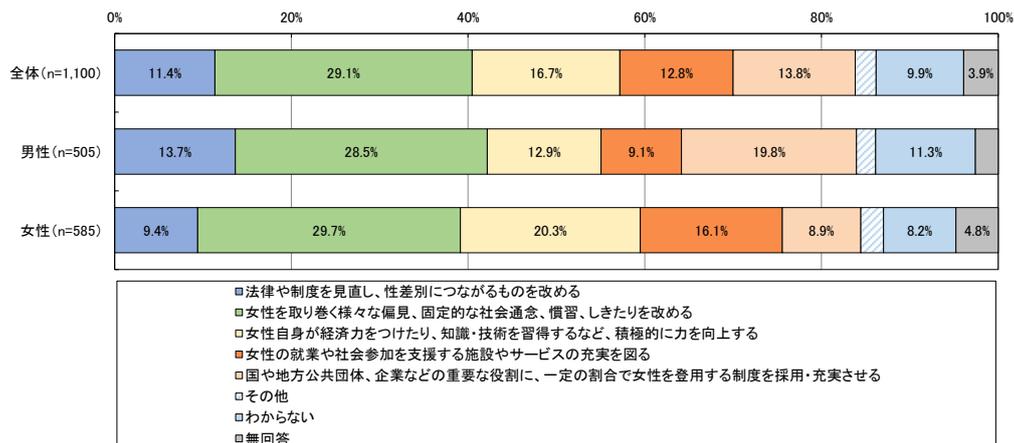
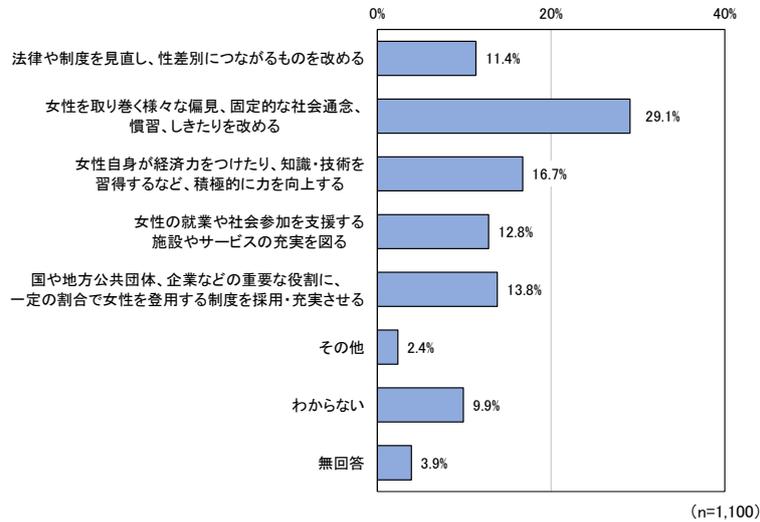
		出産・子育ての身体的・心理的負担が大きい	子どもの教育等経済負担が増える	年齢的な理由のため	職場の子育てに対する理解や配慮が得られない	子育てに対して配偶者の理解、協力が足りない	子育てより自分の時間を大切にしたい	欲しいけれどできない	その他	無回答
【性別】	全体(n=391)	27.6%	31.2%	21.2%	5.1%	4.3%	3.6%	24.3%	13.6%	9.7%
	男性(n=177)	23.2%	27.1%	21.5%	3.4%	3.4%	4.0%	27.1%	14.1%	10.7%
	女性(n=211)	31.3%	34.6%	21.3%	6.6%	5.2%	3.3%	22.3%	13.3%	8.1%
	無回答(n=3)	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%
【年齢別】	全体(n=391)	27.6%	31.2%	21.2%	5.1%	4.3%	3.6%	24.3%	13.6%	9.7%
	20歳未満(n=7)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%
	20~29歳(n=16)	31.3%	37.5%	18.8%	12.5%	0.0%	12.5%	6.3%	37.5%	6.3%
	30~39歳(n=39)	33.3%	41.0%	23.1%	10.3%	2.6%	7.7%	23.1%	23.1%	5.1%
	40~49歳(n=42)	33.3%	33.3%	26.2%	14.3%	4.8%	4.8%	28.6%	19.0%	0.0%
	50~59歳(n=72)	29.2%	44.4%	33.3%	4.2%	5.6%	1.4%	18.1%	13.9%	2.8%
	60~69歳(n=83)	30.1%	22.9%	18.1%	3.6%	6.0%	1.2%	25.3%	8.4%	9.6%
	70~79歳(n=99)	25.3%	27.3%	16.2%	1.0%	3.0%	3.0%	33.3%	6.1%	13.1%
	80歳以上(n=33)	15.2%	24.2%	15.2%	3.0%	6.1%	6.1%	18.2%	6.1%	30.3%
	無回答(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【その他】

- 妻の健康上のため（男性、60～69歳）
- 離別のため（女性、60～69歳）
- 環境が悪くなる一方で、子供が健康に育たなそう（女性、30～39歳）
- 死別（女性、60～69歳）
- 死産の為（女性、60～69歳）（男性、70～79歳）2件
- 不妊治療をした際、精神的負担が大きかったため（女性、40～49歳）
- 医師に止められた、身体的理由（男性、40～49歳）
- 2人目の出産を控えているため（女性、20～29歳）
- できなかった（女性、40～49歳）
- 配偶者の理想の子供数が2人のため（女性、30～39歳）
- 一人で十分だと思いました、その時は（女性、60～69歳）
- 私自身が職場に気を使った（女性、60～69歳）
- 出産したばかりでこれから妊活する予定（女性、30～39歳）
- 男2人で3人目が女だったら3人ほしかった。その確信がなかったから（男性、70～79歳）
- まだ子どもが小さいのでもう少ししてから2人目を作る予定（女性、20～29歳）
- 子どもの体調不良等にすぐ対応してくれる両親が高齢になってきたため（女性、50～59歳）
- 実家が遠く近くに助けを求められる人がいないため（女性、50～59歳）
- 子どもができる年齢の頃は理由など考えていない。自然とそうなった（男性、70～79歳）
- 子育て中両親と同居、介護など大変でした。（女性、70～79歳）
- 離婚が多い（男性、50～59歳）
- 未婚のため（男性、20歳未満）2件（男性、30～39歳）2件（男性、40～49歳）2件
（男性、50～59歳）2件（男性、60～69歳）
- 未婚のため（女性、20歳未満）（女性、20～29歳）2件（女性、30～39歳）3件

問11 男女の地位の平等感を高めるために、あなたが必要だと思うものは次のうちどれですか。(〇は1つ)

「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」が29.1%と最も多く、次いで「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力を向上する」が16.7%、「国や地方公共団体、企業などの重要な役割に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実させる」が13.8%となっています。



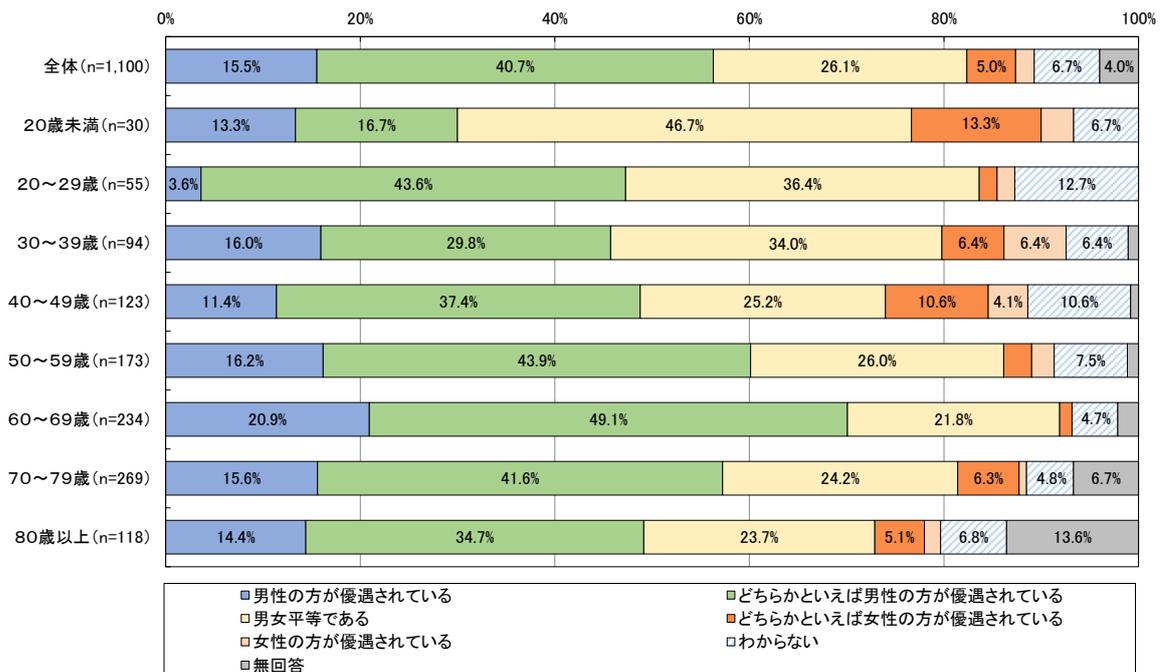
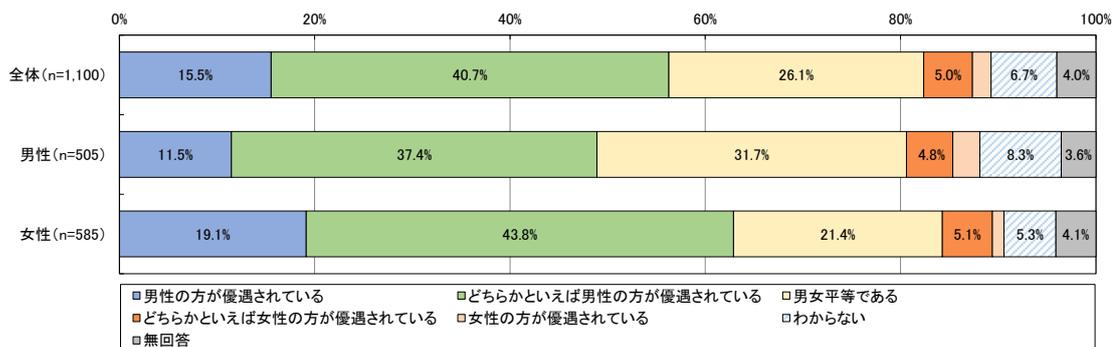
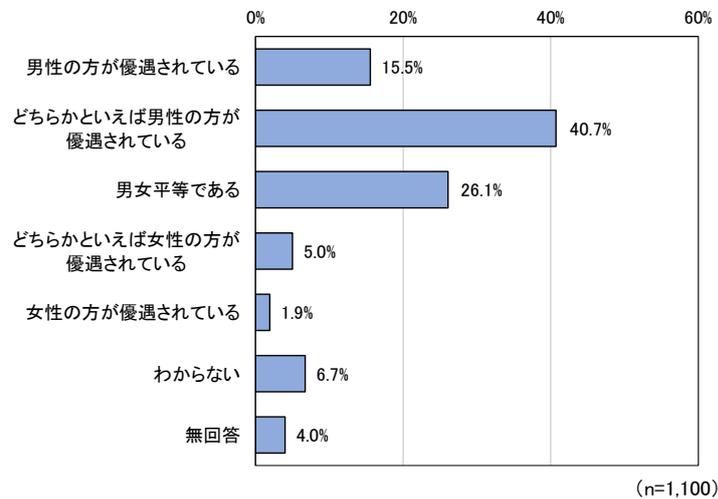
【その他】

- 男女問わず力があるものに行くこと（女性、40～49歳）
- 男女同等の差別のない社旗を支援する（男性、50～59歳）
- 特別こういう事を決めなくても良い事が平等の第一歩（男性60～69歳）
- 男性正社員と同じ仕事をしていても派遣社員との格差があるため改善（男性、60～69歳）
- 何でもかんでも平等じゃなくていいと思っているのでよくわからない。（男性、60～69歳）
- 女性に限らず男女をいう性差についての偏見や固定概念を改める。（女性、70～79歳）
- それほど女性が差別されていると感じない（男性、70～79歳）
- 女性や男性というくくりで、物事を語るのではなく、その人のパーソナリティや能力に見合った活動ができるようになれば良いと考える。（男性、20～29歳）
- 多くの意味で、男女の地位の平等は大切な事と思うが、根底の所での男女の違いは尊重するべきと思っている。（女性、50～59歳）
- 男女の地位の不平等感を解消するためには、女性が一方的に不利益を被る制度や偏見、しきりなどの現状を全体的に改める必要があると思います。同時、社会や組織の中で意思決定を行う場において女性の目線や意見を十分に反映させていくことが重要であり、理想的には不平等「感」だけでなく、実際的な不平等をなくすことが不可欠だと思います。（女性、50～59歳）
- 平等じゃなくて良いと思っています（女性、70～79歳）
- 女性が意識を変える（男性、50～59歳）
- 今の生活では特に不平等と感じていない。（女性、70～79歳）
- 平等を望まない女性もいるのではないですか？その辺の調査、対応も必要なのでは？（男性、70～79歳）
- 働きやすい職場の充実。子供がいても、気兼ねなく休みが取れる、偏見をなくして欲しい。（女性、50～59歳）
- 夫婦別姓（男性、60～69歳）
- 男女の問題より年令の偏見を見直すべき。若いからと云っても仕事ができない、年をとっても仕事は出来る。どうしてパート・アルバイトにならねばならないのか？（男性、80～89歳）
- 従来の考え方を尊重する（女性、40～49歳）
- 女性のみを優遇しすぎない（男性が反発しない）（男性、50～59歳）
- 「平等感」の定義が曖昧なため無作為して求めればそれを利用して不平等が生まれるのではないかと思う。（女性、70～79歳）
- 平等より公平が必要。男女の差別・偏見ない雇用、地位の向上など。（男性、20～29歳）

問 12 あなたは次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。次の項目についてお答えください。(〇は各項目1つずつ)

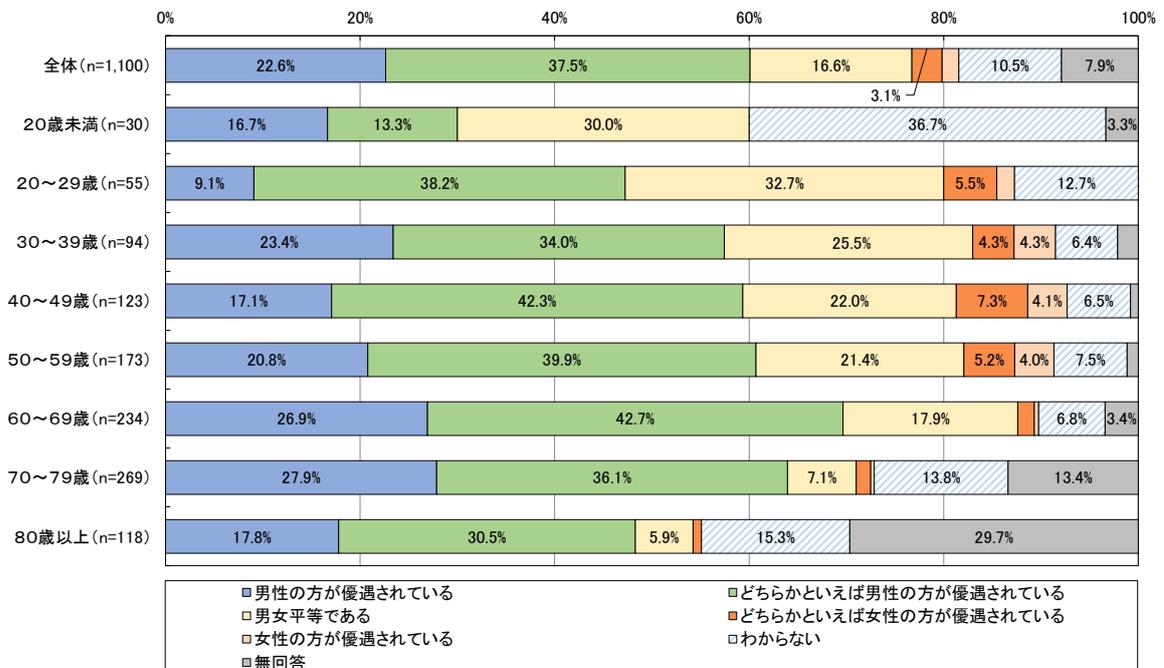
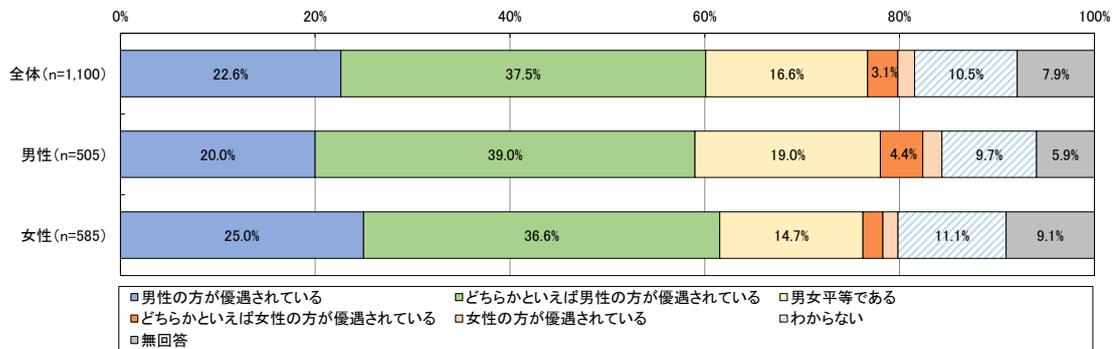
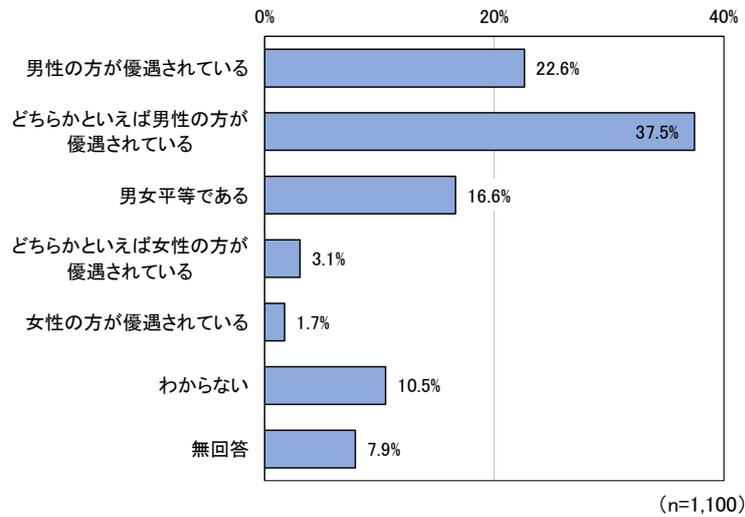
【家庭生活で】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.7%と最も多く、次いで「男女平等である」が26.1%となっています。



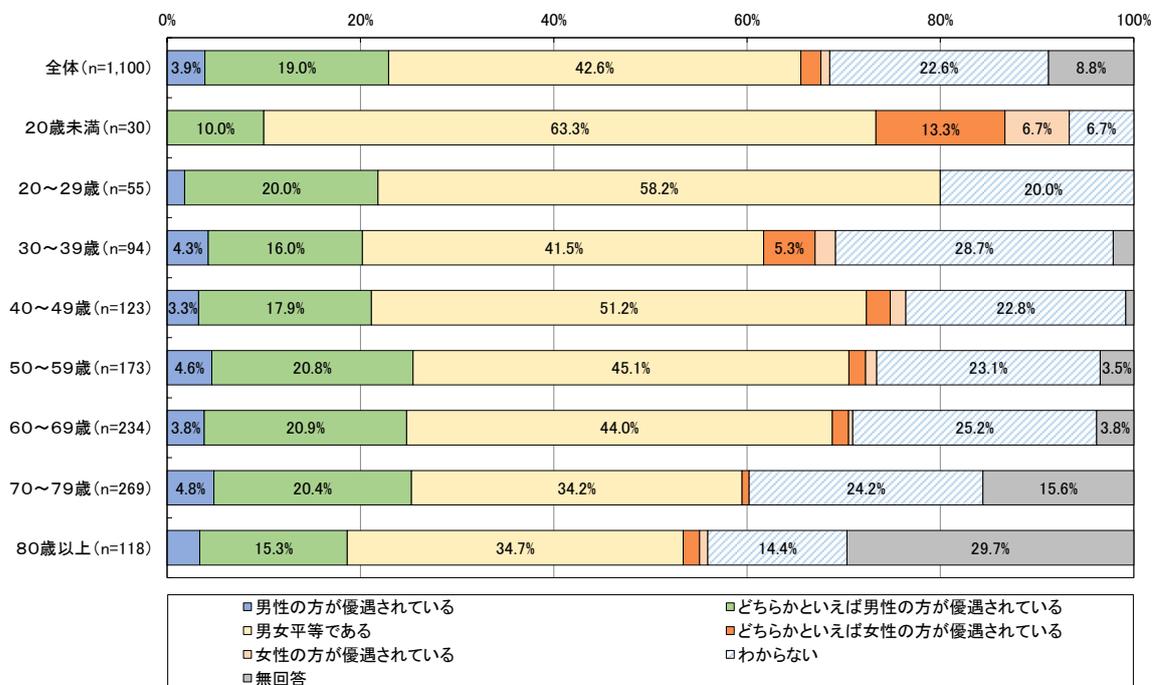
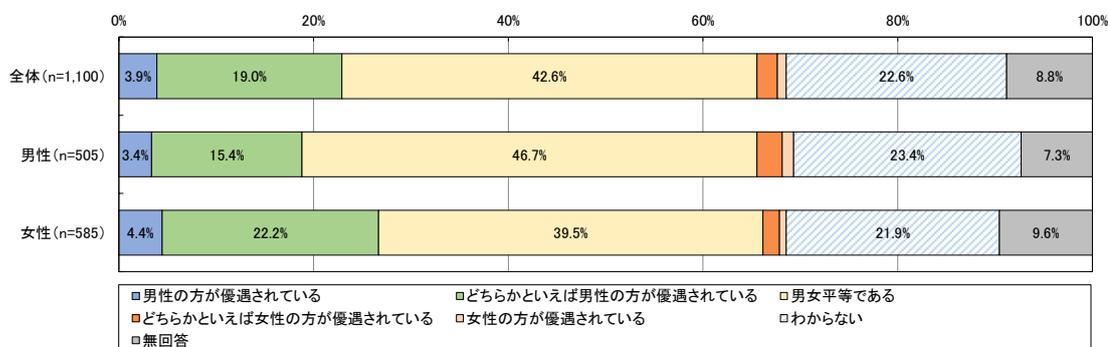
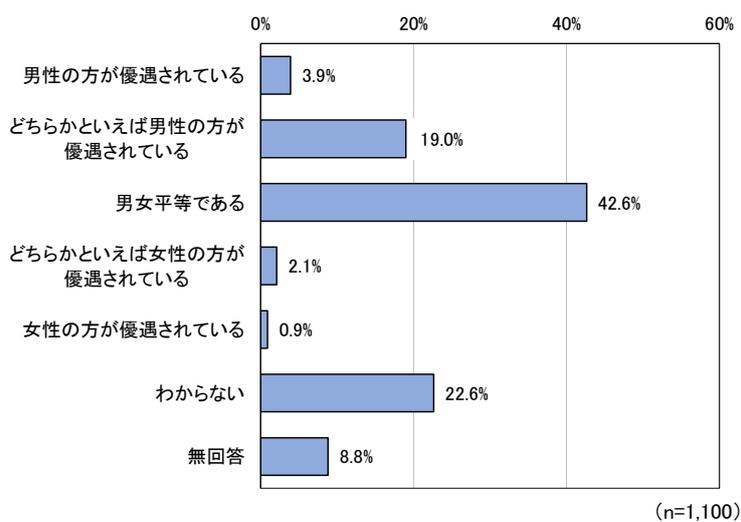
【職場で】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.5%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が22.6%となっています。



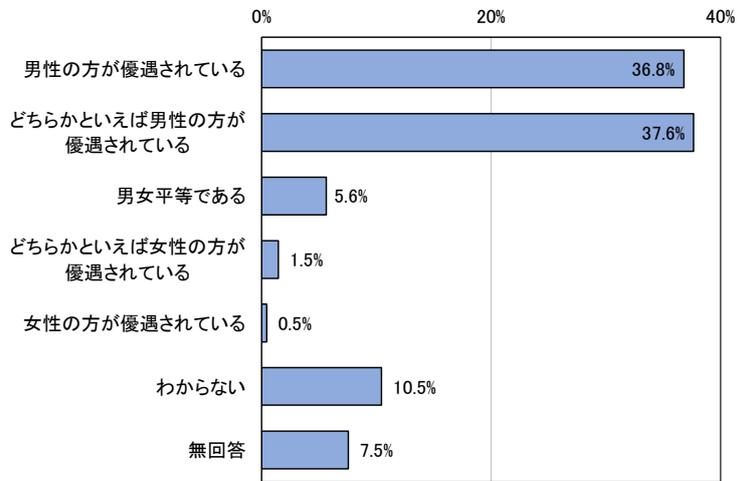
【学校教育の場で】

「男女平等である」が最も多く42.6%、次いで「わからない」が22.6%となっています。

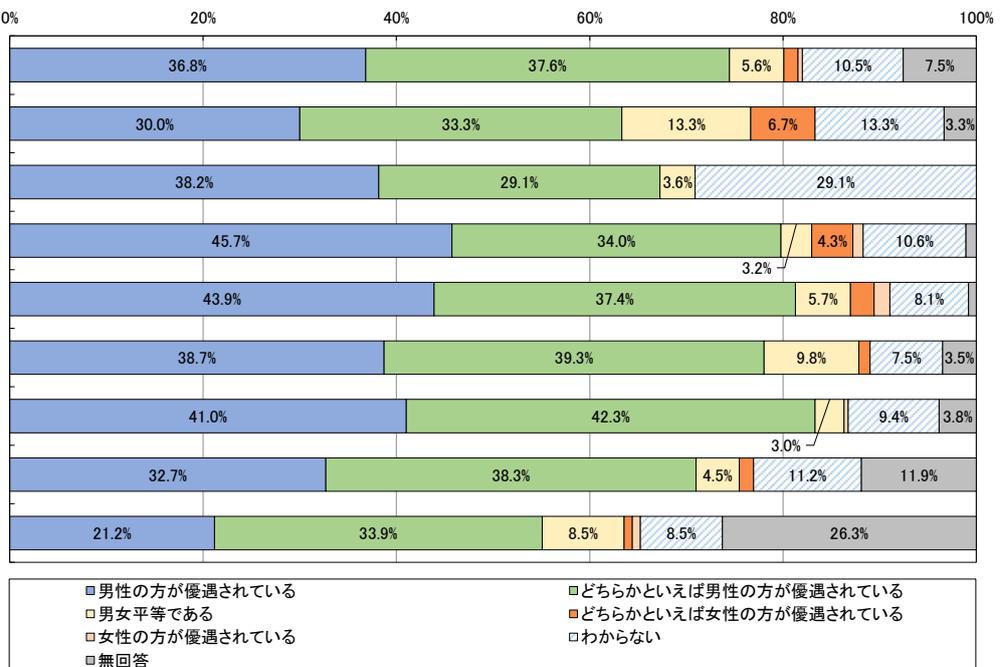
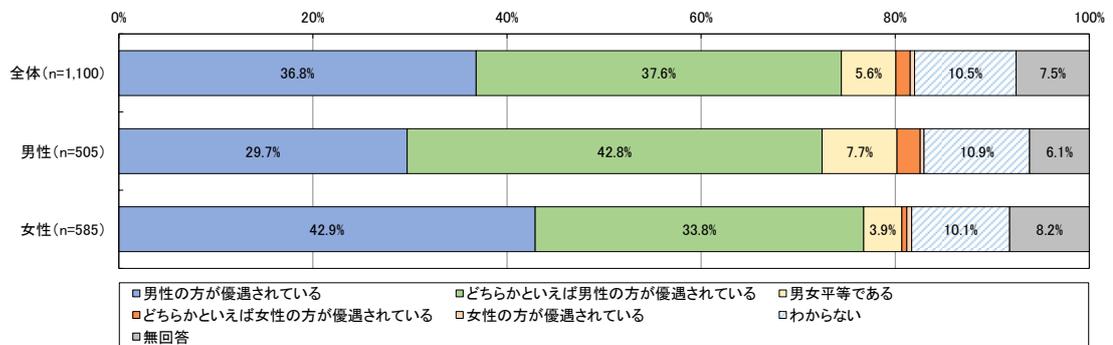


【政治の場で】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.6%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が36.8%となっています。

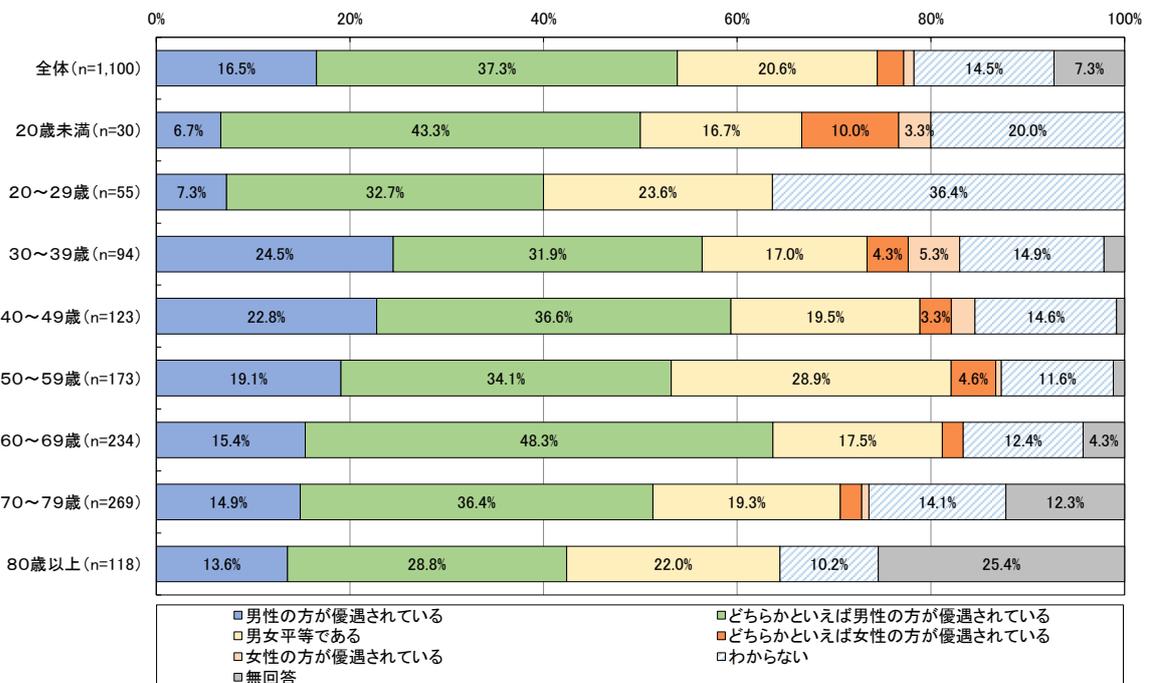
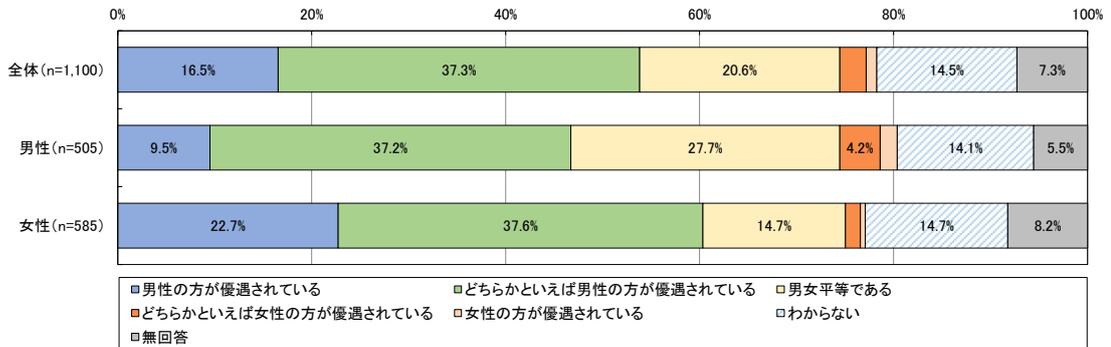
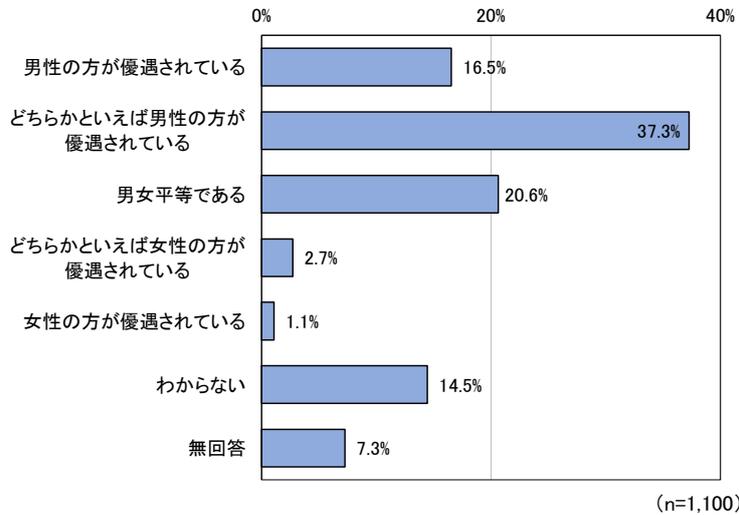


(n=1,100)

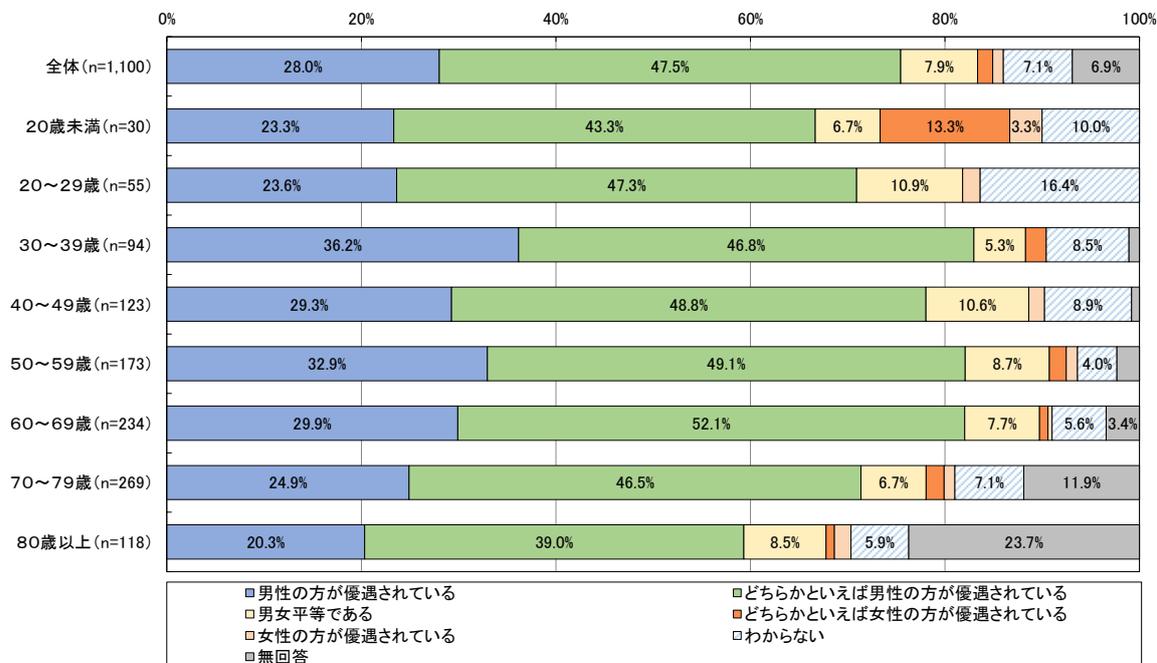
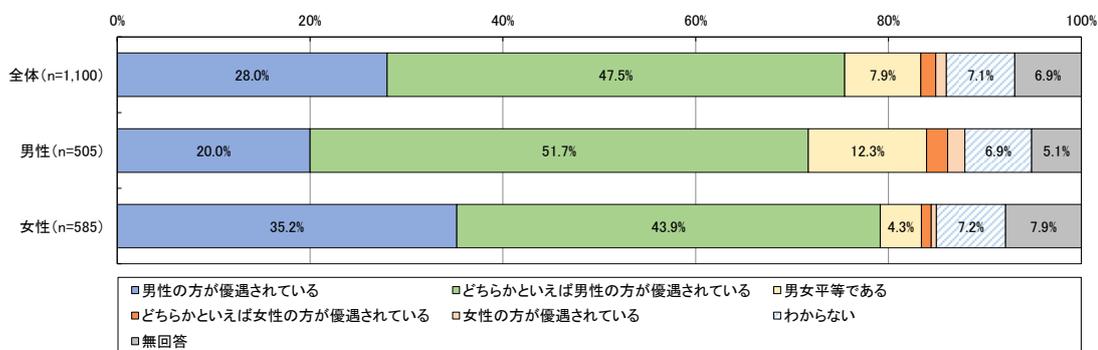
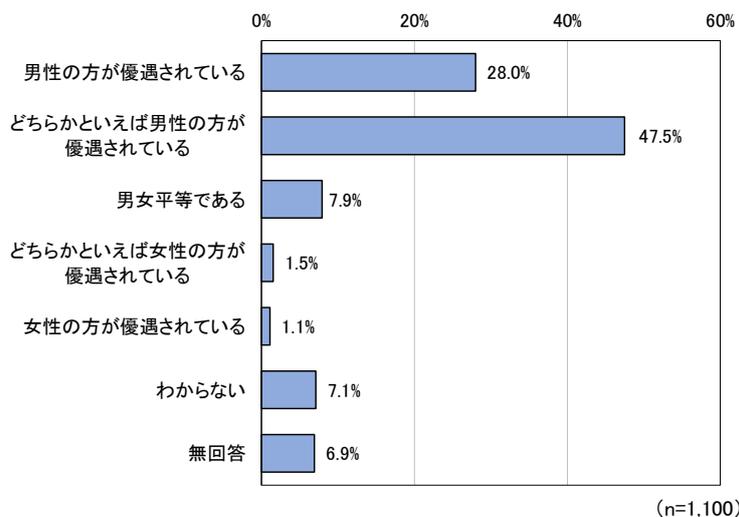


【法律や制度のうえで】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.3%と最も多く、次いで「男女平等である」が20.6%となっています。

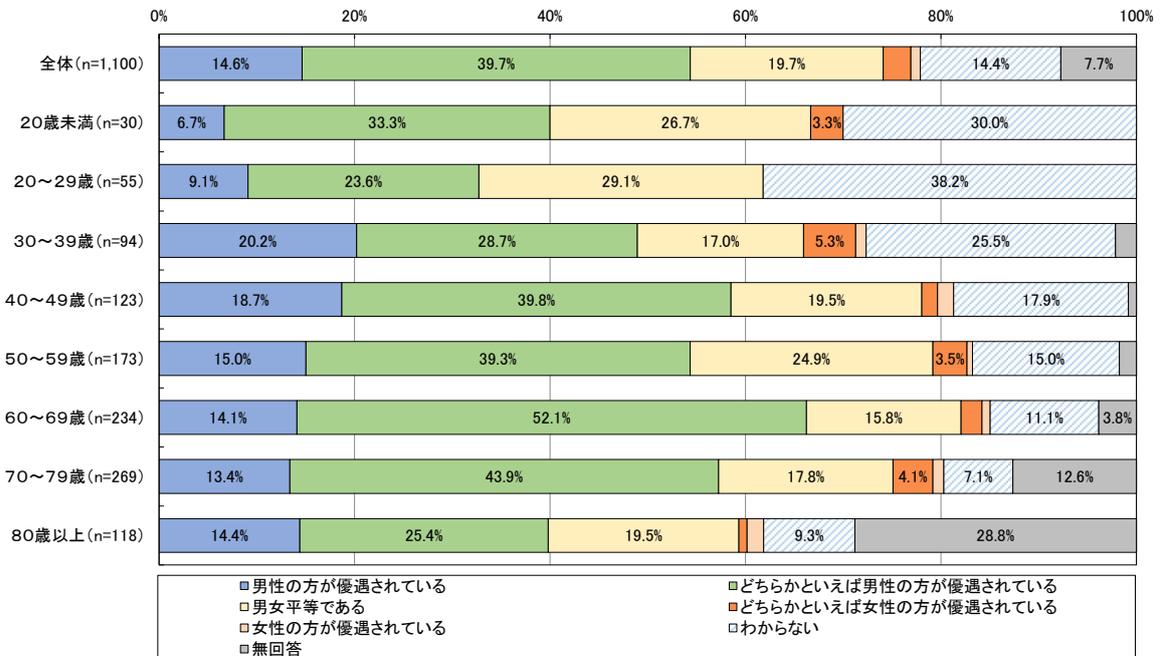
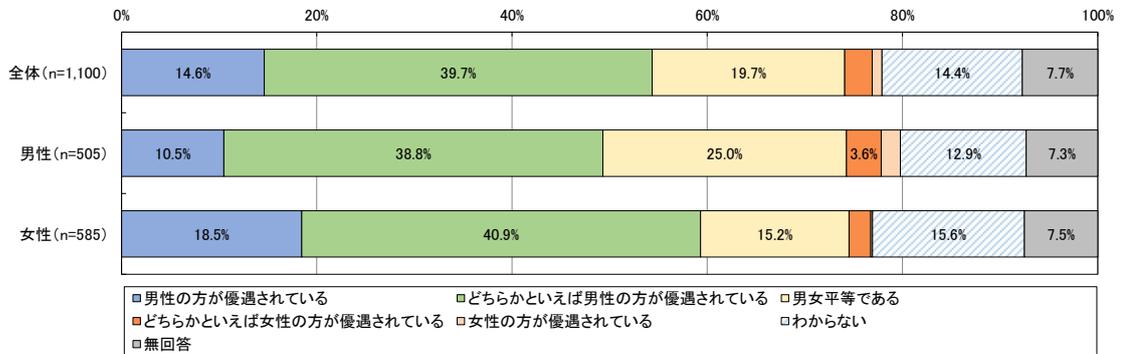
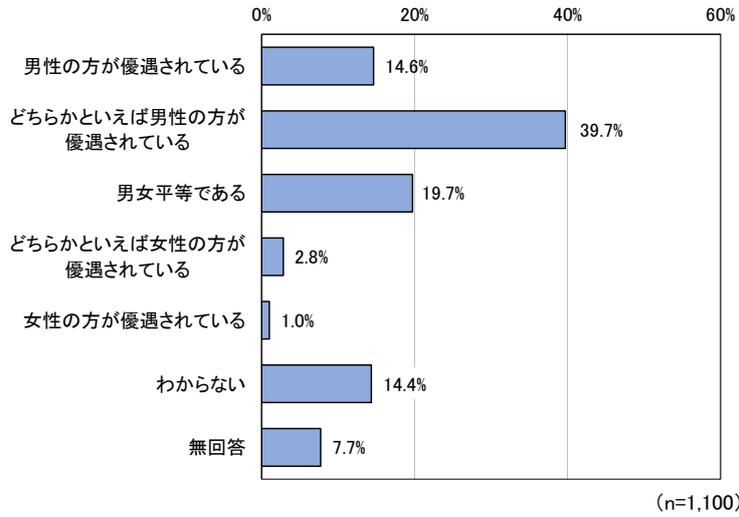


【社会通念・慣習・しきたりなど】は、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が47.5%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が28.0%となっています。



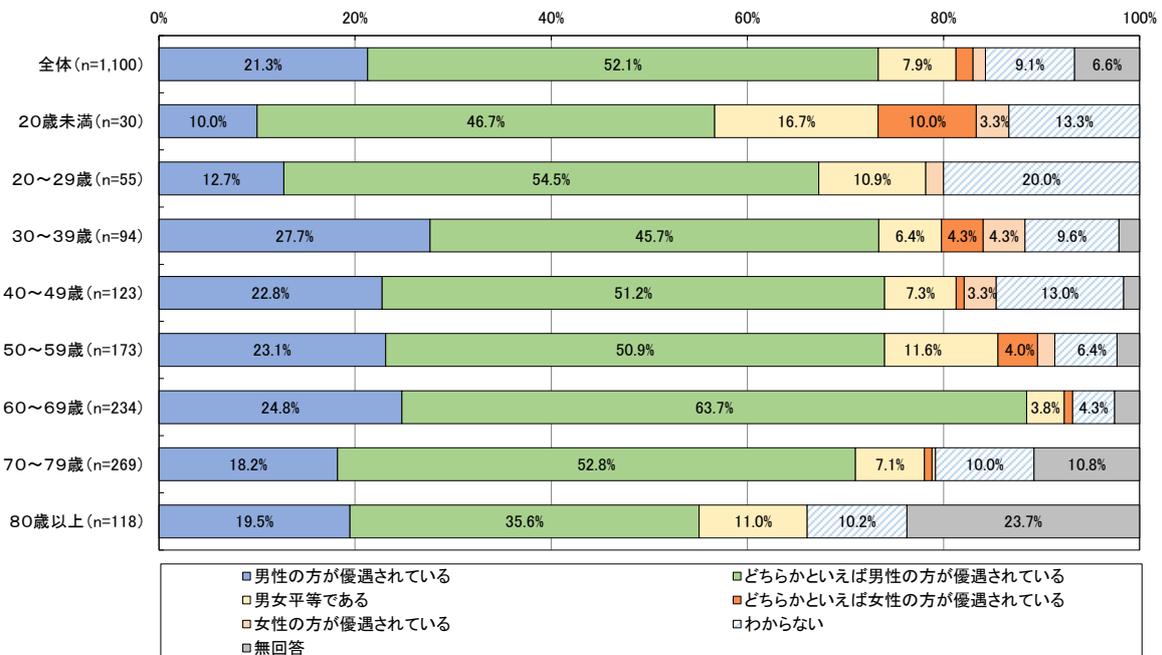
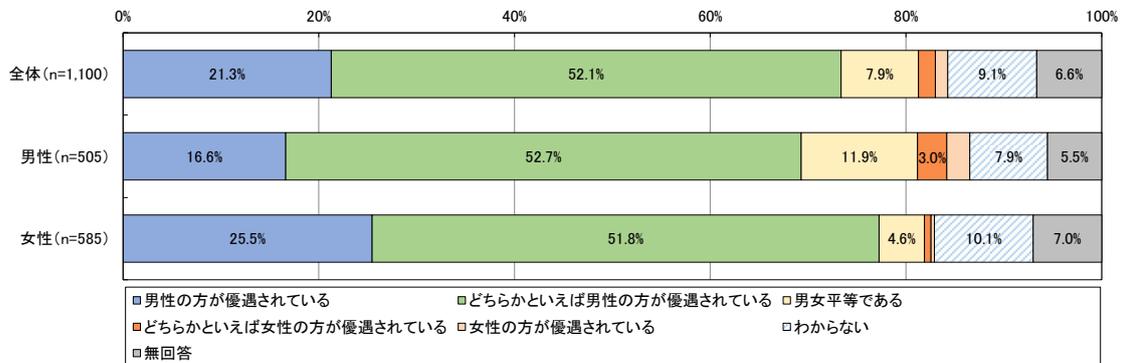
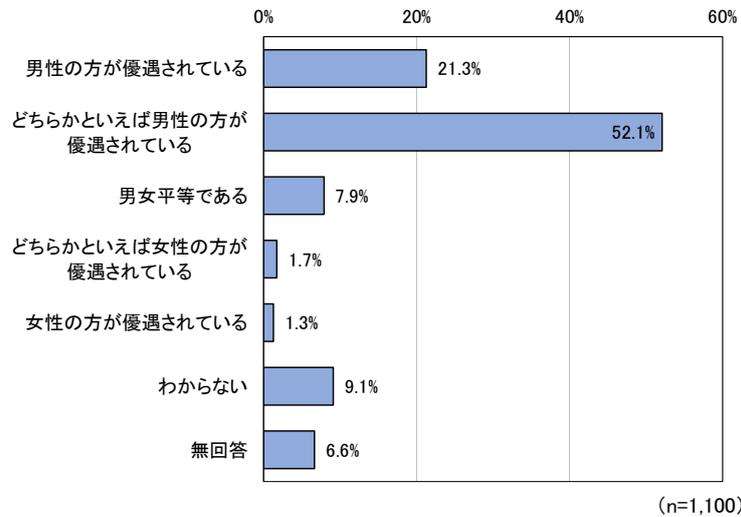
【自治会などの地域活動の場で】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が39.7%と最も多く、次いで「男女平等である」が19.7%となっています。



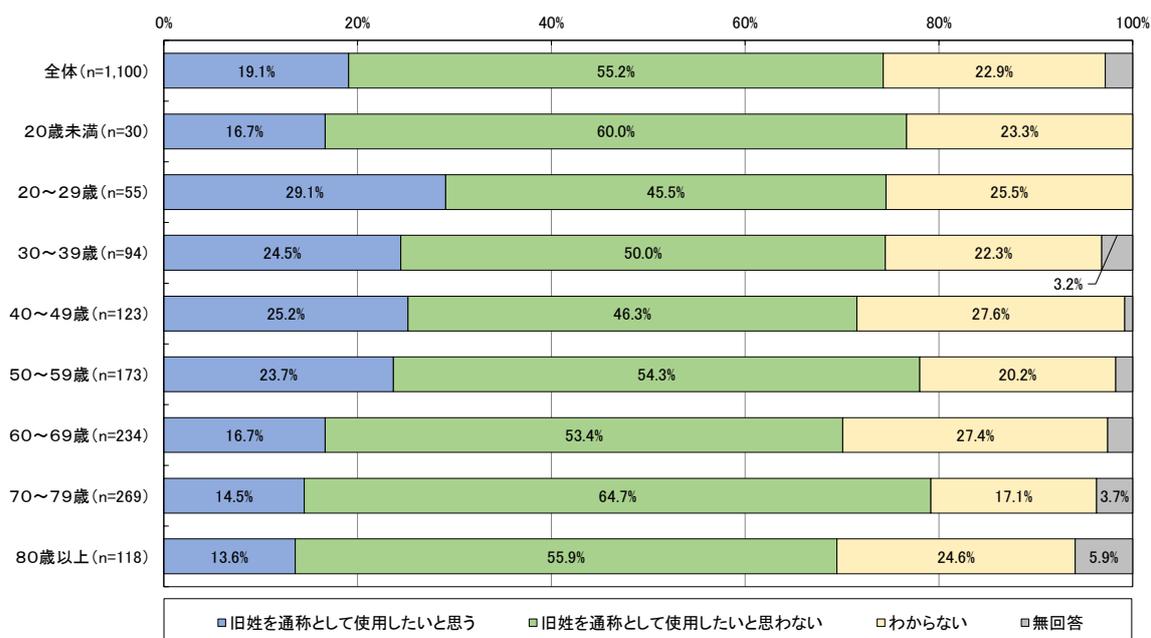
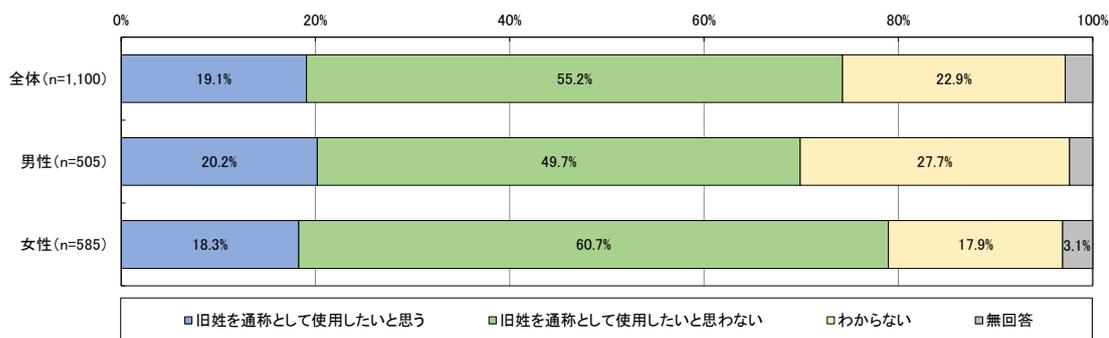
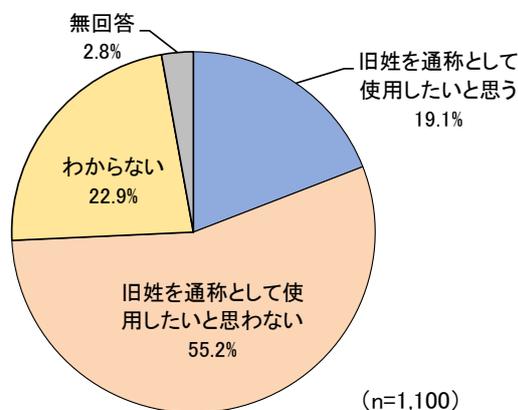
【社会全体で】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く 52.1%、次いで「男性の方が優遇されている」が 21.3%となっています。



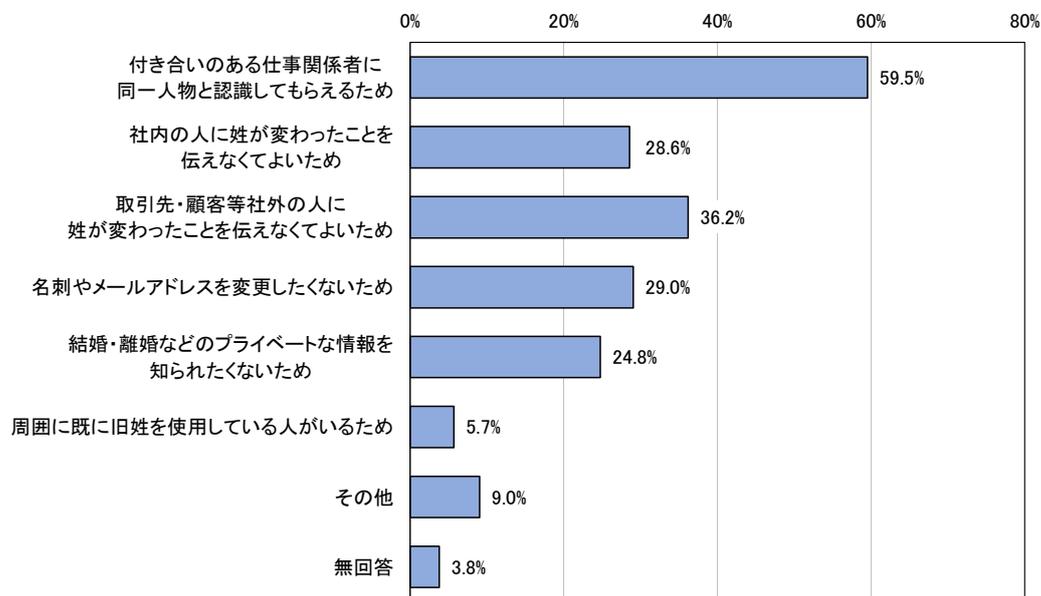
問13 あなたは、仮に結婚して戸籍上の名字（姓）が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思いますか。あなたが結婚なさっている、いないに関わらず、お答えください。（〇は1つ）

「旧姓を通称としてしようしたいと思わない」が最も多く、55.2%、次いで「わからない」が22.9%、「旧姓を通称として使用したいと思う」が19.1%となっています。



問14 【問13で「1. 旧姓を通称として使用したいと思う」と答えた方にうかがいます】その理由はなんですか。(〇は3つまで)

「付き合いのある仕事関係者に同一人物と認識してもらえるため」が59.5%と最も多く、次いで「取引先・顧客等社外の人に姓が変わったことを伝えなくてよいため」が36.2%、「名刺やメールアドレスを変更したくないため」が29.0%となっています。



(n=210)

		付き合いのある仕事関係者に同一人物と認識してもらえるため	社内の人に姓が変わったことを伝えなくてよいため	取引先・顧客等社外の人に姓が変わったことを伝えなくてよいため	名刺やメールアドレスを変更したくないため	結婚・離婚などのプライベートな情報を知られたくないため	周囲に既に旧姓を使用している人がいるため	その他	無回答
【性別】	全体(n=210)	59.5%	28.6%	36.2%	29.0%	24.8%	5.7%	9.0%	3.8%
	男性(n=102)	62.7%	24.5%	31.4%	18.6%	22.5%	3.9%	9.8%	4.9%
	女性(n=107)	57.0%	32.7%	41.1%	39.3%	27.1%	7.5%	8.4%	1.9%
	無回答(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
【年齢別】	全体(n=210)	59.5%	28.6%	36.2%	29.0%	24.8%	5.7%	9.0%	3.8%
	20歳未満(n=5)	80.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	20～29歳(n=16)	50.0%	25.0%	50.0%	25.0%	18.8%	25.0%	12.5%	0.0%
	30～39歳(n=23)	65.2%	47.8%	43.5%	43.5%	30.4%	0.0%	8.7%	0.0%
	40～49歳(n=31)	48.4%	35.5%	41.9%	29.0%	25.8%	3.2%	22.6%	0.0%
	50～59歳(n=41)	53.7%	22.0%	41.5%	41.5%	31.7%	4.9%	7.3%	2.4%
	60～69歳(n=39)	59.0%	30.8%	35.9%	30.8%	17.9%	7.7%	7.7%	10.3%
	70～79歳(n=39)	69.2%	23.1%	25.6%	20.5%	25.6%	5.1%	2.6%	2.6%
	80歳以上(n=16)	68.8%	25.0%	18.8%	0.0%	18.8%	0.0%	0.0%	12.5%
	無回答(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【その他】

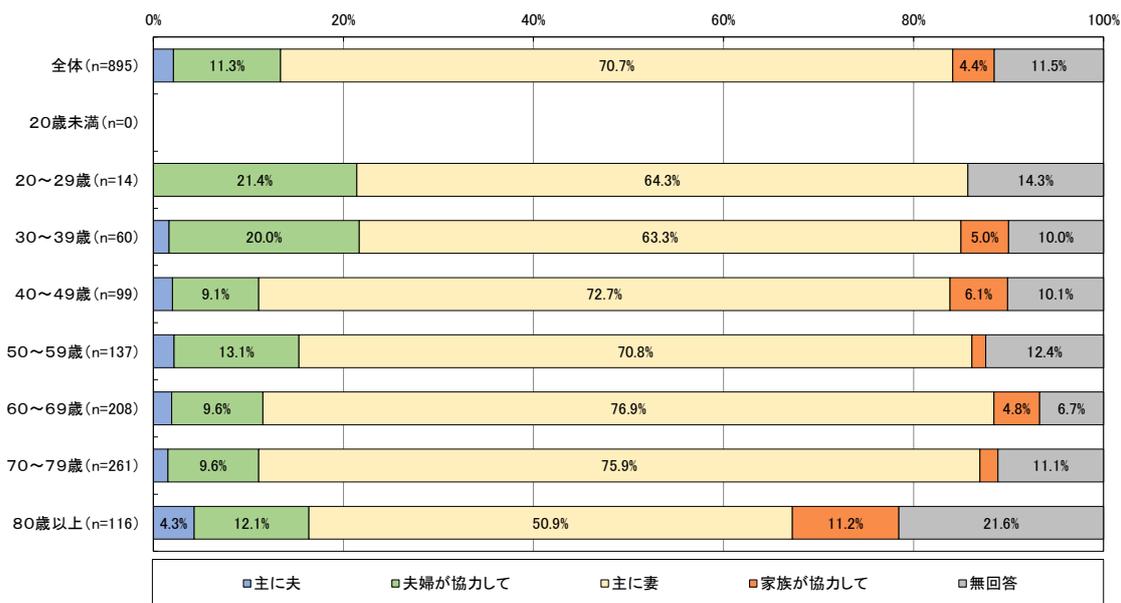
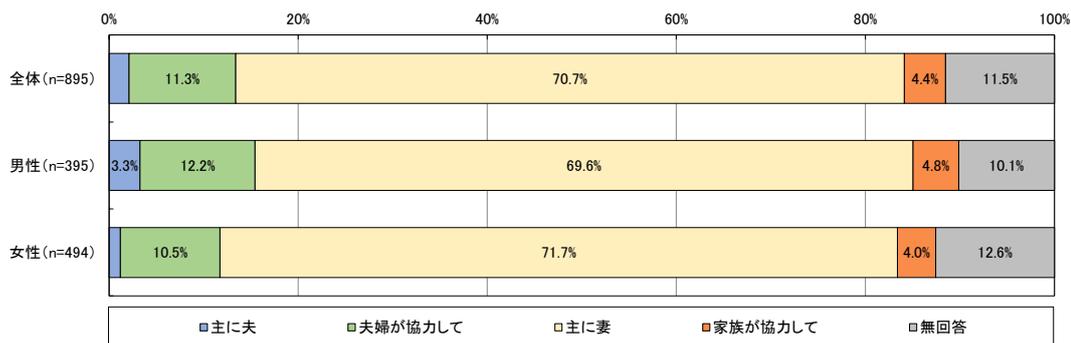
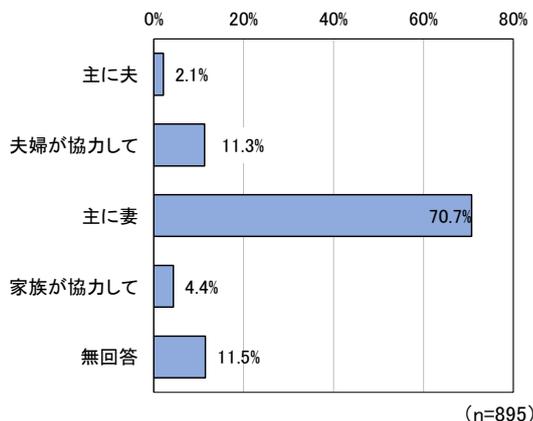
- 旧姓が好きだから（女性、40～49歳）
- 氏名変更の手続きが多すぎる為（女性、30～39歳）
- 仮に結婚して苗字を変えて、離婚したときにまた苗字を変えたり何回も変えたくない（女性、40～49歳）
- 結婚離婚に際し、子供にも姓の選択が出来るように（女性、40～49歳）
- 旧姓は自分の大切な姓であるから（女性、70～79歳）
- 夫婦別姓賛成（男性、60～69歳）
- 働くに関係なく、大事にしたい旧姓です。（女性、60～69歳）
- そういう人達が周りに多いため（男性、40～49歳）
- 旧姓の自分を尊重したい（女性、60～69歳）
- それがあたり前の社会が望ましい（男性、40～49歳）
- 免許証の公的書類やクレジットカードなどの名義変更の手続きが大変だから（男性、20～29歳）
- 旧姓が好きだから（女性、20～29歳）
- 苗字を変更する為に書類を書くことが大変だから。（男性、20歳未満）
- 公的書類の手続が面倒なため（男性、50～59歳）
- あまりない苗字で気に入っているため戸籍上は仕方ないが、仕事上では苗字は残しておきたい。（男性、30～39歳）
- 選択可能にしてはいかがでしょうか？（男性、50～59歳）
- アイデンティティーを失うことのない関係を確保するため（女性、50～59歳）

問15 あなたの家庭では、次の項目の家事などは、どなたがされていますか。また、あなたの理想ではどのようにしたいと思いますか。

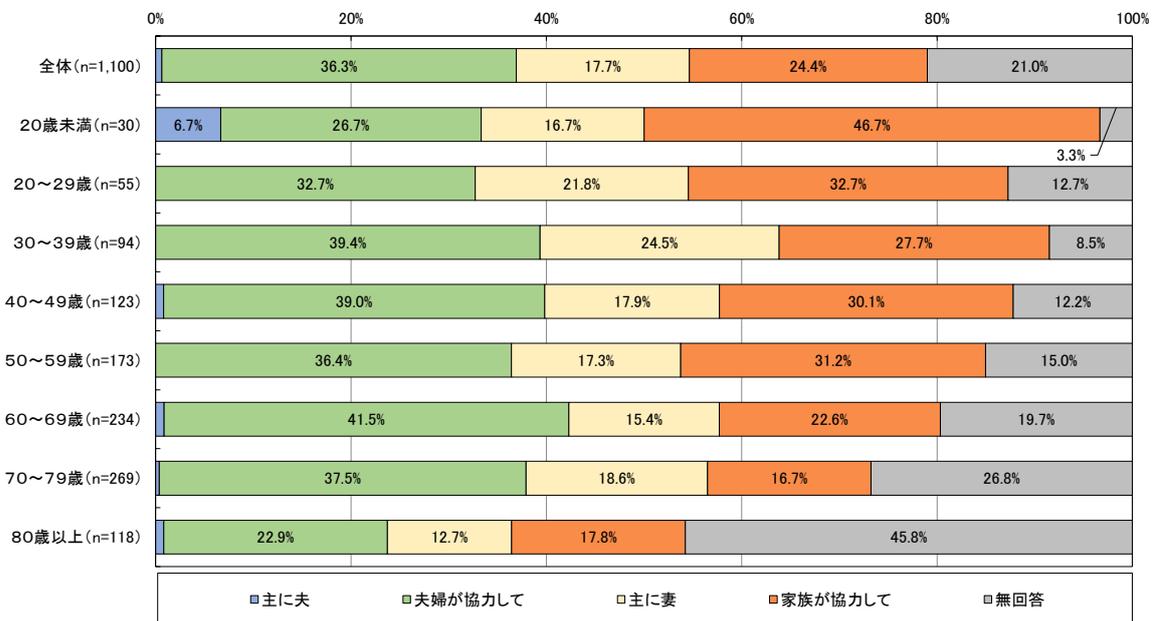
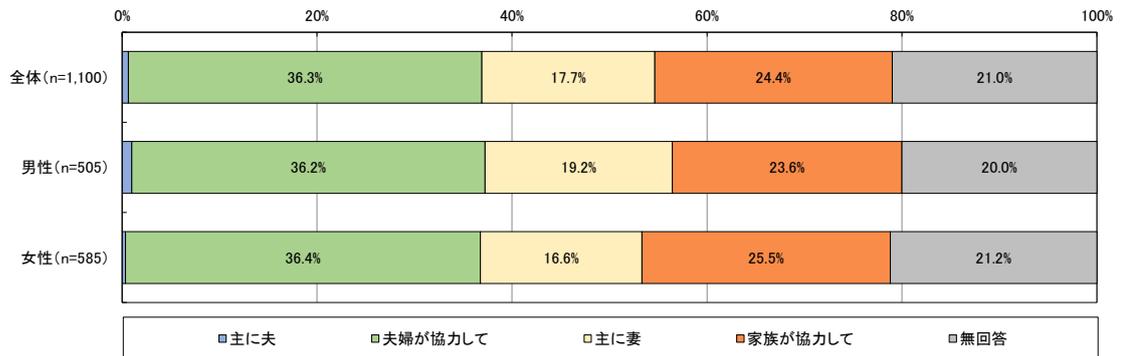
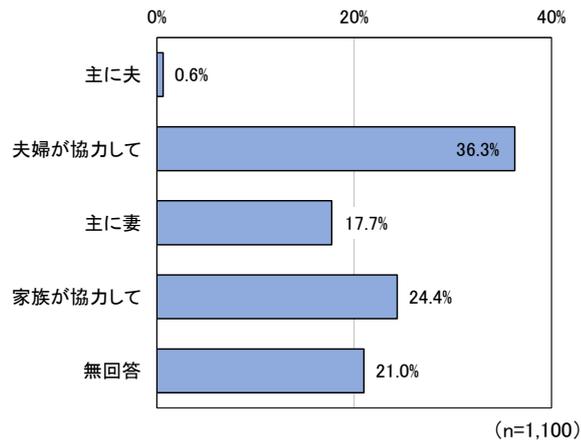
【食事の準備】

現状では、「主に妻」が70.7%と最も多く、次いで「夫婦が協力して」が11.3%となっています。理想では、「夫婦が協力して」が36.3%と最も多く、次いで「家族が協力して」が24.4%となっています。

【現状】



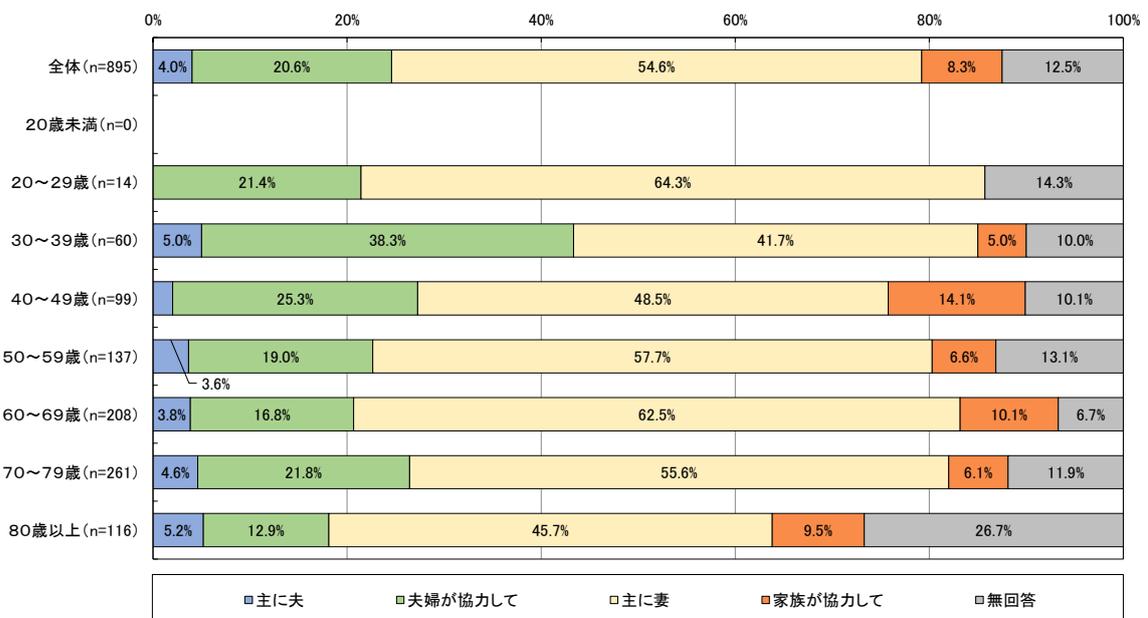
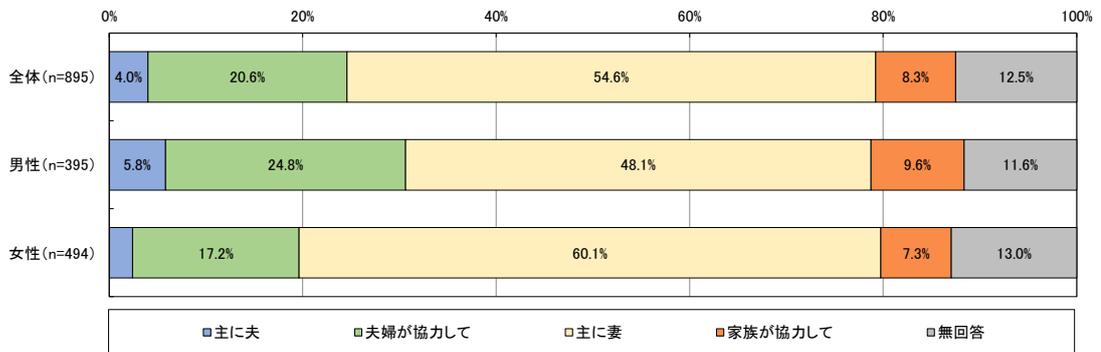
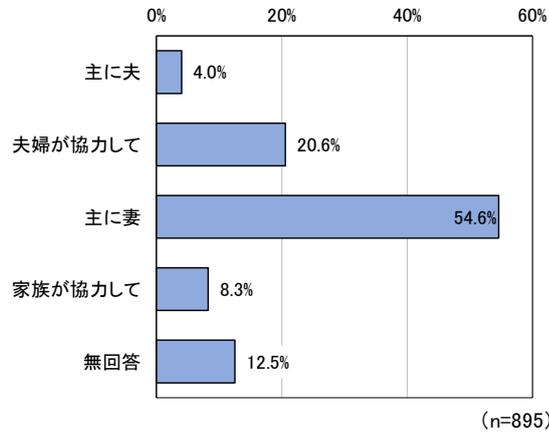
【理想】



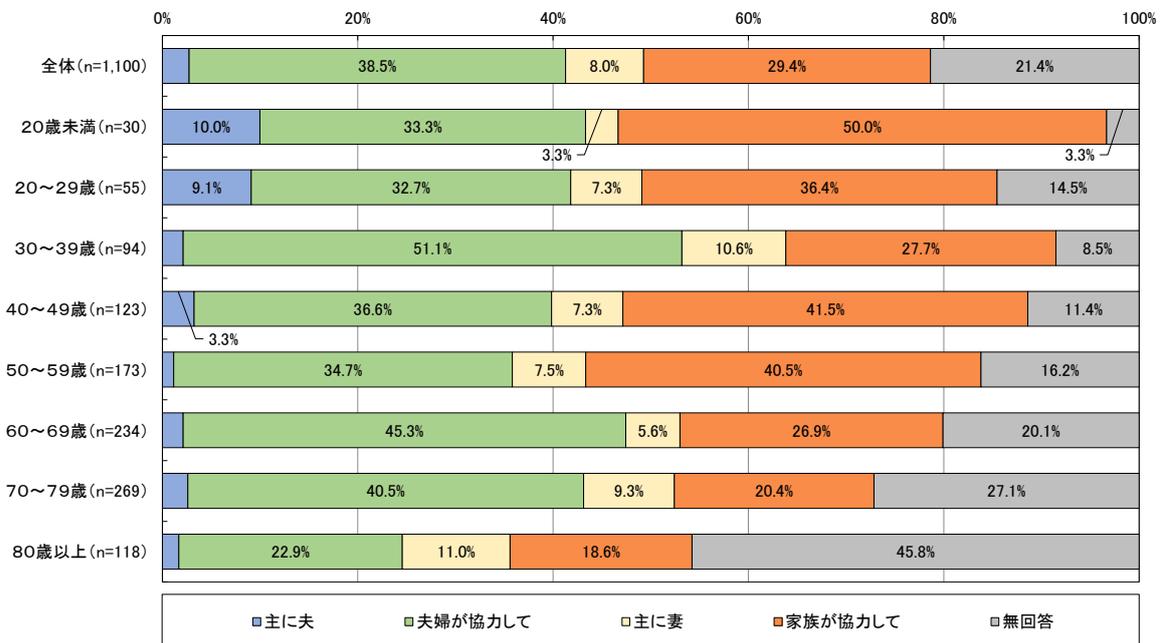
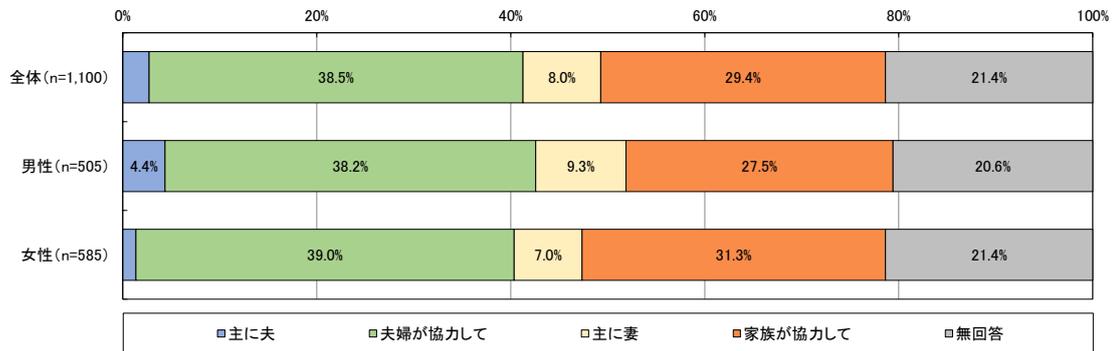
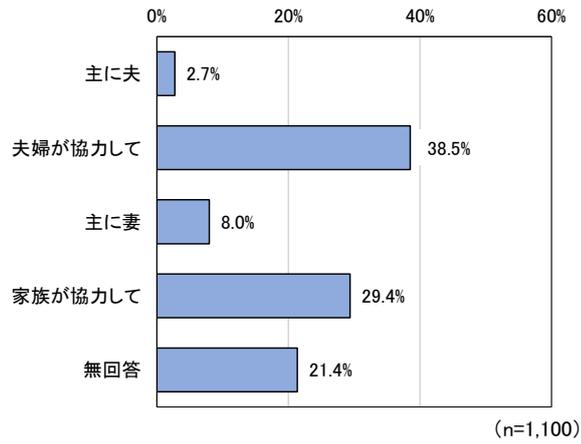
【食事の後片付け】

現状では、「主に妻」が54.6%と最も多く、次いで「夫婦が協力して」が20.6%となっています。理想では、「夫婦が協力して」が38.5%と最も多く、次いで「家族が協力して」が29.4%となっています。

【現状】



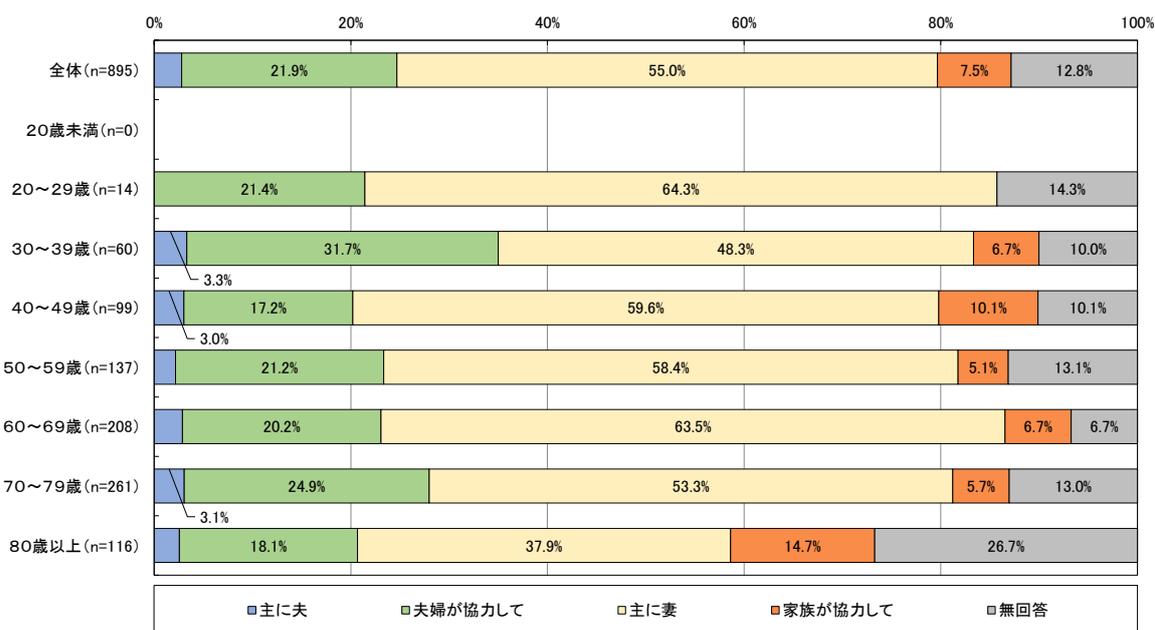
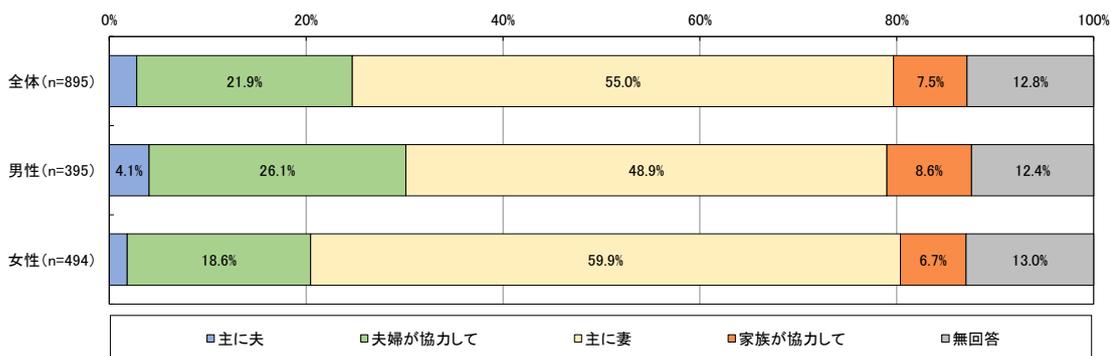
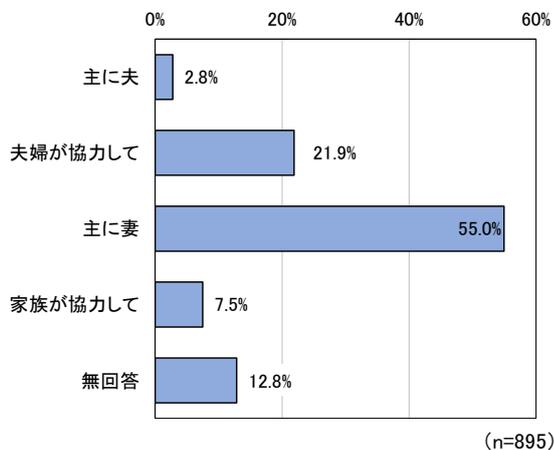
【理想】



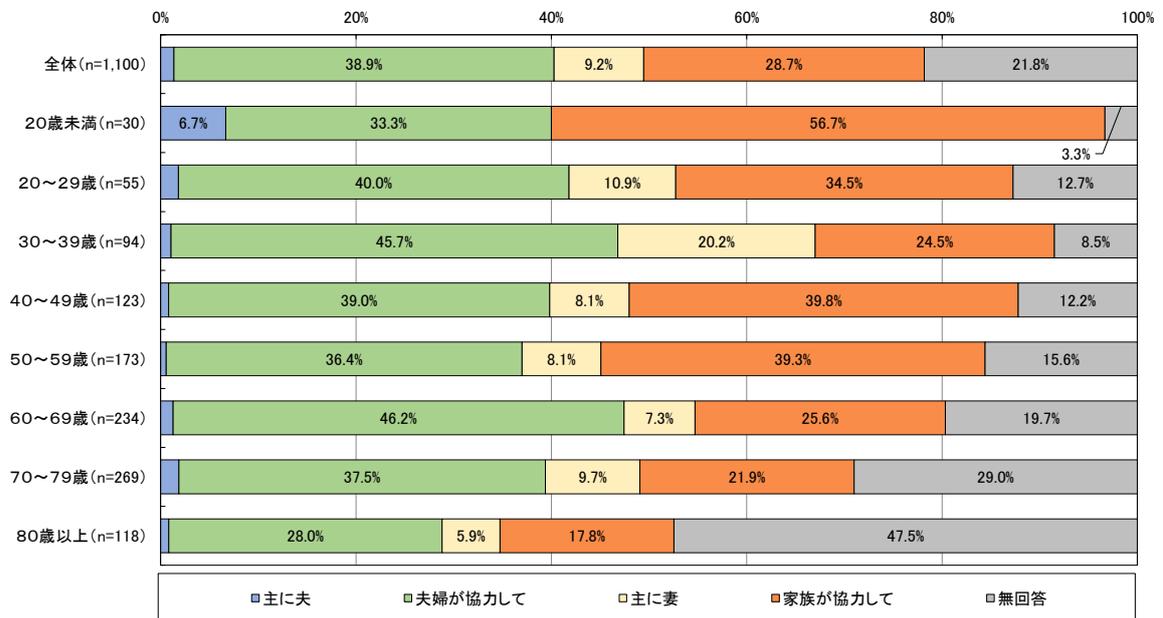
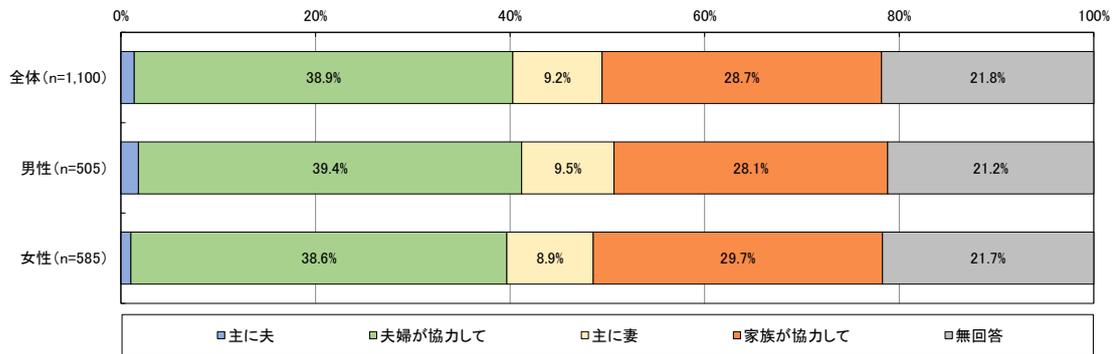
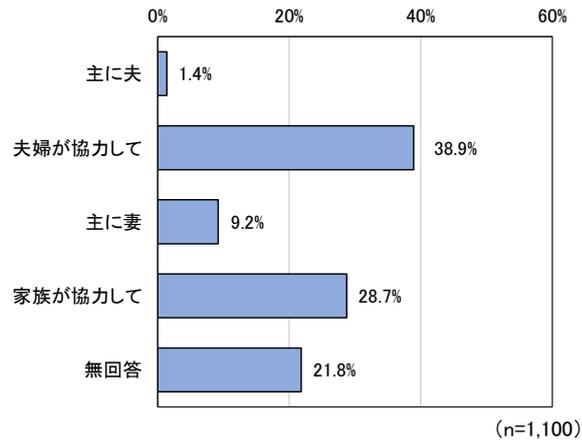
【掃除】

現状では、「主に妻」が55.0%と最も多く、次いで「夫婦が協力して」が21.9%となっています。理想では、「夫婦が協力して」が38.9%と最も多く、次いで「家族が協力して」が28.7%となっています。

【現状】



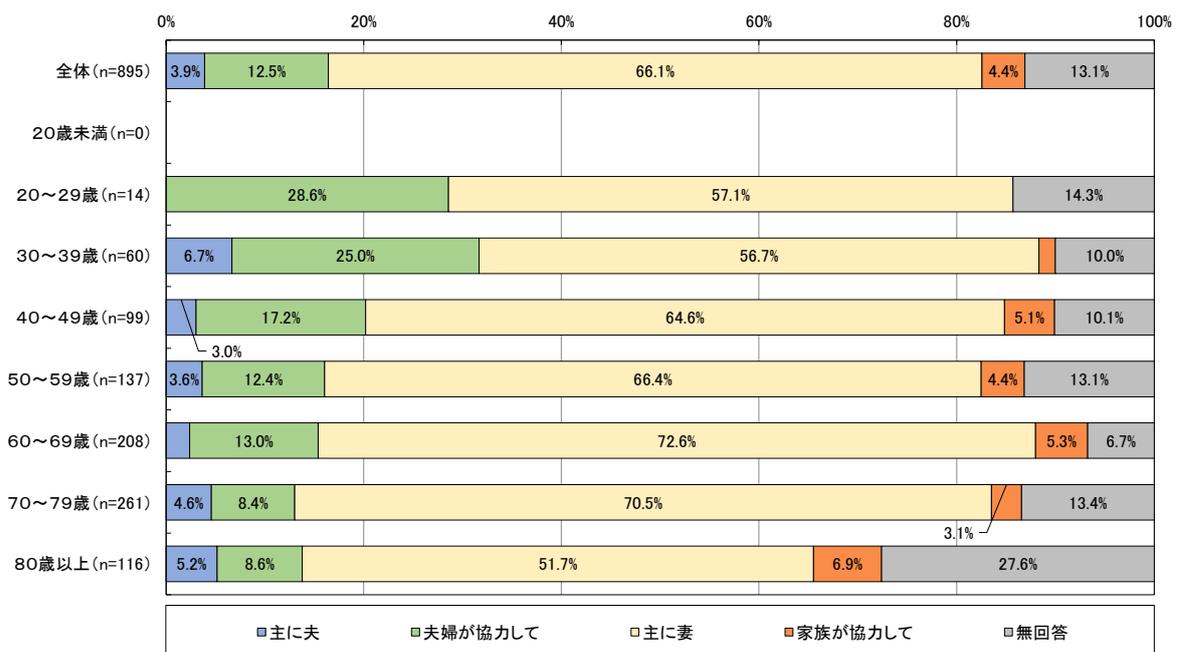
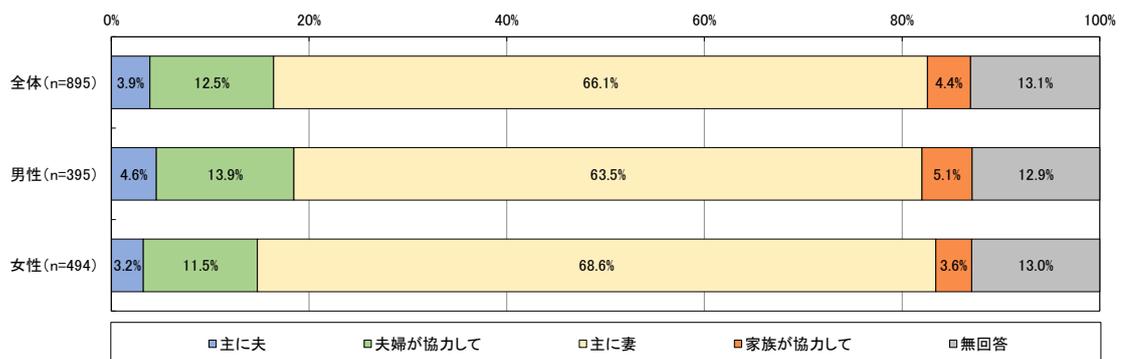
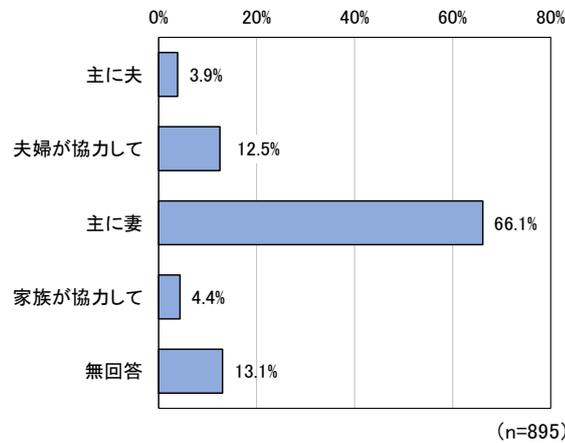
【理想】



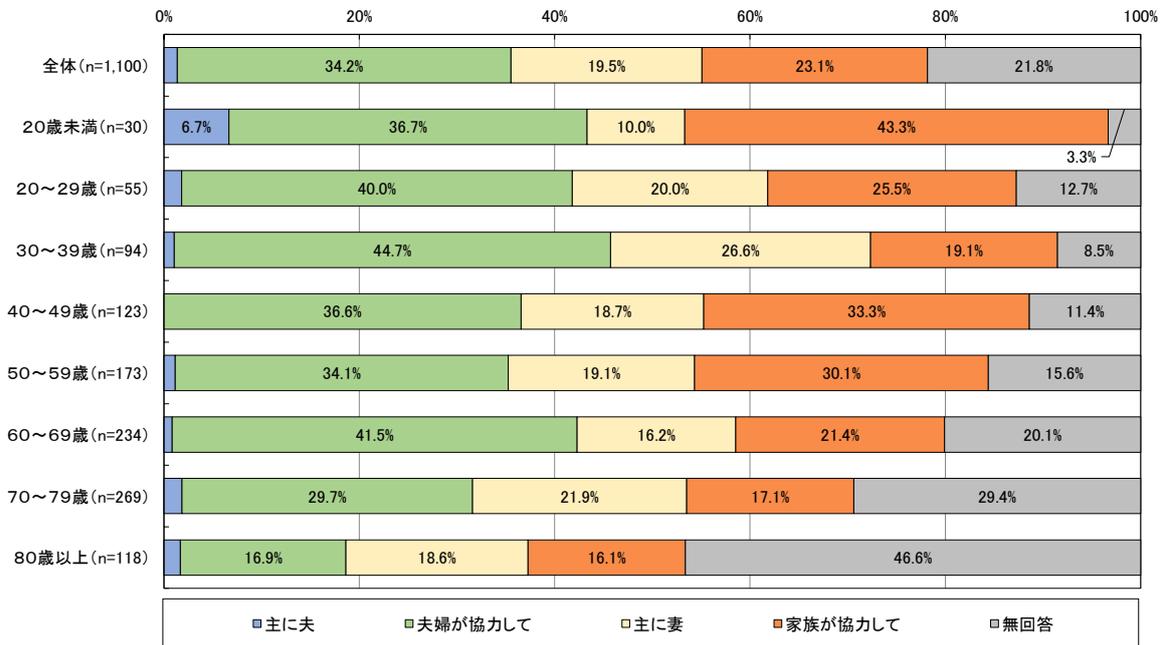
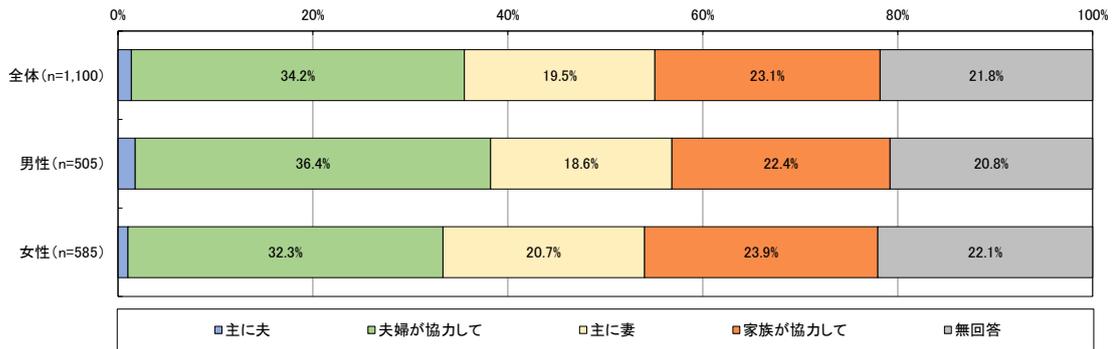
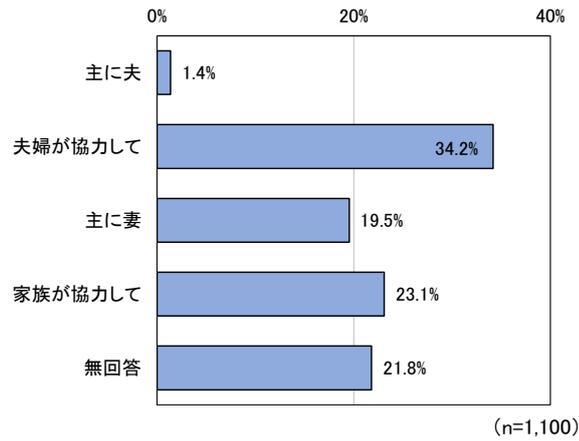
【洗濯】

現状では、「主に妻」が66.1%と最も多く、次いで「夫婦が協力して」が12.5%となっています。理想では、「夫婦が協力して」が34.2%と最も多く、次いで「家族が協力して」が23.1%となっています。

【現状】



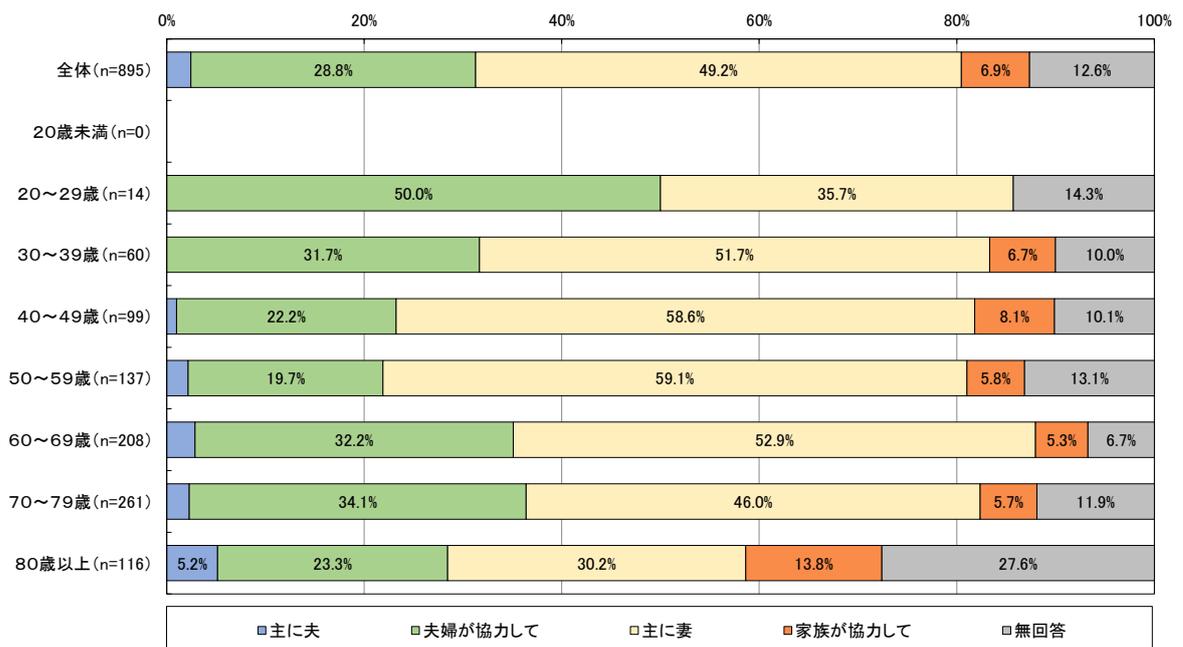
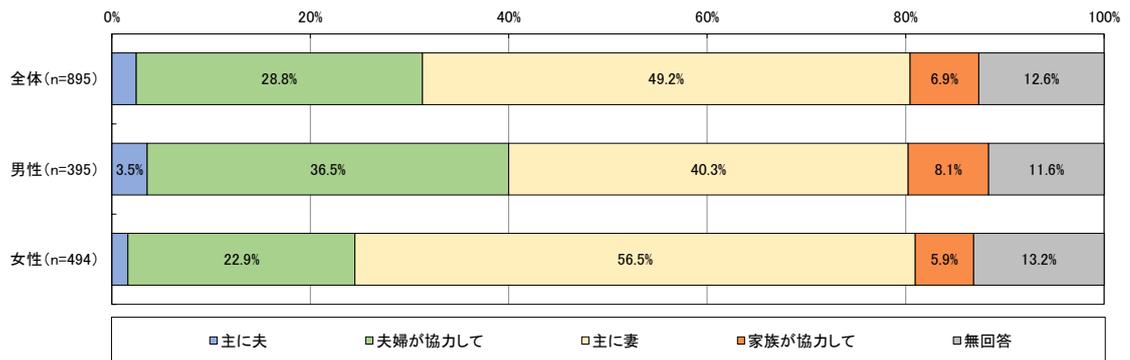
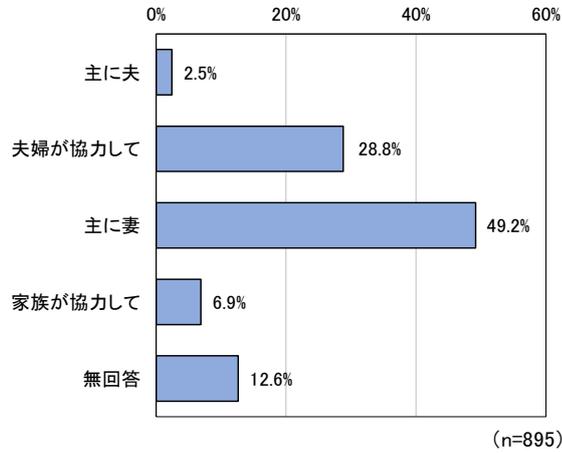
【理想】



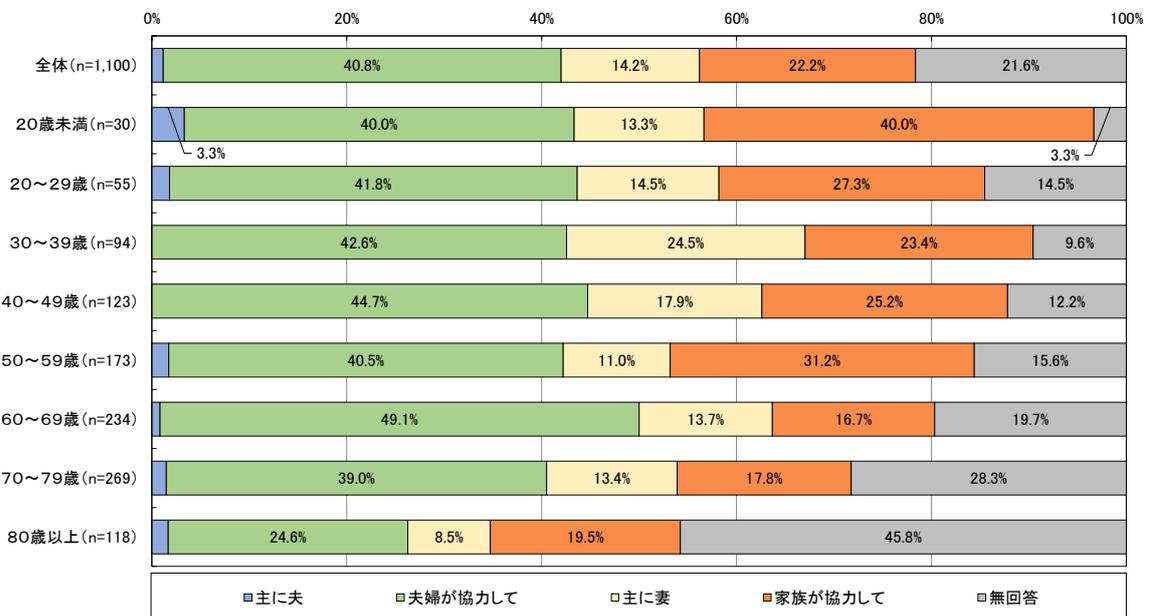
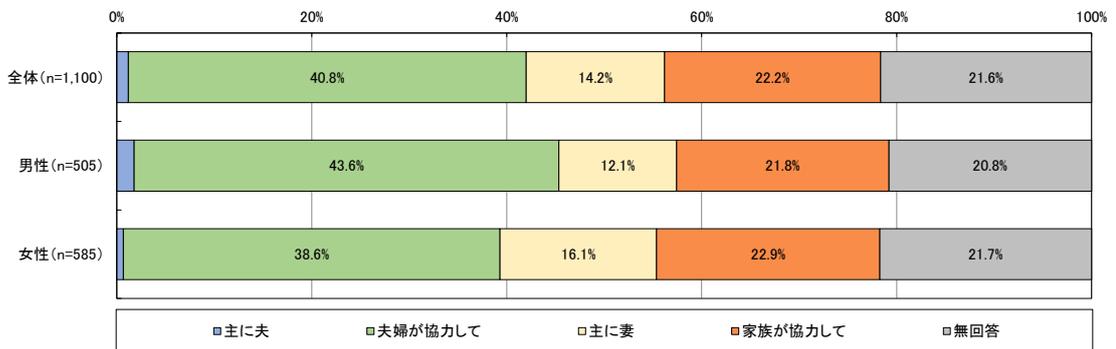
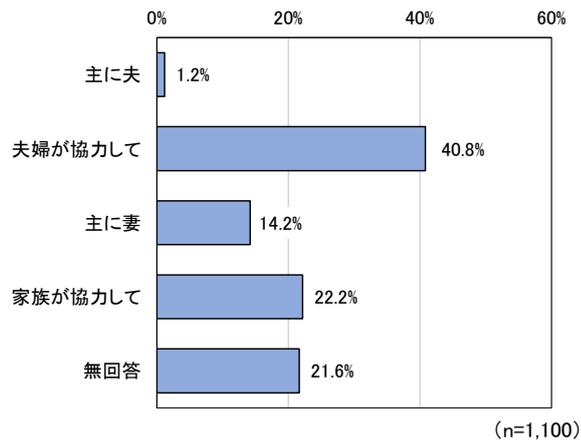
【日常の買い物】

現状では、「主に妻」が49.2%と最も多く、次いで「夫婦が協力して」が28.8%となっています。理想では、「夫婦が協力して」が40.8%と最も多く、次いで「家族が協力して」が22.2%となっています。

【現状】



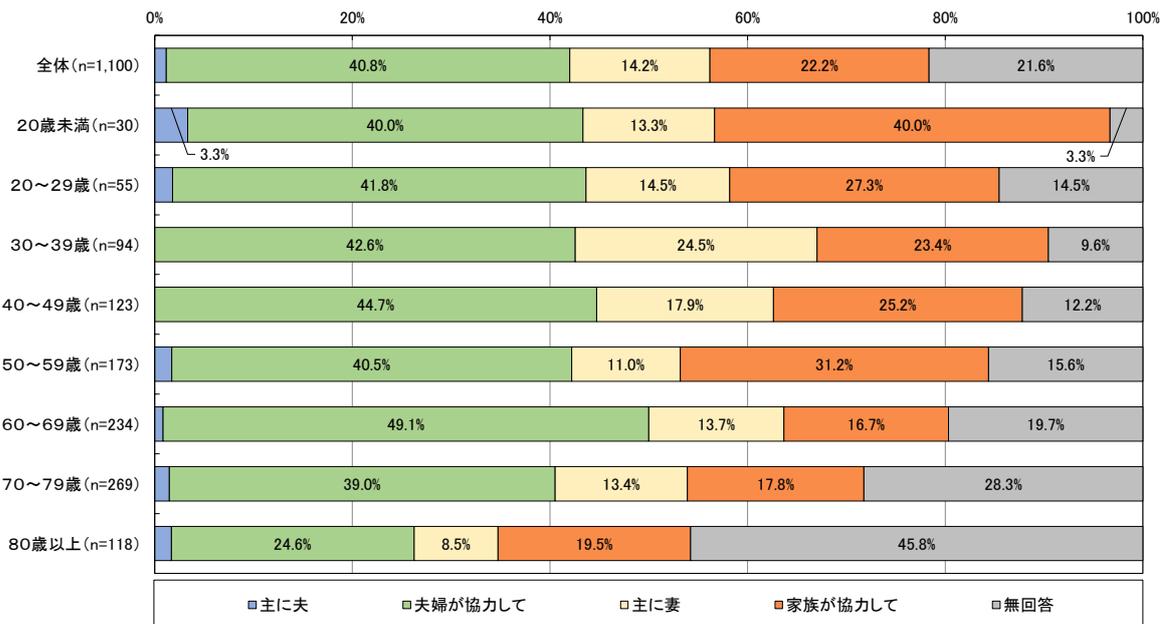
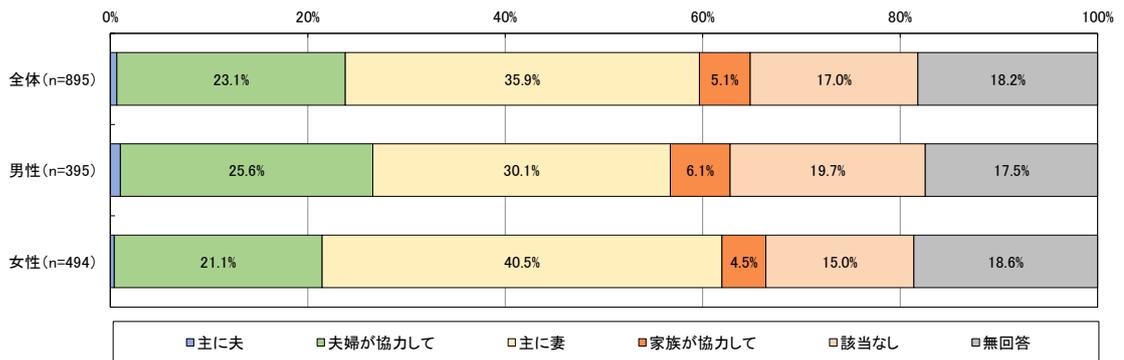
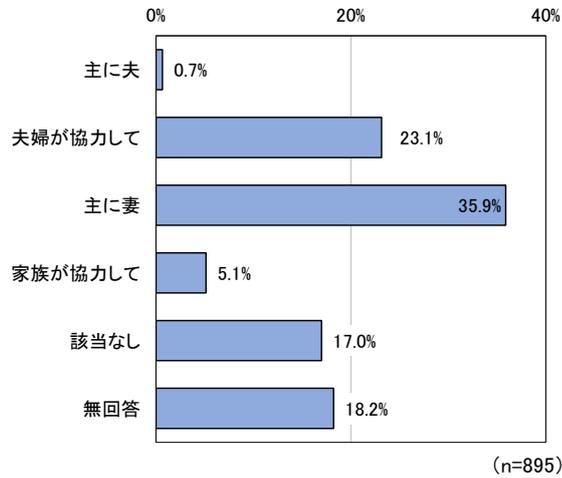
【理想】



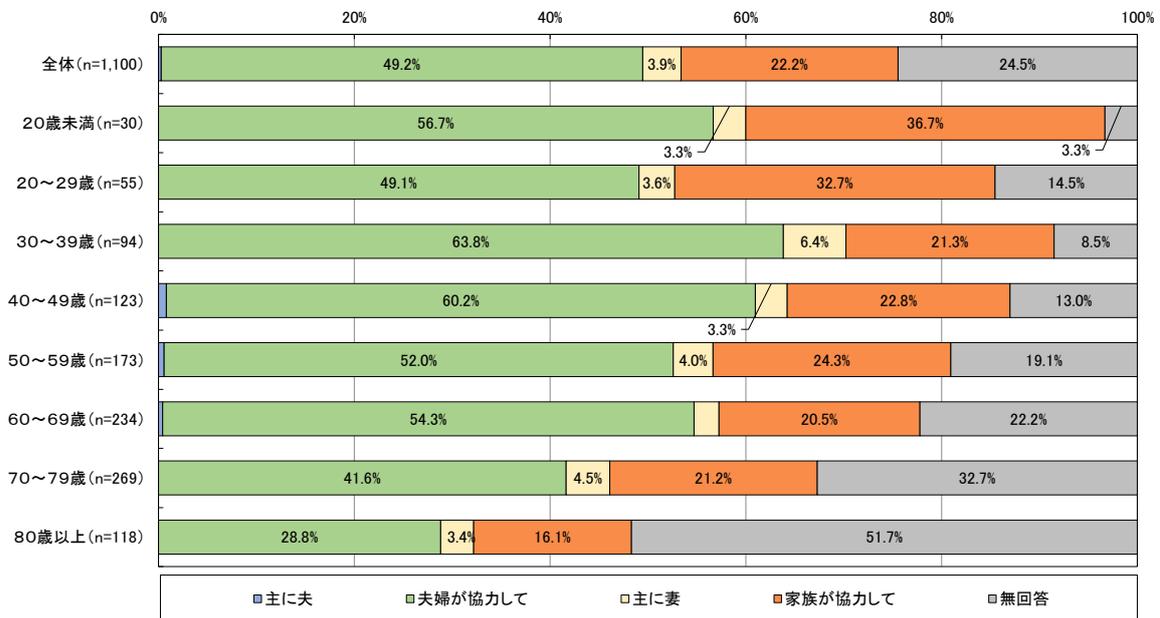
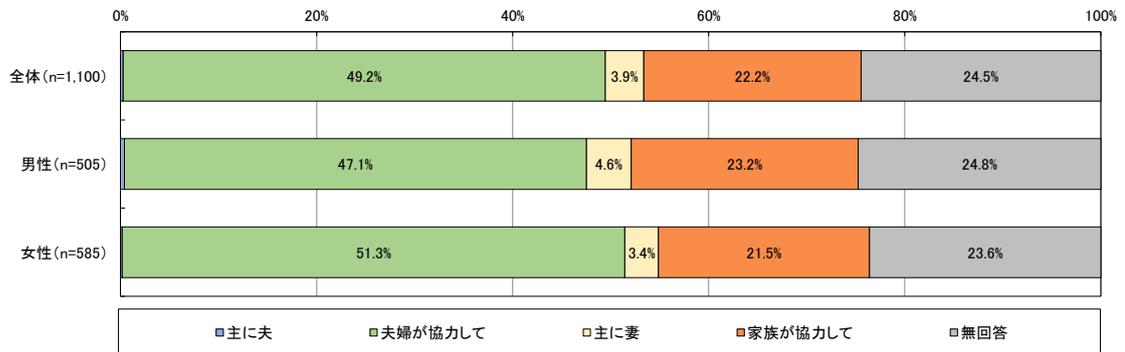
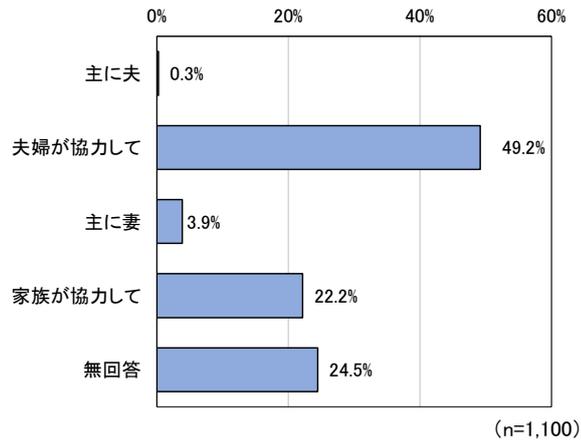
【子どもの世話・教育】

現状では、「主に妻」が35.9%と最も多く、次いで「夫婦が協力して」が23.1%となっています。理想では、「夫婦が協力して」が49.2%と最も多く、次いで「家族が協力して」が22.2%となっています。

【現状】



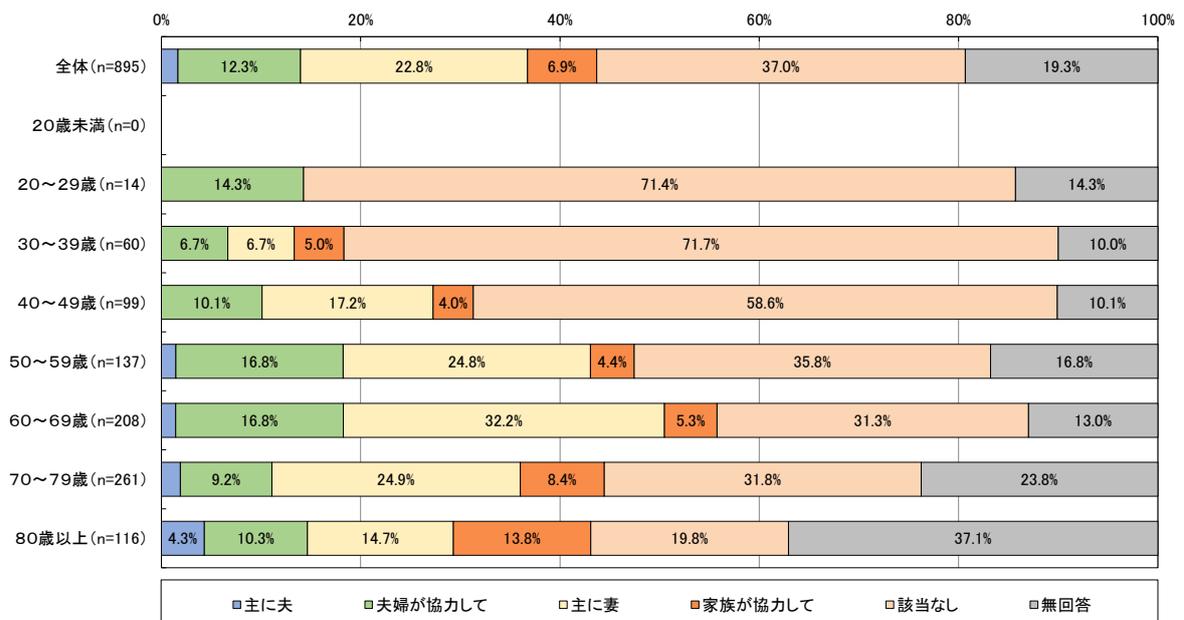
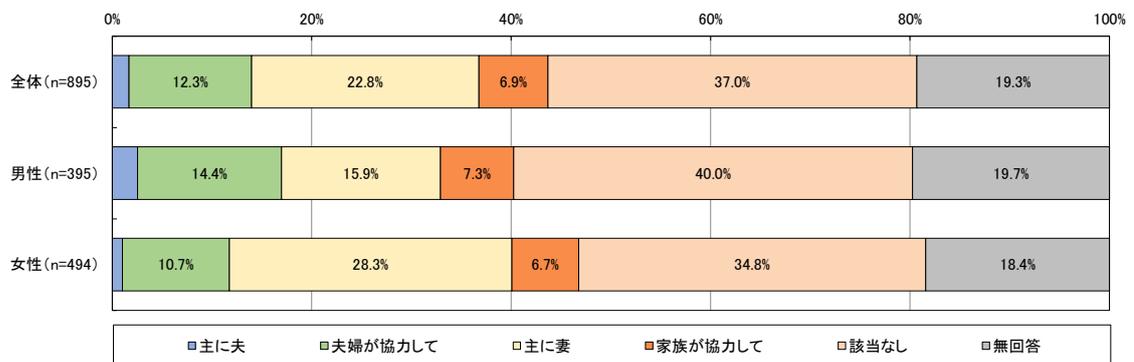
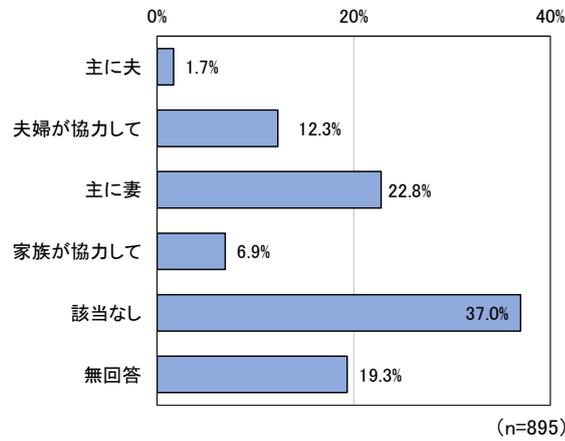
【理想】



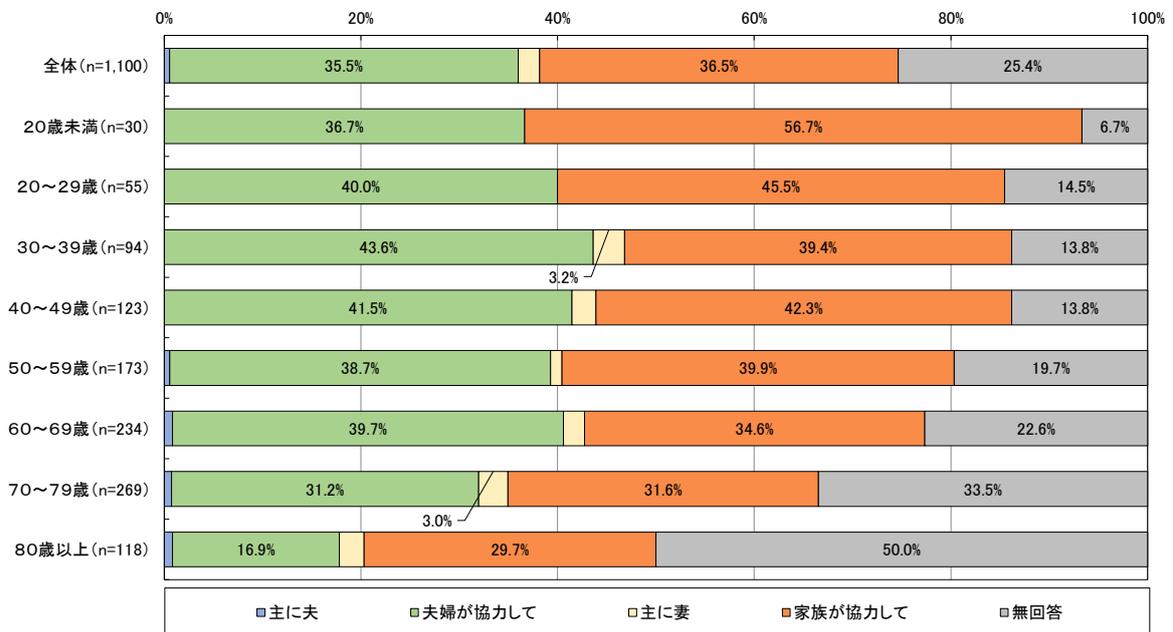
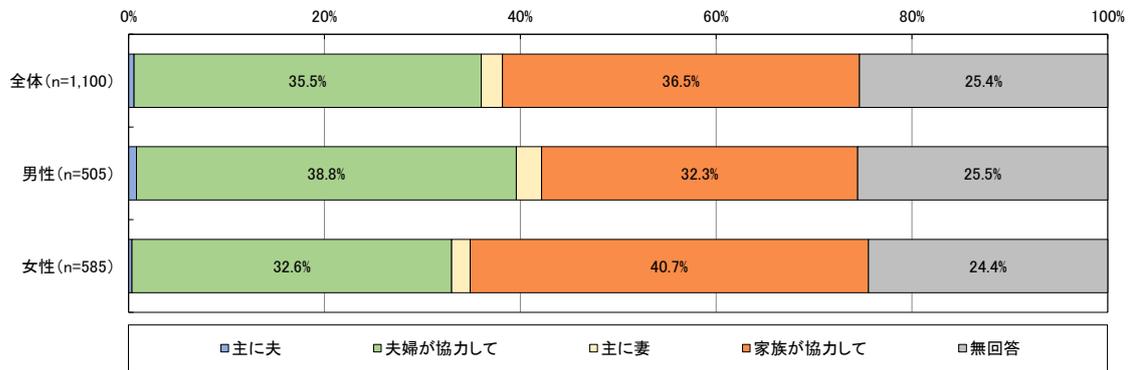
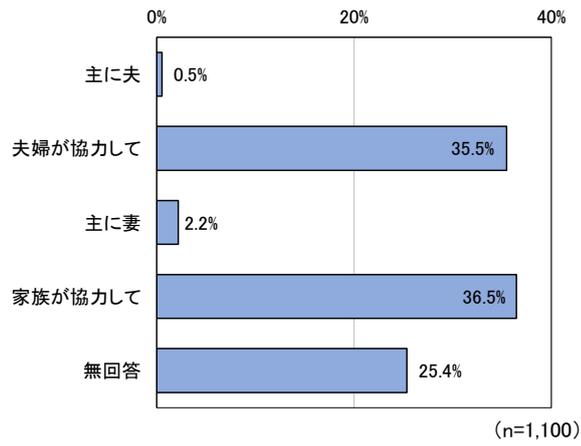
【家族の介護】

現状では、「主に妻」が22.8%と最も多く、次いで「夫婦が協力して」が12.3%となっています。理想では、「家族が協力して」が36.5%と最も多く、次いで「夫婦が協力して」が35.5%となっています。

【現状】



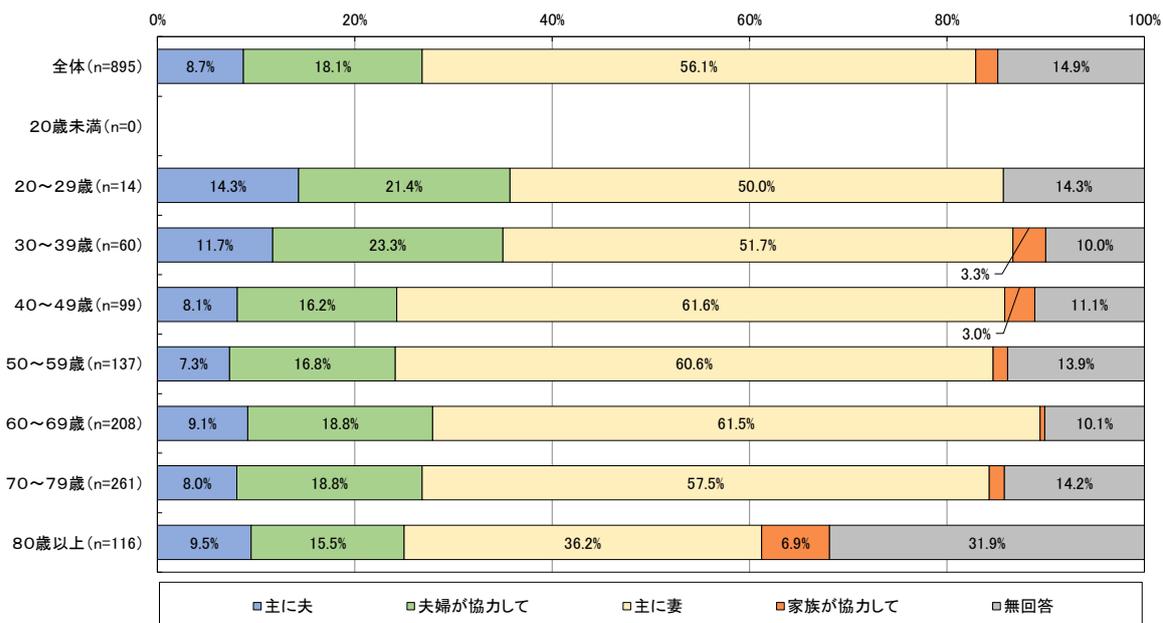
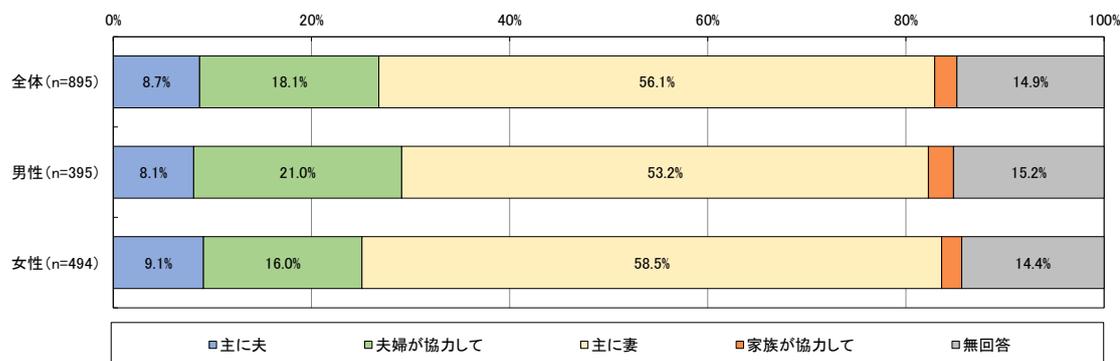
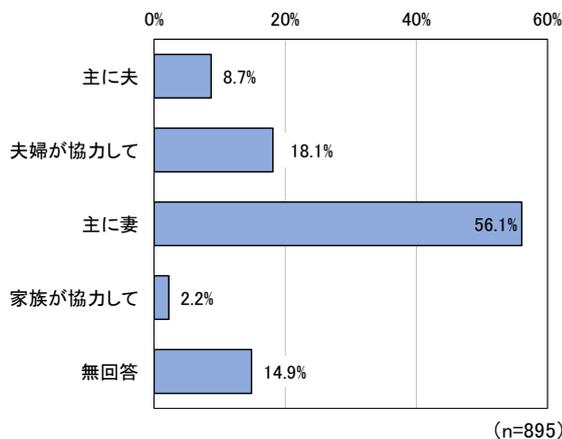
【理想】



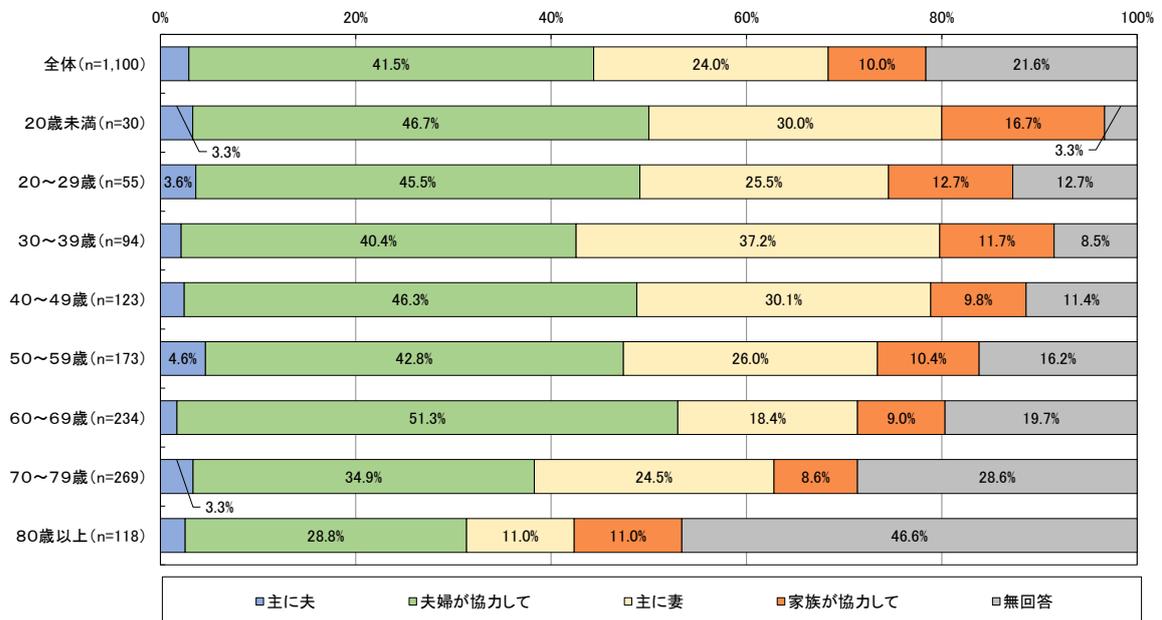
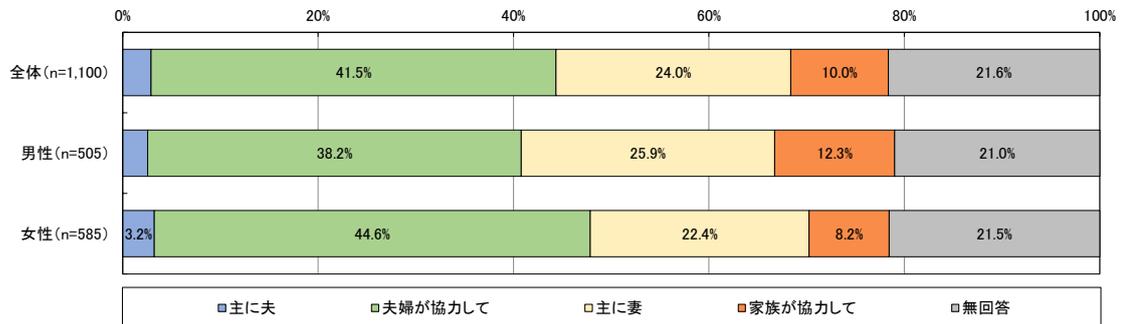
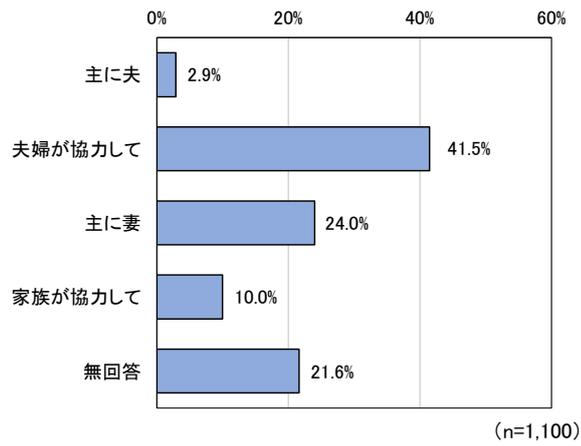
【家計の管理】

現状では、「主に妻」が56.1%と最も多く、次いで「夫婦が協力して」が18.1%となっています。理想では、「家族が協力して」が41.5%と最も多く、次いで「主に妻」が24.0%となっています。

【現状】

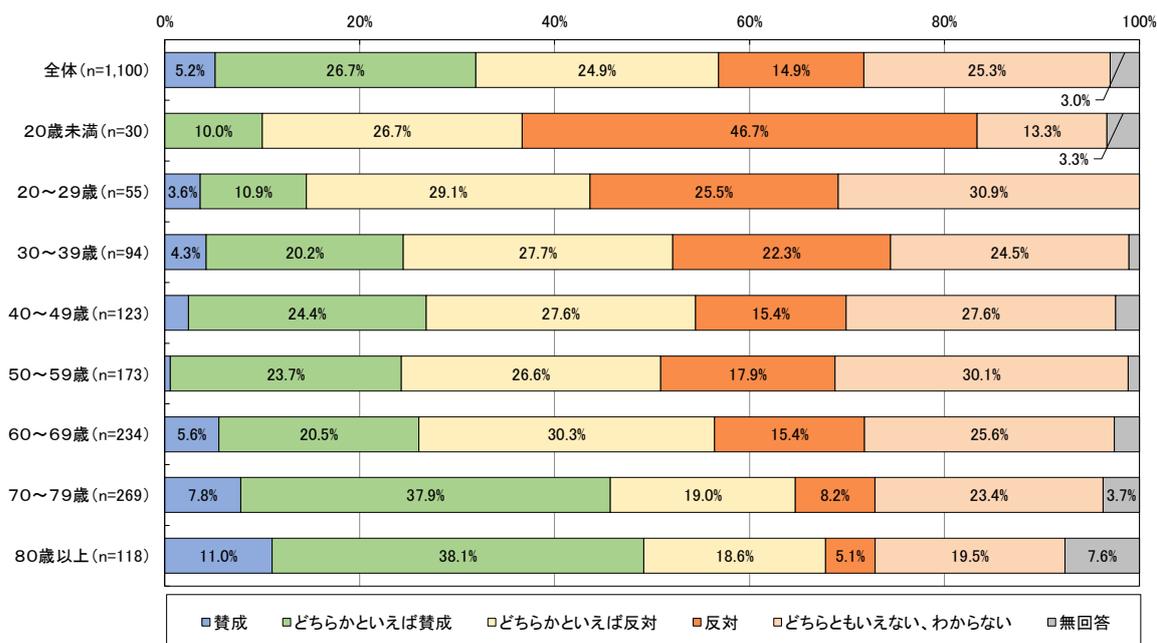
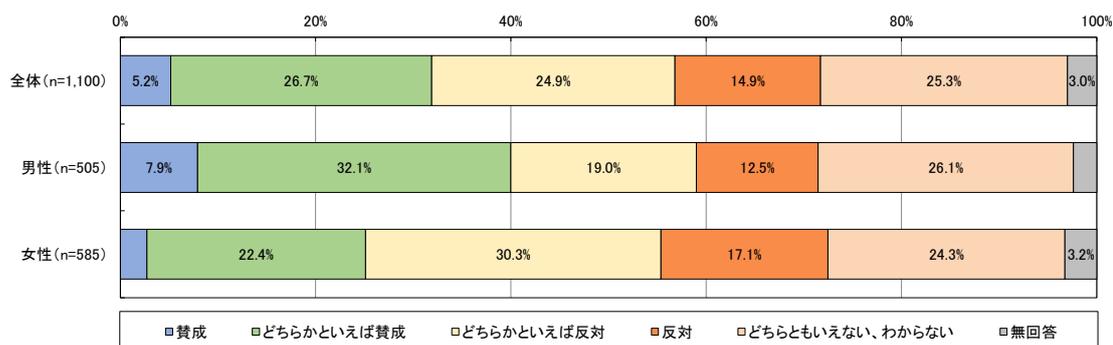
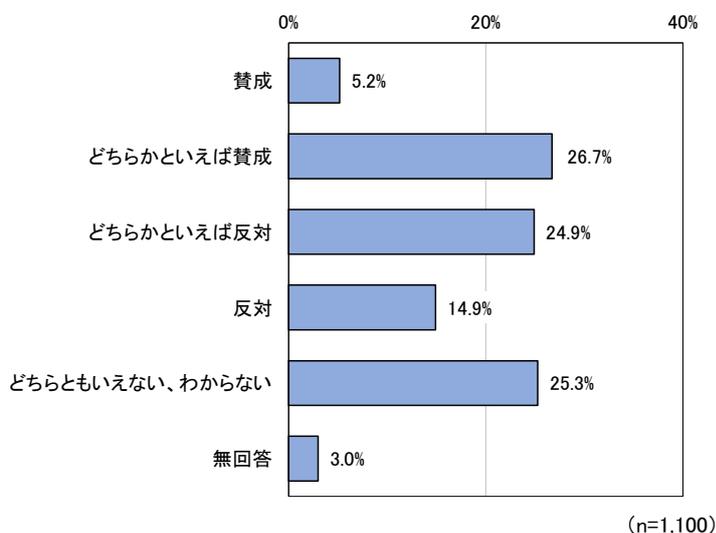


【理想】



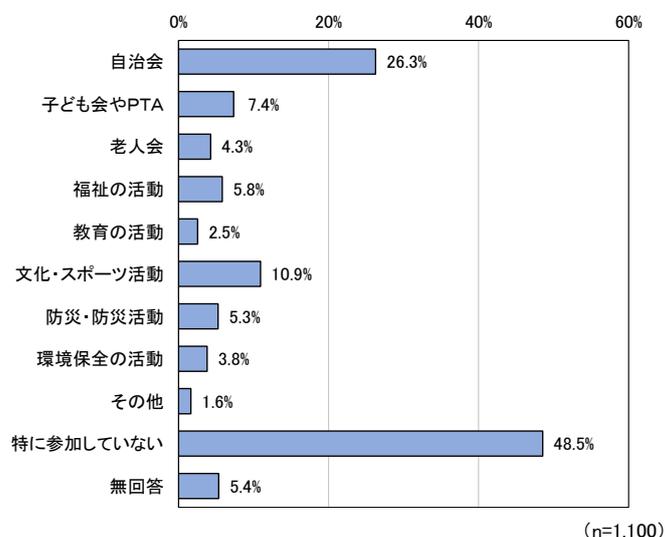
問16 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、あなたの考えに一番近いものは次のうちどれですか。(〇は1つ)

「どちらかといえば賛成」が26.7%と最も多く、次いで「どちらともいえない、わからない」が25.3%、「どちらかといえば反対」が24.9%となっています。



問17 地域活動や社会活動について、あなたが参加しているものは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

「特に参加していない」が48.5%と最も多く、次いで「自治会」が26.3%、「文化・スポーツ活動」が10.9%となっています。



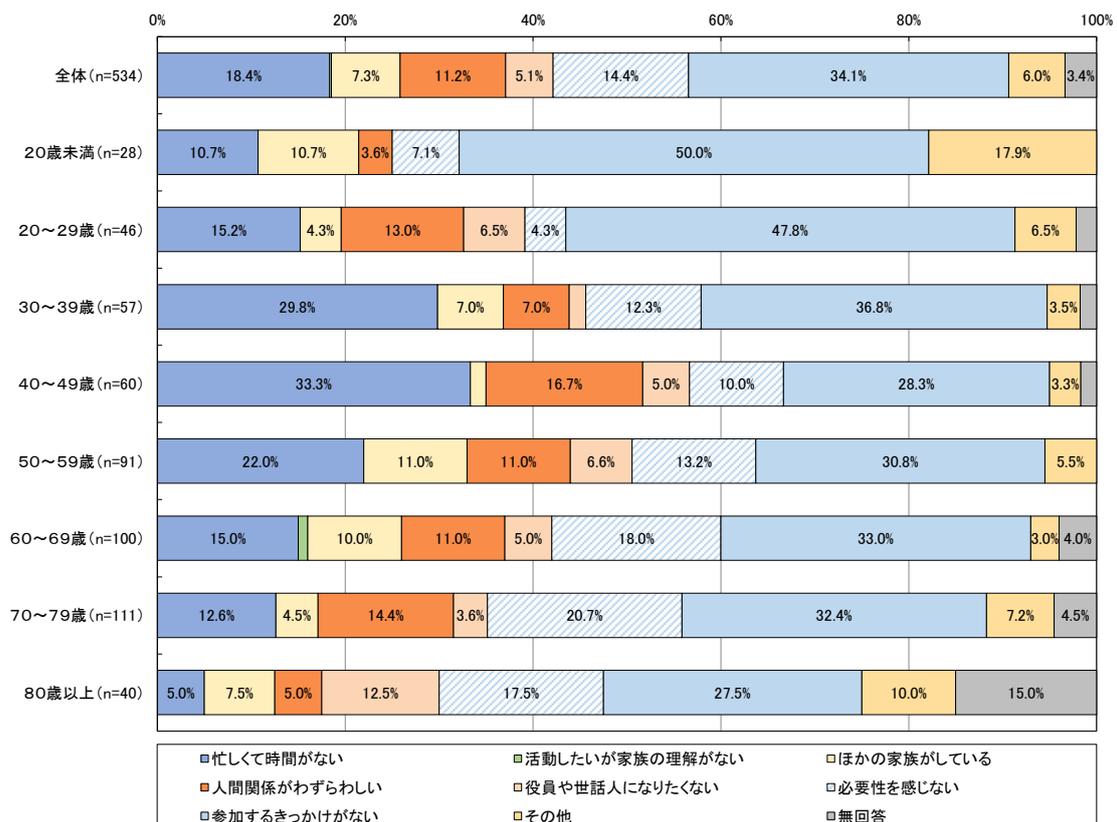
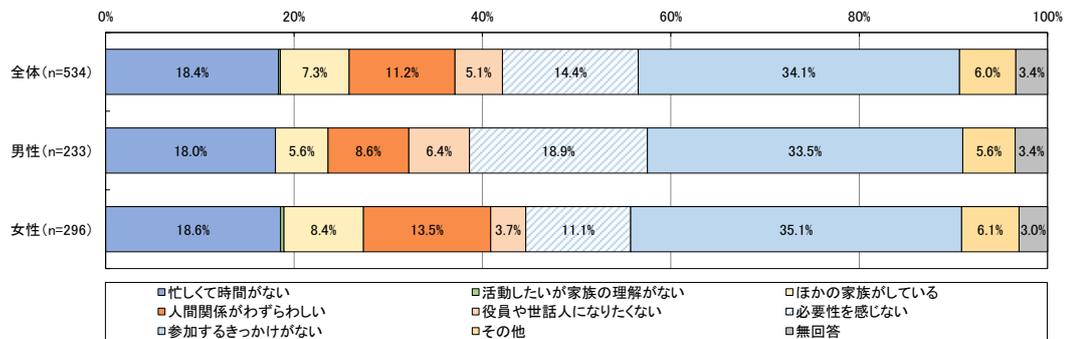
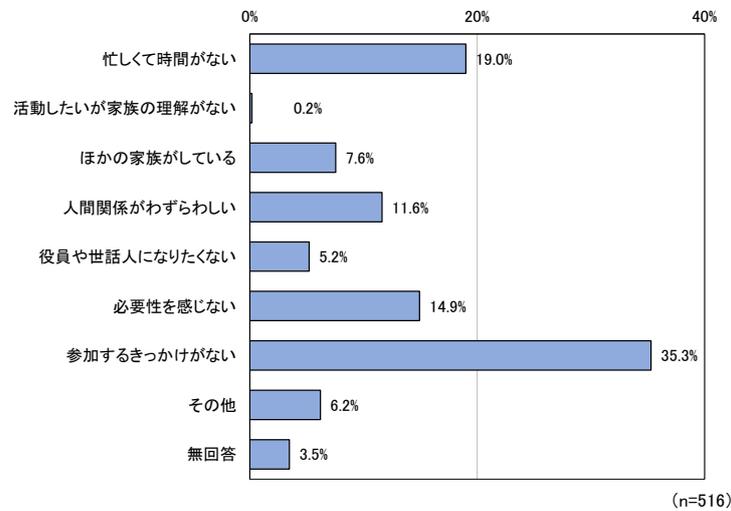
		自治会	子ども会やPTA	老人会	福祉の活動	教育の活動	文化・スポーツ活動	防災・防災活動	環境保全の活動	その他	特に参加していない	無回答
【性別】	全体(n=1,100)	26.3%	7.4%	4.3%	5.8%	2.5%	10.9%	5.3%	3.8%	1.6%	48.5%	5.4%
	男性(n=505)	32.7%	4.8%	4.2%	4.8%	2.6%	9.3%	9.7%	6.9%	2.0%	46.1%	4.0%
	女性(n=585)	21.0%	9.6%	4.4%	6.8%	2.6%	12.3%	1.4%	1.2%	1.2%	50.6%	6.3%
	無回答(n=9)	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%	44.4%	22.2%
【年齢別】	全体(n=1,100)	26.3%	7.4%	4.3%	5.8%	2.5%	10.9%	5.3%	3.8%	1.6%	48.5%	5.4%
	20歳未満(n=30)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	93.3%	3.3%
	20～29歳(n=55)	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	3.6%	1.8%	0.0%	83.6%	1.8%
	30～39歳(n=94)	13.8%	12.8%	0.0%	1.1%	1.1%	6.4%	4.3%	4.3%	1.1%	60.6%	3.2%
	40～49歳(n=123)	18.7%	25.2%	0.0%	0.8%	4.9%	8.1%	7.3%	4.9%	0.8%	48.8%	2.4%
	50～59歳(n=173)	29.5%	11.6%	0.0%	4.6%	4.6%	8.7%	4.6%	2.3%	1.2%	52.6%	2.9%
	60～69歳(n=234)	35.9%	3.4%	1.7%	6.0%	2.1%	10.3%	4.7%	4.3%	1.7%	42.7%	5.6%
	70～79歳(n=269)	29.0%	1.9%	7.8%	10.0%	2.2%	19.0%	6.7%	3.7%	2.2%	41.3%	6.3%
	80歳以上(n=118)	30.5%	3.4%	18.6%	11.0%	1.7%	9.3%	5.1%	5.9%	3.4%	33.9%	11.9%
	無回答(n=4)	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%

【その他】

- 蕎麦打ち同好会 (男性、80～89歳)
- 商工会、婦人会 (女性、70～79歳)
- 健康体操 (男性、60～69歳)
- わからない (無回答、80～89歳)
- ボランティア (女性、70～79歳)
- ボランティア活動 (聖書教育) (男性、50～59歳)
- 労働組合活動 (男性、30～39歳)
- 過去経験したが人間関係が難しい (女性、70～79歳)
- 地域活動は卒業 (男性、70～79歳)
- おもちゃ作りボランティア (男性、70～79歳)
- 図書館のボランティア (男性、60～69歳)

**問18 【問17で「10. 特に参加していない」と答えた方にうかがいます】その主な理由は何ですか。
(〇は1つ)**

「参加するきっかけがない」が35.3%と最も多く、次いで「忙しくて時間がない」が19.0%、「必要性を感じない」が14.9%となっています。

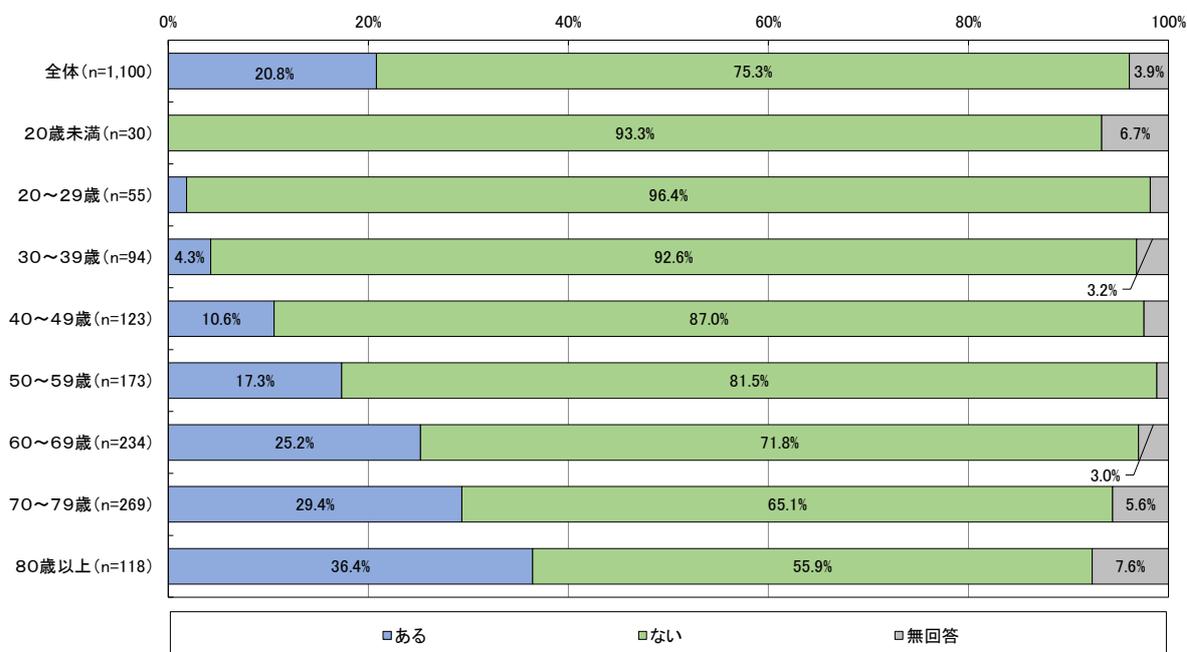
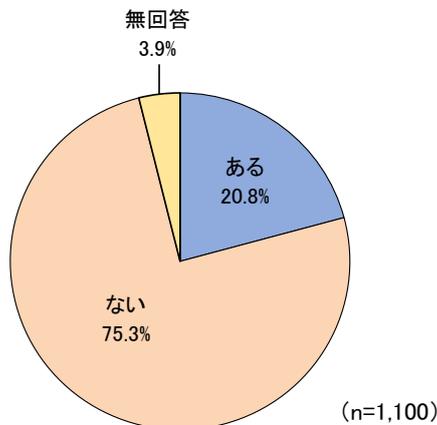


【その他】

- 精神的余裕がない。(女性、30～39歳)
- コロナ感染が怖くて全て辞めた(女性、70～79歳)
- コロナのため、スポーツ活動を自粛中。しかし体力が…(男性、50～59歳)
- 田舎者の思考…ナンセンス(男性、60～69歳)
- 年のため(男性、90歳以上)
- スポーツ活動？自分でウォーキングしている。(1時間～1時間半)自治会は輪番制で実施しているので、順番が回って来た時には参加(無回答、70～79歳)
- 他の地域に住んでいるため(男性、20～29歳)
- まず問17のような事が無いので(地域で)(女性、30～39歳)
- 当時の常会長が親身に接してくれなかった為脱会した(男性、50～59歳)
- 体調不良・病気のため(女性、50～59歳)(女性、60～69歳)(女性、70～79歳)2件(女性、80～89歳)
- 足のけがにより自分の事のみが現状です(女性、70～79歳)
- 車がないと移動が困難なため、免許取得していない(女性、70～79歳)
- 必要とされていない(男性、50～59歳)
- 子供が小さい頃さんざん参加してきたから(女性、40～49歳)
- 学生のため(女性、20歳未満)2件(女性、20～29歳)
- 学生のため(男性、20歳未満)
- 高校生で日立に通学しているから。(男性、20歳未満)
- 学校、部活がある為(女性、20歳未満)
- まだ子供が小さい為。(女性、20～29歳)
- 介護(男性、60～69歳)(男性、70～79歳)2件
- 「集団」と能動性の両立をさせることが難しいと感じる(現時点では)(女性、50～59歳)

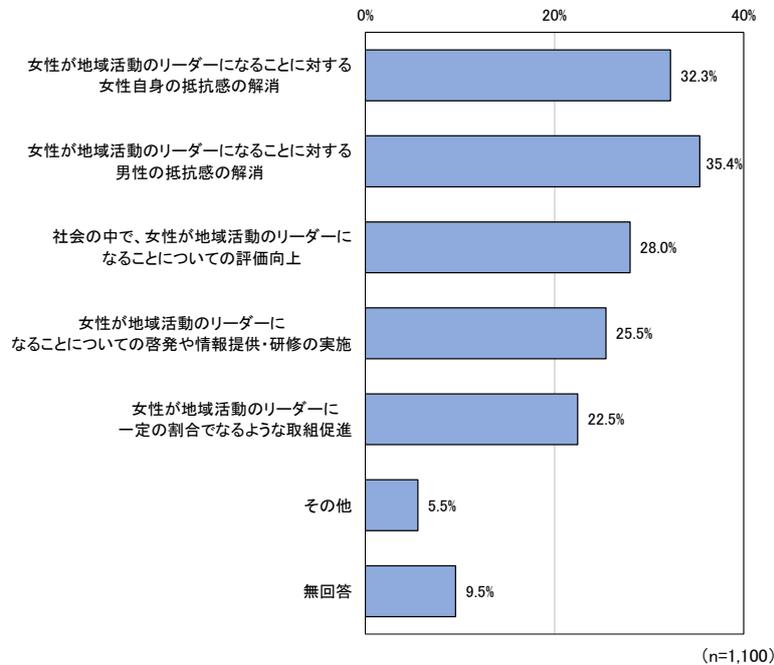
問19 あなたは、町内会やボランティア、NPOなどの地域活動のリーダーになったことはありますか。(〇は1つ)

「ない」が75.3%と最も多く、次いで「ある」が20.8%となっています。



問20 あなたは、町内会やボランティア、NPOなどで女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感の解消」が35.4%と最も多く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感の解消」が32.3%、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについての評価向上」が28.0%となっています。



		女性自身の抵抗感の解消	男性の抵抗感の解消	社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについての評価向上	啓発や情報提供・研修の実施	女性が地域活動のリーダーになる一定の割合でなるような取組促進	その他	無回答
【性別】	全体(n=1,100)	32.3%	35.4%	28.0%	25.5%	22.5%	5.5%	9.5%
	男性(n=505)	34.7%	37.8%	28.7%	23.4%	26.5%	6.5%	7.7%
	女性(n=585)	30.1%	33.3%	27.9%	27.7%	18.8%	4.4%	10.9%
	無回答(n=9)	44.4%	33.3%	0.0%	0.0%	22.2%	22.2%	22.2%
【年齢別】	全体(n=1,100)	32.3%	35.4%	28.0%	25.5%	22.5%	5.5%	9.5%
	20歳未満(n=30)	33.3%	43.3%	13.3%	30.0%	30.0%	3.3%	3.3%
	20～29歳(n=55)	40.0%	52.7%	27.3%	12.7%	12.7%	12.7%	3.6%
	30～39歳(n=94)	47.9%	41.5%	25.5%	14.9%	27.7%	10.6%	2.1%
	40～49歳(n=123)	34.1%	37.4%	30.1%	18.7%	23.6%	9.8%	7.3%
	50～59歳(n=173)	35.3%	42.8%	32.4%	22.0%	24.3%	5.2%	4.6%
	60～69歳(n=234)	30.3%	35.0%	33.3%	32.1%	20.5%	4.7%	7.3%
	70～79歳(n=269)	26.8%	27.5%	25.7%	30.1%	23.0%	2.2%	13.4%
	80歳以上(n=118)	25.4%	26.3%	21.2%	27.1%	20.3%	4.2%	23.7%
	無回答(n=4)	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%

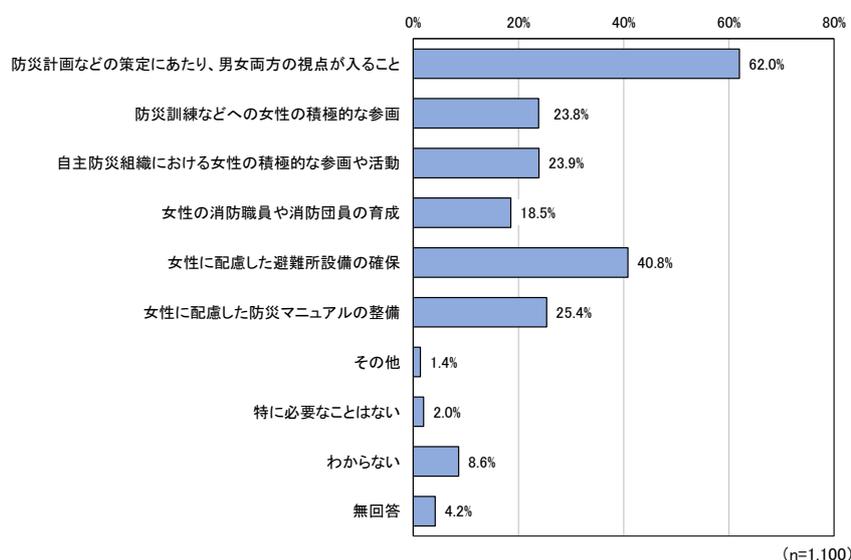
【その他】

- 人力、人間力、信頼信用（女性、70～79 歳）
- 男性においても、女性においても、家庭・地域・仕事のバランスがとれるよう、それぞれの場における理解が必要。（女性、20～29 歳）
- 男女関係なくなるべき人が、なるという考え方の促進。（女性、20～29 歳）
- 女性が自分の時間を自由に活用できる環境（女性、30～39 歳）
- 別になれば良いと思う（なりたければ）（男性、40～49 歳）
- 女性の「なりたい」という意識の向上（男性、50～59 歳）
- やりたいと思う方がやるべき（男性、50～59 歳）
- やる気があれば男性でも女性でもどちらでも構わない（男性、30～39 歳）
- やる気（女性、30～39 歳）
- 家族（夫）の協力が必要（女性、60～69 歳）
- 「女性が」ではなく性別は関係なく適任者になるべき（女性、50～59 歳）
- 女性リーダーに何も違和感なし（男性、60～69 歳）
- 必要ない（男性、60～69 歳）
- 現状でリーダーをされている方もおり、特に必要なし（男性、50～59 歳）
- 家族の協力（女性、60～69 歳）
- 男女どちらがリーダーでも特に何が変わるのかよくわからない。（女性、40～49 歳）
- 能力があれば OK では？女性だからといって選ぶのはバカげている！（男性、50～59 歳）
- 老人を廃し、若い主婦をリーダーに（男性、60～69 歳）
- 考えたこともない（女性、40～49 歳）
- そもそもリーダーって何ですか？女性がリーダーって決める事がダメだと思います。（女性、60～69 歳）
- 特に女性がリーダーになってないようには感じない（女性、40～49 歳）
- 女性個人のリーダーシップの発揮（男性、20～29 歳）
- リーダーになるべき人が成り結果男性又女性と言う事（男性、70～79 歳）
- 最後までリーダーを続けること。（男性、50～59 歳）
- 別に考えている訳では、番が巡ってくるとやる。（女性、80～89 歳）
- 男女の問題というより、個人の資質だと思う。（女性、60～69 歳）
- この質問の意味、必要性がわからない。（男性、30～39 歳）
- リーダーになりたいという強い意志（男性、40～49 歳）
- 女性がやりたい！とは思わない。私自身リーダーになりたいと思いません（女性、30～39 歳）
- 性差に限らず資質の問題（男性、40～49 歳）
- 資質（男性、60～69 歳）
- 人柄（男性、30～39 歳）
- 女性がリーダーになる必要がなく、女性が参加しやすいようにするべき。（女性、40～49 歳）
- 実力（男性、20～29 歳）
- インセンティブとして現金給付（男性、30～39 歳）
- まず活動に参加したいと思わせること（女性、40～49 歳）
- わからない（男性、50～59 歳） 2 件（男性、80～89 歳）（男性、90 歳以上）

- わからない (女性、40～49 歳) (女性、60～69 歳)
- 機会の平等 (男性、50～59 歳)
- そもそも自分からなりたがる人がいない (男性、30～39 歳)
- 理想や信念があって行動する人は男女共に性別は関係無いと思う (男性、30～39 歳)
- 性別に関係なく能力や責任感などから考えてリーダーを選出することを一般とすること。(男性、20～29 歳)
- 行動で示すことのできる力 (男性、20 歳未満)
- 女性でも男性でもやりたい人がやればよいと思う。(女性、20～29 歳)

問21 防災（災害復興も含みます）活動に関して、男女共同参画を推進していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は特に必要だと思うもの3つまで）

「防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること」が 62.0%と最も多く、次いで「女性に配慮した避難所設備の確保」が 40.8%、「女性に配慮した防災マニュアルの整備」が 25.4%となっています。



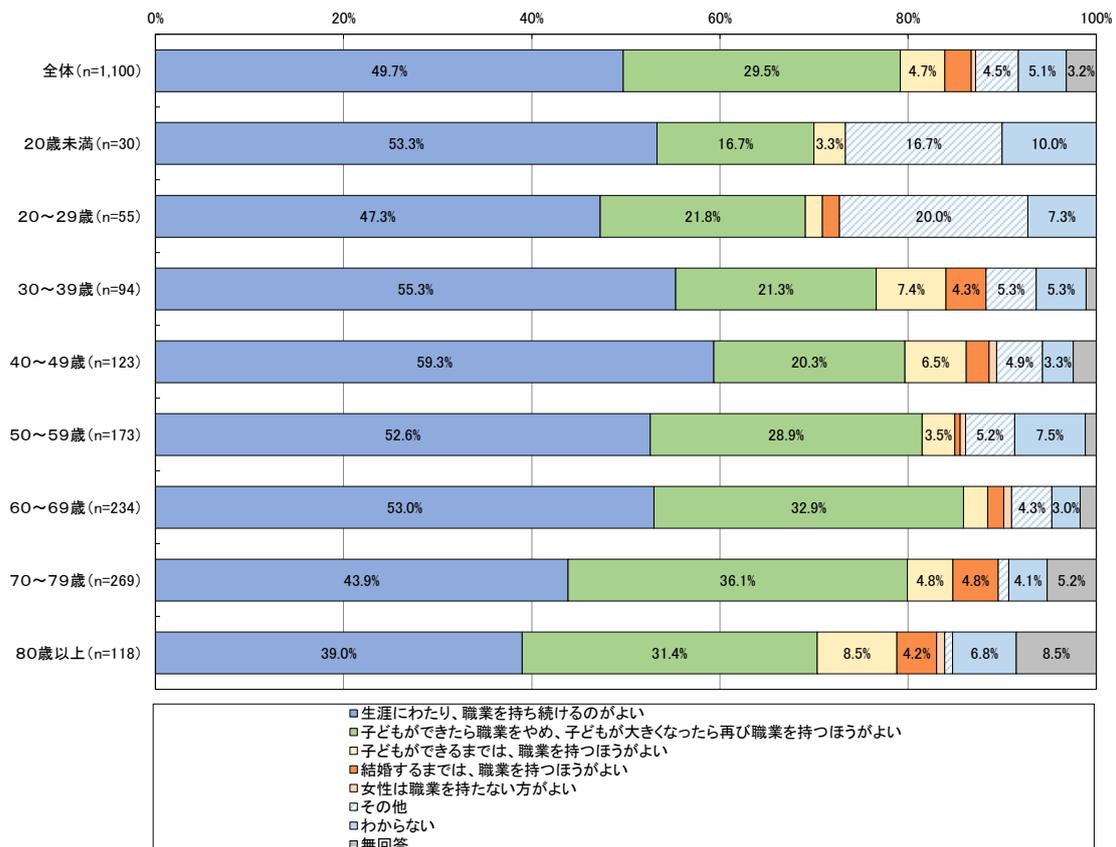
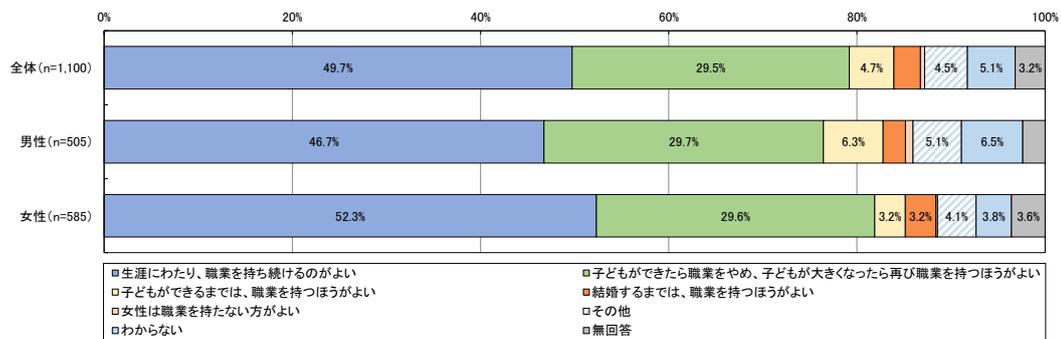
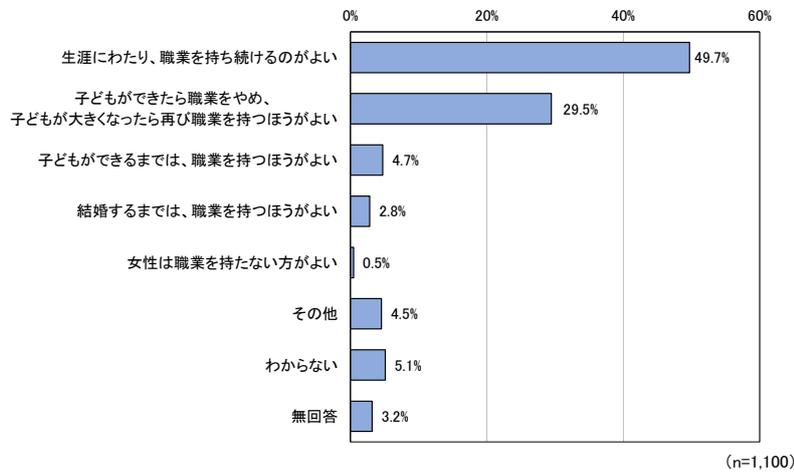
		防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること	防災訓練などへの女性の積極的な参画	自主防災組織における女性の積極的な参画や活動	女性の消防職員や消防団員の育成	女性に配慮した避難所設備の確保	女性に配慮した防災マニュアルの整備	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
【性別】	全体 (n=1,100)	62.0%	23.8%	23.9%	18.5%	40.8%	25.4%	1.4%	2.0%	8.6%	4.2%
	男性 (n=505)	63.4%	27.3%	29.7%	19.8%	38.0%	23.6%	1.8%	2.2%	7.9%	2.8%
	女性 (n=585)	61.4%	21.0%	19.3%	17.6%	43.6%	27.2%	1.0%	1.9%	8.7%	5.1%
	無回答 (n=9)	33.3%	11.1%	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	44.4%	22.2%
【年齢別】	全体 (n=1,100)	62.0%	23.8%	23.9%	18.5%	40.8%	25.4%	1.4%	2.0%	8.6%	4.2%
	20歳未満 (n=30)	73.3%	16.7%	13.3%	16.7%	46.7%	20.0%	3.3%	0.0%	13.3%	0.0%
	20～29歳 (n=55)	70.9%	9.1%	9.1%	27.3%	58.2%	30.9%	1.8%	1.8%	10.9%	0.0%
	30～39歳 (n=94)	62.8%	18.1%	12.8%	18.1%	44.7%	27.7%	2.1%	3.2%	9.6%	1.1%
	40～49歳 (n=123)	57.7%	22.0%	13.8%	22.8%	44.7%	27.6%	0.8%	4.1%	6.5%	3.3%
	50～59歳 (n=173)	69.4%	21.4%	20.8%	17.3%	42.2%	25.4%	2.9%	2.3%	7.5%	1.7%
	60～69歳 (n=234)	66.7%	26.1%	32.9%	18.8%	41.9%	26.9%	0.9%	1.3%	5.1%	4.3%
	70～79歳 (n=269)	60.6%	27.1%	33.5%	17.1%	38.3%	21.9%	0.7%	1.5%	8.2%	5.2%
	80歳以上 (n=118)	43.2%	31.4%	18.6%	16.1%	26.3%	24.6%	0.8%	0.8%	16.1%	11.0%
無回答 (n=4)	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	

【その他】

- やる気（男性、30～39 歳）
- 「女性に」ではなく市民みんなに配慮していただけると良い（老若男女など）（女性、50～59 歳）
- 優遇するのは×（男性、50～59 歳）
- プロに任す（男性、60～69 歳）
- 人としての行動と町が住みたいところであれば参加すると思います。（女性、60～69 歳）
- 国が主体となって男女共同参画の推進 結局は国が動かないと進まない（男性、20～29 歳）
- 要介護者に対する対応が全く不確かになっていない（女性、80～89 歳）
- 体力的に難しいという問題の対策（男性、50～59 歳）
- 防災に男女共同参画を無理に当てはめると被災時の力仕事等実際に行えないこともあるから、現実に応じた取り組みや視座が必要。（男性、30～39 歳）
- 女性と男性のやることを明確にすることが大事。（誰にもできないことがある？）（男性、70～79 歳）
- 地域、性別に囚われずに、積極性のある人達でできることを行っていく。（男性、20 歳未満）
- 女性にも各人多様なニーズがあり、「言える雰囲気」と共に、自分のできることは自分でひきうける女性たちの自覚 etc が必要だと思います。（女性、50～59 歳）

問22 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたの考えに一番近いものは次のうちどれですか。(〇は1つ)

「生涯にわたり、職業を持ち続けるのがよい」が49.7%と最も多く、次いで「子どもができたから職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が29.5%、「わからない」が5.1%となっています。



【その他】

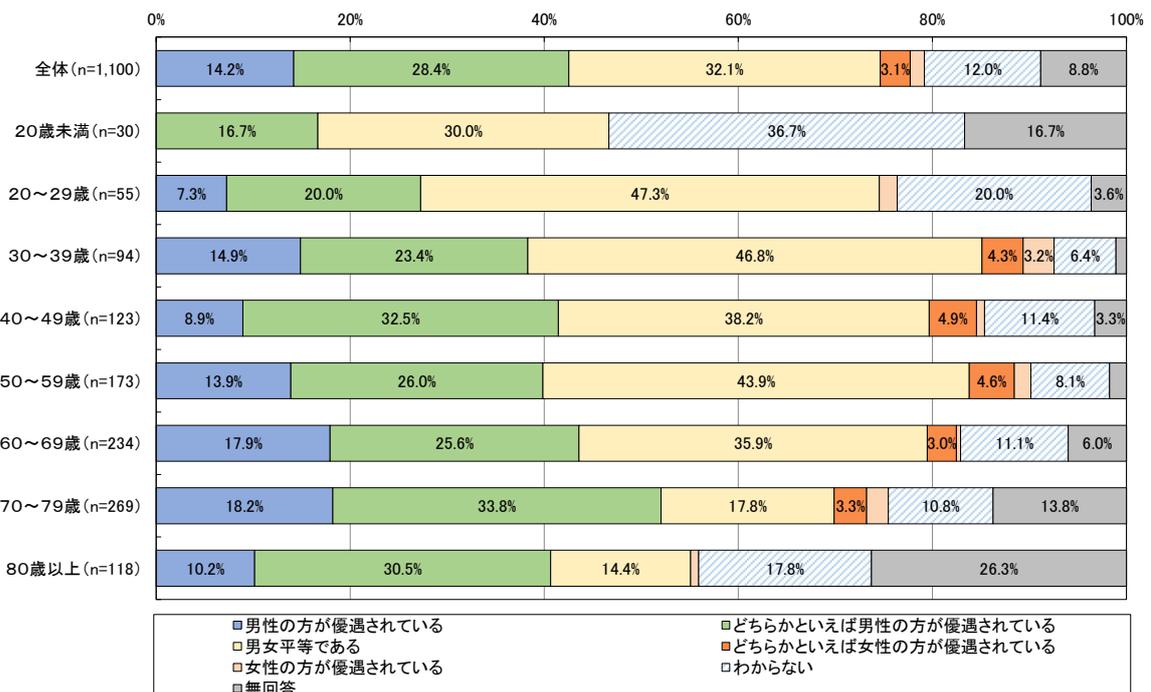
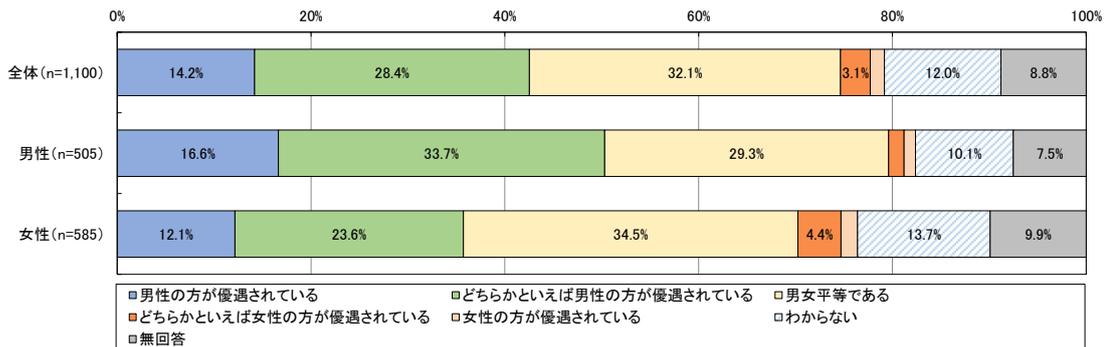
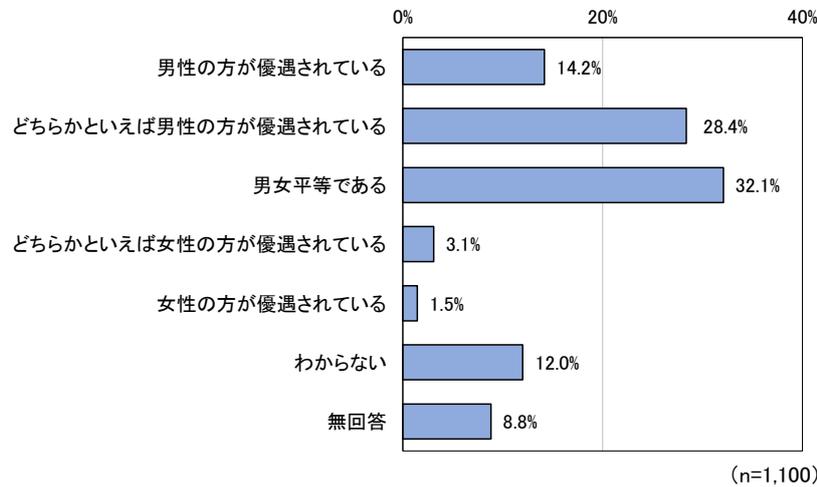
- 女性においても、男性においても働きたい人が働けて、育児に従事したい人は、従事すべき（女性、20～29歳）
- もっと子どもがいても働ける職場環境を整え、増やしてほしい。（女性、50～59歳）
- その場のノリ（女性、20～29歳）
- 本人の意思による（男性、30～39歳）
- その時にならないと分からない（女性、20歳未満）
- やりたいようにやれば良い（男性、30～39歳）
- 自由に決めてもらって良い（男性、50～59歳）
- 無理せず続けることができれば職を持つことは良いと思う。家族の協力が必要、視野が広がる。（男性、50～59歳）
- 自分が働く意欲がある年齢までで良いと思う（女性、20～29歳）
- 「女性が」ではなく性別関係なく可能なら社会参加出来ると良い。可能なら職業を持つことが出来ると良い。（女性、50～59歳）
- 女性、男性ではなく一人の人として、その人の考え方しだい。（女性、50～59歳）
- その人の気持ち（男性、60～69歳）
- 職業を持つことはよいと思うが、その時々女性のおかれた立場によってそれが可能なのかどうかはわからない。（女性、60～69歳）
- その時その場その場で変わることがあると思う。（女性、70～79歳）
- 働きたかったら勝手に仕事を続けていけばいいだけ。質問がバカバカしい…。（女性、40～49歳）
- 判断はお互いに考えたい（男性、20～29歳）
- その人にあった働き方ができればよいと思う。（女性、20～29歳）
- 女性自身の希望による（男性、60～69歳）
- 好きなタイミングで自由に職業を持てばよい（女性、20歳未満）
- 職業を持ち続けることは良いが、結婚後は夫婦で話し合い決めるべき（男性、70～79歳）
- 本人の自由です（男性、60～69歳）
- そのときどきで考えて家族と相談してきめるほうが良いと思います。（女性、40～49歳）
- 個人によって自由に職を持つか選ぶべき（男性、20～29歳）
- 仕事をやめても生活出来るなら、子供が大きくなるまで自分の手で育てたいと思う。（女性、80～89歳）
- 本人の意思を尊重する、他人が口を挟むことでは無い。（男性、20～29歳）
- 自分の好きなようにやれば良いと思う。（男性、20～29歳）
- 女性の意思を尊重し、どちらでも安定した家庭を築ける様、行政が支援する。（女性、60～69歳）
- それぞれの価値観があるので、自由でよいと思う。（女性、40～49歳）
- 育った環境、年齢、能力 etc で考え方は多方面にわたると思う。（女性、60～69歳）
- 私の考えはない。女性ご自身で決めれば良いと思う。（男性、30～39歳）
- 子どもができ、夫婦共に育休が取得でき、育休後も働きやすい職業をもつ（女性、20～29歳）
- 個人の考えで（私は家を守る）（女性、60～69歳）

- 子育てや家族の事情に関係なく職業を持ちたい人が十分にその職業を持つことができることが大事。その環境づくり、制度づくりも。(男性、20～29歳)
- ライフステージに合わせて職に就けばよい(男性、40～49歳)
- 自分が職業を持ちたいと考えるならば、持てばいいと思う。(男性、20歳未満)
- 個人の考え次第(男性、60～69歳)
- 個人の考えを尊重すべき(男性、30～39歳)
- 家庭内状況による(男性、70～79歳)
- 家庭によって、様々な理由で決めれば良い。(女性、40～49歳)
- 個人の環境による(男性、50～59歳)
- 男女関係なく自由で良い(女性、30～39歳)
- 職業を持つかどうか。そのタイミングなど各々が決めれば良い。(男性、20～29歳)
- 子どもの有無に関わらず状況に応じて職業を続けられれば良い(男性、60～69歳)
- 女性自身の意見を尊重して、時期や子供などに関わらず、自由に職業を持つほうが良い。
(男性、20歳未満)
- 必要性がある場合や、興味があれば職業を持てばいいと思う。(男性、20歳未満)
- 男女問わず自分の生きたいように生きるのがベストであると思います。(女性、50～59歳)

問23 あなたの今の職場、あるいは元の職場で、次の項目について、性別によって差がある（あった）と思いますか。（〇は各項目から1つずつ）

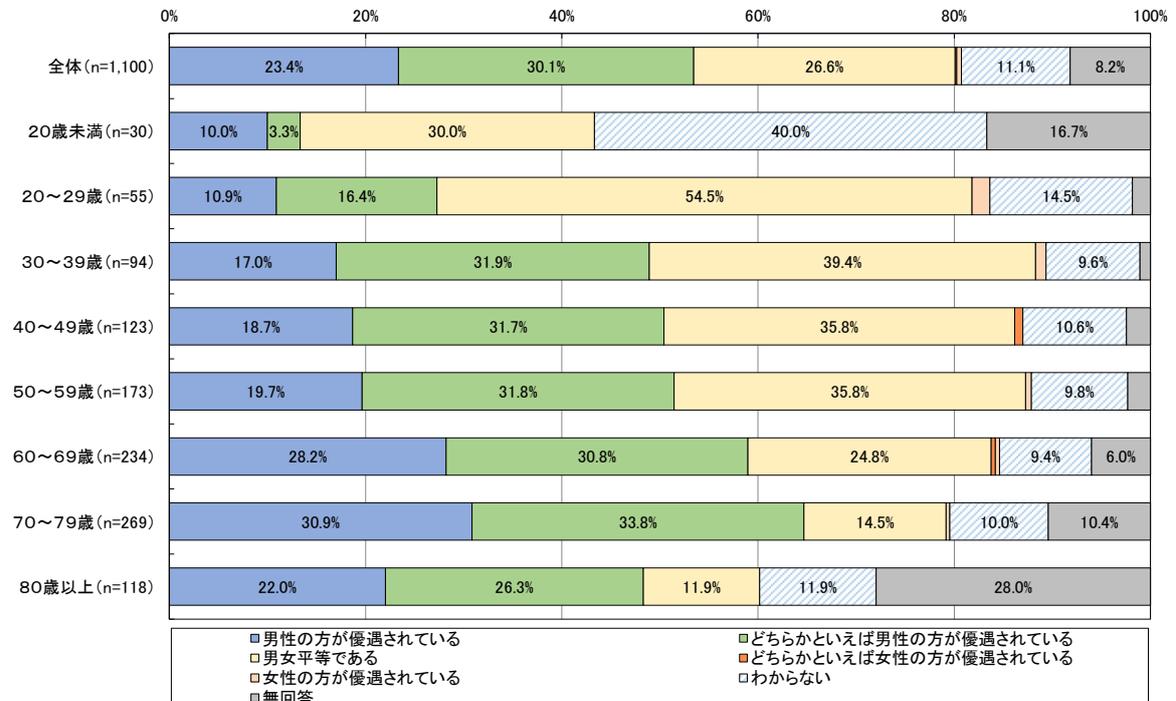
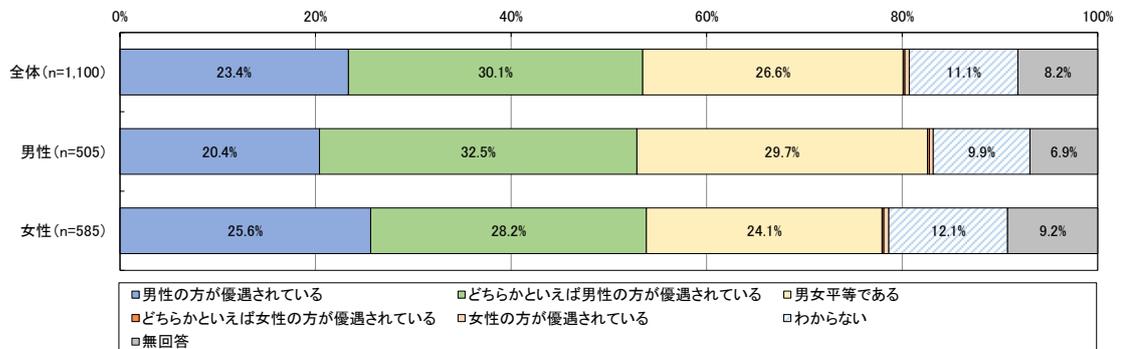
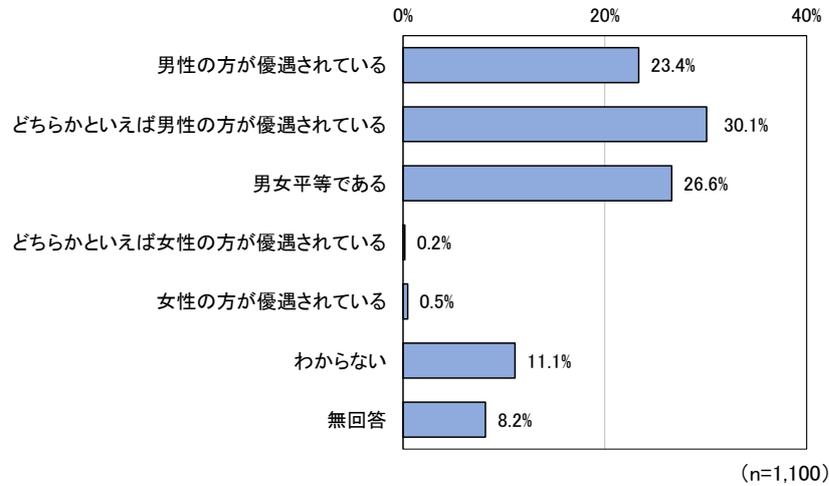
【募集・採用】

「男女平等である」が32.1%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が28.4%となっています。



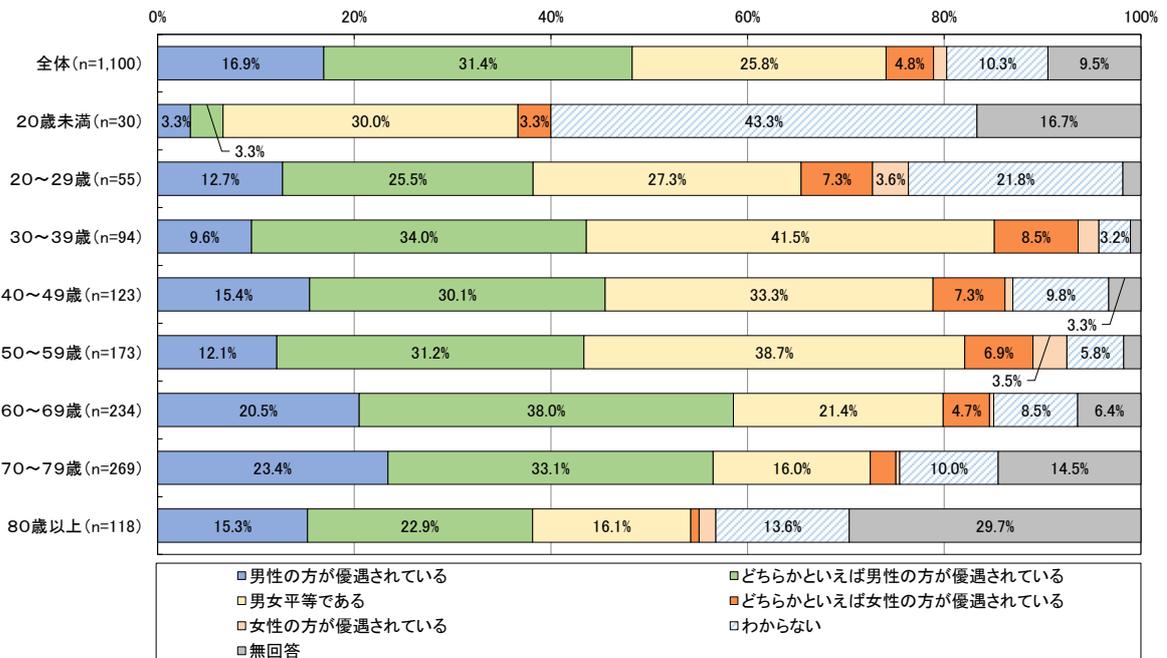
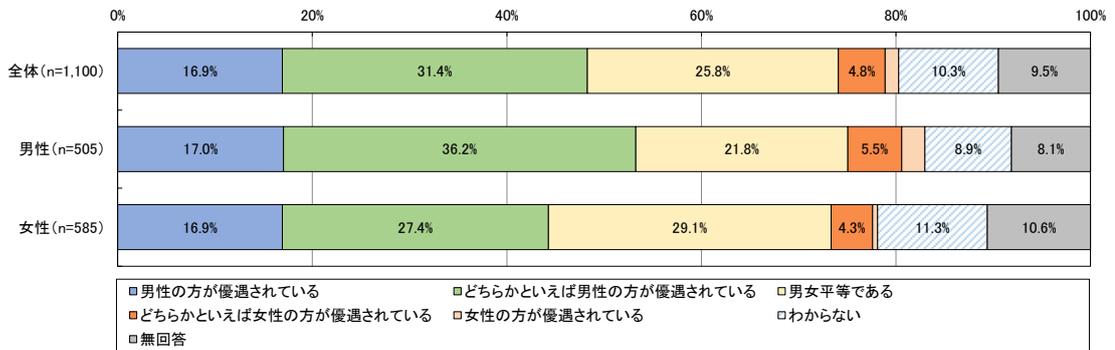
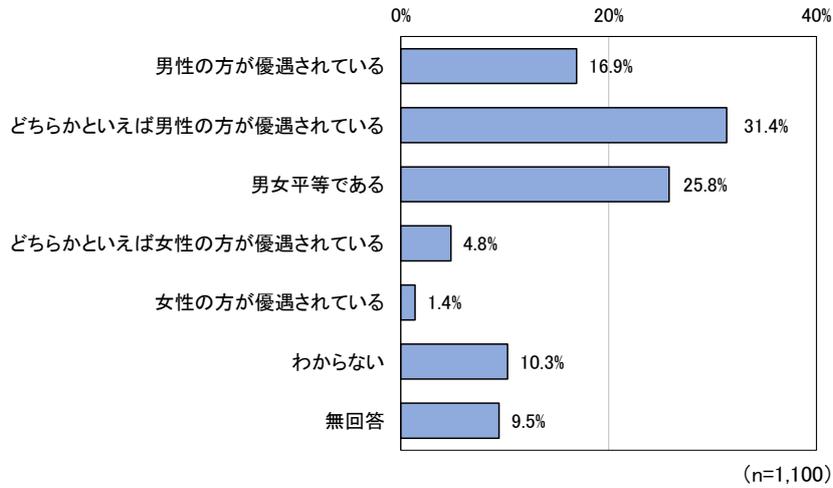
【賃金】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が30.1%と最も多く、次いで「男女平等である」が26.6%となっています。



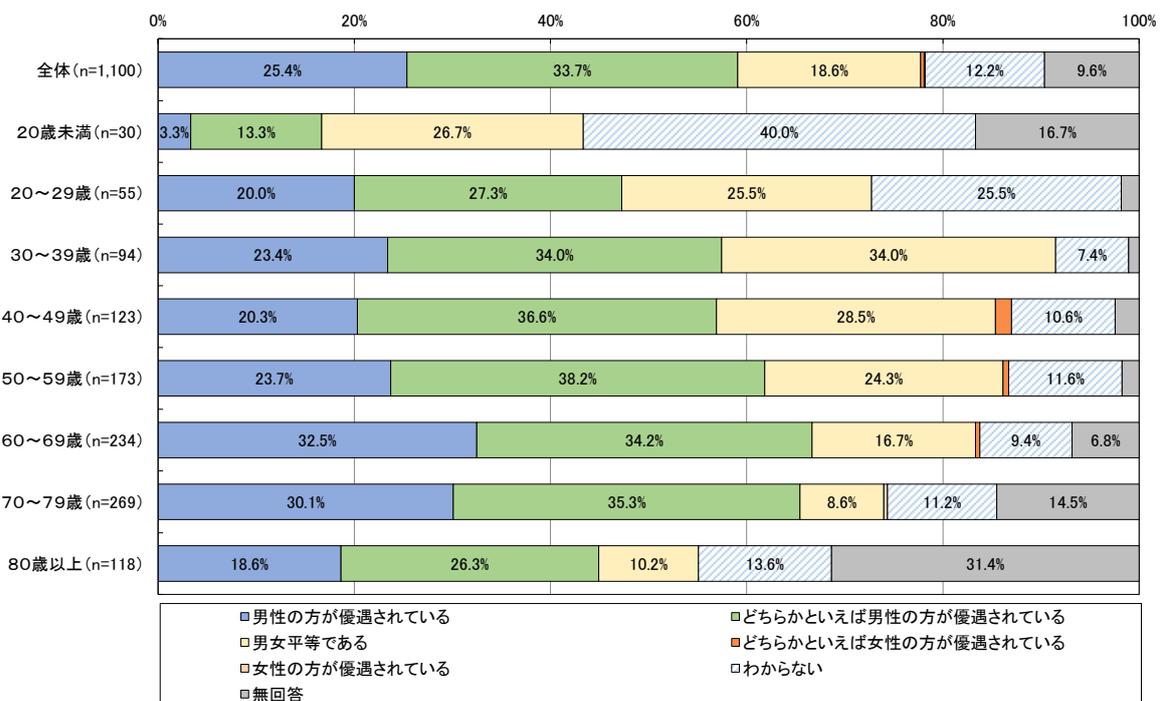
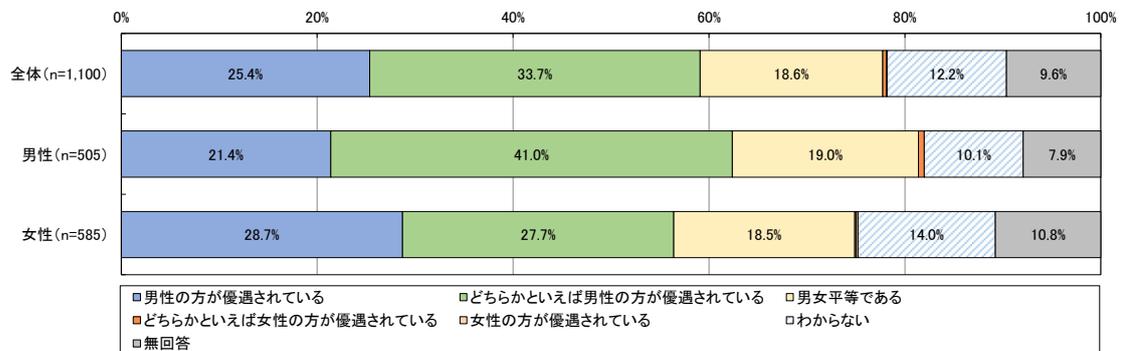
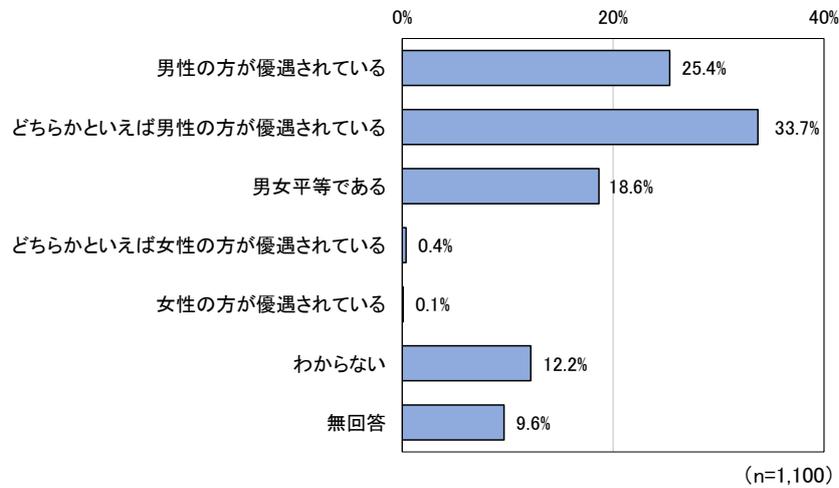
【業務（内容、責任）】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が31.4%と最も多く、次いで「男女平等である」が25.8%となっています。



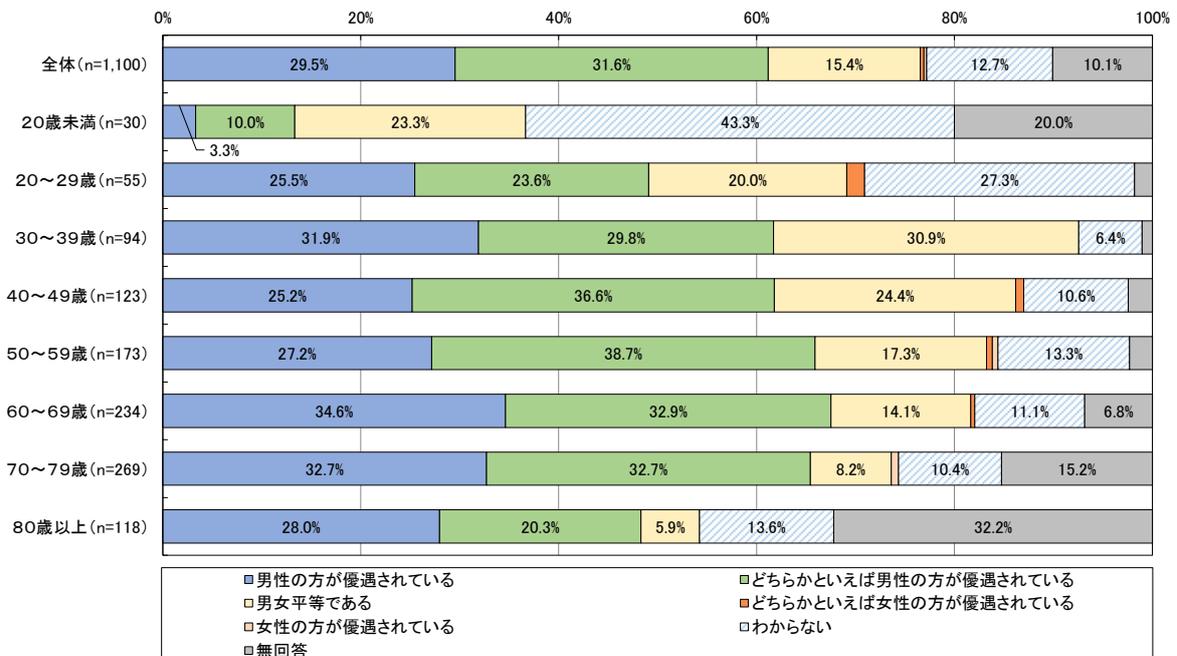
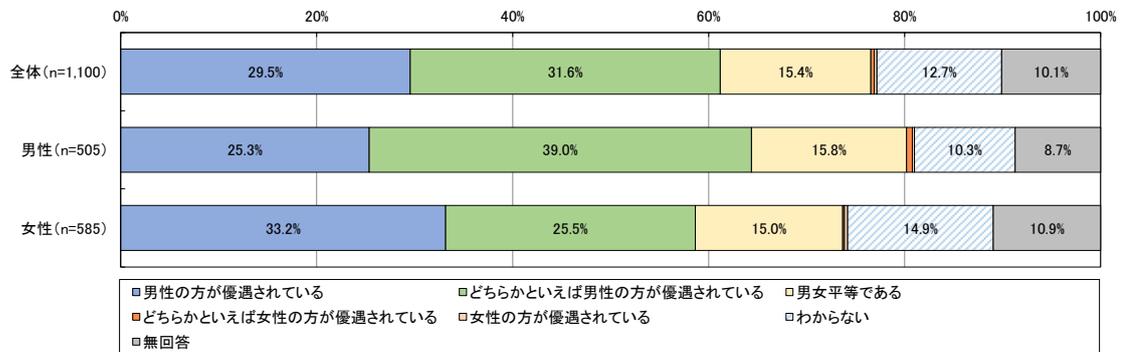
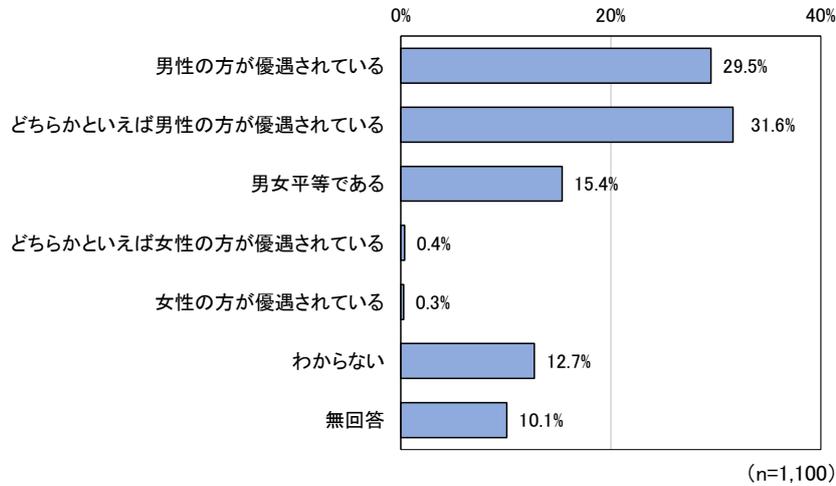
【昇進、昇格】

「どちらかといえば男性が優遇されている」が33.7%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が25.4%となっています。



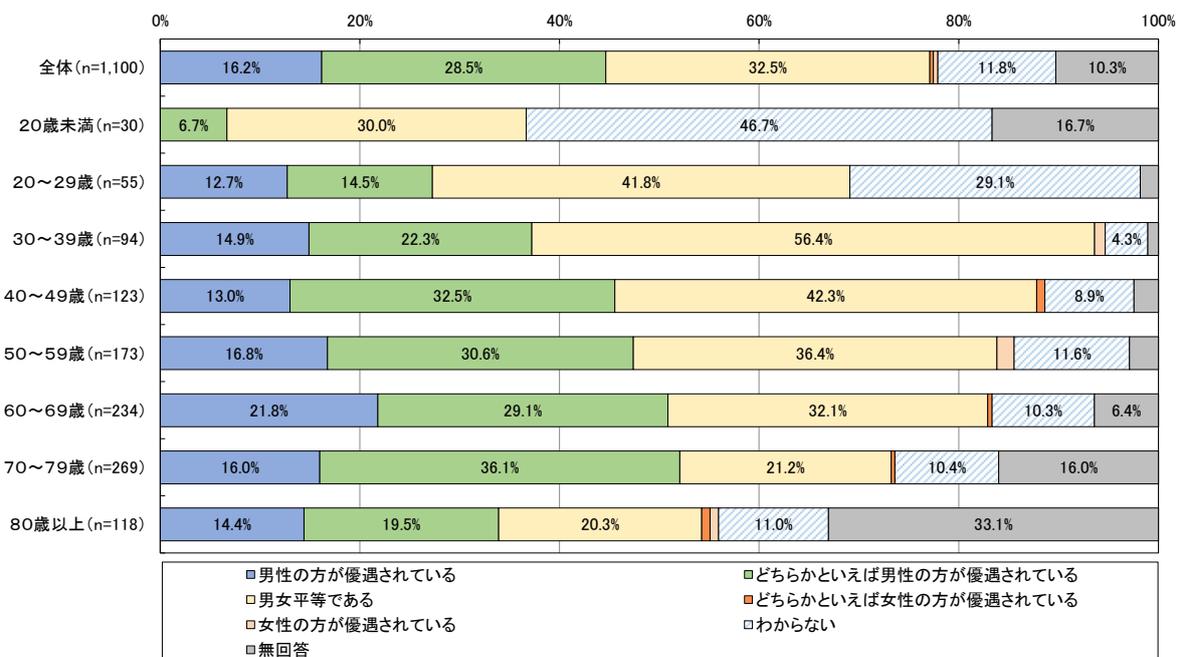
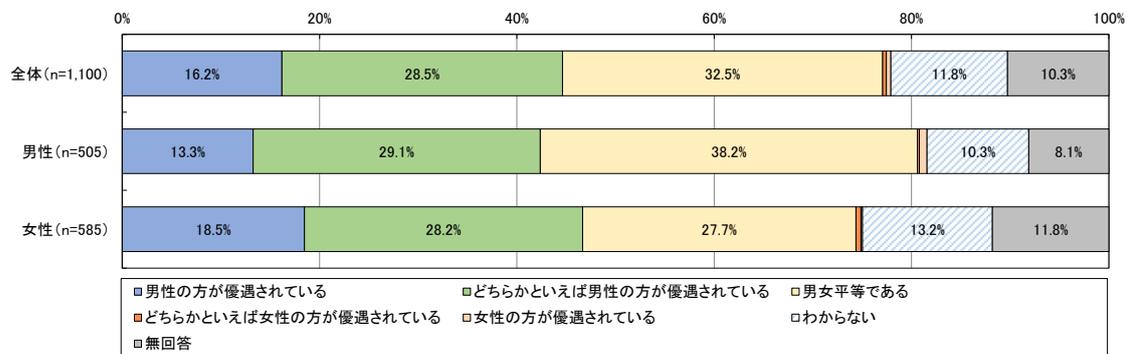
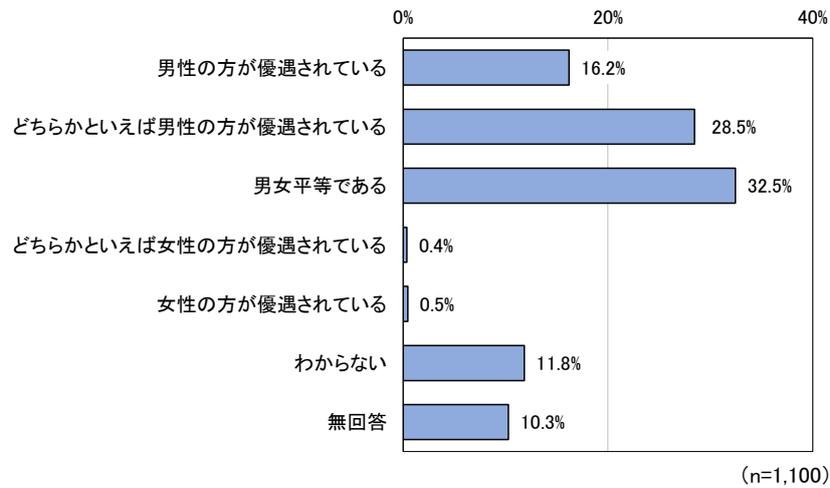
【管理職への登用】

「どちらかといえば男性が優遇されている」が31.6%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が29.5%となっています。



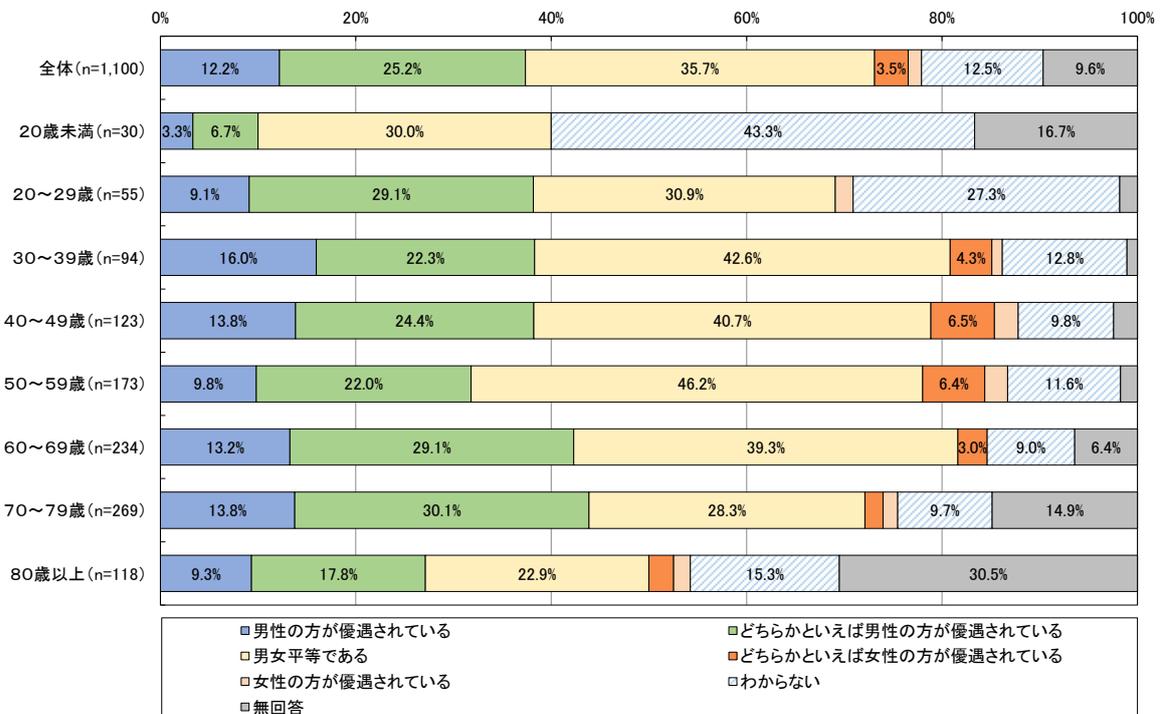
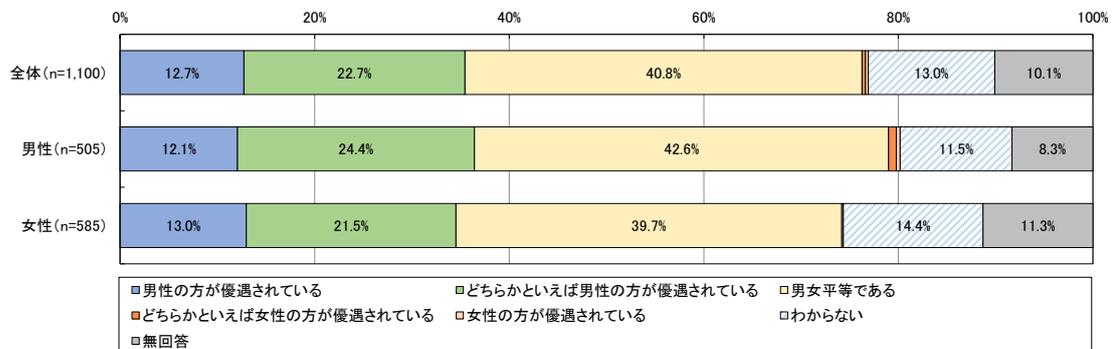
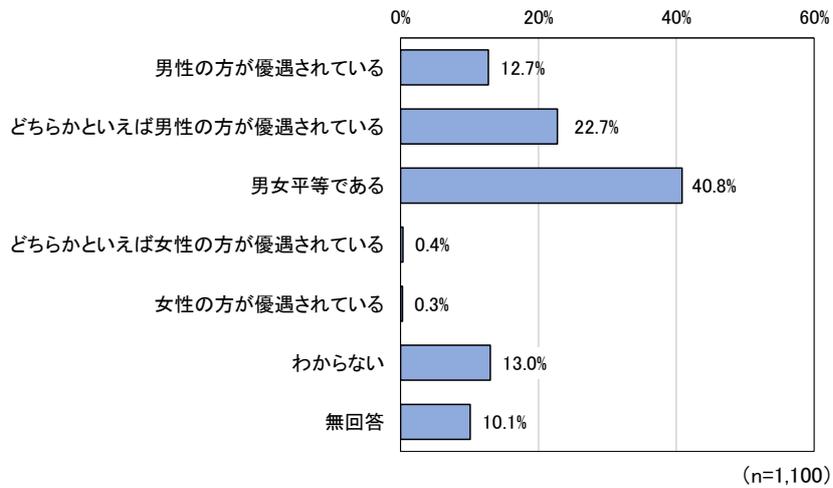
【能力評価】

「男女平等である」が32.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が28.5%となっています。



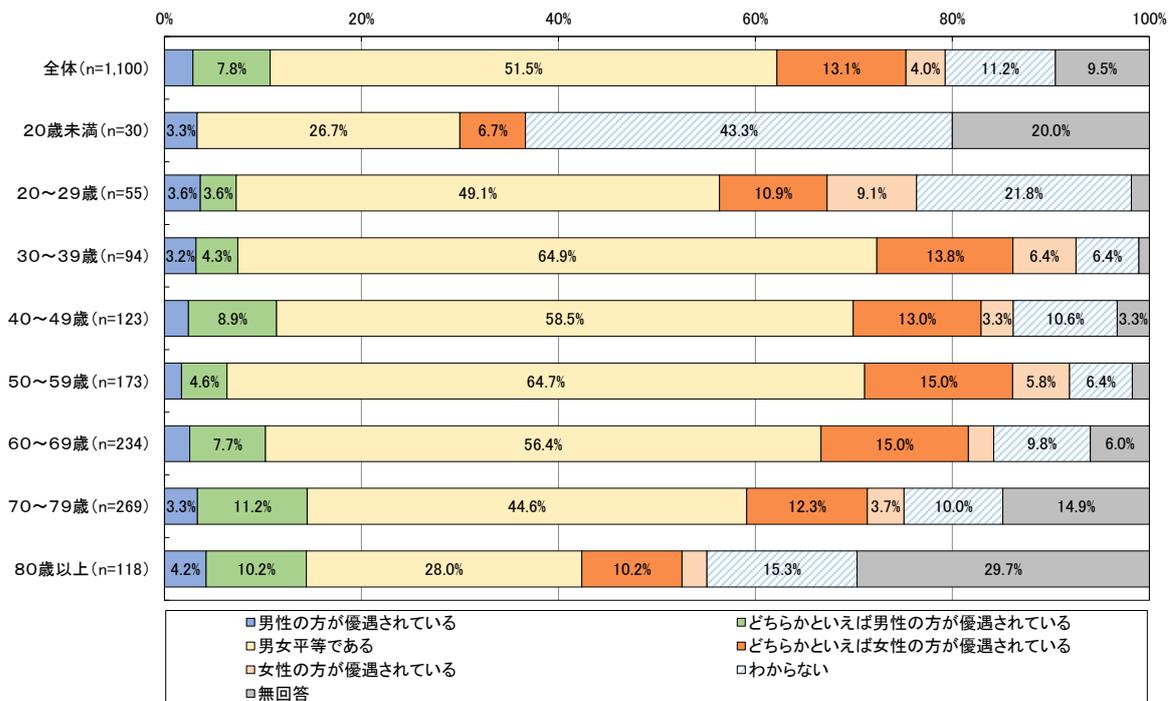
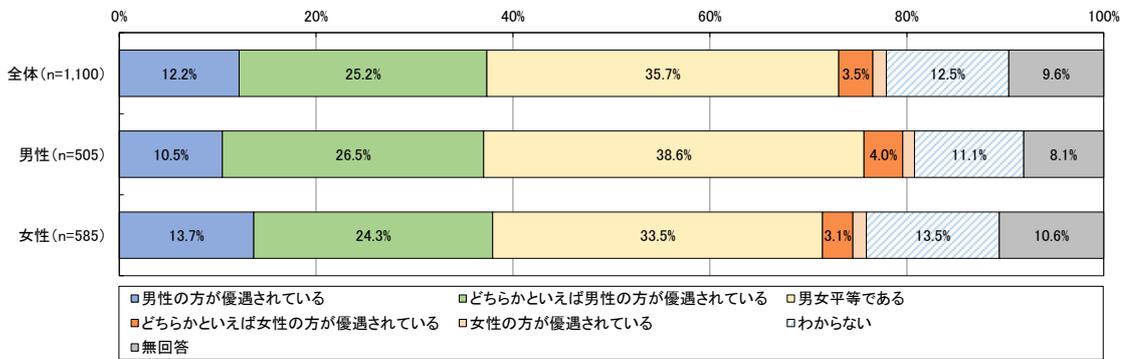
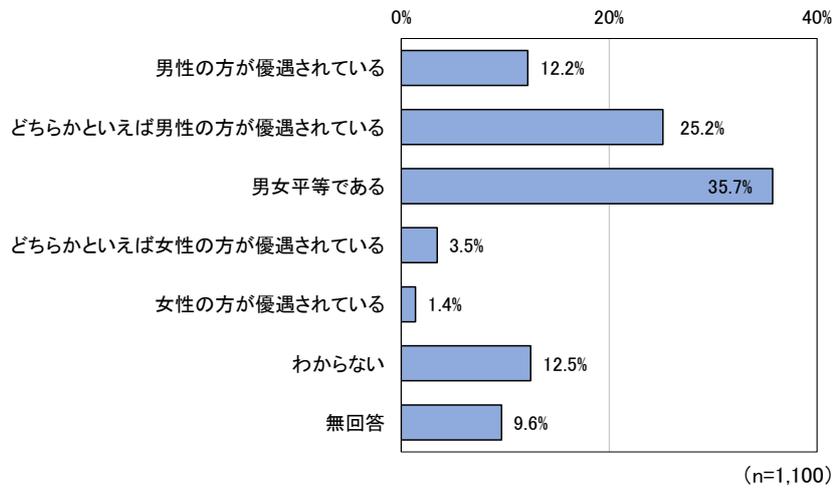
【研修（機会、内容）】

「男女平等である」が40.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が22.7%となっています。



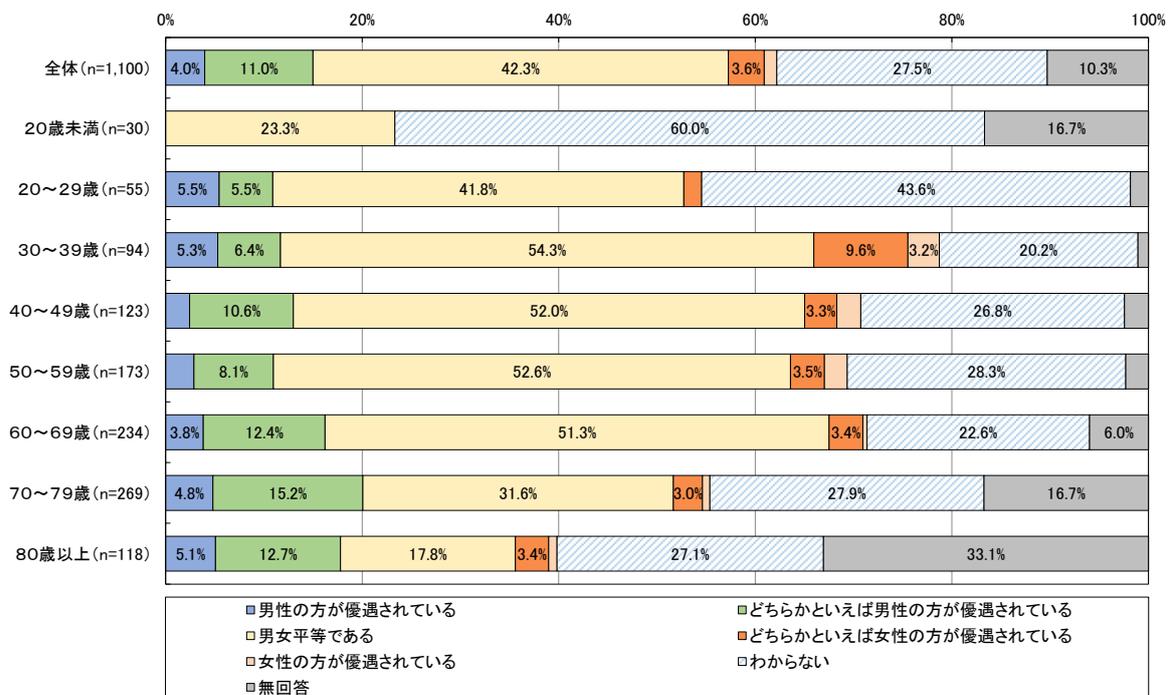
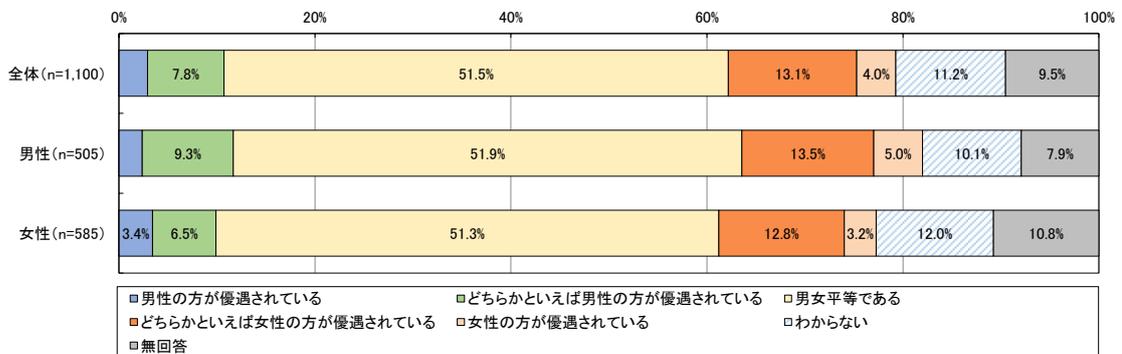
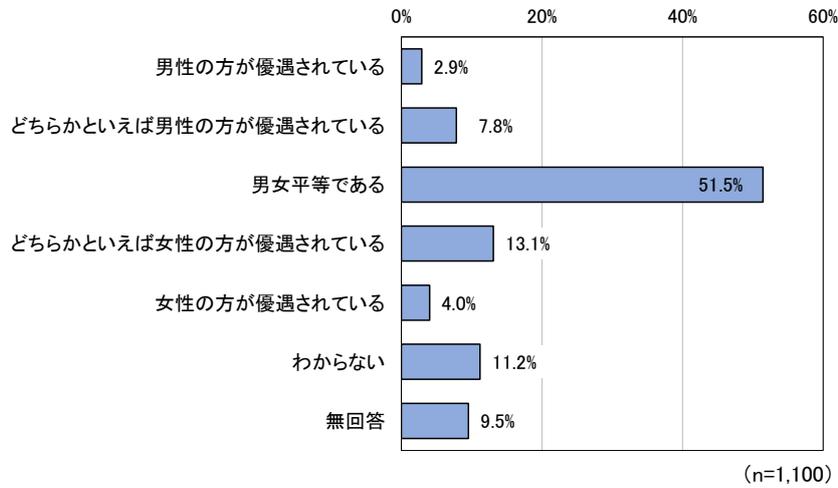
【働きやすさ】

「男女平等である」が35.7%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が25.2%となっています。



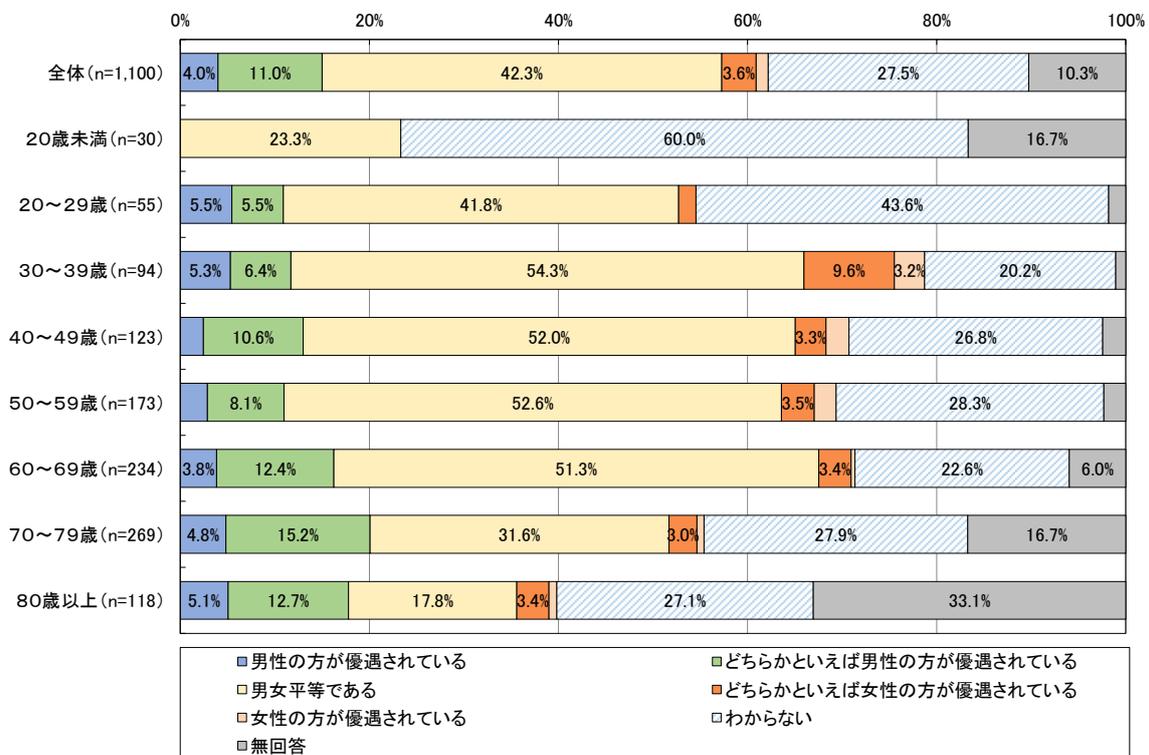
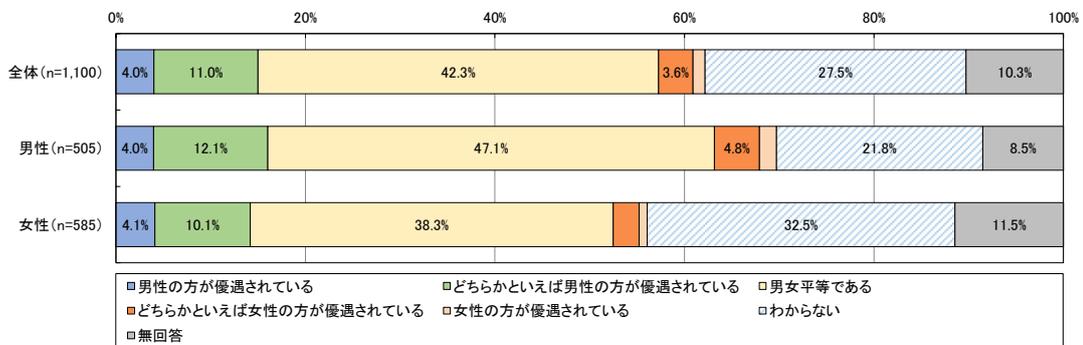
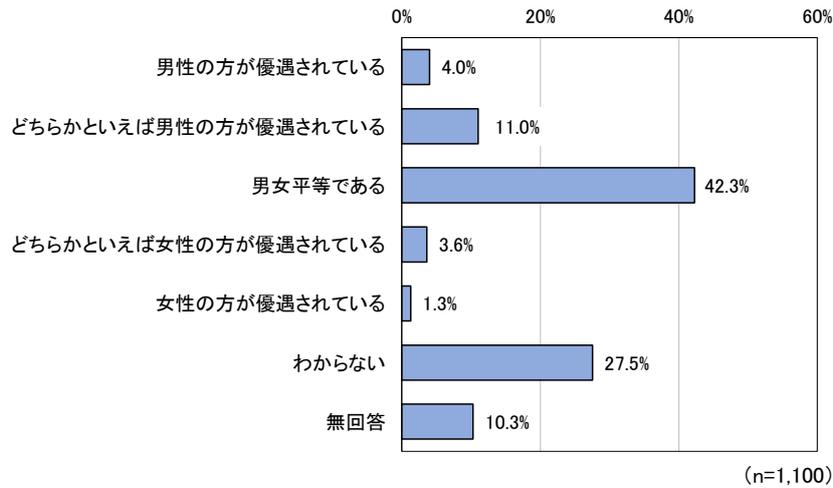
【休暇の取得しやすさ】

「男女平等である」が51.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば女性が優遇されている」が13.1%となっています。



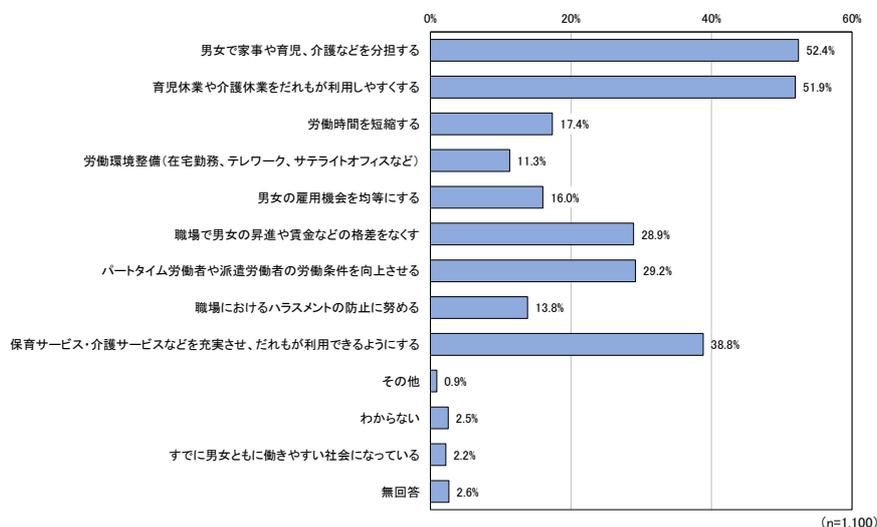
【労働環境整備（在宅ワーク、テレワークなども含む）】

「男女平等である」が42.3%と最も多く、次いで「わからない」が27.5%となっています。



**問24 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は特に必要だと思うものを3つまで)**

「男女で家事や育児、介護などを分担する」が52.4%と最も多く、次いで「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」が51.9%、「保育サービス・介護サービスなどを充実させ、だれもが利用できるようにする」が38.8%となっています。



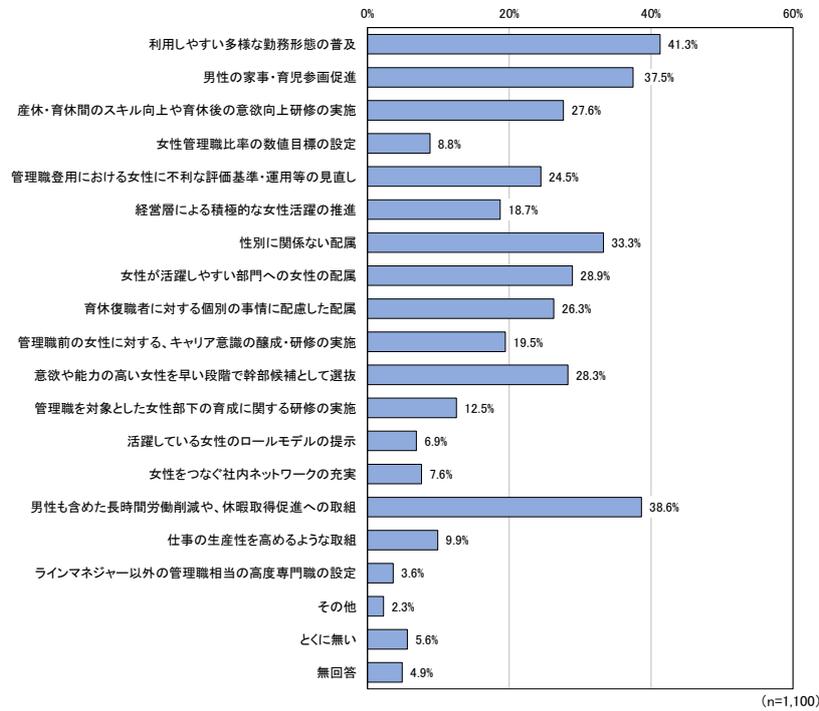
		男女で家事や育児、 介護などを分担する	だれもが 育児休業や介護休業を 利用しやすくする	労働時間を短縮する	労働環境整備(在宅勤務、 テレワーク、サテライト オフィスなど)	男女の雇用機会を 均等にする	職場で男女の昇進や賃金な の格差をなくす	パートタイム労働者や 派遣労働者の労働条件を 向上させる	職場におけるハラスメント の防止に努める	保育サービス・介護サービ スなどを充実させ、だれも が利用できるようにする	その他	わからない	すでに男女ともに働きやす い社会になっている	無回答
性別	全体(n=1,100)	52.4%	51.9%	17.4%	11.3%	16.0%	28.9%	29.2%	13.8%	38.8%	0.9%	2.5%	2.2%	2.6%
	男性(n=505)	49.9%	51.1%	22.0%	14.3%	18.8%	26.7%	27.7%	11.1%	35.4%	1.6%	2.6%	1.6%	2.0%
	女性(n=585)	54.5%	52.6%	13.5%	8.9%	13.5%	30.8%	30.4%	16.4%	41.9%	0.3%	2.4%	2.7%	2.9%
	無回答(n=9)	55.6%	44.4%	11.1%	0.0%	22.2%	22.2%	33.3%	0.0%	22.2%	0.0%	11.1%	0.0%	22.2%
年齢別	全体(n=1,100)	52.4%	51.9%	17.4%	11.3%	16.0%	28.9%	29.2%	13.8%	38.8%	0.9%	2.5%	2.2%	2.6%
	20歳未満(n=30)	66.7%	53.3%	16.7%	6.7%	20.0%	56.7%	6.7%	23.3%	33.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳(n=55)	54.5%	63.6%	30.9%	18.2%	9.1%	32.7%	18.2%	23.6%	23.6%	0.0%	1.8%	3.6%	0.0%
	30～39歳(n=94)	52.1%	53.2%	33.0%	9.6%	14.9%	30.9%	22.3%	11.7%	48.9%	2.1%	0.0%	1.1%	0.0%
	40～49歳(n=123)	56.1%	51.2%	23.6%	14.6%	13.0%	31.7%	24.4%	17.9%	35.8%	0.0%	0.8%	0.8%	0.8%
	50～59歳(n=173)	49.1%	47.4%	18.5%	13.9%	13.3%	28.9%	31.2%	13.9%	38.7%	1.2%	1.7%	2.9%	2.3%
	60～69歳(n=234)	52.6%	55.1%	12.8%	8.5%	16.7%	27.4%	38.5%	16.2%	44.9%	0.9%	2.1%	0.9%	0.9%
	70～79歳(n=269)	55.0%	50.2%	13.4%	11.9%	19.3%	27.1%	31.6%	11.2%	37.5%	0.4%	3.0%	2.2%	4.5%
	80歳以上(n=118)	42.4%	49.2%	9.3%	7.6%	16.9%	22.9%	22.9%	5.9%	33.1%	1.7%	7.6%	5.1%	8.5%
	無回答(n=4)	50.0%	75.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%

【その他】

- 適材適所 (男性、50～59歳)
- 賃金を上げ労働時間を減らす (男性、30～39歳)
- 小学生時から共同参画意識の教育を強化する (男性、70～79歳)
- パートタイム労働者の賃金格差をなくす (女性、80～89歳)
- 男女平等、老人の排除 (男性、60～69歳)
- 個人差があるので、選択肢が沢山あれば良いと思う。(女性、60～69歳)
- 労働紛争が生じたら、局のあっせん等を使えるという事をもっと知らしめることが必要。(行政ADRのこと) (男性、30～39歳)
- 子供が子供らしく育つためにはどうあるべきなのでしょう？子供が母親になつけないようではまずいと思います。(男性、50～59歳)
- 中高で保健の女性が、男女の体の体調などについて教える。(男性、20歳未満)

問25 女性の管理職が増えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

「利用しやすい多様な勤務形態の普及」が41.3%と最も多く、次いで「男性も含めた長時間労働削減や、休暇取得促進への取組」が38.6%、「男性の家事・育児参画促進」が37.5%となっています。



		利用しやすい多様な勤務形態の普及	男性の家事・育児参画促進	産休・育休間のスキル向上の実施	女性管理職比率の数値目標の設定	管理職登用における女性に不利な評価基準・運用等の見直し	経営層による積極的な女性活躍の推進	性別に関係ない配属	女性が活躍しやすい部門への女性の配属	育休復職者に対する個別の事情に配慮した配属	管理職前の女性に対する、キャリア意識の醸成・研修の実施
性別	全体(n=1,100)	41.3%	37.5%	27.6%	8.8%	24.5%	18.7%	33.3%	28.9%	26.3%	19.5%
	男性(n=505)	37.4%	34.5%	25.5%	12.7%	28.1%	22.6%	37.2%	30.1%	22.0%	22.6%
	女性(n=585)	45.0%	40.5%	29.7%	5.5%	21.5%	15.2%	30.3%	28.4%	30.1%	16.9%
	無回答(n=9)	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	33.3%	11.1%	0.0%	22.2%	11.1%
年齢別	全体(n=1,100)	41.3%	37.5%	27.6%	8.8%	24.5%	18.7%	33.3%	28.9%	26.3%	19.5%
	20歳未満(n=30)	43.3%	36.7%	40.0%	6.7%	30.0%	13.3%	56.7%	26.7%	30.0%	13.3%
	20~29歳(n=55)	43.6%	49.1%	25.5%	9.1%	21.8%	10.9%	45.5%	34.5%	36.4%	14.5%
	30~39歳(n=94)	57.4%	43.6%	34.0%	16.0%	28.7%	17.0%	41.5%	20.2%	34.0%	20.2%
	40~49歳(n=123)	35.0%	43.1%	27.6%	8.9%	20.3%	15.4%	28.5%	26.8%	24.4%	17.9%
	50~59歳(n=173)	42.8%	36.4%	26.0%	9.2%	19.7%	17.3%	34.1%	30.1%	24.9%	20.2%
	60~69歳(n=234)	42.3%	36.8%	26.5%	7.3%	26.5%	22.2%	32.5%	26.9%	30.3%	22.2%
	70~79歳(n=269)	40.9%	32.3%	28.3%	8.6%	27.5%	19.7%	29.4%	33.5%	23.8%	20.1%
	80歳以上(n=118)	31.4%	37.3%	23.7%	5.9%	22.0%	21.2%	30.5%	28.0%	15.3%	16.1%
	無回答(n=4)	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%

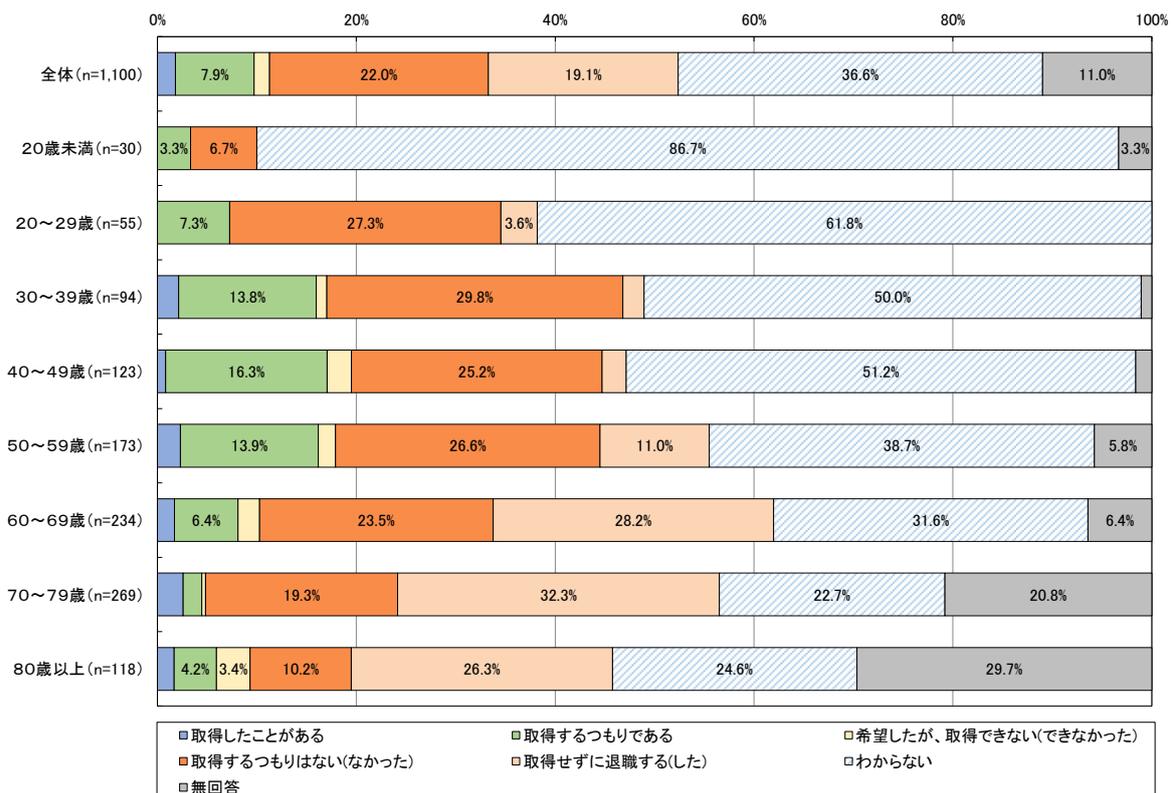
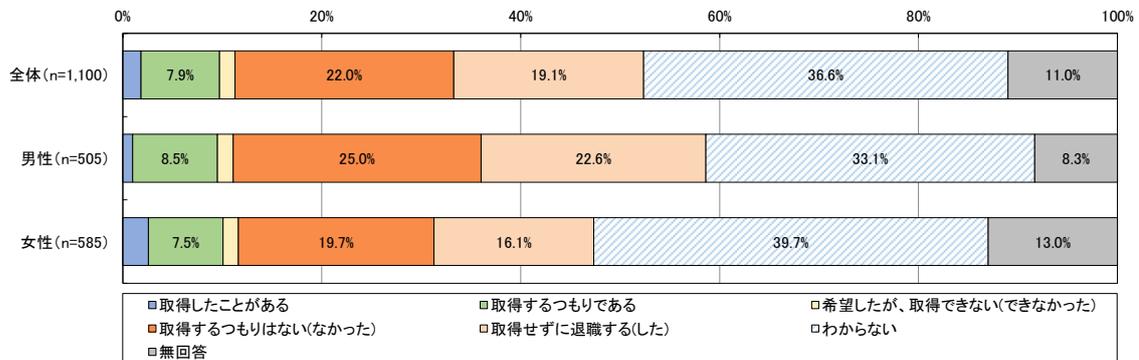
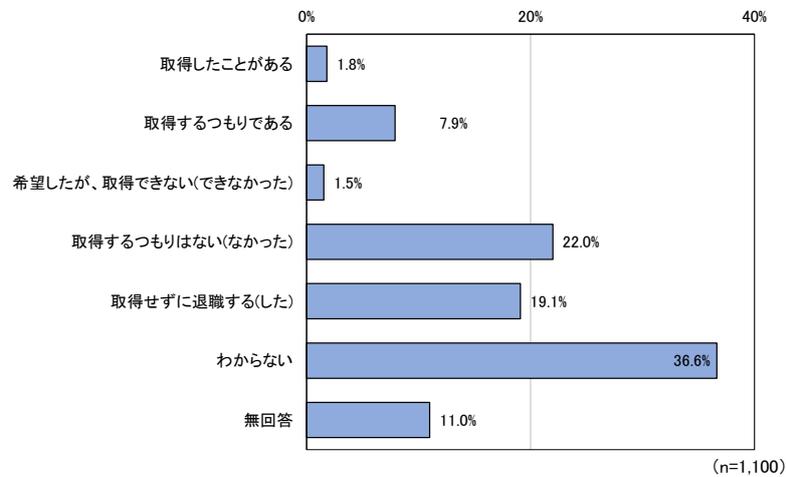
		意欲や能力の高い女性を早い段階で幹部候補として選抜	管理職を対象とした女性部下の育成に関する研修の実施	活躍している女性のロールモデルの提示	女性をつなぐ社内ネットワークの充実	男性も含めた長時間労働削減や、休暇取得促進への取組	仕事の生産性を高めるような取組	ラインマネジャー以外の管理職相当の高度専門職の設定	その他	とくに無い	無回答
性別	全体(n=1,100)	28.3%	12.5%	6.9%	7.6%	38.6%	9.9%	3.6%	2.3%	5.6%	4.9%
	男性(n=505)	30.9%	14.1%	8.3%	8.5%	39.4%	11.7%	5.1%	3.0%	5.1%	3.8%
	女性(n=585)	26.0%	11.3%	5.8%	7.0%	38.5%	8.4%	2.2%	1.7%	6.0%	5.6%
	無回答(n=9)	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%	22.2%
年齢別	全体(n=1,100)	28.3%	12.5%	6.9%	7.6%	38.6%	9.9%	3.6%	2.3%	5.6%	4.9%
	20歳未満(n=30)	30.0%	6.7%	10.0%	10.0%	36.7%	13.3%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%
	20~29歳(n=55)	25.5%	7.3%	10.9%	14.5%	63.6%	21.8%	3.6%	0.0%	9.1%	0.0%
	30~39歳(n=94)	23.4%	10.6%	10.6%	10.6%	45.7%	12.8%	3.2%	2.1%	4.3%	0.0%
	40~49歳(n=123)	22.8%	8.1%	8.9%	8.9%	45.5%	5.7%	0.0%	3.3%	7.3%	1.6%
	50~59歳(n=173)	31.2%	11.6%	8.1%	9.2%	37.0%	12.1%	4.6%	6.4%	2.9%	4.6%
	60~69歳(n=234)	30.8%	13.7%	6.0%	5.6%	37.2%	4.7%	3.8%	1.3%	5.6%	3.4%
	70~79歳(n=269)	30.5%	14.9%	5.6%	5.6%	37.5%	10.4%	4.8%	0.7%	5.6%	7.1%
	80歳以上(n=118)	24.6%	16.1%	2.5%	6.8%	23.7%	11.9%	3.4%	1.7%	8.5%	14.4%
	無回答(n=4)	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%

【その他】

- 男女平等（男性、60～69 歳）
- 機会の平等（男性、50～59 歳）
- 自分自身が頑張る。（男性、20 歳未満）
- 上記項目と私の考えが合っていない（男性、50～59 歳）
- 女性自身の意欲がなにより大事（女性、70～79 歳）
- 女性に意識（男女関係ないです）が高くないと管理職になれない（男性、50～59 歳）
- 男女に関係なく公正な評価ができる社会意識の向上（男性、70～79 歳）
- 女性だからではダメ（男性、50～59 歳）
- 「女性の管理職」ではなく能力がある方が性別関係なく昇任されること（女性、50～59 歳）
- 男女関係なく達成感充実感の持てる環境（女性、50～59 歳）
- 能力もない人がやってじゃいけない！（男性、50～59 歳）
- 男性と女性の区分自体がすでに時代遅れ（男性、60～69 歳）
- 能力があれば、すべての人に管理職ができるのでは？（女性、60～69 歳）
- そもそも、この質問自体が性差別では？（男性、30～39 歳）
- 男女問わず管理能力のある人が管理職になれば良い（男性、40～49 歳）
- 私が早く家に帰りたく、管理職についたら早出、残業をしなくてはいけなくなり子供との時間がなくなってしまうので、できればなりたくないです。（女性、30～39 歳）
- 能力の問題もあるので単に数を増やせば良いというものではない（男性、40～49 歳）
- 職場によって管理職の定義が違うので一概に言えない。（男性、80～89 歳）
- 女性の管理職を増やす必要はないと思う。（女性、50～59 歳）

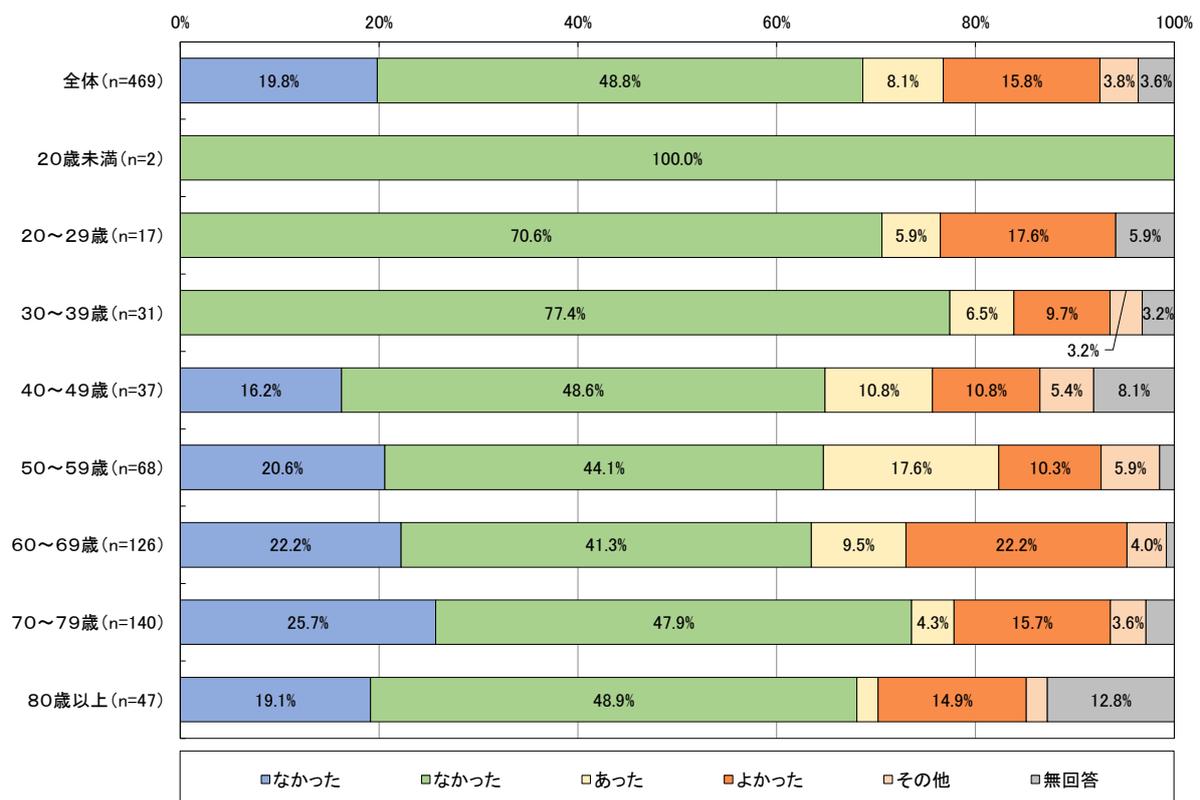
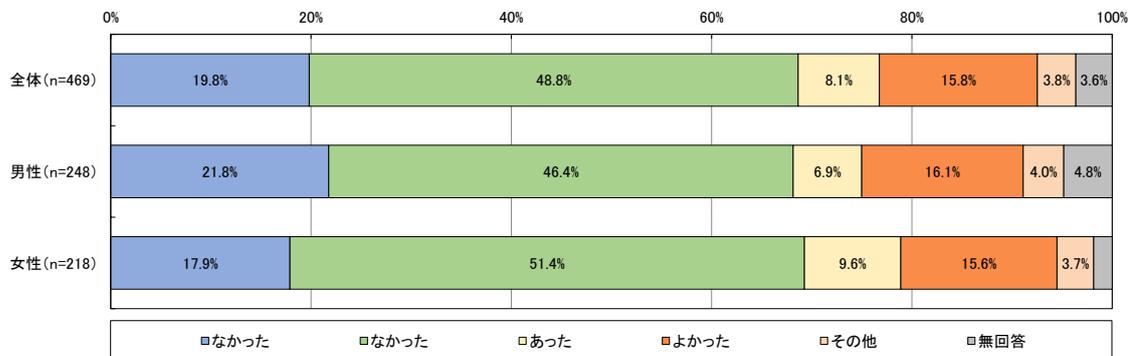
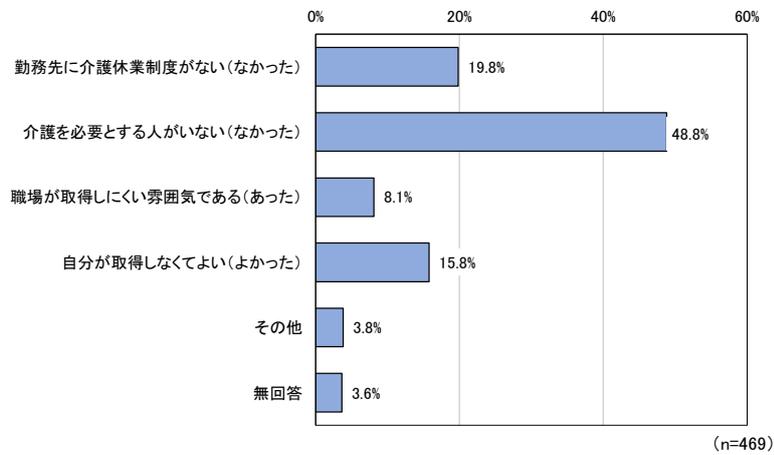
問26 介護休業の取得について、お聞かせください。(〇は1つ)

「わからない」が36.6%と最も多く、次いで「取得するつもりはない(なかった)」が22.0%、「取得せずに退職する(した)」が19.1%となっています。



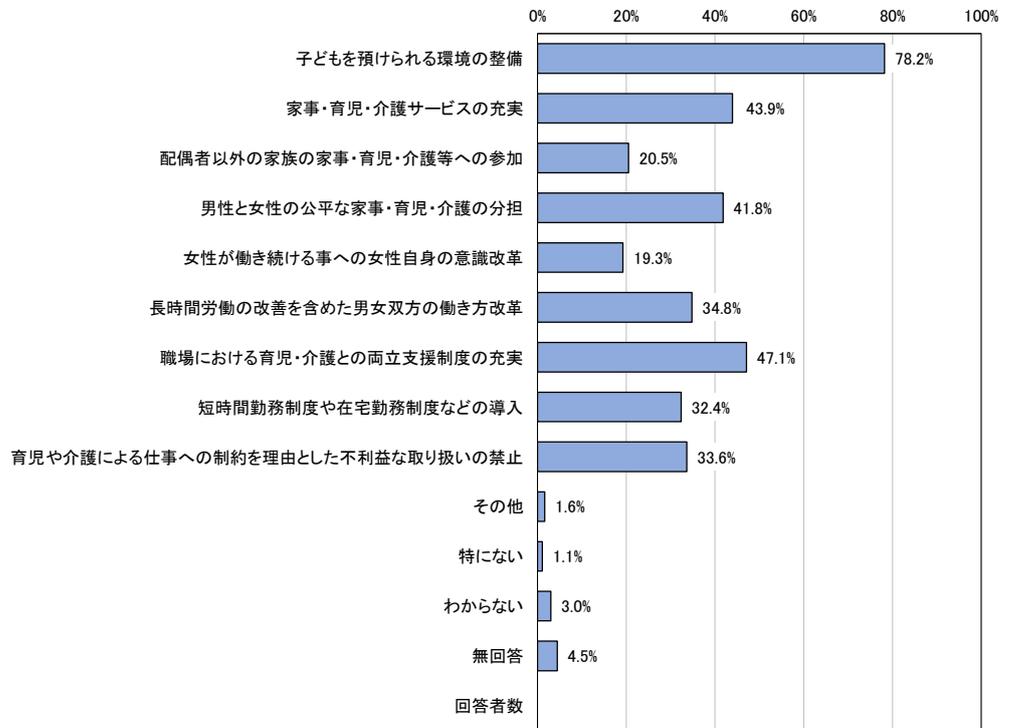
問27 【問26で「3. 4. 5」と答えた方にうかがいます】その理由はなんですか。(〇は1つ)

「介護を必要とする人がいない(なかった)」が48.8%と最も多く、次いで「勤務先に介護休業制度がない(なかった)」が19.8%、「自分が取得しなくてよい(よかった)」が15.8%となっています。



問28 女性が出産後も退職せずに働きつづけるために、あなたが必要だと思うのは次のうちどれですか。(〇はあてはまるものすべて)

「子どもを預けられる環境の整備」が78.2%と最も多く、次いで「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が47.1%、「家事・育児・介護サービスの充実」が43.9%となっています。



(n=1,100)

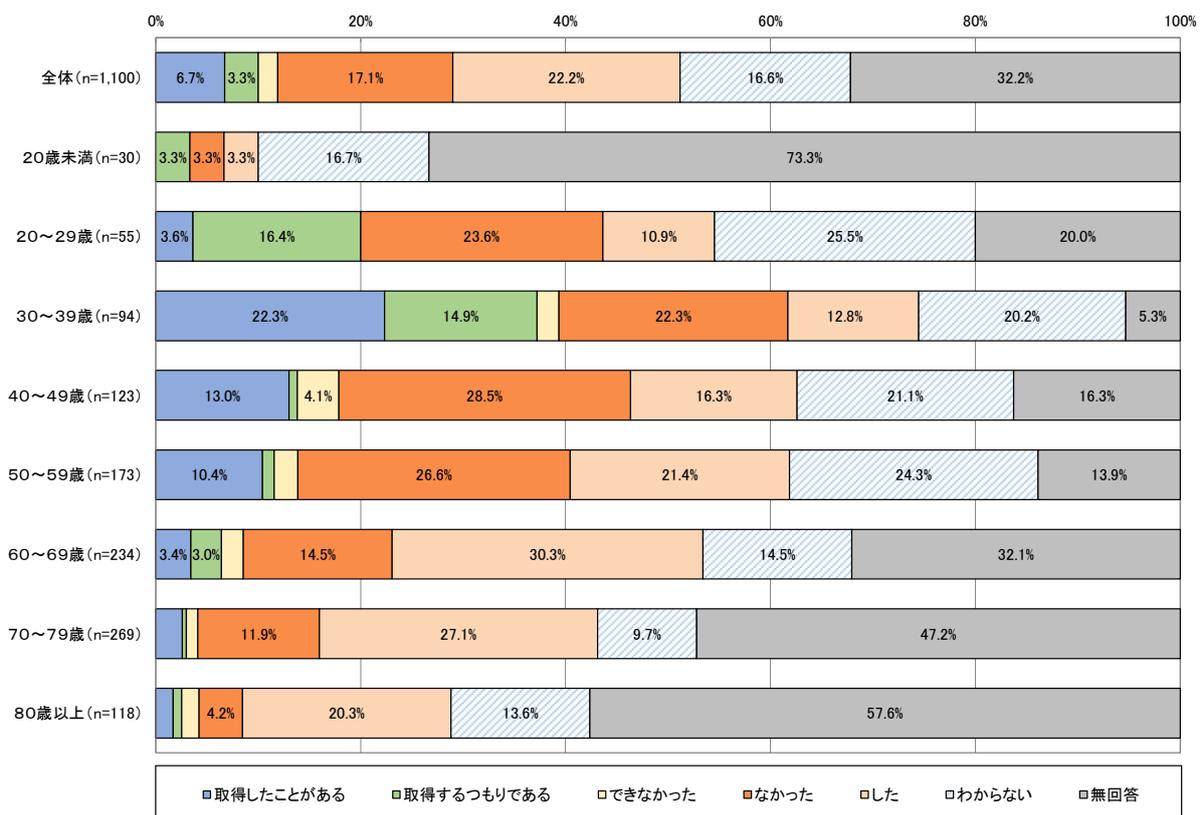
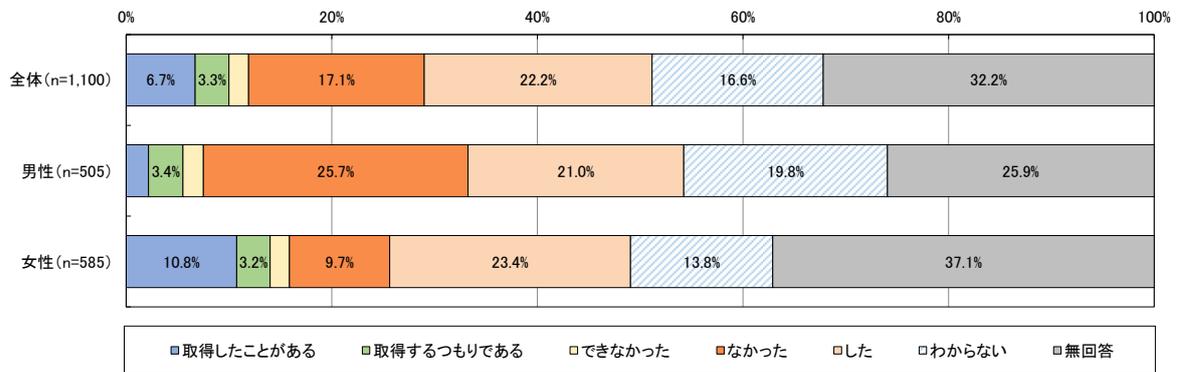
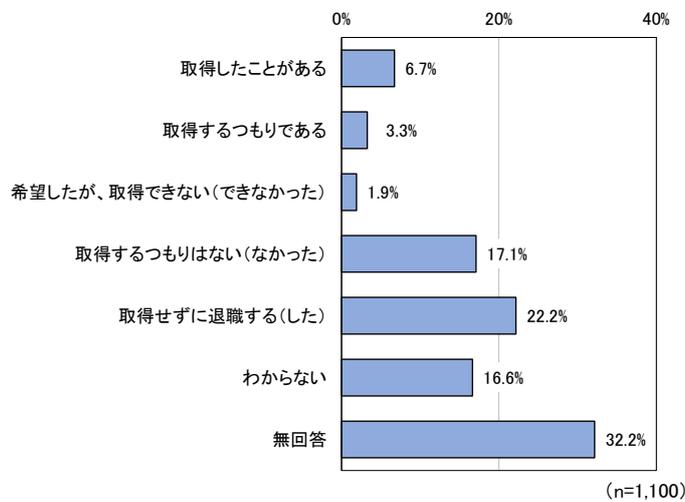
		子どもを預けられる環境の整備	家事・育児・介護サービスの充実	配偶者以外の家族の家事・育児・介護等への参加	男性と女性の公平な家事・育児・介護の分担	女性が働き続ける事への女性自身の意識改革	男女双方の働き方改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした不利益な取り扱いの禁止	その他	特にない	わからない	無回答
【性別】	全体(n=1,100)	78.2%	43.9%	20.5%	41.8%	19.3%	34.8%	47.1%	32.4%	33.6%	1.6%	1.1%	3.0%	4.5%
	男性(n=505)	80.2%	44.4%	22.0%	38.4%	21.8%	38.0%	45.7%	31.3%	33.1%	2.0%	1.2%	3.2%	4.4%
	女性(n=585)	76.8%	43.6%	19.7%	44.8%	17.1%	32.1%	48.9%	33.5%	34.2%	1.4%	1.0%	2.7%	4.3%
	無回答(n=9)	55.6%	33.3%	0.0%	44.4%	22.2%	22.2%	11.1%	11.1%	33.3%	0.0%	0.0%	11.1%	22.2%
【年齢別】	全体(n=1,100)	78.2%	43.9%	20.5%	41.8%	19.3%	34.8%	47.1%	32.4%	33.6%	1.6%	1.1%	3.0%	4.5%
	20歳未満(n=30)	80.0%	56.7%	36.7%	60.0%	23.3%	36.7%	50.0%	53.3%	40.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳(n=55)	76.4%	32.7%	30.9%	63.6%	18.2%	54.5%	56.4%	58.2%	40.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%
	30～39歳(n=94)	83.0%	54.3%	25.5%	52.1%	22.3%	46.8%	53.2%	51.1%	36.2%	3.2%	1.1%	0.0%	0.0%
	40～49歳(n=123)	76.4%	43.1%	17.9%	39.0%	15.4%	39.0%	40.7%	37.4%	29.3%	4.1%	2.4%	2.4%	2.4%
	50～59歳(n=173)	83.8%	50.3%	29.5%	39.9%	19.7%	31.8%	52.0%	29.5%	31.8%	2.9%	0.6%	1.2%	2.3%
	60～69歳(n=234)	85.0%	49.1%	17.1%	43.2%	18.4%	34.2%	53.8%	31.2%	40.2%	0.4%	0.9%	0.4%	3.0%
	70～79歳(n=269)	76.2%	36.1%	12.3%	36.8%	21.6%	33.1%	40.5%	23.0%	32.0%	0.7%	0.4%	4.1%	7.4%
	80歳以上(n=118)	59.3%	36.4%	23.7%	32.2%	16.9%	20.3%	37.3%	22.9%	25.4%	0.0%	2.5%	11.9%	12.7%
	無回答(n=4)	75.0%	50.0%	0.0%	75.0%	0.0%	50.0%	75.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%

【その他】

- 配偶者との分担、夫婦共の職場の理解（女性、50～59 歳）
- 会社の理解(休みやすい環境など)（女性、40～49 歳）
- 職場との話し合い、出産後も同じところで働き続けられるようなスキルの向上（女性、50～59 歳）
- 上司（特に男性）の育児の理解や知識（女性、30～39 歳）
- 育休の自由化、期限の撤廃（男性、40～49 歳）
- ある一定期間、女性が育児に専念するのは重要なことと思う。（女性、60～69 歳）
- 保育園にすぐ入園できる環境が必要。（女性、40～49 歳）
- 男女ともに（夫嫁）で育休を取りたいが、経済的に厳しい…（男性、30～39 歳）
- 一緒に働いている人の理解、休むにも早退するのも残業できないのもまだ小さいからしょうがないと考えてくれる気持ちが見られれば働きやすいです。こっちも休んだり早退残業できなくて申し訳ない気持ちでいるのにせめられるのは、正直しんどいです。皆独身だからわからないかもしれないですけど。だから残業代がつかない30分だけやっても何ともおもわれないうし。有給だって全部子供で使い切ったりしてしまうけど皆は、おでかけとかずるいなあとも思います。（女性、30～39 歳）
- 子連れ出社ができる環境（男性、40～49 歳）
- 女性の意識改革（男性、50～59 歳）
- 出産した女性への支援金（男性、20 歳未満）
- 職場復帰後、職場の雰囲気第一（明るく復帰を迎える職場の雰囲気がなければ駄目）（男性、70～79 歳）
- 出産後も無理やり働かせるつもりか？（男性、50～59 歳）
- 休暇間に1週間、1カ月おきに女性の所属する部署の進行状況を報告と、8 番の案。（男性、20 歳未満）

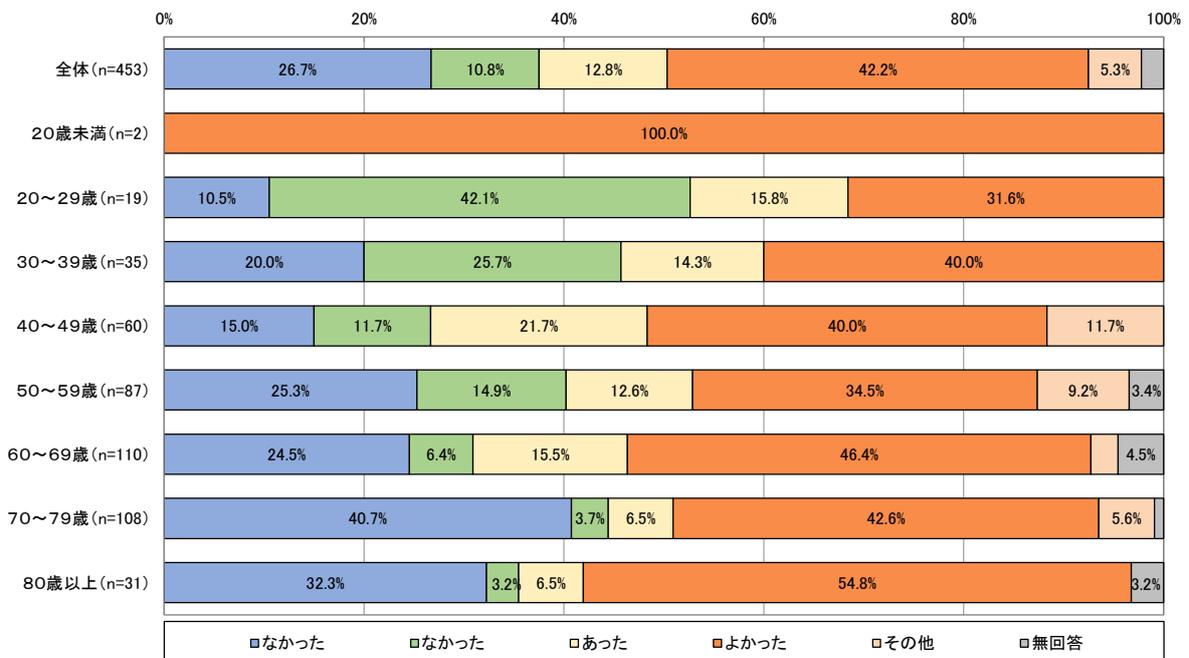
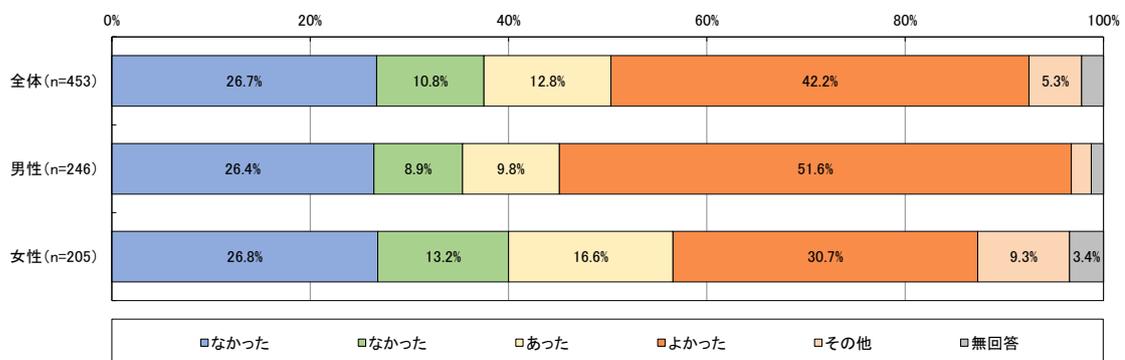
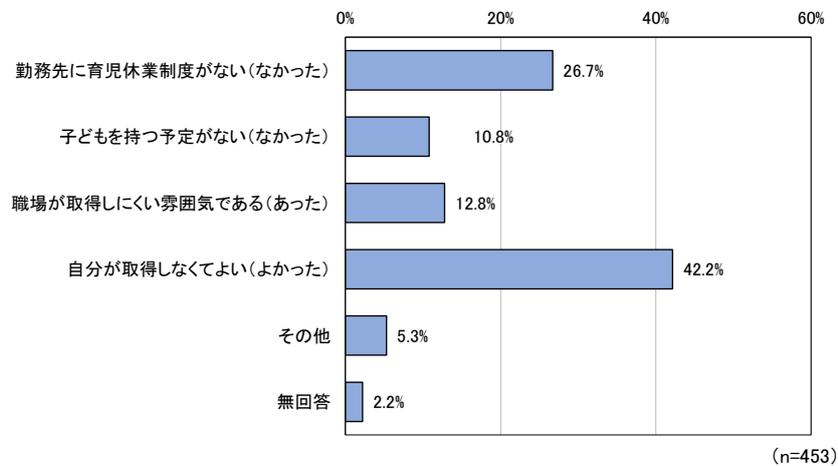
問29 【就職している方、就職していた方にうかがいます】育児休業の取得について、お聞かせください。(〇は1つ)

「取得せずに退職する(した)」が22.2%と最も多く、次いで「取得するつもりはない(なかった)」が17.1%、「わからない」が16.6%となっています。



問30 【問29で「3. 4. 5」と答えた方にうかがいます】その理由はなんですか。(〇は1つ)

「自分が取得しなくてよい(よかった)」が42.2%と最も多く、次いで「勤務先に育児休業制度がない(なかった)」が26.7%、「職場が取得しにくい雰囲気である(あった)」が12.8%となっています。



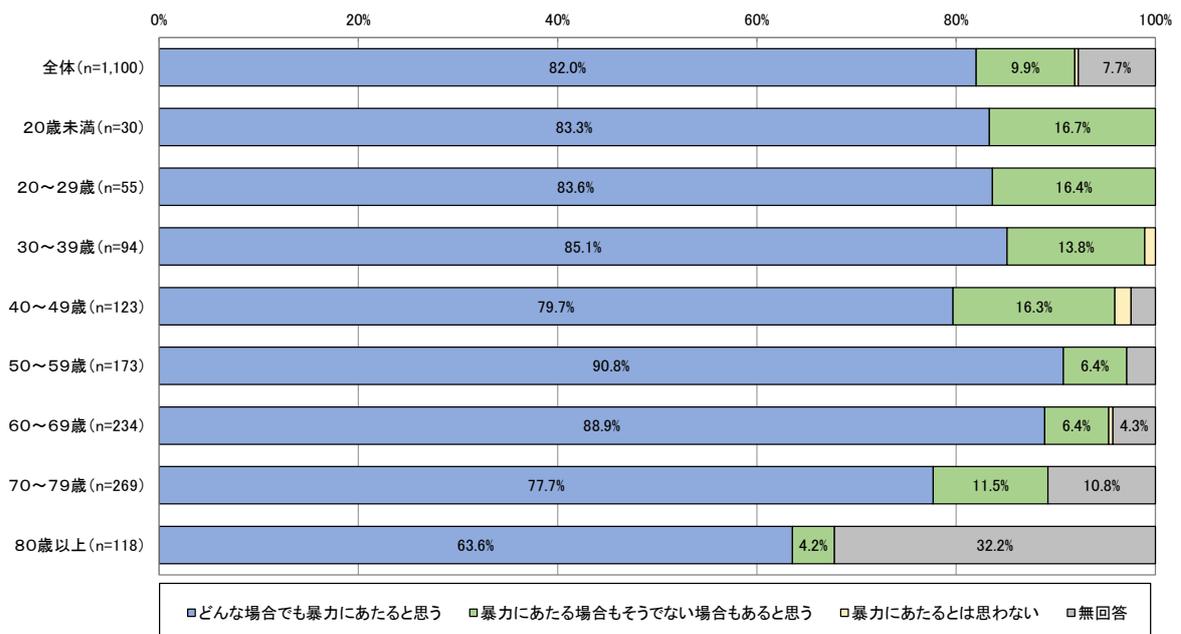
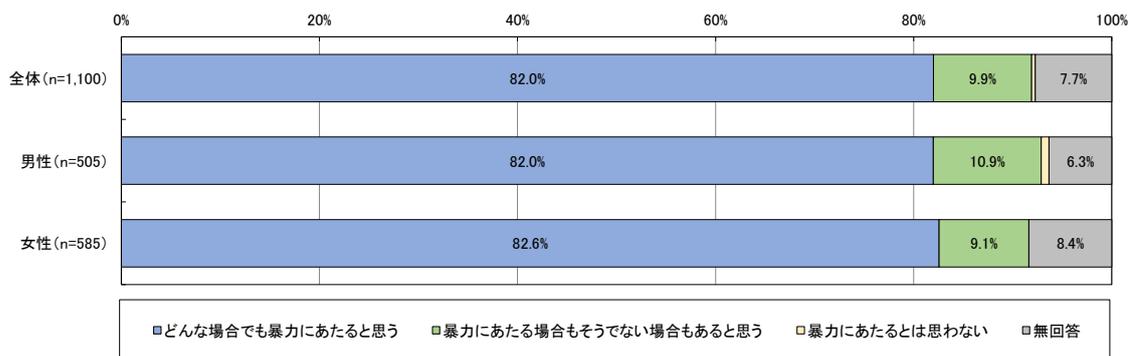
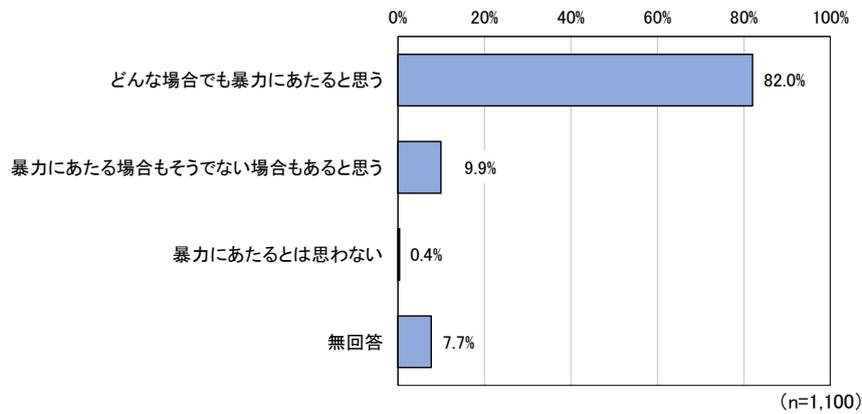
【その他】

- 子供が生まれたら、仕事は辞めると決めていた為（女性、40～49歳）
- 暗黙のルールだった（女性、40～49歳）
- 取得する前に体調不良で退職した（女性、40～49歳）
- 子どもを預けられていて育てていない（女性、50～59歳）
- 子どもを持った時は退職していたので（女性、40～49歳）
- そんな制度がなかった。（男性、50～59歳）
- 自営業であった為（女性、70～79歳）
- 保育サービスと家族の協力（女性、50～59歳）
- 体調をくずした為（女性、50～59歳）
- 祖父母の助勢があった。（男性、70～79歳）
- 育児中は専業主婦だった。（女性、60～69歳）
- 有給を使用して対応していた（男性、50～59歳）
- 子供を預けられる環境がなかった為（女性、70～79歳）
- 就学後の就職だった為（女性、50～59歳）
- 産休として一か月休ませてもらった。（女性、40～49歳）
- 育児に専念（女性、40～49歳）
- 子供が成長してから働き始めた（女性、50～59歳）
- 子供を育てたかった。一緒に大きくなる迄いたかった。（女性、70～79歳）
- 子どもナシ（男性、70～79歳）

問31 あなたは、次の項目にあることが、配偶者や恋人の間で行われた場合、暴力だと思いますか。
 (〇は各項目からあなたの考えに近いもの1つずつ)

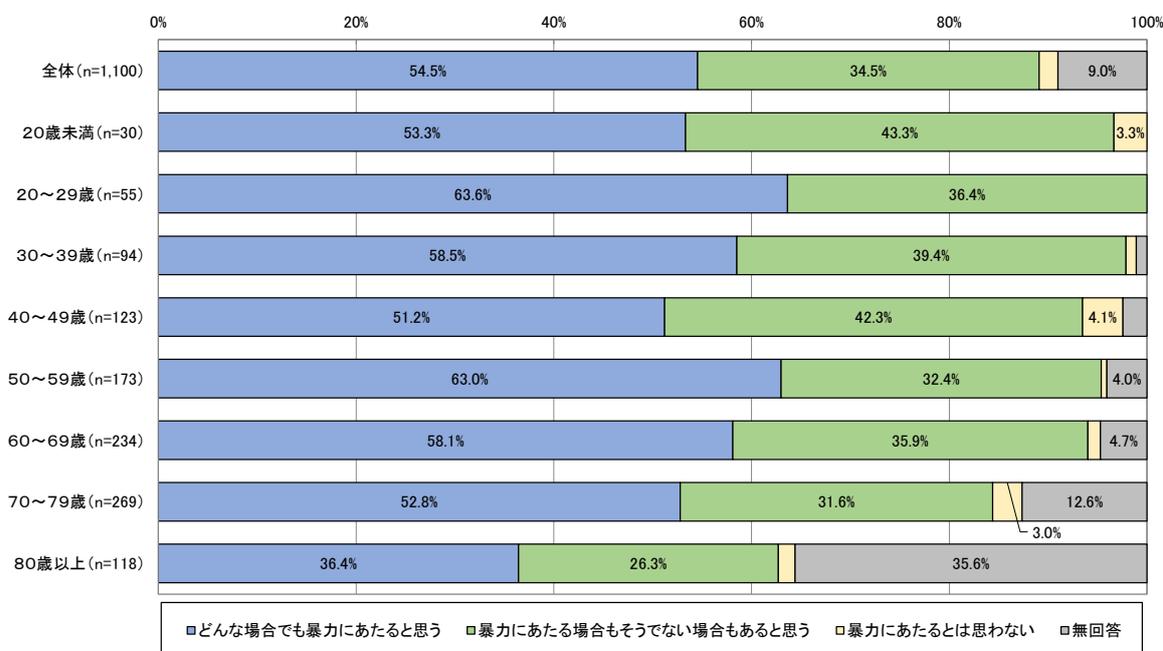
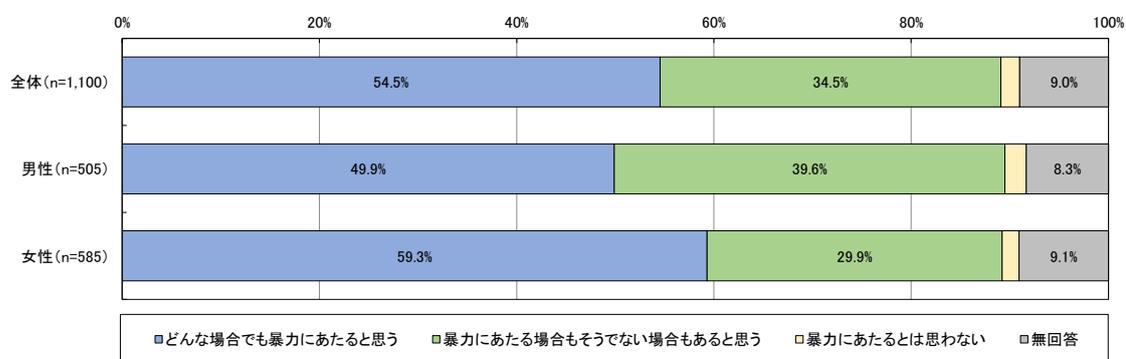
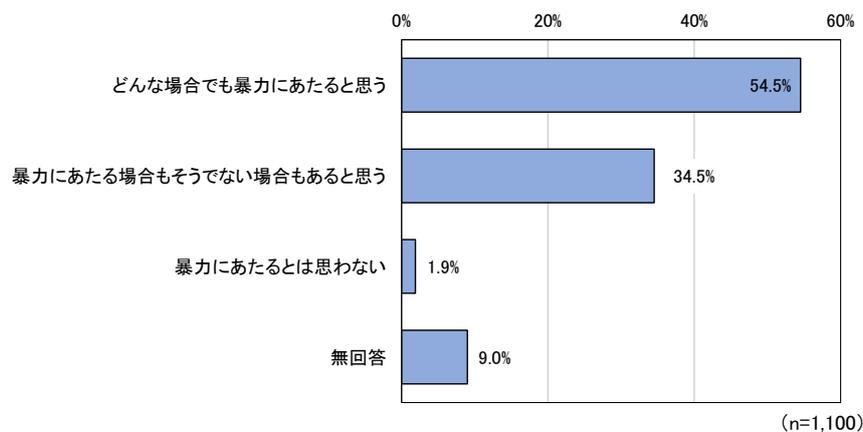
【なぐる・たたく・蹴る】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が82.0%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が9.9%となっています。



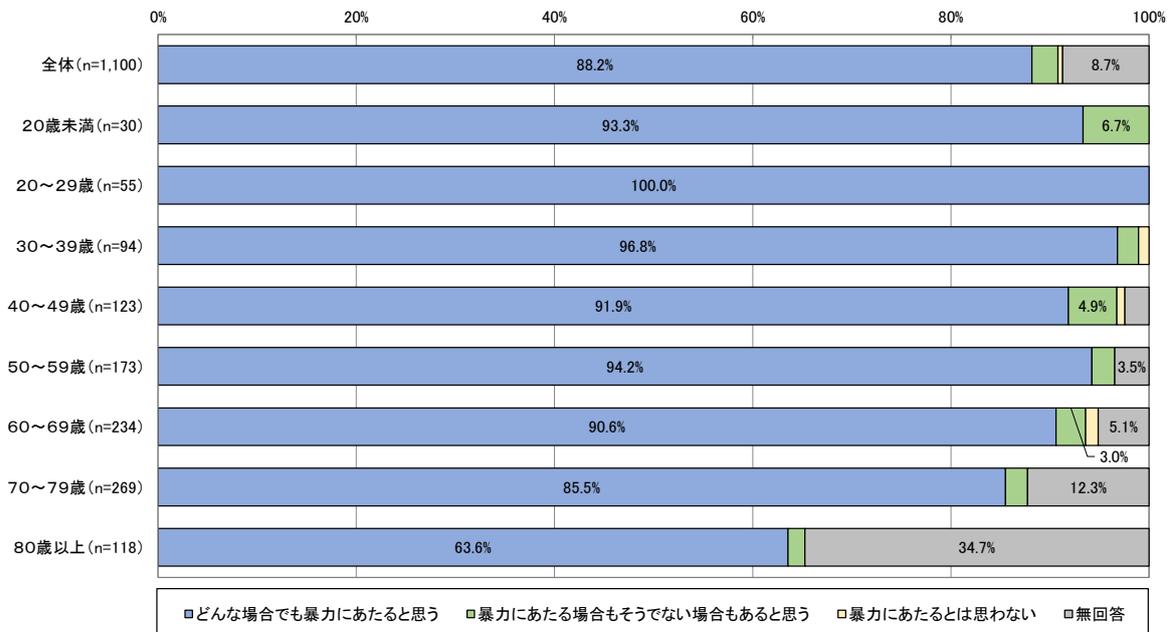
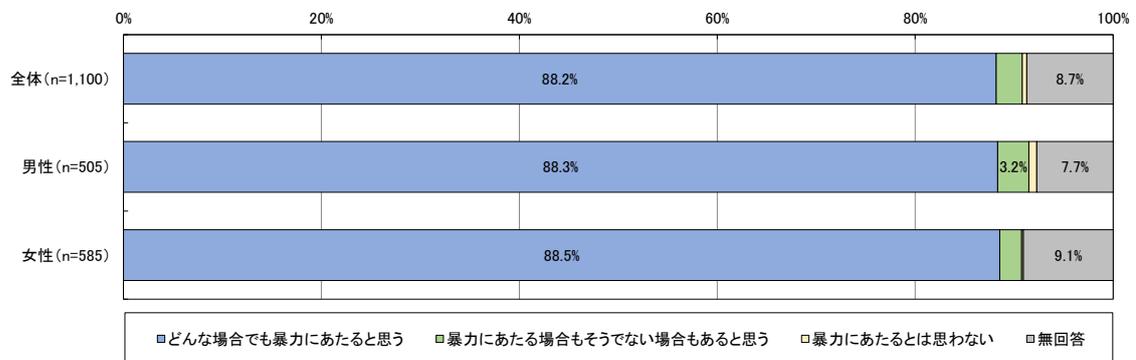
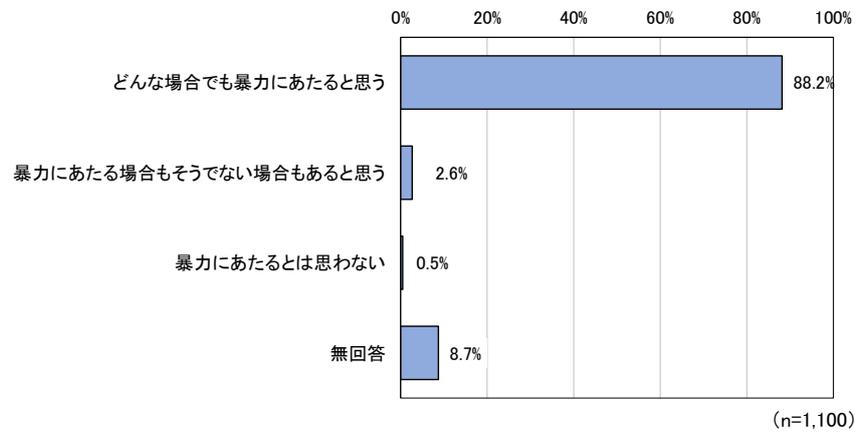
【腕をつかむ・ひねる】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が54.5%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が34.5%となっています。



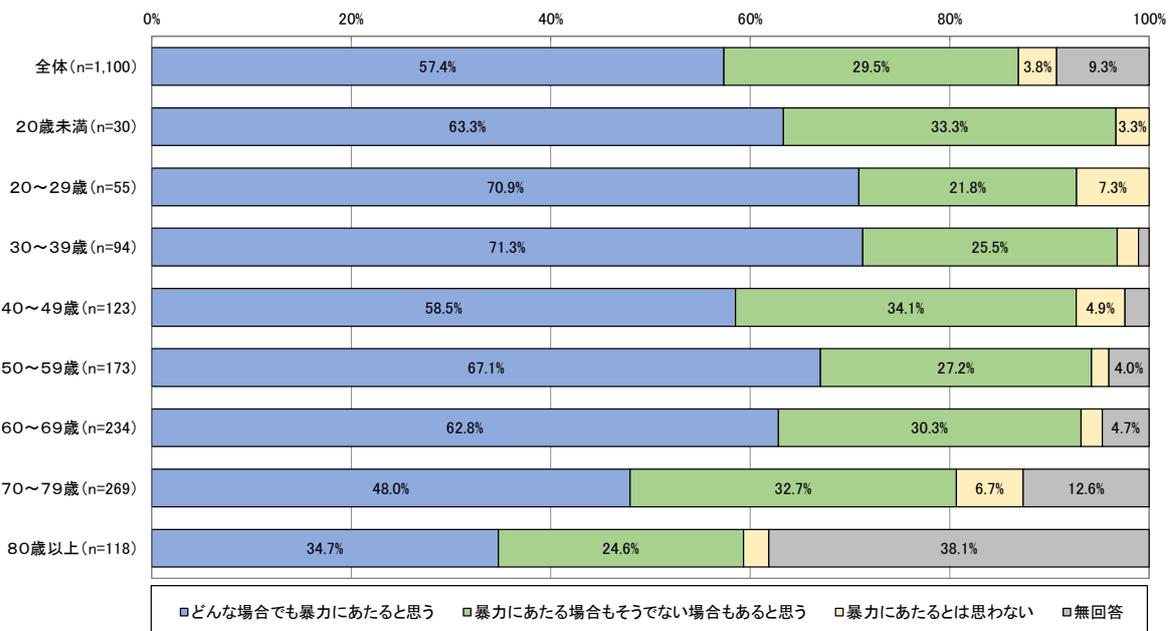
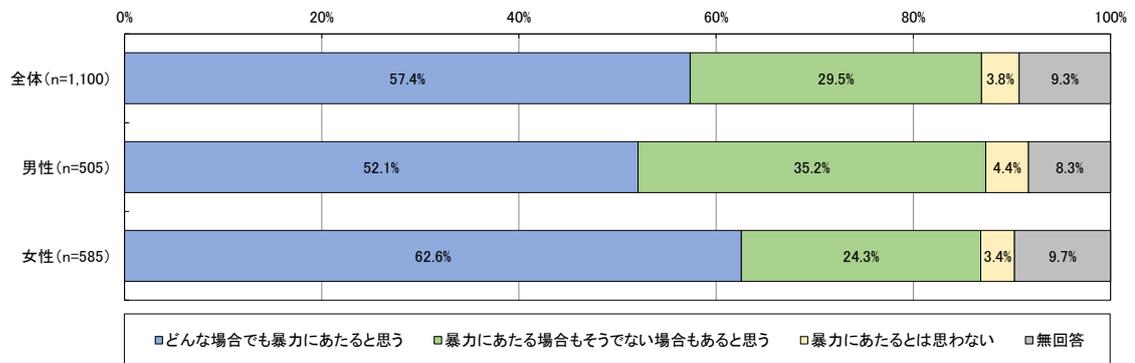
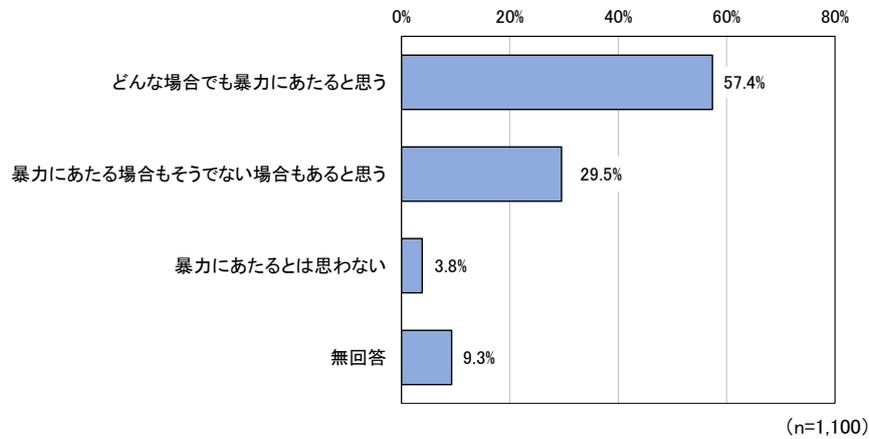
【身体を傷つける可能性のある物でなくる】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が88.2%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が2.6%となっています。



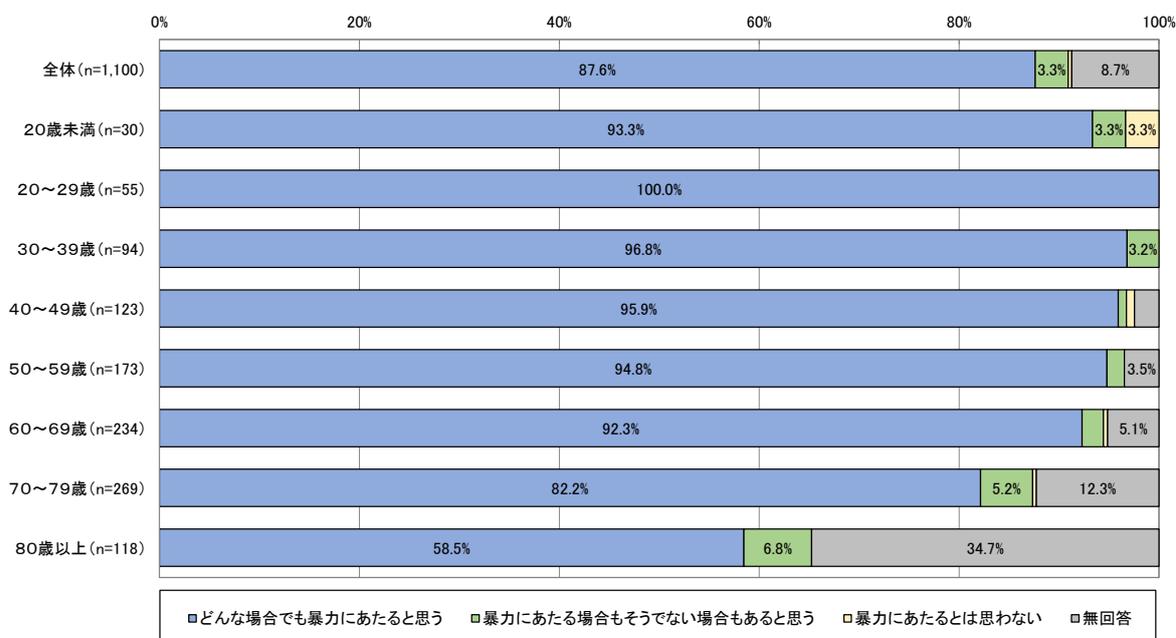
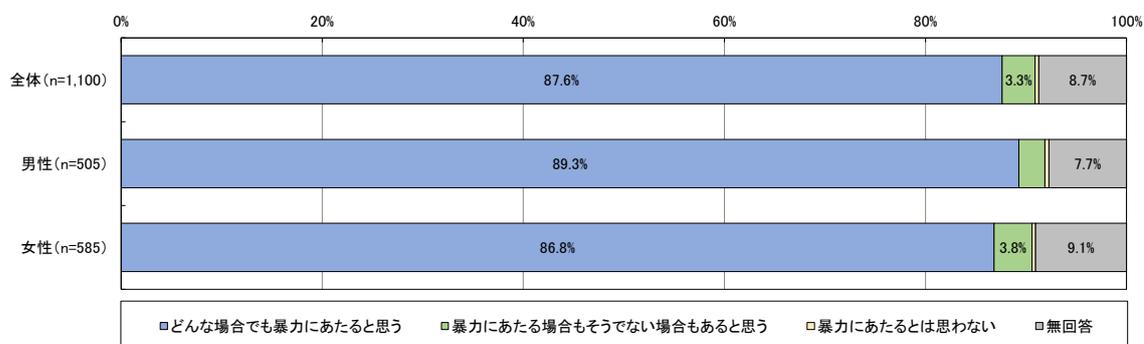
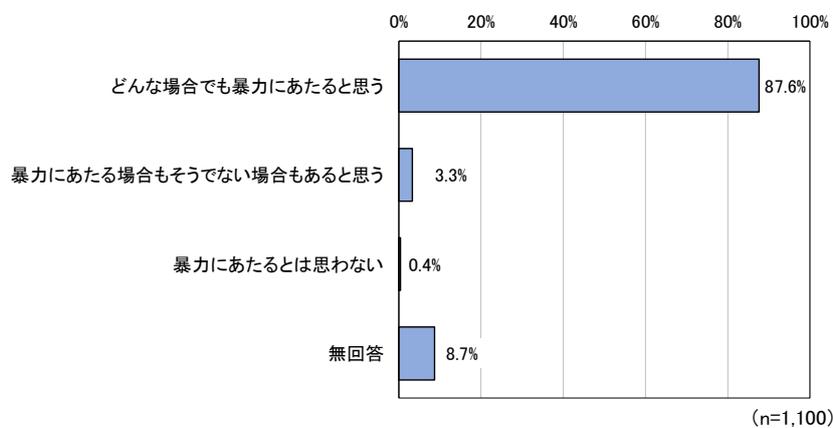
【なぐるふりをして、おどす】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が57.4%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が29.5%となっています。



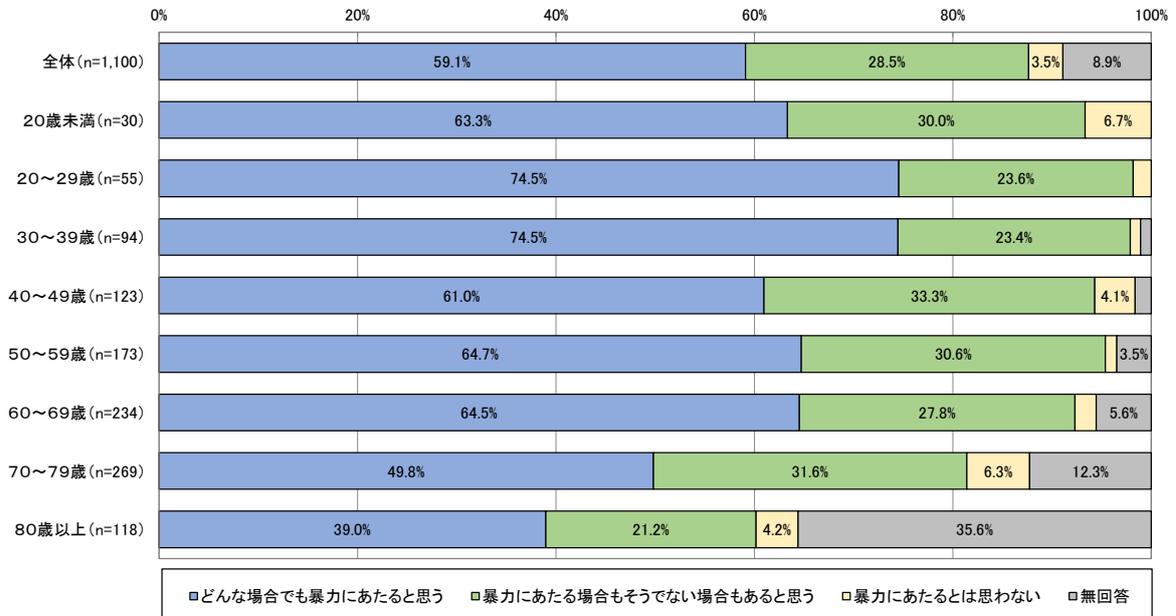
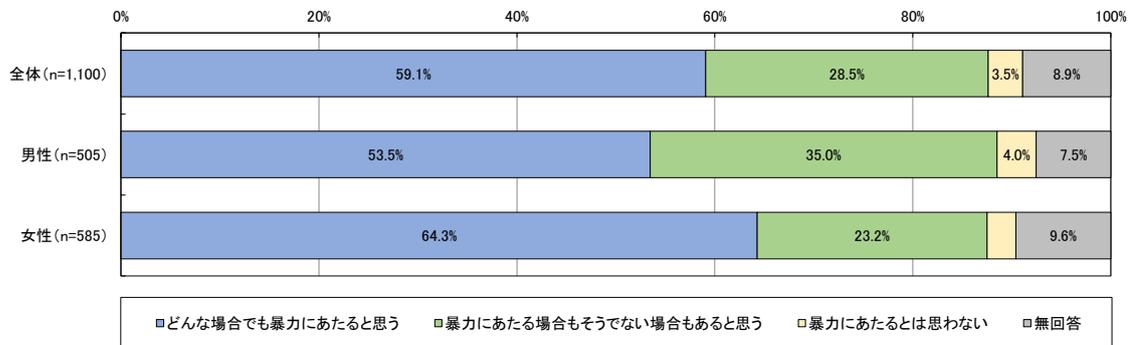
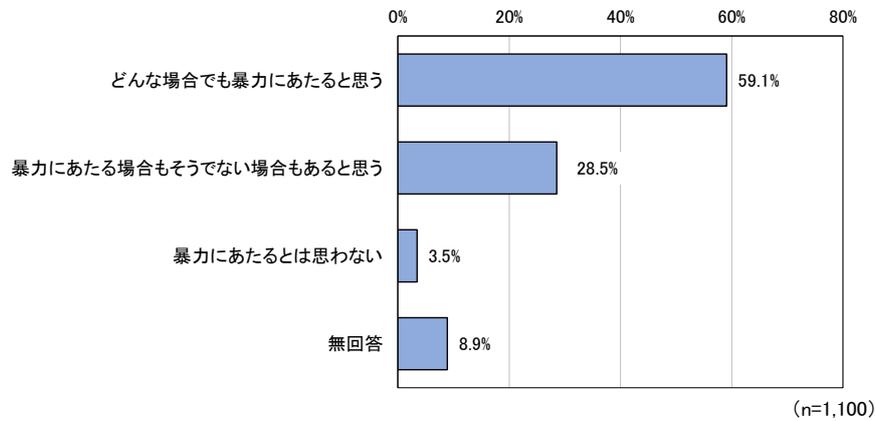
【刃物などを突き付けて、おどす】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が87.6%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が3.3%となっています。



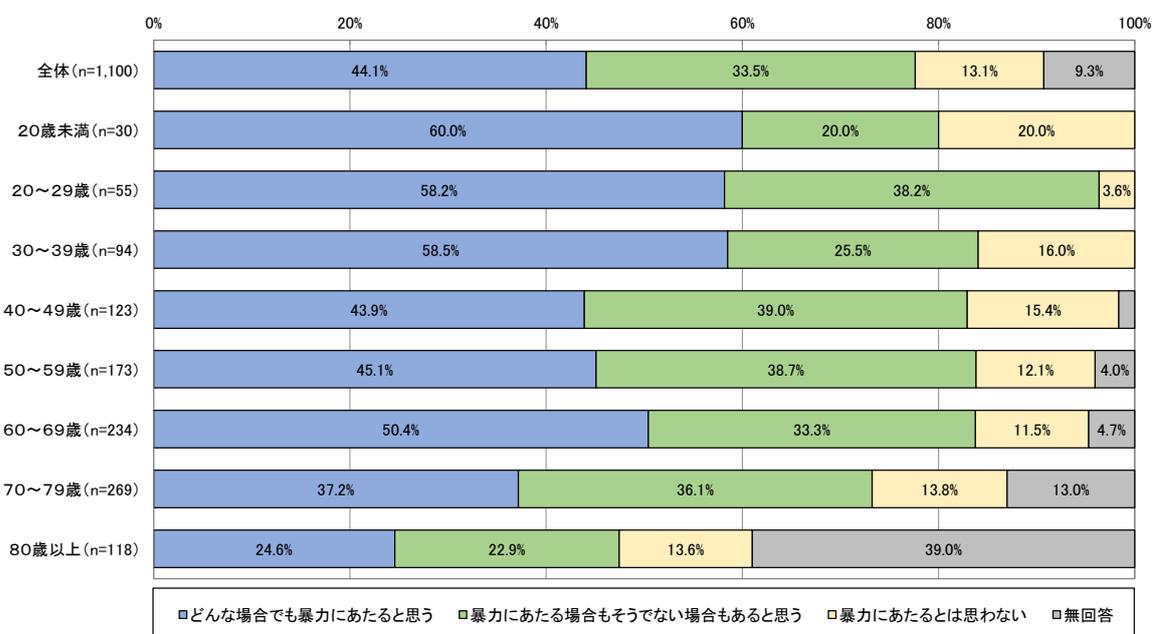
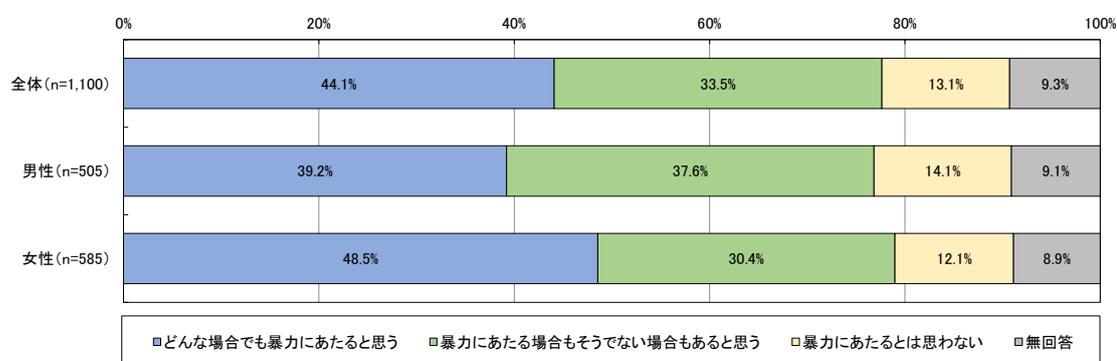
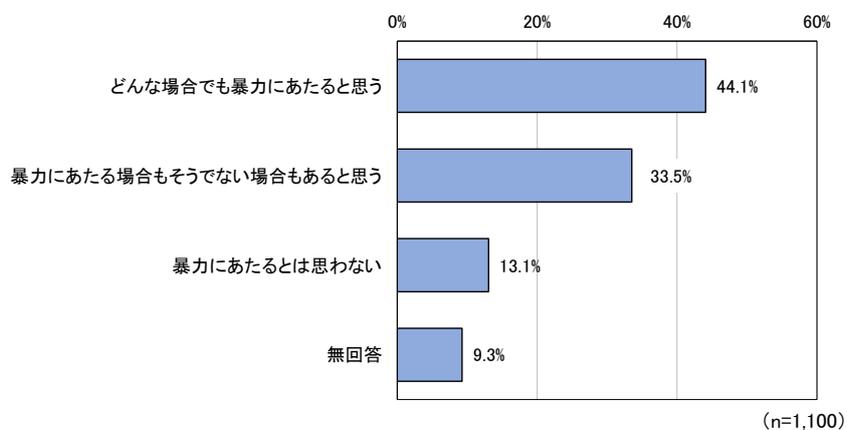
【大声でどなる・バカにする】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が59.1%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が28.5%となっています。



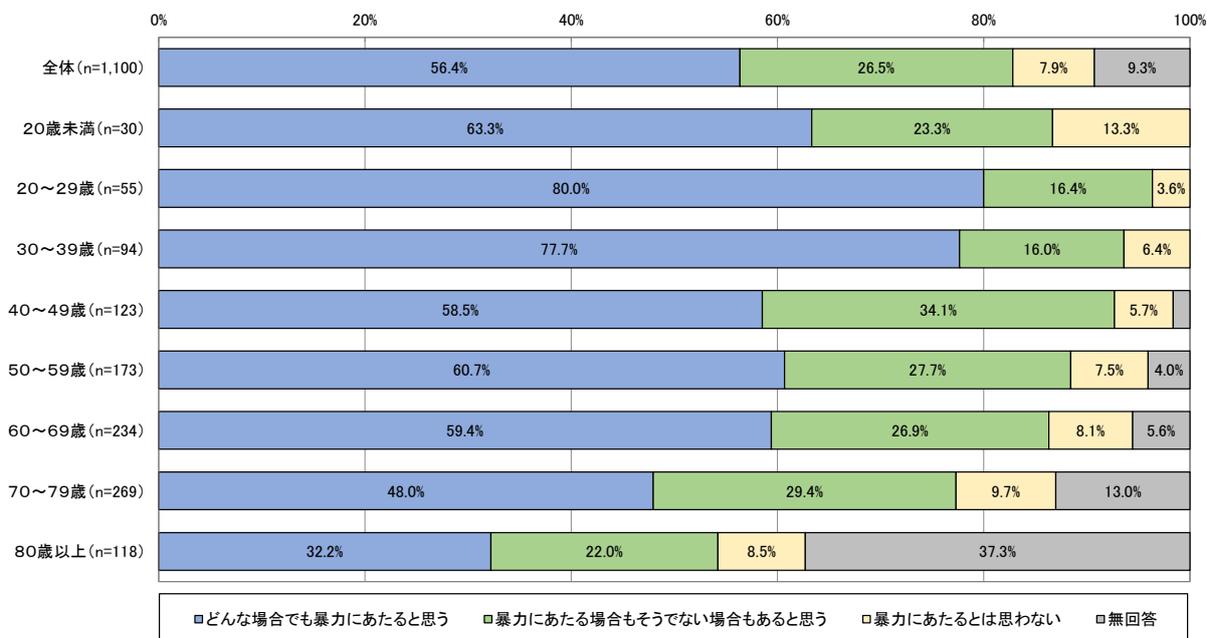
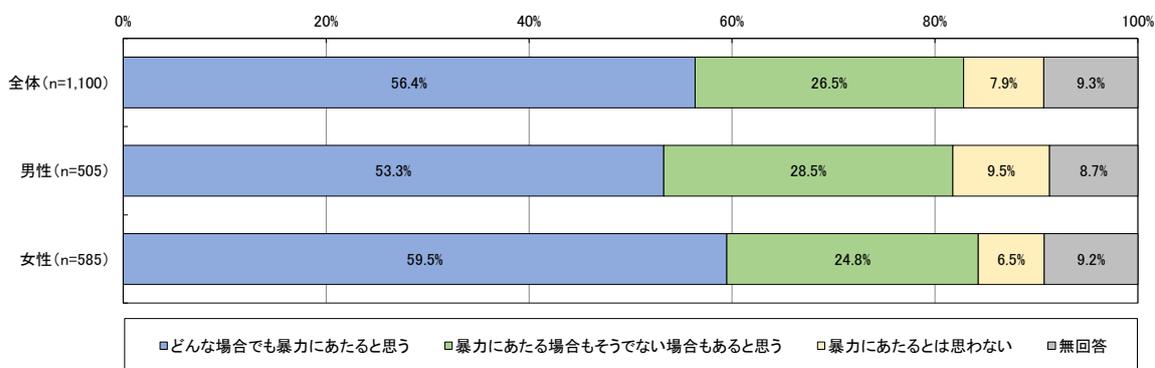
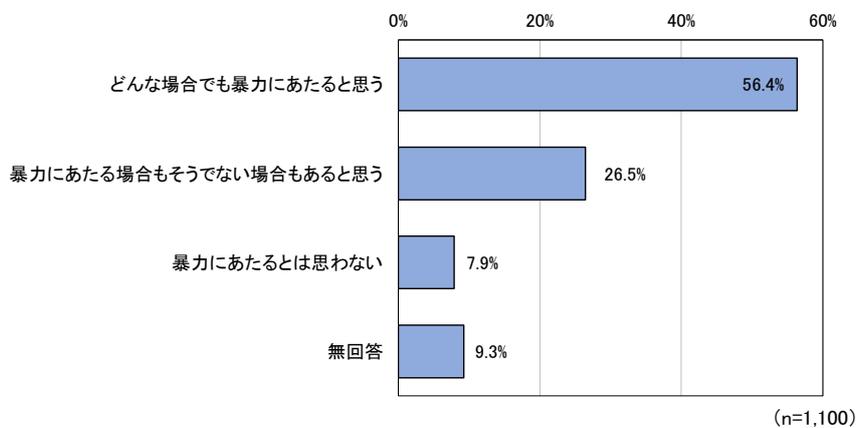
【他の異性との会話を許さない】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が44.1%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が33.5%となっています。



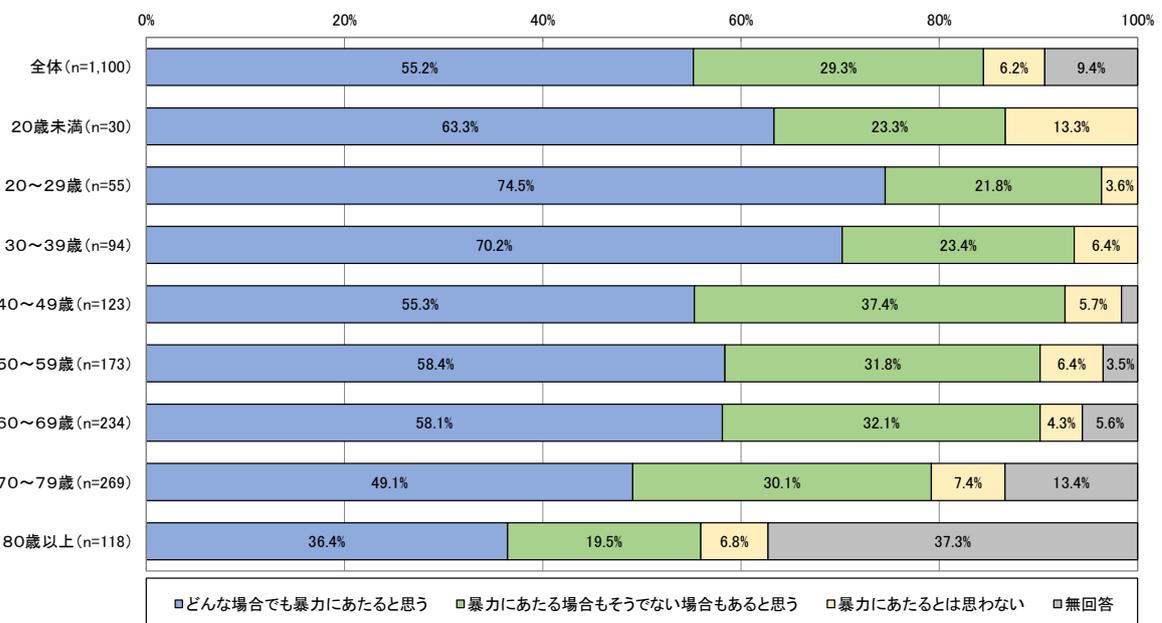
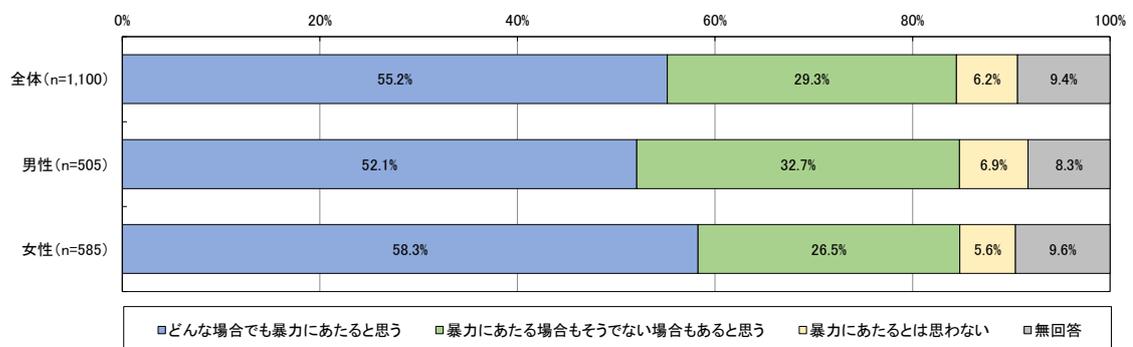
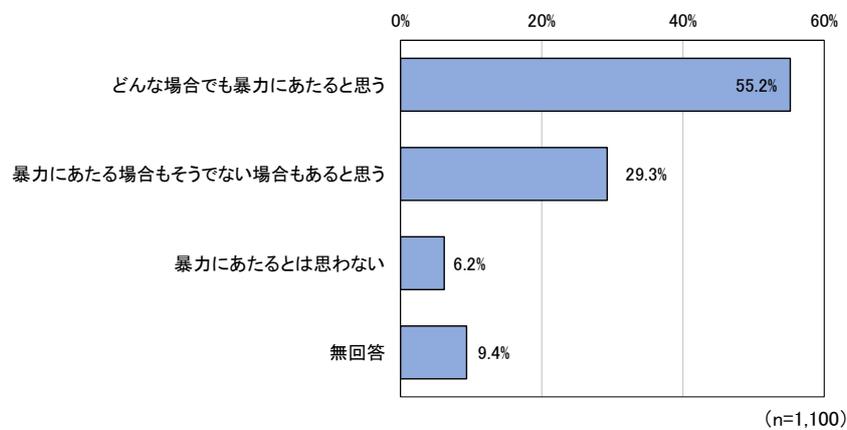
【家族や友人との関りをもたせない】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が56.4%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が26.5%となっています。



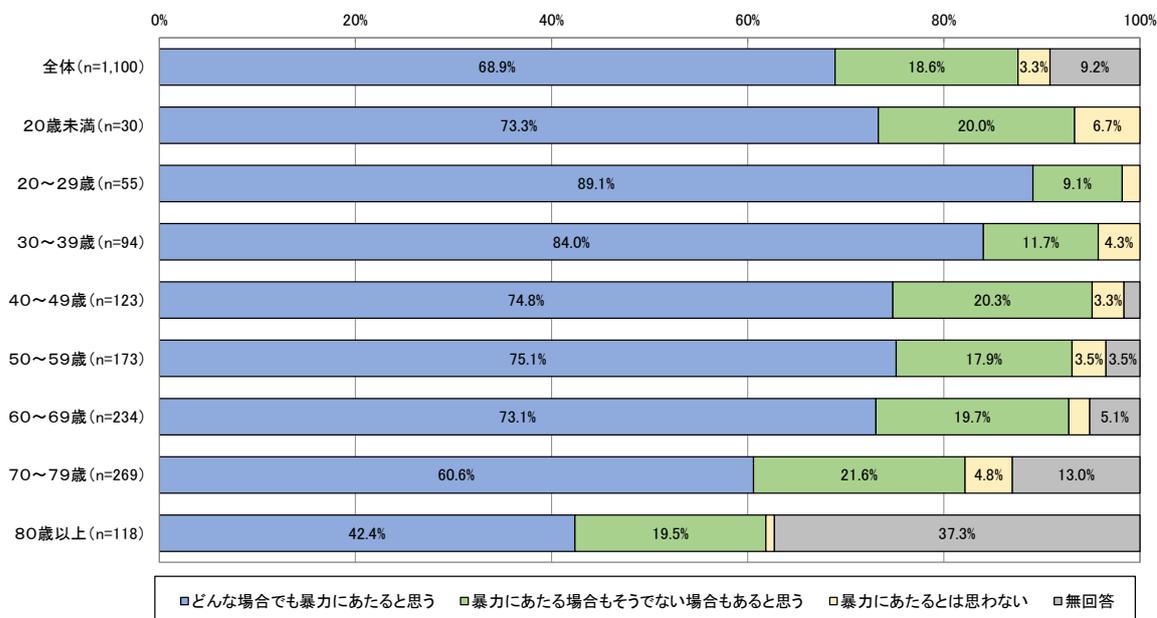
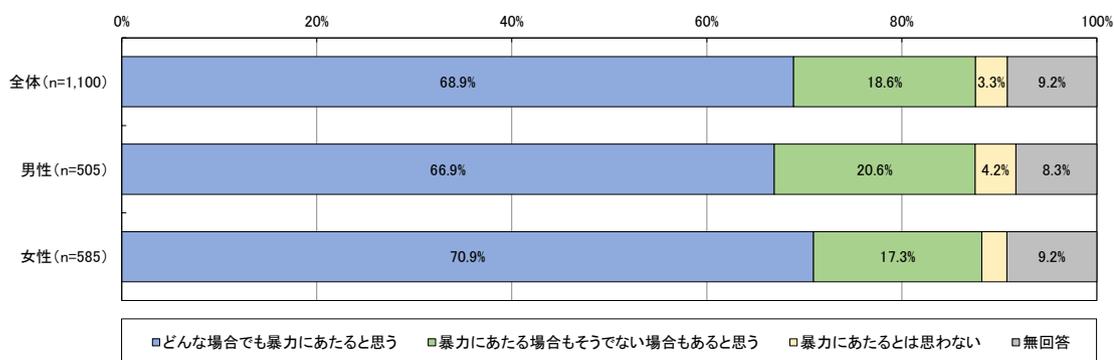
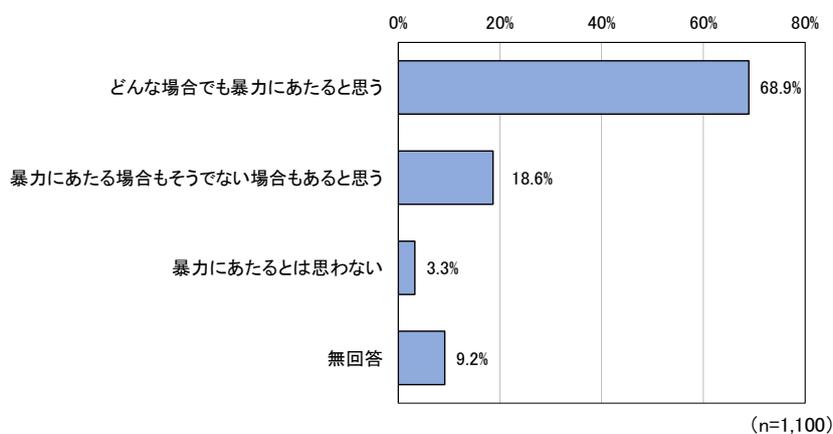
【交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が55.2%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が29.3%となっています。



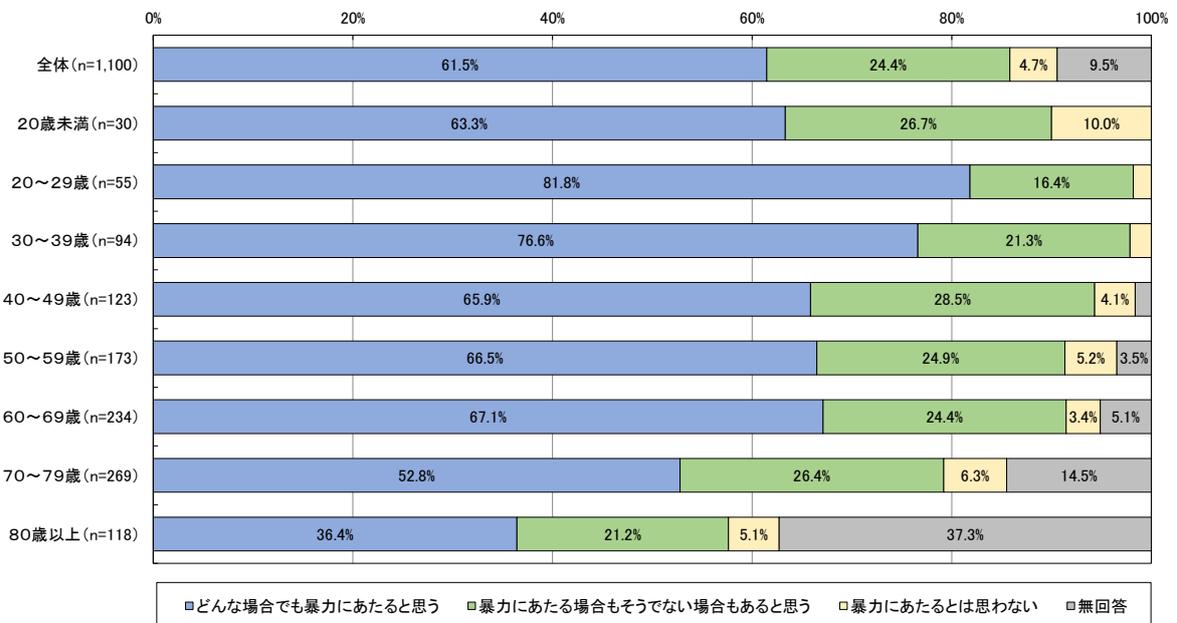
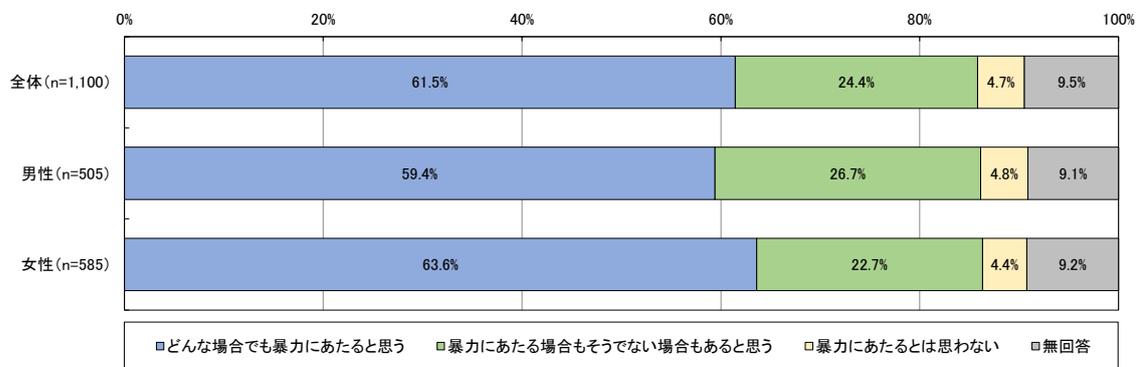
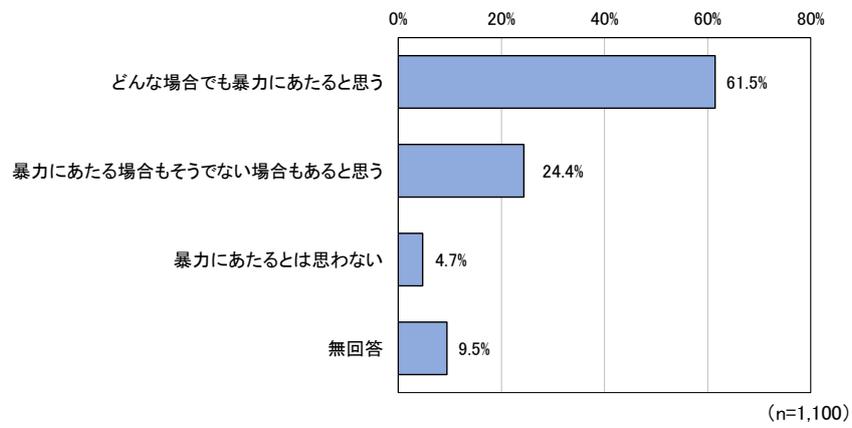
【職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が68.9%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が18.6%となっています。



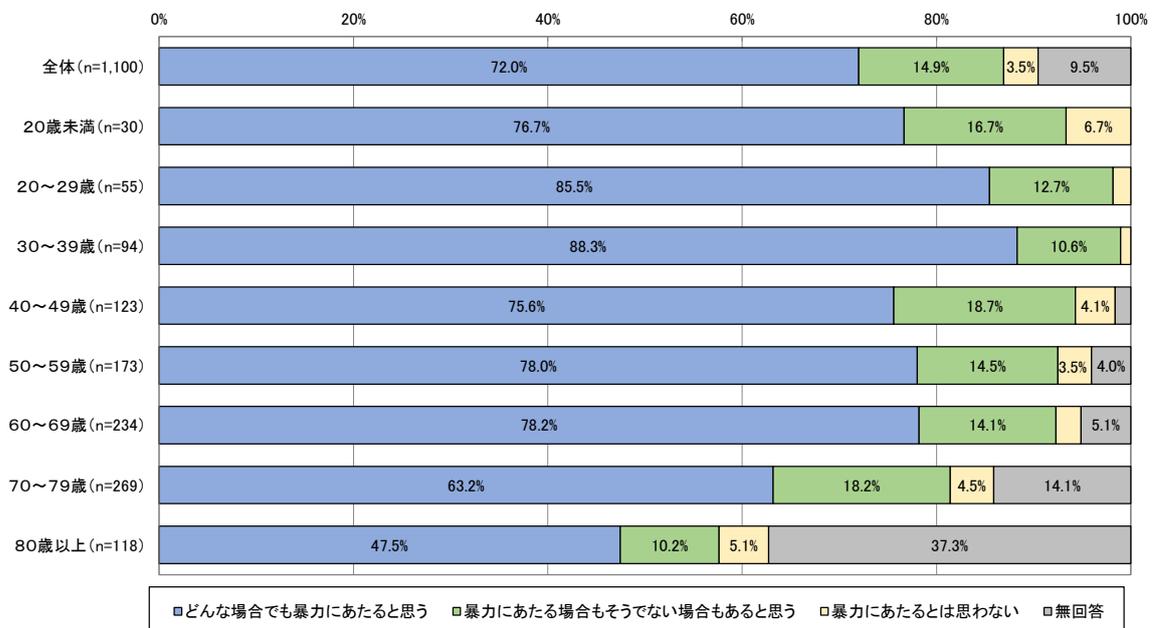
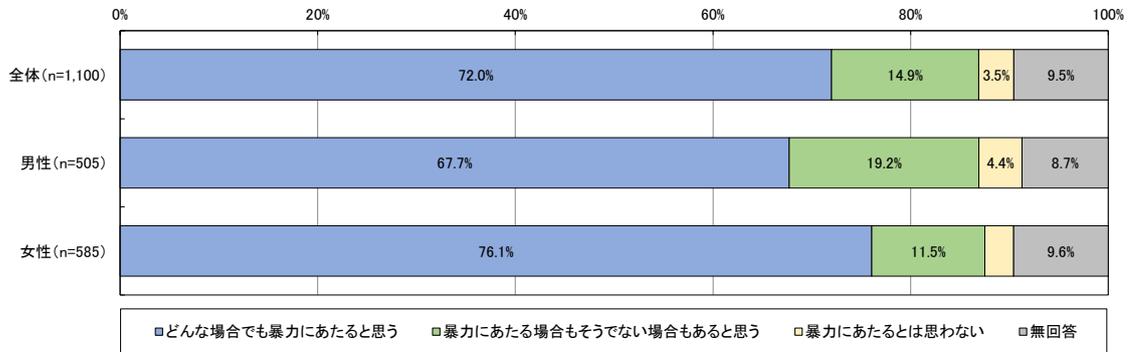
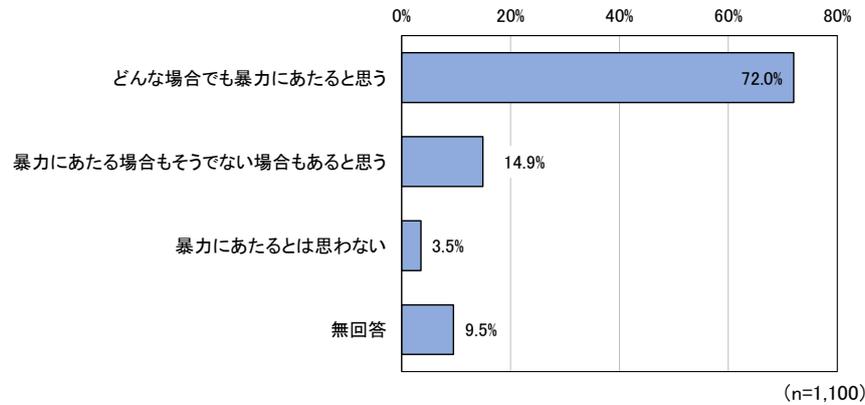
【何を言っても無視し続ける】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が61.5%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が24.4%となっています。



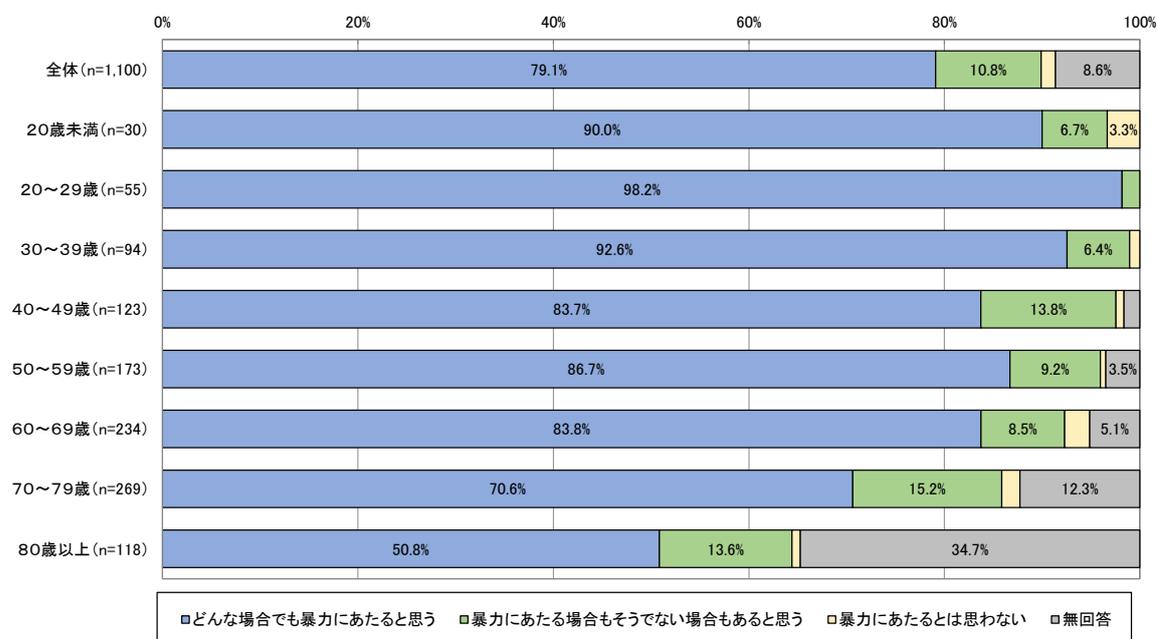
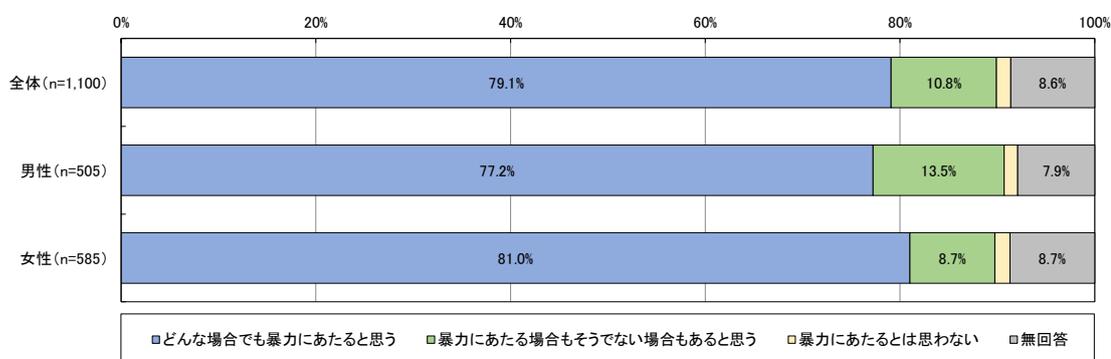
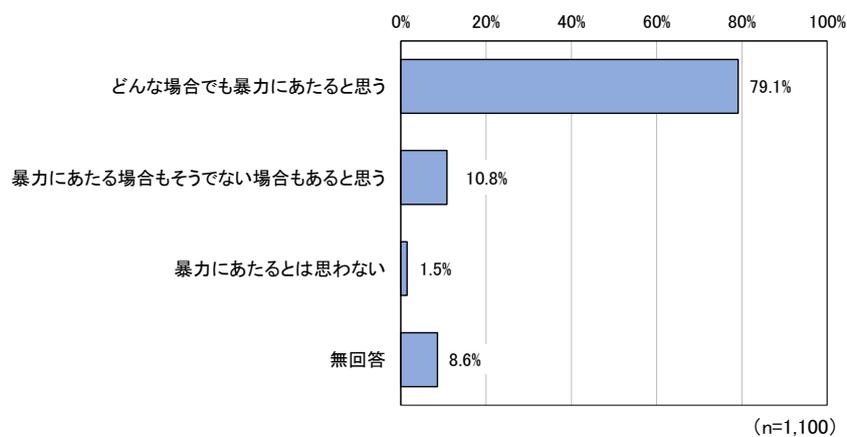
【生活費を渡さない・貯金を勝手に使う】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が72.0%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が14.9%となっています。



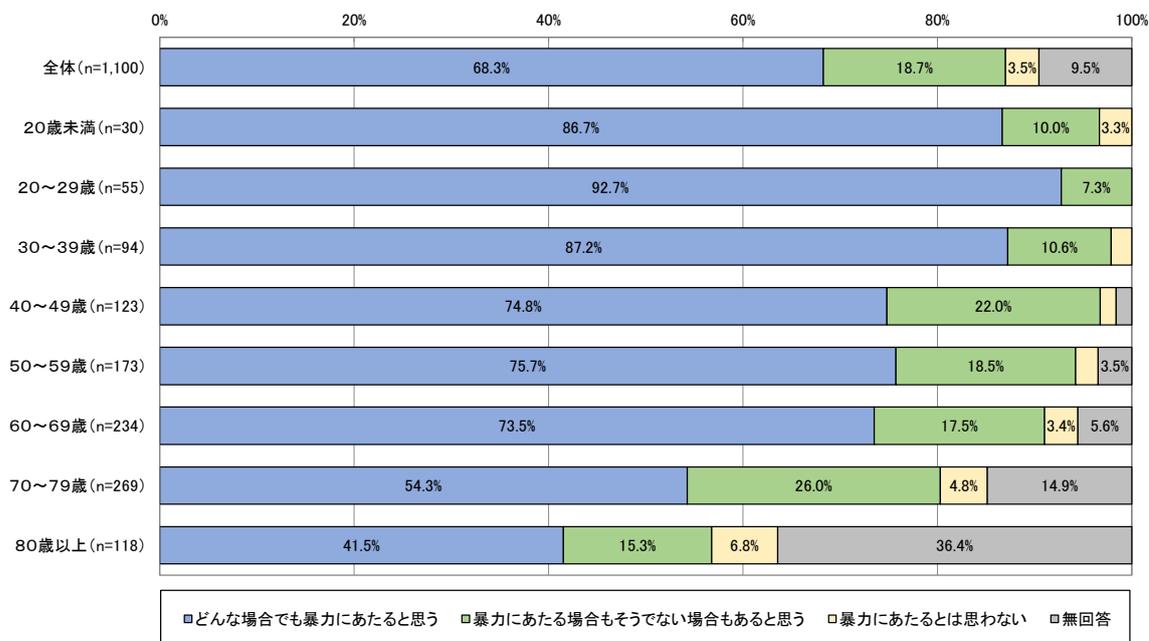
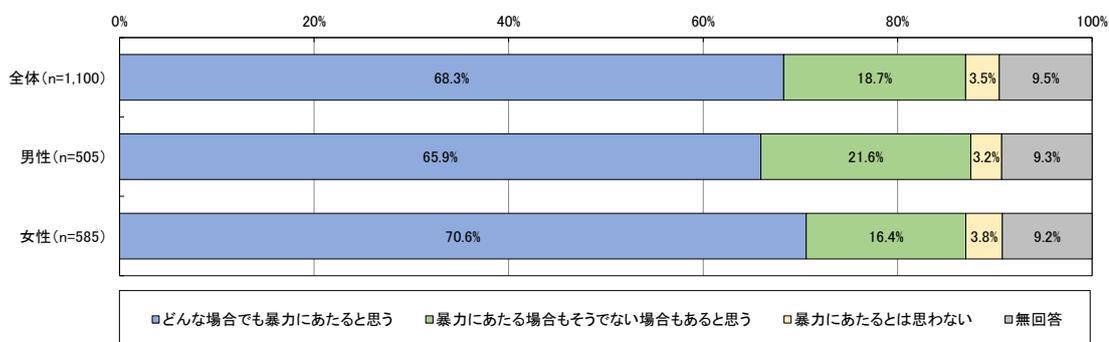
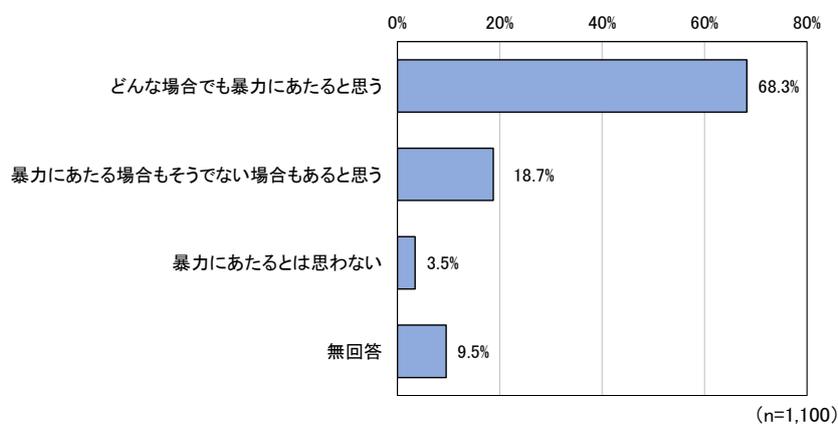
【嫌がっているのに性的な行為を強要する】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が79.1%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が10.8%となっています。



【避妊に協力しない】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が68.3%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が18.7%となっています。

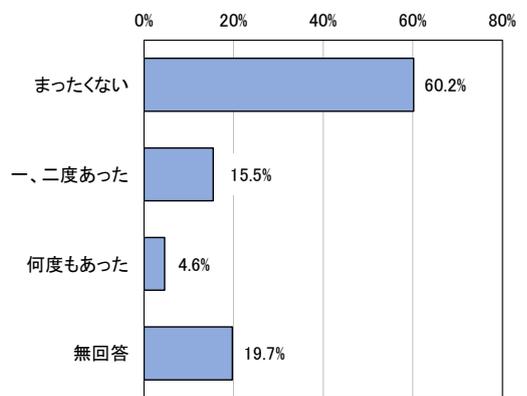


問32 【結婚している、結婚していた方、(事実婚含む)交際の経験がある方にうかがいます】あなたはこれまでに、配偶者や恋人から次の項目のようなことをされたことがありますか。(〇は各項目から1つずつ)

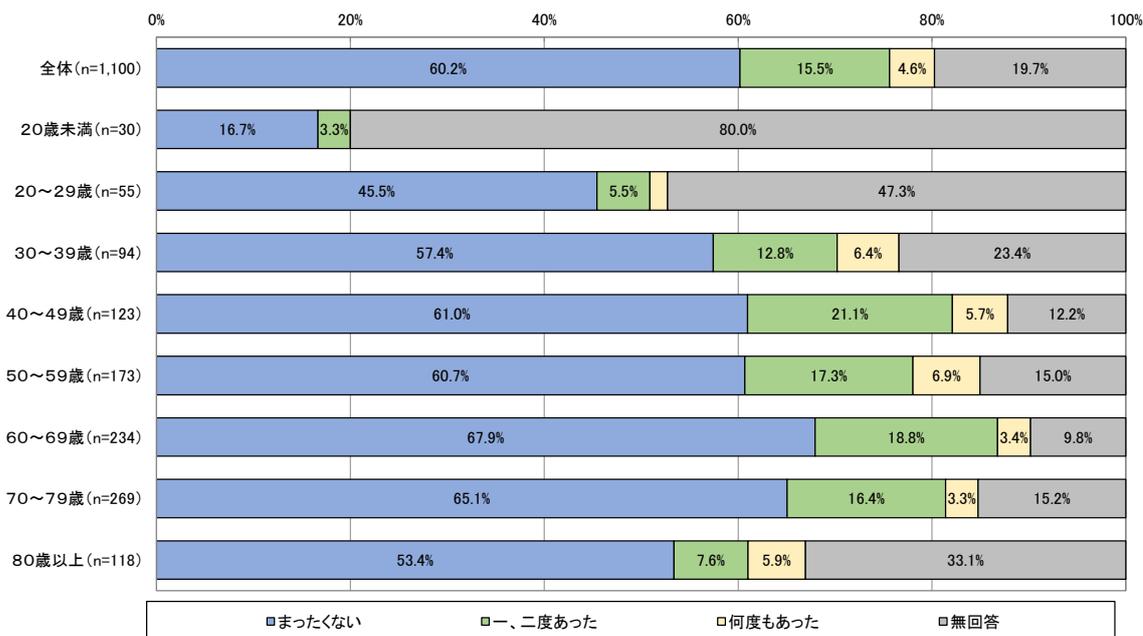
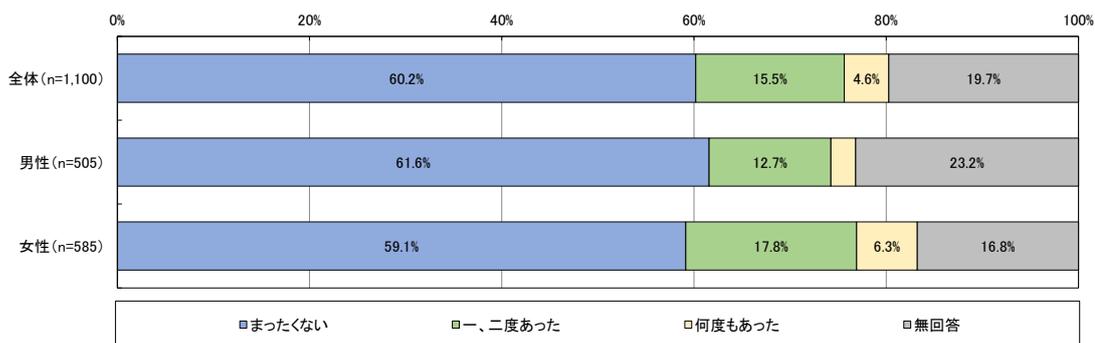
【身体的暴力】

(なぐったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)

「まったくない」が60.2%と最も多く、次いで「一、二度あった」が15.5%となっています。



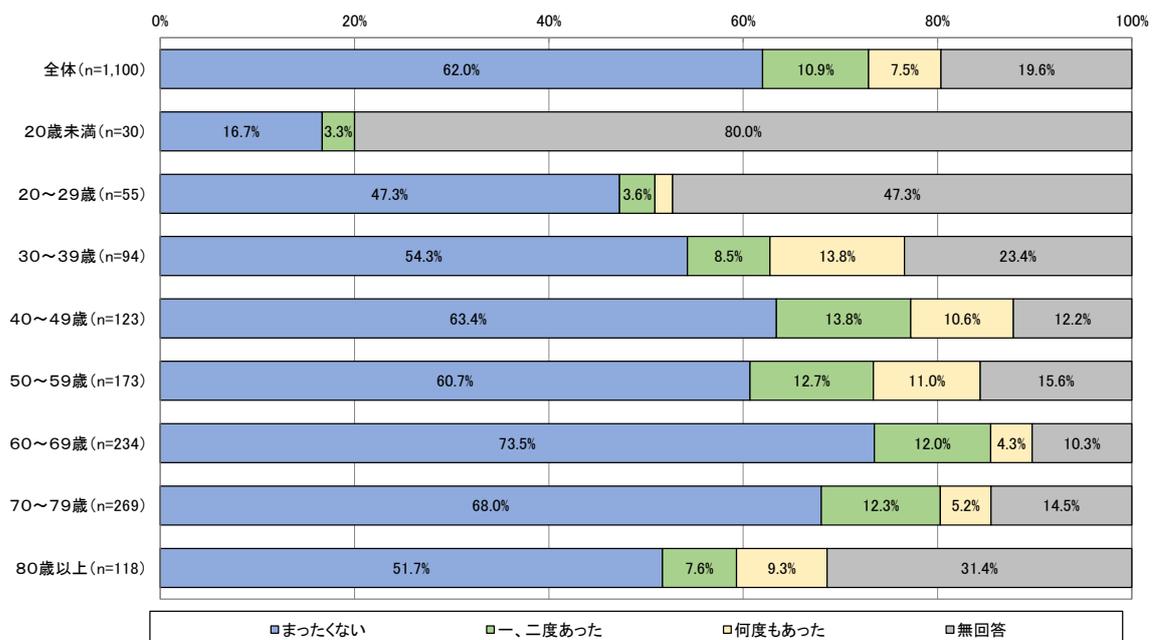
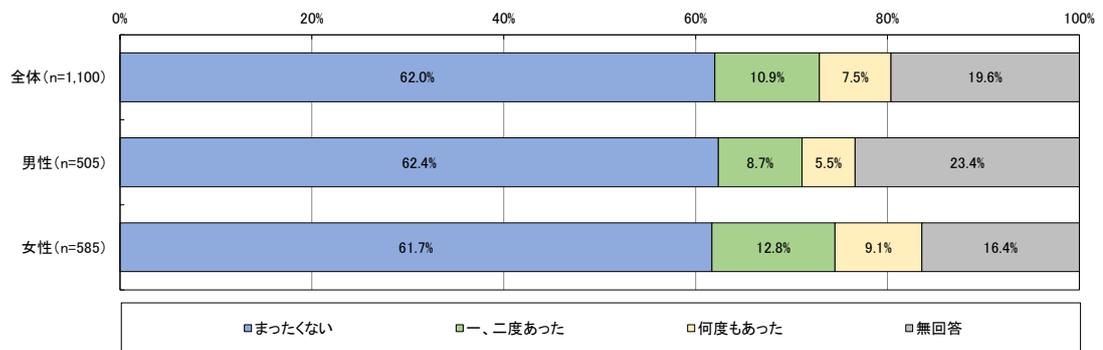
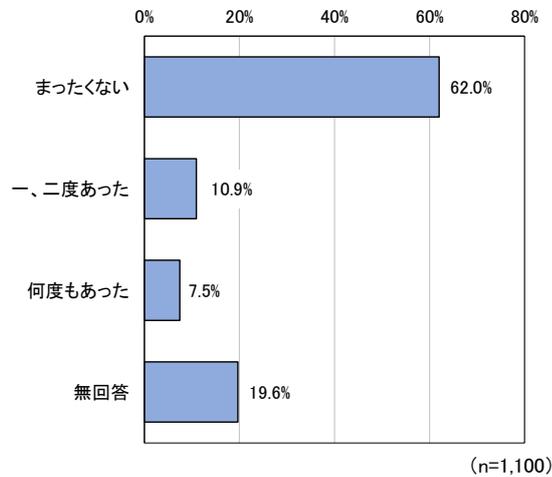
(n=1,100)



【精神的暴力】

(人格を否定するような暴言、交友関係の行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じる脅迫など)

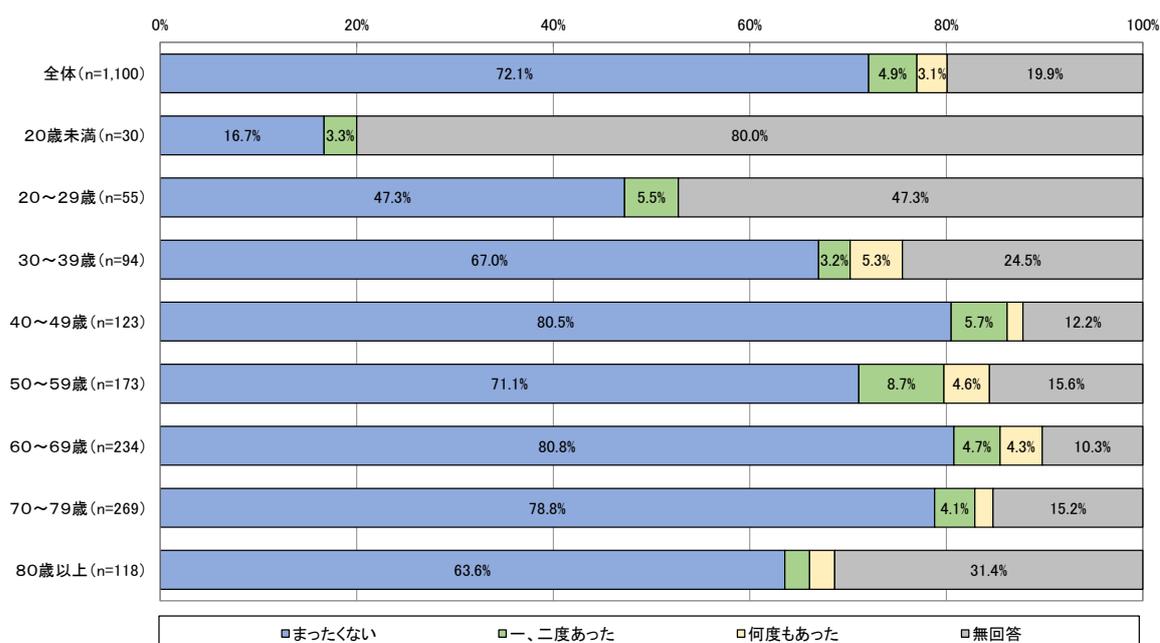
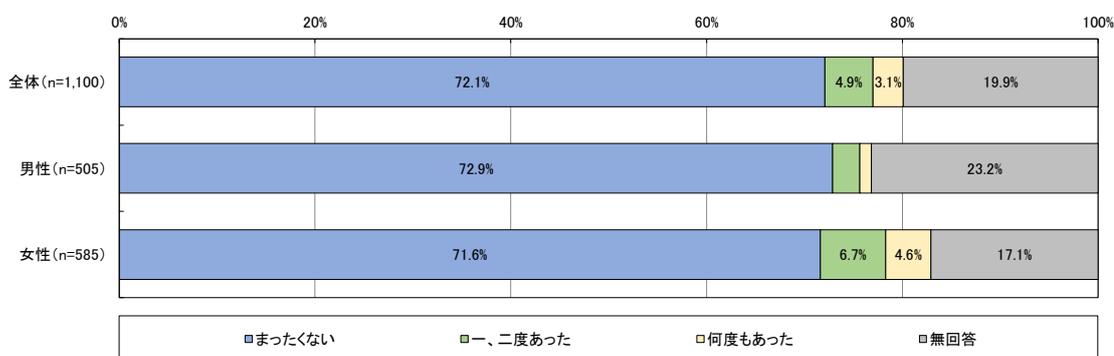
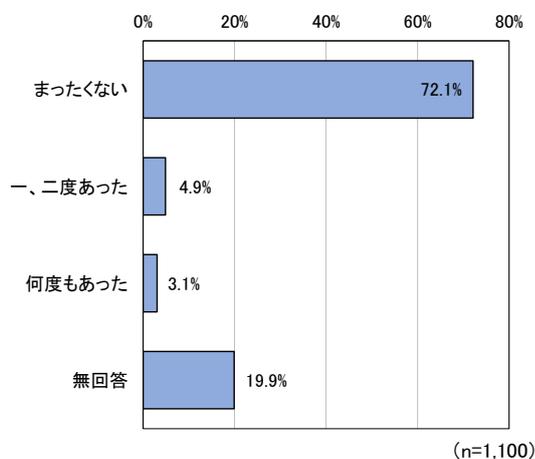
「まったくない」が62.2%と最も多く、次いで「一、二度あった」が10.9%となっています。



【経済的暴力】

(デート代をむりやり払わされる、生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど)

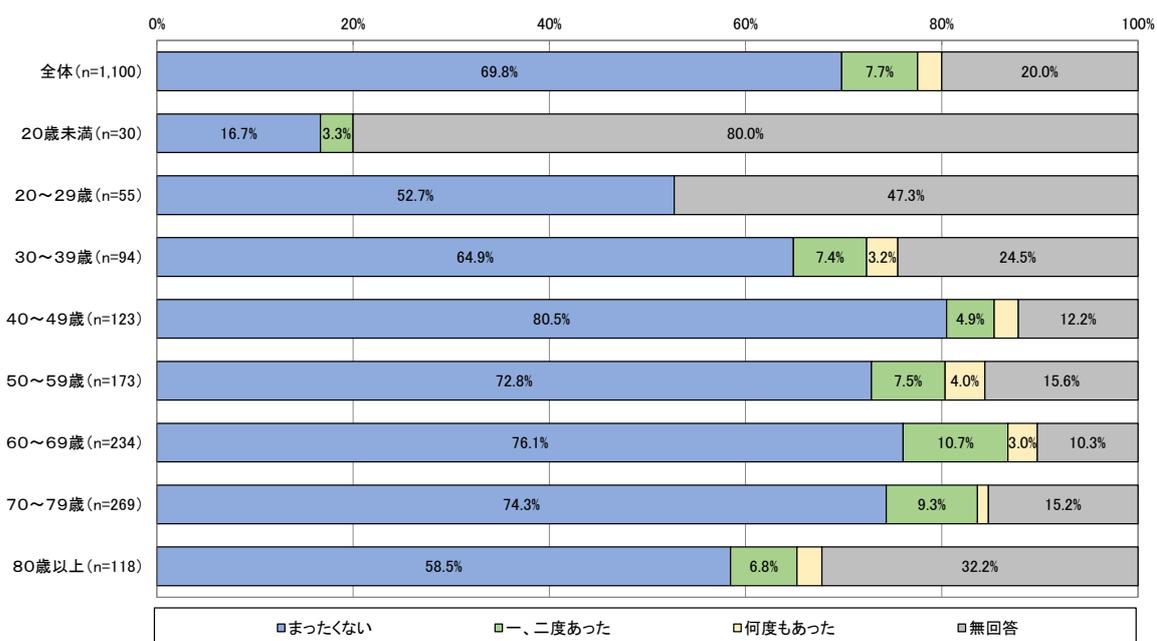
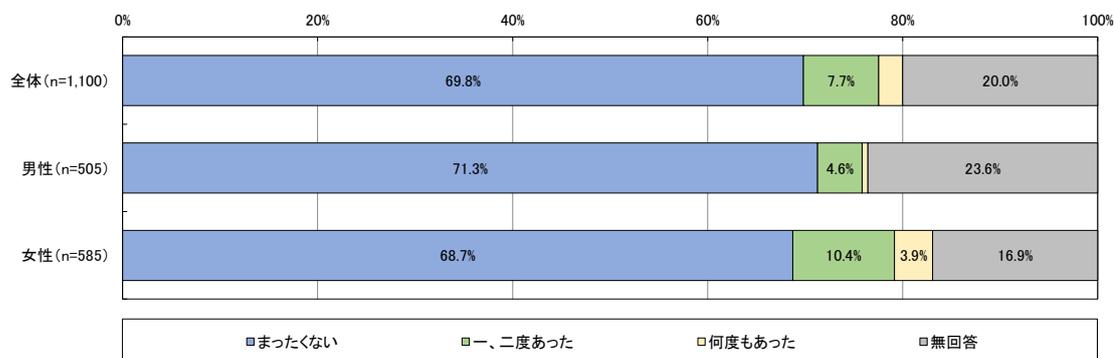
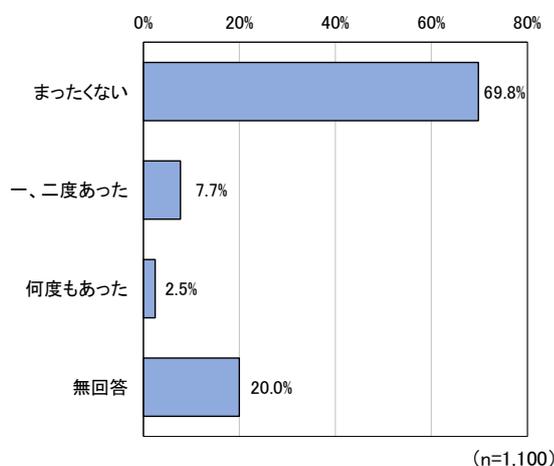
「まったくない」が72.1%と最も多く、次いで「一、二度あった」が4.9%となっています。



【性的暴力】

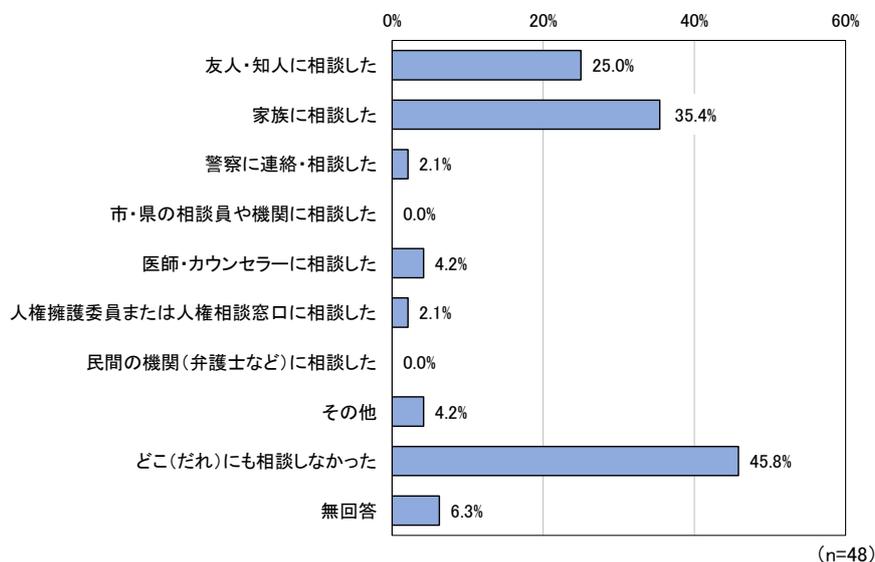
(嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)

「まったくない」が69.8%と最も多く、次いで「一、二度あった」が7.7%となっています。



問33 【問32で「一、二度あった」「何度もあった」と答えた方にうかがいます】あなたは、そのことをだれかに打ち明けるか、相談したことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

「どこ（だれ）にも相談しなかった」が45.8%と最も多く、次いで「家族に相談した」が35.4%、「友人・知人に相談した」が25.0%となっています。



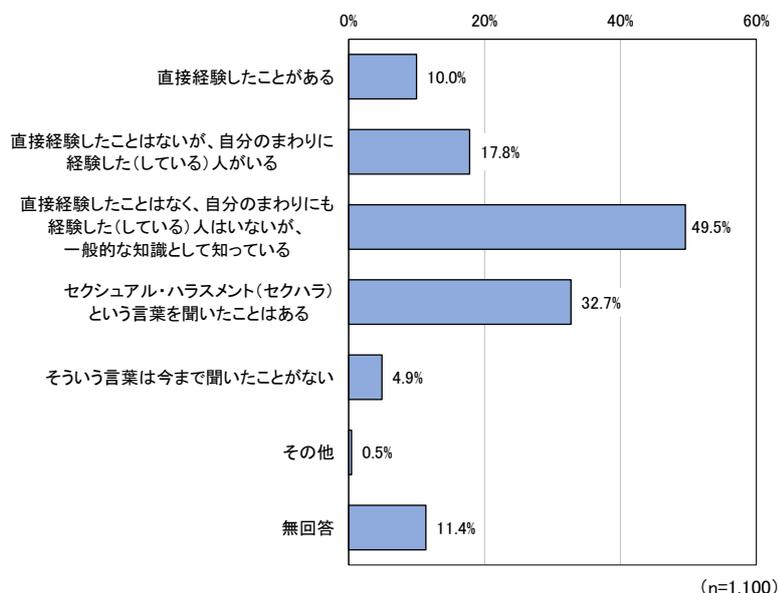
		友人・知人に相談した	家族に相談した	警察に連絡・相談した	市・県の相談員や機関に相談した	医師・カウンセラーに相談した	人権擁護委員または人権相談窓口相談した	弁護士など	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答
【性別】	全体(n=48)	25.0%	35.4%	2.1%	0.0%	4.2%	2.1%	0.0%	4.2%	45.8%	6.3%
	男性(n=12)	25.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	58.3%	16.7%
	女性(n=34)	23.5%	44.1%	2.9%	0.0%	5.9%	2.9%	0.0%	5.9%	41.2%	2.9%
	無回答(n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
【年齢別】	全体(n=48)	25.0%	35.4%	2.1%	0.0%	4.2%	2.1%	0.0%	4.2%	45.8%	6.3%
	20歳未満(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	20～29歳(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30～39歳(n=6)	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%
	40～49歳(n=5)	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	20.0%
	50～59歳(n=11)	18.2%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	36.4%	9.1%
	60～69歳(n=13)	30.8%	38.5%	7.7%	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%	7.7%	38.5%	7.7%
	70～79歳(n=9)	33.3%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	44.4%	0.0%
	80歳以上(n=2)	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	無回答(n=1)	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【その他】

- お世話になっている先生（女性、60～69歳）
- 姉（女性、70～79歳）

問34 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）による被害を経験したり、身近で見聞きしたことがありますか。（○はあてはまるものすべて）

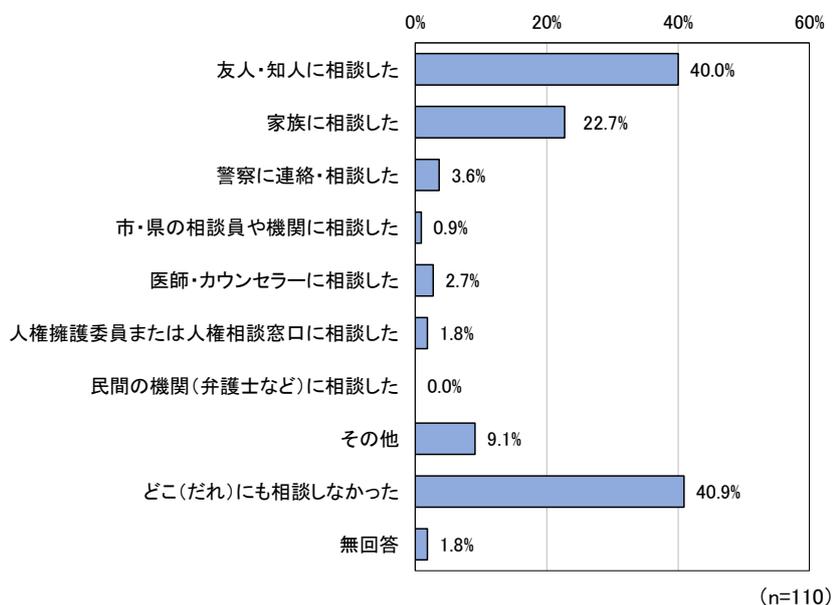
「直接経験したことはなく、自分の周りにも経験した（している）人はいないが、一般的な知識として知っている」が49.5%と最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメントという言葉聞いたことはある」が32.7%、「直接経験したことはないが、自分の周りに経験した（している）人がいる」が17.8%となっています。



		直接経験したことがある	直接経験したことはないが、自分の周りに経験した(している)人がいる	直接経験したことはなく、自分の周りにも経験した(している)人はいないが、一般的な知識として知っている	セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)という言葉聞いたことはある	そういう言葉は今まで聞いたことがない	その他	無回答
【性別】	全体(n=1,100)	10.0%	17.8%	49.5%	32.7%	4.9%	0.5%	11.4%
	男性(n=505)	5.0%	19.2%	55.0%	32.9%	5.0%	0.6%	10.7%
	女性(n=585)	14.4%	16.9%	45.0%	33.0%	4.8%	0.3%	11.5%
	無回答(n=9)	0.0%	0.0%	44.4%	11.1%	11.1%	0.0%	44.4%
【年齢別】	全体(n=1,100)	10.0%	17.8%	49.5%	32.7%	4.9%	0.5%	11.4%
	20歳未満(n=30)	6.7%	3.3%	60.0%	43.3%	3.3%	0.0%	3.3%
	20~29歳(n=55)	10.9%	21.8%	54.5%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%
	30~39歳(n=94)	14.9%	25.5%	46.8%	16.0%	9.6%	0.0%	1.1%
	40~49歳(n=123)	11.4%	28.5%	52.8%	24.4%	2.4%	0.8%	2.4%
	50~59歳(n=173)	17.3%	24.9%	50.9%	26.6%	2.3%	0.0%	4.0%
	60~69歳(n=234)	10.3%	16.7%	56.0%	36.3%	3.4%	1.3%	6.8%
	70~79歳(n=269)	5.9%	13.8%	49.1%	47.2%	4.8%	0.0%	17.1%
	80歳以上(n=118)	3.4%	4.2%	30.5%	28.8%	8.5%	0.8%	41.5%
	無回答(n=4)	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%

問35 【問34で「1. 直接経験したことがある」と答えた方にうかがいます】あなたは、そのことをだれかに打ち明けるか、相談したことがありますか。(○はあてはまるものすべて)

「どこ（だれ）にも相談しなかった」が40.9%と最も多く、次いで「友人・知人に相談した」が40.0%、「家族に相談した」が22.7%となっています。



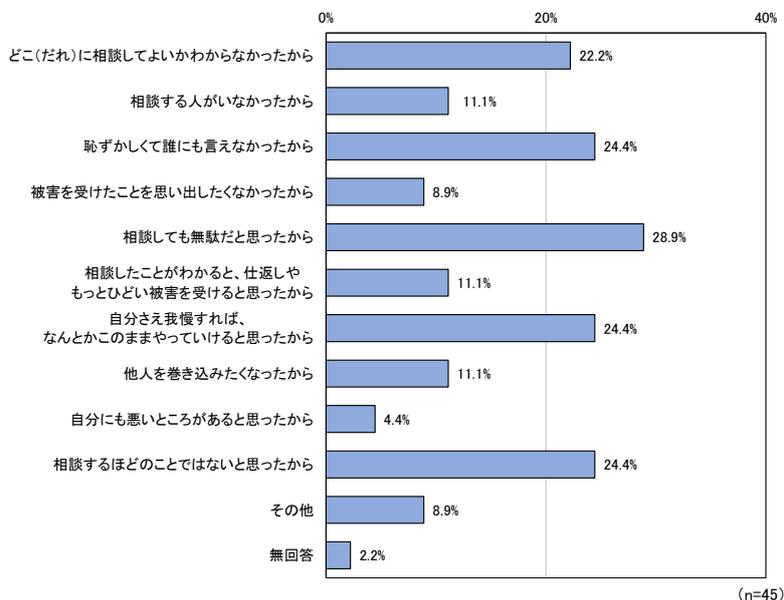
		友人・知人に相談した	家族に相談した	警察に連絡・相談した	市・県の相談員や機関に相談した	医師・カウンセラーに相談した	人権擁護委員または人権相談窓口相談した	弁護士など	その他	だれ	無回答
【性別】	全体(n=110)	40.0%	22.7%	3.6%	0.9%	2.7%	1.8%	0.0%	9.1%	40.9%	1.8%
	男性(n=25)	36.0%	28.0%	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	4.0%	40.0%	8.0%
	女性(n=84)	41.7%	21.4%	3.6%	1.2%	3.6%	1.2%	0.0%	10.7%	40.5%	0.0%
	無回答(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
【年齢別】	全体(n=110)	40.0%	22.7%	3.6%	0.9%	2.7%	1.8%	0.0%	9.1%	40.9%	1.8%
	20歳未満(n=2)	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳(n=6)	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%
	30～39歳(n=14)	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	40～49歳(n=14)	42.9%	35.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%	28.6%	0.0%
	50～59歳(n=30)	50.0%	16.7%	6.7%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	6.7%	43.3%	0.0%
	60～69歳(n=24)	33.3%	29.2%	0.0%	0.0%	4.2%	4.2%	0.0%	12.5%	33.3%	8.3%
	70～79歳(n=16)	12.5%	18.8%	12.5%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	6.3%	62.5%	0.0%
	80歳以上(n=4)	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	無回答(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【その他】

- 上司（女性、40～49歳）（女性、60～69歳）（女性、70～79歳）
- 職場で経験したため上司に報告した。（女性、20～29歳）
- 会社側に相談しました。（男性、60～69歳）
- 姉（女性、60～69歳）
- 本人に強い態度で怒った。合わせて職場全員に言った。（女性、40～49歳）
- 職場の人（女性、40～49歳）
- サポートグループ（女性、50～59歳）

問36 【問35で「9. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にかがいます】相談しなかったのはなぜですか。（〇はあてはまるものすべて）

「相談しても無駄だと思ったから」が28.9%と最も多く、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が24.4%、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が24.4%、「相談するほどのことではないと思ったから」が24.4%となっています。



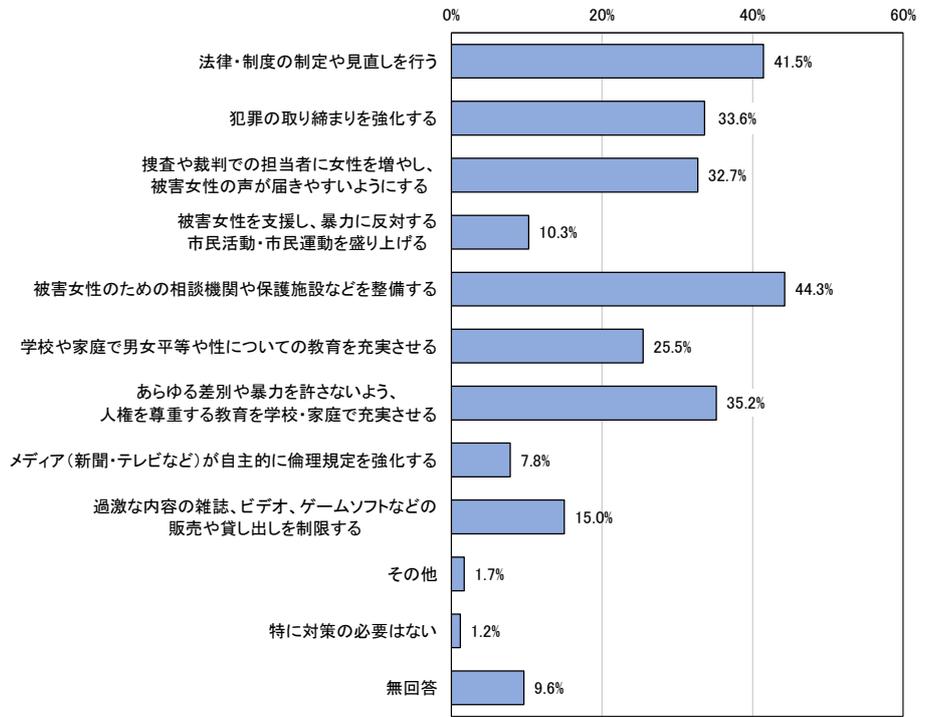
		どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから	相談する人がいなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	被害を受けたことを思い出したくなかったから	相談しても無駄だと思ったから	仕返しやもっとひどい被害を受けると思ったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他	無回答
【性別】	全体 (n=45)	22.2%	11.1%	24.4%	8.9%	28.9%	11.1%	24.4%	11.1%	4.4%	24.4%	8.9%	2.2%
	男性 (n=10)	20.0%	10.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	50.0%	30.0%	10.0%	30.0%	0.0%	0.0%
	女性 (n=34)	23.5%	11.8%	26.5%	11.8%	23.5%	14.7%	17.6%	5.9%	2.9%	23.5%	11.8%	2.9%
	無回答 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
【年齢別】	全体 (n=45)	22.2%	11.1%	24.4%	8.9%	28.9%	11.1%	24.4%	11.1%	4.4%	24.4%	8.9%	2.2%
	20歳未満 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳 (n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	30～39歳 (n=7)	14.3%	14.3%	42.9%	14.3%	57.1%	28.6%	42.9%	14.3%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%
	40～49歳 (n=4)	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	50～59歳 (n=13)	15.4%	7.7%	0.0%	7.7%	23.1%	7.7%	23.1%	7.7%	0.0%	38.5%	15.4%	0.0%
	60～69歳 (n=8)	12.5%	0.0%	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	12.5%
	70～79歳 (n=10)	40.0%	10.0%	40.0%	10.0%	20.0%	0.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	80歳以上 (n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答 (n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【その他】

- その頃セクハラという言葉がなかった。（女性、50～59歳）
- 自分で相手に謝らせた（女性、50～59歳）
- 昭和という時代に生まれた事が相談できずにつながります。（女性、60～69歳）
- 親に心配をかけたくなかった（女性、60～69歳）

問37 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）やセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）をなくすためには、どうしたらよいと思いますか。（〇は特に有効だと思うものを3つまで）

「被害女性のための相談機関や保護施設などを整備する」が44.3%と最も多く、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」が41.5%、「あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・家庭で充実させる」が35.2%となっています。



(n=1,100)

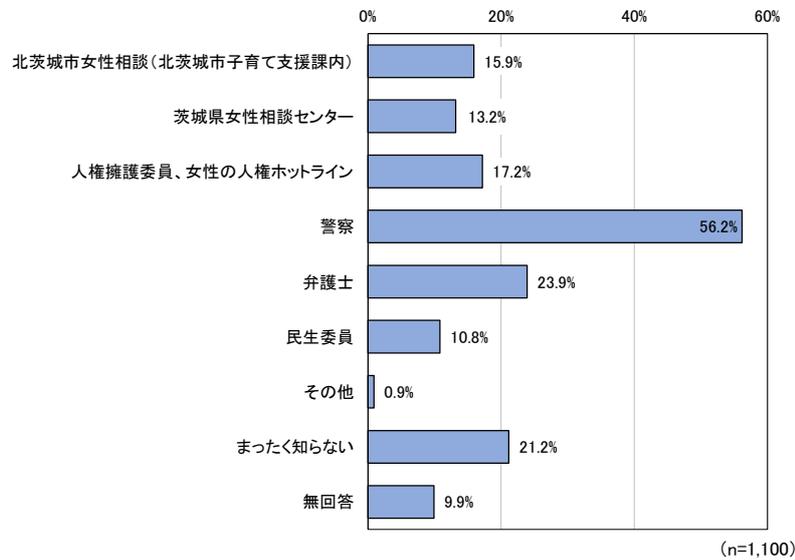
		法律・制度の制定や見直しを行う	犯罪の取り締まりを強化する	捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性の声が届きやすいようにする	被害女性を支援し、暴力に反対する市民活動・市民運動を盛り上げる	被害女性のための相談機関や保護施設などを整備する	学校や家庭で男女平等や性についての教育を充実させる	あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・家庭で充実させる	メディア（新聞・テレビなど）が自主的に倫理規定を強化する	過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフトなどの販売や貸し出しを制限する	その他	特に対策の必要はない	無回答
【性別】	全体 (n=1,100)	41.5%	33.6%	32.7%	10.3%	44.3%	25.5%	35.2%	7.8%	15.0%	1.7%	1.2%	9.6%
	男性 (n=505)	47.9%	37.0%	28.7%	12.3%	39.4%	24.2%	36.4%	7.7%	13.1%	2.2%	1.2%	9.5%
	女性 (n=585)	36.2%	30.8%	36.6%	8.5%	49.1%	26.8%	34.4%	7.9%	16.8%	1.4%	1.0%	9.4%
	無回答 (n=9)	11.1%	22.2%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	22.2%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%	33.3%
【年齢別】	全体 (n=1,100)	41.5%	33.6%	32.7%	10.3%	44.3%	25.5%	35.2%	7.8%	15.0%	1.7%	1.2%	9.6%
	20歳未満 (n=30)	30.0%	53.3%	46.7%	20.0%	40.0%	33.3%	43.3%	13.3%	3.3%	3.3%	0.0%	3.3%
	20～29歳 (n=55)	49.1%	52.7%	43.6%	3.6%	41.8%	41.8%	29.1%	10.9%	7.3%	0.0%	3.6%	0.0%
	30～39歳 (n=94)	53.2%	51.1%	40.4%	6.4%	44.7%	23.4%	26.6%	6.4%	7.4%	1.1%	0.0%	2.1%
	40～49歳 (n=123)	44.7%	42.3%	43.9%	9.8%	46.3%	28.5%	32.5%	4.9%	12.2%	3.3%	0.8%	2.4%
	50～59歳 (n=173)	41.0%	37.6%	30.6%	6.4%	49.1%	22.5%	35.3%	8.1%	13.9%	4.6%	0.6%	5.2%
	60～69歳 (n=234)	47.0%	29.1%	34.6%	9.8%	55.6%	25.2%	42.7%	7.7%	17.9%	0.9%	0.4%	4.7%
	70～79歳 (n=269)	36.4%	25.3%	28.3%	15.2%	39.0%	23.8%	39.0%	8.9%	21.2%	0.7%	1.1%	14.5%
	80歳以上 (n=118)	29.7%	19.5%	16.9%	9.3%	27.1%	22.9%	21.2%	5.9%	12.7%	0.8%	4.2%	34.7%
	無回答 (n=4)	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【その他】

- 女性のみが被害者とはならない（男性、70～79 歳）
- DV、セクハラは男性でも同じです。被害女性と決めつけず、相談機関を増やすことが必要だと思います。（男性、50～59 歳）
- 人間としての質の問題。どの様に育てられたか、生きてきたかでは。（女性、50～59 歳）
- どこに相談すればよいか、周知する（男性、50～59 歳）
- SNS 等での取り締まりの強化（女性、50～59 歳）
- やり返せるくらい強くなる（女性、40～49 歳）
- DV した者への厳罰（男性、60～69 歳）
- お酒の上の席、などと言う事をやめてほしい（女性、60～69 歳）
- 幼いときから家庭生活についての聖書の指針を学ばせる（男性、50～59 歳）
- 女性が悪い時もあります。（女性、50～59 歳）
- 経済を豊かにする。余裕がないため DV やセクハラが発生すると思う。（男性、40～49 歳）
- なぜ被害者は女性のみ限定されているのか？（男性、40～49 歳）
- 加害者側への治療や理解を促す取り組みを行う。（男性、30～39 歳）
- DV やセクハラをする人は、DNA を親から受けついている為に、小さい頃からの教育しかないと思います。（男性、70～79 歳）
- 高校生、中学生に、被害にあった女性に音声だけでなど出演してもらい、感じたことなどを話してもらおう。（男性、20 歳未満）

問38 ドメスティック・バイオレンス（DV）やのセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）被害にあったときなどに利用できる相談窓口のうち、あなたが知っているものを教えてください。（〇はあてはまるものすべて）

「警察」が56.2%と最も多く、次いで「弁護士」が23.9%、「まったく知らない」が21.2%となっています。



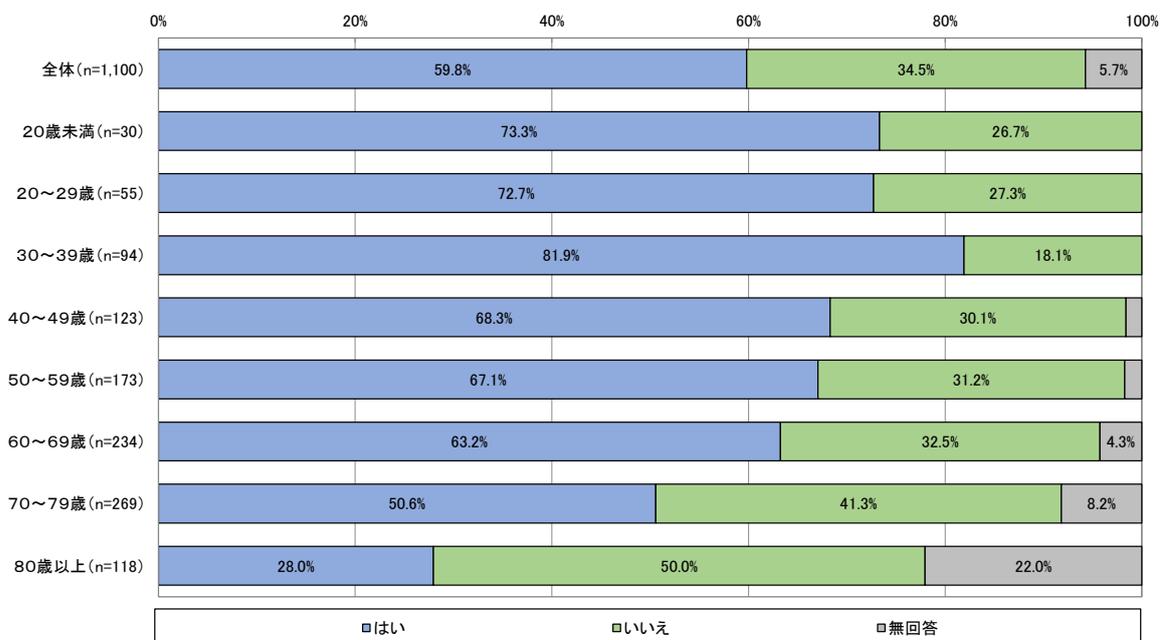
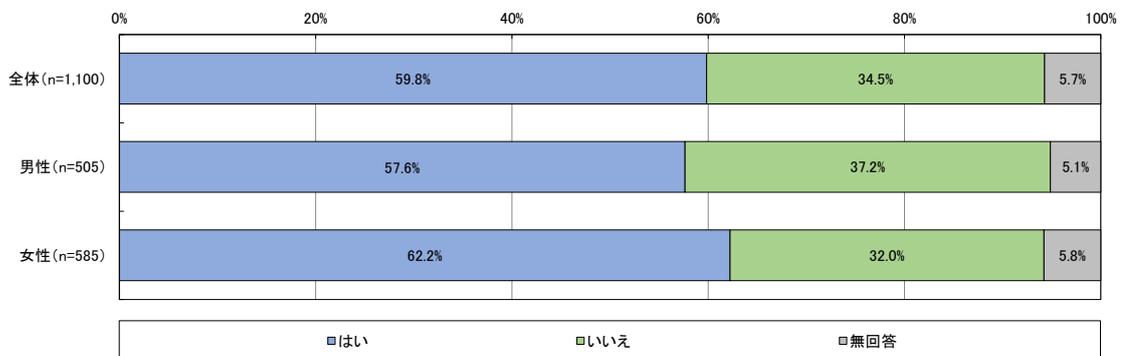
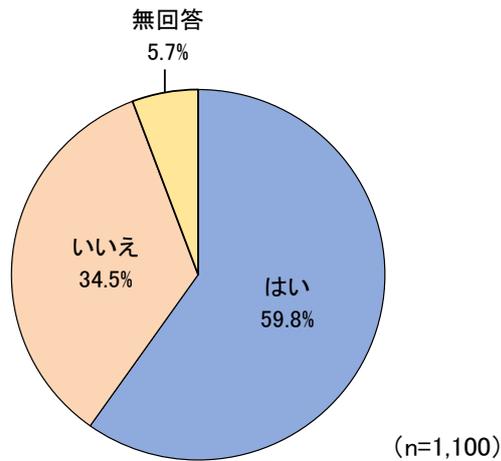
		北茨城市女性相談(北茨城市子育て支援課内)	茨城県女性相談センター	人権擁護委員、女性の人権ホットライン	警察	弁護士	民生委員	その他	まったく知らない	無回答
【性別】	全体(n=1,100)	15.9%	13.2%	17.2%	56.2%	23.9%	10.8%	0.9%	21.2%	9.9%
	男性(n=505)	14.9%	10.5%	15.6%	55.0%	24.2%	11.3%	1.0%	23.4%	10.3%
	女性(n=585)	16.8%	15.4%	18.3%	57.4%	24.1%	10.4%	0.9%	19.5%	9.2%
	無回答(n=9)	22.2%	22.2%	33.3%	33.3%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	33.3%
【年齢別】	全体(n=1,100)	15.9%	13.2%	17.2%	56.2%	23.9%	10.8%	0.9%	21.2%	9.9%
	20歳未満(n=30)	13.3%	13.3%	26.7%	53.3%	40.0%	0.0%	0.0%	23.3%	3.3%
	20～29歳(n=55)	9.1%	9.1%	9.1%	69.1%	29.1%	0.0%	3.6%	25.5%	1.8%
	30～39歳(n=94)	10.6%	7.4%	11.7%	68.1%	28.7%	6.4%	0.0%	26.6%	1.1%
	40～49歳(n=123)	18.7%	17.1%	15.4%	73.2%	35.8%	5.7%	0.0%	17.1%	1.6%
	50～59歳(n=173)	14.5%	11.6%	20.2%	62.4%	31.8%	9.8%	0.6%	17.9%	5.8%
	60～69歳(n=234)	17.9%	10.3%	17.1%	59.8%	24.4%	11.5%	0.4%	21.4%	7.3%
	70～79歳(n=269)	19.3%	19.7%	20.1%	45.0%	16.0%	17.1%	1.9%	22.7%	13.8%
	80歳以上(n=118)	11.0%	9.3%	13.6%	33.1%	7.6%	13.6%	0.8%	18.6%	33.9%
	無回答(n=4)	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%

【その他】

- 「NPO 法人らいず」、「#8008」（女性、20～29歳）
- 経験したことがなく、周りにもいないので考えた事がなかった（男性、70～79歳）
- 会社の担当部署、総務部門など（男性、70～79歳）
- カウンセラー（女性、60～69歳）
- ウィメンズネット「らいず」（女性、70～79歳）
- 議員（男性、20～29歳）
- あまりよく知らないのが現状。（男性、70～79歳）

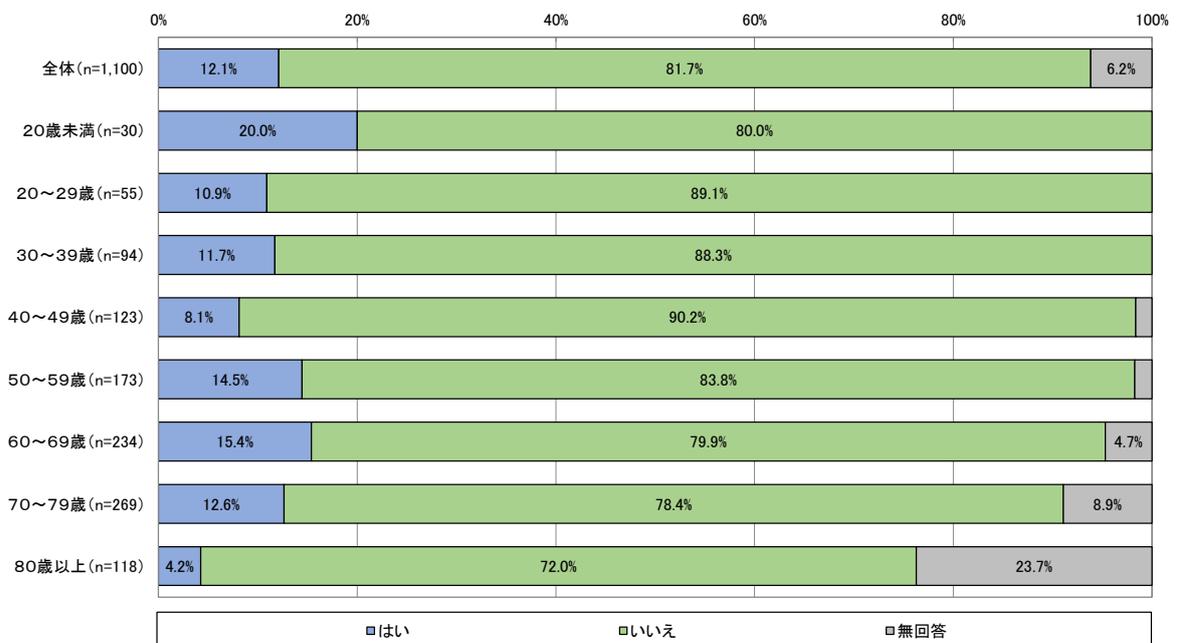
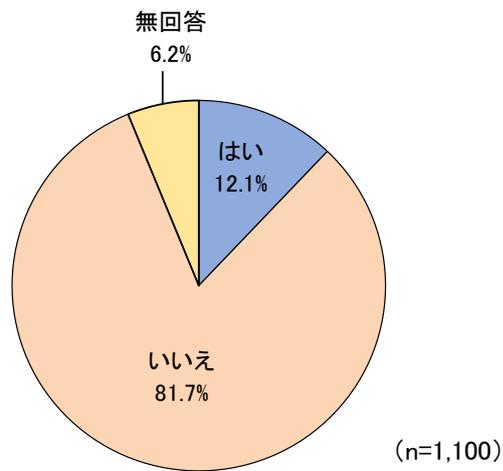
問39 あなたは性的マイノリティ（またはLGBTQ）という言葉を知っていますか。（〇は1つ）

「はい」が59.8%と最も多く、次いで「いいえ」が34.5%となっています。



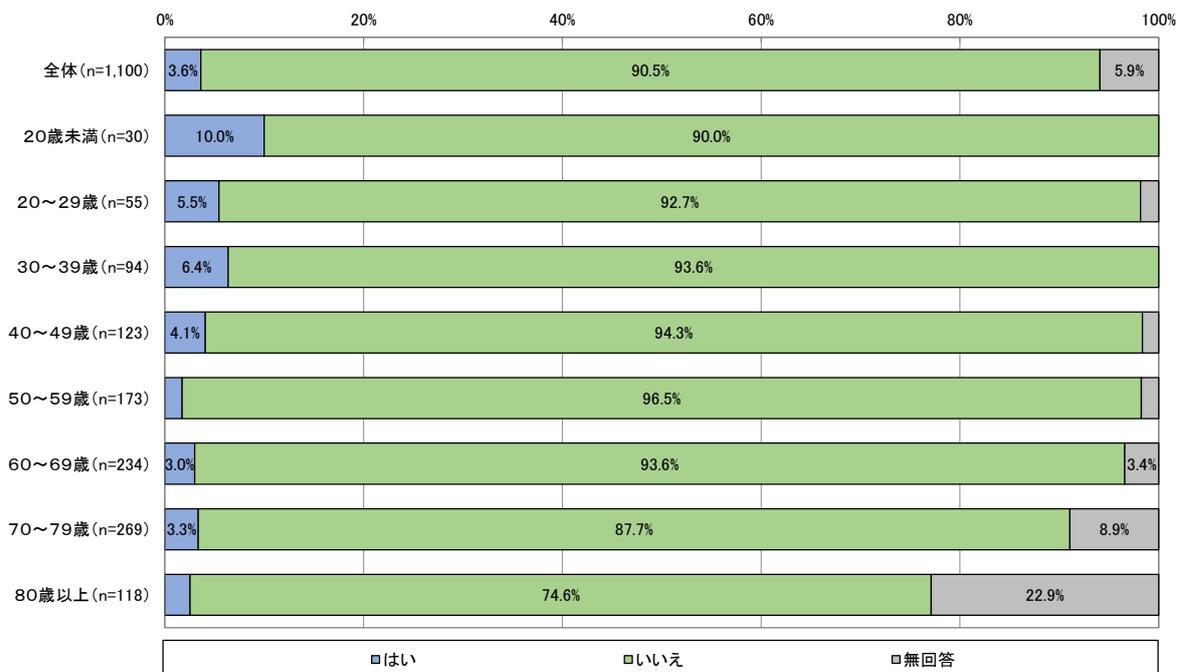
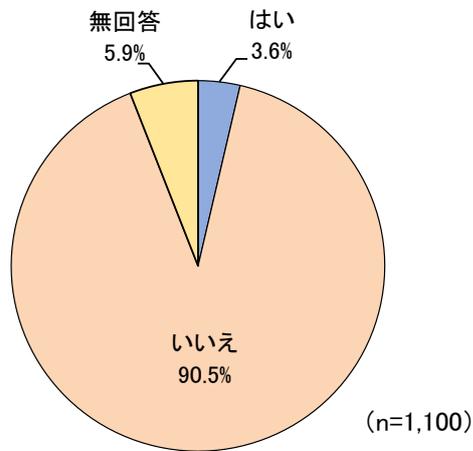
問40 あなたは、いばらきパートナーシップ宣言を知っていますか。(〇は1つ)

「いいえ」が81.7%と最も多く、次いで「はい」が12.1%となっています。



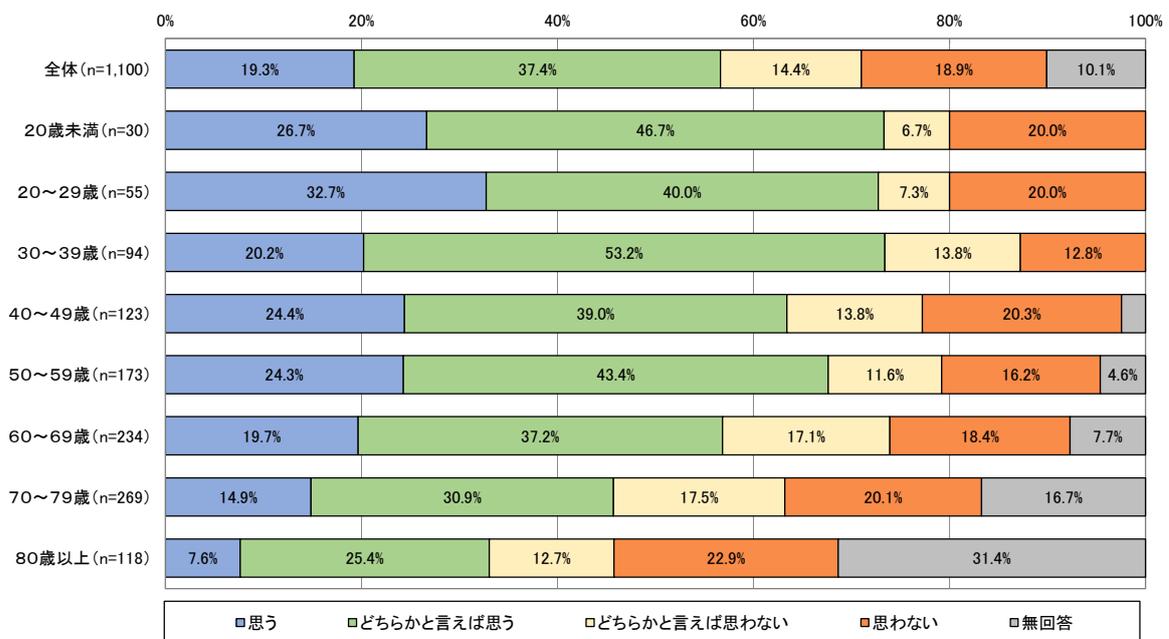
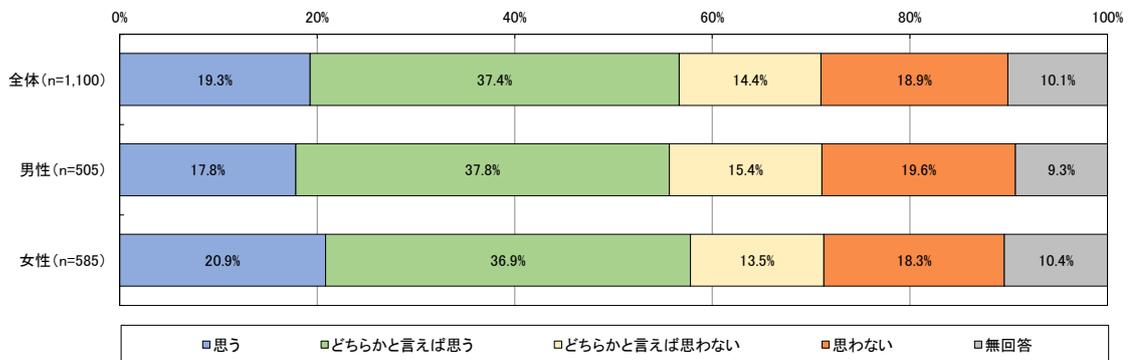
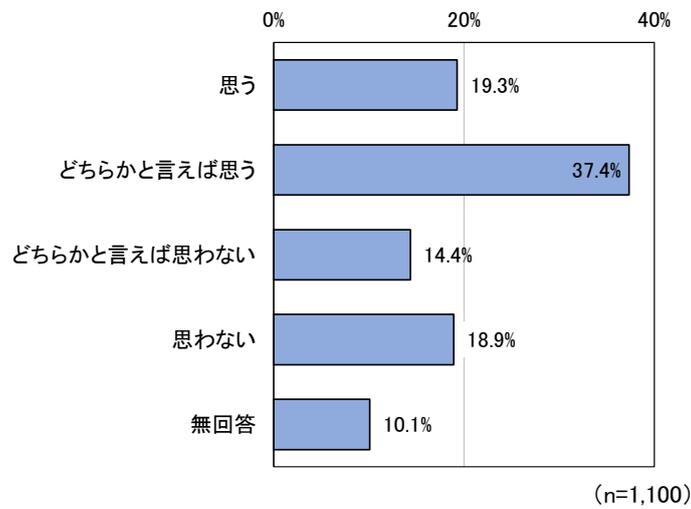
問41 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（好きになる性など）に悩んだことがありますか。（〇は1つ）

「いいえ」が90.5%と最も多く、次いで「はい」が3.6%となっています。



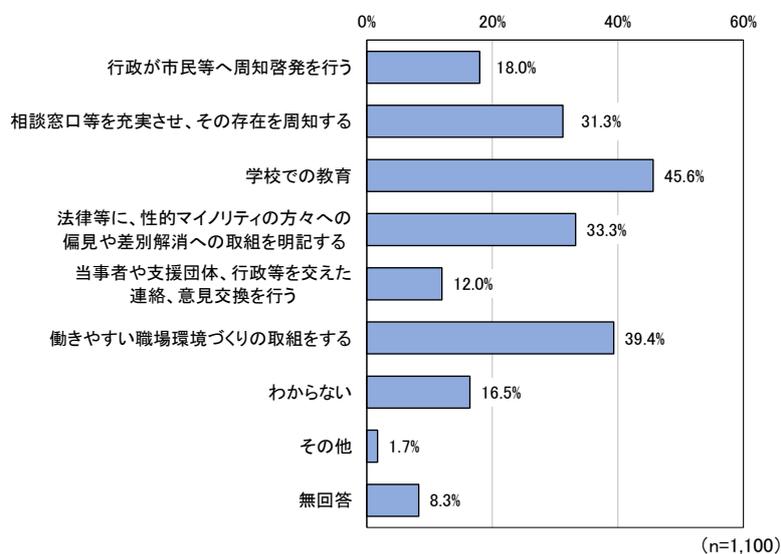
問42 あなたは、性的マイノリティに対する社会的な関心が高まっていると思いますか。(〇は1つ)

「どちらかと言えば思う」が37.4%と最も多く、次いで「思う」が19.3%、「思わない」が18.9%となっています。



問43 性的マイノリティの方々が差別などにあうことがなく、生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。(〇特に必要だと思うもの3つまで)

「学校での教育」が45.6%と最も多く、次いで「働きやすい職場環境づくりの取組をする」が39.4%、「法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取組を明記する」が33.3%となっています。



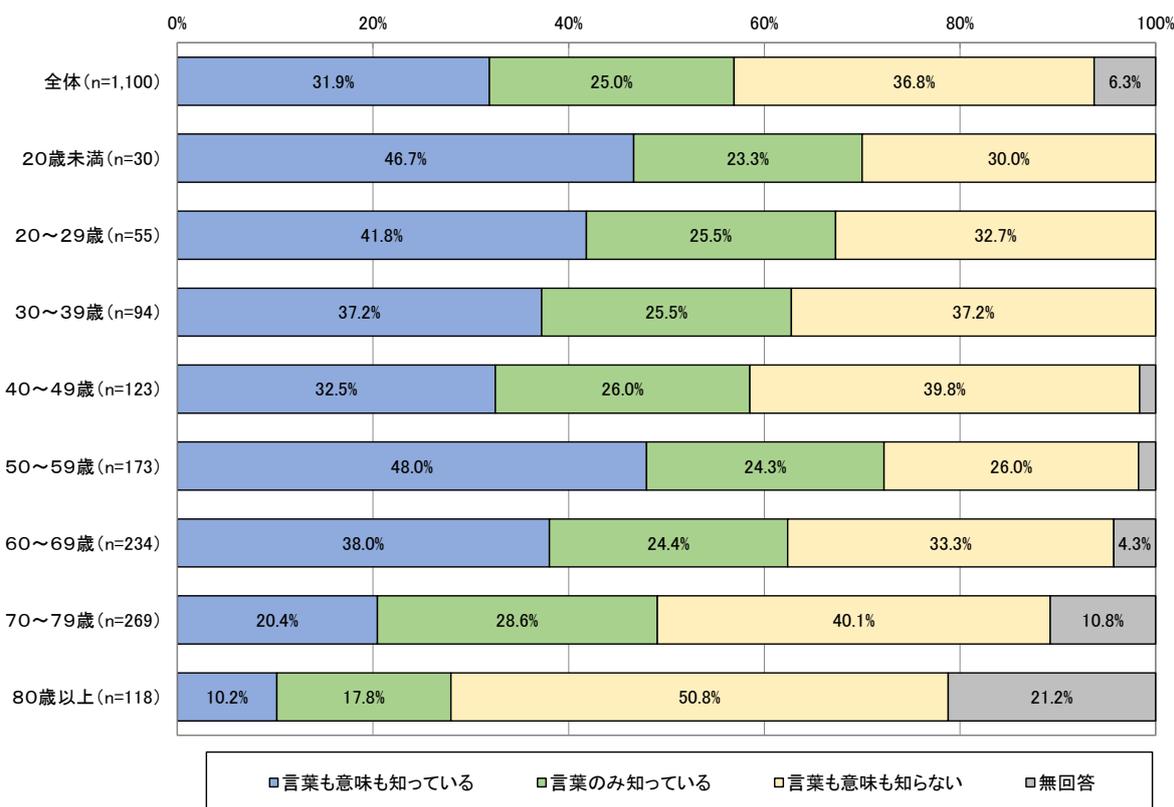
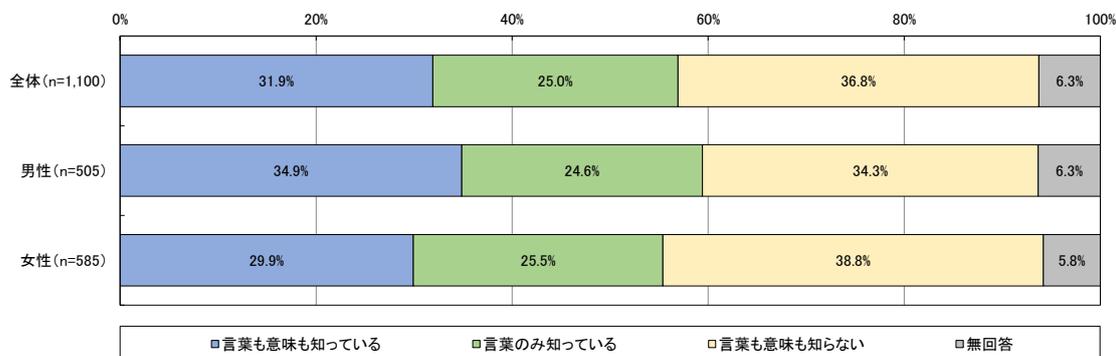
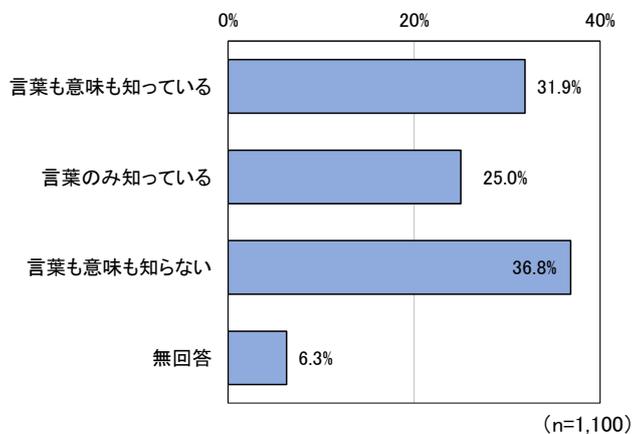
		行政が市民等へ周知啓発を行う	相談窓口等を充実させ、その存在を周知する	学校での教育	法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取組を明記する	当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う	働きやすい職場環境づくり	わからない	その他	無回答
構成比	全体 (n=1,100)	18.0%	31.3%	45.6%	33.3%	12.0%	39.4%	16.5%	1.7%	8.3%
	男性 (n=505)	20.8%	32.3%	42.6%	33.7%	12.9%	31.9%	18.4%	2.2%	7.5%
	女性 (n=585)	15.7%	30.8%	48.5%	33.3%	11.5%	46.0%	14.5%	1.4%	8.5%
	その他 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
構成比	無回答 (n=9)	11.1%	11.1%	22.2%	11.1%	0.0%	22.2%	33.3%	0.0%	33.3%
	全体 (n=1,100)	18.0%	31.3%	45.6%	33.3%	12.0%	39.4%	16.5%	1.7%	8.3%
	20歳未満 (n=30)	10.0%	26.7%	63.3%	50.0%	16.7%	36.7%	6.7%	3.3%	0.0%
	20～29歳 (n=55)	16.4%	25.5%	58.2%	40.0%	12.7%	49.1%	23.6%	0.0%	0.0%
	30～39歳 (n=94)	13.8%	31.9%	68.1%	37.2%	20.2%	58.5%	4.3%	3.2%	0.0%
	40～49歳 (n=123)	16.3%	27.6%	55.3%	34.1%	9.8%	41.5%	18.7%	2.4%	2.4%
	50～59歳 (n=173)	15.0%	24.9%	42.8%	38.7%	8.1%	42.2%	20.8%	3.5%	2.3%
	60～69歳 (n=234)	23.5%	37.2%	42.3%	38.9%	14.5%	40.6%	13.2%	0.9%	6.4%
	70～79歳 (n=269)	19.0%	34.6%	40.9%	26.8%	10.4%	33.1%	17.5%	0.7%	13.4%
80歳以上 (n=118)	17.8%	28.8%	29.7%	18.6%	11.0%	26.3%	19.5%	1.7%	27.1%	
無回答 (n=4)	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	

【その他】

- 家庭での教育（女性、60～69 歳）
- 親の指導（男性、50～59 歳）
- そっとしておく（男性、30～39 歳）
- メディアが騒がない事（男性、50～59 歳）
- 本人がうちあけやすい環境になるよう、ネット上でも記事などでアピールを増やす。（女性、30～39 歳）
- LGBT 等、メディア等が騒がないよう規制をかける（男性、70～79 歳）
- 他人の事なので、余分には考えない方が良く（女性、80～89 歳）
- 相手の立場に立って全てを考える（女性、50～59 歳）
- 特に、本人たちの人権を認める（男性、60～69 歳）
- 干渉しすぎたり、過剰に反応しない。理解を強要しない。（女性、20 歳未満）
- 固定観念をなくす。どうすればよいかはわからない…（女性、40～49 歳）
- 過剰に取り上げないで放っておく（男性、30～39 歳）
- 横文字がわからないので、マイノリティという意味がわからない（男性、80～89 歳）

問44 あなたは、SDGs エスディージーズ（持続可能な開発目標）という言葉や意味を知っていますか。（〇は1つ）

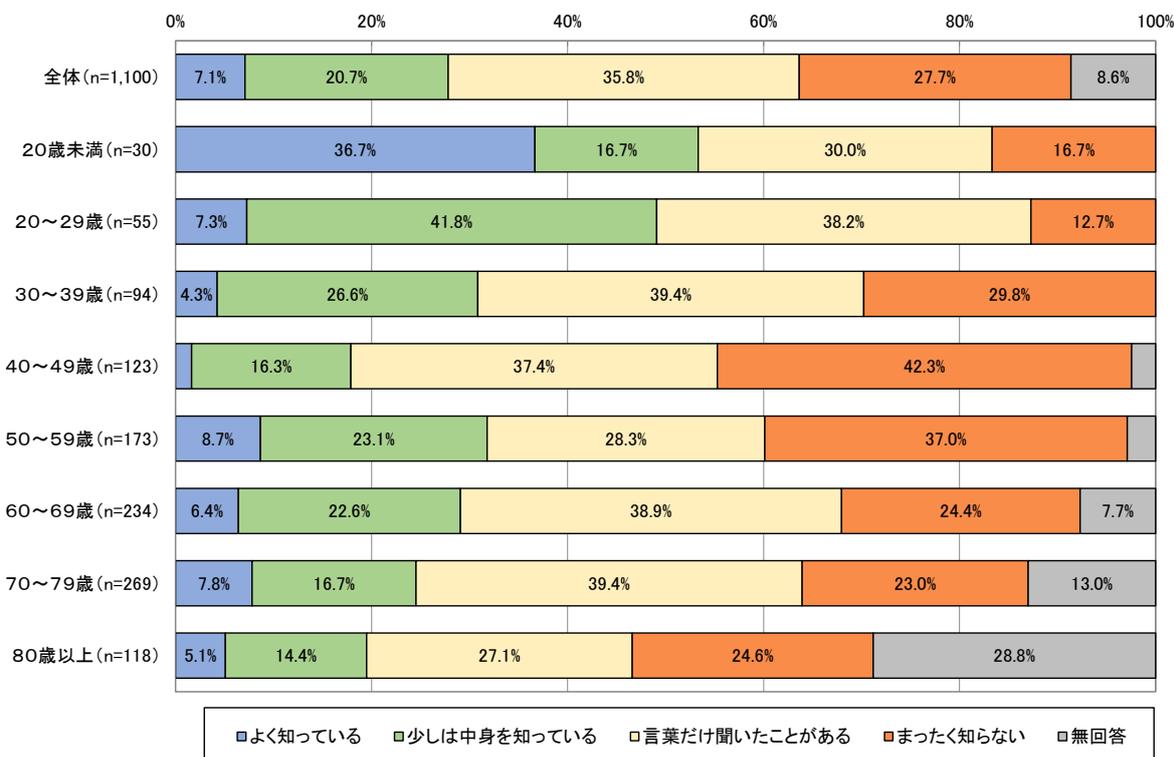
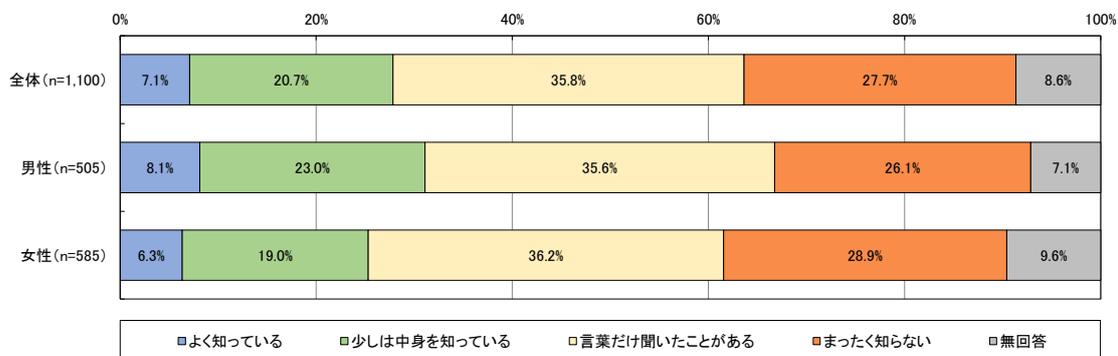
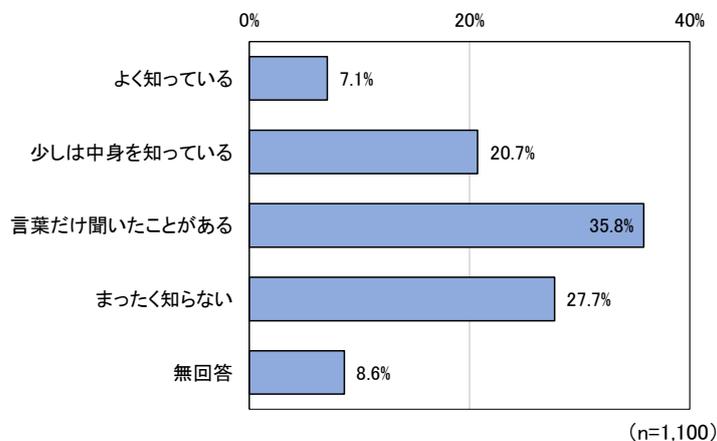
「言葉も意味も知らない」が36.8%と最も多く、次いで「言葉も意味も知っている」が31.9%、「言葉のみ知っている」が25.0%となっています。



問45 あなたは次の項目について男女共同参画に関するまでの項目について、どの程度知っていますか。(〇は各項目1つずつ)

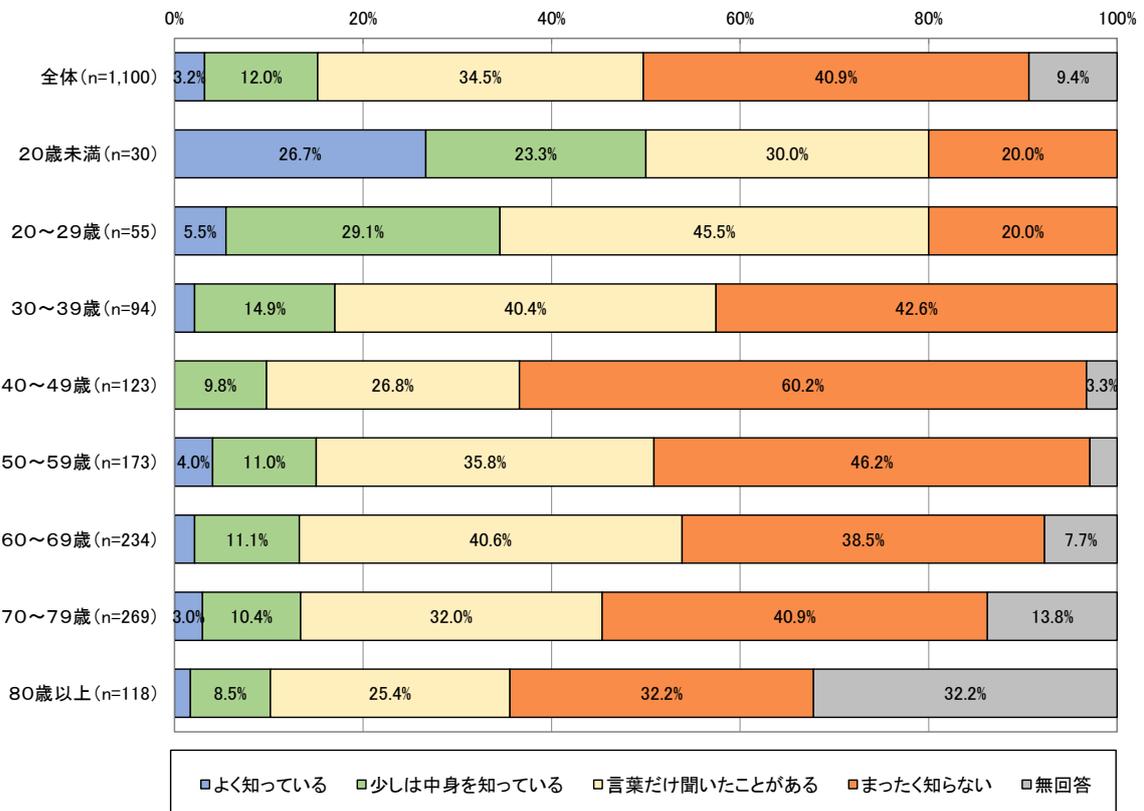
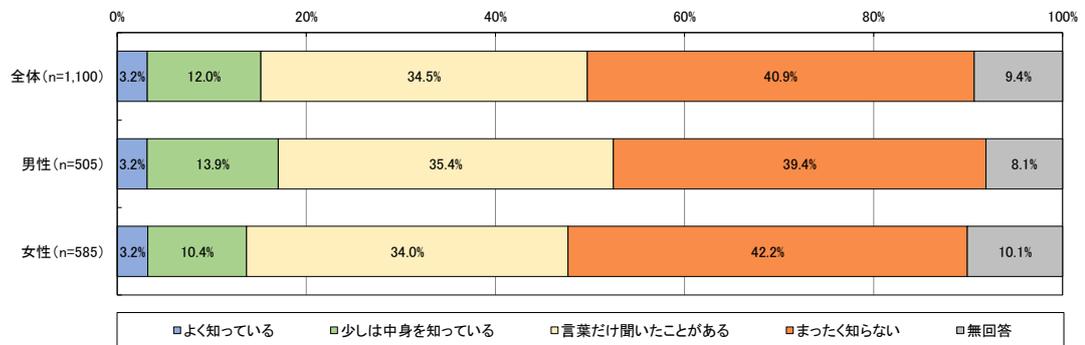
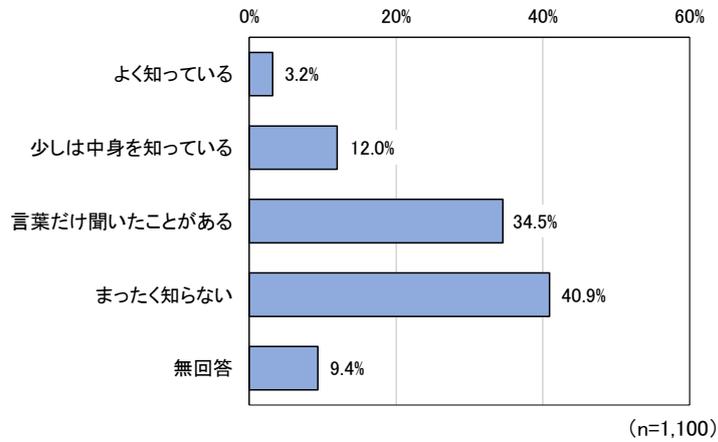
【男女共同参画社会】

「言葉だけ聞いたことがある」が35.8%と最も多く、次いで「まったく知らない」が27.7%となっています。



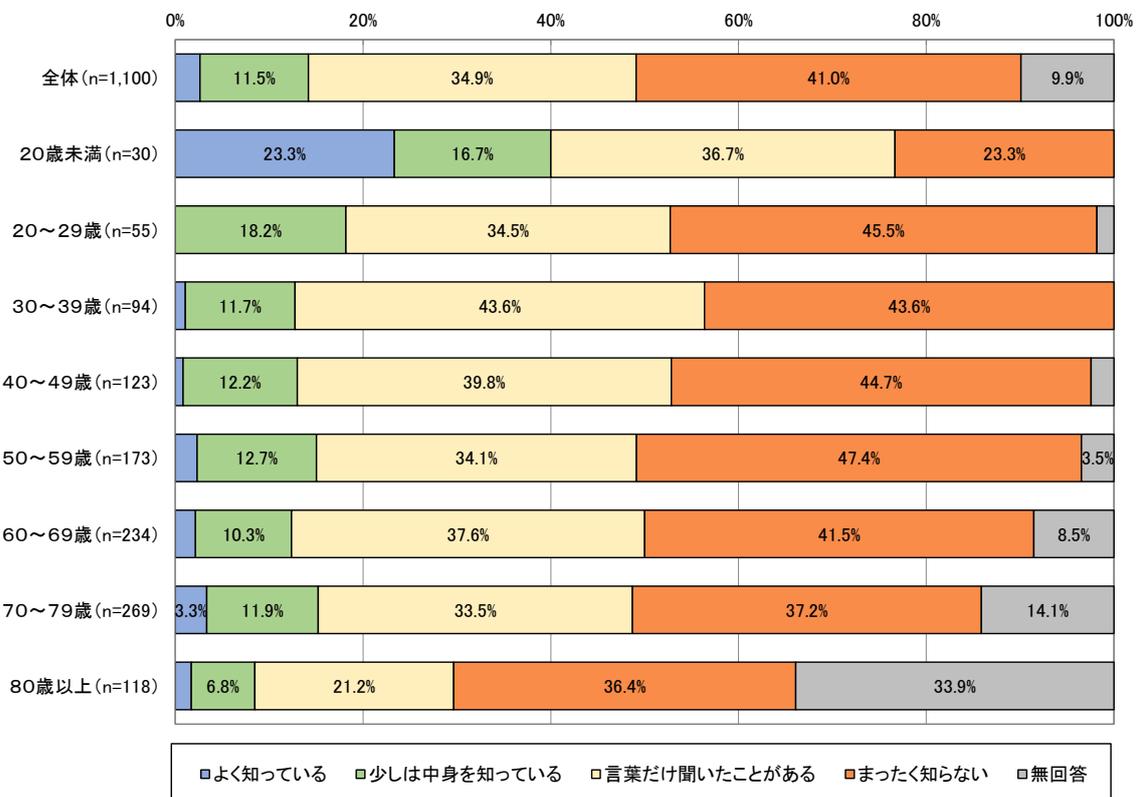
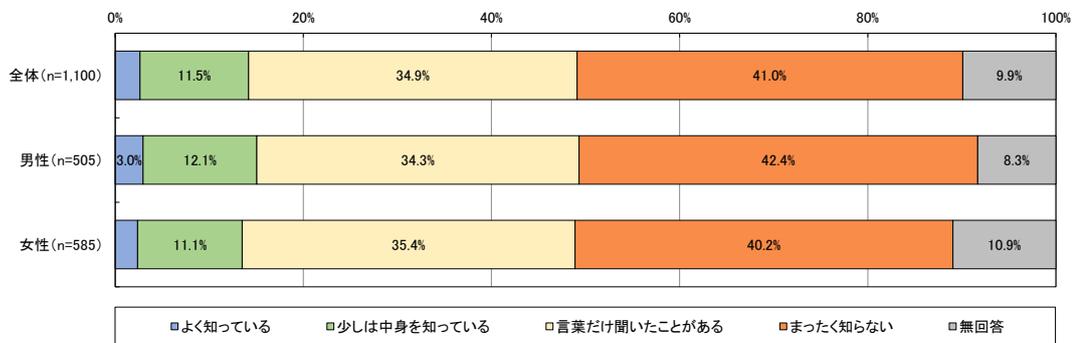
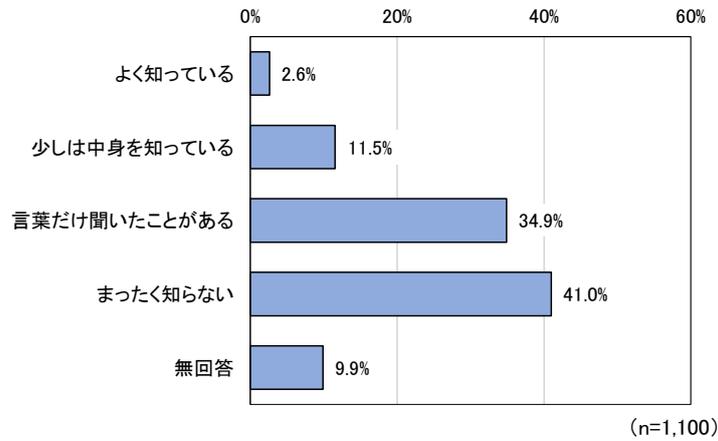
【男女共同参画社会基本法】

「まったく知らない」が40.9%と最も多く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」が34.5%となっています。



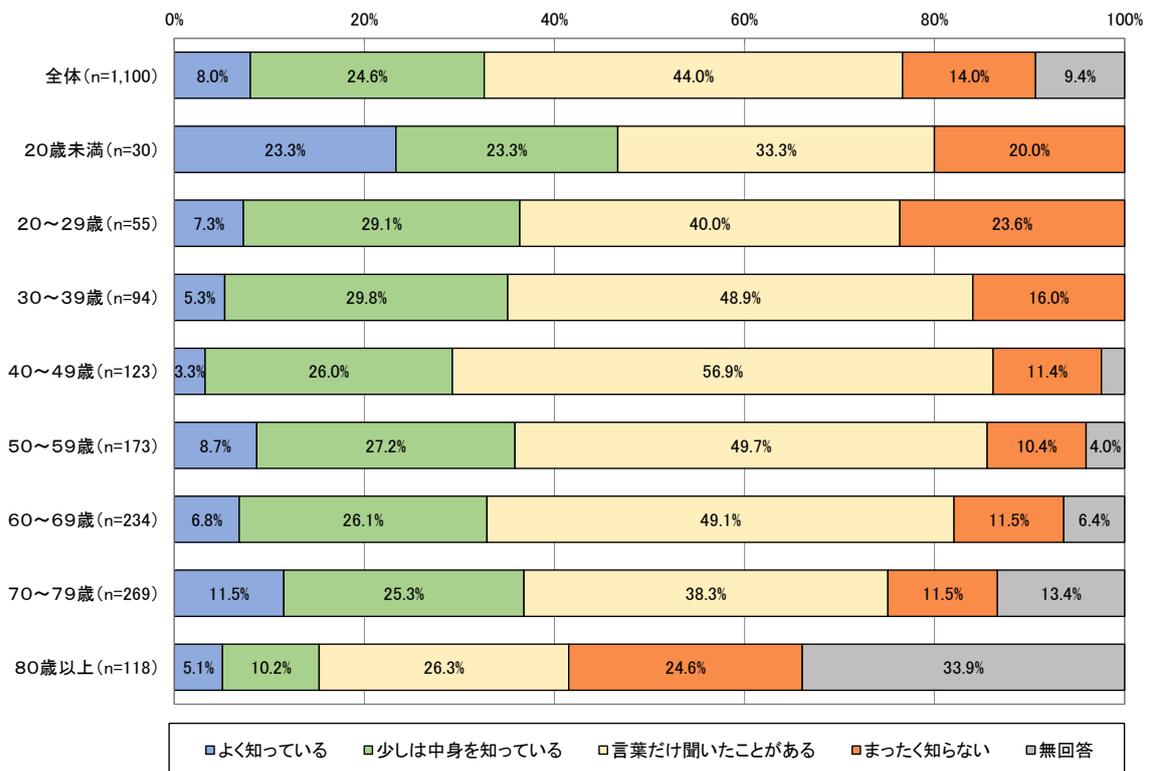
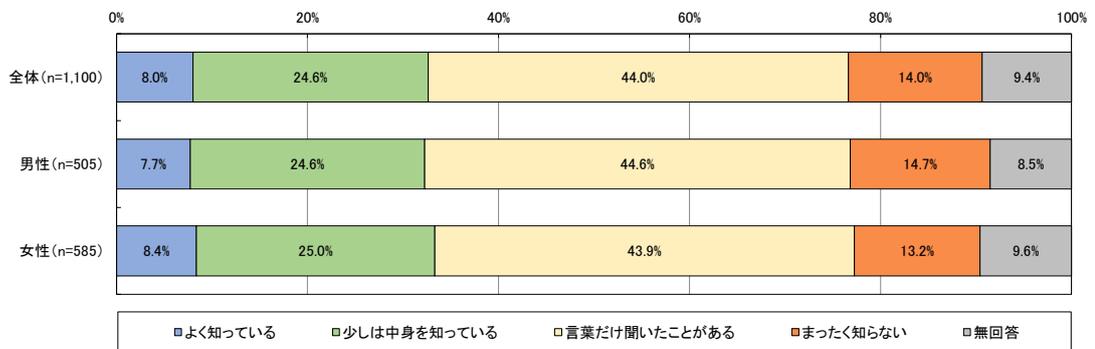
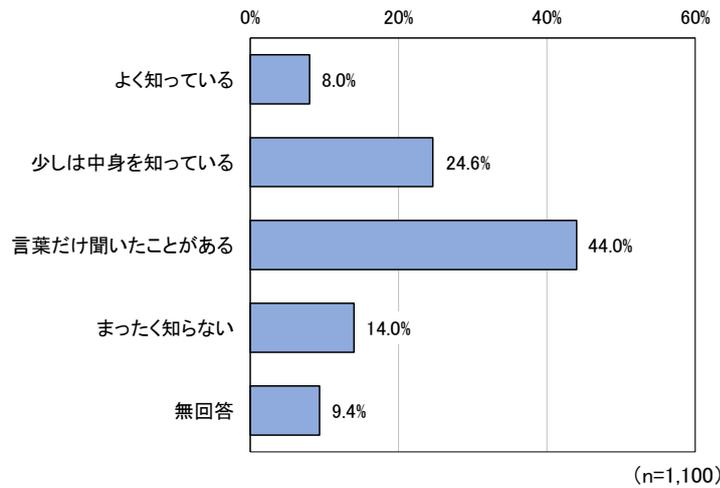
【女子差別撤廃条例】

「まったく知らない」が41.0%と最も多く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」が34.9%となっています。



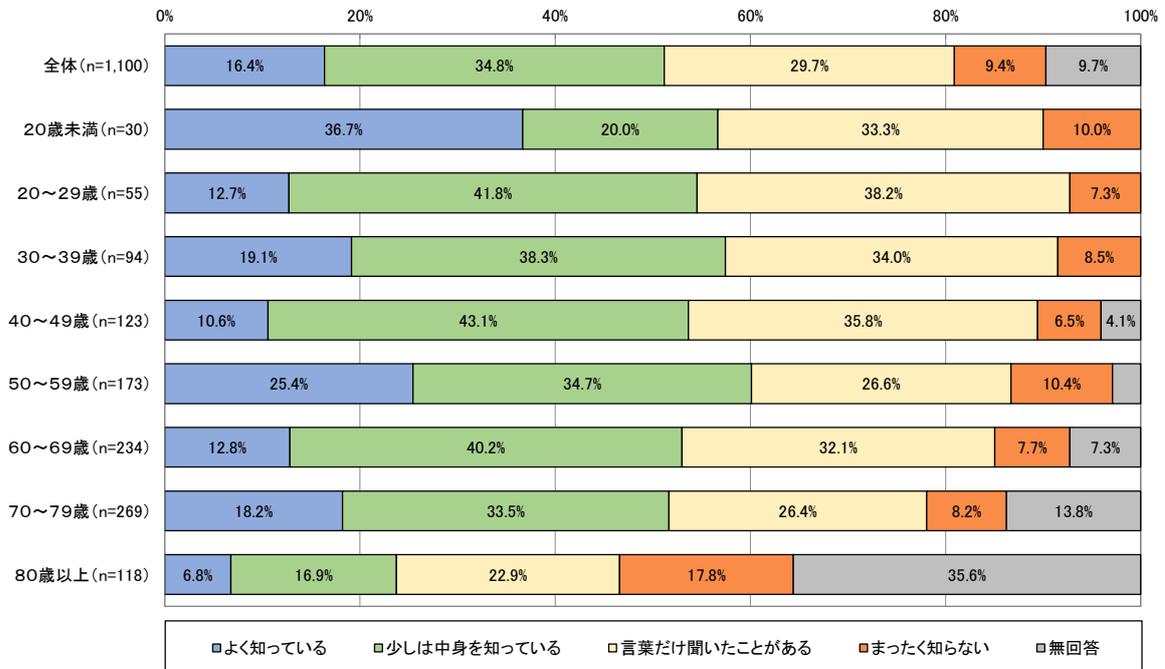
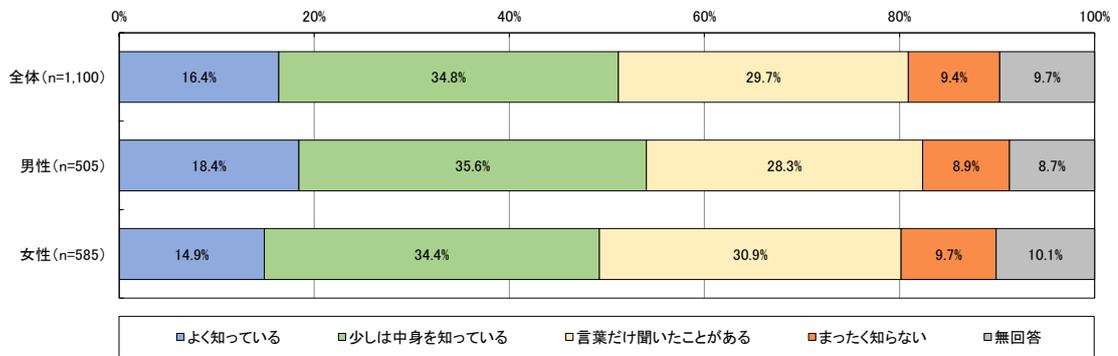
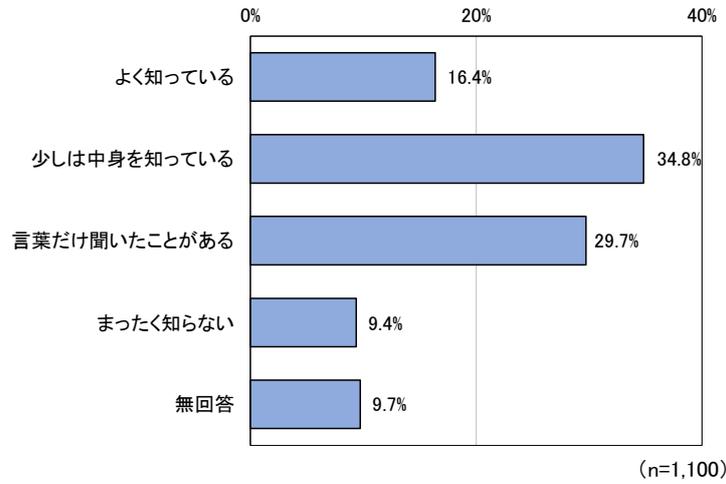
【DV防止法】

「まったく知らない」が44.0%と最も多く、次いで「少しは中身を知っている」が24.6%となっています。



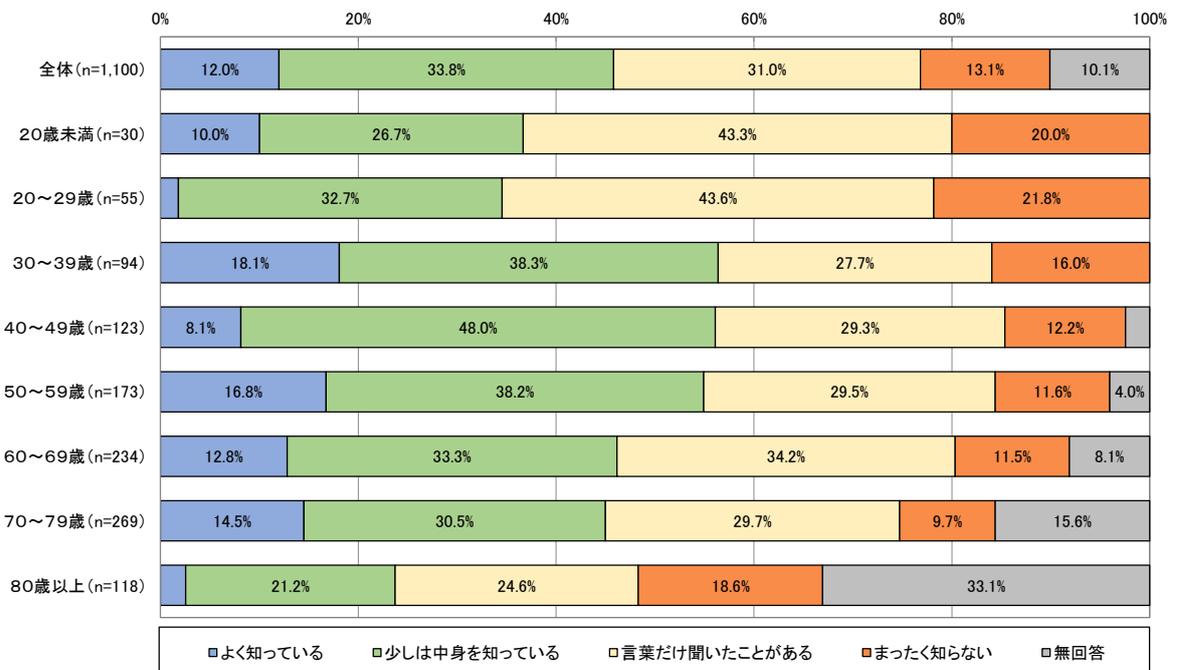
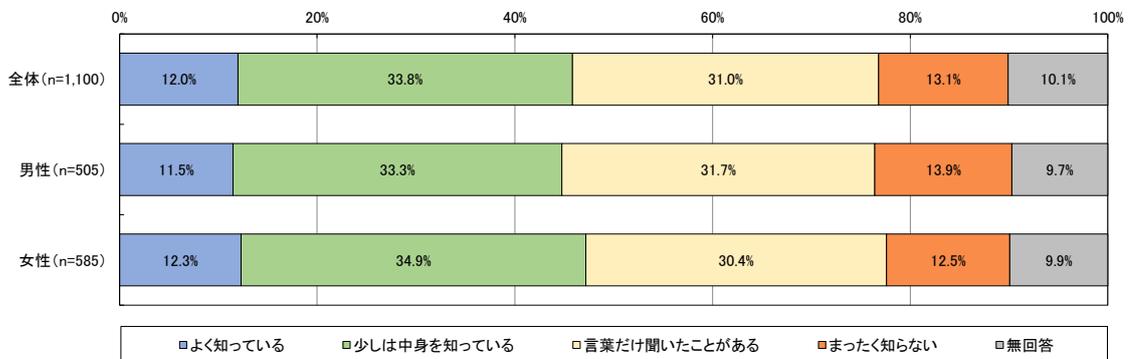
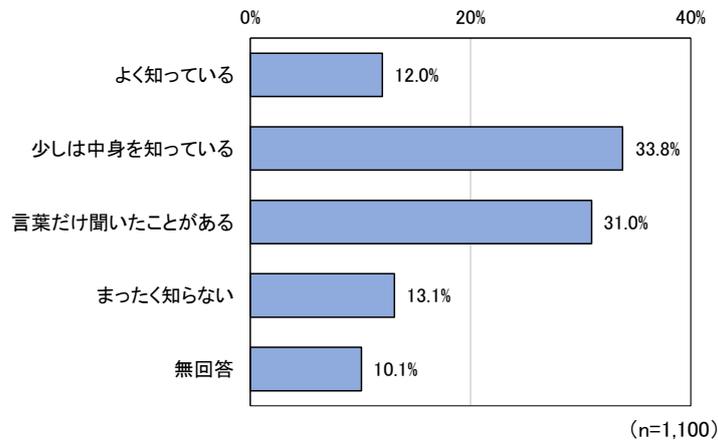
【男女雇用機会均等法】

「少しは中身を知っている」が34.8%と最も多く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」が29.7%となっています。



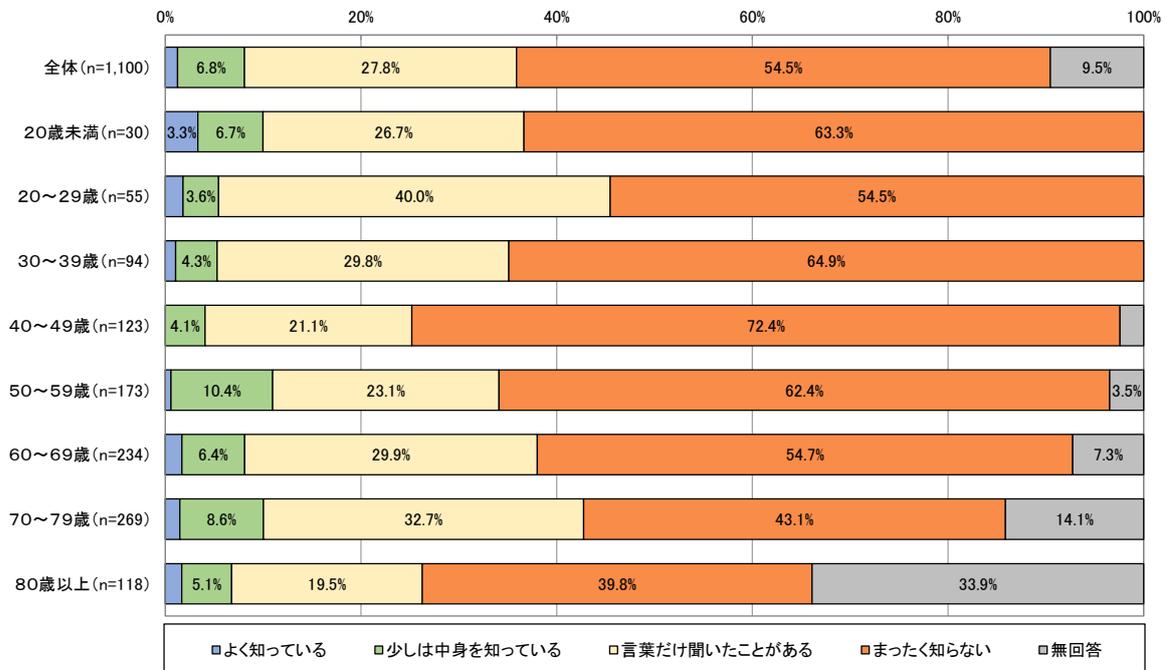
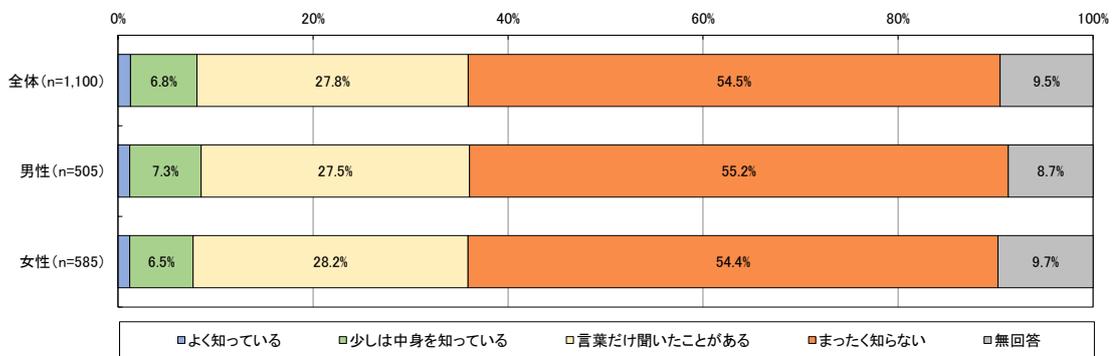
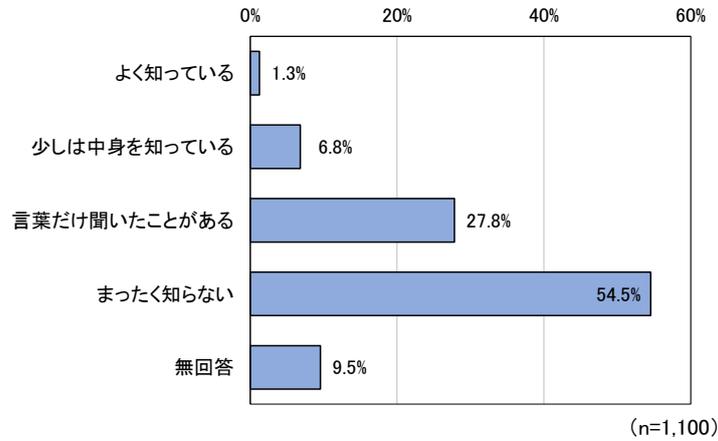
【育児・介護休業法】

「少しは中身を知っている」が33.8%と最も多く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」が31.0%となっています。



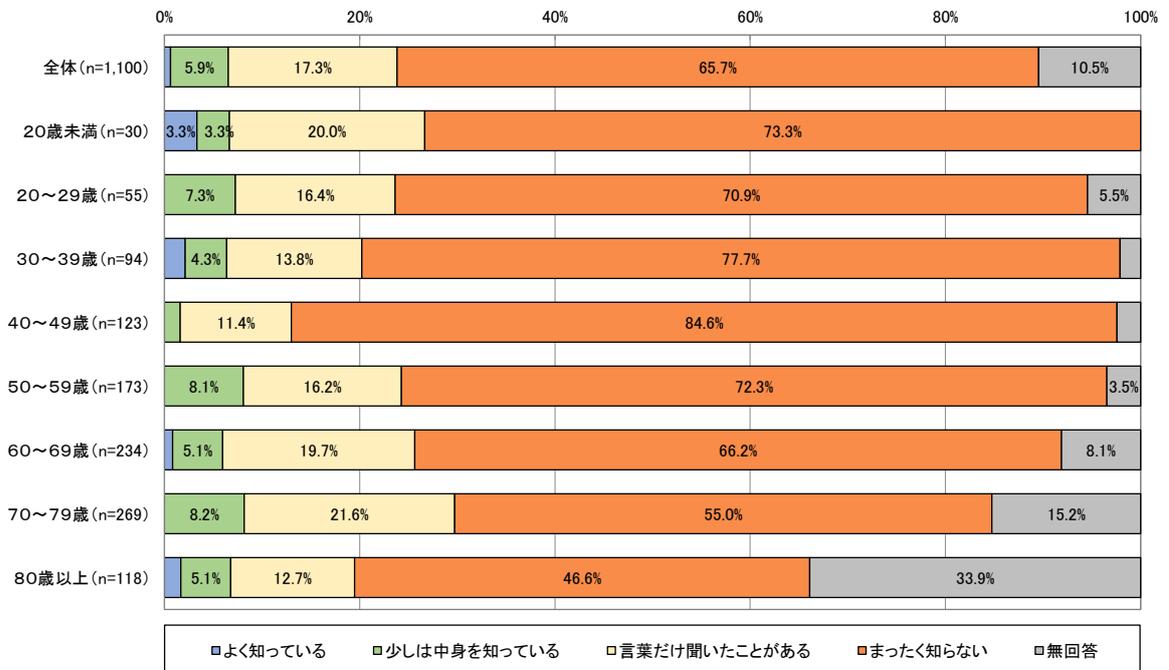
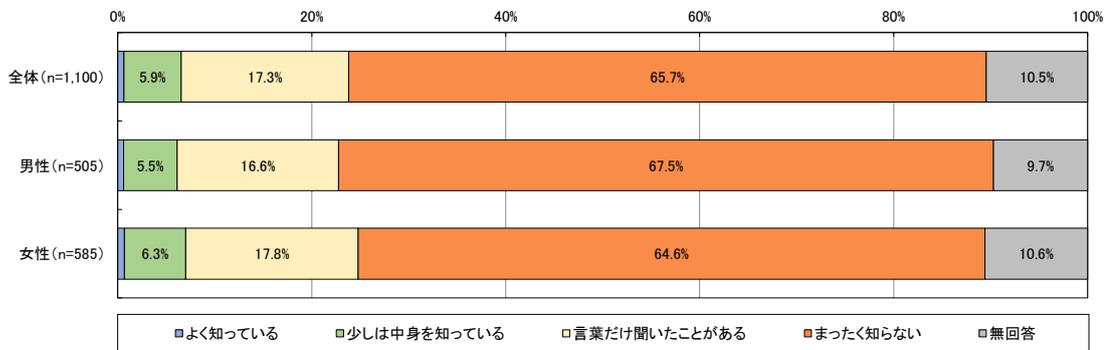
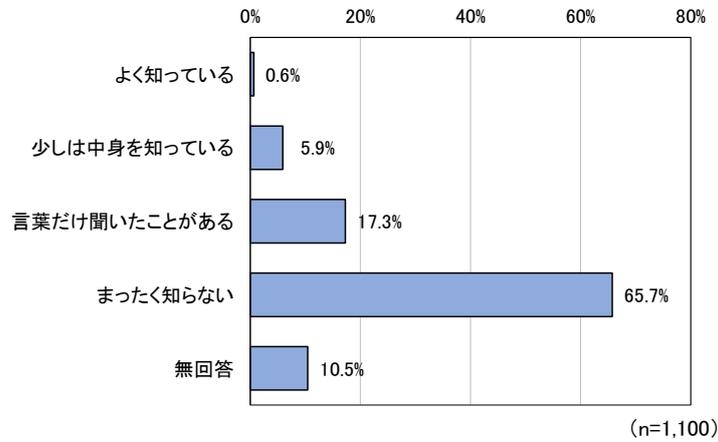
【茨城県男女共同参画推進条例】

「まったく知らない」が54.5%と最も多く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」が27.8%となっています。



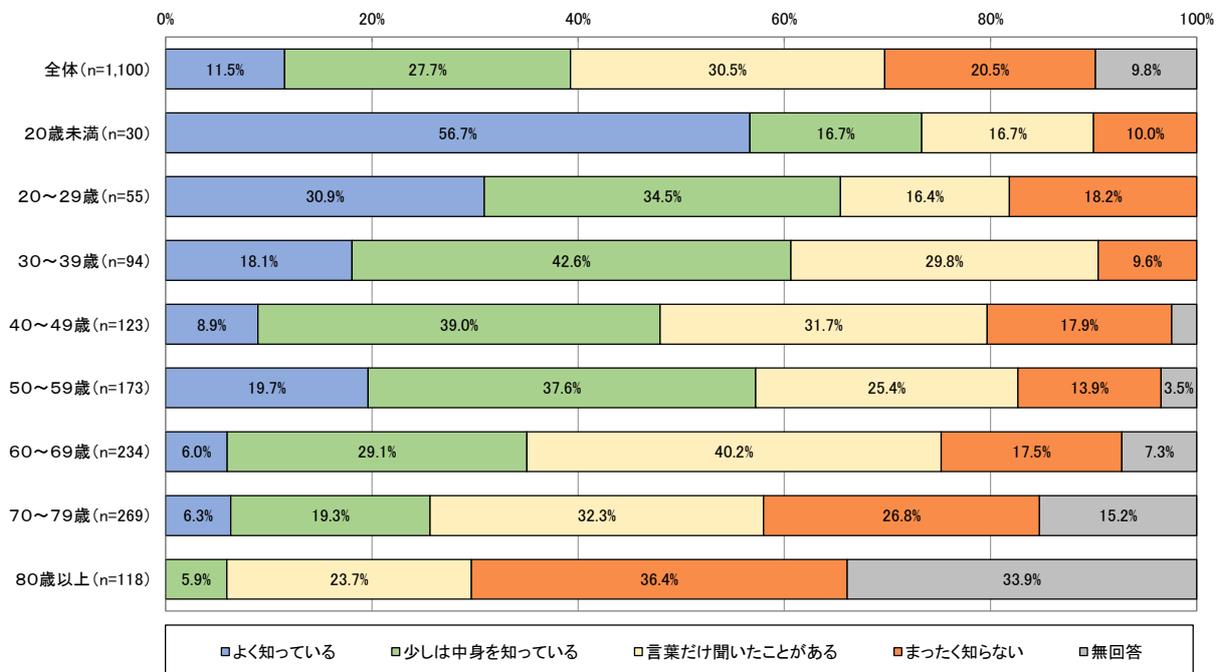
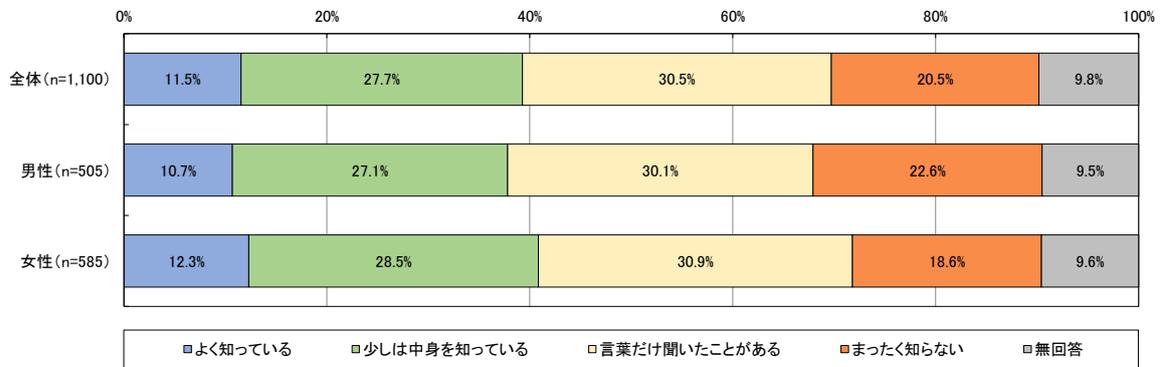
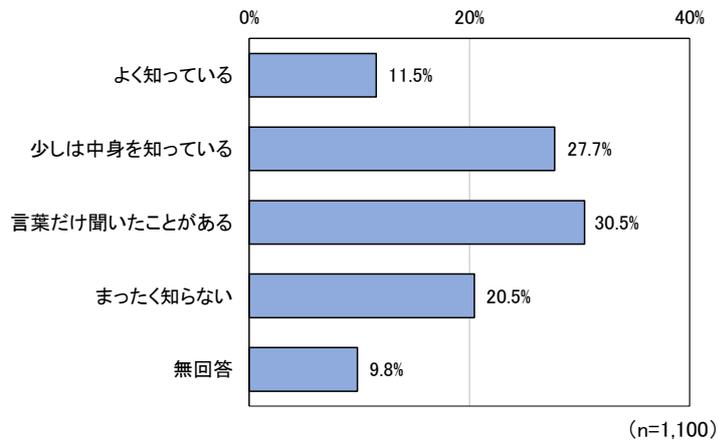
【第3次きたいばらき男女共同参画プラン】

「まったく知らない」が65.7%と最も多く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」が17.3%となっています。



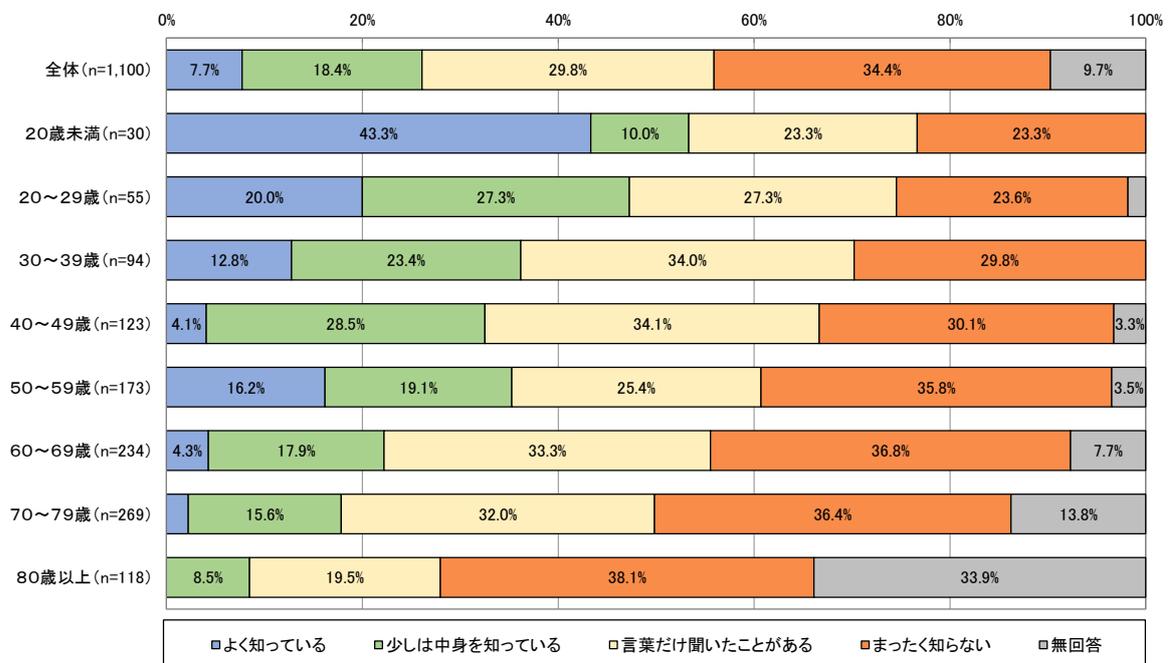
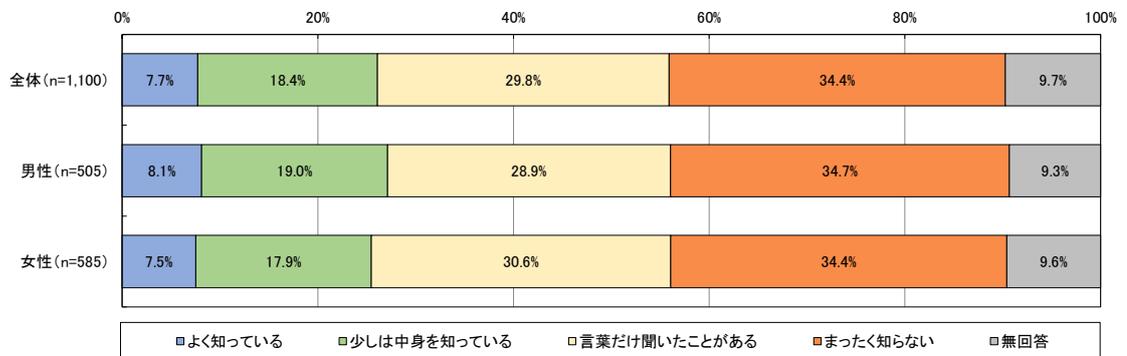
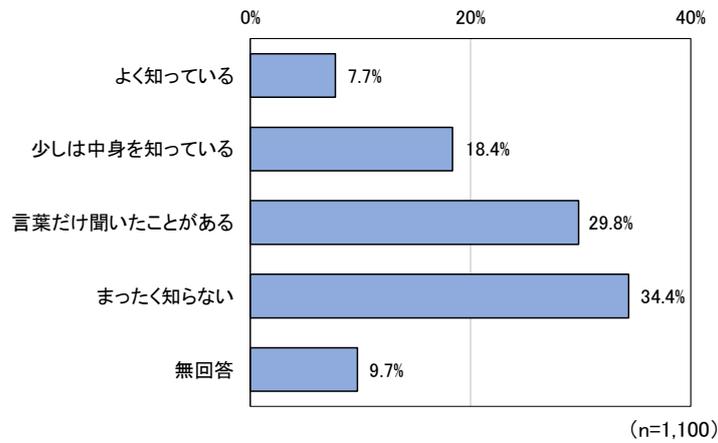
【ジェンダー（社会的・文化的性別）】

「まったく知らない」が30.5%と最も多く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」が27.7%となっています。



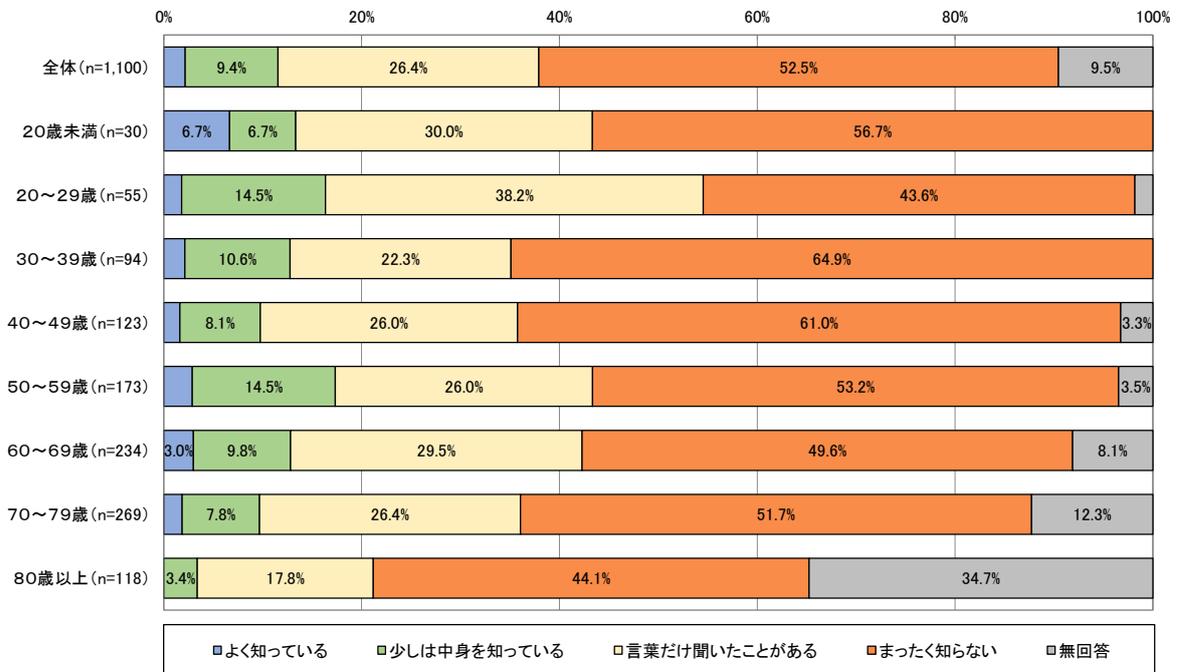
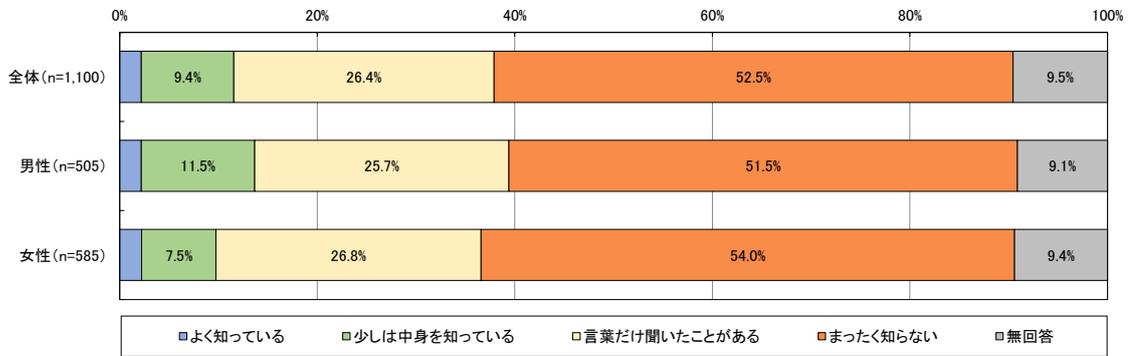
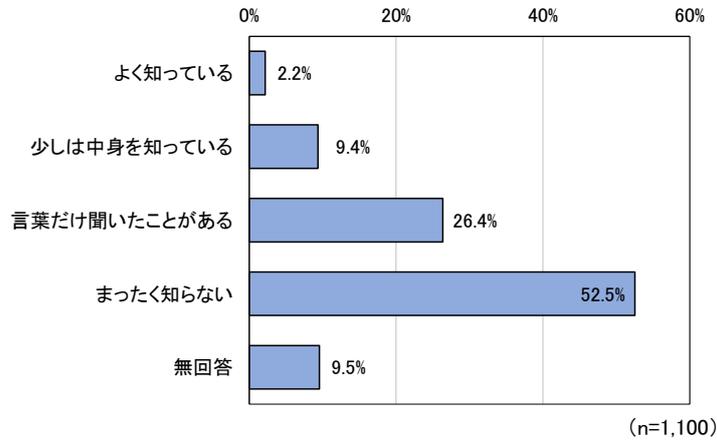
【仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）】

「まったく知らない」が34.4%と最も多く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」が29.8%となっています。



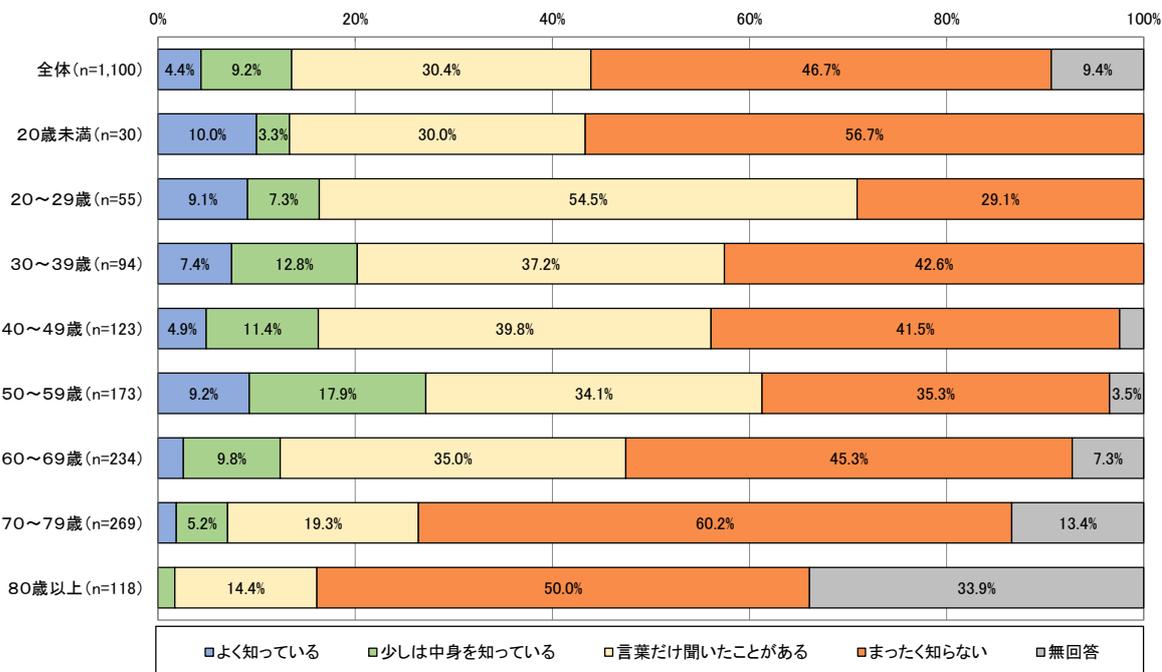
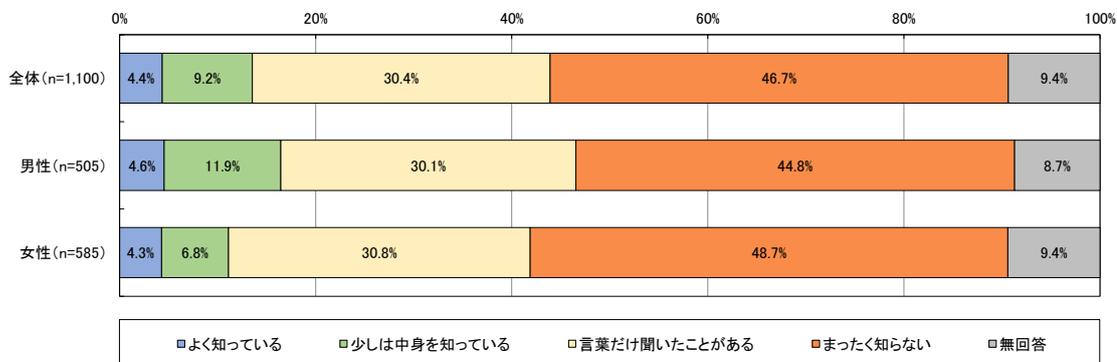
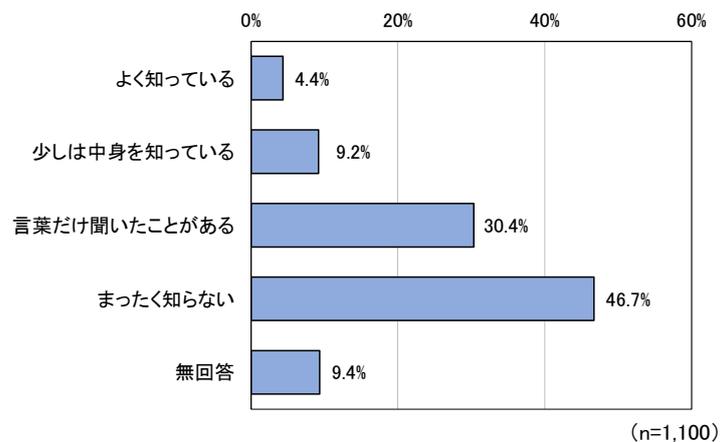
【ポジティブ・アクション（積極的改善措置）】

「まったく知らない」が52.5%と最も多く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」が26.4%となっています。



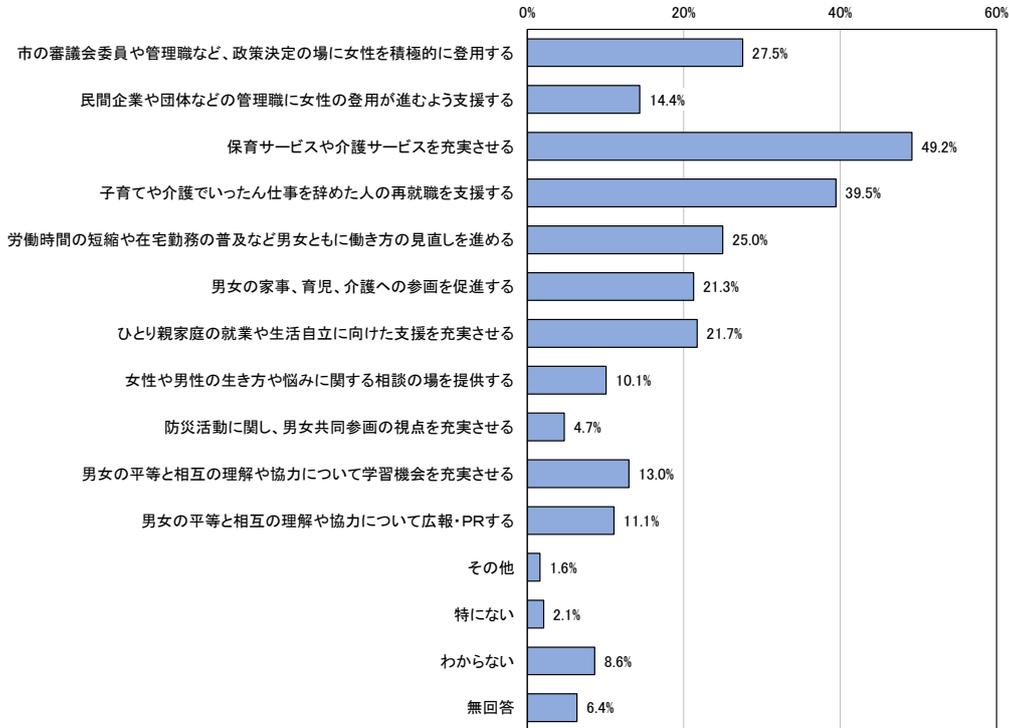
【ダイバーシティ】

「まったく知らない」が46.7%と最も多く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」が30.4%となっています。



問46 男女共同参画社会を実現していくために、今後、北茨城市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は特に必要だと思うものを3つまで)

「保育サービスや介護サービスを充実させる」が49.2%と最も多く、次いで「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が39.5%、「市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が27.5%となっています。



(n=1,100)

	市の審議会委員や管理職などに、政策決定の場に女性を積極的に登用する	民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	保育サービスや介護サービスを充実させる	子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める	男女の家事、育児、介護への参画を促進する	ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実させる	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	防災活動に関し、男女共同参画の視点を充実させる	男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実させる	男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	その他	特にない	わからない	無回答	
構成比	全体(n=1,100)	27.5%	14.4%	49.2%	39.5%	25.0%	21.3%	21.7%	10.1%	4.7%	13.0%	11.1%	1.6%	2.1%	8.6%	6.4%
	男性(n=505)	31.1%	16.6%	46.9%	36.4%	24.0%	18.4%	20.2%	9.9%	5.3%	12.9%	12.1%	3.0%	2.0%	9.5%	6.5%
	女性(n=585)	24.6%	12.6%	51.3%	42.4%	26.2%	24.1%	22.9%	10.3%	4.1%	13.3%	10.3%	0.5%	1.9%	8.0%	5.8%
	その他(n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答(n=9)	22.2%	0.0%	33.3%	11.1%	11.1%	0.0%	22.2%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	22.2%	0.0%	33.3%
構成比	全体(n=1,100)	27.5%	14.4%	49.2%	39.5%	25.0%	21.3%	21.7%	10.1%	4.7%	13.0%	11.1%	1.6%	2.1%	8.6%	6.4%
	20歳未満(n=30)	20.0%	6.7%	33.3%	33.3%	30.0%	26.7%	33.3%	10.0%	13.3%	23.3%	6.7%	0.0%	0.0%	13.3%	3.3%
	20~29歳(n=55)	14.5%	18.2%	47.3%	38.2%	43.6%	25.5%	27.3%	12.7%	3.6%	12.7%	1.8%	0.0%	3.6%	7.3%	0.0%
	30~39歳(n=94)	18.1%	22.3%	63.8%	45.7%	37.2%	16.0%	29.8%	8.5%	3.2%	13.8%	3.2%	2.1%	2.1%	4.3%	0.0%
	40~49歳(n=123)	25.2%	11.4%	43.1%	42.3%	28.5%	22.0%	14.6%	8.1%	4.9%	13.0%	8.9%	4.1%	2.4%	10.6%	2.4%
	50~59歳(n=173)	24.3%	10.4%	58.4%	39.3%	25.4%	24.3%	23.7%	11.0%	5.2%	12.7%	13.3%	2.3%	0.6%	9.8%	1.7%
	60~69歳(n=234)	30.8%	15.0%	55.6%	42.7%	26.1%	19.2%	23.1%	9.4%	3.4%	14.5%	12.8%	0.9%	1.7%	5.1%	5.1%
	70~79歳(n=269)	32.3%	15.6%	43.9%	40.1%	19.0%	21.2%	18.6%	10.4%	4.8%	12.3%	13.0%	1.5%	2.6%	10.4%	10.4%
	80歳以上(n=118)	33.1%	13.6%	34.7%	26.3%	12.7%	21.2%	18.6%	10.2%	5.1%	9.3%	14.4%	0.8%	3.4%	11.0%	19.5%
	無回答(n=4)	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【その他】

- すべて男女同数に（男性、60～69 歳）
- 幼少期からの教育現場での、男女共同への啓蒙活動をする。（男性、60～69 歳）
- 子育て支援（男性、30～39 歳）
- 女性のレベル向上、都合の良い時に「女」であることを利用する女性の意識改革（男性、50～59 歳）
- 職場への勤務時間監査、保育士、介護士への賃金改善（男性、30～39 歳）
- 女性に不向きな作業を無理にさせようとは思わない（男性、50～59 歳）
- 女性が興味を持つような利点をつける（女性、40～49 歳）
- 小さい頃からの教育が必要。（男性、70～79 歳）
- 男女の平等ではなく、機会の平等（男性、50～59 歳）
- 親身に話合える雰囲気を作れる場を設けてほしい（男性、70～79 歳）

問47 男女共同参画社会づくりについて、ご意見などがありましたらご記入ください。

- 何でもかんでも男女平等にすればいいかというと、別にそうではないと思っている。肉体的、精神的に男性の方にはそれなりの得意ジャンルがあり、逆もしかり。家か、会社がうまくまわればいいと思うし、本人達がどう思うか、周りの人がどう思うか、考え方が平等になればいいのと思う。他の地域から来た立場から言うと、田舎だから進まない部分はとても大きい。北茨城市において、何がBESTかはまだわからないが…終の住処となるであろうこの街には、田舎の良さを活かしながら、デメリットを改善し、皆が住みやすい街にしていきたい。(女性、30～39歳)
- 我が家は、核家族です。育児中は夫が家事や育児はそこそこ協力してくれましたが、義母(89才)は主人が家事育児を手伝ってくれる姿を見ると意見(小言や嫌味)を言ってきたので、その人達の考え方が変わらない限り、嫁である以上男女共同参画社会づくりは、難しいと思います。今でも小言を言われます。(女性、50～59歳)
- 地域によっては、まだ根強い風習的なものがある。いまだに男は仕事、女は家事、子育てという考え方がいると思う。日本の人口が年々減少している中で、生産性を上げないと、今の若い人は老後が安心して暮らしていけません。環境整備をしていかないとだめだと思います。たとえば、教育問題、賃金問題等、たくさんあると思います。技術的な改革をしないと衰退してしまいます。行政ばかりではなく、地域の人々を巻き込んでどうするか、早急に対策を立てて実行できるよう期待します。(男性、70～79歳)
- 地元の工業団地で働く人たちにもアンケートを取ってほしいです。コロナでもあり、職場での不満や不安等、たくさん悩んでいる若い人たちもいるはず。このアンケートは重要だと思います。是非、若者たちにも聞いてください。(女性、70～79歳)
- 男と女は、身体の機能が基本的に違うので、管理職登用には、難しい面が多いと思うが、次のようなことが必要になる。1. 子育ては女性の得意分野と認め、勤務時間を考慮してやり、職務能力のある人をサポートしてあげる制度の確立。2. あらゆる面で女性のハンデがバッシングを受けない男性社会の偏見教育。3. 管理職に登用となる能力のある女性にも、子育てと仕事の両立がうまくできるよう、その道の先輩が果たした経験実績を吸収する努力をすること。夫に手助けをしてもらうには限界があるため。4. 子育てと管理職の両立は、精神的にも非常に厳しい。よって、託児所の受け皿が絶対必要。それに精神的にまいらぬカウンセラー役も必要。甘えは許されないのが両立する管理職の立場。時間内で職務を全うできる仕事の見直しや、自動化の確立を計り、あらゆる面から無駄をなくし男女共同社会が成り立つ制度の確立に期待したい。(男性、80～89歳)
- 職場、家庭生活、地域活動などで、男女共に活躍し、男女共に夢や希望を実現できたら豊かな人生を送ることが出来るのに…。まだまだ社会における性別役割分担意識、慣行についての配慮が足りないように思います。(女性、60～69歳)
- 男女共同参画社会、とても素晴らしい事だとは思いますが。権利としては、勿論、同等でなければいけないと思います。しかしながら、どうして男女の区別があるのか。男性は、男性にしかできない事(得意分野)があるし、女性は、女性にしか出来ない事があると思います。持ち分というものがあると思います。お互いの持ち分、得意分野を生かすことが家庭を、地域を、社会を守り育てる事になるのではと思っています。男女は、決して同じではないと思います。(女性、60～69歳)

- これまでの男中心社会を改めるのは時間が必要と思います。(あせらず気長に…でも良いのでは) 幼児教育から「女性にも役割を担う」仕向け等、教育関係の方々に期待します。(男性、70～79 歳)
- 管理職に就いた女性より、管理職になれなかった男性の中に、その女性より明らかに仕事の出来る人が多くいた。女性だから管理職になっていた。これを平等というのかという思いがある。その人の能力をきちんと評価すること。その結果、男性、女性関係なく上に行くようにしないといけない。(男性、50～59 歳)
- とにかく男女問わず社会支援にサポートできるような街づくり、暮らし、支援に重礼してもらい、豊かな環境もかねて北茨城市まちづくりをよろしくお願いします。(男性、40～49 歳)
- このアンケートの設問が、男女共同参画の観点になっていないと思います。女性をどうするか、ではなく、男女、特に夫婦の役割をどうするか。職場や地域社会においても、役割分担を平等に。身体の都合(病気や障害)がある場合は別として、役割を男女で分けるのではなく、やれる人がやる。その能力を持つ人がやるということや、地域社会では、皆ができることを皆でやる。男女共同参画は、男女平等=男だ、女だ、という考えを払拭することだと思っています。女性管理職も男女比で考えるのではなく、管理職にふさわしい適任者が女性の方が多くてもいいし、適任者を昇格させて欲しいです。(女性、50～59 歳)
- 中小企業として、女性の職場復帰など助成金などあれば非常に助かりますし、推進しやすいと思います。(男性、30～39 歳)
- 平等！難しいですね。机の上での仕事ならともかく、体力的なことはどうなんでしょうか。(女性、70～79 歳)
- 市職員内で積極的に女性管理職の登用を望む。(男性、70～79 歳)
- 私はもう 75 歳近くになりましたが、社会活動などにも参加したい気持ちはありますが、体力的にも無理があります。夫も足、腰のリハビリに通っているので時間的に余裕がありません。そのほか内科、眼科などにも通院していますので。私もあまり体力に自信がないので、ほかの人に迷惑かけたくないと思っています。今出来ることはほかの人に頼らずにいきたいと思っていますので…。それなりに主人との今の生活をがんばっていきたいと思っています。(女性、70～79 歳)
- 高齢者でも働ける場合を作る (女性、50～59 歳)
- 数合わせにならないように、能力開発の場を。(男性、70～79 歳)
- 男女雇用機会均等法という法律はありますが、内容について学ぶ機会が少ないと思います。男女共同という当たり前の言葉がなくなればいいと思います。ごく普通のことです。中学校の制服も変えていく必要があると思います。(女性、30～39 歳)
- 女性のいろいろな集会等多くの参加者が多くみられるようになりました。家族の理解があつてのことと自由になった世間一般の理解の現れと感じます。一方で男性の出席がまだまだ少ないように見受けられます。定年後の男性のご意見等(職場での経験等々)お聞き出来たら良いと思っています。女性はどうしても家庭内にしぼられ、なかなか集会イベント等参加する勇気がないように見受けられます。参加しやすい環境作りが必要と感じております。(女性、80～89 歳)

- 男性の家事育児参画についての話し合いが大切。・学校教育の中で指導の場を意識して設定する。・県独自の男女共同参画社会づくりのマニュアルの作成をし、具体的な実践方法に努める。(男性、70～79歳)
- 現在の日本社会では性別による区別はあるが、差別はほとんどないと考えます。むしろ女性の方がイキイキしているように思います。(男性、50～59歳)
- 男性は女性の立場になって考え行動したり、女性も男性の立場になって考えて行動したりする事で相手の事がよくわかると思います。相手の気持ちを考えられる社会づくりを希望します。お互いの足りない部分を補い合える環境。共通の目標に向かって働いて達成感を、幸せを共有。相手の良いところを褒める。感謝の気持ちを忘れない。性別に関係なく人として認め合えたなら良い環境になるかもしれませんと思いました。(女性、50～59歳)
- 特にありませんが、男女共同参画社会づくりということについての知識が殆どないのではと思います。上記のついでにPRが必要と思われます。(男性、80～89歳)
- 男女共同参画社会づくりという中身が解らない何をどうしようとしているのかもっと詳しい資料が必要だと思います。アンケートの内容も、もう少し具体的にして欲しかった。何を目標にかかっているかもあまり理解出来ませんでした。もっと以前の問題があるのではないのでしょうか？とりあえずアンケートには回答致します。(男性、60～69歳)
- DVとセクハラはやめさせてほしいです…(女性、20～29歳)
- 私は本日4日で69才になりました。私達が育った時代とは大分変わって来ました。育児の面では男性が赤ちゃんを抱っこして散歩している様子や、家事を分担している話を聞きます。共働き家庭には必要不可欠なのですね。そういう時代になって大変良い事とは思いますが、夫婦間での感謝を忘れない様にしたいものです。(女性、60～69歳)
- 生活にゆとりがもてる社会(男性、50～59歳)
- 男女共同社会づくりを考える前に市の税金のむだ使いを考え直すべきだと強く、強く思います。このアンケートの何が役に立つのか？この紙代や郵送代を別の事に使うかだと思います。市も節約を心掛けていただきたい。市の職員を少し減らすとか、市議会議員の数を減らすとか。(女性、50～59歳)
- (男女共同参画社会づくり)例えばこの言葉の意味や活動内容を分かりやすく表現するなど思わず参加したくなるような表現が大切だと思う。(男性、70～79歳)
- 男女共同参画社会は必要と考えます。もっと地域住民の生活の質についても重点をおいてください。デフレ社会で何かがおかしくなっています。(男性、70～79歳)
- 男女関係なく、社会職場等は適材適所に人材を配置する方が良い。特に国会議員。このアンケートはやや女性寄りになっていませんか？(男性、50～59歳)
- 正直、北茨城市に住んでいながら、市での男女共同参画施策についての取り組み等には、関心とか考えた事がなかったです。最近ジェンダーのことはテレビなどメディアでやっているのをよく見かけるのでどんな性的マイノリティを持っている人も生きやすい世の中になってほしいとは願っていますが、実際に住んでいる地域ではどうなのかな、田舎で高齢の方が多いのでそういう取り組みは期待出来ないだろうなども心のどこかでは思っていました。でもこの機会にアンケートを答えることにより、市に思っている事を伝えることによって自分の考えを自分で知れたし、市のために少しでも役に立てれば幸いです。アンケートの機会をいただき、誠にありがとうございました。(女性、20～29歳)

- 学校の授業で、母子家庭の母親は、子育て支援の制度を知らないなど、情報難民である人が多いと習いました。北茨城市でも制度を認知してもらうようにもっと拡散するべきだと思います。(女性、20歳未満)
- 一人暮らしや年金暮らしの人の充実(男性、70~79歳)
- 北茨城市はまだ昭和の縛りが残っている住みにくい所だと思います。コロナでもそれが色濃く出たと思う。行かざるをえない都会に行っただけで、ばい菌扱いとかまずはそういう風土をなくしてほしいです。これからの若い世代にがんばってほしい!(女性、60~69歳)
- 私は小学生と保育園生の子供を持つ母親です。五浦に子供達が遊べる公園遊具がなく、いつも遠くまで足を運んでいます。歩いて行ける距離に公園遊具がほしいです。(女性、30~39歳)
- 70代の私にはいろいろな質問が難しく、きちんと答えられないと思いますので、その点は申し訳なく思います。北茨城市の住民として協力不足で申し訳ございません。(女性、70~79歳)
- 働いている職場の残業を減らす(女性、60~69歳)
- 北茨城市の税金を安くしてほしい。女性一人が住んで食べて楽しめる社会になってほしい。老後も心配です。(女性、50~59歳)
- この様なアンケートは、私の様な高齢者ではなく 現在就労している方々に記入していただき 今後のお役に立てるべきだと感じました。(女性、70~79歳)
- 市議会も男性ばかり、老若男女、性別も年齢もバランス良く市議会議員であるべき→投票率を上げて、市民、有権者のすべてが市政に参加するべきだと思う。(男性、40~49歳)
- 男と女では体のつくりが違うのでそこで差がでてしまうのはどうしようもないことだと思います。だからこそ違いを知り何をおぎない合うのが良いのか、どうしたら良い所をよりのぼしていけるのかなどプラスにとらえ考えていける社会になればいいと思いました。違いを知ったうえで、男女や年齢など関係なく、個人と個人として向き合い良い切磋琢磨していきたいですね。お仕事大変かと思われそうですが頑張ってください。おつかれさまです。(女性、20~29歳)
- 防災アナウンスを活用し、浸透する位、繰返しアナウンスする。(男性、60~69歳)
- 北茨城市は男性優位の考え方があたりまえと思う人が多い。例・世帯主は男性・結婚したら男性の姓にする。・女性は、字の役員にしない。上記のような例を変えて行けば変れると思う。(男性、70~79歳)
- 男女の平等は実際難しいと思うけど協力し合えることはたくさんあると思う。「育事や家事をもっとやろう!」みたいなことを言わなくても今の男の人は協力してくれるようになっていると思う。(あまり言いすぎると男の人はかわいそうかな。)女の人が男の人と同じように仕事ができるかと言ったら無理だと思うけど、(夜勤とか重労働とか)女の人でも仕事でできることがあるから活躍できるように会社が協力してくれたら子育てしながらでも働きやすくなると思う。(女性、30~39歳)
- 男女が共同参画社会をつくるには、男女が等しく働く時間を持つことである。現在、男が長時間労働で長く働いているのが難点であり、この改善が必要である。男の働く時間を減らし、女性の働く時間を増す社会的仕組が必要と思う。(男性、70~79歳)
- 北茨城市は、高齢者が、多く見うけられるが、病院に行くにしても交通が、大変不便で、タクシー券が、市からもらえても年金暮らしの方は自己負担が大きすぎる。市役所の職員が多すぎてはないか?その分、困っている方を考えてほしいものですね。(女性、60~69歳)
- 男女共同参画社会→認知度0まずはアピールしてから 周知された上での話では?大人は無理なので草の根、子供のうちからの教育が必要なのでは?(男性、40~49歳)

- 意欲的取り組み、すばらしい。こんな集約的意見の公的試み、大切です。難しく、めんどろな仕事ですが。市北部、少しずつ貧しくなっている気がします。お金が前より入らず、人の心も少しずつあれています。(不登校多し) 社会が子供の心に反映するのか？(男性、70～79 歳)
- 今回のアンケートについて、勉強不足の為インターネットで少々調べました。自分も直接、会社の上司からパワハラを受けました。会社の管理部門に相談しましたが、変化なしです。結局上職による職権の強みですよね。自分は負けずに頑張りました。当然、成績は上がるはずないです。虚しいばかりです。男女共同参画には直接関わることが出来ませんが、型だけでなく是非進めてもらいたいです。近くに娘がいて3人の子育てをしています。大変なので困った時は、連絡するように言ってあります。(男性、60～69 歳)
- 長年御世話になっているのにお役に立てずに、申し訳ありません。(女性、60～69 歳)
- 80 才を過ぎ、結婚前も働きに行くことなく、結婚後も家の農業をして過ごしてきましたので、質問に答えることがあまり出来ませんでした。申し訳ありません。嫁達が勤めて居りますので、息子達には、協力してすごすことを良く言っています。(女性、80～89 歳)
- 地域や環境によって考え方は様々だと思いますが、自分の事として捉え、これからの社会づくりに参加していかなくてはいけないと思います。(女性、60～69 歳)
- 女性への様々な負担が軽減されれば、社会への参加がしやすくなるのかなと思います。(女性、70～79 歳)
- 「女性を登用するには？とか登用を増やすには？」のような質問の意味は全くわからない。能力やふさわしいと思う人がたまたま、女性であれば増えていくかもしれないし、そうならないかもしれない。働く人が一人一人真剣に向きあうことが重要と思う。男性でも仕事ではなく、家の仕事や育児・介護に集中したいと思う人も沢山いる。それでも、経済的理由からあきらめている人も多い。(男性、30～39 歳)
- 地域によって最低賃金がちがうため一律同じくしてほしい(女性、50～59 歳)
- 問 39 で LGBTQ を知らないと解答した時、問 42 からまた LGBTQ の質問が続いて解答に困った。(女性、40～49 歳)
- 問 45 で「第3次きたいばらき男女共同参画プラン」の項目があったが、本アンケートで初めて知った。北茨城市が現在どのように取り組んでいるのか全く分からないので、今後ホームページ、Twitter、YouTube 等を今以上に市内だけでなく市外にももっとアピールしていくべきでは。(NHK のサイトでは男女共同参画社会についての基本情報がうまくまとまっていたので分かりやすかった)最後に、本アンケートを紙だけでなくインターネットでも回答できるようにしてほしい。わざわざポストに投かんしに行くのも煩わしい。また、忙しくてポストに行けずアンケートにそもそも答えないという可能性も考えられ、回答してもらえなかったら何の意味もない。インターネットだと郵送料にかかる税金も1度で済むし、集計する担当者の事務作業を削減でき、お互いに win-win になれると思う。市の「男女共同参画社会づくり」の実現に向けて、市民の貴重な税金を無駄に使用せずに効率化できる所は実行し、有意義に使われる事を望みます。(男性、20～29 歳)
- 条例・規則レベルで明記(制定)する等まずは法整備する。(男性、40～49 歳)
- 大人になってからの意識改革はハードルが高いように思う。そのため、小さい頃からの教育により男女が平等であるという意識を持たせる必要がある。経済格差により様々な問題が発生していると思うため、社会サービスや教育費の無償化等を推進して経済格差が生まれにくい社会作りを目指した方が良いと思う。また、女性が出産をするという事実は変えられず、人口減少

は貧困化を促進させるため、女性の出産が積極的に進められるように安心して出産・育児ができる仕組み作りが必要と思う。労働時間の短縮も上記に寄与すると思う。(男性、40～49歳)

■できればこのアンケートの結果を知りたいです。北茨城市民がどのような意識・意見を持っているか知りたいです。(女性、50～59歳)

■家事、介護など女性がするものだと考える人が多いようです。家庭の中での協力を望みたいです。回りに1人で介護をしている人がたくさんいます。要介護認定をきめて終わりではなく、その後の支援もおねがいしたいです。(女性、50～59歳)

■私自身男女平等じゃなくて良いと思っているのであまり役に立たないかもしれないです。世の中男女平等になるから男の人の頼り無さが目立ってきたのだと思います。男の人の方が上にいてくれば女の人が働かなくてすむし、お父さんはすごいねー！ってなるんだと思います。変に男女平等にするから女の人が苦しめられるんだと思う。(女性、30～39歳)

■女性のレベルが低い。「女性」という「弱者権力」を振りかざし、やりたい放題(全ての女性とは言わないが)今の日本は「女」が悪くしている。家庭での教育が悪い。まずは女性自身の意識改革が必要。男女共同を目指すほど日本はおかしくなっていくだろう(男性、50～59歳)

■女性を参画させる場合、いくつか条件等が発生すると思われるが、結婚後出産し、子供を育てる中での子供を預ける場所を充実させる必要がある。要は働きやすくする。→育休を取りやすくする→復帰しやすい場所などの確保が重要。(金銭面も含めて)介護も同様に行く。(上記内容と)これらを市が充実させる事でこれに伴う働き場所と人材が必要となるので、経済が潤うのでは?これらを行うにはやはり県や国のバックアップが不可欠。我々の税金がこのように使われるのであれば、納税の意味があると思われる。住みやすい町づくりの第一歩ではと思われる。(男性、40～49歳)

■男女共同参画社会作りについて、日頃より感じていることは、男性、女性それぞれの特性を生かした職場で、共に足りないところは、補い合えることが共同参画かと思えます。(女性、70～79歳)

■市民の声を聞きたいのであれば、選択させるアンケートではなく記述式のアンケートのほうが良いと思えます。(男性、20歳未満)

■返信用封筒が小さ過ぎる。(男性、70～79歳)

■この機会を生かして、もっと詳しく知りたいです。毎月発行している市報に男女共同参画社会作りのアンケートの結果を教えてください！女性の社会進出が昔と違って著しいので、北茨城市をもっと女性の活躍(40～50代)を期待したいです！(女性、60～69歳)

■男や女という分け方ではなく、個人の得意なことが生かされると良いと思う。★Uターンに力を入れる。介護、子育て、空き家、老人の孤独、人口増加 etc…多方面に効果がありそう。Uターンできない理由として仕事がない。カフェやショップ開業、実家の事業を継ぐなどの人に1年間トライアル期間として補助金とか。Uターンしてきた方には1年間市民税半額とか。何かきっかけ、話題が必要かも。(女性、40～49歳)

■その人の家庭の事情に合った人事をした方が良い。(男性、60～69歳)

■北茨城市は公務員の意識改革をすべき。本当に市をよくしようと働いていますか?安定しているから仕事をしていませんか。市民の声を正確に聞くべきだと思います。(女性、40～49歳)

■男性(他)が無理に男性と同じ作業をさせようとしているように思える。女性が体力的に厳しい作業をしたい、とか精神的に追い込まれる仕事をしたい、というならそのための障害は女性に聞く機会を作るべき。男女共働きとはどのような事についてか曖昧すぎて返答に困る。(男性、50～59歳)

- 私は60代女性です。中高年の方は特に意識する事が必要だと思います。しかし知るきっかけがなく、今の生活が当たり前であるという思い、どこかで変えなくてははいけません。中にはなんでも一緒にやっている夫婦の方もいらっしゃいますが、まして高齢の方がそうであったら素晴らしいことです。私たちはダメですが。北茨城市が男女共同参画社会と言われる様になる為の1歩になるかどうか分かりませんが、市にはいろいろな教室があります。まずはその人たちにチョットずつ話をして行くことから始めたらどうでしょうか。又、市のイベントの最初でも、最後まで話をして、意識してもらおう、そんな事から広がっていけば…と思います。若い方は柔軟な頭ですぐに理解して、出来そうな気がします。(女性、60~69歳)
- 設問に一貫性がない。Q12.Q13は何をもって優遇とするかで回答が変わる。こうしたアンケートはWEBでやった方が集計等が容易では?少なくとも希望者はWEBで出来るようにすべきでは?(男性、40~49歳)
- 誰もが人間として心豊かな生活を送っていきけるような社会を望みます。(女性、70~79歳)
- 男女が必ず社会に出て働くことではなく、それぞれが働きたいと希望する人は働ける環境を主婦(夫)を望む人はほこりを持って主婦業に専念するそんな環境作り、意識の変化を期待しています。(男性、70~79歳)
- 世代間格差の壁があるのではないのでしょうか。下の世代がより生きやすい時代になってほしいと思います。(女性、50~59歳)
- 基本的に面倒なことはしたくないのが本音。特に女性は、家事、仕事、育児、やる事が多く自分の時間はほんの少し。なのに社会的評価は低いまま。女性を参加させたいのであれば、「やりたい」「やってみたい」と思わせること。仕事の内容に見合った賃金などであれば興味を持ってくれるかと思う。(女性、40~49歳)
- まだまだ「女、子供はだまって…」と聞いてもらえない所があると思う。(女性、60~69歳)
- 目的、経緯がよくわかりません。(男性、70~79歳)
- 個人的な意見ですが、私は前面に出て活動することが好きではないので、男女平等という主張は少し困ってしまいます。(女性、50~59歳)
- このアンケートも女性についてのことが多かったのもそれどころかと思った。服装外見ふるまいについて、必要以上に差別することを減らせるよう努力して欲しい。(女性、20歳未満)
- 何かの都合で一人暮らしになったら、市でシェアハウスを作って無料で暮らせる社会づくりをして欲しいです。(女性、70~79歳)
- 毎日毎日朝起きたら、当然の様に女性の働きがなければ、刻が動かず、男性が待っている時間が普通の背景がある以上、前進するのか疑問しかないですね。お互いに労りあえる姿が欲しい所です。(女性、70~79歳)
- とにかく小さくても実績を積み上げていくこと。(男性、70~79歳)
- 男女共同参画社会づくり。ようするに個人個人が考え行動していく事なので、今の日本の現状では時間がかかるのでしょね。早く誰もが住みやすい社会になる事を願っております。ありがとうございました。(女性、60~69歳)
- 社会全体で取り組みする問題である。説得力のある言葉で、私も本を読み幅を広げたいと思う。ありがとうございました。(女性、70~79歳)
- アンケートの内容が年代にふさわしくない。どうせやるなら年代別にした方がよい。答えようがない。※年金を受け取らないで亡くなる人(実の兄)介護保険も使わず亡くなる人→生活困窮者から、あたり前に徴収するのはおかしい。生活が苦しく働かなくてはならず働いて使用す

る前に死んでしまう。介護保険は引かれる度に思う。使用しなかった人には還元すべき（理想は1年ごと）是非考えて欲しい！お茶のみ話してこんな話しが毎回そして皆思っている事。1人2人が書いてどうにかなりますか？とりあげてもらえているのですか？それさえも分からない。のれんに腕押しにしか感じられない。（女性、60～69歳）

- 今の社会をすぐに変えるのは難しいが子供達があたり前のように男女わけへだてなく教育を受けなければ男女で共同協力して社会を作っていくことができると思います。今現在の自身の状況でいえば男女平等とは程遠い生活をしていると感じます。家事育児はできるだけ母親がする。生活費もできるだけ入れる。たまの息抜きやほんのごほうび的なこともなにかにはばかれる。また、そんな状況を打開しようと努力することもせず、甘んじて受け入れています。変えようとする気力も余力もなく、日々が過ぎていきます。女性で重責のある仕事をしている人は、家の中のことはどうしているのかなと思います。よっぽど努力をされていて、家族の協力も理解も充分なのでしょう。今の自分にはできません。言い訳でしょうか。育ってきた環境にもよるでしょう。父親がエライ、父親は外で働いて母親は家の中のことをするのが当たり前として育てば…。結局は本人のやる気しだいだと思います。男も女もその性を言い訳にせず、できることを精一杯やるべきです。そう自分に言いかけたいと思います。（女性、40～49歳）
- 一部のメディア（マスコミなどの）情報に流されすぎです。昔からある日本人の良識を持って進まれる事を希望します。（男性、50～59歳）
- アンケートの内容において普通に女性が被害者である様な表現が目についた。DV等は男女どちらも被害者になりうる。行政がそこに思いたいれない時点で男女共同参画社会の実現はほど遠いのではないかと（男性、30～39歳）
- 今の私の状況に於いては余り参考になる意見は出てきません。少し現実から遠ざかってしまう様です。年齢は幅を無くした方がいいと思いますが。（女性、70～79歳）
- 男女共同参画社会づくりの実現には北茨城市のサポートは必要不可欠だと思います。現代社会においても女性を格下に取扱う男性がいるのは事実です。そのような考えを正すためには積極的な行政機関の介入が望まれ、法的整備（条例を含む）も女性地位向上のためには急がれます。この度のアンケートが北茨城における市政運営のお役に立てれば幸いに存じます。（男性、30～39歳）
- 現在子育て中の方は子供の部活の送迎等で時間をとられかなり忙しい日々を過ごしていると聞きます。体力的にもさまざまな事柄に参加したくても出来ないと思います。又、一線を退くと体力も無くなって来てしまい、なかなか難しくなってしまいます。その為には各自どの程度のボランティアなら参加出来るか把握して少しずつでも出来る事から始めるのが良いと思います。（女性、60～69歳）
- 男女というより個々の能力や適性を重視すべきだと思う。（女性、70～79歳）
- 学校、家庭での教育・話し合いが必要と考えます。理想ですが、小さい子が1人で服を着られる、食事が出来るように、男女平等にすごせるように家・学校・社会でも話し合われる社会になると良い。女性自身もあまえる事なく社会参加に加わるように！（女性、70～79歳）
- 書面では書けない夫婦間や恋人間の問題など何でも話し合える機関が必要と思います。（男性、70～79歳）
- 北茨城市にもっと女性の働ける職場を増やしてほしい。雇用なさすぎる。（女性、40～49歳）
- この取り組み自体が良い事と思っております。今後も頑張ってください。（男性、70～79歳）
- 男女共同参画社会づくりに重要なことは、性別の違いにおける体のしくみの違い、例えば生理現象や女性の妊娠など、そういったことに当たり前に配慮し、スムーズに対応できるしくみを社会

全体で作ること,そして性別に関係なく能力などを考慮した上で平等に雇用や配属などをする
ことだと考えます。男性だから,女性だからという偏った価値観が無くなることも重要だと思いま
す。(男性、20～29 歳)

■男女平等は表現だけが先走りしていて現実には疑問を感じる。まずは公平に雇用・仕事・家庭
内の事情・子育てなどが行われ、女性本人の意志・能力などに応じて管理職になるのが適正と
考える。これは男性も同様、男女差別や年功序列などで決められてはならない。今回初めて
「男女共同～」の取り組みがあるのを知った。これからいろいろな方法で我々市民に周知し、
どんどん広げ、より良い社会に向けて欲しい。(男性、60～69 歳)

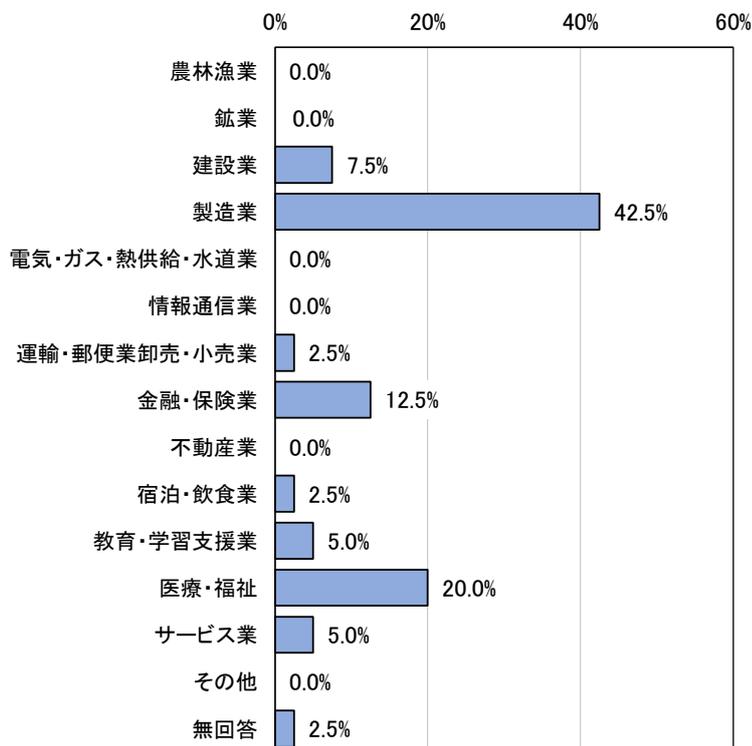
■男女が均等に政治的、経済的、社会的及び、文化的利益を享受することは、今現在、無理では
ないかと感じております。男性女性の脳と体の違いなど、育児介護はほぼ女性に任されている
状況に、私は認定こども園のように、介護施設も時間の延長を提案したいです。そうすれば、
少しですが（介護で困っている人達）女性が安心してフルで働ける環境が整うのではないかと
思います。私事ですみません。そのような所があれば、仕事を辞めずにすんだので。この北茨
城市がますます住みやすいステキな場所になりますように期待しております。(女性、50～59
歳)

■市職員に有能な女性を積極的に雇用する。女性を管理職に積極的に登用する。無能な男性より
有能な女性の方が仕事は効率的に進む。有能な女性職員は、子育てや介護をやめても再就職を
支援するべきである。一番初めに市役所の職場で男女共同参画の実例を示し、市民に実例をア
ピールすることが必要であると思う。公共団体が積極的にPR、広報活動を行うことが重要と
思う。(男性、30～39 歳)

IV. 事業所調査結果

問1 主な業種は何ですか。(〇は1つ)

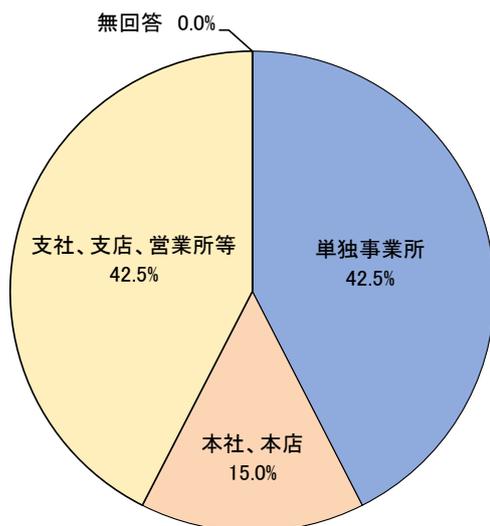
主な業種については、「製造業」が42.5%と最も多く、次いで「医療・福祉」が20.0%、「金融・保険業」が12.5%となっています。



項目	度数	構成比
農林漁業	0	0.0%
鉱業	0	0.0%
建設業	3	7.5%
製造業	17	42.5%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0%
情報通信業	0	0.0%
運輸・郵便業卸売・小売業	1	2.5%
金融・保険業	5	12.5%
不動産業	0	0.0%
宿泊・飲食業	1	2.5%
教育・学習支援業	2	5.0%
医療・福祉	8	20.0%
サービス業	2	5.0%
その他	0	0.0%
無回答	1	2.5%
合計	40	100.0%

問2 事業所の区分は何ですか。(〇は1つ)

事業所の区分については、「単独事業所」「支社、支店、営業所等」が42.5%、「本社、本店」が15.0%となっています。

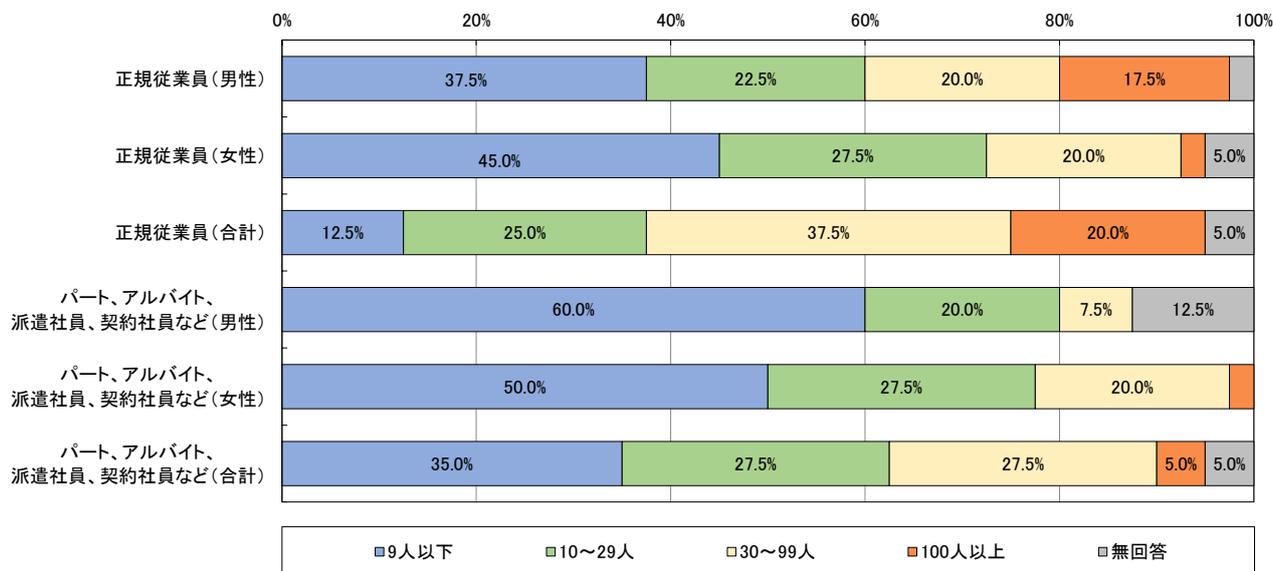


項目	度数	構成比
単独事業所	17	42.5%
本社、本店	6	15.0%
支社、支店、営業所等	17	42.5%
無回答	0	0.0%
合計	40	100.0%

問3 貴事業所の従業員数について、男女別に記入してください。

事業所の従業員数については、正規従業員では「9人以下」が（男性）では37.5%、（女性）では45.0%と最も多く、正規従業員（合計）では「30～99人」が37.5%と最も多くなっています。

パート、アルバイト、派遣社員、契約社員では「9人以下」が（男性）では60.0%、（女性）では50.0%、（合計）では35.0%といずれも最も多くなっています。



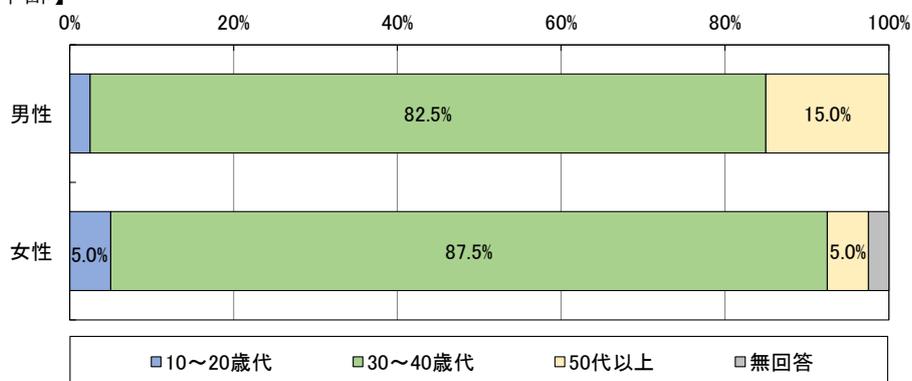
		9人以下	10～29人	30～99人	100人以上	無回答	回答計
度数	正規従業員(男性)	15	9	8	7	1	40
	正規従業員(女性)	18	11	8	1	2	40
	正規従業員(合計)	5	10	15	8	2	40
	パート、アルバイト、派遣社員、契約社員など(男性)	24	8	3	0	5	40
	パート、アルバイト、派遣社員、契約社員など(女性)	20	11	8	1	0	40
	パート、アルバイト、派遣社員、契約社員など(合計)	14	11	11	2	2	40
	構成比	正規従業員(男性)	37.5%	22.5%	20.0%	17.5%	2.5%
正規従業員(女性)		45.0%	27.5%	20.0%	2.5%	5.0%	100%
正規従業員(合計)		12.5%	25.0%	37.5%	20.0%	5.0%	100%
パート、アルバイト、派遣社員、契約社員など(男性)		60.0%	20.0%	7.5%	0.0%	12.5%	100%
パート、アルバイト、派遣社員、契約社員など(女性)		50.0%	27.5%	20.0%	2.5%	0.0%	100%
パート、アルバイト、派遣社員、契約社員など(合計)		35.0%	27.5%	27.5%	5.0%	5.0%	100%

問4 貴事業所の正規従業員の平均年齢と平均勤続年数（1年未満は四捨五入）を男女別に記入してください。

事業所の正規従業員の平均年齢と平均勤続年数については、平均年齢では「30～40歳代」が男性では82.5%、女性では87.5%と最も多くなっています。

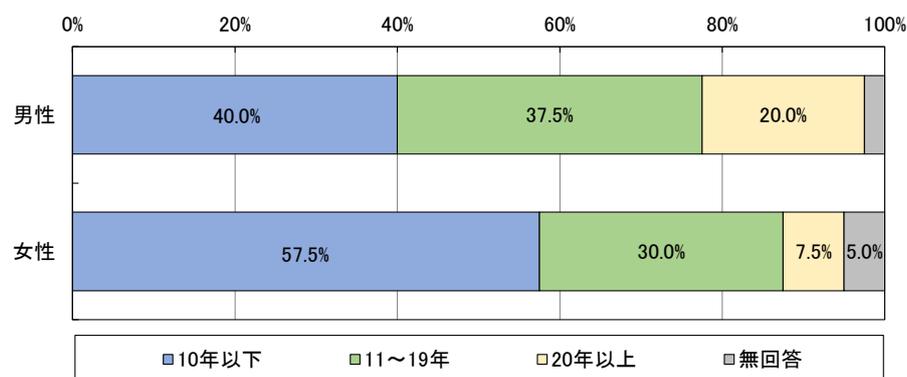
平均勤続年数では「10年以下」が男性では40.0%、女性では57.5%と最も多くなっています。

【平均年齢】



		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50代以上	無回答	回答計
度数	男性	1	33	6	0	0	40	
	女性	2	35	2	1	0	40	
平均年齢	男性	2.5%	82.5%	15.0%	0.0%	0.0%	100%	
	女性	5.0%	87.5%	5.0%	2.5%	0.0%	100%	

【平均勤続年数】



		10年以下	11～19年	20年以上	無回答	回答計
度数	男性	16	15	8	1	40
	女性	23	12	3	2	40
構成比	男性	40.0%	37.5%	20.0%	2.5%	100%
	女性	57.5%	30.0%	7.5%	5.0%	100%

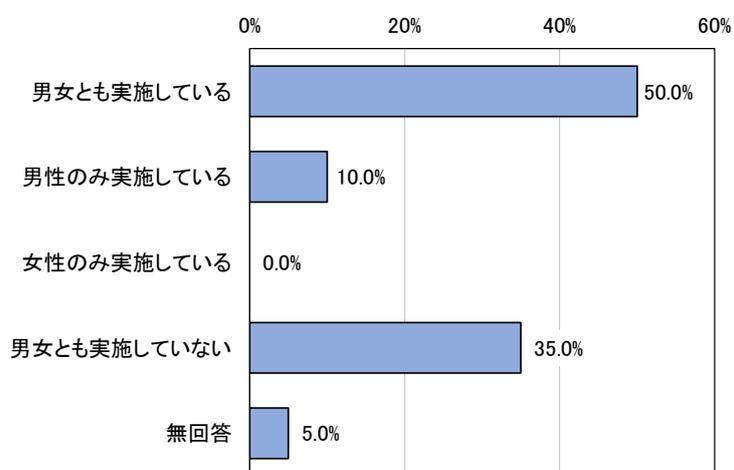
問5 係長以上の管理職及び女性管理職の人数を記入してください。

係長以上の管理職及び女性管理職の人数については、「管理職員総数」546人のうち、「女性人数」は、58人となっており、「女性比率」は11%となっています。

管理職員総数	うち女性人数	女性比率
546人	58人	10.6%

問6 管理職研修の実施についてお答えください。

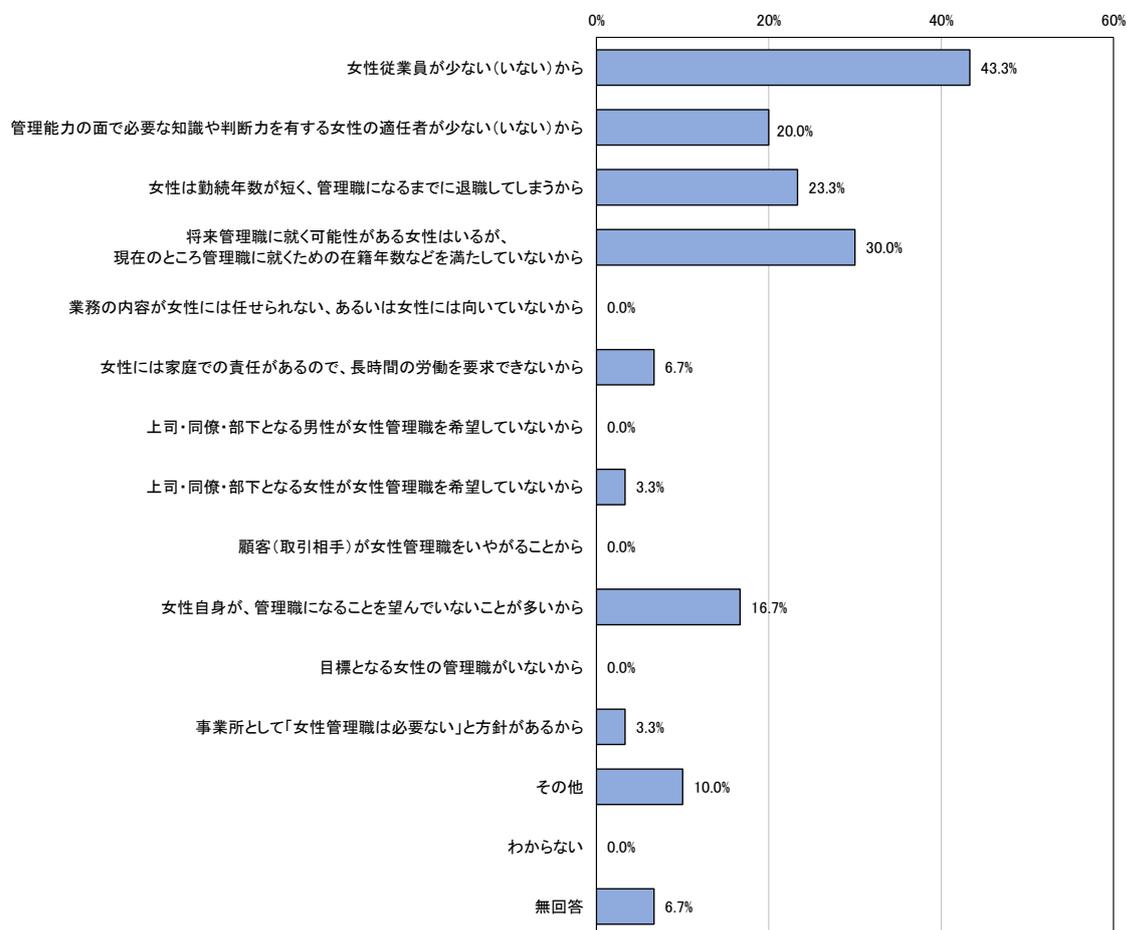
管理職研修の実施については、「男女とも実施している」が50.0%と最も多く、次いで「男女とも実施していない」が35.0%、「男性のみ実施している」が10.0%となっています。



項目	度数	構成比
男女とも実施している	20	50.0%
男性のみ実施している	4	10.0%
女性のみ実施している	0	0.0%
男女とも実施していない	14	35.0%
無回答	2	5.0%
合計	40	100.0%

問7 【問5で、女性管理職の割合が管理職全体の30%未満の事業所に伺います】30%未満である理由はなんですか。

女性管理職の割合が管理職全体の30%未満である理由については、「女性従業員が少ない(いない)から」が43.3%と最も多く、次いで「将来管理職に就く可能性がある女性はあるが、現在のところ管理職に就くための在籍年数などを満たしていないから」が30.0%、「女性は勤続年数が短く、管理職になるまでに退職してしまうから」が23.3%となっています。



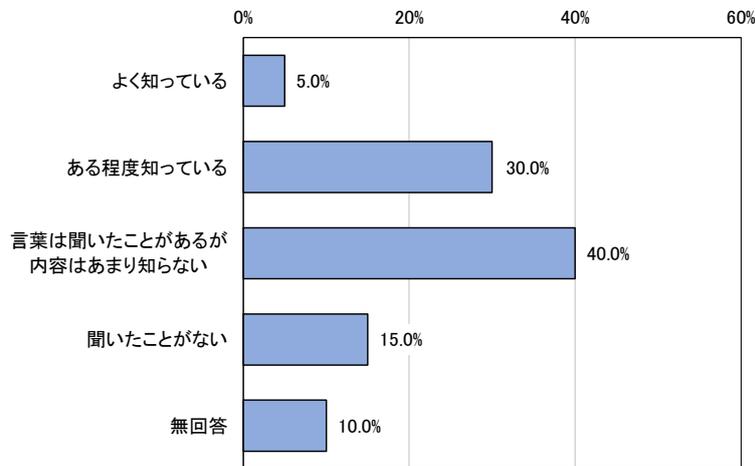
項目	度数	比率
女性従業員が少ない(いない)から	13	43.3%
管理能力の面で必要な知識や判断力を有する女性の適任者が少ない(いない)から	6	20.0%
女性は勤続年数が短く、管理職になるまでに退職してしまうから	7	23.3%
将来管理職に就く可能性がある女性はあるが、現在のところ管理職に就くための在籍年数などを満たしていないから	9	30.0%
業務の内容が女性には任せられない、あるいは女性には向いていないから	0	0.0%
女性には家庭での責任があるので、長時間の労働を要求できないから	2	6.7%
上司・同僚・部下となる男性が女性管理職を希望していないから	0	0.0%
上司・同僚・部下となる女性が女性管理職を希望していないから	1	3.3%
顧客(取引相手)が女性管理職をいやがることから	0	0.0%
女性自身が、管理職になることを望んでいないことが多いから	5	16.7%
目標となる女性の管理職がいないから	0	0.0%
事業所として「女性管理職は必要ない」と方針があるから	1	3.3%
その他	3	10.0%
わからない	0	0.0%
無回答	2	6.7%
回答者数	30	
非該当	10	
合計	49	

【その他】

- 女性のいない職場が多いため（製造業）
- パートタイマーより正社員への登用が少なく、正社員の女性が少ないため（製造業）

問8 「ポジティブ・アクション」という言葉を聞いたことがありますか。(〇は1つ)

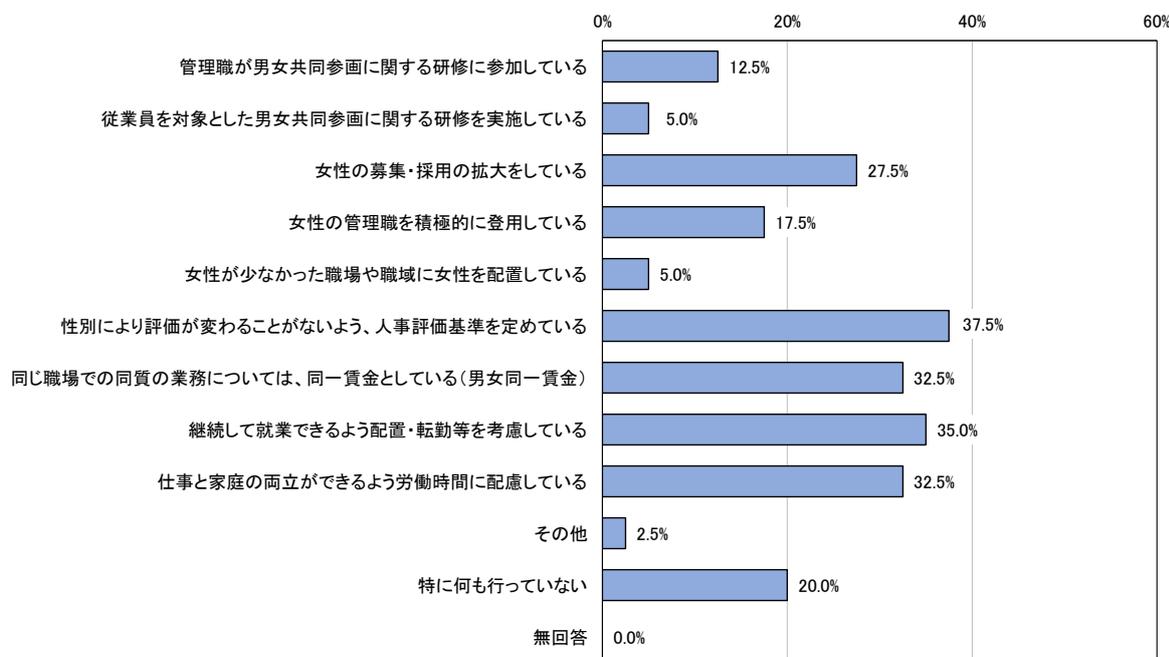
「ポジティブ・アクション」という言葉を聞いたことがあるかについては、「言葉は聞いたことがあるが内容はあまり知らない」が40.0%と最も多く、次いで「ある程度知っている」が30.0%、「聞いたことがない」が15.0%となっています。



項目	度数	構成比
よく知っている	2	5.0%
ある程度知っている	12	30.0%
言葉は聞いたことがあるが内容はあまり知らない	16	40.0%
聞いたことがない	6	15.0%
無回答	4	10.0%
合計	40	100.0%

問9 男女共同参画の職場とするため、貴事業所ではどのような取組をされていますか。(あてはまるものすべてに○)

男女共同参画の職場とするため、貴事業所ではどのような取組をしているかについては、「性別により評価が変わることがないよう、人事評価基準を定めている」が37.5%と最も多く、次いで「継続して就業できるよう配置・転勤等を考慮している」が35.0%、「同じ職場での同質の業務については、同一賃金としている(男女同一賃金)」、「仕事と家庭の両立ができるよう労働時間に配慮している」が32.5%となっています。



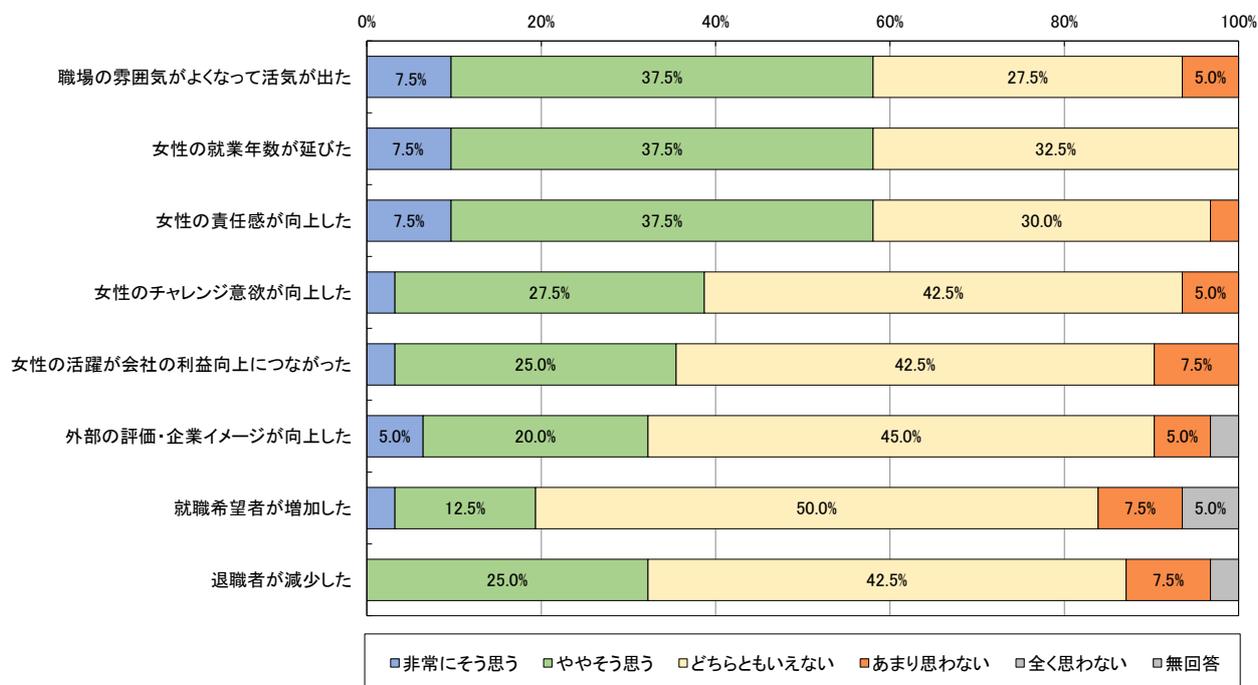
項目	度数	比率
管理職が男女共同参画に関する研修に参加している	5	12.5%
従業員を対象とした男女共同参画に関する研修を実施している	2	5.0%
女性の募集・採用の拡大をしている	11	27.5%
女性の管理職を積極的に登用している	7	17.5%
女性が少なかった職場や職域に女性を配置している	2	5.0%
性別により評価が変わることがないよう、人事評価基準を定めている	15	37.5%
同じ職場での同質の業務については、同一賃金としている(男女同一賃金)	13	32.5%
継続して就業できるよう配置・転勤等を考慮している	14	35.0%
仕事と家庭の両立ができるよう労働時間に配慮している	13	32.5%
その他	1	2.5%
特に何も行っていない	8	20.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

【その他】

■ 歯科医院なので基本女性職場である (男性 2 人 女性 11 人) (医療・福祉)

問10 【問9で「管理職が男女共同参画に関する研修に参加している」～「仕事と家庭の両立ができるよう労働時間に配慮している」までに○をつけられた事業所に伺います。改善に取り組まれた結果、どのような効果が得られましたか。(○は各項目から1つ)

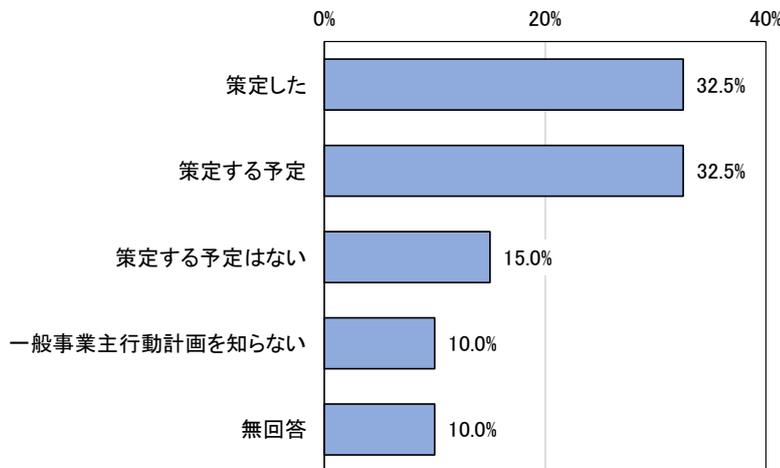
【職場の雰囲気よくなって活気が出た】、【女性の就業年数が延びた】、【女性の責任感が向上した】において「ややそう思う」が最も多くなっています。



		非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答	非該当	回答計
度数	職場の雰囲気がよくなって活気が出た	3	15	11	2	0	0	9	40
	女性の就業年数が延びた	3	15	13	0	0	0	9	40
	女性の責任感が向上した	3	15	12	1	0	0	9	40
	女性のチャレンジ意欲が向上した	1	11	17	2	0	0	9	40
	女性の活躍が会社の利益向上につながった	1	10	17	3	0	0	9	40
	外部の評価・企業イメージが向上した	2	8	18	2	1	0	9	40
	就職希望者が増加した	1	5	20	3	2	0	9	40
	退職者が減少した	0	10	17	3	1	0	9	40
構成比	職場の雰囲気がよくなって活気が出た	7.5%	37.5%	27.5%	5.0%	0.0%	0.0%	22.5%	100%
	女性の就業年数が延びた	7.5%	37.5%	32.5%	0.0%	0.0%	0.0%	22.5%	100%
	女性の責任感が向上した	7.5%	37.5%	30.0%	2.5%	0.0%	0.0%	22.5%	100%
	女性のチャレンジ意欲が向上した	2.5%	27.5%	42.5%	5.0%	0.0%	0.0%	22.5%	100%
	女性の活躍が会社の利益向上につながった	2.5%	25.0%	42.5%	7.5%	0.0%	0.0%	22.5%	100%
	外部の評価・企業イメージが向上した	5.0%	20.0%	45.0%	5.0%	2.5%	0.0%	22.5%	100%
	就職希望者が増加した	2.5%	12.5%	50.0%	7.5%	5.0%	0.0%	22.5%	100%
	退職者が減少した	0.0%	25.0%	42.5%	7.5%	2.5%	0.0%	22.5%	100%

**問11 貴事業者は、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定しましたか。
(〇は1つ)**

次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定したかについては、「策定した」「策定する予定」がともに32.5%と最も多く、次いで「策定する予定はない」が15.0%となっています。



項目	度数	構成比
策定した	13	32.5%
策定する予定	13	32.5%
策定する予定はない	6	15.0%
一般事業主行動計画を知らない	4	10.0%
無回答	4	10.0%
合計	40	100.0%

問12 令和2年4月1日から令和3年3月31日までの従業員の出産や育児休業の取得状況について記入してください。

女性従業員は「出産」42人、そのうち「育児休業を取得または申出をしている人」は42人で、取得状況100%となっています。一方、男性従業員は配偶者が出産をした人の育児休業取得状況は5%となっています。

	出産した(男性の場合は配偶者が 出産した)従業員数	うち、育児休業を取得、 または取得申出をしている人数	割合
女性従業員	42人	42人	100%
男性従業員	66人	3人	5%

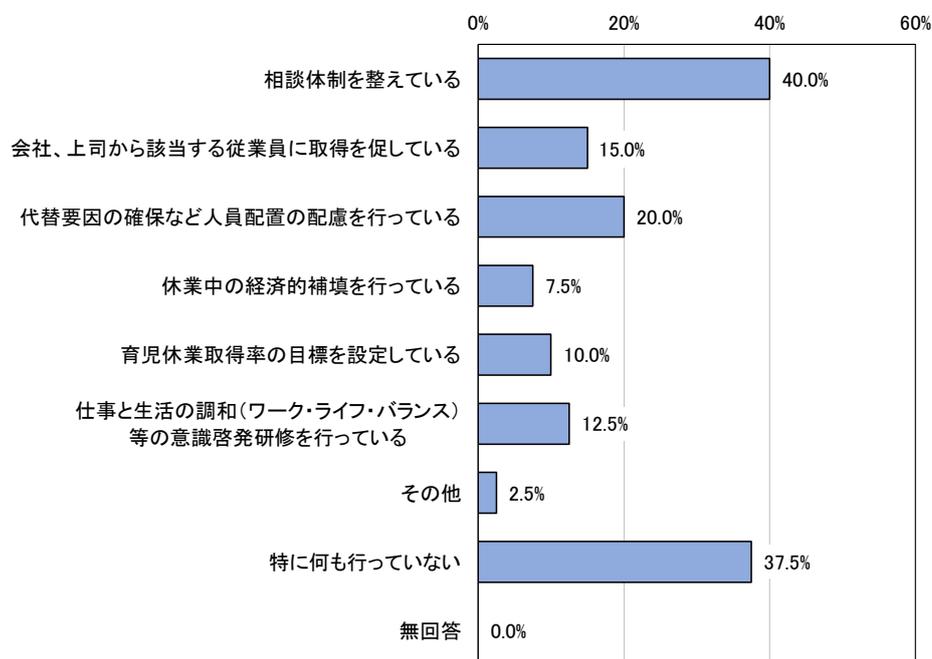
問13 【問12で育児休業を取得または取得申出をしている人】がいる事業所に伺います。育児休業を取得した従業員の取得期間別の該当箇所に人数をご記入ください。

女性従業員は、「1年～1年6か月未満」が22人と最も多く、次いで、「6か月～1年未満」が8人となっています。一方、男性従業員は、「1か月～6か月未満」が最も多く2人、次いで「1か月未満」が1人となっています。

	1か月未満	1か月～ 6か月未満	6か月～ 1年未満	1年～ 1年6か月未満	1年6か月以上
女性従業員	0人	2人	8人	22人	8人
男性従業員	1人	2人	0人	0人	0人

問14 男性の育児休業取得促進のための方策を何か行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

男性の育児休業取得促進のための方策については、「相談体制を整えている」が40.0%と最も多く、次いで「特に何も行っていない」が37.5%、「代替要因の確保など人員配置の配慮を行っている」が20.0%となっています。



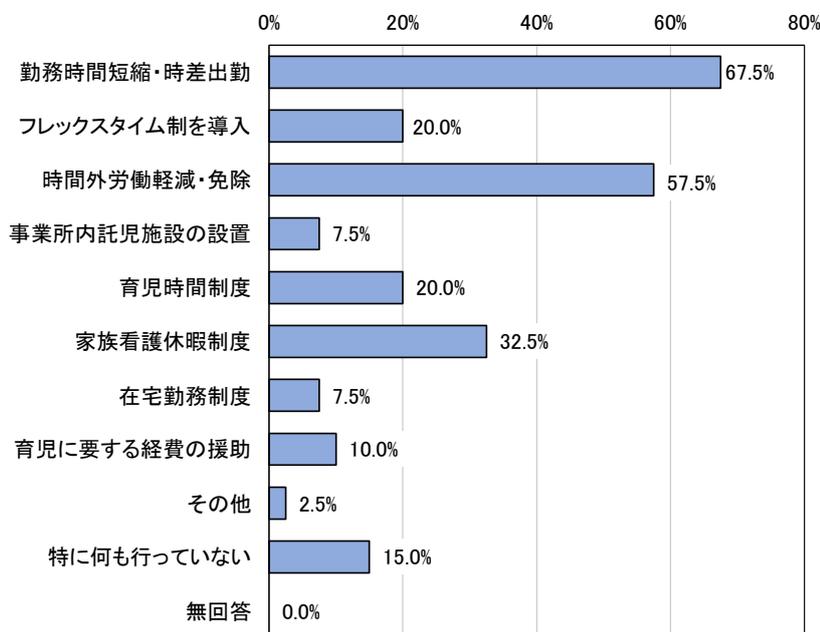
項目	度数	比率
相談体制を整えている	16	40.0%
会社、上司から該当する従業員に取得を促している	6	15.0%
代替要因の確保など人員配置の配慮を行っている	8	20.0%
休業中の経済的補填を行っている	3	7.5%
育児休業取得率の目標を設定している	4	10.0%
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	5	12.5%
その他	1	2.5%
特に何も行っていない	15	37.5%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

【その他】

- 規定変更 (製造業)

**問 15 子どもを育てながら働いている従業員のために、特別な配慮や制度の設定等をしていますか。
(あてはまるものすべてに○)**

子どもを育てながら働いている従業員のために、特別な配慮や制度の設定等をしているかについては、「勤務時間短縮・時差出勤」が67.5%と最も多く、次いで「時間外労働軽減・免除」が57.5%、「家族看護休暇制度」が32.5%となっています。



項目	度数	比率
勤務時間短縮・時差出勤	27	67.5%
フレックスタイム制を導入	8	20.0%
時間外労働軽減・免除	23	57.5%
事業所内託児施設の設置	3	7.5%
育児時間制度	8	20.0%
家族看護休暇制度	13	32.5%
在宅勤務制度	3	7.5%
育児に要する経費の援助	4	10.0%
その他	1	2.5%
特に何も行ってない	6	15.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

【その他】

- 育児休業規定にあるものを実施する予定（製造業）

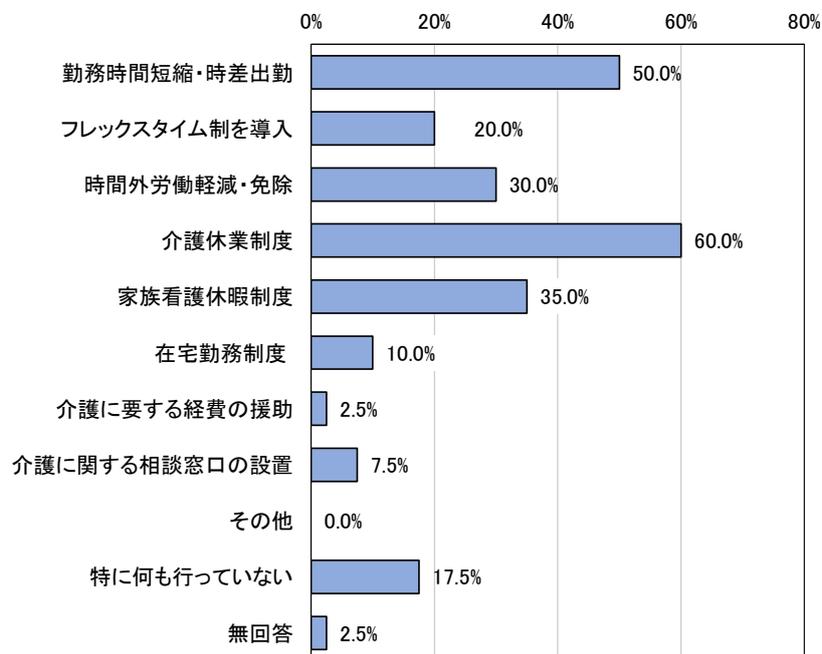
問 16 令和2年4月1日から令和3年3月31日までに介護休業を取得した従業員数を男女別に記入してください。

令和2年4月1日から令和3年3月31日までに介護休業を取得した従業員数については、女性従業員、男性従業員ともに1人となっています。

	介護休業を取得した従業員数
女性従業員	1人
男性従業員	3人

**問 17 貴事業所では、家族の介護をしながら働いている人のために、特別な配慮をしていますか。
(あてはまるものすべてに○)**

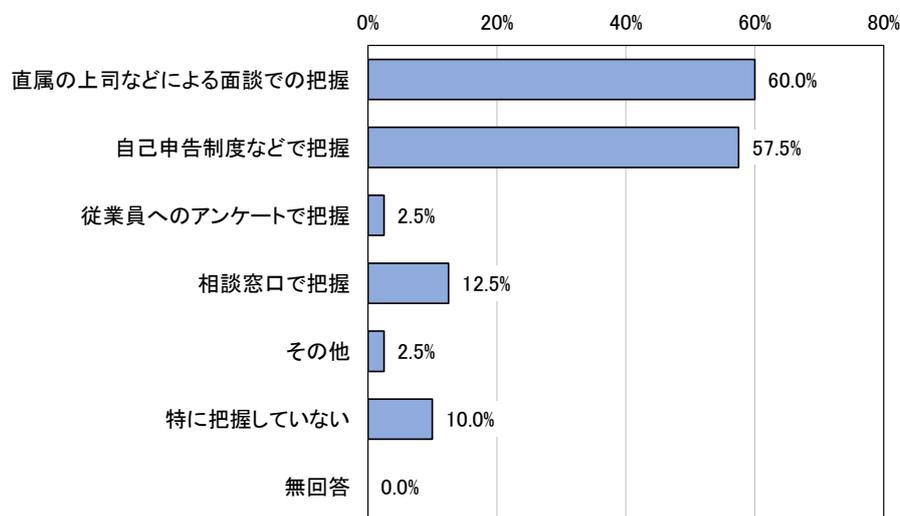
家族の介護をしながら働いている人のために、特別な配慮をしているかについては、「介護休業制度」が60.0%と最も多く、次いで「勤務時間短縮・時差出勤」が50.0%、「家族看護休暇制度」が35.0%となっています。



項目	度数	比率
勤務時間短縮・時差出勤	20	50.0%
フレックスタイム制を導入	8	20.0%
時間外労働軽減・免除	12	30.0%
介護休業制度	24	60.0%
家族看護休暇制度	14	35.0%
在宅勤務制度	4	10.0%
介護に要する経費の援助	1	2.5%
介護に関する相談窓口の設置	3	7.5%
その他	0	0.0%
特に何も行っていない	7	17.5%
無回答	1	2.5%
回答者数	40	

**問18 介護の問題を抱えている従業員の把握はどのようにしていますか。
(あてはまるものすべてに○)**

介護の問題を抱えている従業員の把握はどのようにしているかについては、「直属の上司などによる面談での把握」が60.0%と最も多く、次いで「自己申告制度などで把握」が57.5%、「相談窓口で把握」が12.5%となっています。



項目	度数	比率
直属の上司などによる面談での把握	24	60.0%
自己申告制度などで把握	23	57.5%
従業員へのアンケートで把握	1	2.5%
相談窓口で把握	5	12.5%
その他	1	2.5%
特に把握していない	4	10.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

【その他】

■本人からの申出（製造業）

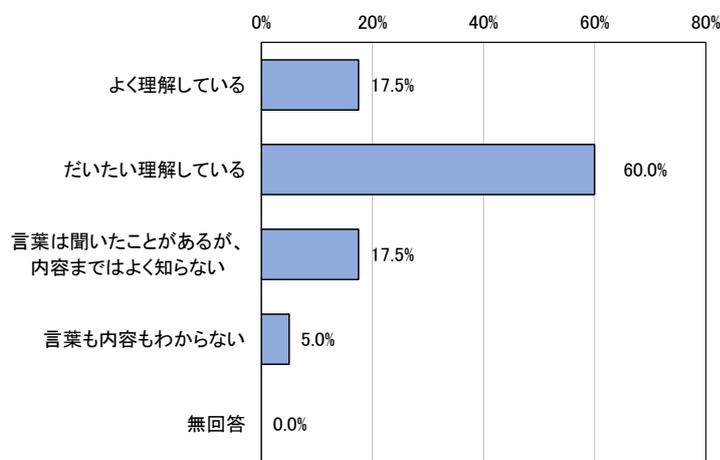
問19 過去3年以内に、出産・育児・介護を理由に退職した方はいらっしゃいますか。いらっしゃる場合は、その人数をご記入ください。（いない場合は、「0」を記入してください。）

女性従業員は、「出産」5人、「育児」2人「介護」1人となっています。男性従業員は育児、介護を理由に退職された方はいません。

	出産	育児	介護
女性従業員	5人	2人	1人
男性従業員		0人	0人

問20 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について知っていますか。（〇は1つ）

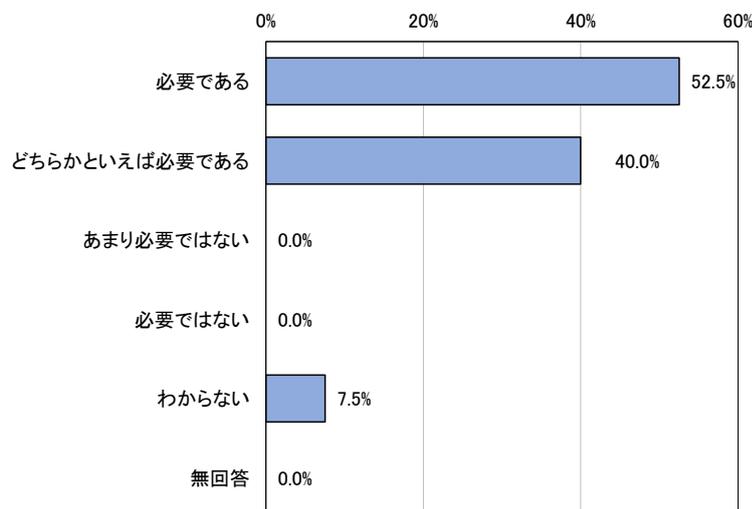
仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について知っているかについては、「だいたい理解している」が60.0%と最も多く、次いで「よく理解している」「言葉は聞いたことがあるが、内容まではよく知らない」がともに17.5%となっています。



項目	度数	構成比
よく理解している	7	17.5%
だいたい理解している	24	60.0%
言葉は聞いたことがあるが、内容まではよく知らない	7	17.5%
言葉も内容もわからない	2	5.0%
無回答	0	0.0%
合計	40	100.0%

問21 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を企業で推進していくことについてどう思いますか（〇は1つ）

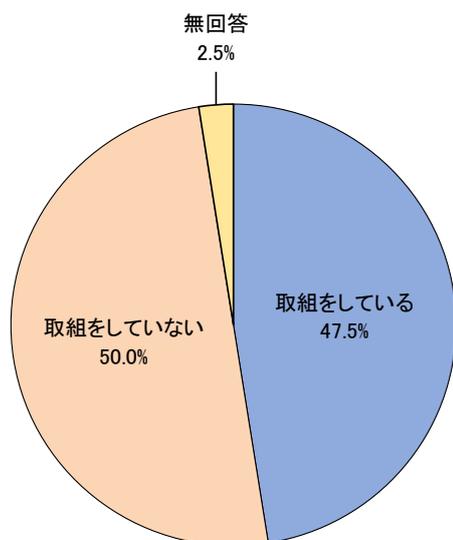
仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を企業で推進していくことについてどう思うかについては、「必要である」が52.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば必要である」が40.0%、「わからない」が7.5%となっています。



項目	度数	構成比
必要である	21	52.5%
どちらかといえば必要である	16	40.0%
あまり必要ではない	0	0.0%
必要ではない	0	0.0%
わからない	3	7.5%
無回答	0	0.0%
合計	40	100.0%

問22 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について何か取組みをしていますか。（〇は1つ）

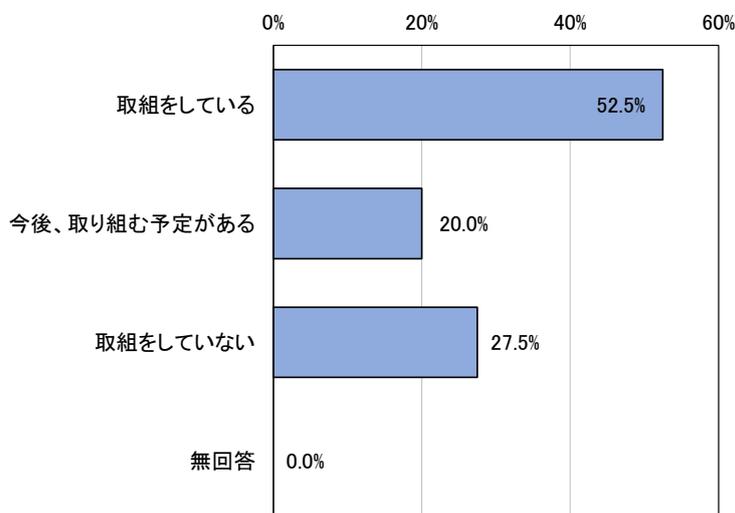
仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について何か取組みをしているかについては、「取組をしていない」が50.0%、「取組をしている」が47.5%となっています。



項目	度数	構成比
取組をしている	19	47.5%
取組をしていない	20	50.0%
無回答	1	2.5%
合計	40	100.0%

問23 SDGs エスディーズ（持続可能な開発目標）への社会的関心が高まる現在、貴事業所において、取り組んでいることはありますか。（〇は1つ）

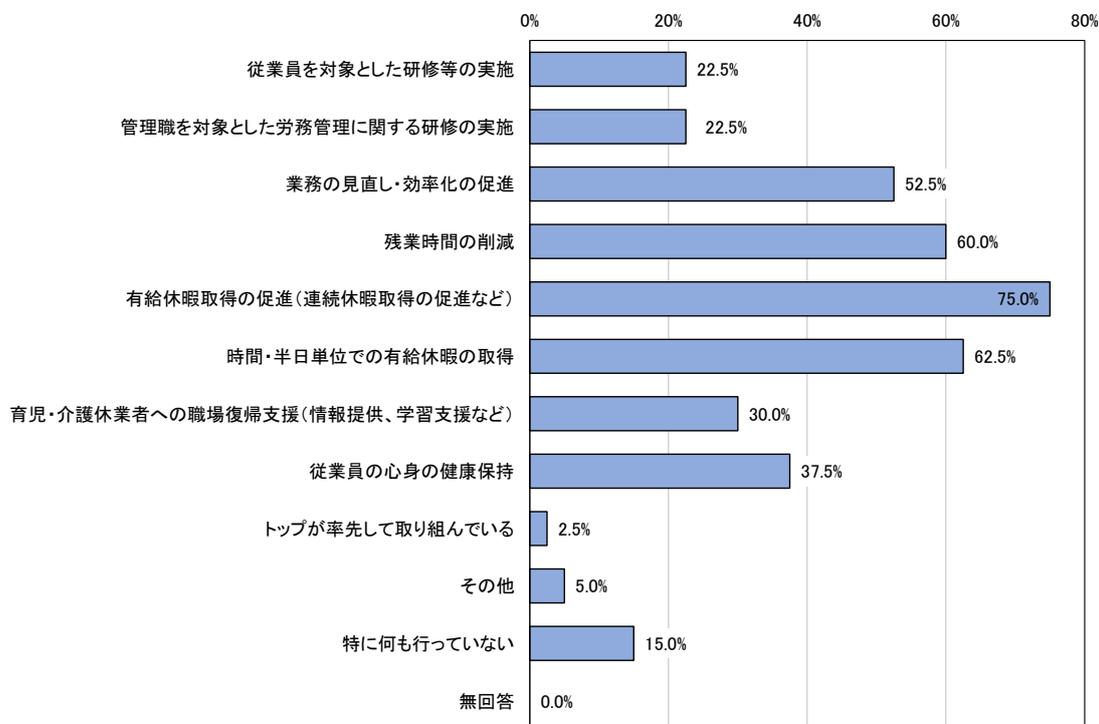
SDGs エスディーズ（持続可能な開発目標）への社会的関心が高まる現在、貴事業所において、なにか取り組んでいることはあるかについては、「取組をしている」が52.5%、「取組をしていない」が27.5%となっています。



項目	度数	構成比
取組をしている	21	52.5%
今後、取り組む予定がある	8	20.0%
取組をしていない	11	27.5%
無回答	0	0.0%
合計	40	100.0%

問24 貴事業所において、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するために取り組んでいることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するために取り組んでいることはあるかについては、「有給休暇取得の促進（連続休暇取得の促進など）」が75.0%と最も多く、次いで「時間・半日単位での有給休暇の取得」が62.5%、「残業時間の削減」が60.0%となっています。



項目	度数	比率
従業員を対象とした研修等の実施	9	22.5%
管理職を対象とした労務管理に関する研修の実施	9	22.5%
業務の見直し・効率化の促進	21	52.5%
残業時間の削減	24	60.0%
有給休暇取得の促進(連続休暇取得の促進など)	30	75.0%
時間・半日単位での有給休暇の取得	25	62.5%
育児・介護休業者への職場復帰支援(情報提供、学習支援など)	12	30.0%
従業員の心身の健康保持	15	37.5%
トップが率先して取り組んでいる	1	2.5%
その他	2	5.0%
特に何も行ってない	6	15.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

【トップが率先して取り組んでいる具体的な内容】

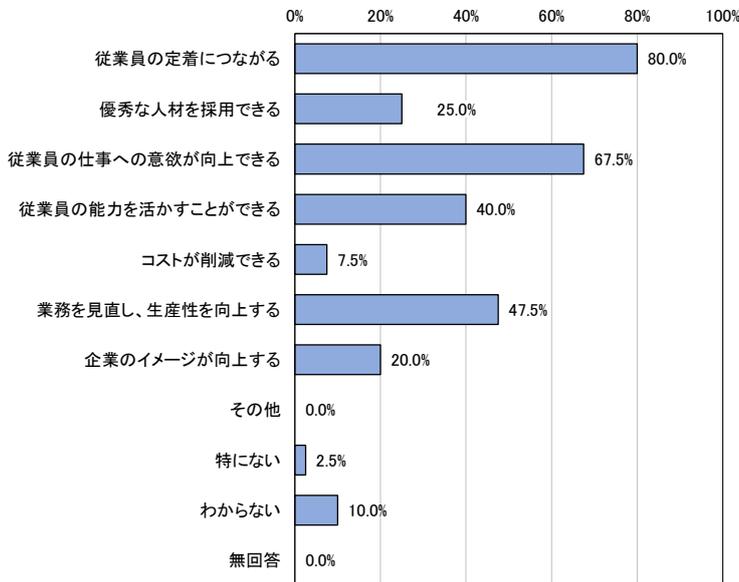
- 年間5日以上の有給奨励日を設定して取得の促進に努めている（建設業）

【その他】

- 宿泊補助等（製造業）
- ストレスチェックの実施（教育・学習支援業）

問25 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に取り組むことでどのようなメリットがあると考えますか。（あてはまるものすべてに○）

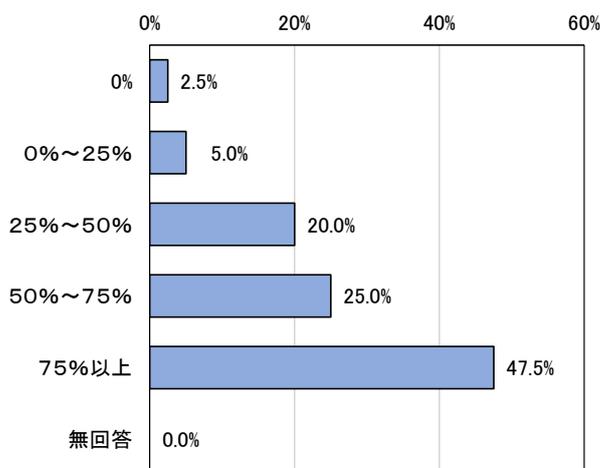
仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に取り組むことでどのようなメリットがあると考えるかについては、「従業員の定着につながる」が80.0%と最も多く、次いで「従業員の仕事への意欲が向上できる」が67.5%、「業務を見直し、生産性を向上する」が47.5%となっています。



項目	度数	比率
従業員の定着につながる	32	80.0%
優秀な人材を採用できる	10	25.0%
従業員の仕事への意欲が向上できる	27	67.5%
従業員の能力を活かすことができる	16	40.0%
コストが削減できる	3	7.5%
業務を見直し、生産性を向上する	19	47.5%
企業のイメージが向上する	8	20.0%
その他	0	0.0%
特にない	1	2.5%
わからない	4	10.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

問26 令和2年4月1日から令和3年3月31日までににおける正社員の年次有給休暇取得率についてお答えください。（○は1つ）

令和2年4月1日から令和3年3月31日までににおける正社員の年次有給休暇取得率については、「75%以上」が47.5%と最も多く、次いで「50%～75%」が25.0%、「25%～50%」が20.0%となっています。

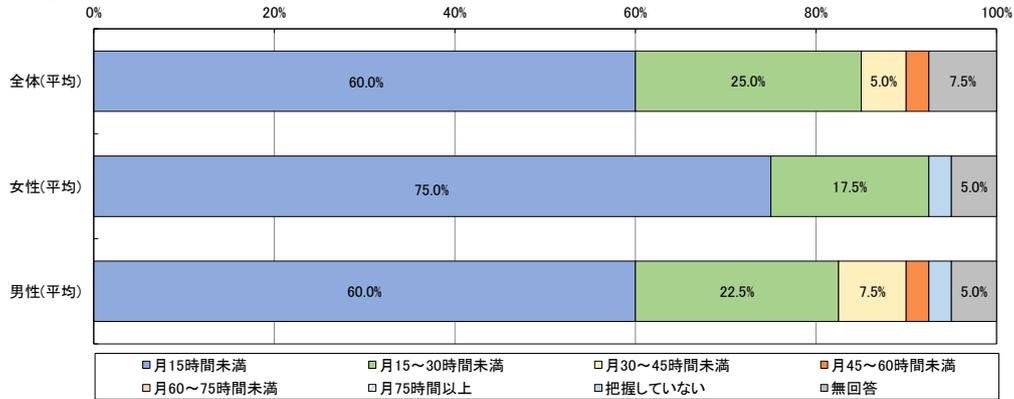


項目	度数	構成比
0%	1	2.5%
0%～25%	2	5.0%
25%～50%	8	20.0%
50%～75%	10	25.0%
75%以上	19	47.5%
無回答	0	0.0%
合計	40	100.0%

問27 令和2年4月1日から令和3年3月31日までにおける正社員1人あたりの「1か月あたりの法定時間外労働」について、非管理職・管理職の平均をお答えください。（非管理者・管理職全体・女性・男性について、それぞれ〇は1つずつ）

令和2年4月1日から令和3年3月31日までにおける正社員1人あたりの「1か月あたりの法定時間外労働」について、「月15時間未満」においては、男女の差がありませんが、月15時間を超える法定外時間労働は、【非管理職】、【管理職】共に女性よりも男性の方が多くなっています。

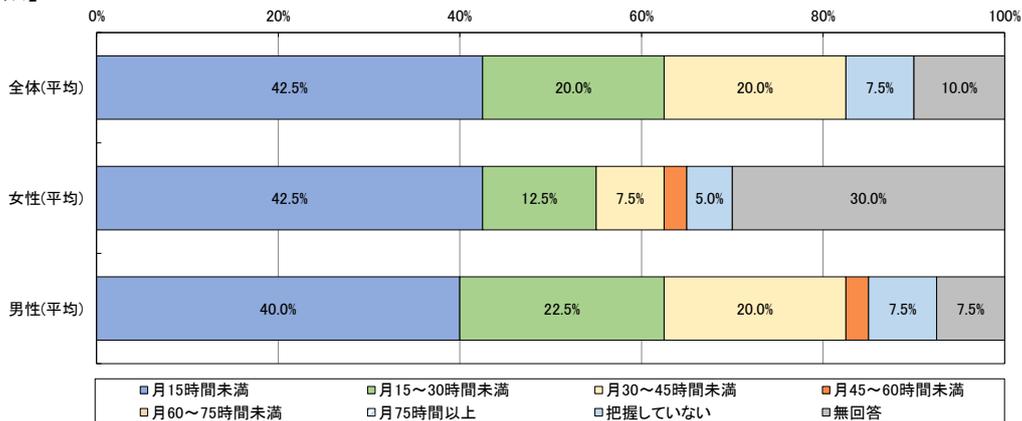
【非管理職】



	月15時間未満	月15~30時間未満	月30~45時間未満	月45~60時間未満	月60~75時間未満	月75時間以上	把握していない	無回答	回答計
度数									
全体(平均)	24	10	2	1	0	0	0	3	40
女性(平均)	30	7	0	0	0	0	1	2	40
男性(平均)	24	9	3	1	0	0	1	2	40
構成比									
全体(平均)	60.0%	25.0%	5.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	7.5%	100.0%
女性(平均)	75.0%	17.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	5.0%	100.0%
男性(平均)	60.0%	22.5%	7.5%	2.5%	0.0%	0.0%	2.5%	5.0%	100.0%

	月75時間以上	把握していない	無回答	回答計
度数				
全体(平均)	0	0	3	40
女性(平均)	0	1	2	40
男性(平均)	0	1	2	40
構成比				
全体(平均)	0.0%	0.0%	7.5%	100.0%
女性(平均)	0.0%	2.5%	5.0%	100.0%
男性(平均)	0.0%	2.5%	5.0%	100.0%

【管理職】

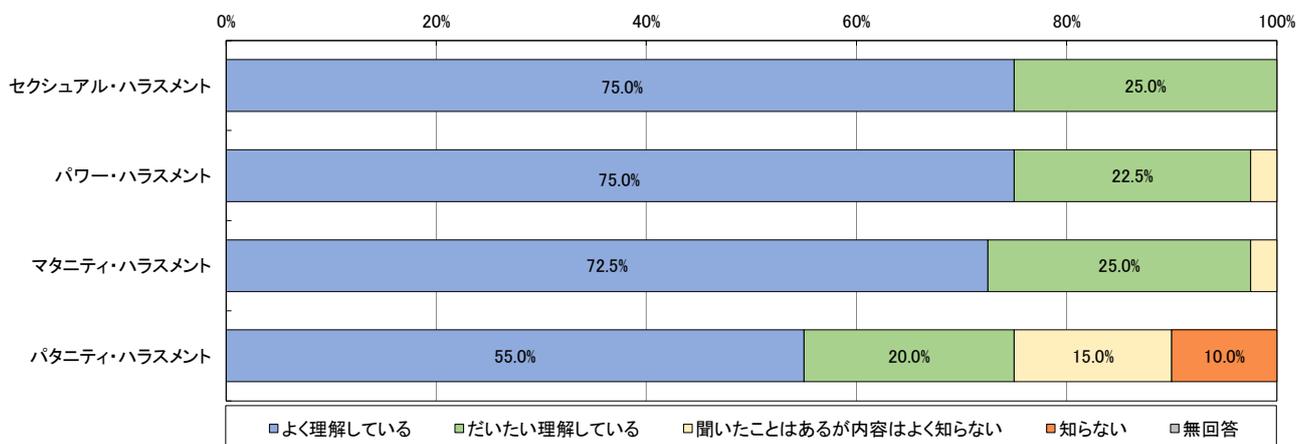


	月15時間未満	月15~30時間未満	月30~45時間未満	月45~60時間未満	月60~75時間未満	月75時間以上	把握していない	無回答	回答計
度数									
全体(平均)	17	8	8	0	0	0	3	4	40
女性(平均)	17	5	3	1	0	0	2	12	40
男性(平均)	16	9	8	1	0	0	3	3	40
構成比									
全体(平均)	42.5%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.5%	10.0%	100.0%
女性(平均)	42.5%	12.5%	7.5%	2.5%	0.0%	0.0%	5.0%	30.0%	100.0%
男性(平均)	40.0%	22.5%	20.0%	2.5%	0.0%	0.0%	7.5%	7.5%	100.0%

	月75時間以上	把握していない	無回答	回答計
度数				
全体(平均)	0	3	4	40
女性(平均)	0	2	12	40
男性(平均)	0	3	3	40
構成比				
全体(平均)	0.0%	7.5%	10.0%	100.0%
女性(平均)	0.0%	5.0%	30.0%	100.0%
男性(平均)	0.0%	7.5%	7.5%	100.0%

問28 「セクシュアル・ハラスメント」、「パワー・ハラスメント」、「マタニティ・ハラスメント」、「パタニティ・ハラスメント」について知っていますか。(〇はそれぞれ1つ)

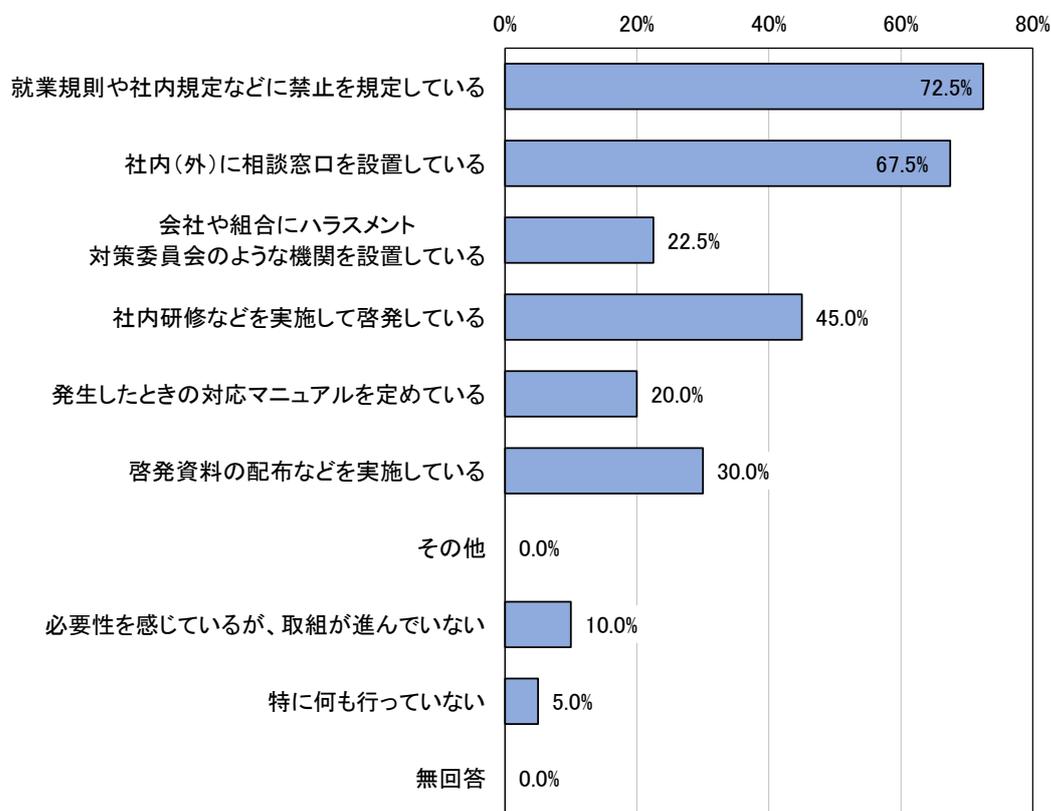
【セクシュアル・ハラスメント】、【パワー・ハラスメント】、【マタニティ・ハラスメント】については、7割以上が「よく理解している」と答えています。【パタニティ・ハラスメント】は、「よく理解している」が55.0%、「だいたい理解している」が20.0%、「知らない」が10.0%となっています。



		よく理解している	だいたい理解している	聞いたことはあるが内容はよく知らない	知らない	無回答	回答計
度数	セクシュアル・ハラスメント	30	10	0	0	0	40
	パワー・ハラスメント	30	9	1	0	0	40
	マタニティ・ハラスメント	29	10	1	0	0	40
	パタニティ・ハラスメント	22	8	6	4	0	40
構成比	セクシュアル・ハラスメント	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	パワー・ハラスメント	75.0%	22.5%	2.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	マタニティ・ハラスメント	72.5%	25.0%	2.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	パタニティ・ハラスメント	55.0%	20.0%	15.0%	10.0%	0.0%	100.0%

問29 貴事業所で「ハラスメント」の防止に対する取組を何か実施していますか。(あてはまるものすべてに○)

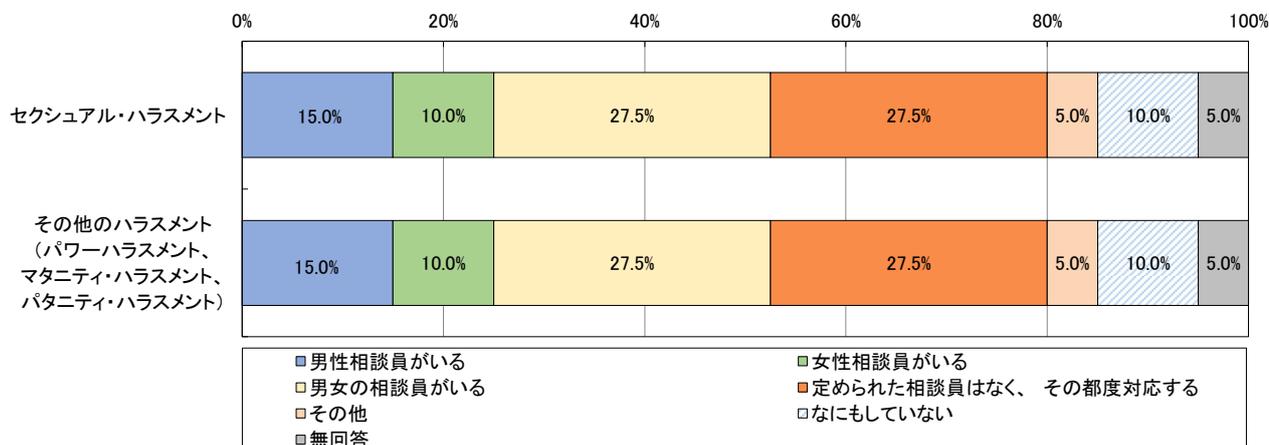
「ハラスメント」の防止に対する取組を何か実施しているかについては、「就業規則や社内規定などに禁止を規定している」が72.5%と最も多く、次いで「社内（外）に相談窓口を設置している」が67.5%、「社内研修などを実施して啓発している」が45.0%となっています。



項目	度数	比率
就業規則や社内規定などに禁止を規定している	29	72.5%
社内(外)に相談窓口を設置している	27	67.5%
会社や組合にハラスメント対策委員会のような機関を設置している	9	22.5%
社内研修などを実施して啓発している	18	45.0%
発生したときの対応マニュアルを定めている	8	20.0%
啓発資料の配布などを実施している	12	30.0%
その他	0	0.0%
必要性を感じているが、取組が進んでいない	4	10.0%
特に何も行ってない	2	5.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

問30 セクシュアル・ハラスメントなどの相談・苦情に対応される相談員について、下記に該当するものをお答えください。(○は各項目1つずつ)

セクシュアル・ハラスメントなどの相談・苦情に対応される相談員について、【セクシュアル・ハラスメント】、【その他のハラスメント】ともに、「男女の相談員がいる」27.5%、「定められた相談員はなく、その都度対応する」27.5%が最も多くなっています。



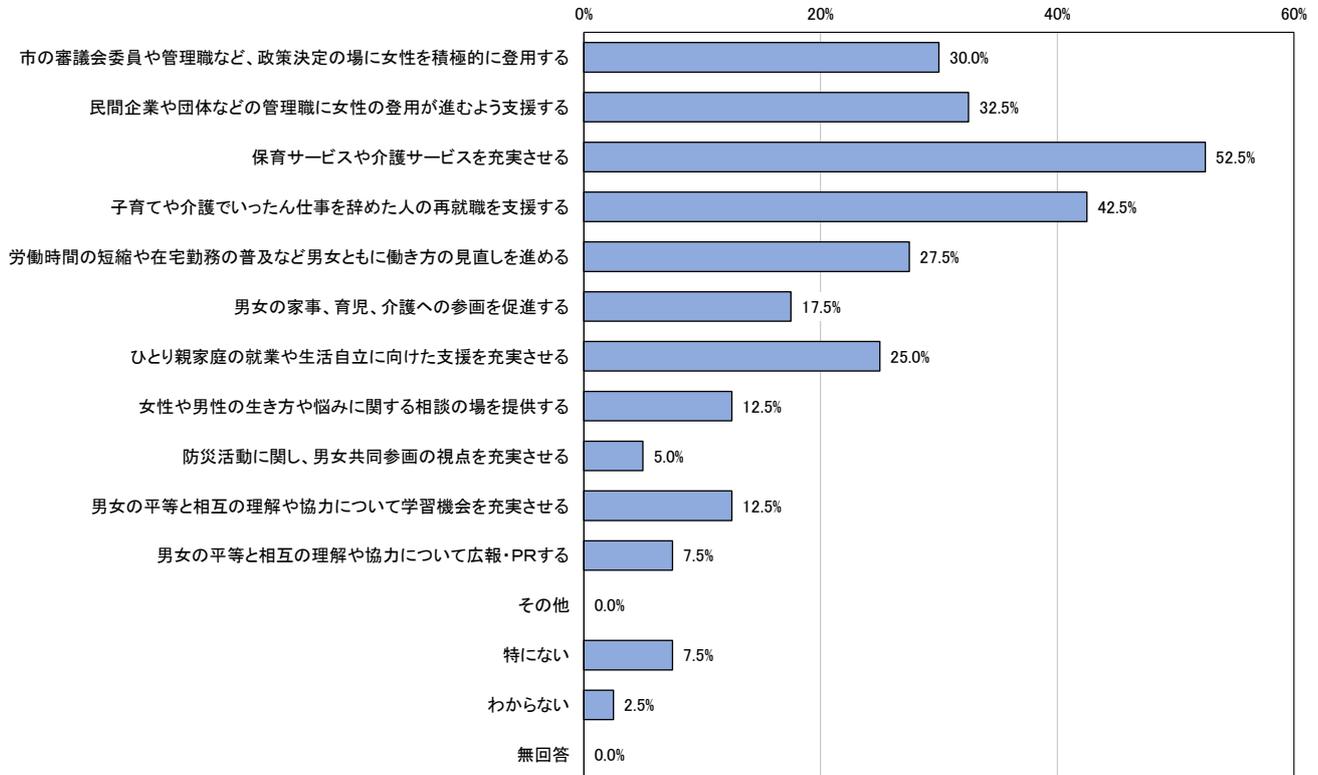
		男性相談員がいる	女性相談員がいる	男女の相談員がいる	定められた相談員はなく、その都度対応する	その他	なにもしていない	無回答	回答計
度数	セクシュアル・ハラスメント	6	4	11	11	2	4	2	40
	その他のハラスメント(パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント)	6	4	11	11	2	4	2	40
構成比	セクシュアル・ハラスメント	15.0%	10.0%	27.5%	27.5%	5.0%	10.0%	5.0%	100.0%
	その他のハラスメント(パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント)	15.0%	10.0%	27.5%	27.5%	5.0%	10.0%	5.0%	100.0%

【その他】

- コンプライアンス委員を設置 (製造業)
- 組織で対応 (製造業)

問31 男女共同参画社会を実現していくために、今後、北茨城市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は特に必要だと思うものを3つまで)

男女共同参画社会を実現していくために、今後、北茨城市はどのようなことに力を入れていくべきだと思うかについては、「保育サービスや介護サービスを充実させる」が52.5%と最も多く、次いで「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が42.5%、「民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する」32.5%となっています。



項目	度数	比率
市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用す	12	30.0%
民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	13	32.5%
保育サービスや介護サービスを充実させる	21	52.5%
子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	17	42.5%
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進め	11	27.5%
男女の家事、育児、介護への参画を促進する	7	17.5%
ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実させる	10	25.0%
女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	5	12.5%
防災活動に関し、男女共同参画の視点を充実させる	2	5.0%
男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実させる	5	12.5%
男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	3	7.5%
その他	0	0.0%
特にない	3	7.5%
わからない	1	2.5%
無回答	0	0.0%
回答者数	40	

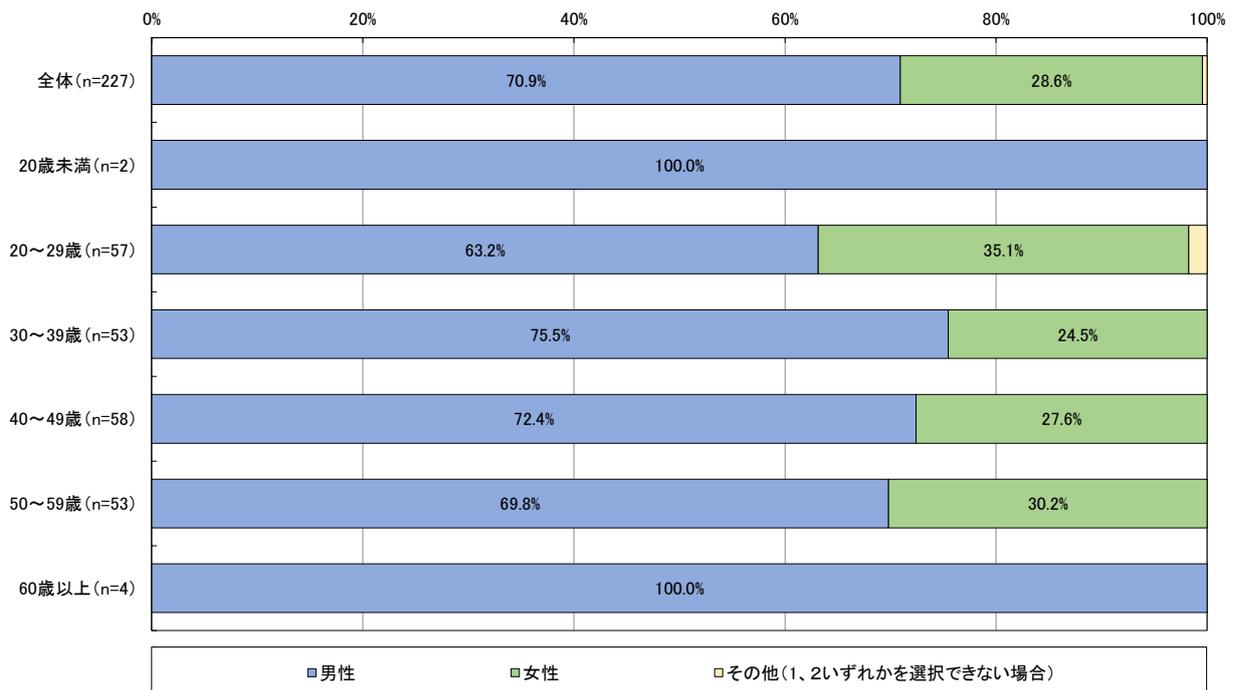
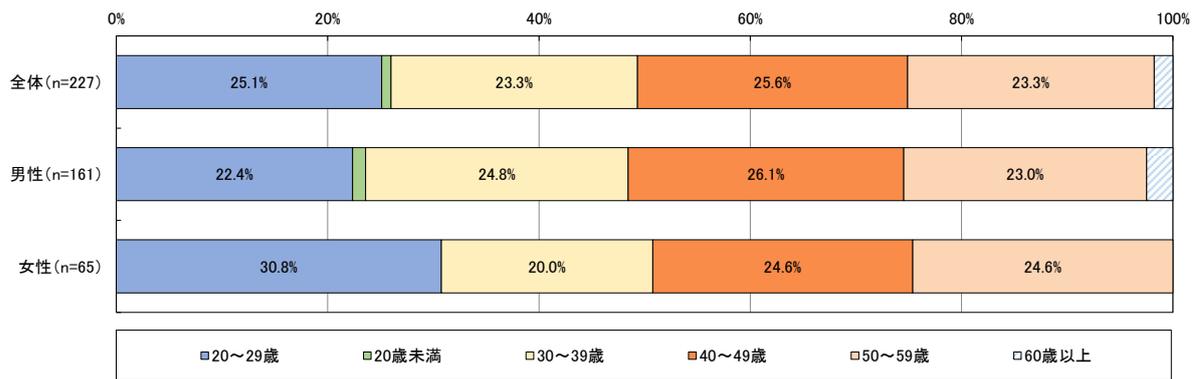
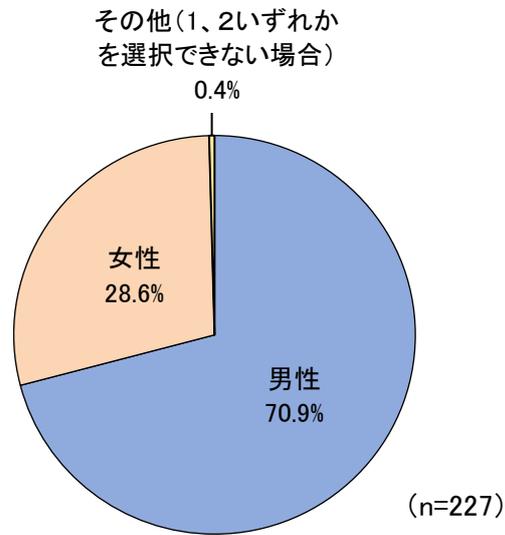
問32 男女共同参画社会づくりについて、ご意見などがありましたらご記入ください。

- 男性に育児はムリだと思うので、育児をしていても女性が男性と同等に働ける環境を整えるとよいと思います。女性の管理職と言うけれど、育児・家事の負担が減らないと単に負担が増えてつらくなるだけ。(製造業)
- 家事・育児の多くは女性にかかっており、男性の働き方の見直しによるワーク・ライフ・バランスの実現が重要かと思います。(建設業)

V. 職員調查結果

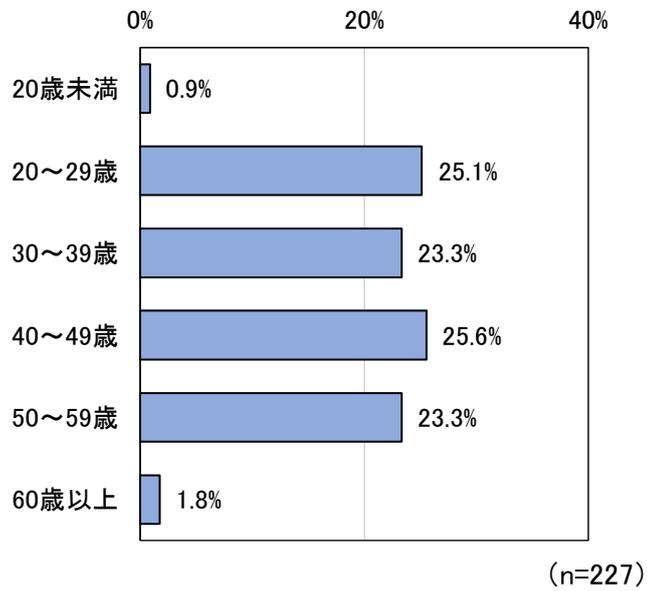
性別を記入してください。 ※1 性的マイノリティを考慮した選択肢です。戸籍上の区分とは別に自身の主観により記入してください。

男性が 70.9%、女性が 28.6%となっています。



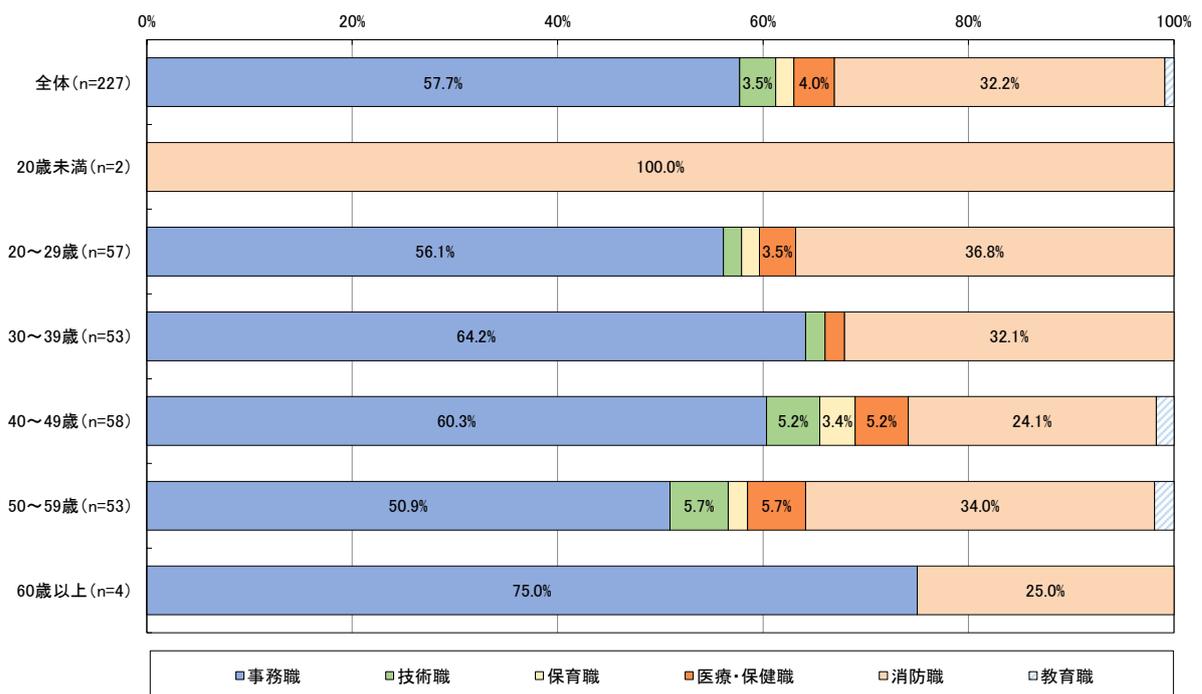
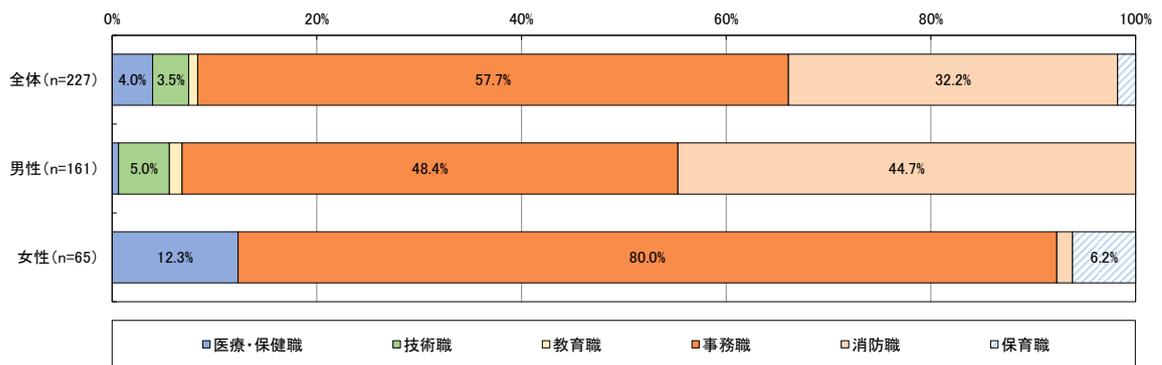
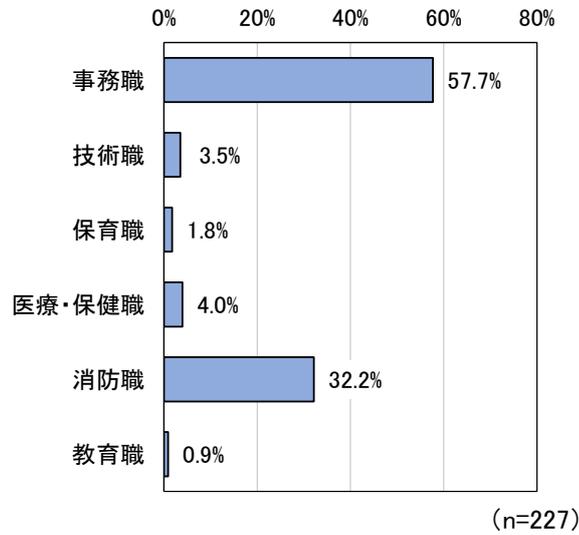
年齢を入力してください。

「40～49歳」が25.6%と最も多く、次いで「20～29歳」が25.1%となっています。



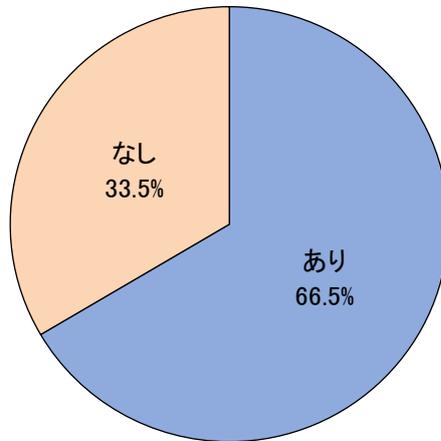
現在の職種を記入してください

「事務職」が57.7%と最も多く、次いで「消防職」が32.3%となっています。

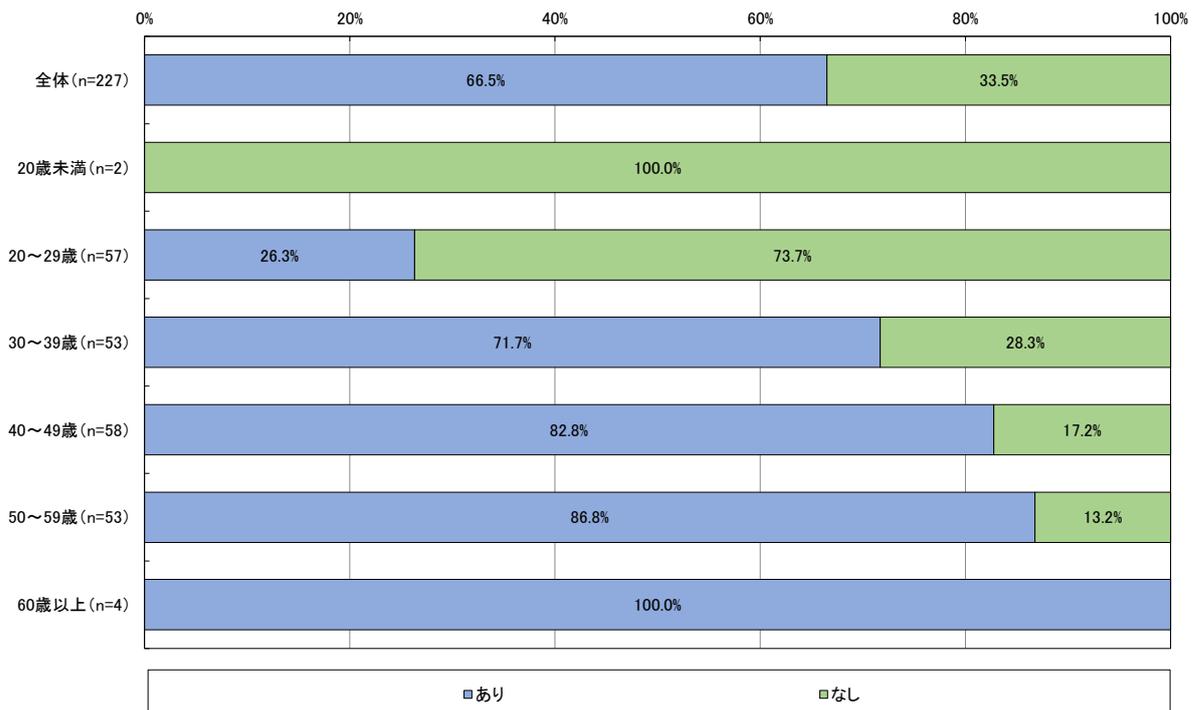
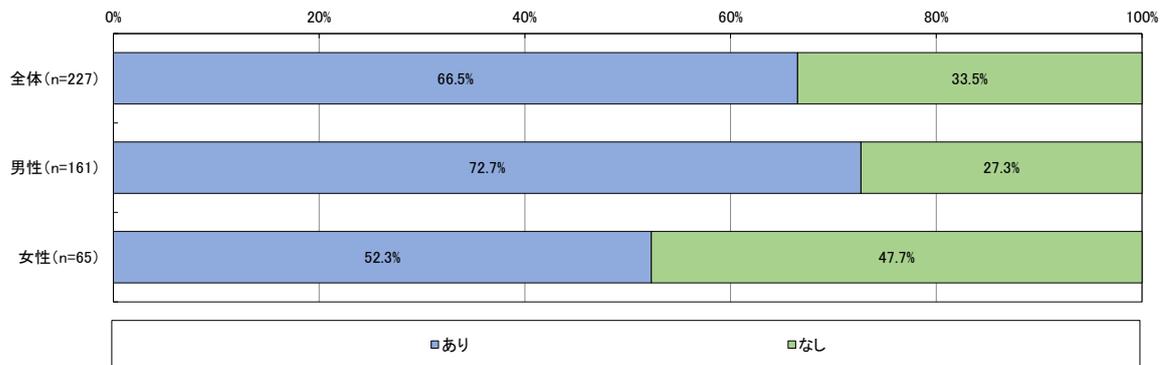


配偶者の有無を記入してください。

「あり」が66.5%、「なし」が33.5%となっています。

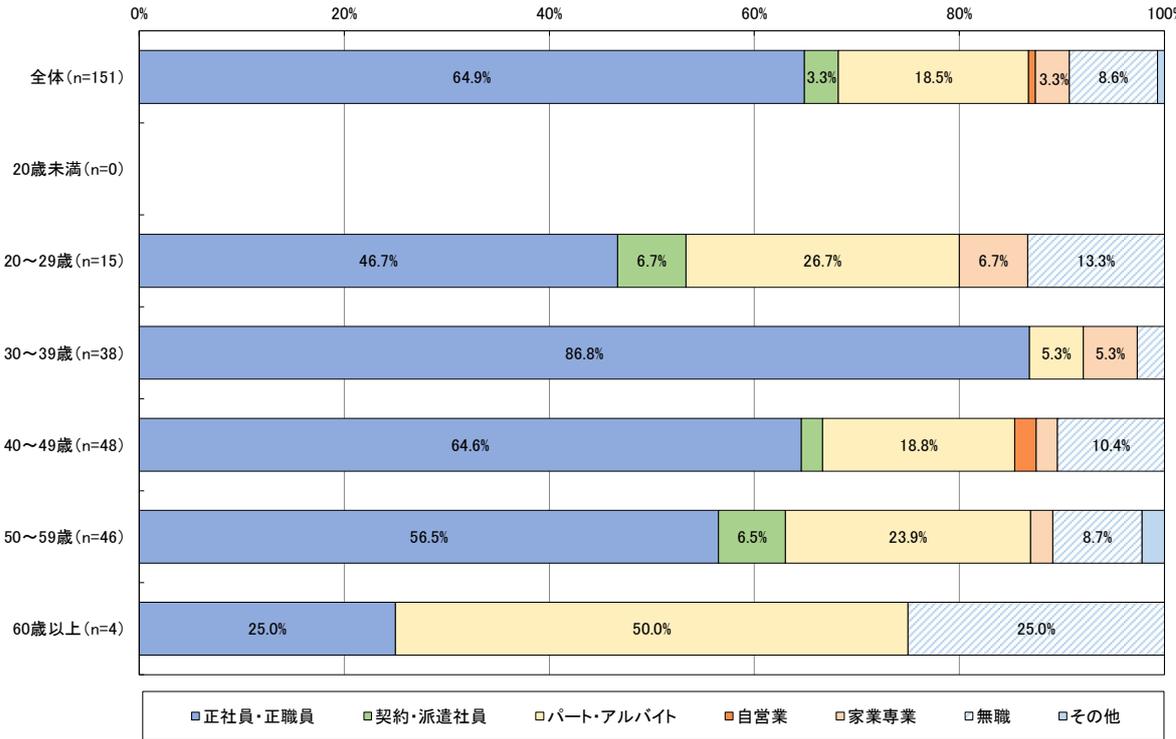
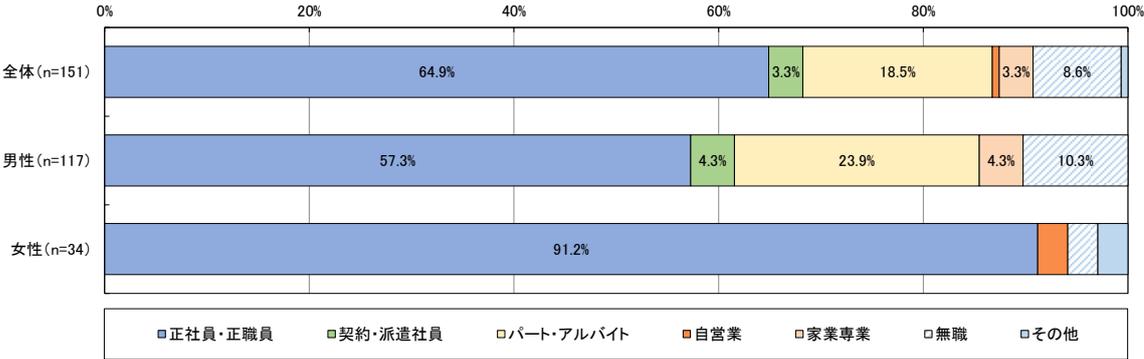
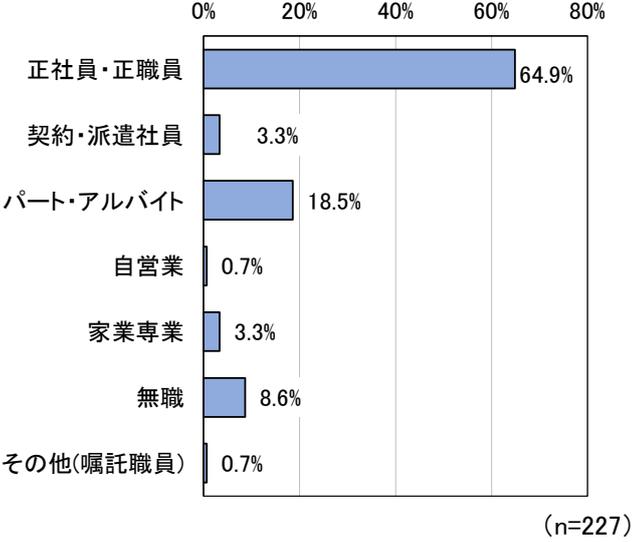


(n=227)



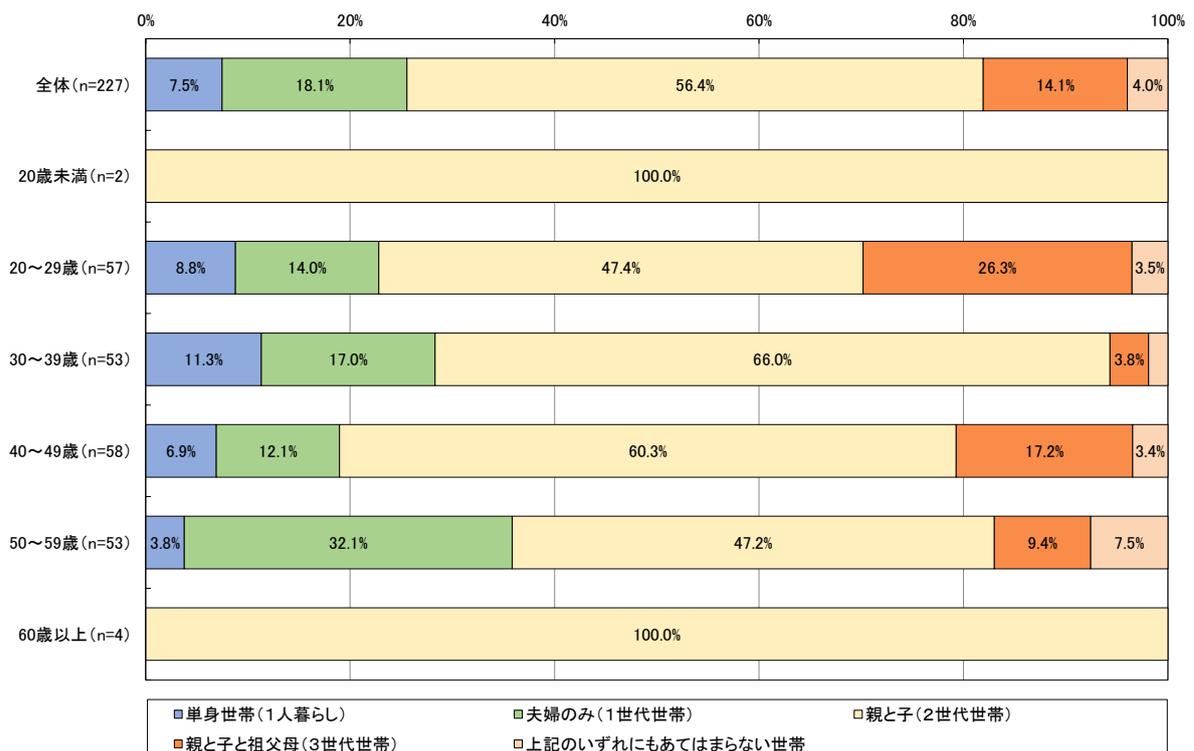
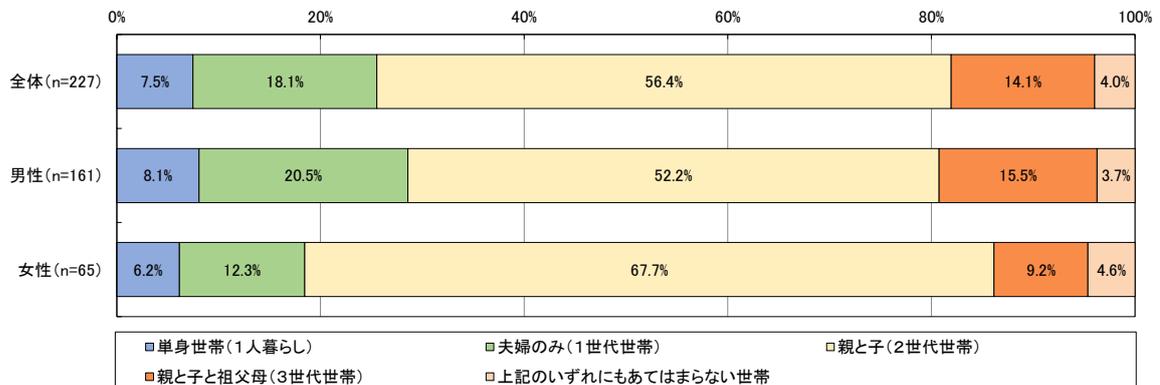
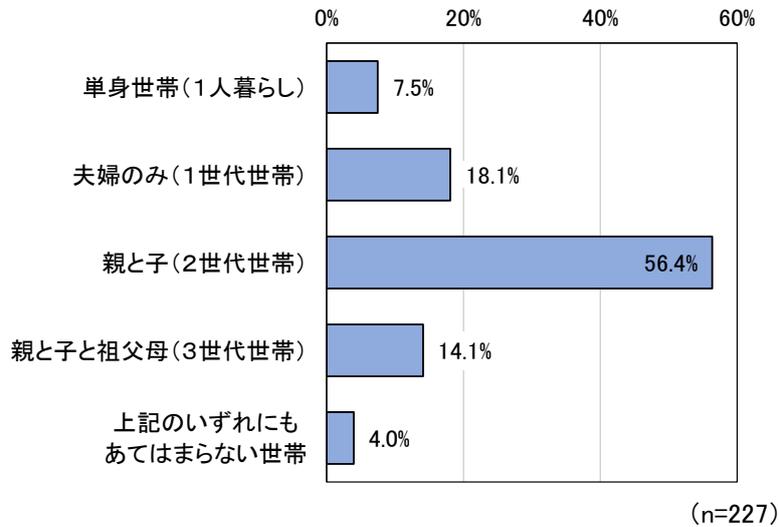
(配偶者ありの方のみ) 配偶者の雇用形態を記入してください。

「正社員・正職員」が64.9%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」が18.5%となっています。



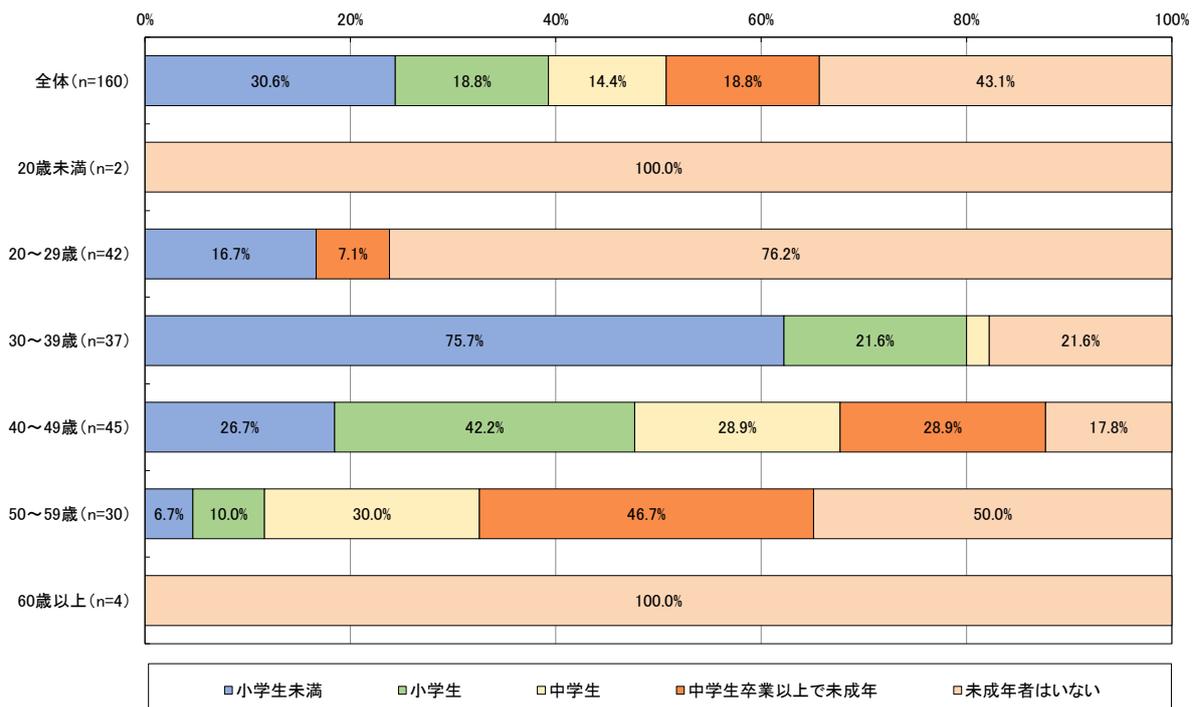
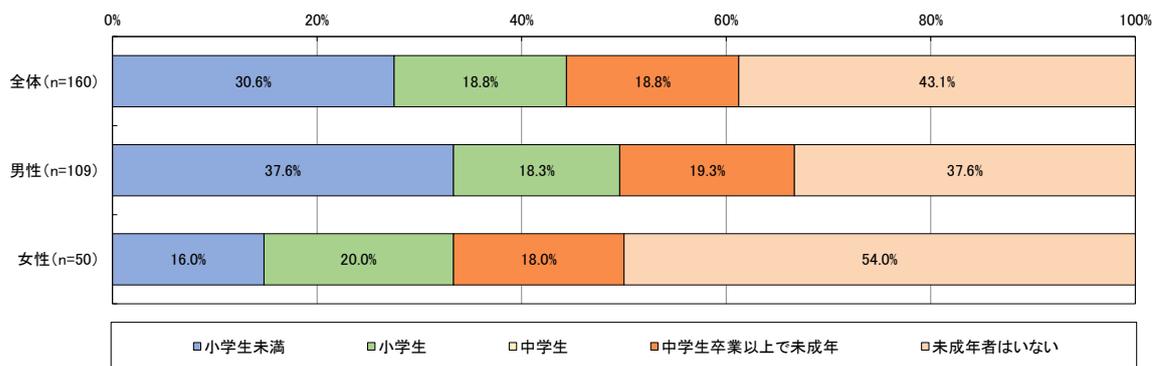
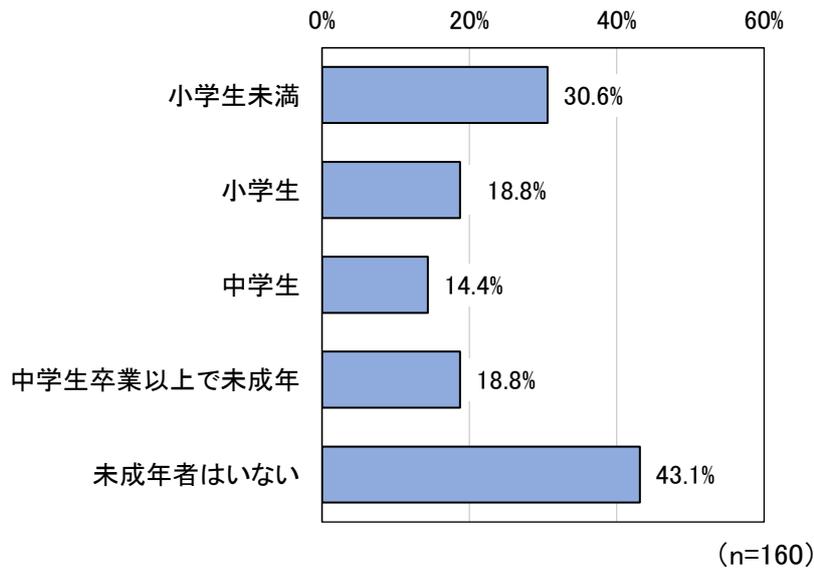
家族構成を記入してください。

「親と子（2世代世帯）」が56.4%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が18.1%となっています。



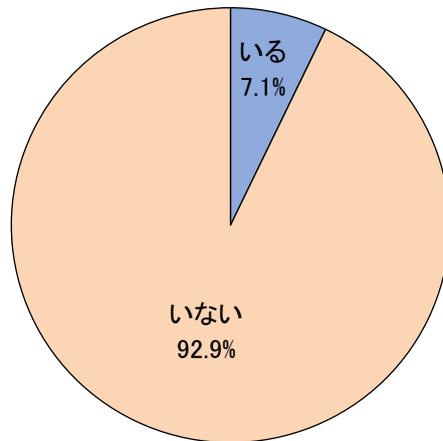
同居しているご家族について記入してください。※家族構成で「親と子」を選択された方

「未成年者はいない」が43.1%と最も多く、次いで「小学生未満」が30.6%となっています。

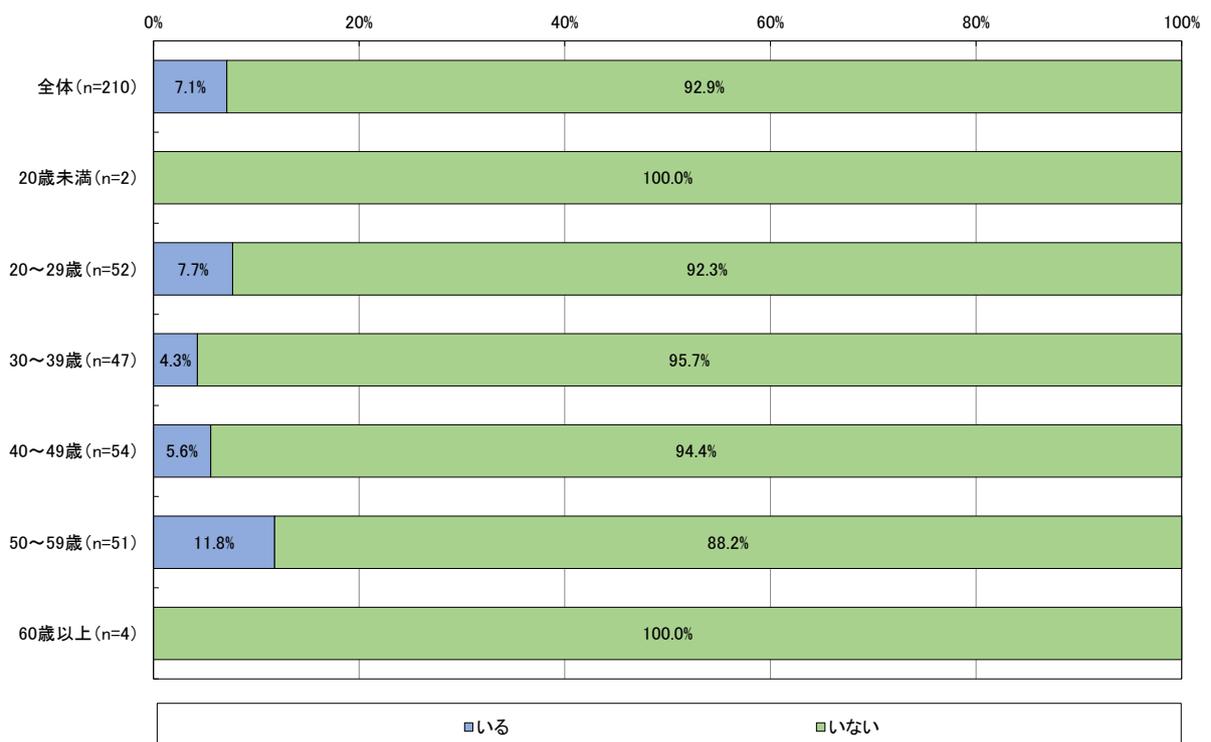


現在、同居しているご家族に日常的に介護を必要としている方はいますか。※単身世帯以外の方

「いる」が7.1%、「いない」が92.9%となっています。

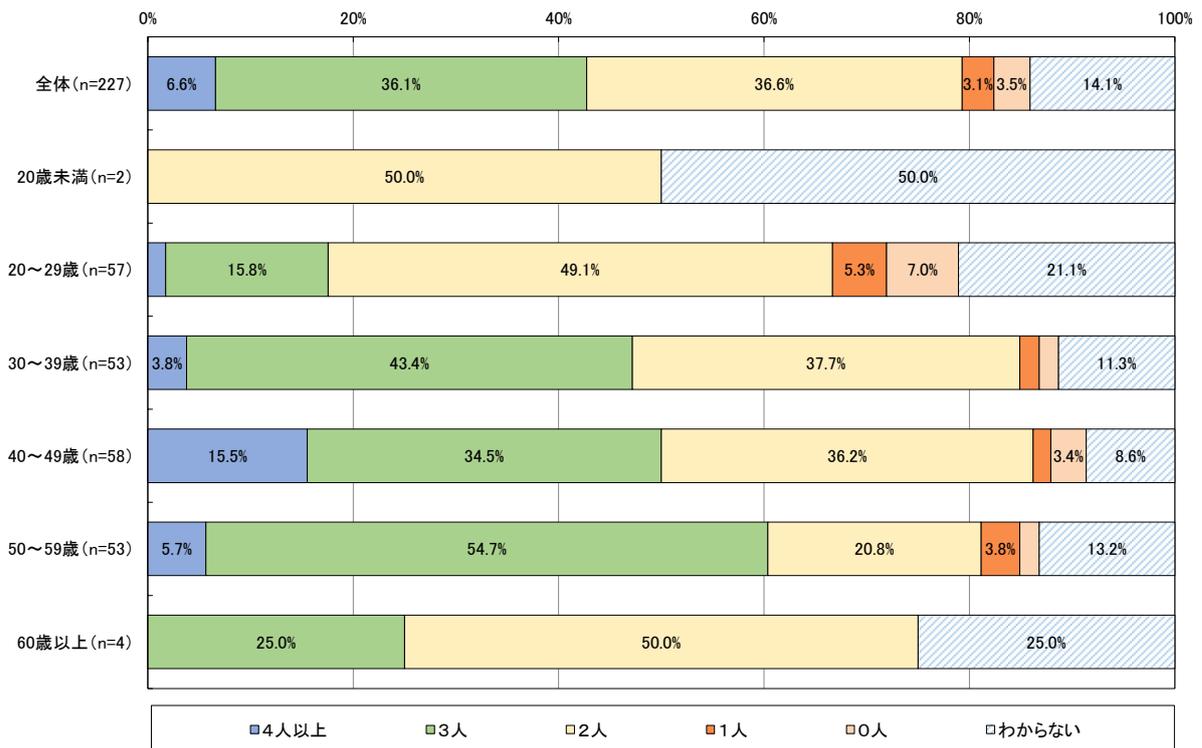
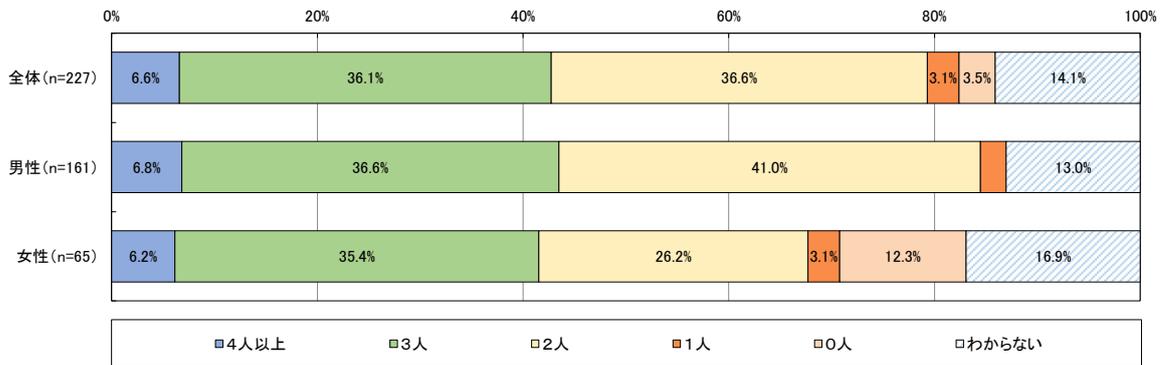
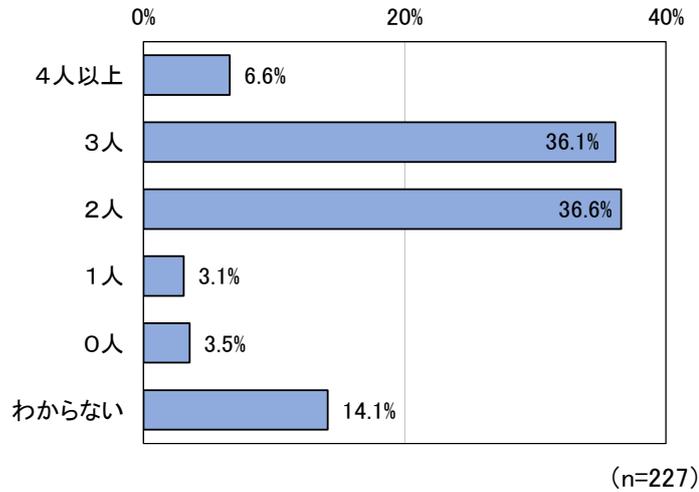


(n=210)



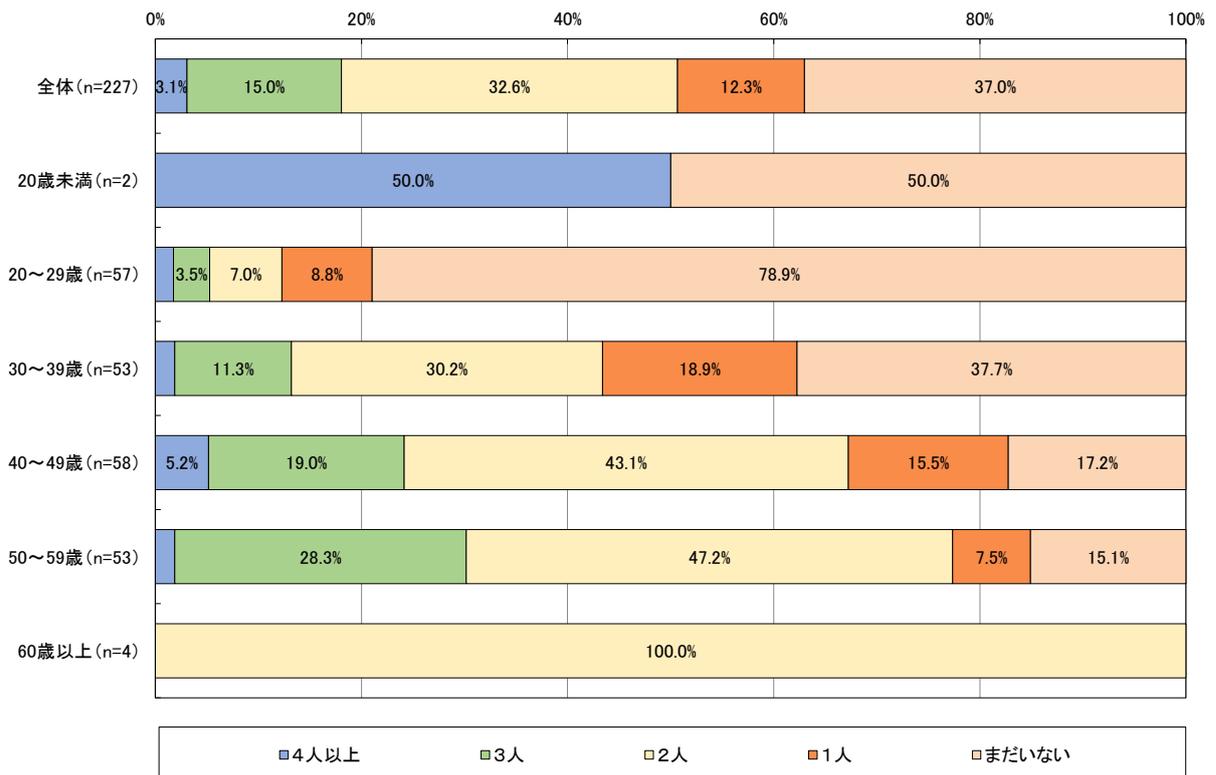
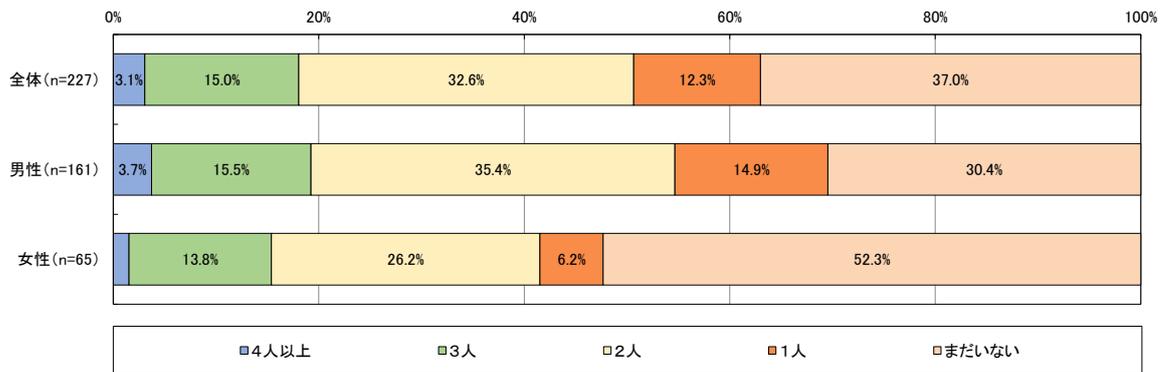
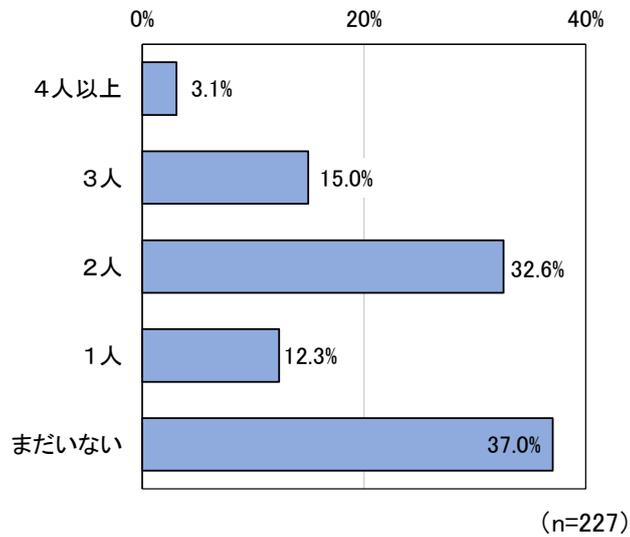
理想とする子どもの人数は何人ですか。

「2人」が36.6%と最も多く、次いで「3人」が36.1%となっています。



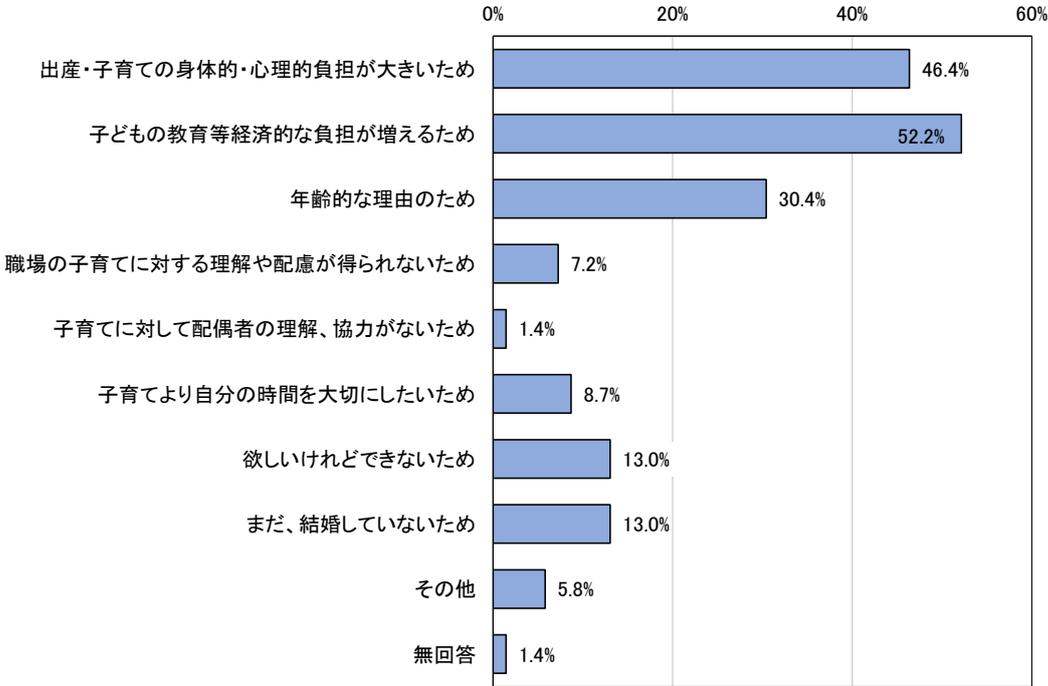
実際の子どもの人数（又は実際に持つつもりの子どもの人数）は何人ですか。

「まだいない」が37.0%と最も多く、「2人」が32.6%となっています。



【実際の子ども的人数が理想の人数より少ない方に伺います。】その理由はなんですか。（3つまで）

「子どもの教育等経済的な負担が増えるため」が52.2%と最も多く、次いで「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいため」が46.4%となっています。

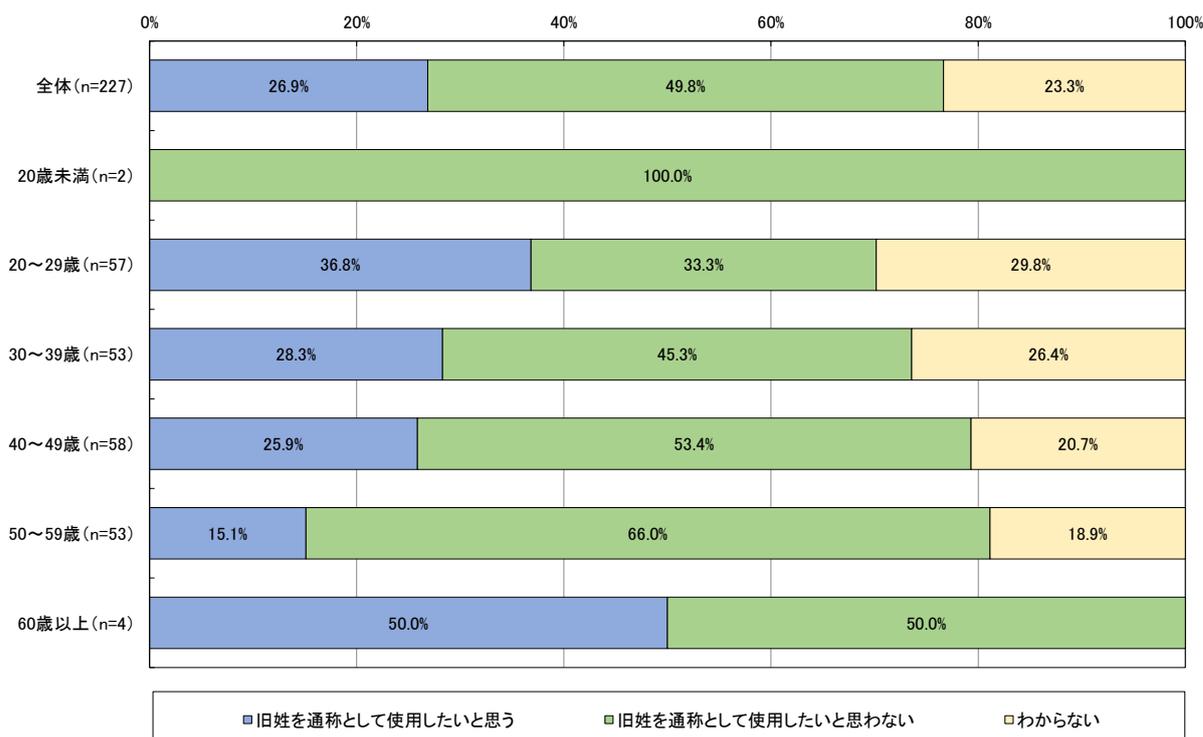
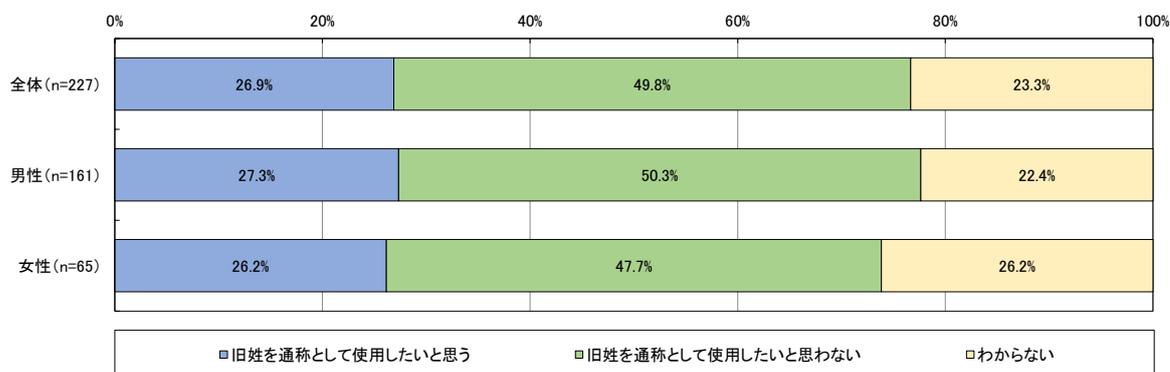
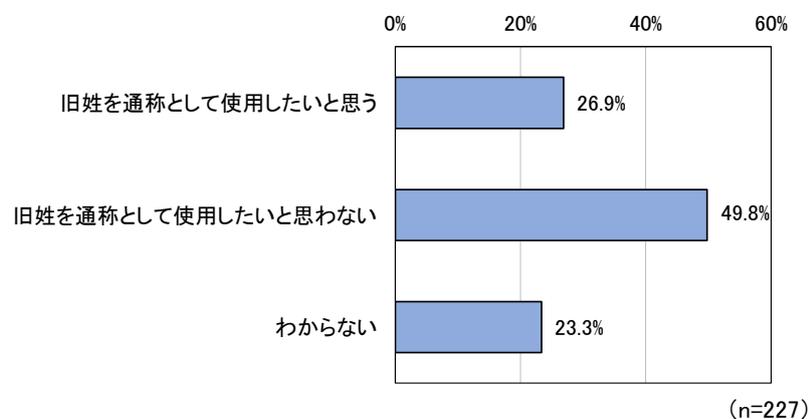


(n=69)

		出産・子育ての身体的・心理的負担が大きい	子どもの教育等経済的な負担が増える	年齢的な理由のため	職場の子育てに対する理解や配慮が得られない	子育てに対して配偶者の理解、協力が無い	子育てより自分の時間を大切にしたい	欲しいけれどできない	まだ、結婚していない	その他	無回答
【性別】	全体(n=69)	46.4%	52.2%	30.4%	7.2%	1.4%	8.7%	13.0%	13.0%	5.8%	1.4%
	男性(n=48)	50.0%	64.6%	29.2%	8.3%	0.0%	8.3%	12.5%	10.4%	2.1%	0.0%
	女性(n=20)	40.0%	25.0%	35.0%	5.0%	5.0%	10.0%	15.0%	15.0%	15.0%	5.0%
【年齢別】	全体(n=69)	46.4%	52.2%	30.4%	7.2%	1.4%	8.7%	13.0%	13.0%	5.8%	1.4%
	20歳未満(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20~29歳(n=9)	33.3%	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	11.1%
	30~39歳(n=19)	36.8%	36.8%	42.1%	5.3%	0.0%	5.3%	36.8%	21.1%	0.0%	0.0%
	40~49歳(n=22)	59.1%	68.2%	31.8%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	4.5%	9.1%	0.0%
	50~59歳(n=18)	44.4%	44.4%	33.3%	11.1%	5.6%	0.0%	11.1%	5.6%	11.1%	0.0%
	60歳以上(n=1)	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

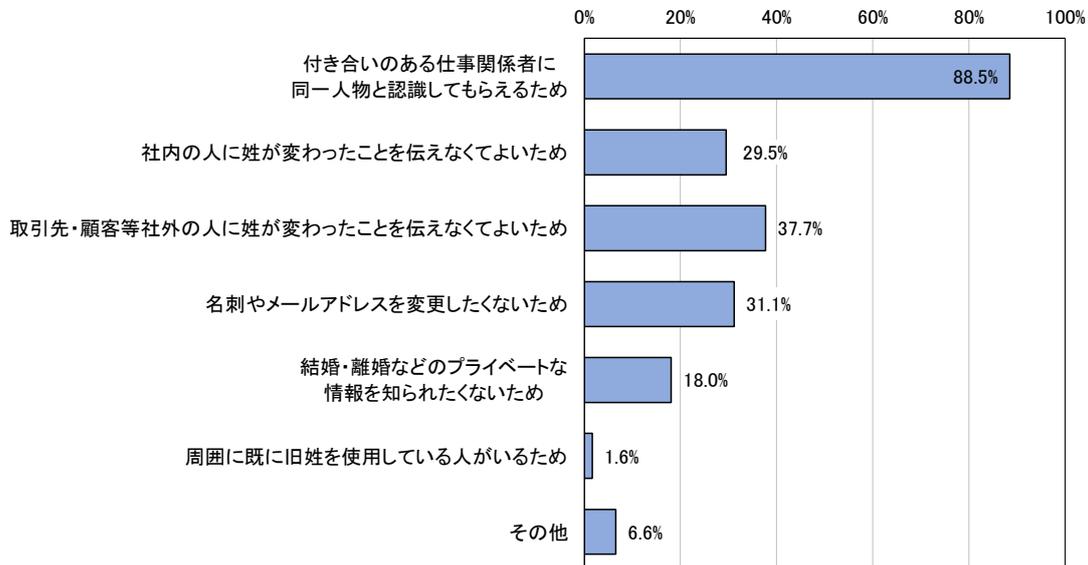
あなたは、仮に結婚して戸籍上の名字（姓）が変わったとした場合、働くときに旧姓を使用したいと思いますか。（あなたが結婚している、していないに関わらずお答えください。）

「旧姓を通称として使用したいと思わない」が49.8%と最も多く、「旧姓を通称として使用したいと思う」が26.9%となっています。



【旧姓を通称として使用したいと思う】と答えた方に伺います。その理由は何ですか。

「付き合いのある仕事関係者に同一人物と認識してもらえるため」が23.8%と最も多く、次いで、「取引先・顧客等社外の人に姓が変わったことを伝えなくてよいため」が29.5%となっています。



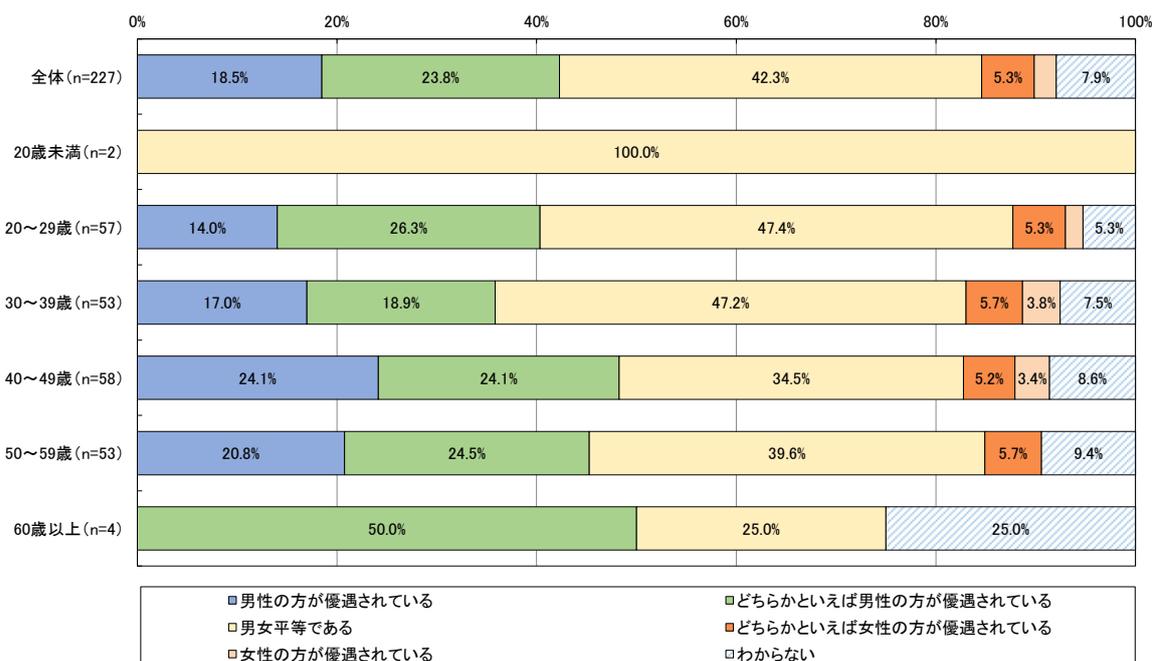
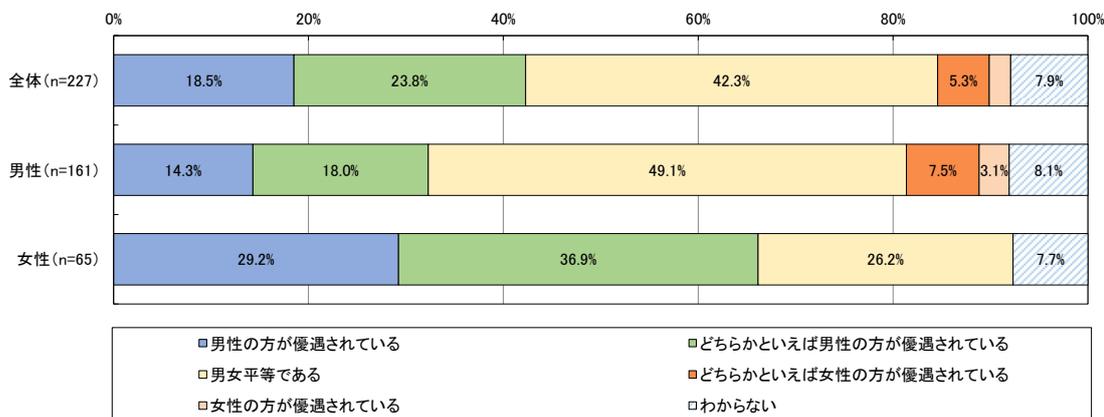
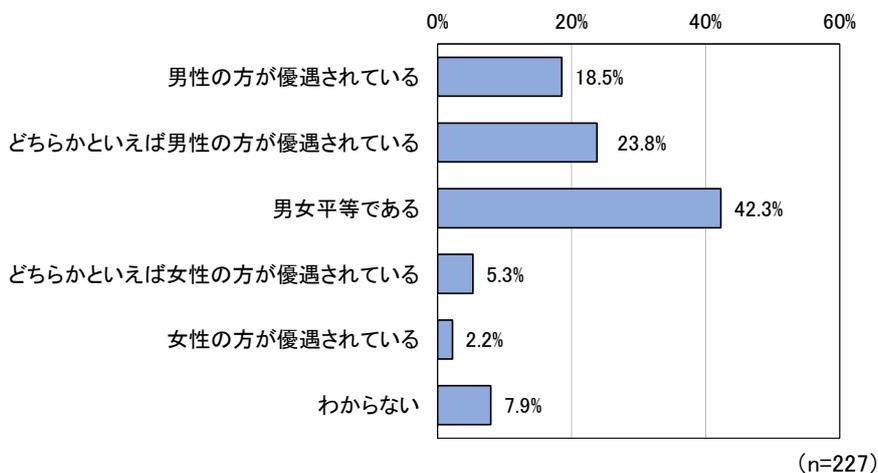
(n=61)

		同一人物と認識してもらえるため 付き合いのある仕事関係者に	社内の人に姓が変わったことを 伝えなくてよいため	取引先・顧客等社外の人に姓が 変わったことを伝えなくてよいため	名刺やメールアドレスを 変更したくないため	結婚・離婚などのプライベートな 情報を知られたくないため	使用している人に旧姓を 周囲に既に旧姓を	その他
【性別】	全体(n=61)	88.5%	29.5%	37.7%	31.1%	18.0%	1.6%	6.6%
	男性(n=44)	90.9%	27.3%	34.1%	29.5%	13.6%	2.3%	0.0%
	女性(n=17)	82.4%	35.3%	47.1%	35.3%	29.4%	0.0%	23.5%
【年齢別】	全体(n=61)	88.5%	29.5%	37.7%	31.1%	18.0%	1.6%	6.6%
	20歳未満(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳(n=21)	90.5%	38.1%	42.9%	28.6%	23.8%	4.8%	0.0%
	30～39歳(n=15)	80.0%	40.0%	46.7%	40.0%	13.3%	0.0%	0.0%
	40～49歳(n=15)	93.3%	13.3%	20.0%	26.7%	13.3%	0.0%	13.3%
	50～59歳(n=8)	87.5%	25.0%	25.0%	37.5%	25.0%	0.0%	25.0%
	60歳以上(n=2)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

次の分野で男女が平等になっていると思いますか。

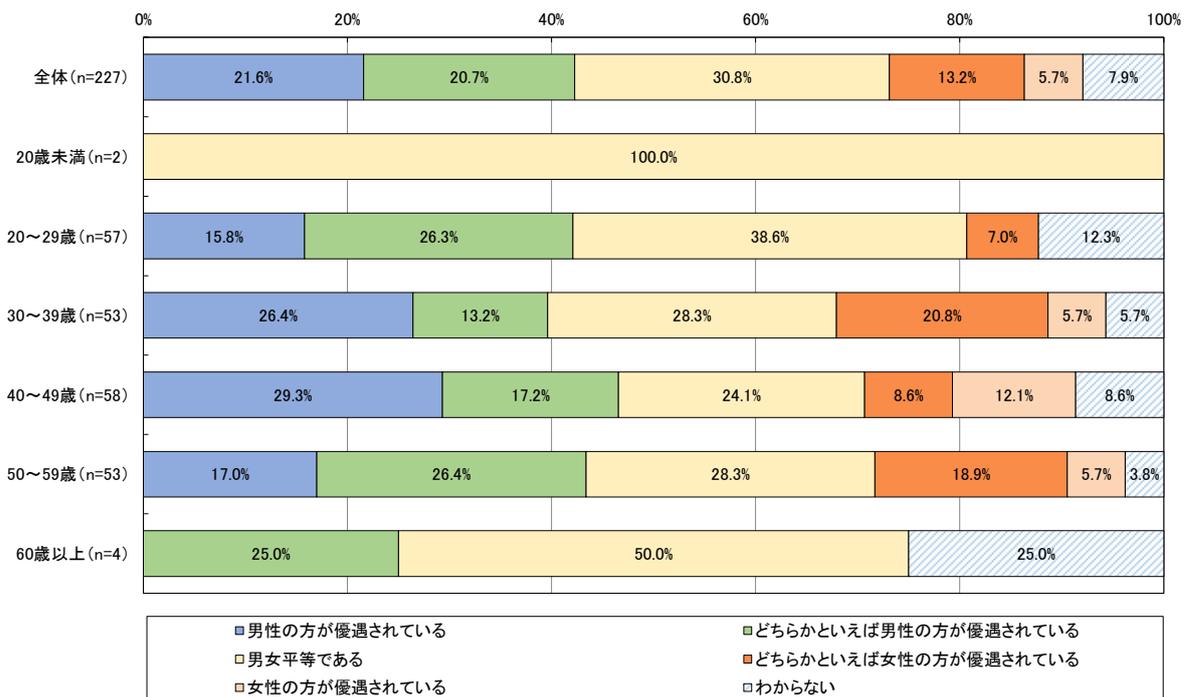
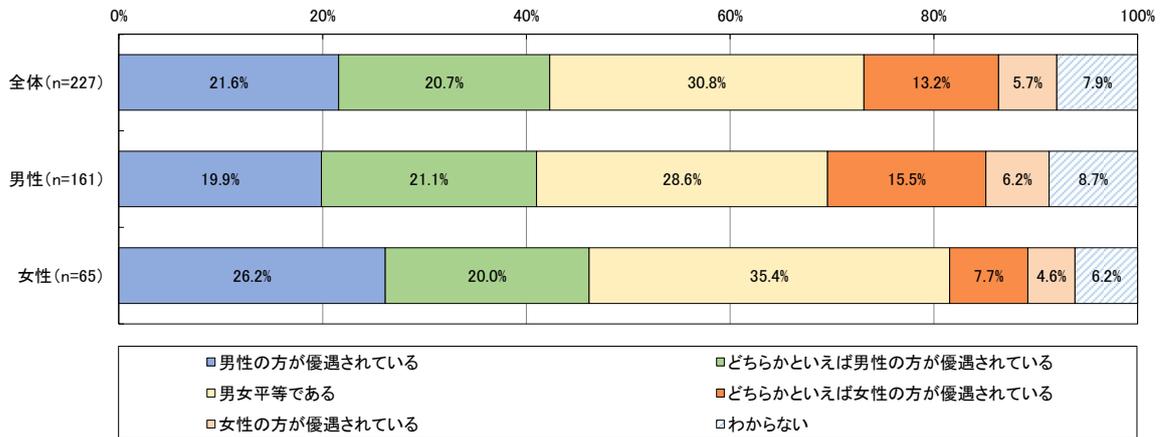
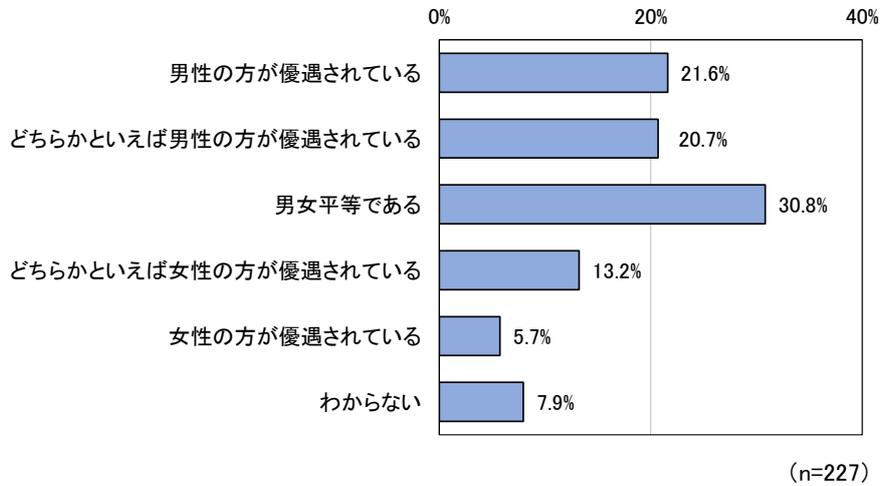
【家庭生活で】

「男女平等である」が42.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が23.7%となっています。



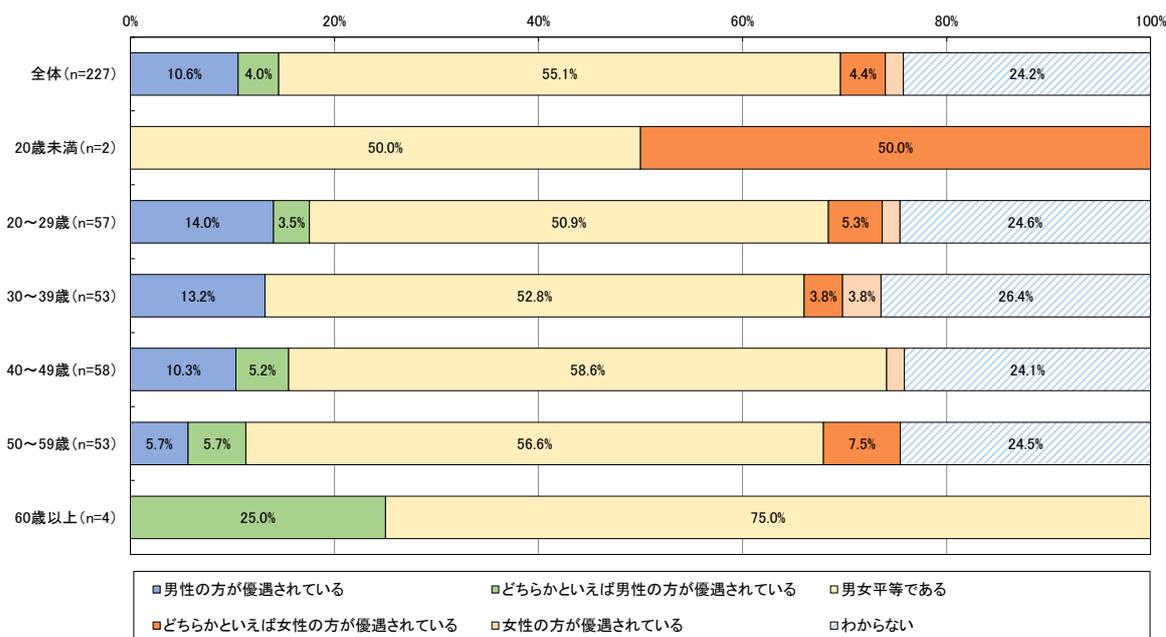
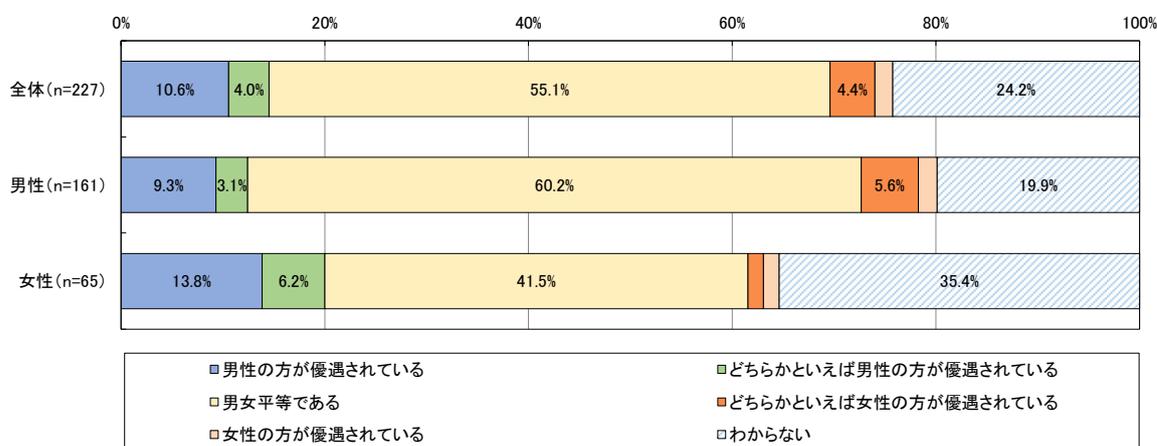
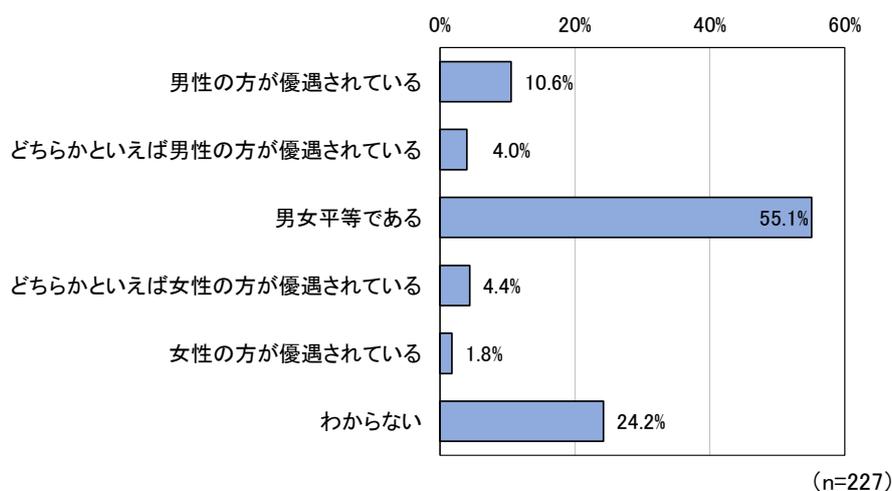
【職場で】

「男女平等である」が30.8%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が21.6%となっています。



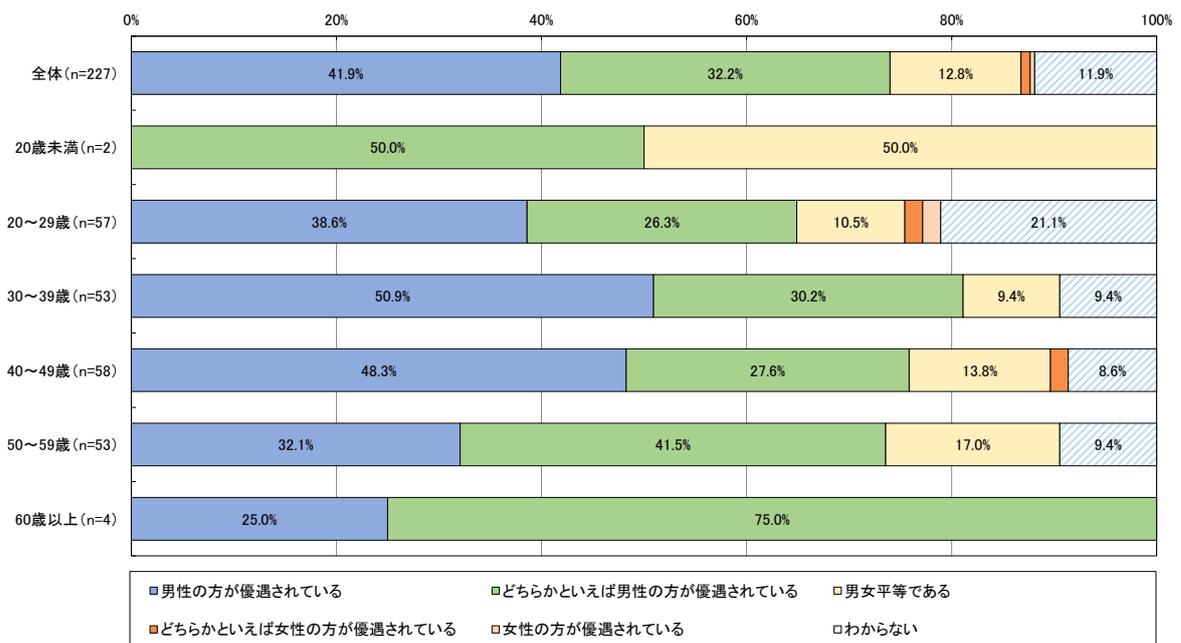
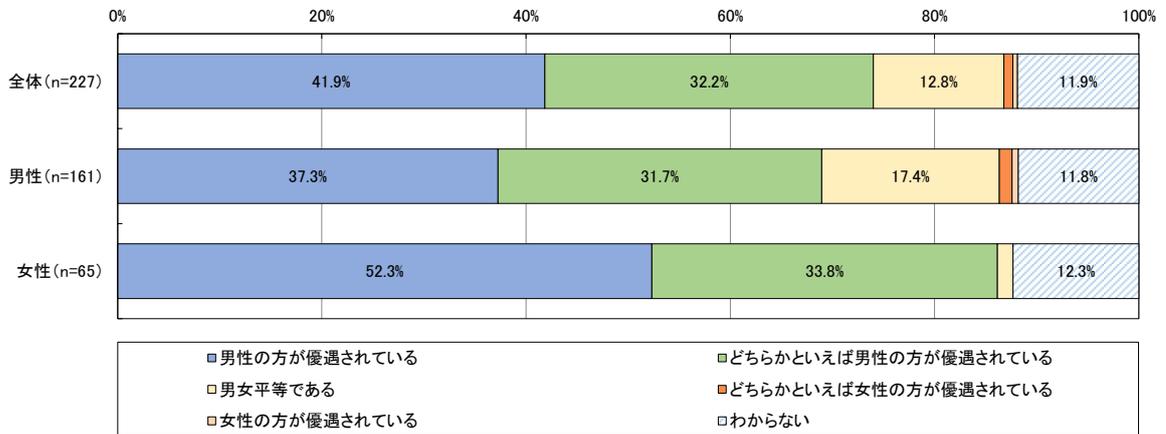
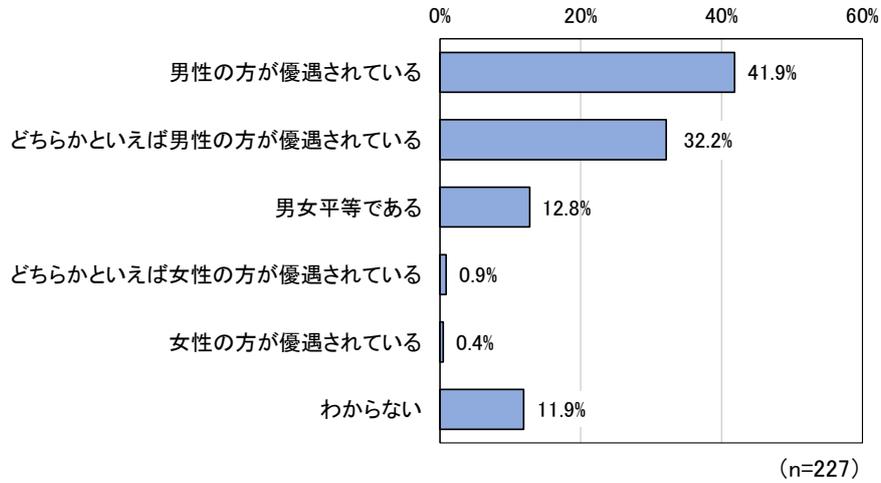
【学校教育の場で】

「男女平等である」が55.1%と最も多く、次いで「わからない」が24.2%となっています。



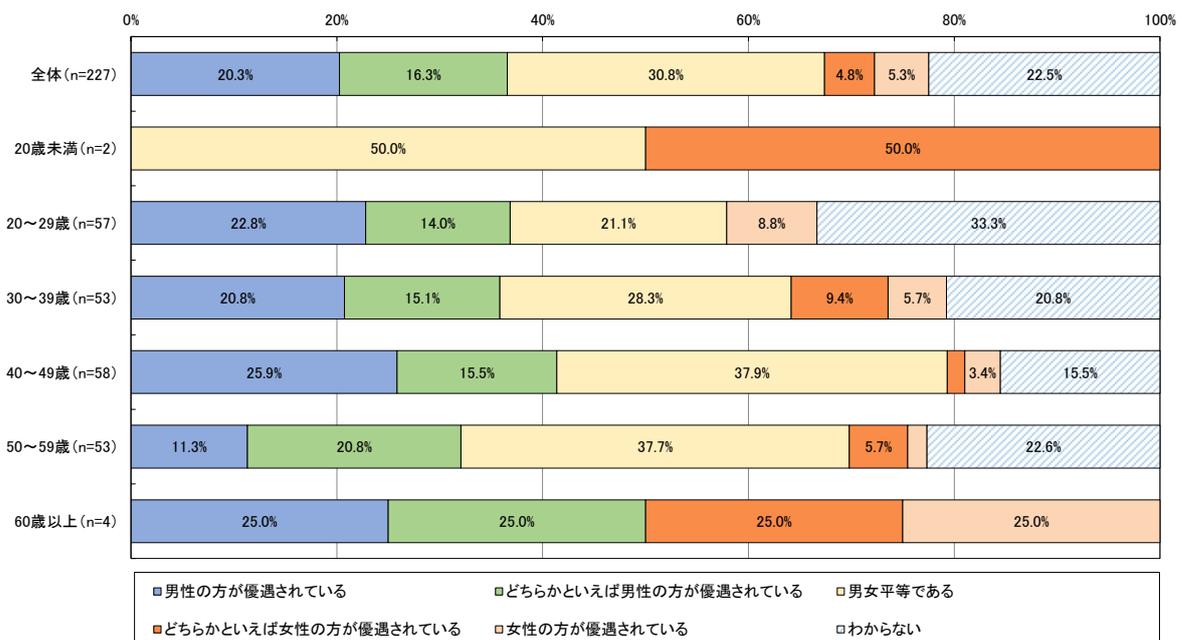
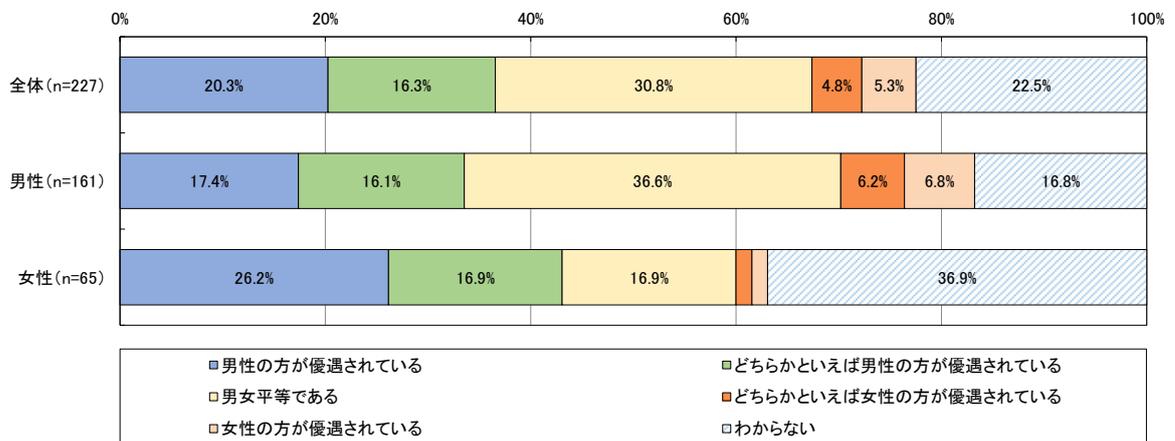
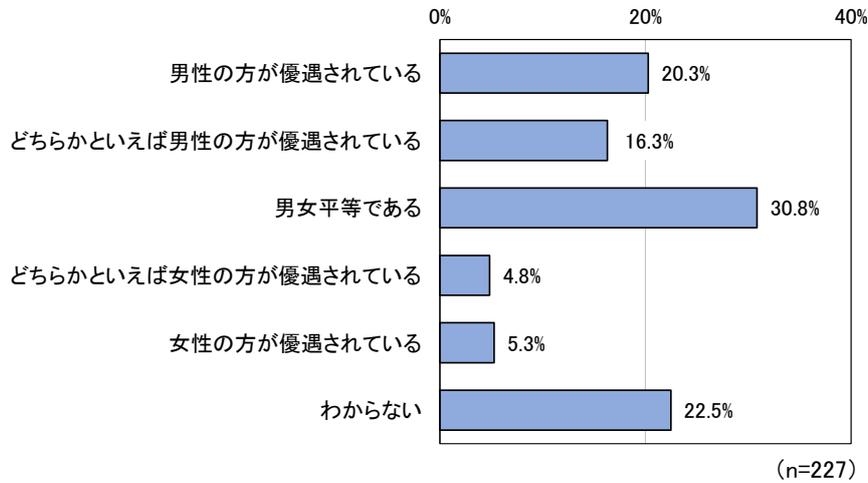
【政治の場で】

「男性の方が優遇されている」が41.9%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が32.2%となっています。



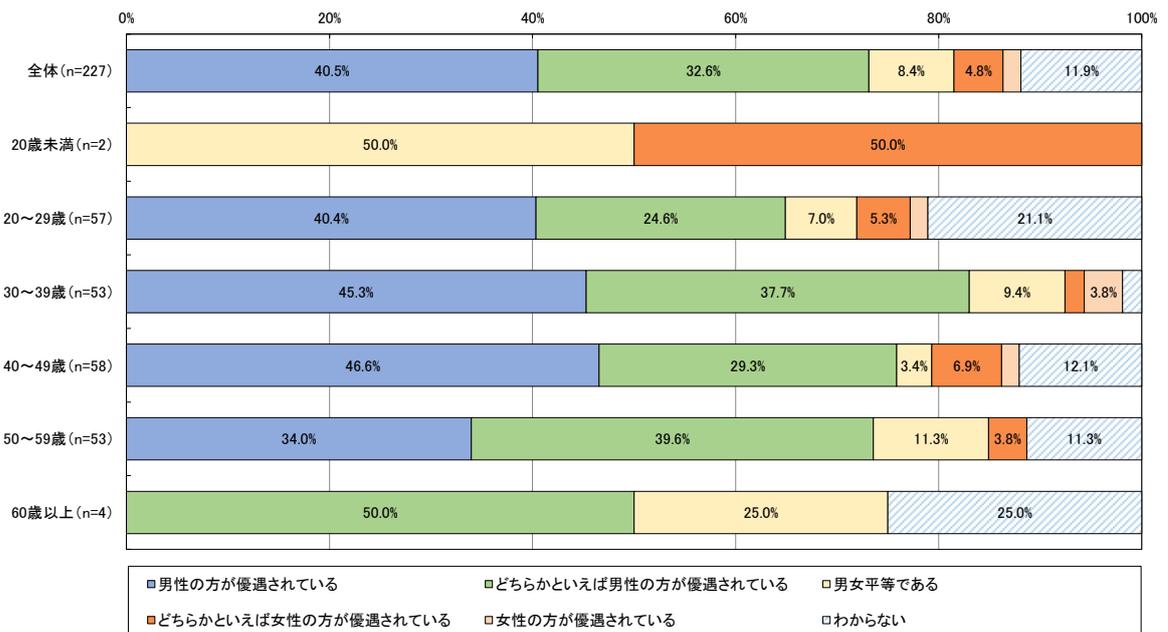
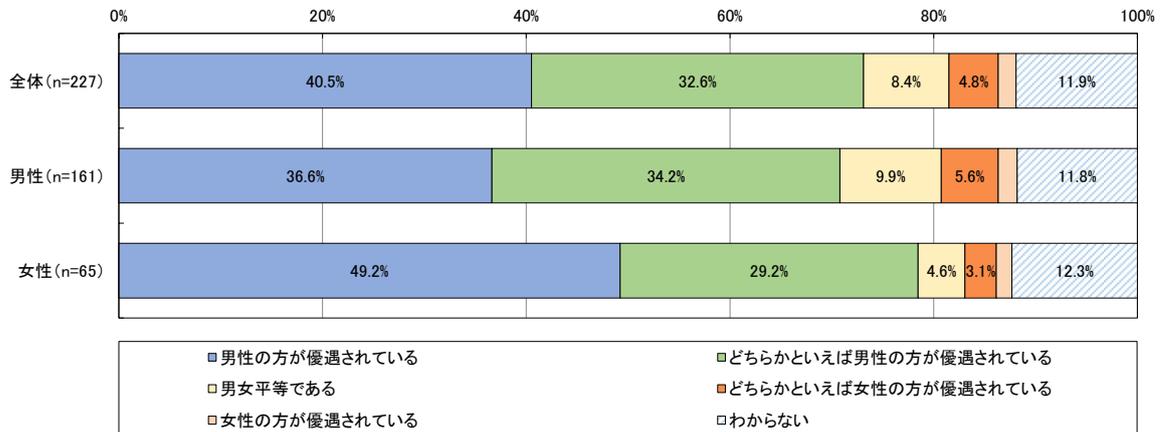
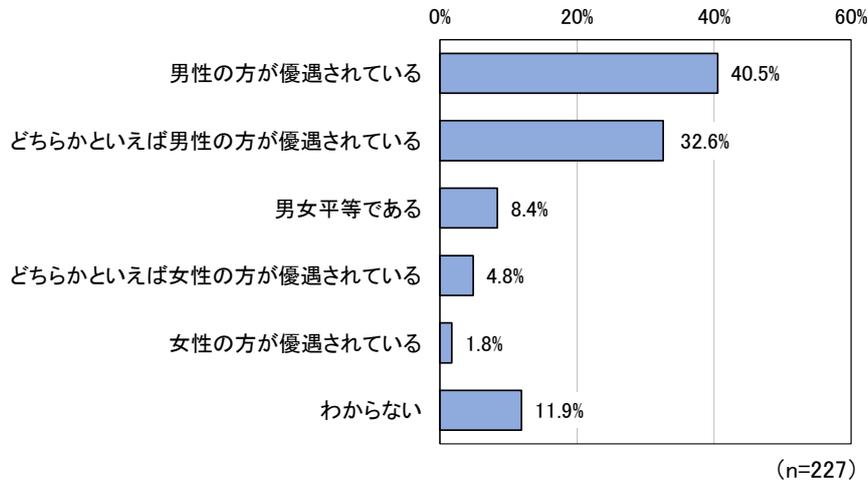
【法律や制度のうえで】

「男女平等である」が30.8%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が20.3%となっています。



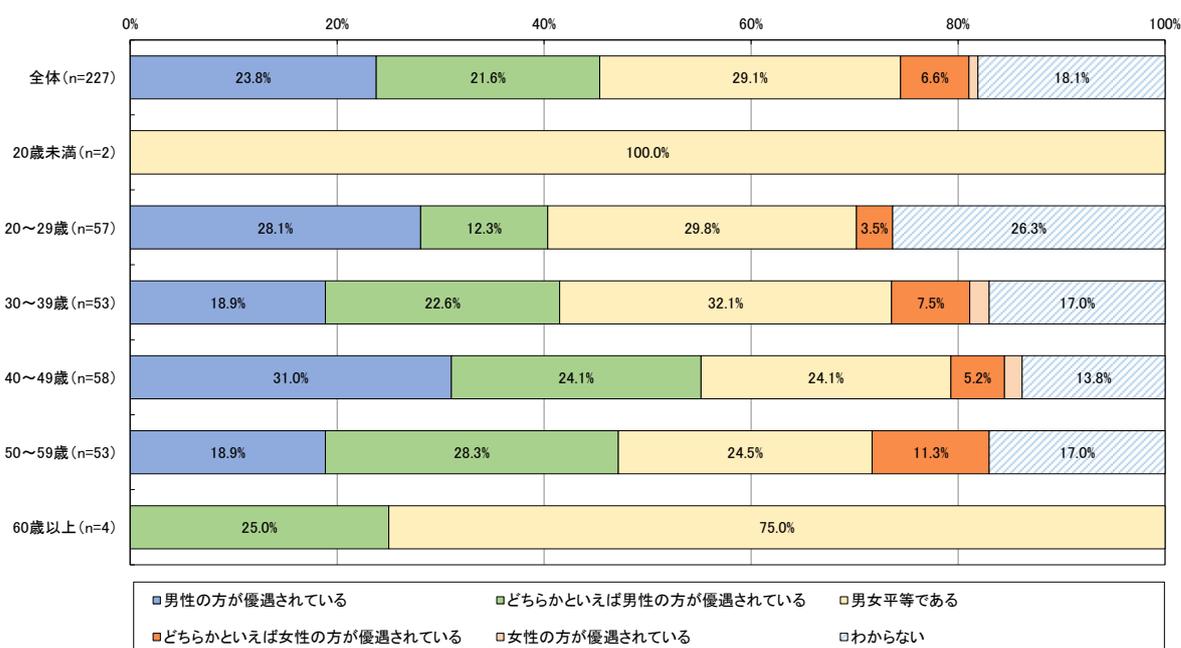
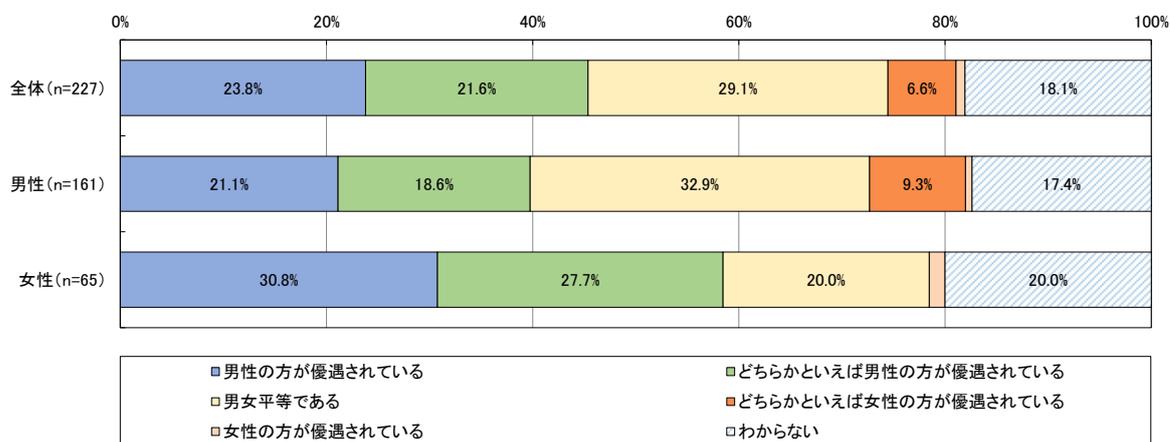
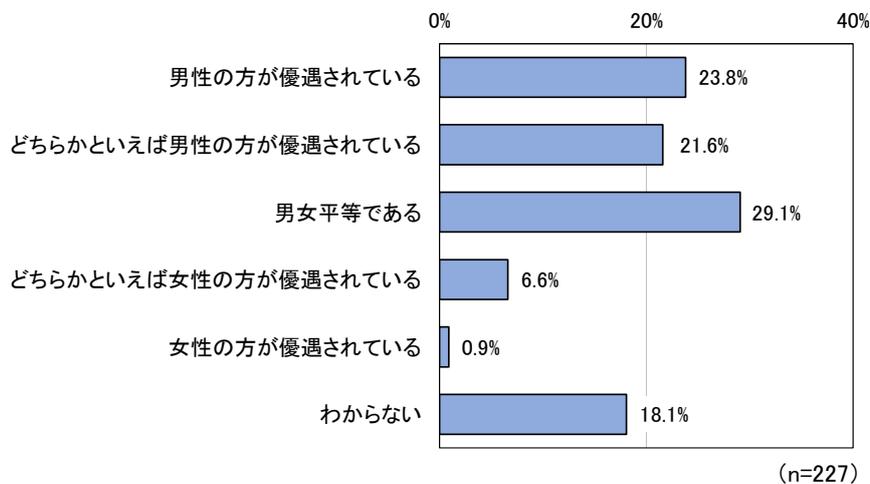
【社会通念・慣習・しきたりなど】

「男性の方が優遇されている」が40.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が32.6%となっています。



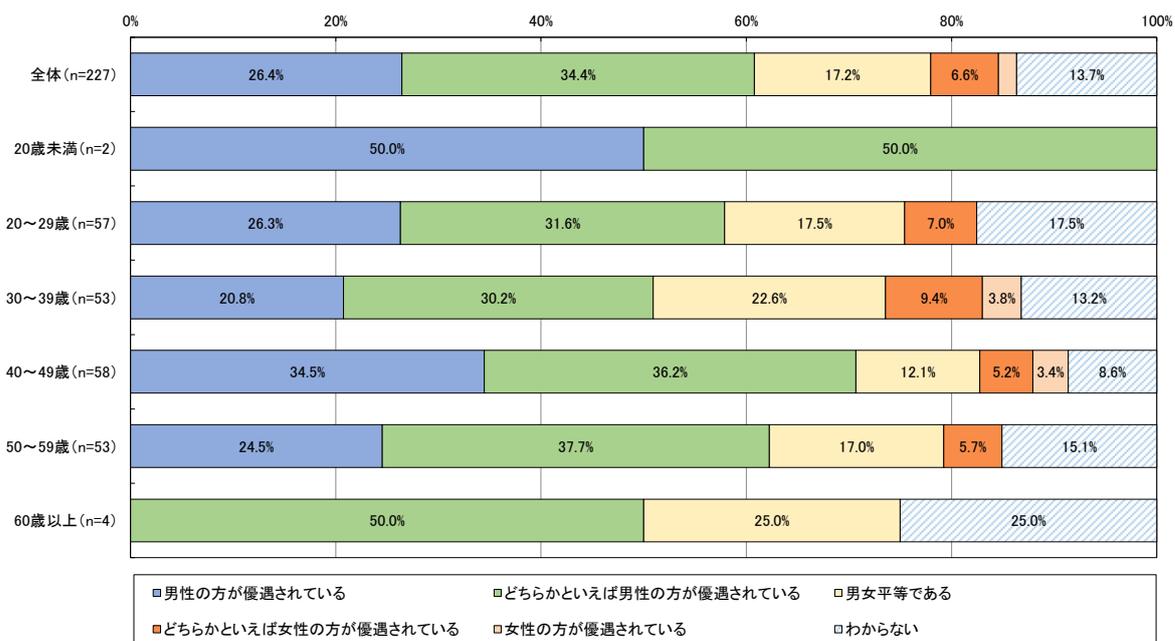
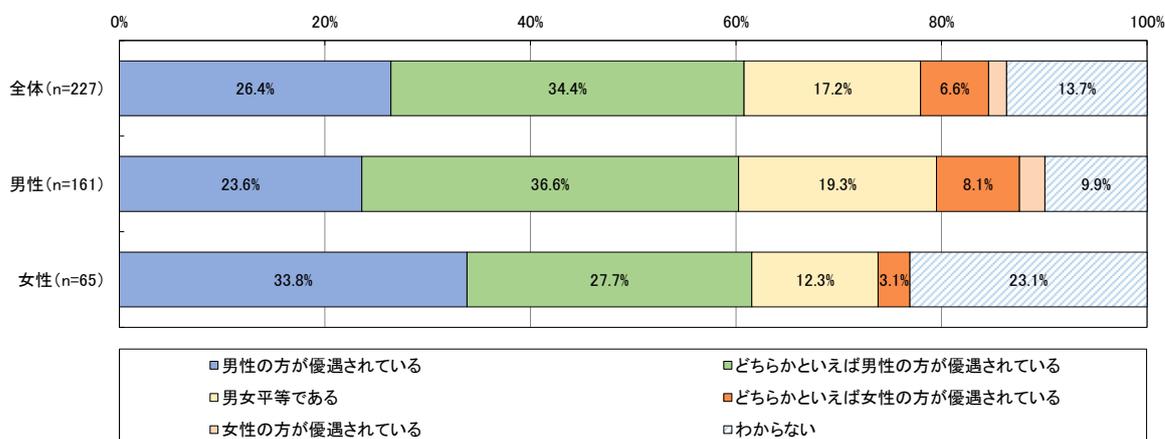
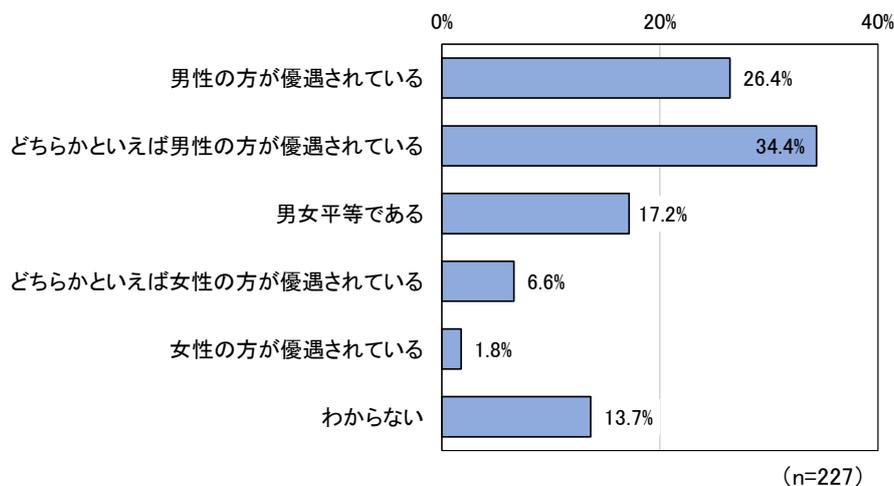
【自治体などの地域活動の場で】

「男女平等である」が29.1%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が23.8%となっています。



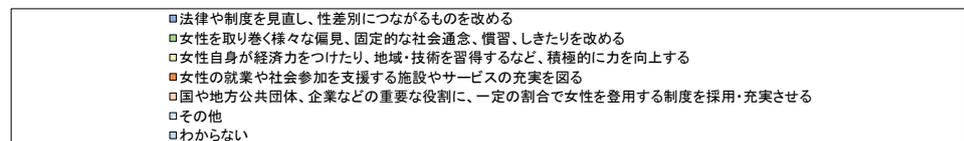
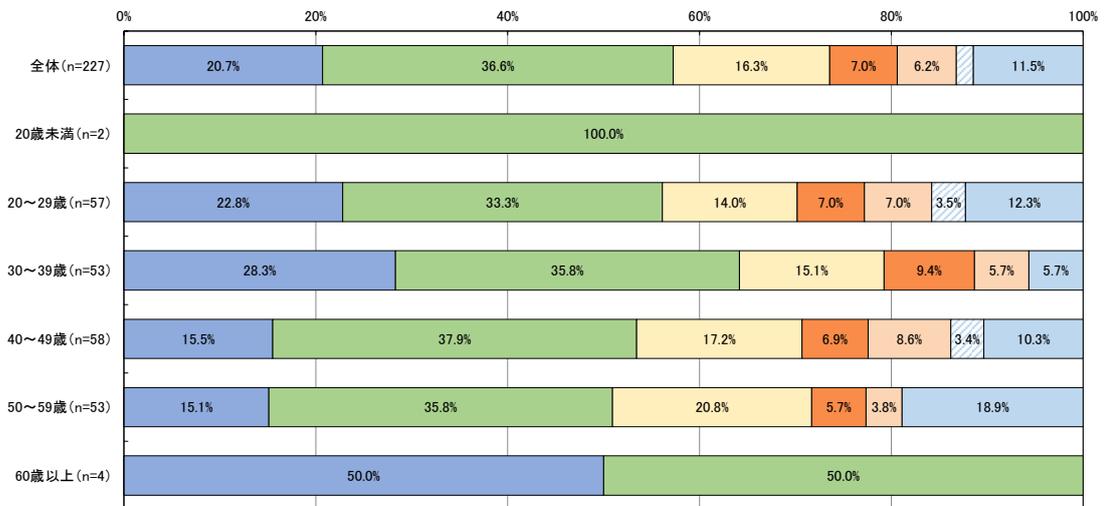
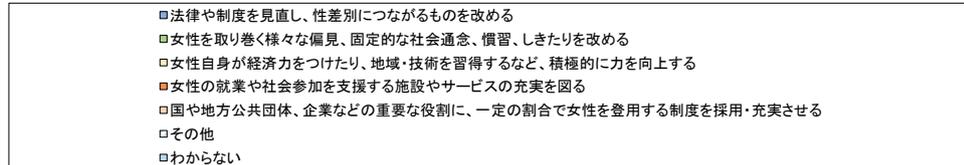
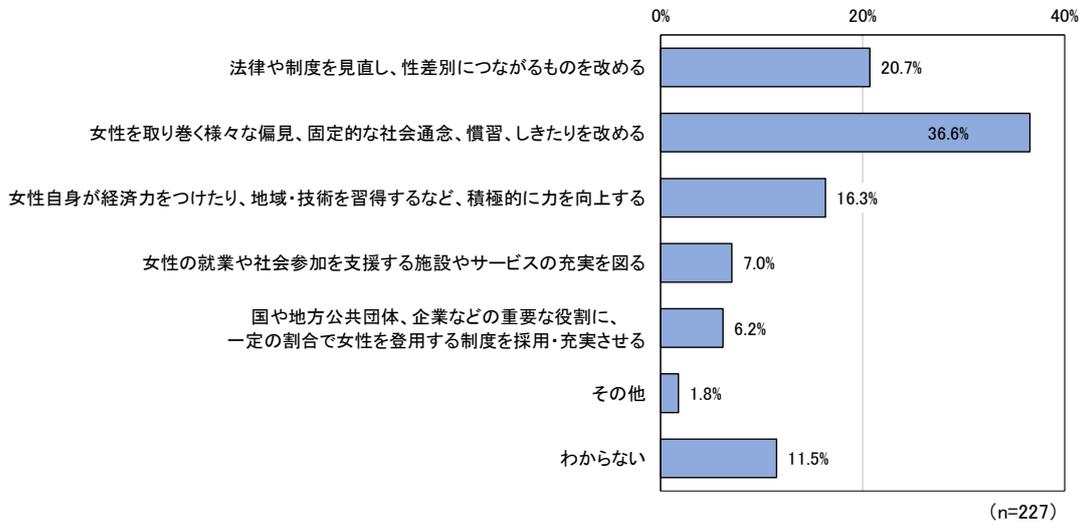
【社会全体で】

「男女平等である」が34.4%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が26.4%となっています。



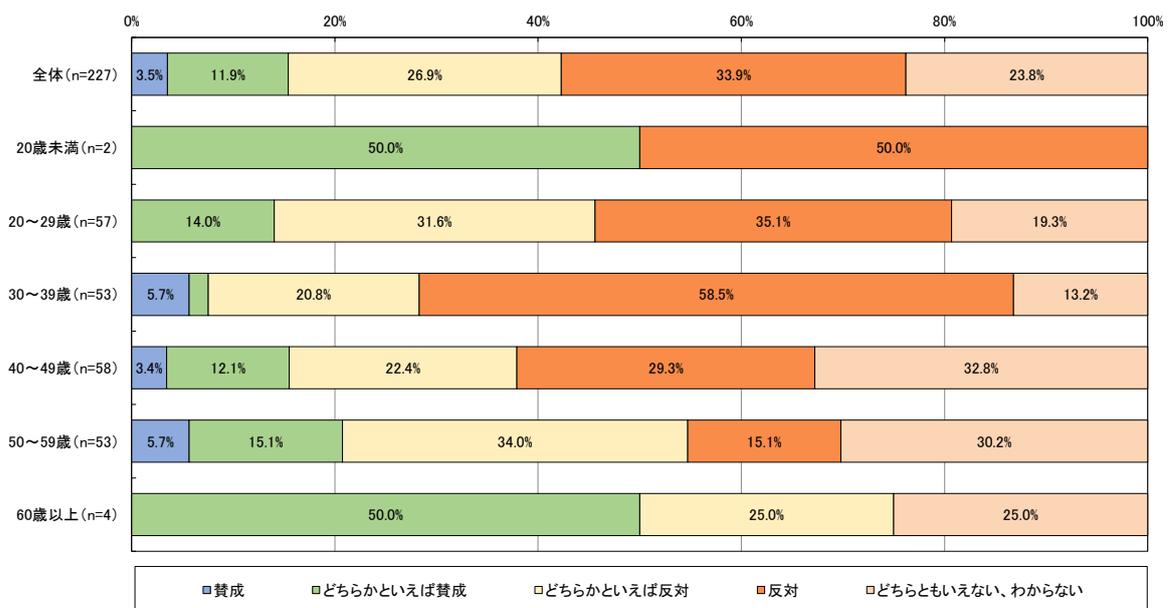
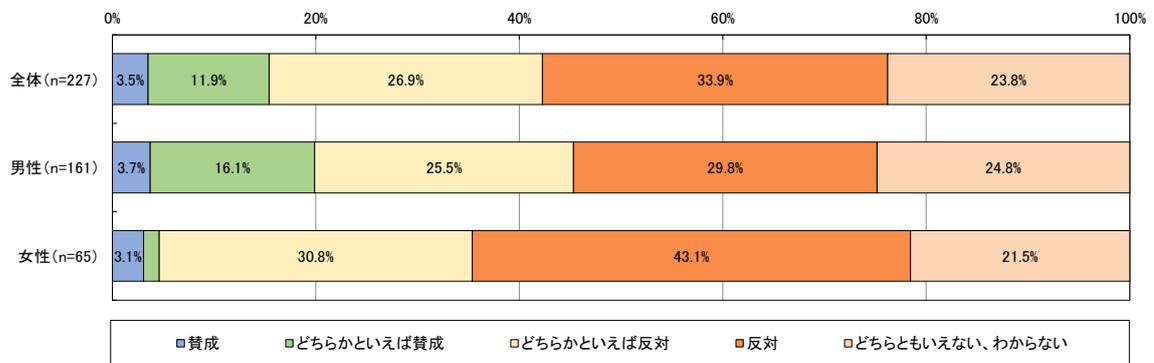
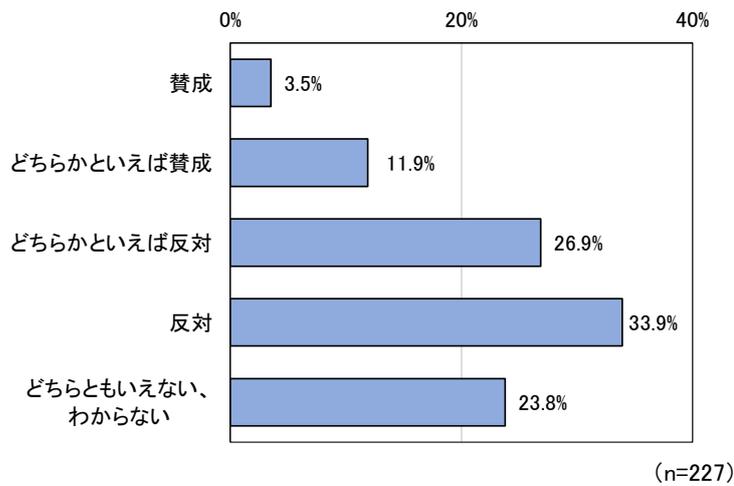
男女の地位の平等感を高めるために、必要だと思うことはどれですか。

「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」が最も多く、36.6%、次いで、「法律や制度を見直し、性差別につながるものを改める」が20.7%となっています。



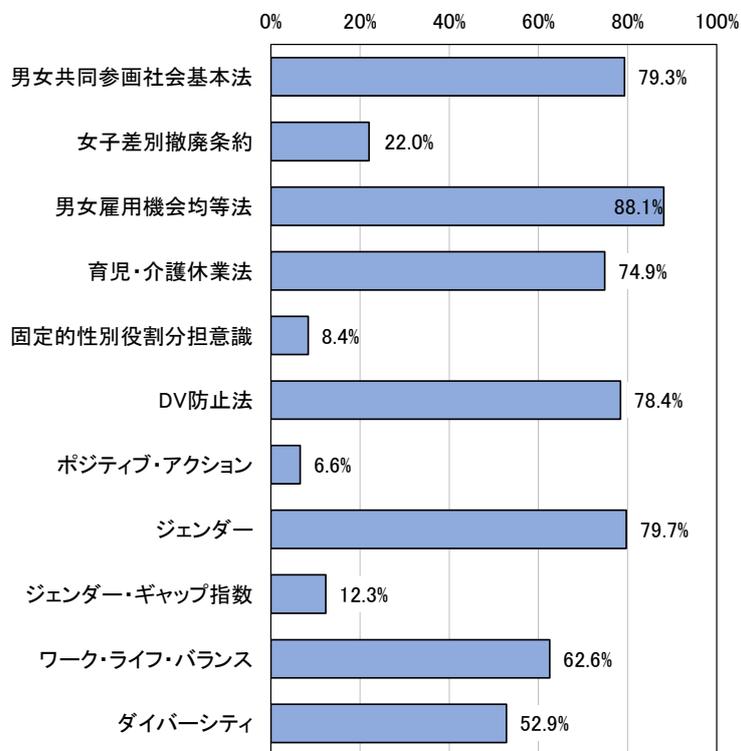
「男性は仕事・女性は家事」という考え方について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。

「反対」が33.9%と最も多く、次いで「どちらかといえば反対」が26.9%となっています。



次の言葉や施策等の中で、見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。

【男女共同参画社会基本法】、【男女雇用機会均等法】、【育児・介護休業法】、【DV防止法】、【ジェンダー】は7割以上が「見たり聞いたりしたことがある」と回答しています。

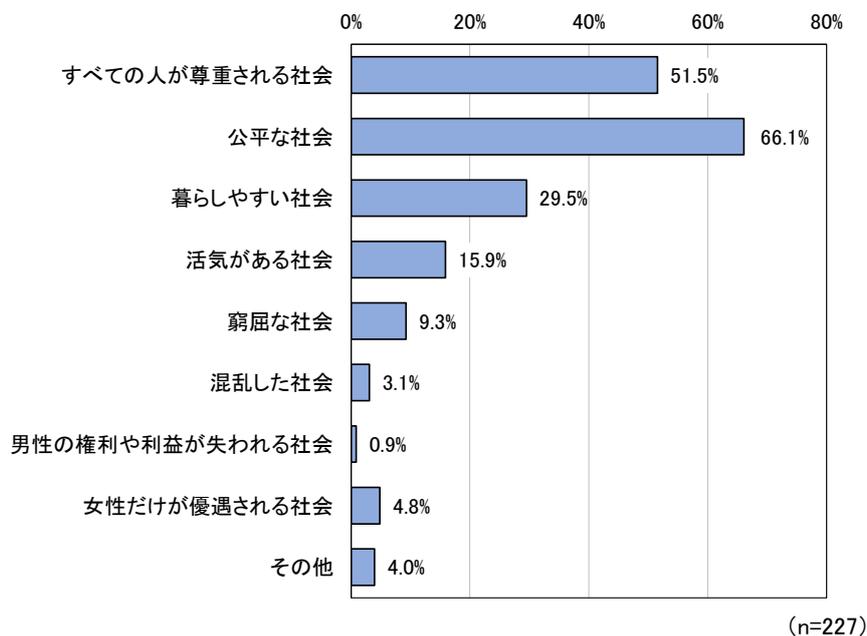


(n=227)

		男女共同参画社会基本法	女子差別撤廃条約	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	固定的性別役割分担意識	DV防止法	ポジティブ・アクション	ジェンダー	ジェンダー・ギャップ指数	ワーク・ライフ・バランス	ダイバーシティ
【性別】	全体(n=227)	79.3%	22.0%	88.1%	74.9%	8.4%	78.4%	6.6%	79.7%	12.3%	62.6%	52.9%
	男性(n=161)	77.6%	17.4%	85.7%	67.7%	4.3%	73.9%	5.6%	76.4%	9.3%	54.0%	47.2%
	女性(n=65)	83.1%	32.3%	93.8%	92.3%	16.9%	89.2%	7.7%	87.7%	18.5%	83.1%	66.2%
【年齢別】	全体(n=227)	79.3%	22.0%	88.1%	74.9%	8.4%	78.4%	6.6%	79.7%	12.3%	62.6%	52.9%
	20歳未満(n=2)	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%	50.0%
	20～29歳(n=57)	82.5%	29.8%	82.5%	64.9%	14.0%	66.7%	7.0%	73.7%	19.3%	66.7%	47.4%
	30～39歳(n=53)	90.6%	17.0%	88.7%	73.6%	3.8%	73.6%	7.5%	75.5%	7.5%	66.0%	58.5%
	40～49歳(n=58)	69.0%	15.5%	94.8%	84.5%	3.4%	84.5%	1.7%	86.2%	17.2%	63.8%	58.6%
	50～59歳(n=53)	77.4%	24.5%	84.9%	77.4%	13.2%	88.7%	11.3%	84.9%	5.7%	52.8%	49.1%
	60歳以上(n=4)	50.0%	25.0%	100.0%	75.0%	0.0%	75.0%	0.0%	75.0%	0.0%	50.0%	25.0%

男女共同参画社会という言葉から、どのような社会をイメージしますか。

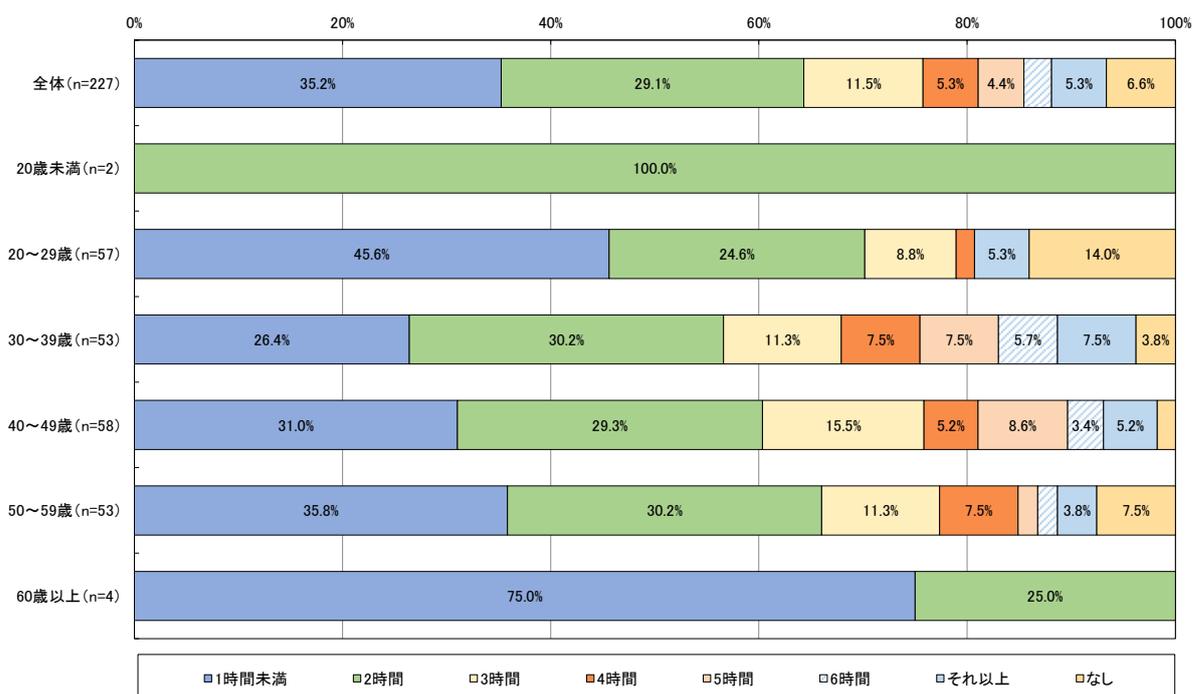
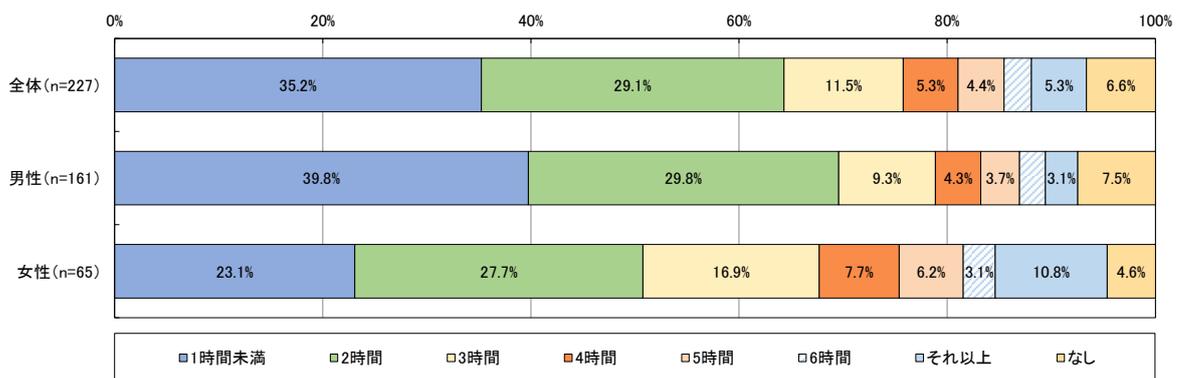
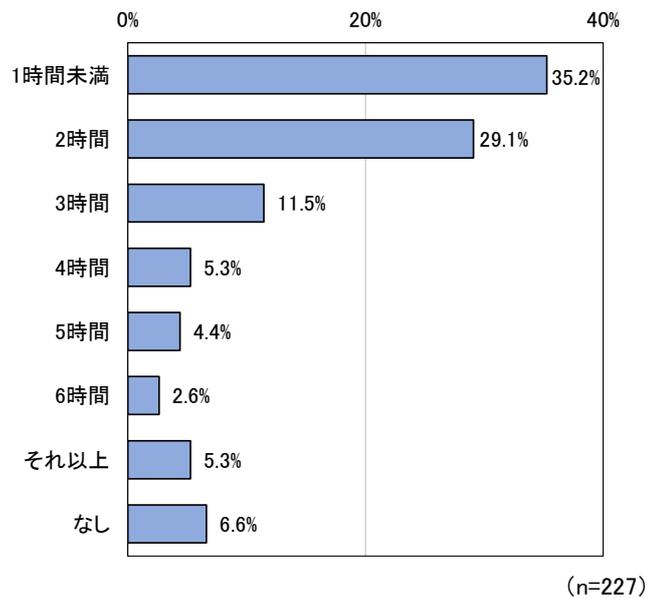
「公平な社会」が66.1%と最も多く、次いで「すべての人が尊重される社会」が51.5%となっています。



		すべての人が尊重される社会	公平な社会	暮らしやすい社会	活気がある社会	窮屈な社会	混乱した社会	男性の権利や利益が失われる社会	女性だけが優遇される社会	その他
【性別】	全体(n=227)	51.5%	66.1%	29.5%	15.9%	9.3%	3.1%	0.9%	4.8%	4.0%
	男性(n=161)	50.3%	65.8%	27.3%	13.7%	12.4%	2.5%	0.0%	5.6%	3.1%
	女性(n=65)	55.4%	67.7%	35.4%	21.5%	1.5%	4.6%	3.1%	3.1%	4.6%
【年齢別】	全体(n=227)	27.9%	35.7%	16.0%	8.6%	5.0%	1.7%	0.5%	2.6%	2.1%
	20歳未満(n=2)	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳(n=57)	26.6%	36.7%	17.4%	5.5%	6.4%	1.8%	0.9%	2.8%	1.8%
	30～39歳(n=53)	29.7%	35.2%	16.5%	8.8%	4.4%	1.1%	1.1%	1.1%	2.2%
	40～49歳(n=58)	29.3%	36.4%	11.1%	7.1%	5.1%	1.0%	0.0%	5.1%	5.1%
	50～59歳(n=53)	26.9%	35.2%	18.5%	12.0%	3.7%	1.9%	0.0%	1.9%	0.0%
	60歳以上(n=4)	25.0%	37.5%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

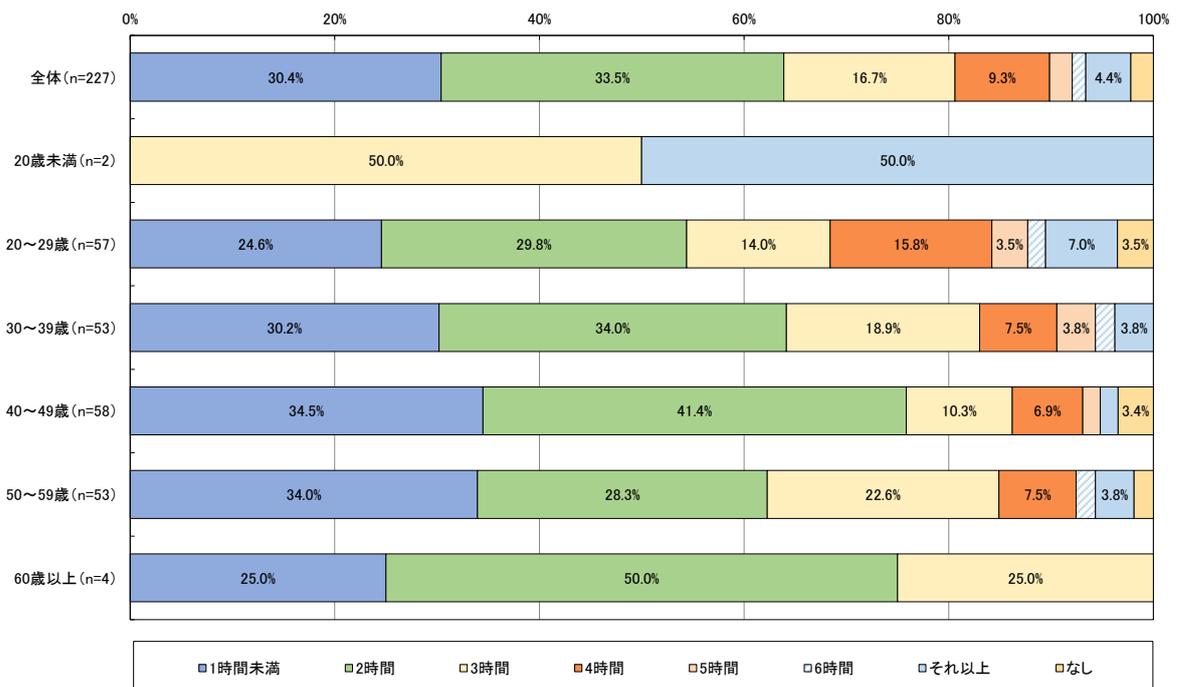
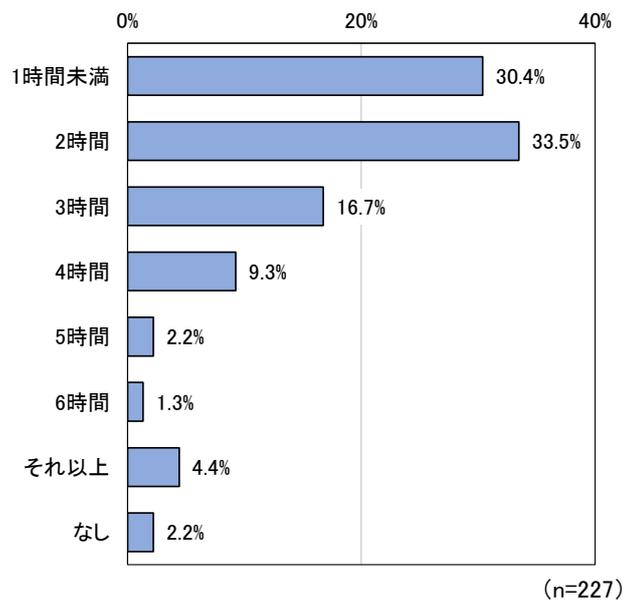
家事（育児・介護時間を含む）は一日平均でどのくらいしていますか。

「1時間未満」が35.2%と最も多く、次いで「2時間」が29.1%となっています。



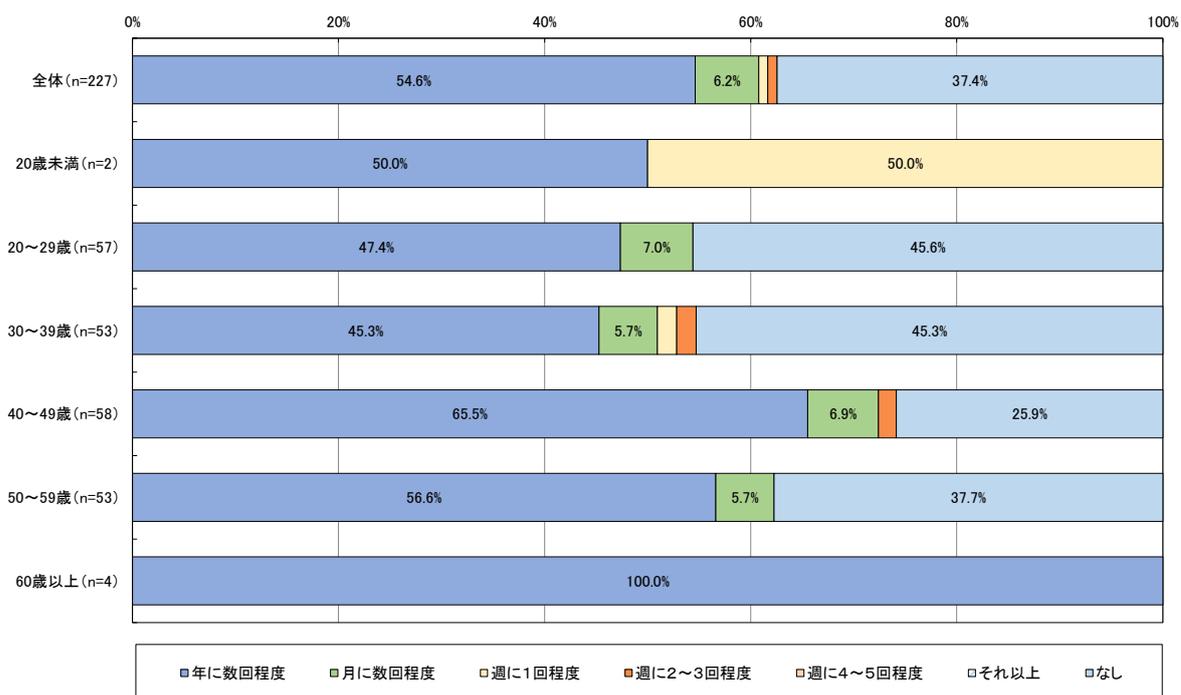
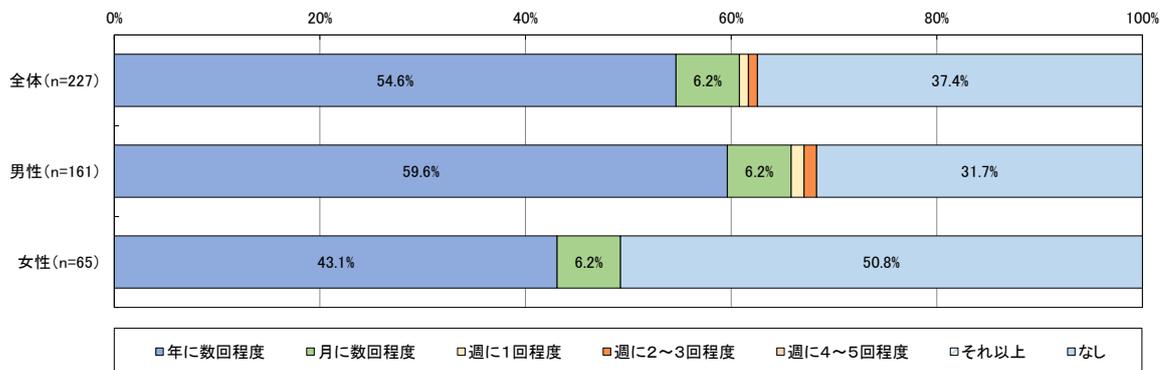
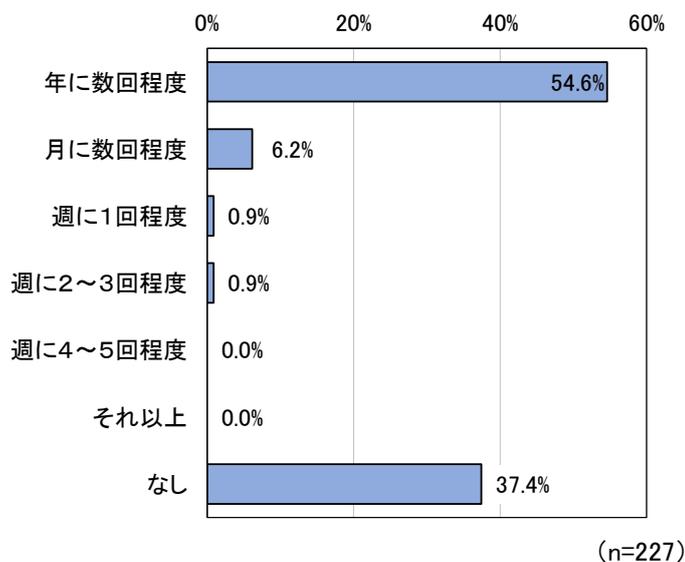
余暇や趣味などの自分の時間は、一日平均でどのくらいありますか。

「2時間」が33.5%と最も多く、次いで「1時間未満」が30.4%となっています。



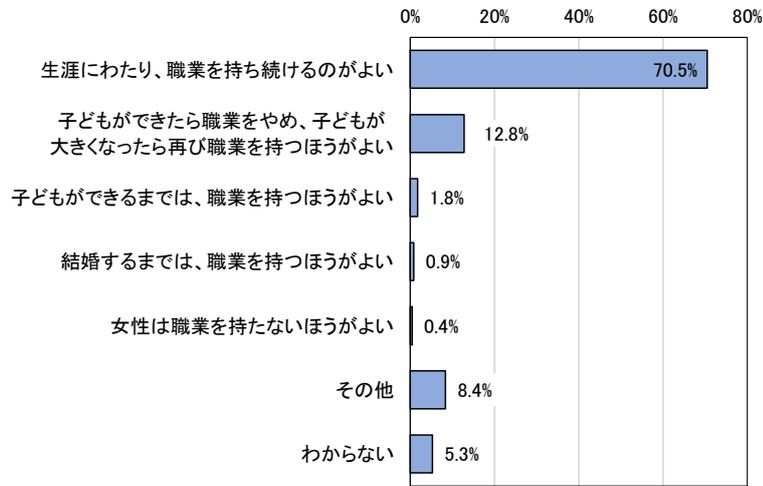
地域活動やボランティア活動は、どのくらいしていますか。

「年に数回程度」が54.6%と最も多く、次いで「月に数回程度」が6.2%となっています。



一般的に女性が職業を持つことについて、あなたの考えに一番近いものは次のうちどれですか。

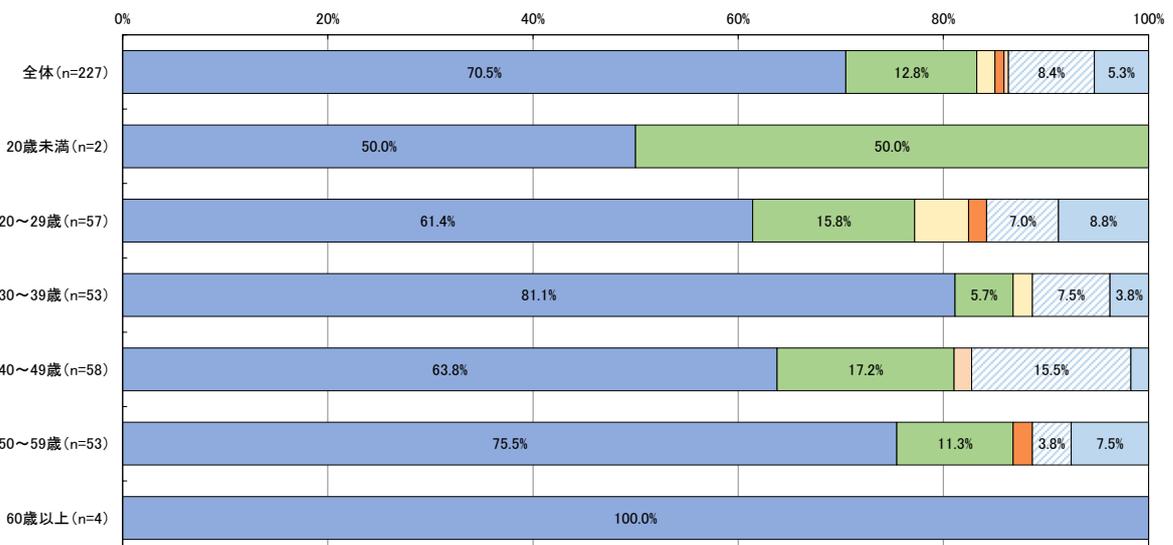
「生涯にわたり、職業を持ち続けるのがよい」が70.5%と最も多く、次いで「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が12.8%となっています。



(n=227)



- 生涯にわたり、職業を持ち続けるのがよい
- 子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- 結婚するまでは、職業を持つほうがよい
- 女性は職業を持たないほうがよい
- その他
- わからない

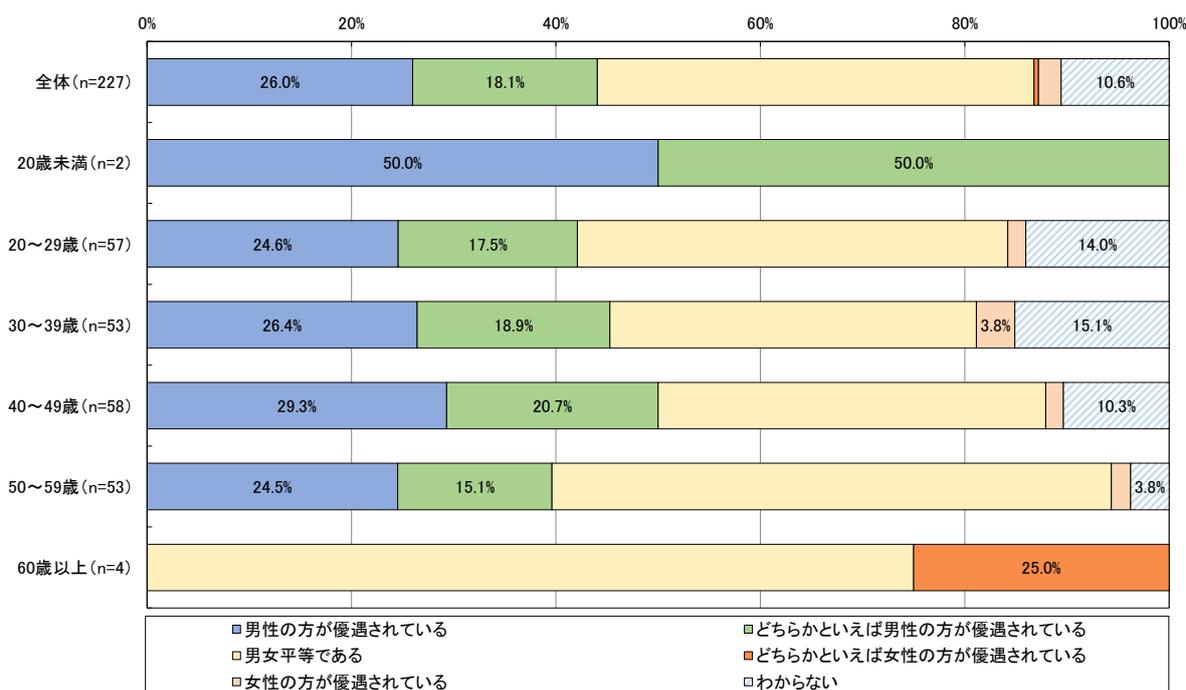
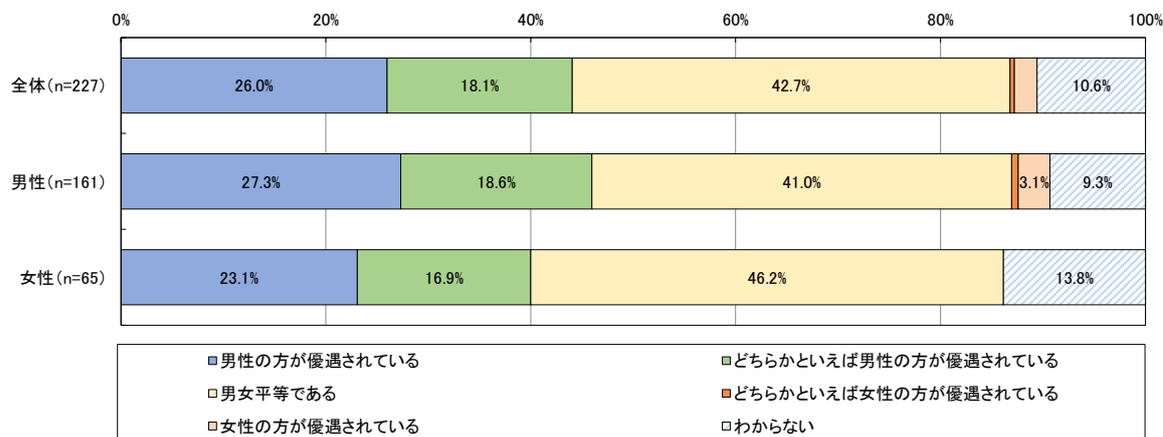
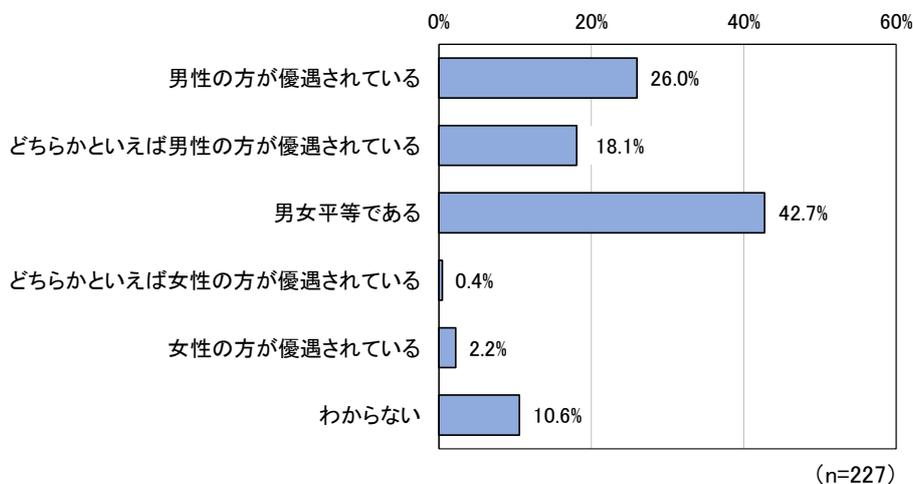


- 生涯にわたり、職業を持ち続けるのがよい
- 子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- 結婚するまでは、職業を持つほうがよい
- 女性は職業を持たないほうがよい
- その他
- わからない

次の分野で性別によって差があると思いますか。

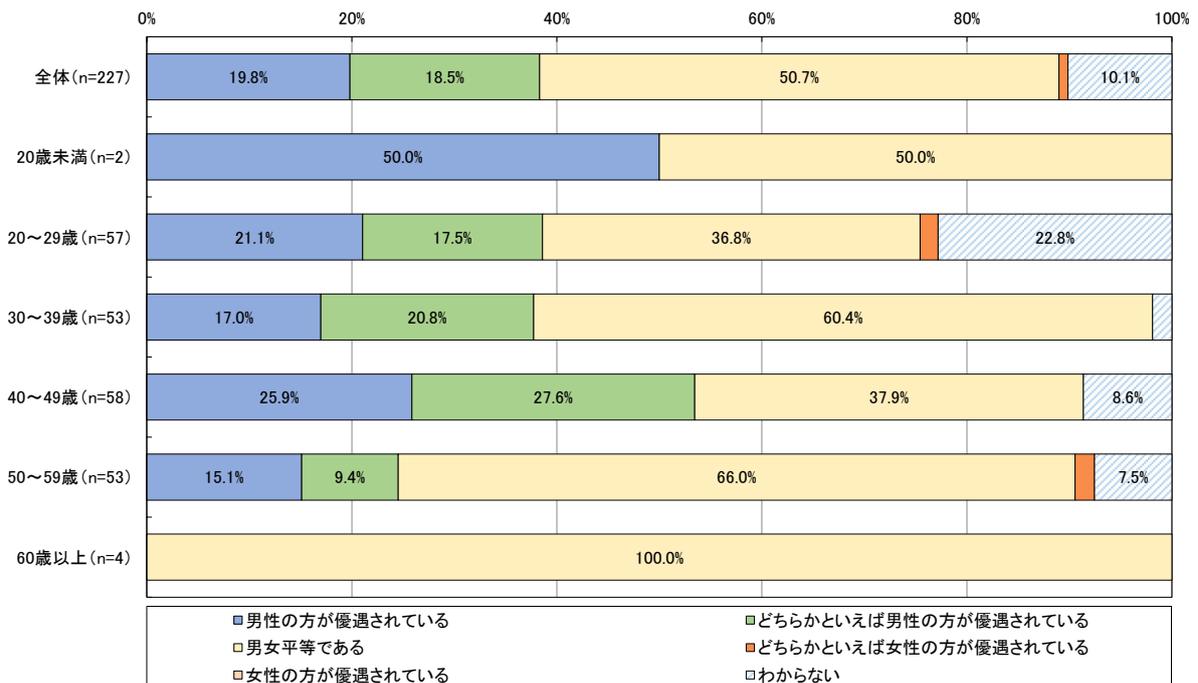
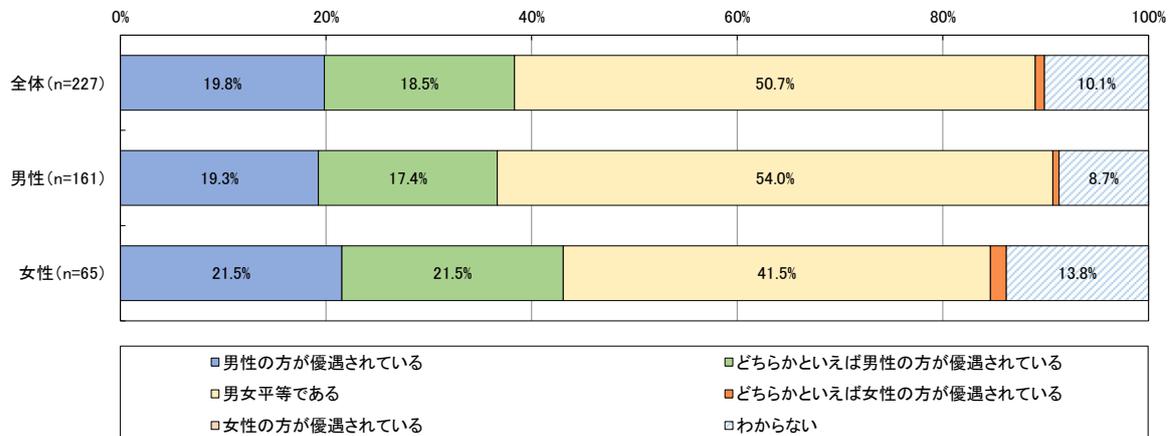
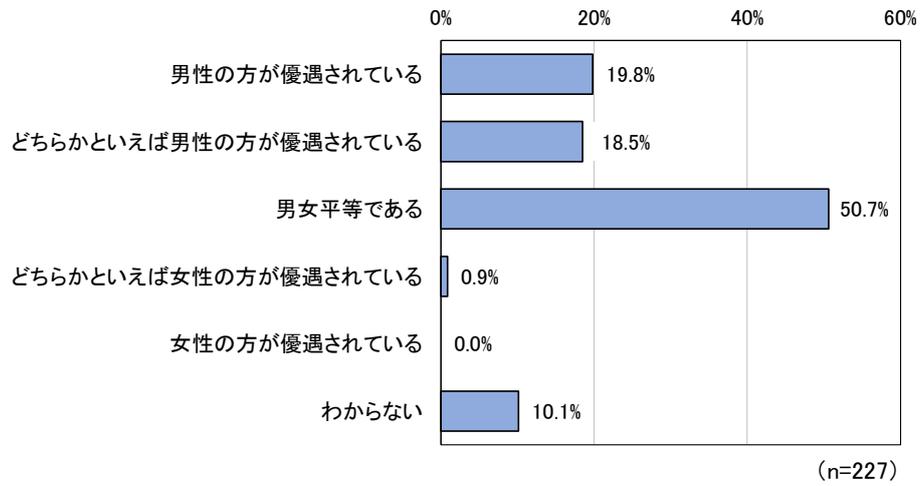
【募集・採用】

「男女平等である」が42.7%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が26.0%となっています。



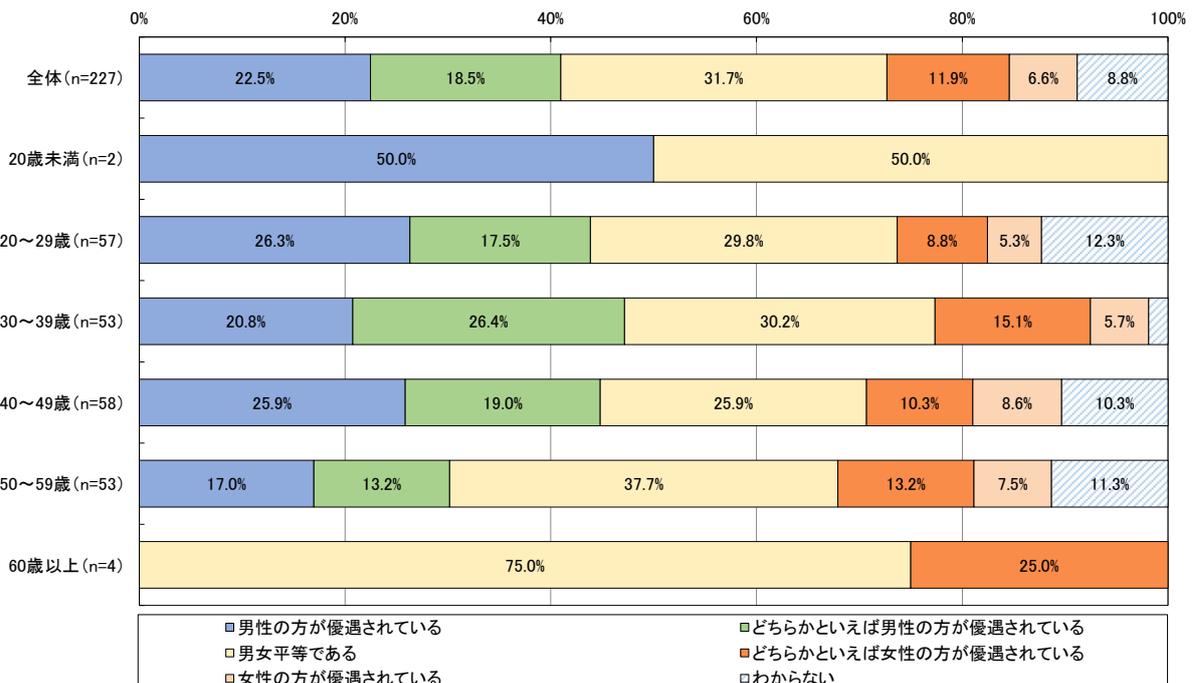
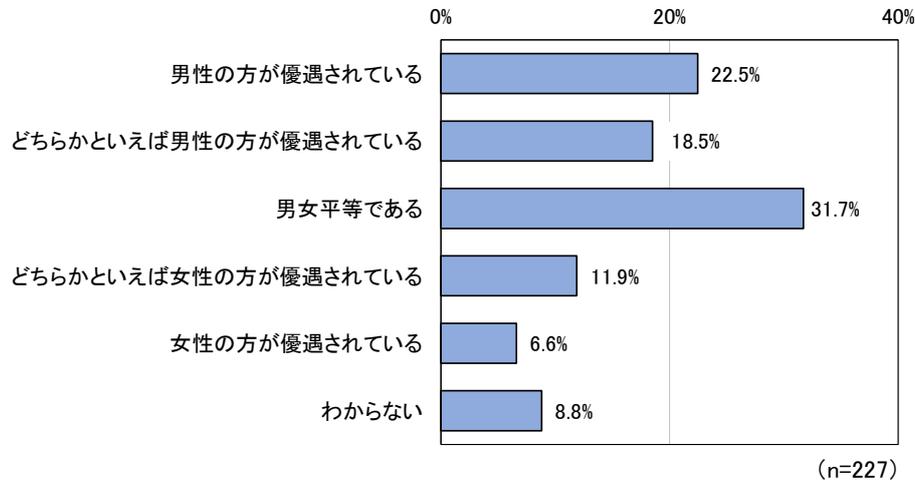
【賃金】

「男女平等である」が50.7%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が19.8%となっています。



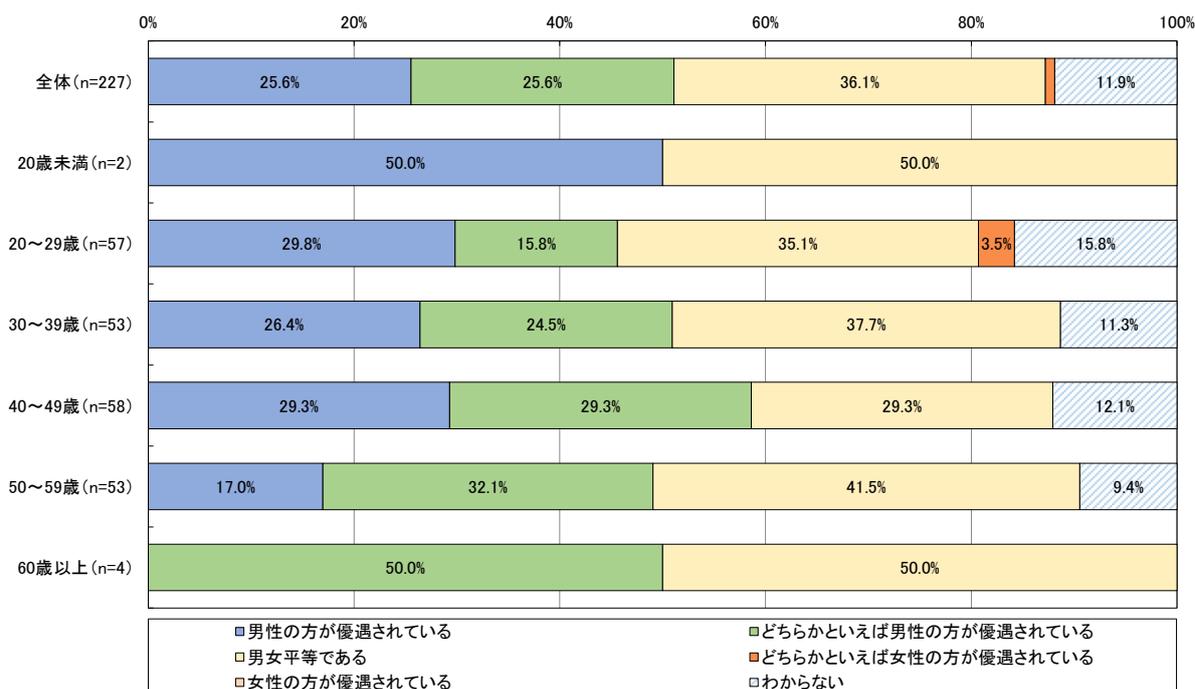
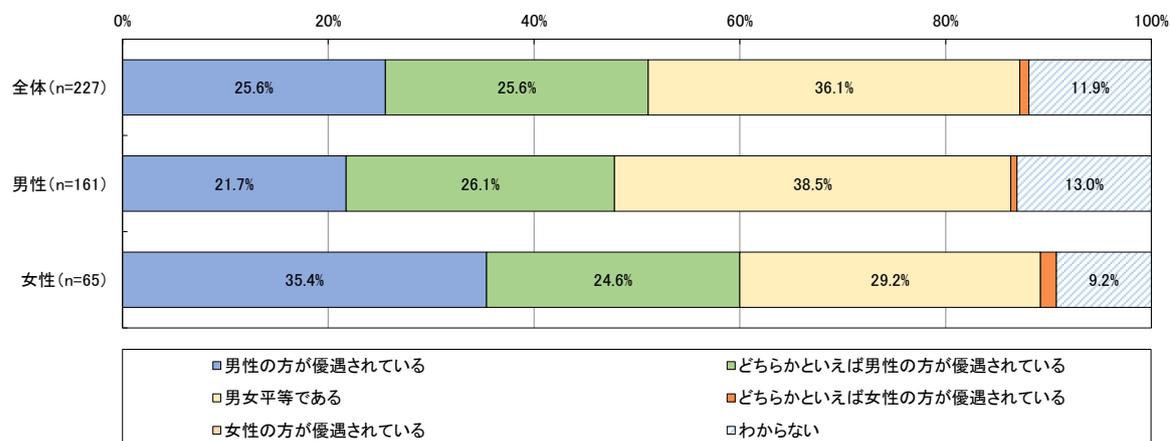
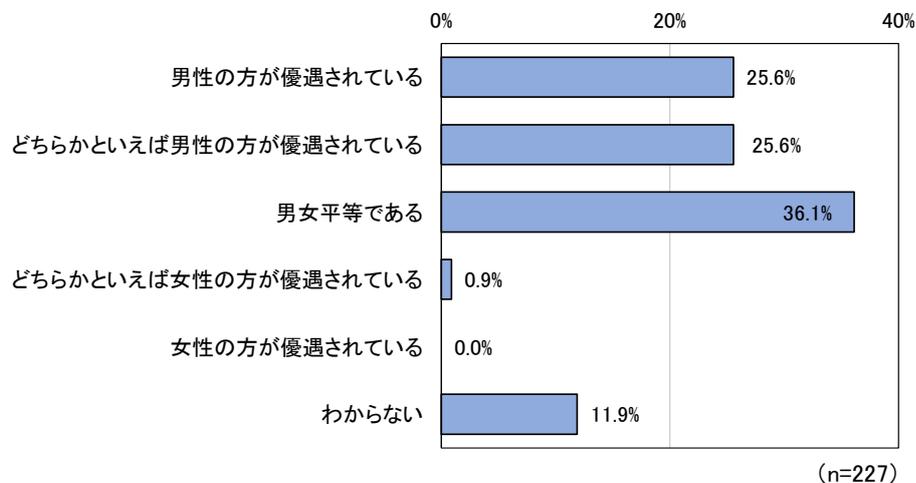
【業務（内容、責任）】

「男女平等である」が31.7%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が22.5%となっています。



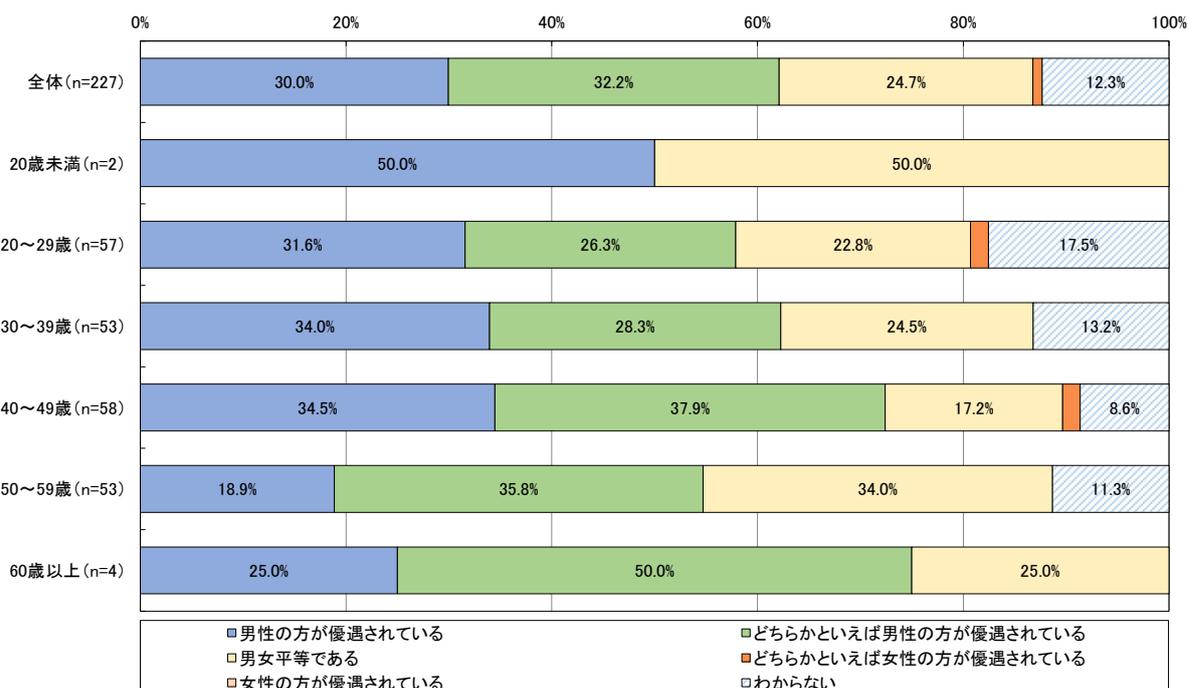
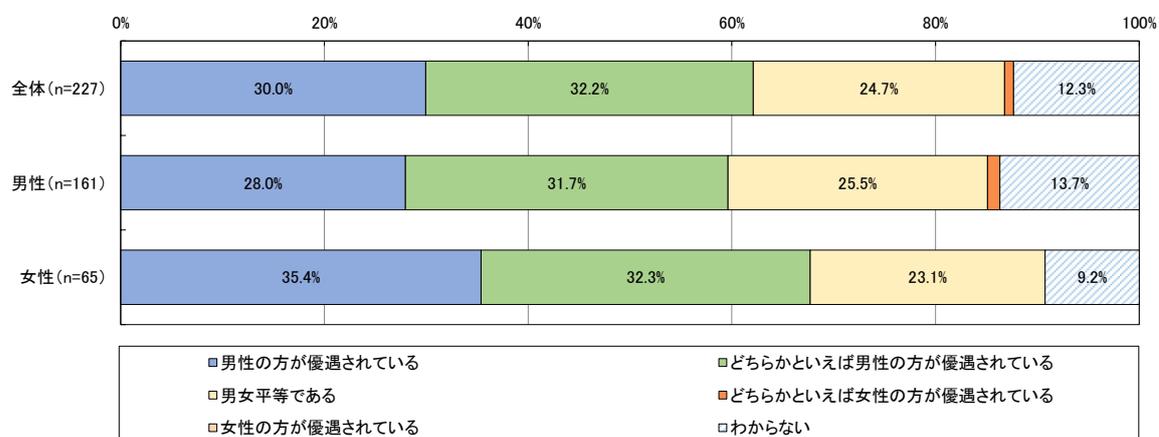
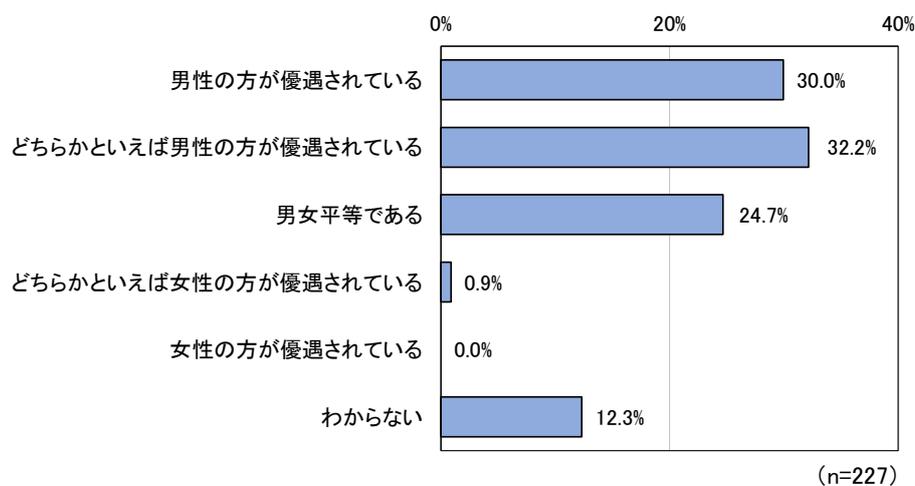
【昇進・昇格】

「男女平等である」が36.1%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が25.6%となっています。



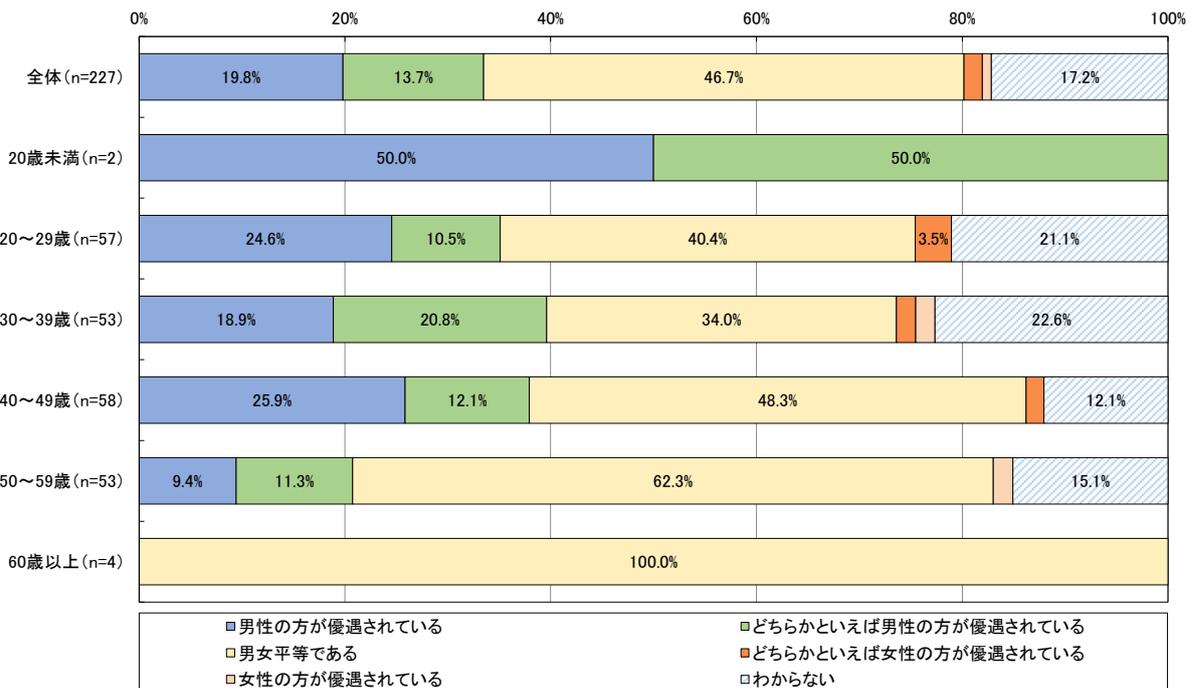
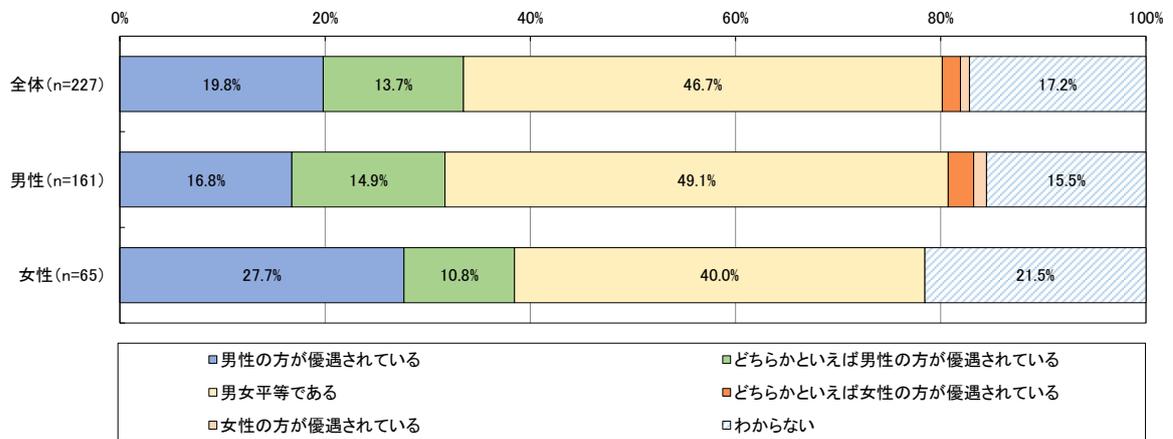
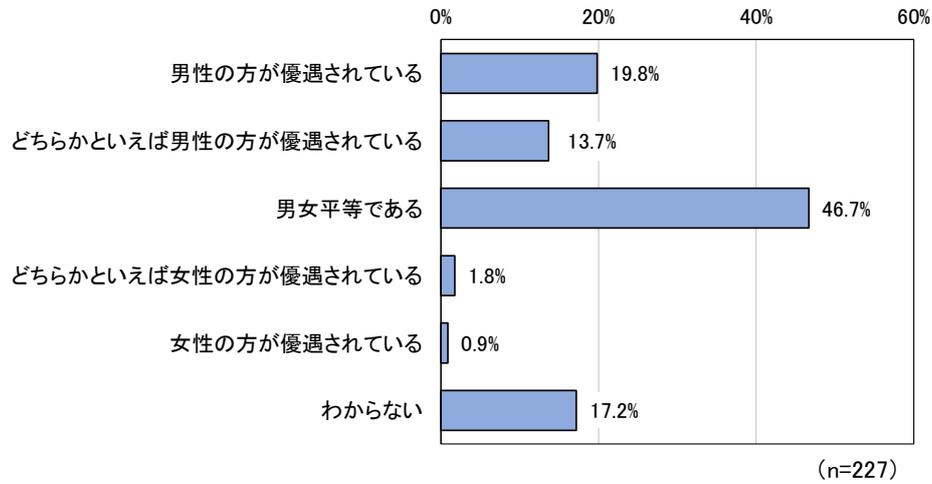
【管理職への登用】

「男女平等である」が32.2%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が30.0%となっています。



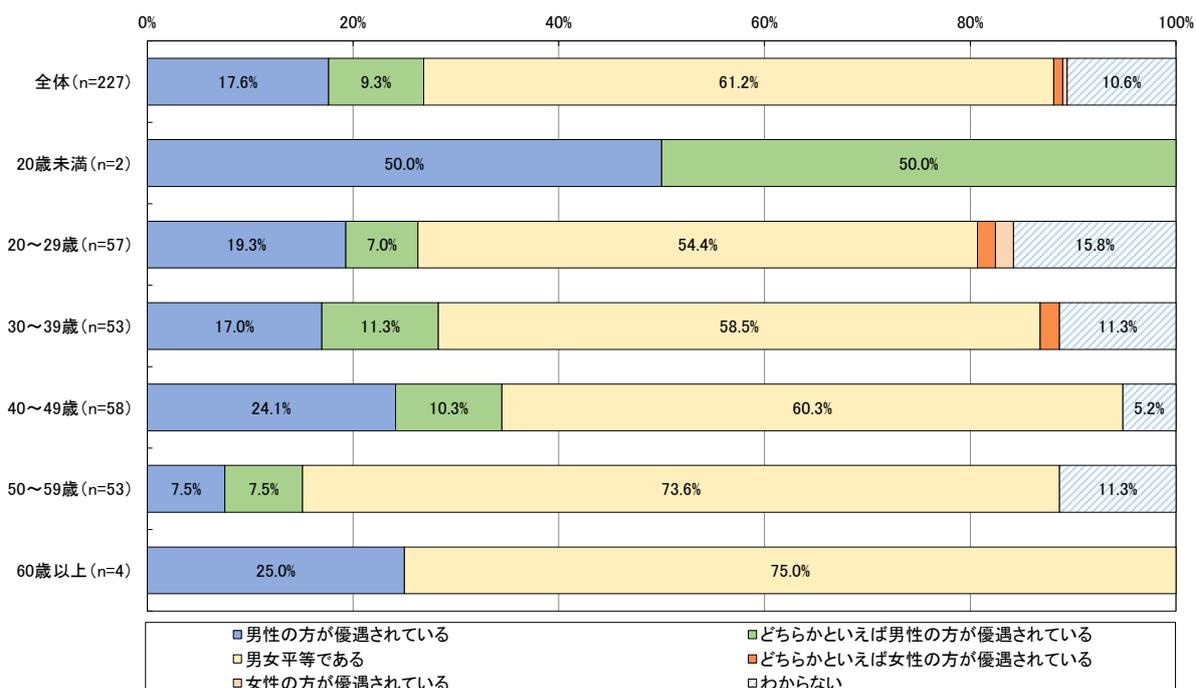
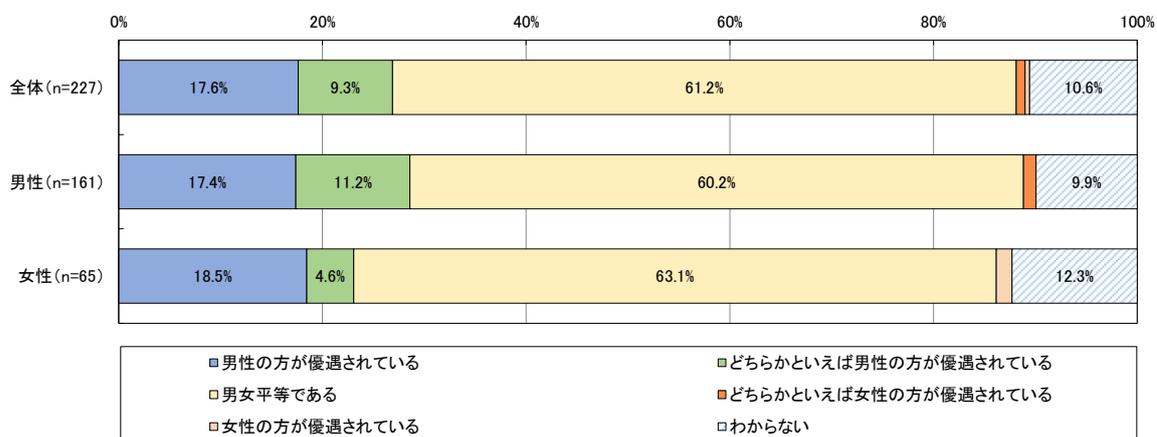
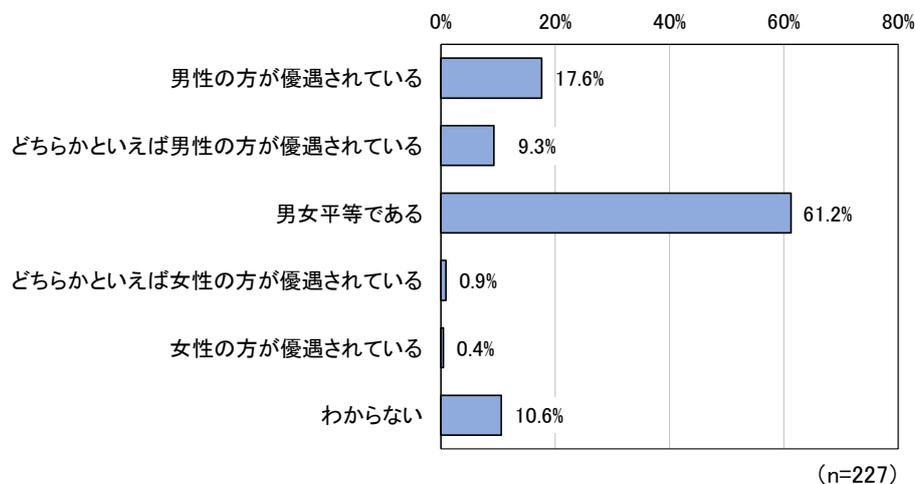
【能力評価】

「男女平等である」が46.7%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が19.8%となっています。



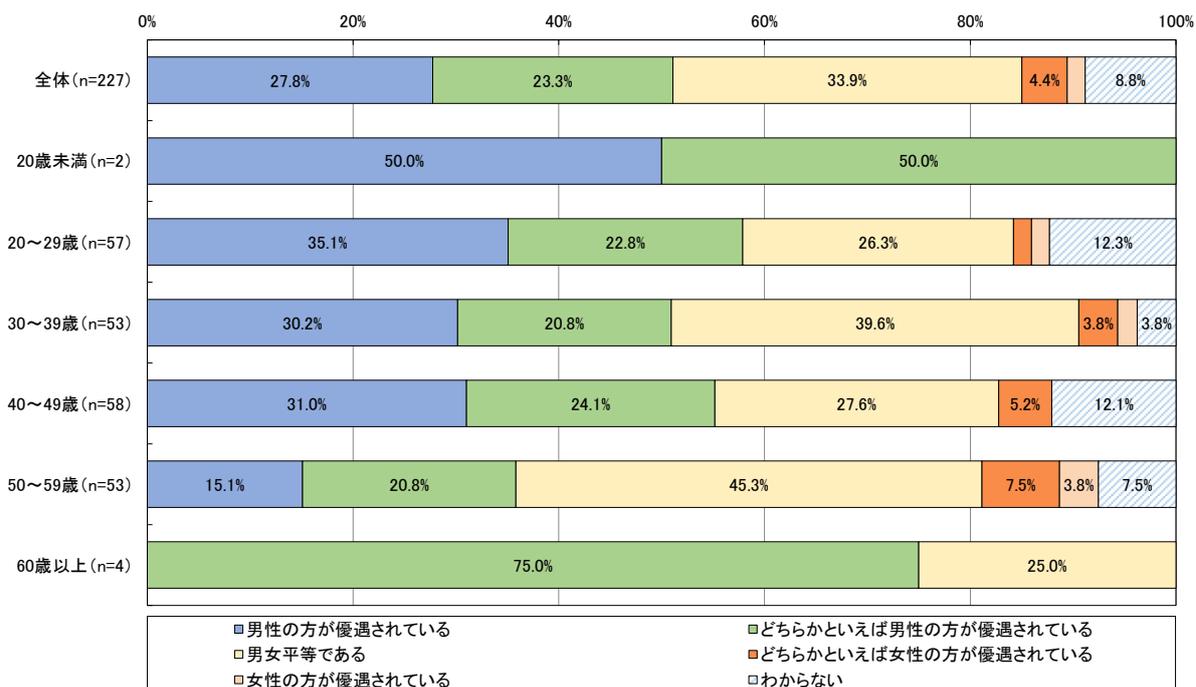
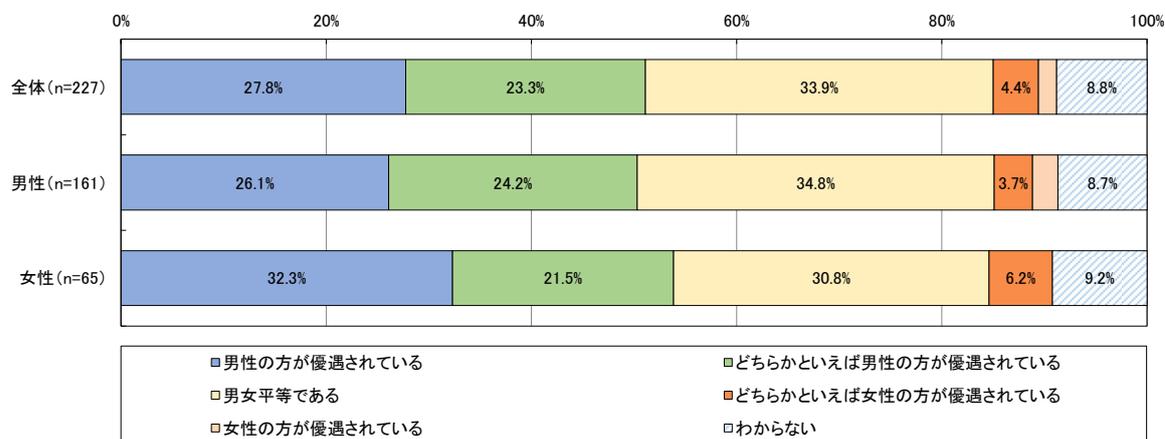
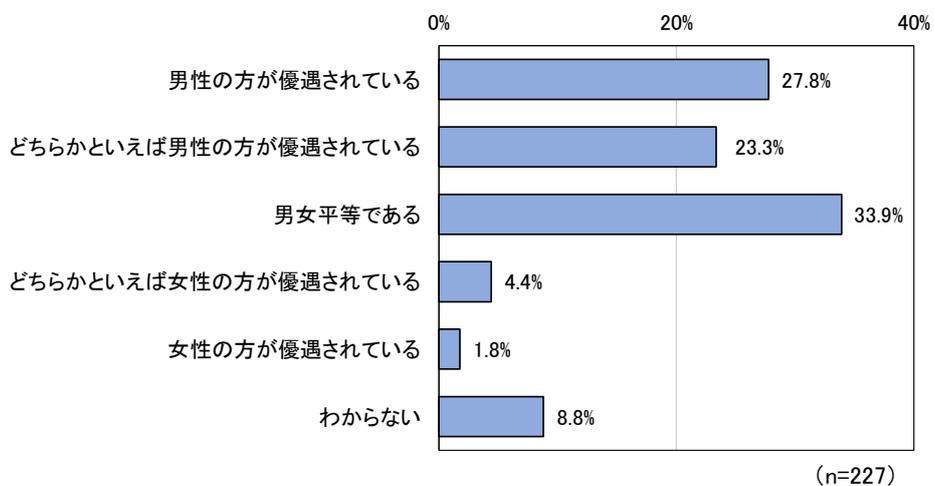
【研修（機会、内容）】

「男女平等である」が61.2%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が17.6%となっています。



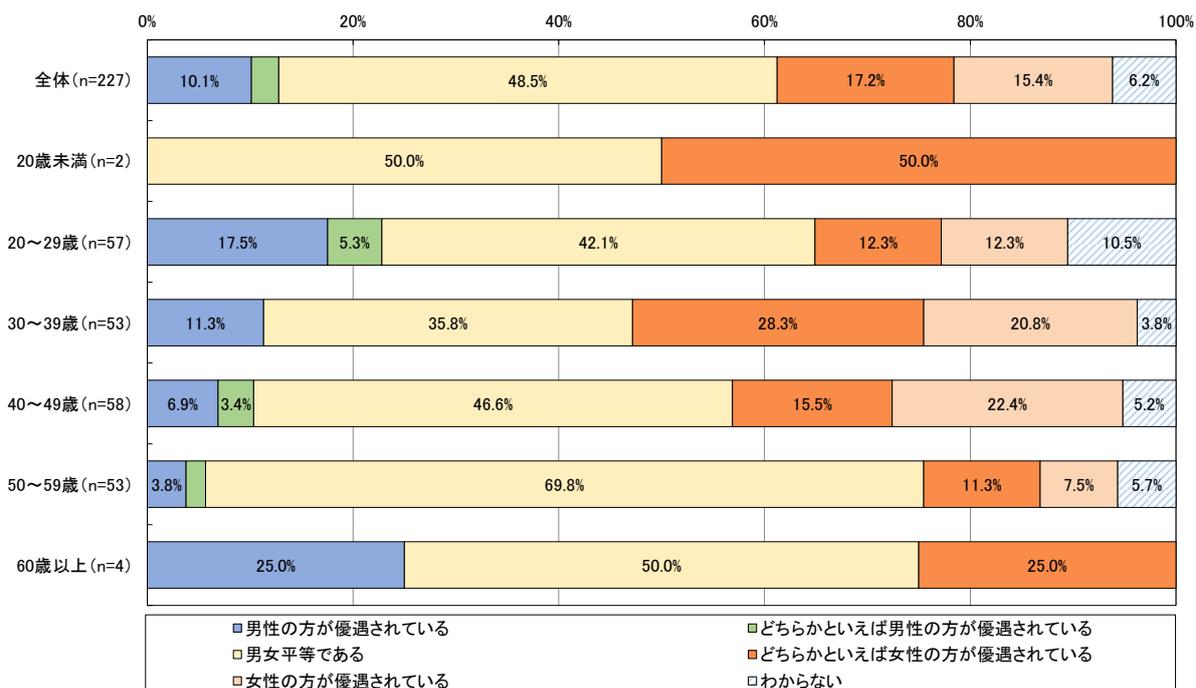
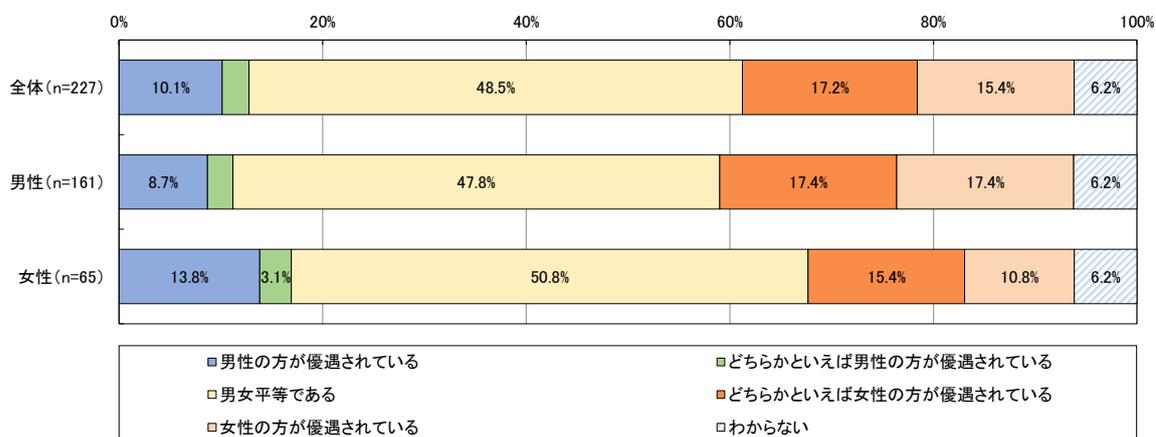
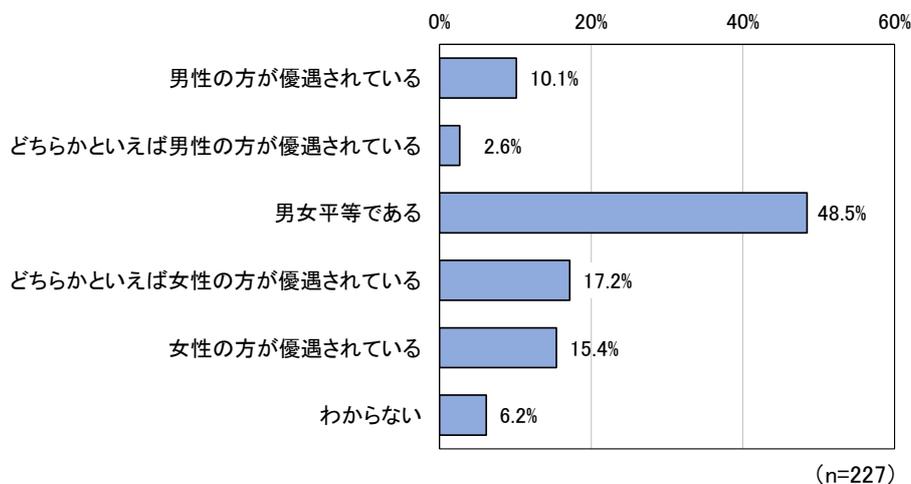
【働き続けやすさ】

「男女平等である」が33.9%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が27.8%となっています。



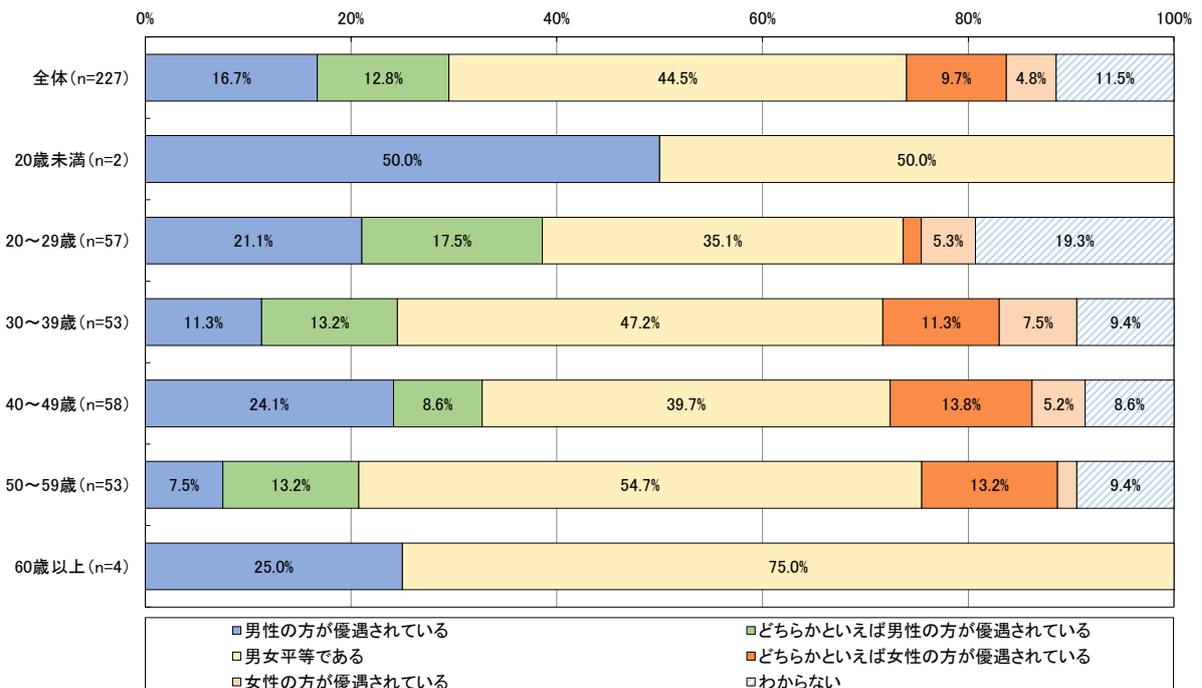
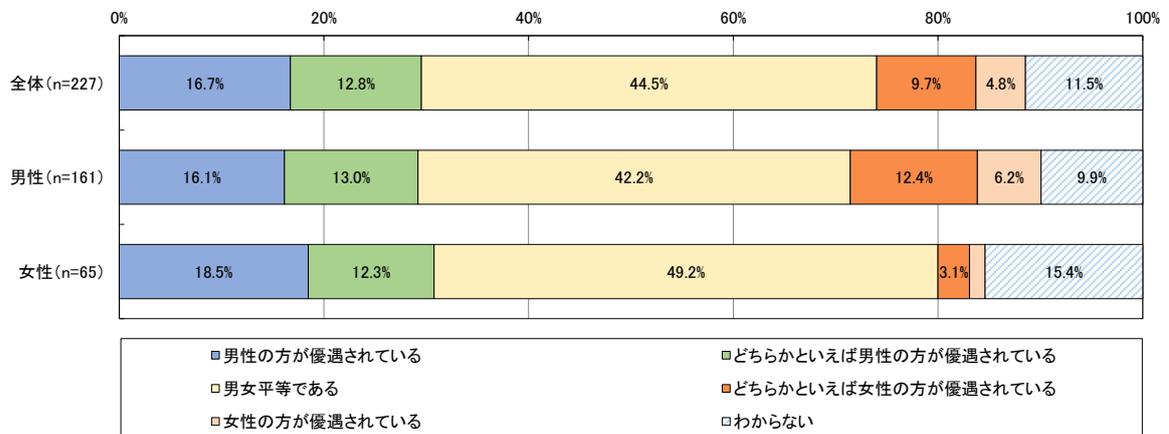
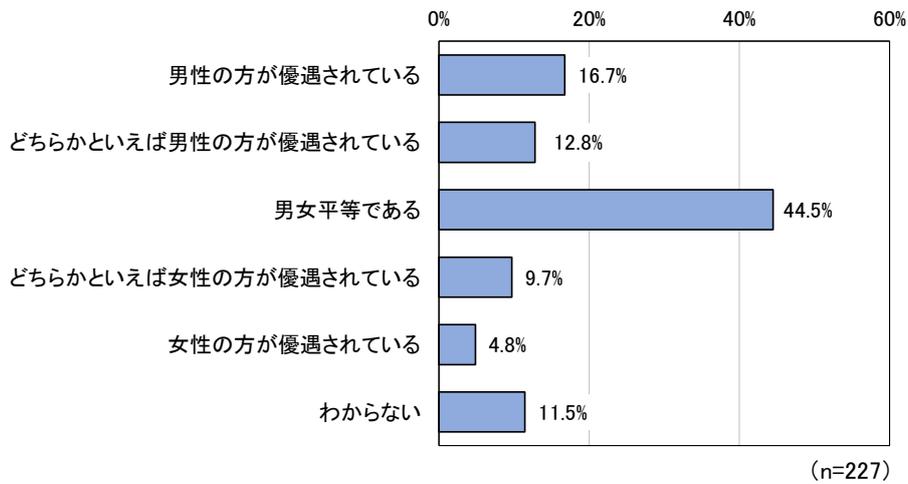
【休暇の取得しやすさ】

「男女平等である」が48.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が17.2%となっています。



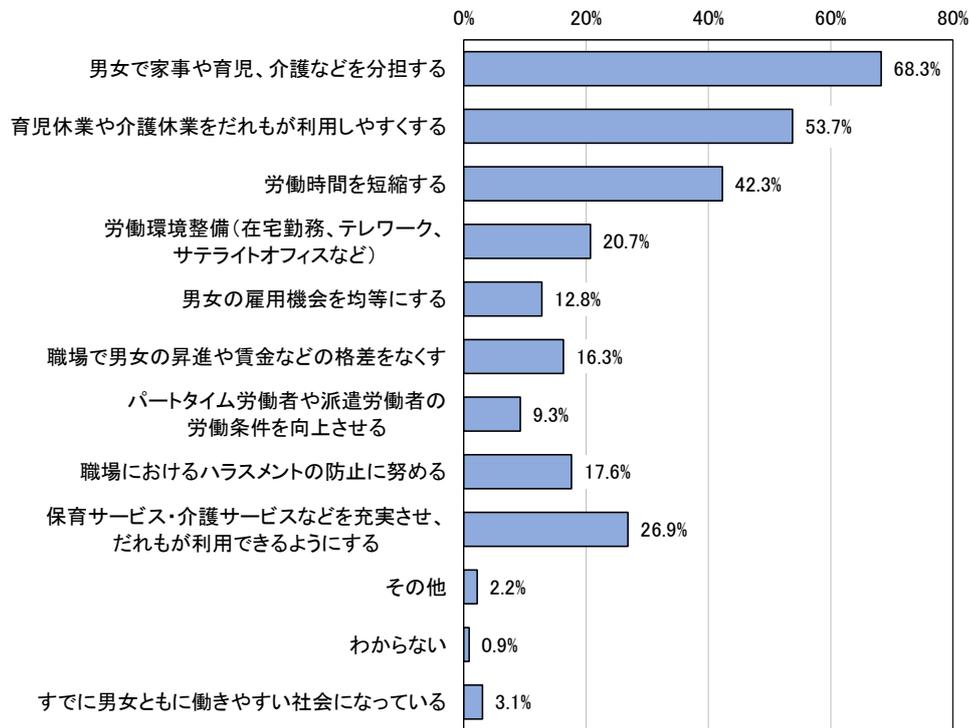
【労働環境】

「男女平等である」が44.5%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が16.7%となっています。



男女ともに働きやすい社会の環境を作るためには、どのようなことが必要だと思いますか。

「男女で家事や育児、介護などを分担する」が最も多く、68.3%、次いで「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」が53.7%となっています。

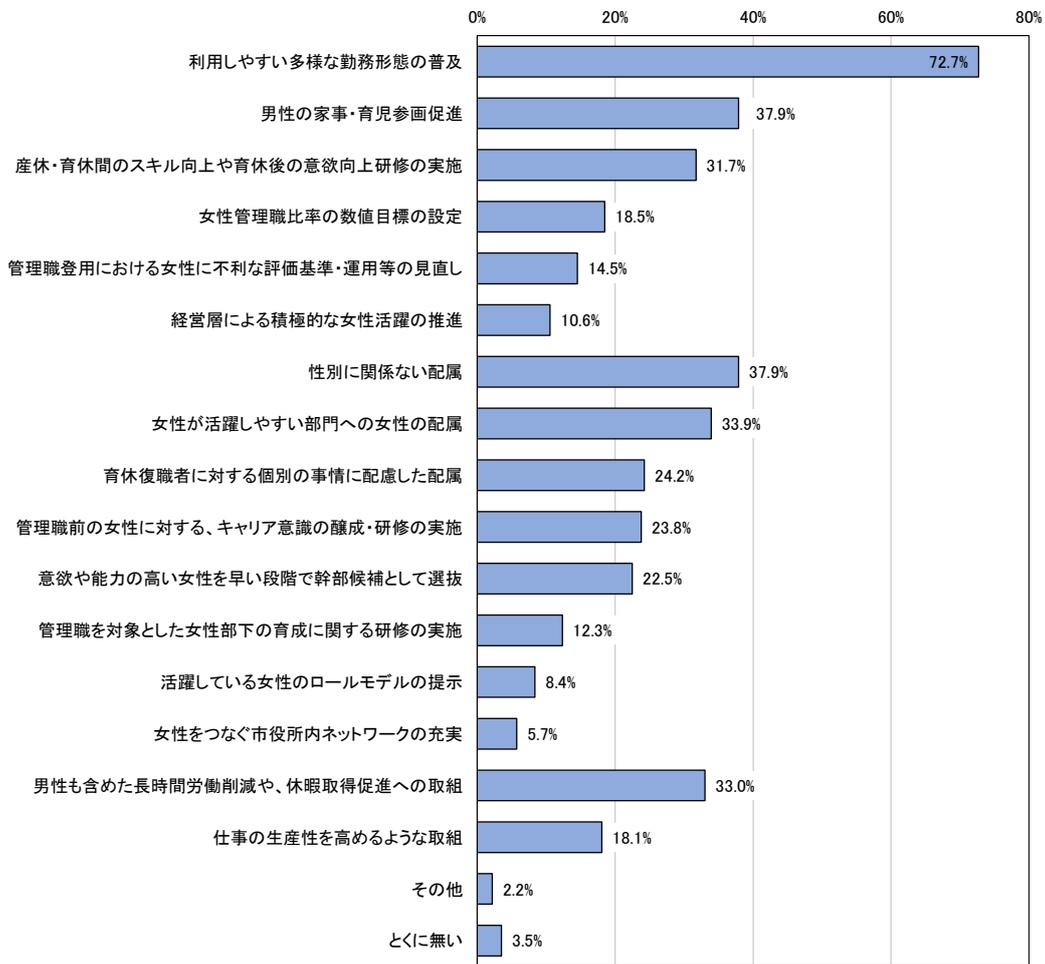


(n=227)

		男女で家事や育児、介護などを分担する	育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする	労働時間を短縮する	労働環境整備(在宅勤務、テレワーク、サテライトオフィスなど)	男女の雇用機会を均等にする	職場で男女の昇進や賃金などの格差をなくす	パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる	職場におけるハラスメントの防止に努める	保育サービス・介護サービスなどを充実させ、だれもが利用できるようにする	その他	わからない	すでに男女ともに働きやすい社会になっている
【性別】	全体(n=227)	68.3%	53.7%	42.3%	20.7%	12.8%	16.3%	9.3%	17.6%	26.9%	2.2%	0.9%	3.1%
	男性(n=161)	67.7%	55.3%	40.4%	22.4%	16.8%	13.0%	9.3%	17.4%	22.4%	1.2%	0.6%	3.7%
	女性(n=65)	69.2%	50.8%	46.2%	16.9%	3.1%	24.6%	9.2%	16.9%	38.5%	4.6%	1.5%	1.5%
【年齢別】	全体(n=227)	68.3%	53.7%	42.3%	20.7%	12.8%	16.3%	9.3%	17.6%	26.9%	2.2%	0.9%	3.1%
	20歳未満(n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20~29歳(n=57)	66.7%	57.9%	42.1%	31.6%	8.8%	10.5%	8.8%	8.8%	17.5%	3.5%	1.8%	5.3%
	30~39歳(n=53)	66.0%	56.6%	50.9%	26.4%	9.4%	5.7%	7.5%	20.8%	37.7%	1.9%	0.0%	3.8%
	40~49歳(n=58)	79.3%	50.0%	44.8%	15.5%	10.3%	27.6%	3.4%	19.0%	29.3%	1.7%	0.0%	1.7%
	50~59歳(n=53)	60.4%	52.8%	32.1%	9.4%	18.9%	18.9%	18.9%	20.8%	26.4%	1.9%	1.9%	1.9%
60歳以上(n=4)	75.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

女性管理職を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。

「利用しやすい多様な勤務形態の普及」が72.7%と最も多く、次いで「男性の家事・育児参画促進」、
「性別に関係ない配属」が37.9%となっています。

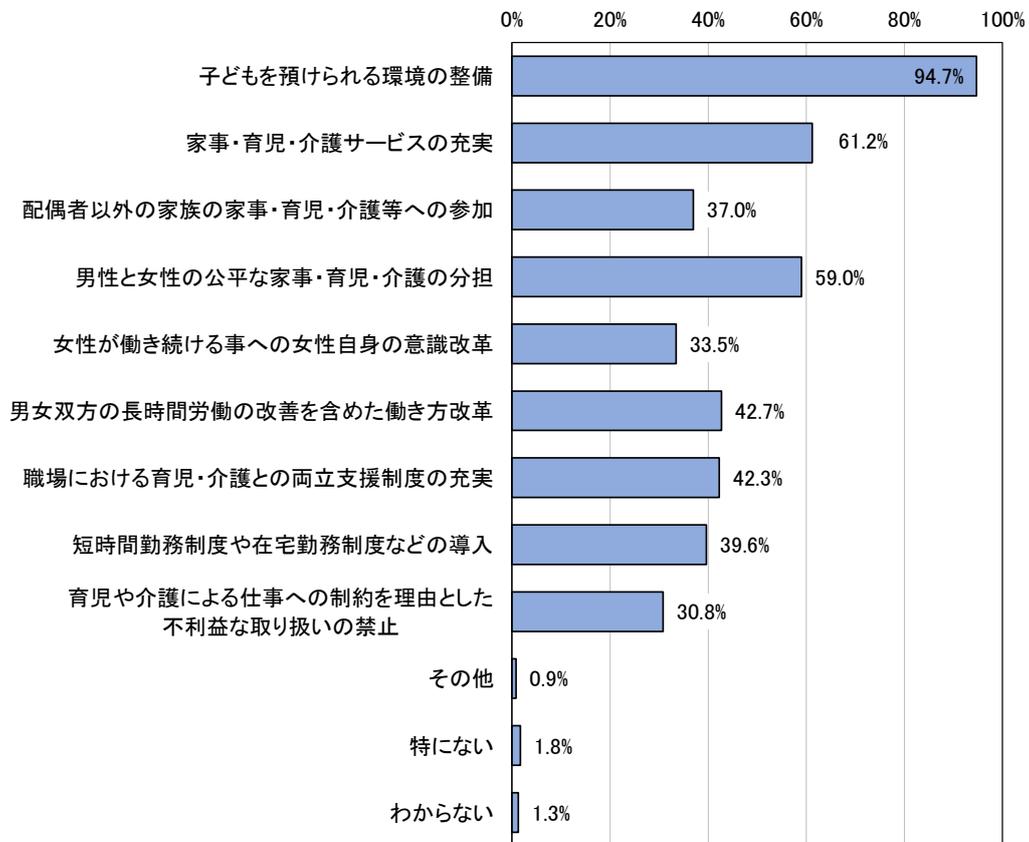


(n=227)

	利用しやすい多様な勤務形態の普及	男性の家事・育児参画促進	産休・育休間のスキル向上や育休後の意欲向上研修の実施	女性管理職比率の数値目標の設定	管理職登用における女性に不利な評価基準・運用等の見直し	経営層による積極的な女性活躍の推進	性別に関係ない配属	女性が活躍しやすい部門への女性の配属	育休復職者に対する個別の事情に配慮した配属	管理職前の女性に対する、キャリア意識の醸成・研修の実施	意欲や能力の高い女性を早い段階で幹部候補として選抜	管理職を対象とした女性部下の育成に関する研修の実施	活躍している女性のロールモデルの提示	女性をつなぐ市役所内ネットワークの充実	男性も含めた長時間労働削減や、休暇取得促進への取組	仕事の生産性を高めるような取組	その他	とくに無い
全体(n=227)	72.7%	37.9%	31.7%	18.5%	14.5%	10.6%	37.9%	33.9%	24.2%	23.8%	22.5%	12.3%	8.4%	5.7%	33.0%	18.1%	2.2%	3.5%
男性(n=161)	68.3%	35.4%	33.5%	19.3%	13.7%	10.6%	42.9%	33.5%	19.9%	23.0%	19.9%	12.4%	7.5%	3.7%	30.4%	17.4%	1.9%	3.7%
女性(n=65)	84.6%	44.6%	27.7%	16.9%	16.9%	10.8%	26.2%	35.4%	35.4%	26.2%	27.7%	12.3%	10.8%	10.8%	38.5%	18.5%	3.1%	3.1%
全体(n=227)	72.7%	37.9%	31.7%	18.5%	14.5%	10.6%	37.9%	33.9%	24.2%	23.8%	22.5%	12.3%	8.4%	5.7%	33.0%	18.1%	2.2%	3.5%
20歳未満(n=2)	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%
20～29歳(n=57)	77.2%	43.9%	35.1%	15.8%	17.5%	15.8%	33.3%	26.3%	29.8%	24.6%	24.6%	14.0%	10.5%	8.8%	38.6%	17.5%	1.8%	5.3%
30～39歳(n=53)	71.7%	43.4%	32.1%	18.9%	15.1%	7.5%	37.7%	30.2%	26.4%	18.9%	11.3%	9.4%	3.8%	1.9%	35.8%	17.0%	3.8%	0.0%
40～49歳(n=58)	67.2%	36.2%	29.3%	20.7%	17.2%	6.9%	44.8%	34.5%	22.4%	20.7%	24.1%	12.1%	10.3%	3.4%	27.6%	22.4%	1.7%	1.7%
50～59歳(n=53)	75.5%	26.4%	30.2%	18.9%	9.4%	13.2%	34.0%	43.4%	18.9%	32.1%	26.4%	13.2%	7.5%	9.4%	32.1%	13.2%	1.9%	7.5%
60歳以上(n=4)	50.0%	75.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

女性が出産後も退職せずに働きつづけるために、必要だと思うのは次のうちどれですか。

「子どもを預けられる環境の整備」が97.7%と最も多く、次いで「家事・育児・介護サービスの充実」が61.2%となっています。

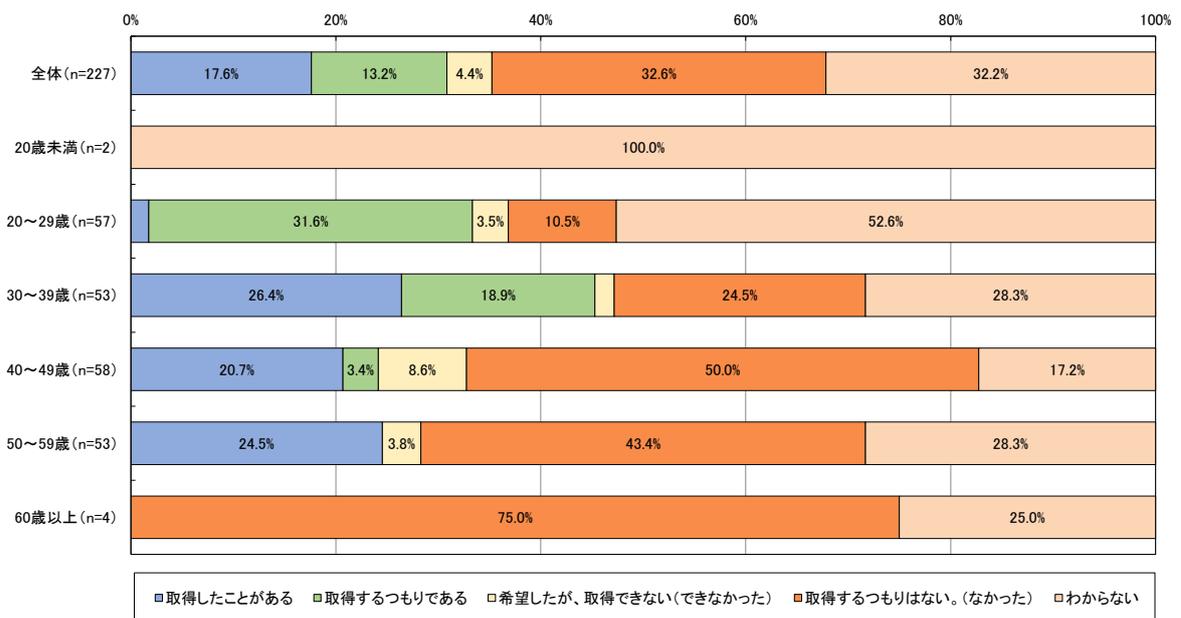
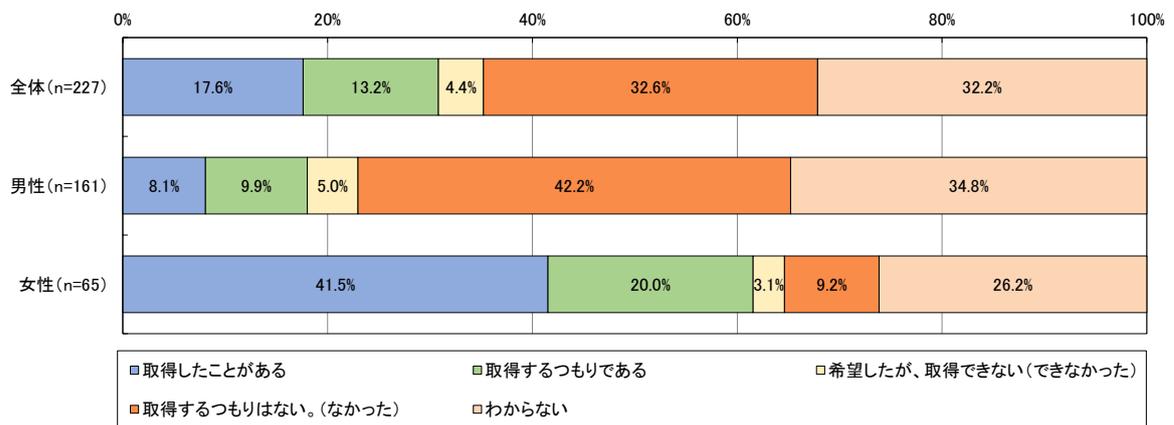
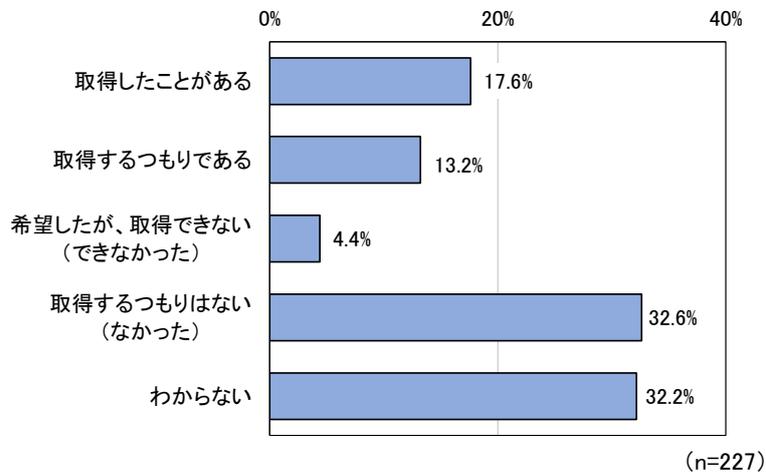


(n=227)

		子どもを預けられる環境の整備	家事・育児・介護サービスの充実	配偶者以外の家族の家事・育児・介護等への参加	男性と女性の公平な家事・育児・介護の分担	女性が働き続ける事への意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	在宅勤務制度や短時間勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした不利益な取り扱いの禁止	その他	特にない	わからない
【性別】	全体(n=227)	94.7%	61.2%	37.0%	59.0%	33.5%	42.7%	42.3%	39.6%	30.8%	0.9%	1.8%	1.3%
	男性(n=161)	94.4%	60.2%	36.0%	54.7%	31.7%	36.6%	32.3%	34.2%	26.7%	1.2%	1.9%	1.9%
	女性(n=65)	95.4%	64.6%	38.5%	69.2%	38.5%	56.9%	66.2%	53.8%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
【年齢別】	全体(n=227)	94.7%	61.2%	37.0%	59.0%	33.5%	42.7%	42.3%	39.6%	30.8%	0.9%	1.8%	1.3%
	20歳未満(n=2)	100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳(n=57)	96.5%	61.4%	38.6%	63.2%	42.1%	45.6%	47.4%	49.1%	35.1%	0.0%	1.8%	3.5%
	30～39歳(n=53)	94.3%	62.3%	41.5%	62.3%	18.9%	45.3%	32.1%	32.1%	32.1%	0.0%	0.0%	1.9%
	40～49歳(n=58)	93.1%	65.5%	34.5%	65.5%	31.0%	37.9%	51.7%	39.7%	32.8%	3.4%	0.0%	0.0%
	50～59歳(n=53)	94.3%	56.6%	35.8%	43.4%	43.4%	39.6%	39.6%	35.8%	24.5%	0.0%	5.7%	0.0%
	60歳以上(n=4)	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	25.0%	50.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%

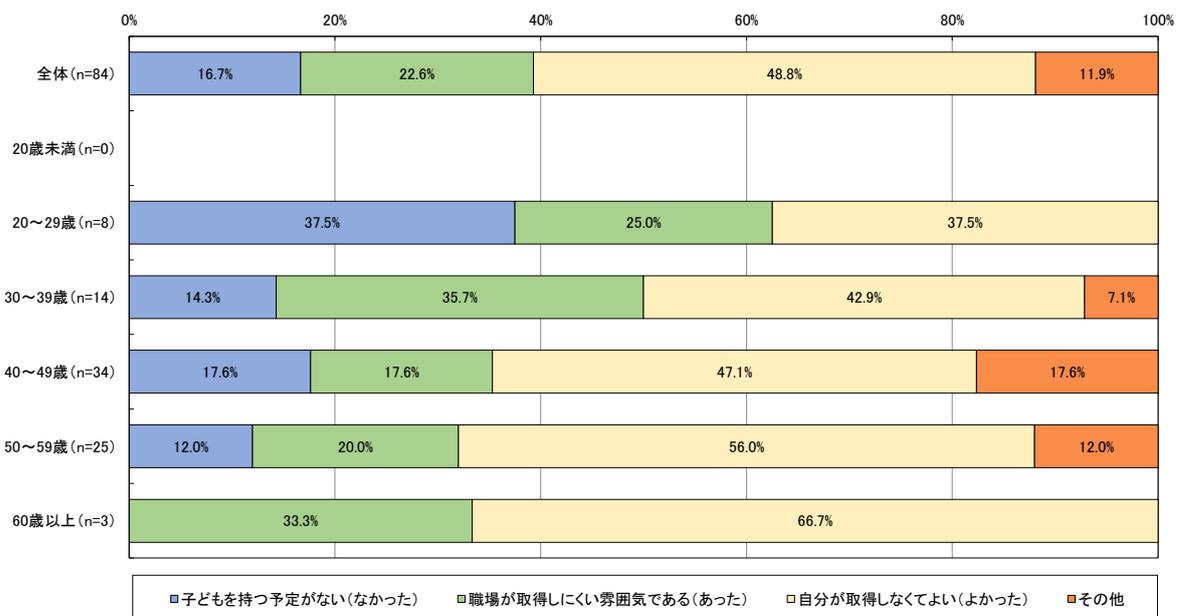
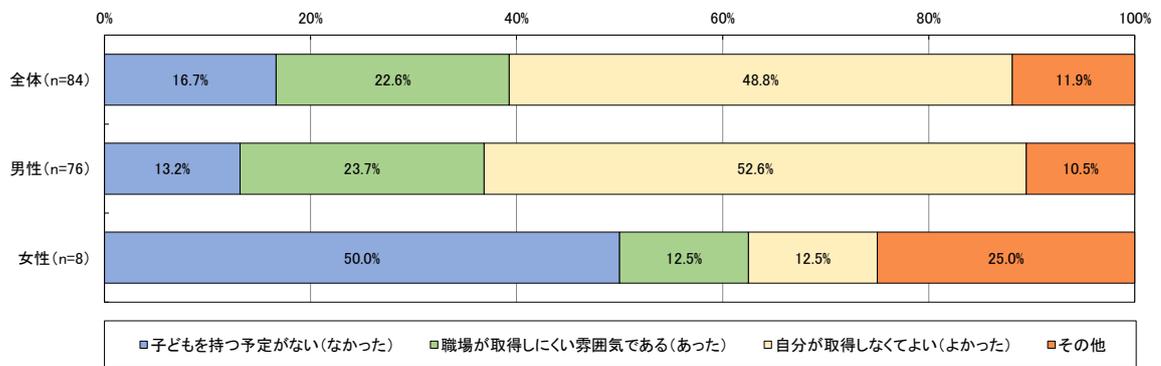
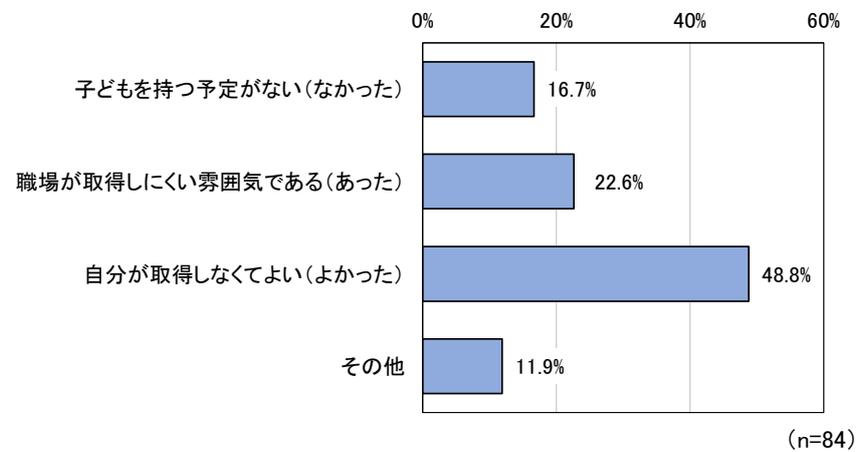
育児休業の取得について伺います。

「取得するつもりはない（なかった）」が32.6%と最も多く、次いで「わからない」が32.2%、「取得したことがある」が17.6%となっています。



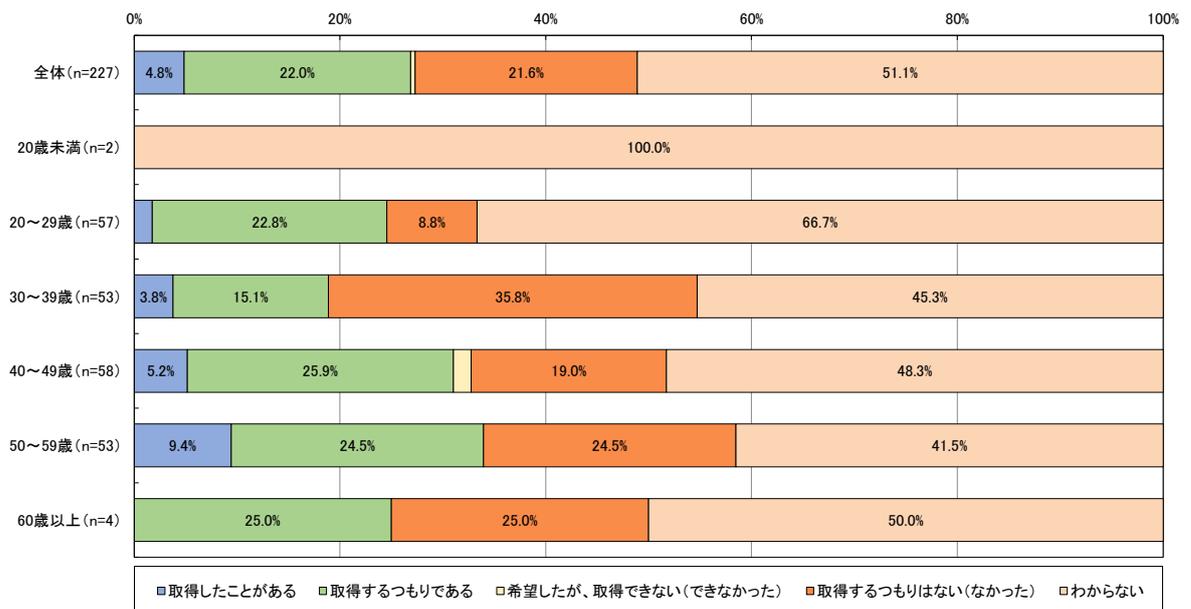
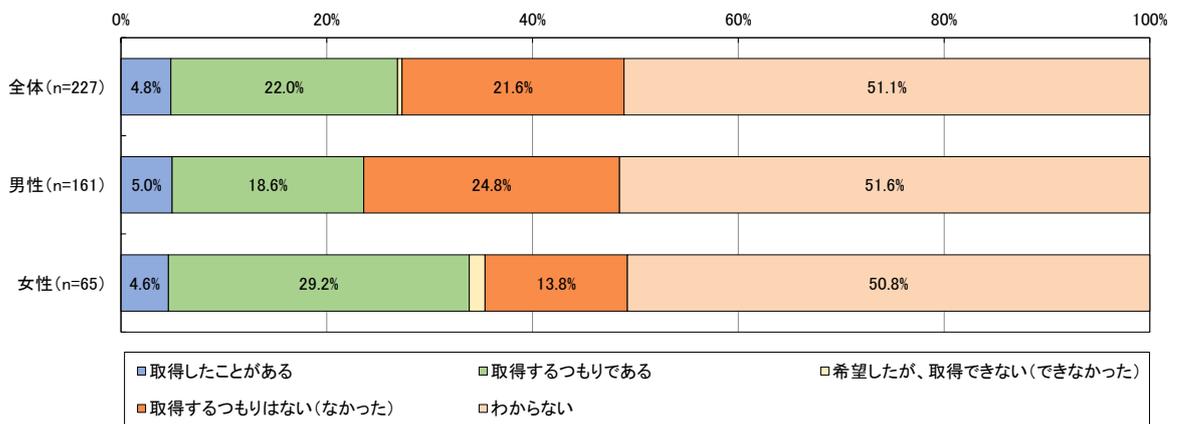
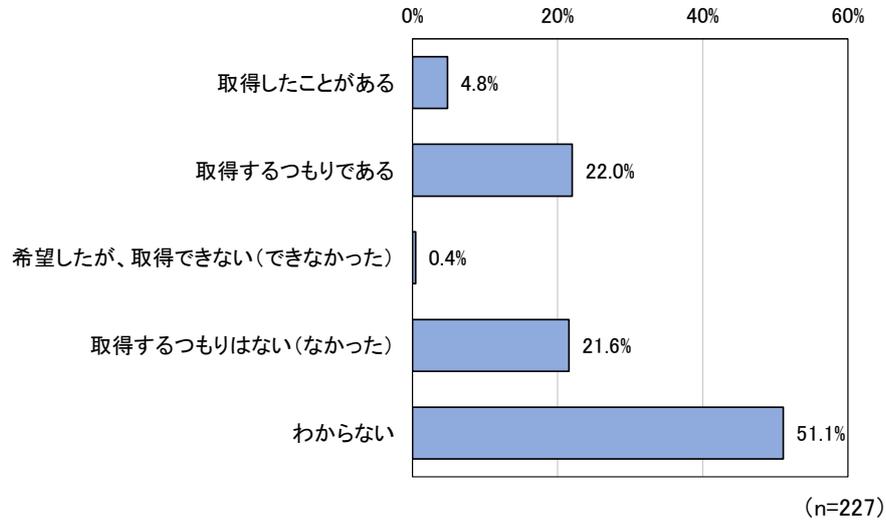
【希望したが、取得できない（できなかった）、取得するつもりはない（なかった）】と答えた方に伺います。その理由はなんですか。

「自分が取得しなくてよい（よかった）」が48.8%と最も多く、次いで、「職場が取得しにくい雰囲気である（あった）」が22.6%となっています。



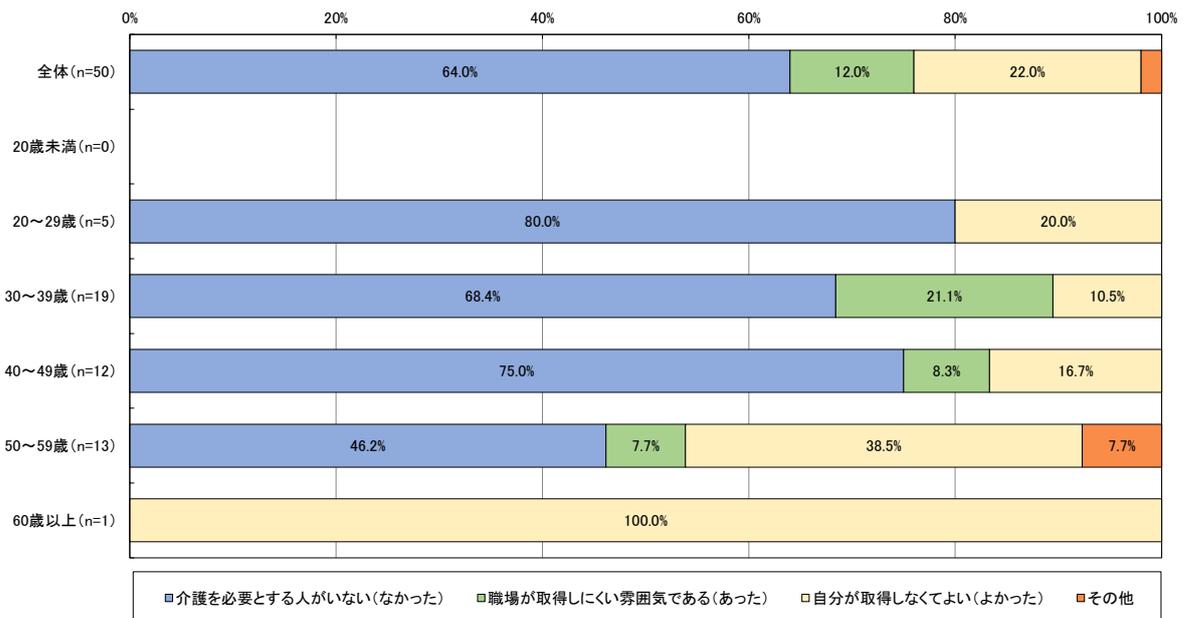
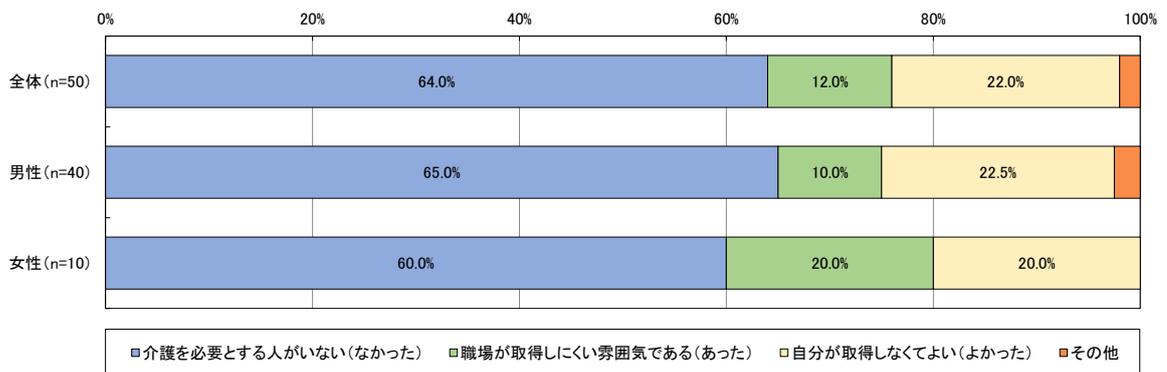
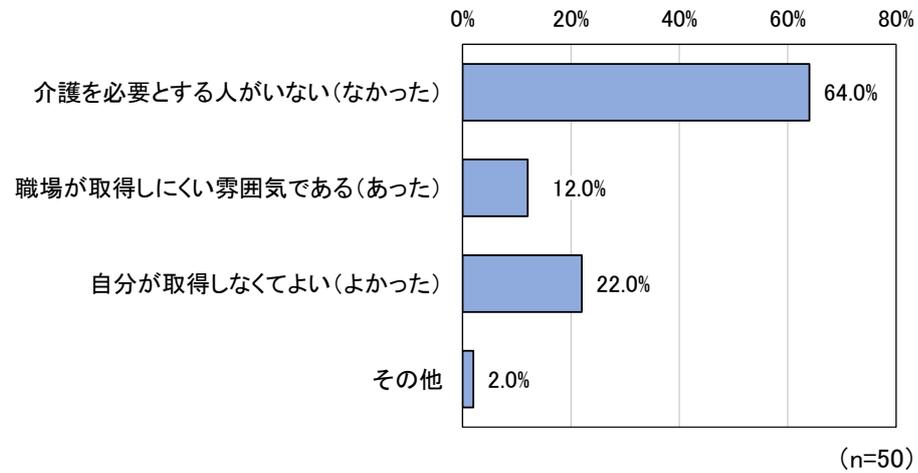
介護休業の取得について伺います。

「わからない」が51.1%と最も多く、次いで「取得するつもりである」が22.0%、「取得するつもりはない（なかった）」が21.6%となっています。



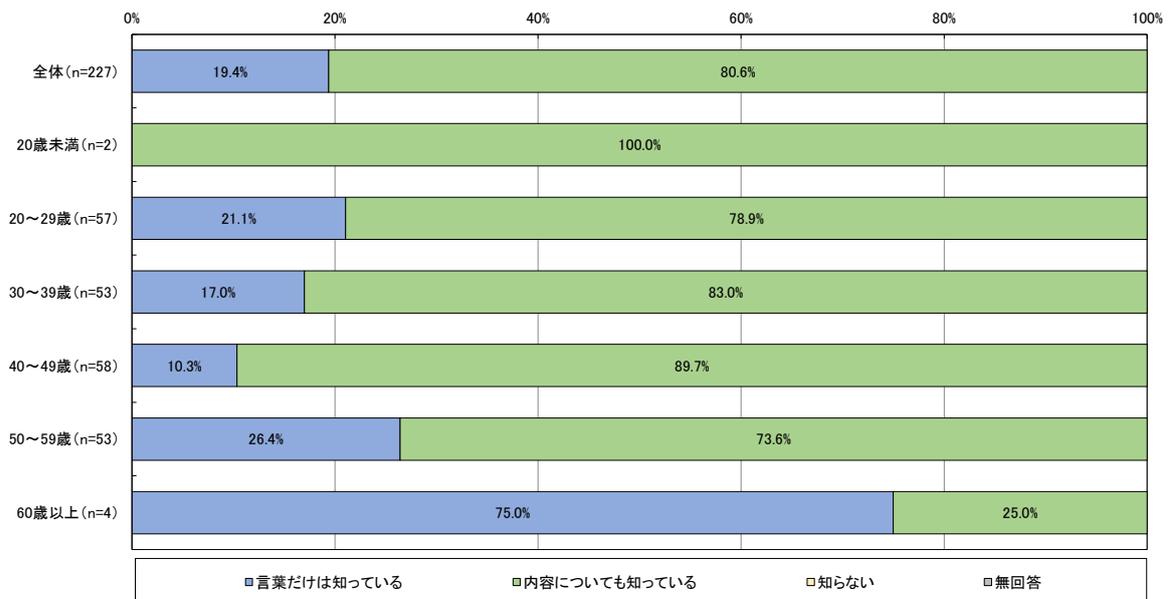
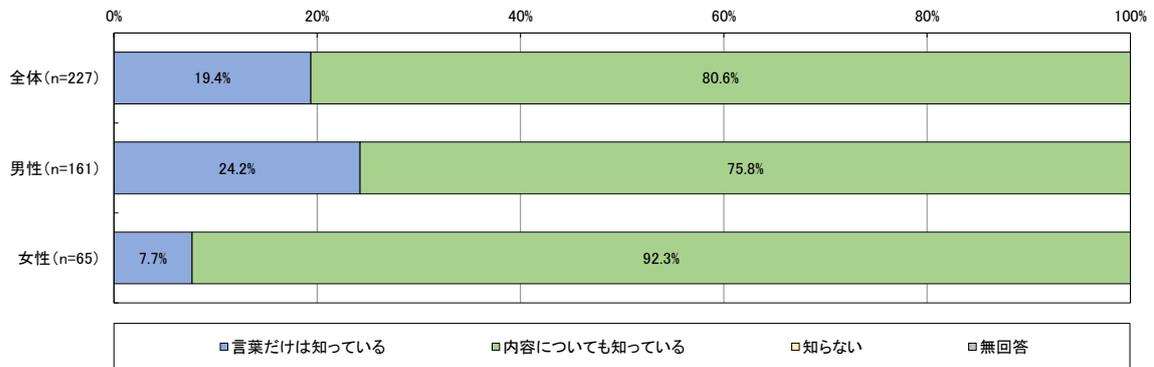
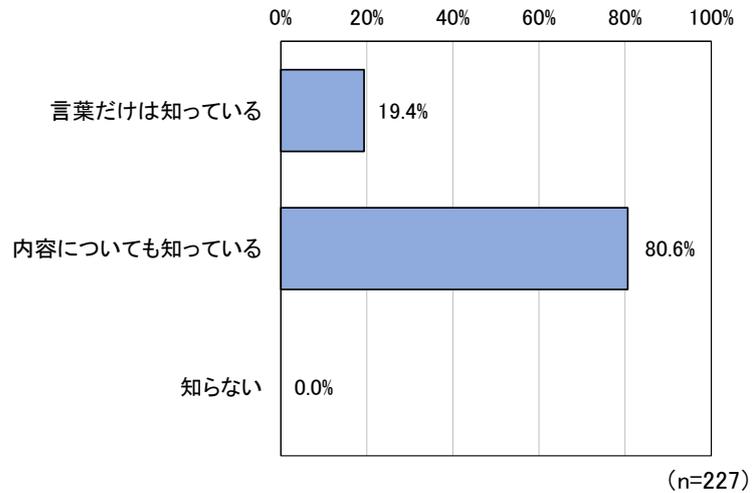
【希望したが、取得できない（できなかつた）、取得するつもりはない（なかつた）と答えた方に伺います。】その理由はなんですか。

「介護を必要とする人がいない（なかつた）」が64.0%と最も多く、次いで「自分が取得しなくてよい（よかつた）」が22.0%となっています。



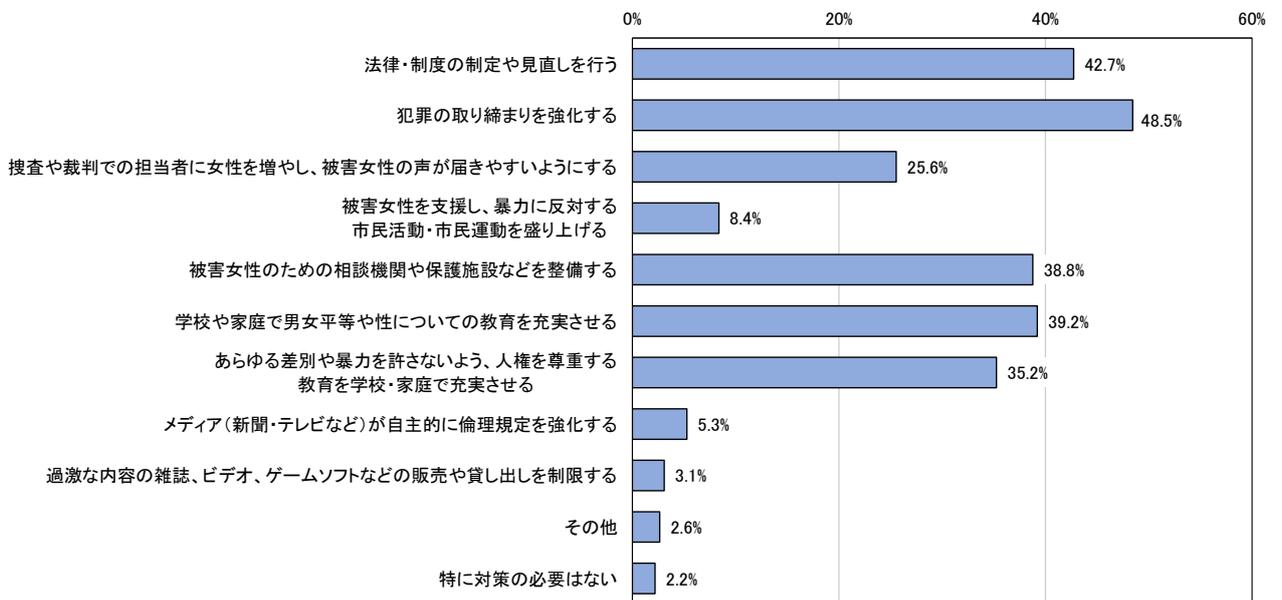
ドメスティックバイオレンス (DV) という言葉や内容を知っていますか。

「内容についても知っている」が最も多く、80.6%、次いで、「言葉だけは知っている」が19.4%となっています。



ドメスティック・バイオレンス (DV) 及びセクシュアル・ハラスメントをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。

「犯罪の取り締まりを強化する」が48.5%と最も多く、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」が42.7%となっています。

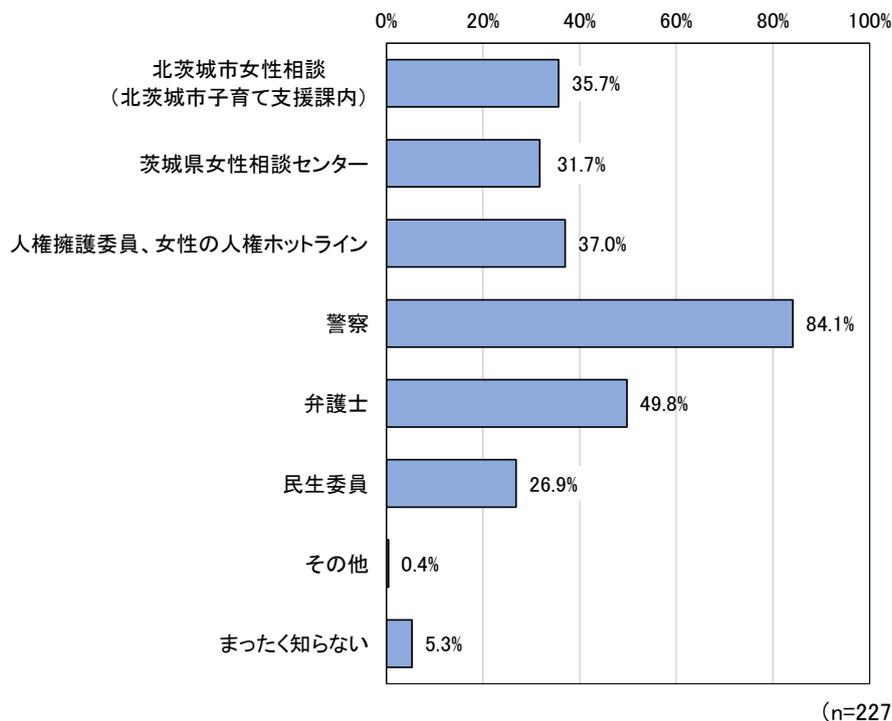


(n=227)

		法律・制度の制定や見直しを行う	犯罪の取り締まりを強化する	捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性の声が届きやすいようにする	被害女性を支援し、暴力に反対する市民活動・市民運動を盛り上げる	被害女性のための相談機関や保護施設などを整備する	学校や家庭で男女平等や性についての教育を充実させる	あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・家庭で充実させる	メディア(新聞・テレビなど)が自主的に倫理規定を強化する	過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフトなどの販売や貸し出しを制限する	その他	特に対策の必要はない
【性別】	全体 (n=227)	42.7%	48.5%	25.6%	8.4%	38.8%	39.2%	35.2%	5.3%	3.1%	2.6%	2.2%
	男性 (n=161)	45.3%	50.9%	23.0%	11.2%	36.6%	34.8%	34.8%	5.0%	1.2%	2.5%	1.9%
	女性 (n=65)	36.9%	43.1%	30.8%	1.5%	44.6%	49.2%	36.9%	6.2%	7.7%	1.5%	3.1%
【年齢別】	全体 (n=227)	42.7%	48.5%	25.6%	8.4%	38.8%	39.2%	35.2%	5.3%	3.1%	2.6%	2.2%
	20歳未満 (n=2)	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳 (n=57)	45.6%	54.4%	26.3%	5.3%	26.3%	35.1%	29.8%	1.8%	1.8%	5.3%	3.5%
	30～39歳 (n=53)	45.3%	50.9%	26.4%	9.4%	35.8%	41.5%	30.2%	5.7%	0.0%	1.9%	1.9%
	40～49歳 (n=58)	36.2%	50.0%	25.9%	5.2%	41.4%	44.8%	43.1%	8.6%	3.4%	3.4%	1.7%
	50～59歳 (n=53)	45.3%	39.6%	24.5%	9.4%	50.9%	37.7%	34.0%	5.7%	7.5%	0.0%	1.9%
60歳以上 (n=4)	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

ドメスティック・バイオレンス（DV）及びセクシュアル・ハラスメントの被害にあったときなどに利用できる相談窓口で、次のうち知っているものはなんですか。

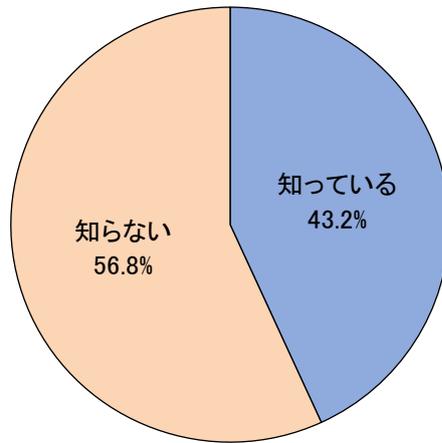
「警察」が84.1%と最も多く、次いで、「弁護士」が49.8%となっています。



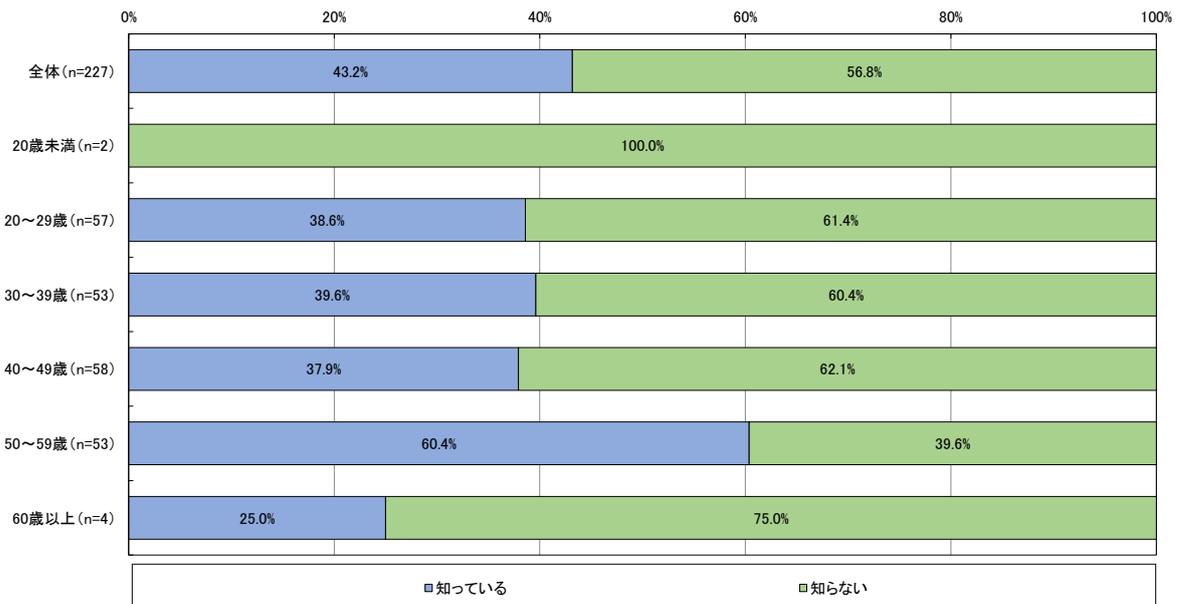
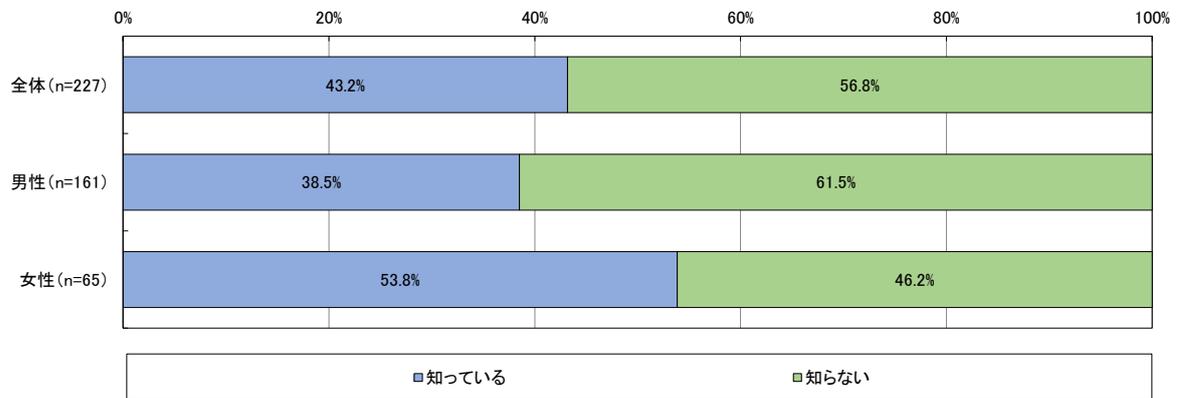
		北茨城市女性相談 (北茨城市子育て支援課内)	茨城県女性相談センター	人権擁護委員、女性の人権ホットライン	警察	弁護士	民生委員	その他	まったく知らない
【性別】	全体 (n=227)	35.7%	31.7%	37.0%	84.1%	49.8%	26.9%	0.4%	5.3%
	男性 (n=161)	28.6%	21.1%	26.7%	82.0%	46.0%	23.6%	0.6%	5.6%
	女性 (n=65)	52.3%	56.9%	61.5%	89.2%	58.5%	35.4%	0.0%	4.6%
【年齢別】	全体 (n=227)	35.7%	31.7%	37.0%	84.1%	49.8%	26.9%	0.4%	5.3%
	20歳未満 (n=2)	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳 (n=57)	36.8%	35.1%	31.6%	82.5%	43.9%	26.3%	0.0%	8.8%
	30～39歳 (n=53)	32.1%	17.0%	30.2%	77.4%	47.2%	17.0%	1.9%	7.5%
	40～49歳 (n=58)	32.8%	43.1%	39.7%	86.2%	58.6%	31.0%	0.0%	1.7%
	50～59歳 (n=53)	41.5%	32.1%	45.3%	90.6%	50.9%	32.1%	0.0%	3.8%
	60歳以上 (n=4)	25.0%	25.0%	50.0%	100.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%

いばらきパートナーシップ宣言について知っていますか。

「知っている」が43.2%、「知らない」が56.8%となっています。

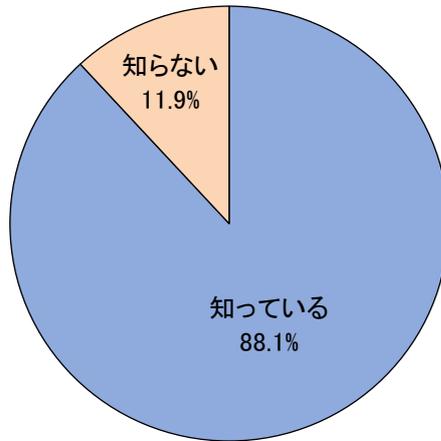


(n=227)

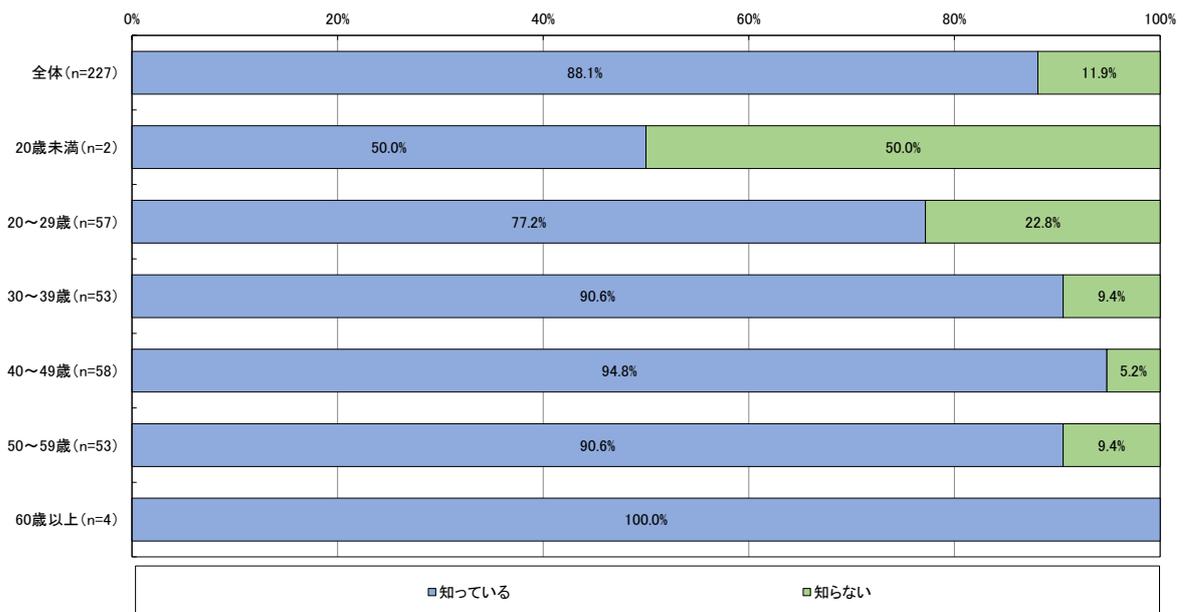
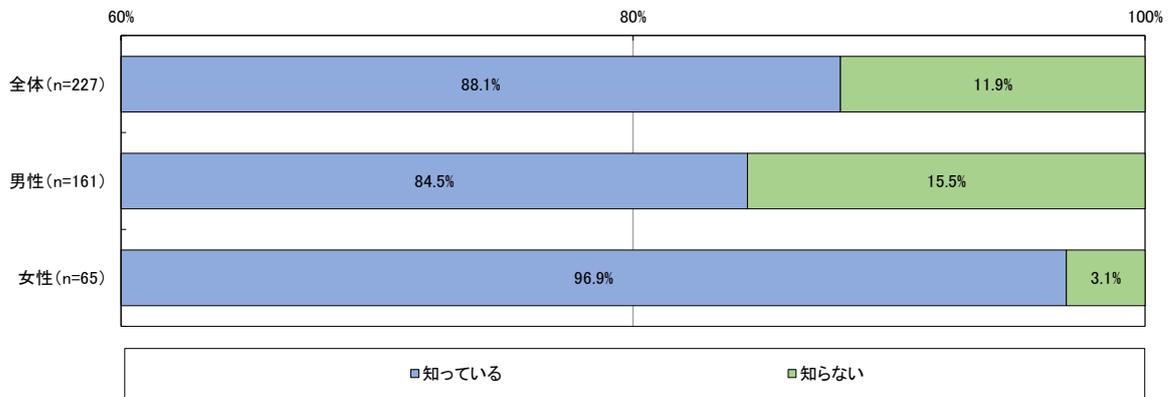


性的マイノリティ（またはLGBTQ）という言葉を知っていますか。

「知っている」が88.1%、「知らない」が11.9%となっています。

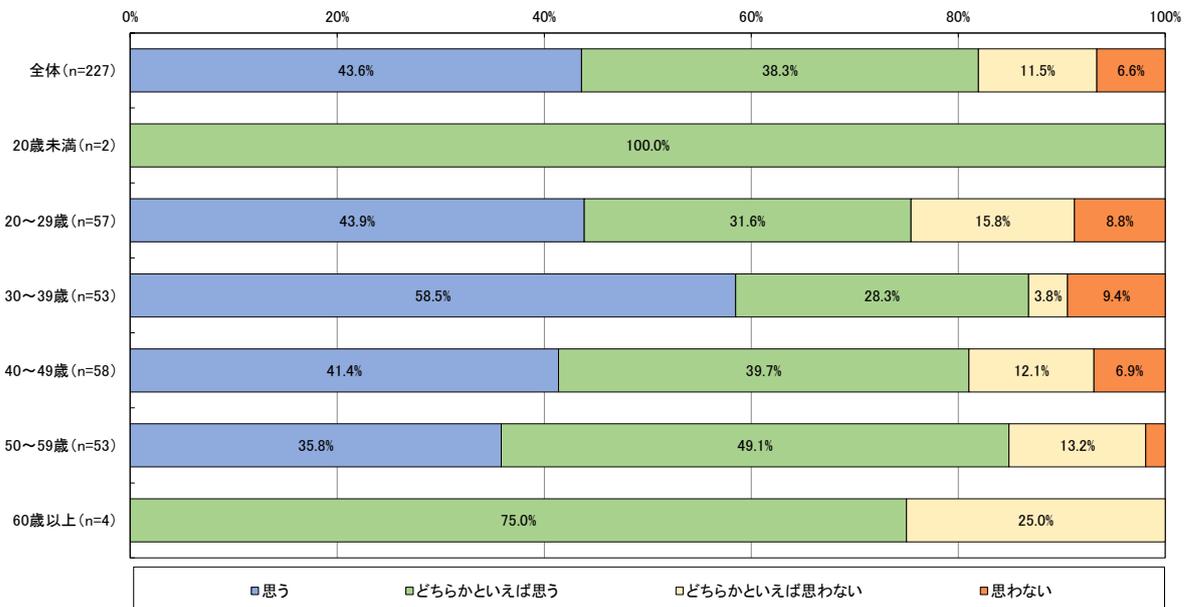
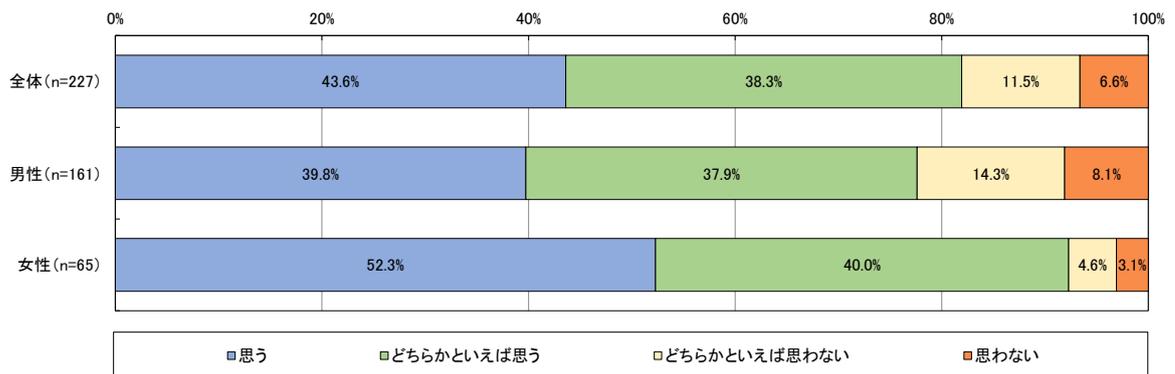
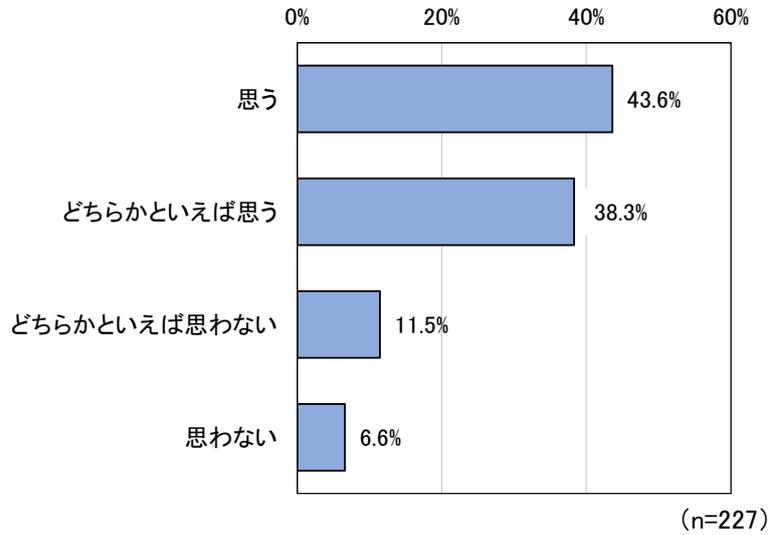


(n=227)



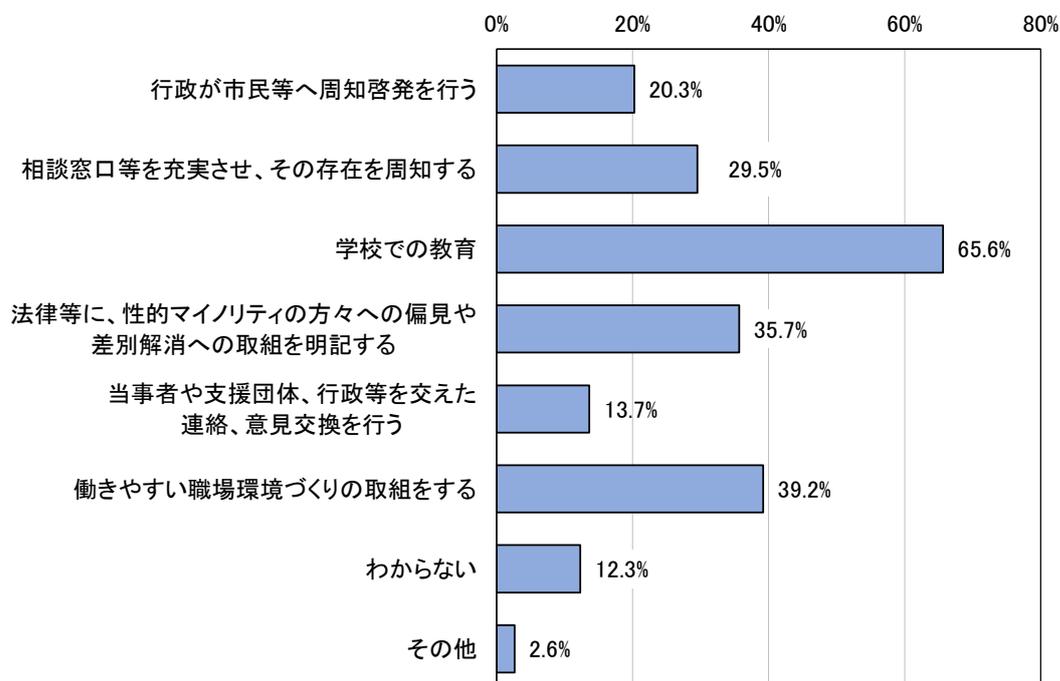
性的マイノリティに対する社会的な関心が高まっていますか。

「思う」が43.6%と最も多く、次いで、「どちらかといえば思う」が38.3%となっています。



性的マイノリティの方々が差別などにあうことがなく、生活しやすくするために、どのような対策が必要だと思いますか。(特に必要だと思うこと3つまで)

「学校での教育」が65.6%と最も多く、次いで「働きやすい職場環境づくりの取組をする」が39.2%となっています。

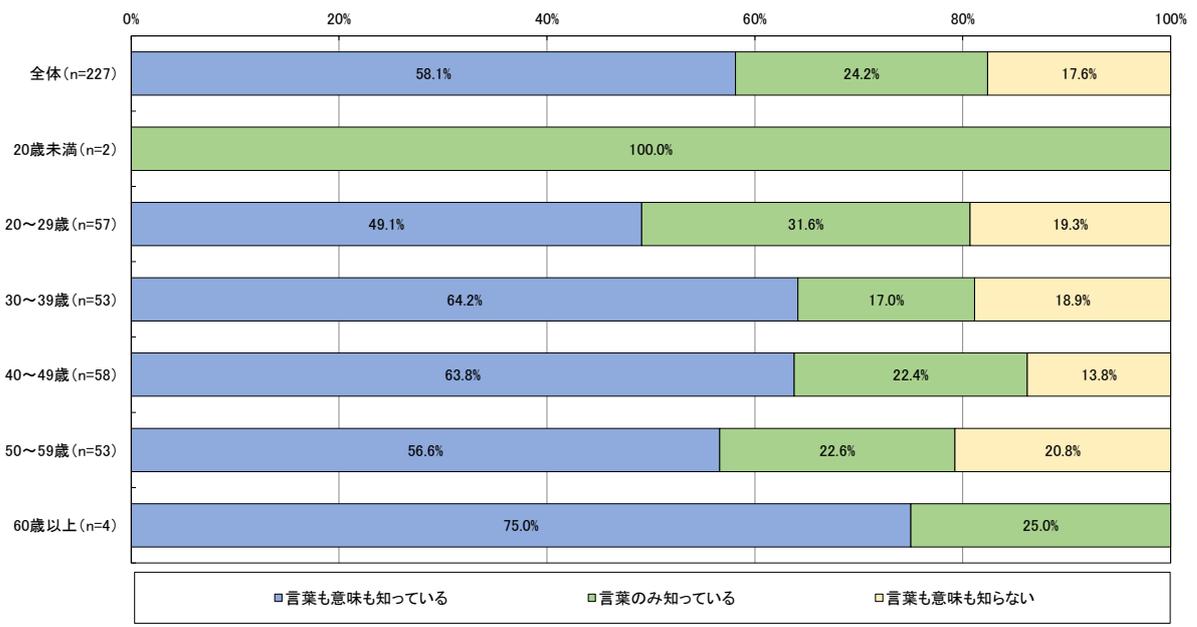
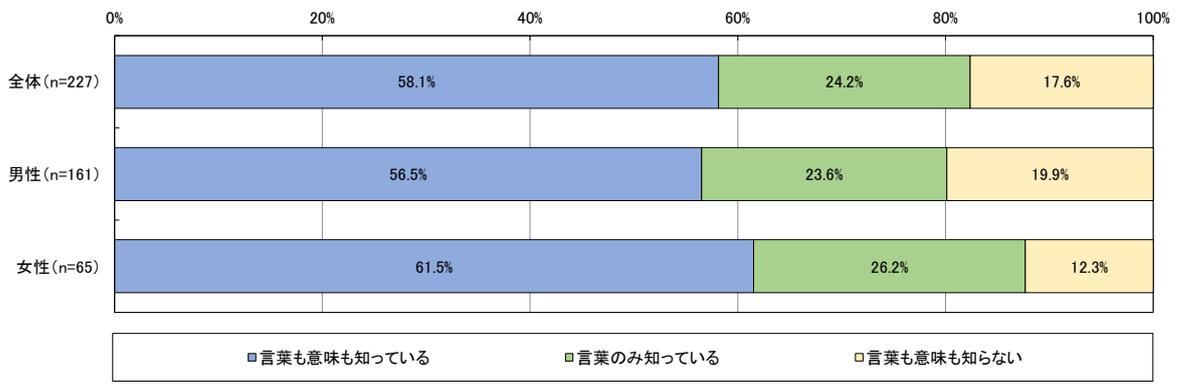
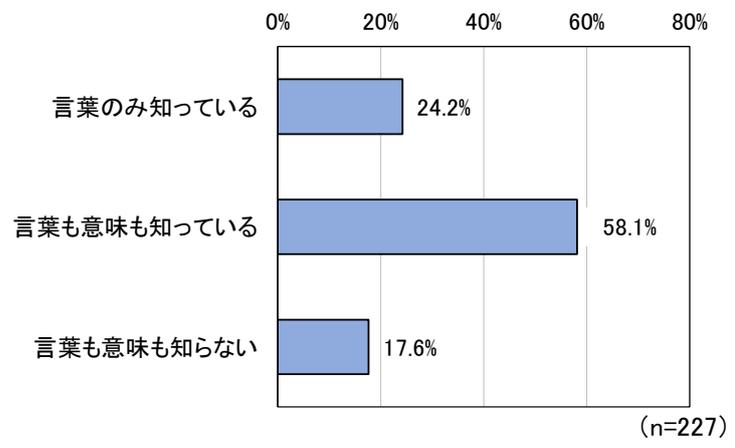


(n=227)

		行政が市民等へ周知啓発を行う	相談窓口等を充実させ、その存在を周知する	学校での教育	法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取組を明記する	当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う	働きやすい職場環境づくりの取組をする	わからない	その他
【性別】	全体(n=227)	20.3%	29.5%	65.6%	35.7%	13.7%	39.2%	12.3%	2.6%
	男性(n=161)	24.2%	29.2%	60.9%	35.4%	10.6%	32.3%	14.9%	2.5%
	女性(n=65)	10.8%	30.8%	78.5%	35.4%	21.5%	56.9%	6.2%	1.5%
【年齢別】	全体(n=227)	20.3%	29.5%	65.6%	35.7%	13.7%	39.2%	12.3%	2.6%
	20歳未満(n=2)	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳(n=57)	19.3%	24.6%	57.9%	29.8%	8.8%	52.6%	12.3%	7.0%
	30～39歳(n=53)	18.9%	26.4%	79.2%	43.4%	13.2%	34.0%	3.8%	3.8%
	40～49歳(n=58)	19.0%	25.9%	72.4%	29.3%	24.1%	36.2%	13.8%	0.0%
	50～59歳(n=53)	22.6%	39.6%	54.7%	39.6%	9.4%	35.8%	18.9%	0.0%
	60歳以上(n=4)	50.0%	25.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%

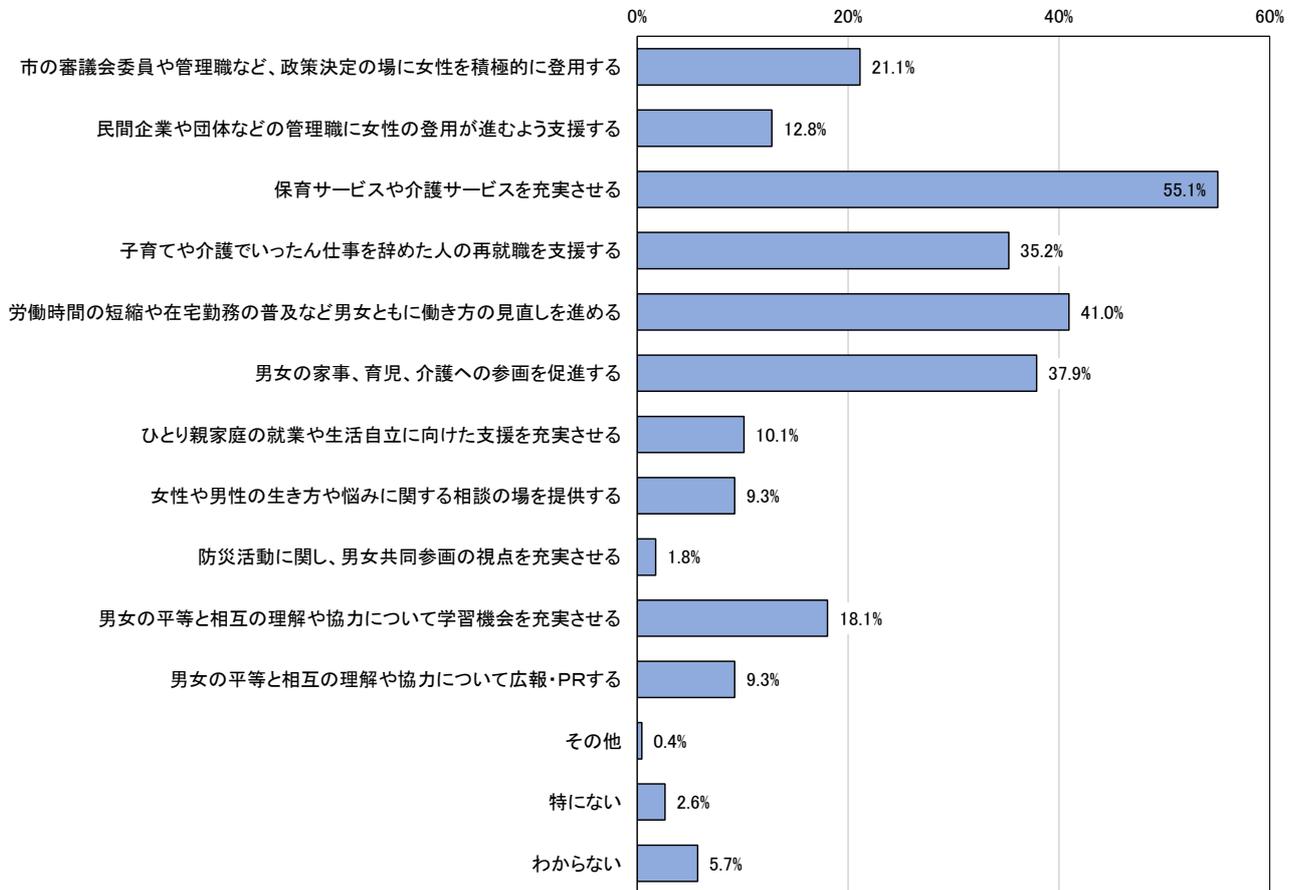
SDGs エスディージーズ（持続可能な開発目標）という言葉や意味は知っていますか。

「言葉も意味も知っている」が58.1%と最も多く、次いで、「言葉のみ知っている」が24.2%となっています。



今後、男女共同参画社会を実現していくために、北茨城市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

「保育サービスや介護サービスを充実させる」が55.1%と最も多く、次いで、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」が41.0%となっています。



(n=227)

		市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	保育サービスや介護サービスを充実させる	子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める	男女の家事、育児、介護への参画を促進する	ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実させる	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	防災活動に関し、男女共同参画の視点を充実させる	男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実させる	男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	その他	特にない	わからない
【性別】	全体 (n=227)	21.1%	12.8%	55.1%	35.2%	41.0%	37.9%	10.1%	9.3%	1.8%	18.1%	9.3%	0.4%	2.6%	5.7%
	男性 (n=161)	24.8%	11.8%	56.5%	37.9%	36.0%	36.6%	8.1%	8.1%	0.6%	17.4%	12.4%	0.6%	2.5%	4.3%
	女性 (n=65)	12.3%	15.4%	52.3%	29.2%	52.3%	41.5%	15.4%	12.3%	3.1%	18.5%	1.5%	0.0%	3.1%	9.2%
【年齢別】	全体 (n=227)	21.1%	12.8%	55.1%	35.2%	41.0%	37.9%	10.1%	9.3%	1.8%	18.1%	9.3%	0.4%	2.6%	5.7%
	20歳未満 (n=2)	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～29歳 (n=57)	17.5%	15.8%	52.6%	31.6%	36.8%	31.6%	8.8%	15.8%	7.0%	7.0%	7.0%	0.0%	3.5%	8.8%
	30～39歳 (n=53)	20.8%	13.2%	58.5%	39.6%	43.4%	43.4%	15.1%	5.7%	0.0%	18.9%	11.3%	0.0%	0.0%	1.9%
	40～49歳 (n=58)	15.5%	10.3%	60.3%	34.5%	46.6%	48.3%	5.2%	6.9%	0.0%	24.1%	6.9%	1.7%	3.4%	5.2%
	50～59歳 (n=53)	28.3%	11.3%	49.1%	35.8%	35.8%	32.1%	13.2%	7.5%	0.0%	22.6%	11.3%	0.0%	3.8%	7.5%
60歳以上 (n=4)	50.0%	25.0%	50.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

ご意見

- 管理職が女性であっても男性であっても有能であるなら構いません。必要なのは、「女性管理職を増やす」等々の結果の平等ではなく、性別で不利益が生じないようにする制度や教育を充実させ、男女とも能力で登用する機会の平等ではないでしょうか。(男性、40～49歳)
- 数字が増えれば男女平等か、男女で人数が同じなら男女平等かといったらそうではない。LGBTQも含め性別そのものに目がいきがちだが、最終的に目指すものは「性別に関係なく個人を尊重し協力しあえる社会」。綺麗事として言われることが多いが、結果的にはそれが一番、皆が生きやすく、また、社会全体としても生産性が上がるように思う。

例えば管理職登用の場では、単に女性の人数を増やすことよりも、意欲や技能のある人が管理職に就けているか、意欲や技能のある人が単純に性別を理由とした不条理な阻止を受けていないか、ということのほうが大切なのではないだろうか。(その他、20～29歳)
- 現状は北茨城市役所自体が男女平等に働くことができる制度になっていないと思う。他市においては、育児休業中の職員については定数から除外する規定があるが北茨城市にはそれが無い。結果的に育児休業中の職員の業務は同僚が負担することになり、そうなる并取得するほうも、取得される側(同僚・上司)にとっても、お互いが気を遣う制度になっている。休業を取得しそうな職員に、例え能力があっても、休業した際のことを考えれば、心理的に重要な業務は任せることにブレーキをかけることは否めず正当な能力評価が行える環境であるとは言い難い。休業中の職員については、会計年度任用職員で代替するという考えもあるが、その人が優秀で重要な業務を行っていればいるほど、とても会計年度職員で1人分を代替することはできない。しかし、休業中は定数から除外されれば、その分正規職員やフルタイム任期付き職員を採るなどの対策も考えられ、より精神的・肉体的業務負担軽減をはかることができると思う。市役所自体が育児休業を取得しやすい環境になるよう規定を変更する必要があるのではないかと。(男性、40～49歳)
- 個人的にはフェミニストが間違った方向性に進んでいることが多く見受けられるので、男性側が受け入れることも大事ですが女性側の主張の形にもある程度の制御が必要かと思います。(男性、20～29歳)
- 言葉のみで、内容や活動がわからないしその立場になってはじめて考えることがある、われわれ世代では、意識改革が根本的に必要。日常生活ではあまり気にしていないのが実情であり、性別にかかわらずお互いを尊重できる資質を養う必要あり、女性が社会的、経済的に独立できる社会でなければならないと思う。(男性、40～49歳)
- 男女に身体的な差(出産できるのは女性のみなど)がある以上、完全に男女を平等にすることはできないが、身体的な差以外で男女が同じように扱われるような社会になればと思う。また男女を平等にするのなら「男なら泣くな」「男なら家族を養うべき」などのような男性にかけられるプレッシャーもなくすべきである。今まで女性だからと得をしてきた部分もあるので、それに甘んじないようにしなくてはならないと思う。(女性、20～29歳)
- 個人的には、既に女性の方が優遇されていると感じているので、これ以上男女共同参画社会づくりを検討し続ける必要があるのか疑問を感じます。あくまでも平等にすることが目的であれば、社会的にも十分目的は達成できていると感じています。ただし、個々には当然平等でない場面もあるでしょうが、行政が検討していくことで変化するものではないのではないのでしょうか。(男性、50～59歳)

- 施策の名前だけ立派で、実のない形骸化に陥らないよう、「施策の問題点を随時確認すること」「確認者は老若男女構わず選ぶこと」「施策の意味・内容を理解しているかの確認も行うこと」について明記・実行するべきだと思われま

す。男女雇用機会均等法もそうですが、大枠を定めはするものの、細かな部分を具体的に整備せず、地方自治体に投げるケースが多いと思います。その結果、「分かりづらい・利用しづらい・効果が薄い」法律・施策ばかり乱立し、ほとんどが形だけの法律で終わっているように見えます。

形だけになることを防ぐためには、施策の不十分なところを確認し、どう不足しているのか、どう対処すれば埋められるかを、随時確認する必要があります。また、男女共同参画という以上、老若男女構わず参加して頂き、各々の視点で施策を見る・理解する・興味を持たなければと考える必要があります。そのためには、国→県→自治体→住民といった人任せ・伝言ゲームのような施策づくりではなく、国→県・自治体・住民といった「直接」関わる取り組み（施策についてのセミナーやワークショップ、授業、研修など）を行う必要があると思います。（男性、20～29歳）

- 未来のために地道に人づくりをしていくことが市として重要だと思います。子ども会やPTA、スポーツ少年団など地域活動の担い手が減っています。すぐに結果が出るものではないのですが、学習する場、実践する場、継続していけるしくみを用意していかないと住んでよかった、住み続けたい、北茨城市にはなっていないのではと危機感を持っています。（女性、50～59歳）
- あまり賛成ではない（男性、40～49歳）

北茨城市
男女共同参画社会に関する意識調査報告書

令和4年5月

北茨城市まちづくり協働課
〒319-1592
茨城県北茨城市磯原町磯原 1630 番地
電話番号：0293-43-1111
